

茨城県教育財団文化財調査報告第279集

羽 黒 山 遺 跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書 VII

上 巻

平成 19 年 3 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、21世紀の社会として高齢者や障害者、子どもをはじめとして、誰もが安心して生き生きと暮らせるやさしいまちづくりを推進しております。このような状況の中で、保健・医療・福祉サービスや世代間の交流などの機能を備えたまちづくりのモデルとしてやさしさのまち「桜の郷」整備推進事業が計画・整備されています。

この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡をはじめ、綱山遺跡、大塚遺跡、宮後遺跡、石原遺跡など数多くの遺跡が所在します。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財の発掘調査について委託を受け、平成15年6月から平成15年12月、及び平成17年4月から平成18年3月まで羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡の発掘調査を実施しました。

本書は、羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、茨城町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し感謝申し上げます。

平成19年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 人 見 實 徳

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成15年度及び平成17年度にかけて発掘調査を実施した、茨城県東茨城郡茨城町大字大戸字宿ノ内2017番地の3ほかに所在する羽黒山遺跡^{はぐろやま}、平成17年度に実施した、同町大字大戸字富士山3271番地の1ほかに所在する大戸富士山遺跡^{おおどふじやま}の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は、以下のとおりである。

調 査

羽 黒 山 遺 跡 平成15年 6 月 1 日～平成15年12月31日

平成17年 4 月 1 日～平成18年 3 月31日

大 戸 富 士 山 遺 跡 平成17年 9 月 1 日～平成18年 1 月31日

整 理 平成17年 4 月 1 日～平成17年10月31日、平成18年 4 月 1 日～平成19年 3 月31日

- 3 発掘調査は、調査課長川井正一のもと、以下の者が担当した。

羽黒山遺跡

平成15年度

首席調査員兼班長 鯉淵 和彦

主任調査員 榊 雅彦 石川 義信

平成17年度

首席調査員兼班長 檜村 宣行

主任調査員 荒蒔克一郎 小室 弘毅

大戸富士山遺跡

首席調査員兼班長 檜村 宣行

主任調査員 荒蒔克一郎 小室 弘毅

- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長大森雅之のもと、以下の者が担当した。

主任調査員 石川 義信 第1章～第3章（平成15年度調査分）

主任調査員 小室 弘毅 第1章～第3章（平成17年度調査分）、第4章

凡 例

- 1 地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、 $X = +36,240\text{m}$ 、 $Y = +52,080\text{m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」、「B 2 b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 S I - 住居跡 S B - 掘立柱建物跡 S A - 柱穴列跡・柵跡 S K - 土坑
S E - 井戸跡 S D - 溝跡 S F - 道路跡 S Y - 炭焼窯跡 P - ピット
P G - ピット群 T P - 陥し穴 K - 攪乱


遺物 P - 土器 T P - 拓本記録土器 D P - 土製品 Q - 石器・石製品 M - 金属製品・古銭 T - 瓦
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は縮尺800分の1とし、各遺構の実測図は縮尺60分の1を基本とし、80分の1、100分の1、120分の1で掲載した。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉・漆		炉・火床面・火熱痕								
	竈材・粘土・炭化材・黒色処理		柱痕跡・煤・油煙								
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属器・金属製品	▲	瓦	-----	硬化面

(4) 石器集中地点の表示については、個々の実測図に凡例を記載した。

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は次のとおりである。

(1) 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を示した。計測値の単位は、m、cm、gである。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 「主軸」は、竈(炉)を持つ堅穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸(径)方向」は主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

抄 録

ふりがな	はぐるやまいせき おおどふじやまいせき							
書名	羽黒山遺跡 大戸富士山遺跡							
副書名	やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第279集							
編著者名	石川 義信 小室 弘毅							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行年月日	2007 (平成19) 年3月23日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
はぐるやまいせき 羽黒山遺跡	いばらきけんひがしいばらきくまいばらきまち 茨城県東茨城郡茨城町 おおどふじやまいせきのうち 大字大戸字宿ノ内2017 番地の3ほか	08302 - 186	36度 19分 19秒	140度 24分 56秒	25 ~ 30m	20030601 ~ 20031231 20050401 ~ 20060331	11,273m ² 11,165m ²	やさしさの まち「桜の 郷」整備 事業に伴 う事前調 査
おおどふじやまいせき 大戸富士山 遺跡	いばらきけんひがしいばらきくまいばらきまち 茨城県東茨城郡茨城町 おおどふじやまいせき 大字大戸字富士山3271番 地の1ほか	08302 - 224	36度 19分 25秒	140度 24分 51秒	24 ~ 29m	20050901 ~ 20060131	13,354m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
羽黒山遺跡	集落跡	旧石器	石器集中地点 3か所		ナイフ形石器・石刃・石核・剥片・細石刃		後期旧石器時代の石器集中地点3か所が確認された。第2号石器集中地点からは細石刃の製作跡が、第3号石器集中地点からは珪質頁岩製ナイフ形石器の製作跡が確認されている。	
		縄文	竪穴住居跡 陥し穴 土坑	1軒 11基 2基	縄文土器, 石器 (磨石・敲石)			
		古墳	竪穴住居跡	14軒	土師器, 土製品 (球状土錘・紡錘車)			
		奈良・平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 道路跡	48軒 16棟 1条	土師器, 須恵器, 土製品 (支脚), 石器 (砥石), 金属器 (刀子), 鉄滓			
		中・近世 時期不明	掘立柱建物跡 竪穴住居跡 方形竪穴遺構	1棟 3軒 1基				
		墓跡	中・近世 土坑墓	7基	金属製品 (釘), 古銭			
		生産跡	時期不明 炭焼窯跡	1基				
		その他	時期不明	道路跡 大形円形土坑 井戸跡 溝跡 柱穴列跡 土坑 ビット群	1条 1基 1基 13条 3列 195基 8か所	縄文土器, 弥生土器, 土師器, 須恵器, 石器 (石鏃・砥石・敲石・磨石), 瓦		
大戸富士山 遺跡	集落跡	旧石器	石器集中地点 4か所		ナイフ形石器・石核・剥片		後期旧石器時代の石器集中地点は、瑪瑙を主体とした石材によるナイフ形石器の製作跡が確認されている。	
		縄文	竪穴住居跡 陥し穴	1軒 2基	縄文土器, 石器 (磨石, 敲石)			
		奈良・平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 柵跡	30軒 6棟 1条 2列	土師器, 須恵器, 土製品 (支脚), 石器・石製品 (砥石・紡錘車), 金属器 (刀子), 鉄滓			
		生産跡	時期不明 炭焼窯跡	5基				
その他	時期不明	土坑 ビット群 埋没谷	43基 2か所 2か所	縄文土器, 土師器, 須恵器, 石器 (石鏃・磨石・敲石・砥石), 瓦				
要約	奈良・平安時代を中心とする旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。両遺跡とも、旧石器時代は石器製作の場として、古墳時代前期と奈良・平安時代は東西に延びる小さな谷を取り囲むように集落が形成され、人々の生活が営まれていたことがうかがえる。							

目 次

— 上 卷 —

序
例言
凡例
抄録
目次

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 羽黒山遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 旧石器時代の石器集中地点と遺物	10
(1) 調査の方法	10
(2) 石器集中地点の記載方法	12
(3) 石器集中地点	12
(4) 調査区外出土旧石器	36
2 縄文時代の遺構と遺物	37
(1) 竪穴住居跡	37
(2) 陥し穴	38
(3) 土坑	45
3 古墳時代の遺構と遺物	47
竪穴住居跡	47
4 奈良・平安時代の遺構と遺物	72
(1) 竪穴住居跡	72
(2) 掘立柱建物跡	203
(3) 道路跡	226
5 中・近世の遺構と遺物	227
(1) 掘立柱建物跡	227
(2) 土坑墓	228
6 その他の遺構と遺物	234
(1) 竪穴住居跡	235
(2) 方形竪穴遺構	239
(3) 道路跡	240
(4) 炭焼窯跡	240
(5) 大形円形土坑	243
(6) 井戸跡	244
(7) 溝跡	245
(8) 柱穴列跡	246
(9) 土坑	249
(10) ピット群	270
(11) 遺構外出土遺物	276
第4節 まとめ	280

写真図版

— 下 卷 —

第4章 大戸富士山遺跡	295
第1節 遺跡の概要	295
第2節 基本層序	295
第3節 遺構と遺物	296
1 旧石器時代の石器集中地点と遺物	296
(1) 調査方法	296
(2) 石器集中地点の記載方法	298
(3) 石器集中地点	298
(4) 調査区外出土旧石器	312
2 縄文時代の遺構と遺物	314
(1) 竪穴住居跡	314
(2) 陥し穴	316
3 奈良・平安時代の遺構と遺物	317
(1) 竪穴住居跡	317
(2) 掘立柱建物跡	399
(3) 柵跡	406
(4) 溝跡	408
4 その他の遺構と遺物	409
(1) 炭焼窯跡	410
(2) 土坑	413
(3) ピット群	420
(4) 埋没谷	423
(5) 遺構外出土遺物	424
第4節 まとめ	425

写真図版

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、福祉・医療・健康増進・生きがいつくり等の機能を備えた、高齢化社会に対応できる総合的な「人にやさしいまちづくり」のモデルとなる新しいまちづくりとして、茨城県のほぼ中央に位置する茨城町においてやさしさのまち「桜の郷」整備事業を推進している。

平成9年1月20日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長に対して、やさしさのまち「桜の郷」整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成14年8月23日に現地踏査を、平成14年9月3～5日、9・10日、平成15年3月3～5日、11・12日、12月19日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成14年9月27日、平成15年3月27日、12月25日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、事業地内に羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡が所在する旨を回答した。

平成14年12月24日、平成17年2月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第57条の3第1項（現 第94条）の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、平成15年1月15日、平成17年2月25日、茨城県知事あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成15年2月4日、平成17年3月16日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長に対して、やさしさのまち「桜の郷」整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議した。平成15年2月10日、平成17年3月23日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県知事あてに、羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県知事から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成15年6月1日から平成15年12月31日、及び平成17年4月1日から平成18年3月31日まで羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

羽黒山遺跡は、平成15年6月1日から平成15年12月31日まで調査を実施した。なお、平成15年9月15日、調査の進捗から、当初の調査面積9,829㎡に1,444㎡が追加となる契約変更がなされた。さらに第2次調査として平成17年4月1日から平成18年3月31日まで、8,134㎡の調査を実施した。なお、平成17年10月18日、調査の進捗から、7,722㎡が第2期調査分として追加となる契約変更がなされた。平成18年1月18日、第2期調査分のうち、調査に入れない一部を除いた6,588㎡において、業務量が予定より大きく上回ったため、東部の3,031㎡を本年度調査とし、西部の3,557㎡を次年度送りとした。

大戸富士山遺跡は、平成17年9月1日から平成18年1月31日まで調査を実施した。なお、調査の進捗から、平成17年9月12日当初の調査面積11,724㎡に加えて1,630㎡を追加する契約変更がなされている。

以下調査の経緯については概要を表で記載する。

羽黒山遺跡

工程	期間	平成15年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成16年 1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認				■	■				■				
遺構調査					■	■	■	■	■	■			
遺物洗浄 注記作業 写真整理				■	■	■	■	■	■	■			
補足調査										■			
撤収													

工程	期間	平成17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成18年 1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■								■	■	
遺構調査			■	■	■	■	■					■	■
遺物洗浄 注記作業 写真整理			■	■	■	■	■					■	■
補足調査													■
撤収													

大戸富士山遺跡

工程	期間	平成17年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成18年 1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認							■			■			
遺構調査							■	■	■	■	■		
遺物洗浄 注記作業 写真整理							■	■	■	■	■		
補足調査											■		
撤収													

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

羽黒山遺跡及び大戸富士山遺跡は、東茨城郡茨城町大字大戸に所在している。

両遺跡の所在する茨城町の北部は、東茨城北部台地の北端部に位置し、北東に水戸市、西に旧内原町と面している。地域の南部を涸沼前川が流れ、その両岸に水田地帯が形成されている。東側の赤穂川沿いと西側の小橋川沿いの谷津地形にも水田地帯が見られるほか、大部分が標高25～30mの台地形である。これらの河川流域の沖積低地は主に水田、台地上は畑地・樹園地として利用されている。

地質をみると、台地を形成している最も古い地層は新生代第三紀の地層で、水戸層と呼ばれる泥岩質層である。水戸層の上には第四紀の地質が不整合に堆積している。さらに、粘土・砂からなる見和層、礫からなる上市層、灰褐色の常総粘土層、関東ローム層の順に、ほぼ水平に連続して堆積しており、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

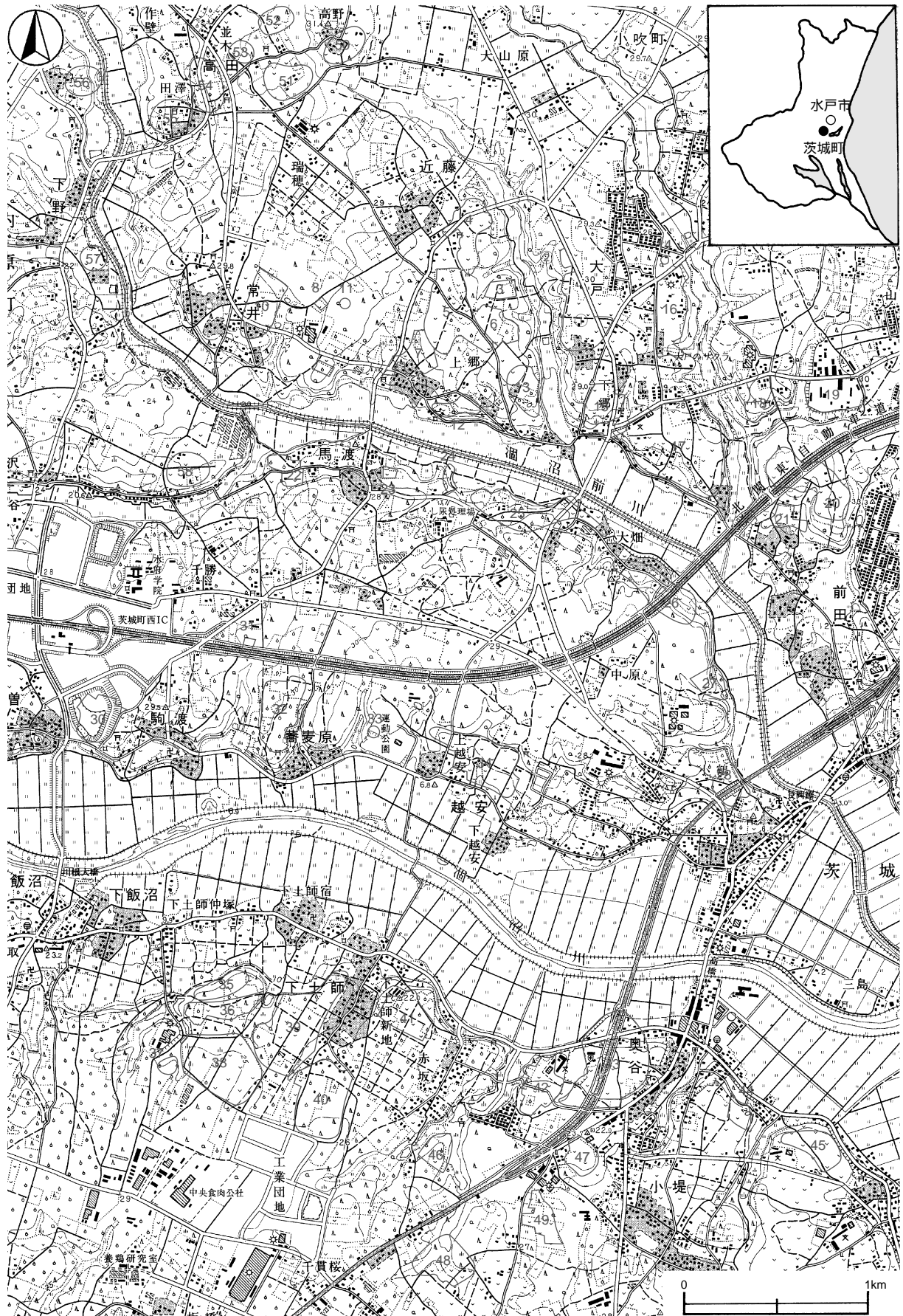
羽黒山遺跡及び大戸富士山遺跡は、水戸市街地から南西に約8kmほどの茨城町北西部の大戸地区にあり、涸沼前川の支流である小橋川と赤穂川に開析された、標高25～30mの北側に延びる舌状台地上の西部に立地している。羽黒山遺跡は、西は小橋川が開析した低地に下る斜面部、東から南にかけては涸沼前川まで延びる台地の平坦部に位置している。大戸富士山遺跡は、羽黒山遺跡の北側に位置し、北から南西にかけては小橋川に下る小谷津が斜面部を形成しており、東側は台地上の平坦部が広がっている。調査前現況は、いずれも山林、畑地である。

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺からは、分布調査や発掘調査により多数の遺跡が確認されている²⁾。特に、涸沼川・涸沼前川に面する台地及び台地縁辺部には各時代の遺跡が集中しており、この地域が原始・古代から生活の適地であったことがうかがえる(第1図)。とりわけ、涸沼前川の支流である小橋川を挟んで当遺跡と向かいあって立地している綱山遺跡(3)³⁾、宮後遺跡(4)⁴⁾、大塚遺跡(5)⁵⁾、石原遺跡(6)⁶⁾、木戸遺跡(7)⁷⁾の5遺跡は、平成10年度から16年度にかけて継続的に発掘調査が実施されている。これらの遺跡は時期・様相及び地理的環境から、それぞれ関連性が認められる「桜の郷遺跡群」を構成している。ここでは、当遺跡に関連する主な遺跡を中心に時代を追って述べる。

旧石器時代の遺跡は、涸沼前川やその支流に面する台地の舌状地に見られる。大畑遺跡(26)⁸⁾では瑪瑙、安山岩のナイフ形石器などが100点以上確認されている。製品、剥片に加えてハンマー等の道具も出土していることから石器製作の場であったと考えられている。また、東山遺跡(24)、南小割遺跡(30)⁹⁾においても旧石器の遺物が確認されていることから、当時は石器製作の場所としてこの地が適していたと思われる。

縄文時代の遺跡は、涸沼、涸沼川、涸沼前川に面する台地上に多数確認されている。時期は中期を中心としてほぼ全期にわたっており、特に宮後遺跡からは前期前半から生活の痕跡が確認されている。この時期は縄文海進の最盛期であり、涸沼川北岸の越安貝塚(33)からはマガキやハマグリがみられ、涸沼前川南岸のシッペイ沢遺跡(21)では、汽水性のヤマトシジミが多く出土していることから¹⁰⁾、当遺跡の南に広がる涸沼前川岸



第1図 羽黒山遺跡・大戸富士遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院「小鶴」)

表1 羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平			中近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平
	羽黒山遺跡						30	南小割遺跡						
	大戸富士山遺跡						31	大作遺跡						
3	綱山遺跡						32	宮上遺跡						
4	宮後遺跡						33	越安貝塚						
5	大塚遺跡						34	中畑遺跡						
6	石原遺跡						35	小山台古墳群						
7	木戸遺跡						36	小山台遺跡						
8	近藤前遺跡						37	高山遺跡						
9	八幡山遺跡						38	面山遺跡						
10	杓山遺跡						39	下土師遺跡						
11	近藤前古墳						40	面山東遺跡						
12	猫崎遺跡						41	下土師東遺跡						
13	稻荷宮遺跡						42	赤坂南坪遺跡						
14	神宮前古墳						43	奥谷遺跡						
15	寺坪遺跡						44	小堤遺跡						
16	大戸神宮寺遺跡						45	三ツ塚遺跡						
17	大戸下郷遺跡						46	仲丸遺跡						
18	平須館跡						47	富士山遺跡						
19	山中遺跡						48	小幡北山墳輪製作遺跡						
20	矢倉遺跡						49	北山東遺跡						
21	坏戸遺跡						50	台遺跡						
22	シッペイ沢遺跡						51	高田館跡						
23	東畑遺跡						52	西遺跡						
24	東山遺跡						53	後原遺跡						
25	上の前遺跡						54	後遺跡						
26	大畑遺跡						55	表遺跡						
27	蔵作遺跡						56	涸池遺跡						
28	小鶴遺跡						57	大谷原遺跡						
29	宝塚古墳						58	出兵沢遺跡						

の低地は汽水域、涸沼川岸の低地には海水が侵入していたことがうかがえ、この周辺は食料獲得の面で好環境であったと想像される。これらの遺跡のほかには、前期には、小鶴遺跡(28)¹¹⁾ 東山遺跡、奥谷遺跡(43)¹²⁾ など小規模な集落が継続して営まれ、越安貝塚や南小割遺跡では地点貝塚も検出されている。中期に入ると遺跡数は増加し、宮後遺跡のような大きな集落が営まれるようになる。宮後遺跡は平成10・11年度に発掘調査が実施され、中期中葉から後期にかけての環状集落であることが明らかとなり、当地域の集落や土器様相を知る上で良好な資料を提供している。当遺跡からも該期の土器片が出土しており、明確な時期は不明ながらも陥し穴が検出されていることなどから、この時代の人々の生活領域に含まれていたと考えられる。宮後遺跡のほかには塚越遺跡、天古崎遺跡、赤坂南坪遺跡(42) など、町内全域に分布している。後・晩期には遺跡数は減少傾向にあり、小堤貝塚(44)¹³⁾、下土師遺跡(39) など10数か所を数えるだけになる。

弥生時代の遺跡は、後期後半(十王台式期)の遺跡が涸沼川及び涸沼前川流域を中心に数多く確認されている。特に涸沼前川流域の遺跡は調査例が多く、平成7年度に調査された矢倉遺跡(20)¹⁴⁾、同8年度に調査された大畑遺跡、同10年度に調査された石原遺跡、同10・11年度に調査された宮後遺跡、同11・12年度に調査された綱山遺跡、大塚遺跡、同14・16年度に調査された大戸下郷遺跡(17)¹⁵⁾などがあげられる。該期に先行する遺跡としては長岡式土器が出土している長岡遺跡や奥谷遺跡、小鶴遺跡などがあげられ、涸沼川流域を中心とする小文化圏が形成されていたことが想定されている。また、土器を比較すると、頸部文様の施文及び範囲などに違いが見られるなど、遺跡間の継続的なつながりも想起される。さらに、これらの遺跡からは樽式土器や二軒屋式土器など、主に群馬県や栃木県地方に見られる土器が出土しており、涸沼川や涸沼前川の水運を利用した他の地域との交流や流通経路が想定できる。

古墳時代の遺跡数はさらに増加する。桜の郷遺跡群では、弥生土器と土師器が共伴する住居跡が確認されており、弥生時代終末期から古墳時代へと移行する当地域の様相を知る手がかりになると考えられる。涸沼前川の下流に位置する奥谷遺跡からは、古墳時代前期の豪族居館跡や住居跡が確認され、4世紀末から5世紀初頭頃に比定されている宝塚古墳(29)を勘案すると¹⁶⁾、有力者の存在が想定される。さらに、当町域には宝塚古墳に後続する中期から後期にかけての古墳が61基、埴輪製作跡の小幡北山埴輪製作遺跡(48)¹⁷⁾がある。また、桜の郷遺跡群では、後期の住居跡がほとんど検出されておらず、奥谷遺跡や南小割遺跡、大戸下郷遺跡など、より河川に近い台地上に集落が形成されていたものと考えられる。

奈良・平安時代の町域は、那賀郡八部郷、茨城郡島田郷・安候郷・白川郷及び鹿島郡宮前郷に属しており、大戸地区は、那賀郡八部郷に比定されている^{18,19)}。この時期は100か所を超える遺跡が、町内全域で確認されており、その代表に奥谷遺跡があげられる。奥谷遺跡からは、百数十点の墨書土器のほか円面硯や刀子が出土している。特に墨書の「曹カ司」は、官衙などの庁舎・宿直所・局・部屋などを意味し、奥谷遺跡が官衙的あるいは公共的な施設を含んだ集落であったことを示している。このほか町域の遺跡からは数多くの墨書土器が出土しており、宮後遺跡と大塚遺跡から出土した「南主」や面山遺跡(38)から出土した「土師神主」などは注目されるものである。綱山遺跡・宮後遺跡・大塚遺跡は墨書土器の出土量の多さもさることながら、奥谷遺跡と同様に円面硯や灰釉陶器の出土、さらに腰帯具などが出土していることなどから、桜の郷遺跡群を含むこの地域一帯が、官衙的な施設を内包する遺跡であることが想定される。特に大塚遺跡からは、北側に倉庫群と思われる掘立柱建物跡群が配され、「口」の字状に整然と並んで検出されており、律令体制下にある地方の末端支配機構を考える上で興味深い遺跡である。

中世の遺跡は、主に城館跡である。現存する城館跡の中で小幡城跡が最大規模であるが、築城者などの詳細は不明である。この他、宮ヶ崎城跡²⁰⁾、海老沢館跡、鳥羽田城跡、飯沼城跡、谷田部城跡、平須館跡(18)な

ど涸沼川を中心に、台地の突端部を利用して築かれた城館が多く分布している。奥谷遺跡からは、堀、地下式壙、方形堅穴遺構、井戸跡が確認され、土師質土器や陶器類が多数出土している。また、大塚氏系の戸氏一族の所領であった大字前田の万東山地区からは、13世紀前半と考えられる「青白磁蓮牡丹文梅瓶」が出土しており、中世においても涸沼川・涸沼前川沿岸に有力な氏族が存在していたことがうかがえる。

近世になると、町の中心部を南北に走る水戸街道に沿った長岡や小幡が宿駅として発展した。涸沼南岸の網掛、宮ヶ崎、海老沢の地は水上交通の要所として栄え、水戸藩をはじめ、仙台藩など奥州諸藩と江戸を結ぶ物資輸送の中継地として重要な役割を果たしていた。

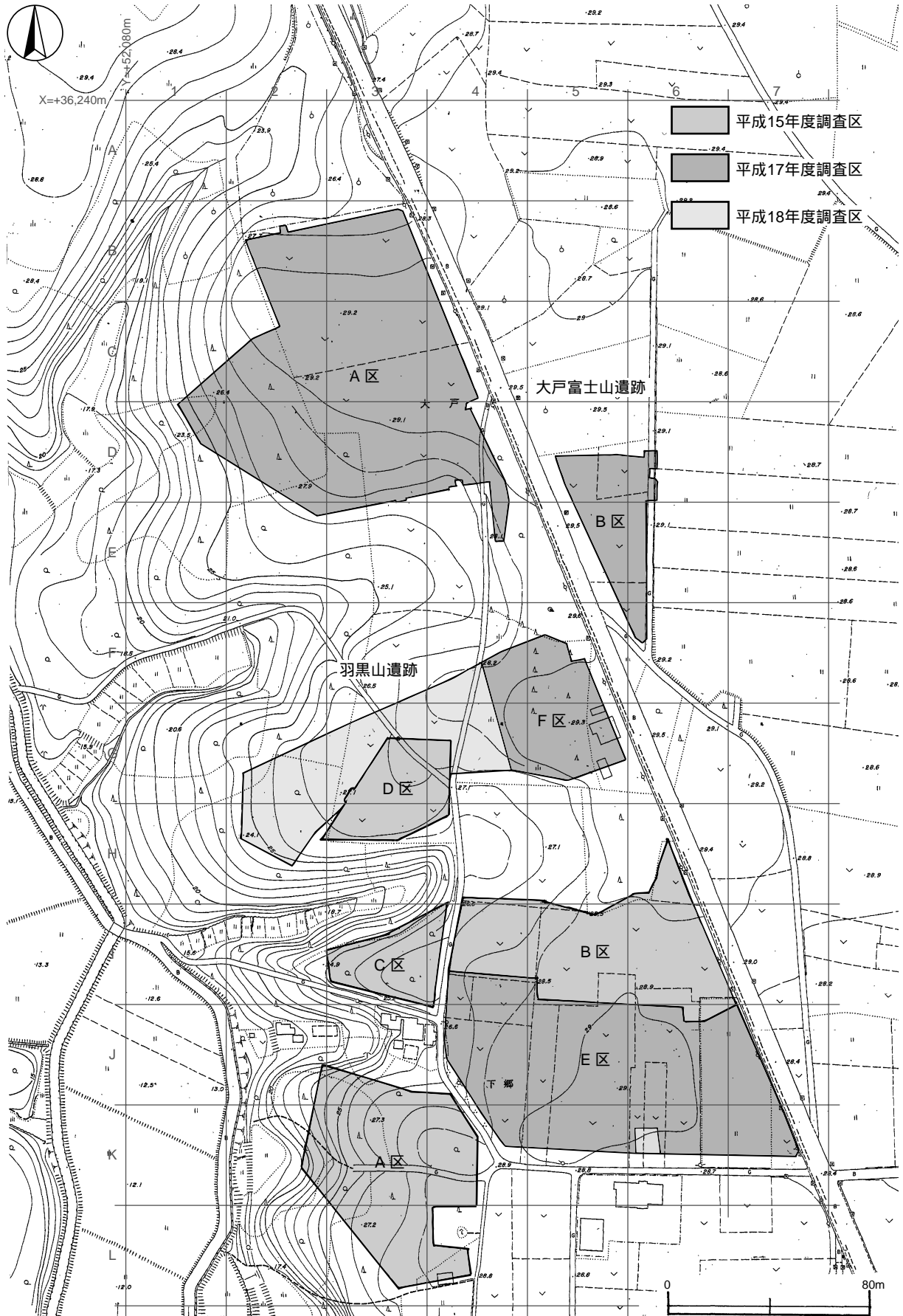
※ 文中の〈 〉内の番号は、表1及び第1図の該当番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2002年3月
- 3) 田中幸夫・荒蒔克一郎「綱山遺跡 やさしさのまち『桜の郷』整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書VI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第243集 2005年3月
- 4) a 川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久「宮後遺跡1 やさしさのまち『桜の郷』整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書II」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 2005年3月
b 和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒蒔克一郎・駒澤悦郎「宮後遺跡2 やさしさのまち『桜の郷』整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書III」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 2005年3月
c 川又清明・浅野和久「宮後遺跡3 やさしさのまち『桜の郷』整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書IV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第241集 2005年3月
- 5) a 長谷川聡・田中幸夫・小野克敏「大塚遺跡1 やさしさのまち『桜の郷』整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書V」『茨城県教育財団文化財調査報告』第242集 2005年3月
b 井上琢哉・小林健太郎「大塚遺跡2 木戸遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告V」『茨城県教育財団文化財調査報告』第258集 2006年3月
- 6) 村上和彦「石原遺跡 やさしさのまち『桜の郷』整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書I」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
- 7) 註5) b)と同じ
- 8) 長谷川聡「大作遺跡・大畑遺跡 北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書II」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- 9) 中村敬治・江幡良夫「南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚古墳・後原遺跡 茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書IV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 1998年3月
- 10) 茨城町史編さん委員会『茨城町史 通史編』茨城町教育委員会 1995年2月
- 11) 鯉淵和彦「奥谷遺跡・小鶴遺跡 一般国道6号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第50集 1989年3月
- 12) 註11)と同じ
- 13) 井上義安『小堤貝塚』茨城町史編さん委員会 1986年11月
- 14) 飯島一生「矢倉遺跡・後口原遺跡 北関東自動車道(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書I」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集 1998年3月
- 15) a 近藤恒重「大戸下郷遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書I」『茨城県教育財団文化財調査報告』第216集 2004年3月
b 綿引英樹・松本直人「大戸下郷遺跡2 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書IV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第257集 2006年3月
- 16) 註10)と同じ
- 17) 大塚初重・井上義安ほか『小幡北山埴輪製作遺跡』茨城町 1986年2月
- 18) 茨城町史編さん委員会『茨城町史 地誌編』茨城町教育委員会 1995年2月
- 19) 中山信名(栗田寛補訂)『宮崎報恩会版 新編常陸国誌』崙書房 1979年12月
- 20) 野田良直「宮ヶ崎城跡 主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第141集 1999年3月

参考文献

- ・茨城県立歴史館『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』茨城県 1991年3月



第2図 羽黒山遺跡・大戸富士山遺跡調査区設定図

第3章 羽黒山遺跡

第1節 遺跡の概要

羽黒山遺跡は、東茨城郡茨城町の北西部に位置し、涸沼前川の支流である小橋川の左岸、標高25～30mの舌状台地上に立地している。調査の結果、当遺跡は古墳時代と奈良・平安時代を中心とした旧石器時代から近世にわたる複合遺跡であることが確認された。調査前現況は山林・畑地であり、調査面積は22,438㎡である。

確認された遺構は、竪穴住居跡66軒（縄文時代1，古墳時代14，奈良・平安時代48，時期不明3），方形竪穴遺構1基（時期不明），掘立柱建物跡17棟（奈良・平安時代16，中・近世1），柱穴列跡3列，陥し穴11基，井戸跡1基，大形円形土抗1基，土坑197基，土坑墓7基，炭焼窯跡1基，溝跡13条，道路跡2条，ピット群8か所，旧石器時代の石器集中地点3か所などである。遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に22箱出土しており、大半は奈良・平安時代のものである。主な遺物は、縄文土器片，土師器片（坏・高台付坏・高台付皿・甕・甑），須恵器片（坏・高台付坏・盤・蓋・高盤・短頸壺・甕），土製品（球状土錘・紡錘車），石器（ナイフ形石器・細石刃・石核・剥片・石鏃・磨石・敲石・砥石），金属器・金属製品（刀子・鎌・釘），古銭などである。なお，調査年度の順に従い，便宜上A～F区に分けている。

第2節 基本層序

調査E区北部のJ5b8区，調査D区北東部のG4f3区にテストピットを設定し，深さ3.0mまで掘り下げて基本土層（第3図）の観察を行った。テストピットの土層は，色調・構成粒子・含有物・粘性・締まりなどから12層に分層された。小橋川を挟んで対岸に位置する宮後遺跡では第Ⅱ黒色帯が確認されており，当遺跡では第5層上部がわずかに黒色を呈していることが確認されたが，第Ⅱ黒色帯との認定は困難であった。以下，テストピットの観察から，層序について記述する。

第1層は黒褐色を呈する耕作土層で，ロームブロックを少量含んでいる。層厚は14～34cmである。

第2層は褐色を呈するソフトローム層で，層厚は16～20cmである。

第3層は褐色を呈するソフトローム層で，赤色粒子を微量含んでいる。層厚は12～16cmである。

第4層はにぶい褐色を呈するハードローム層で，粘性・締まりともやや強い。層厚は18～37cmである。

第5層はにぶい褐色を呈するハードローム層で，層厚は15～26cmである。

第6層は明褐色を呈する鹿沼パミス層への漸移層で，ローム粒子及び鹿沼パミス粒子を中量含み，粘性が弱く，締まりは強い。層厚は10～19cmである。

第7層は橙色を呈する鹿沼パミス純層で，粘性が弱く，締まりは強い。層厚は27～32cmである。

第8層は褐色を呈するハードローム層で，鹿沼パミス粒子を微量含んでいる。層厚は32～40cmである。

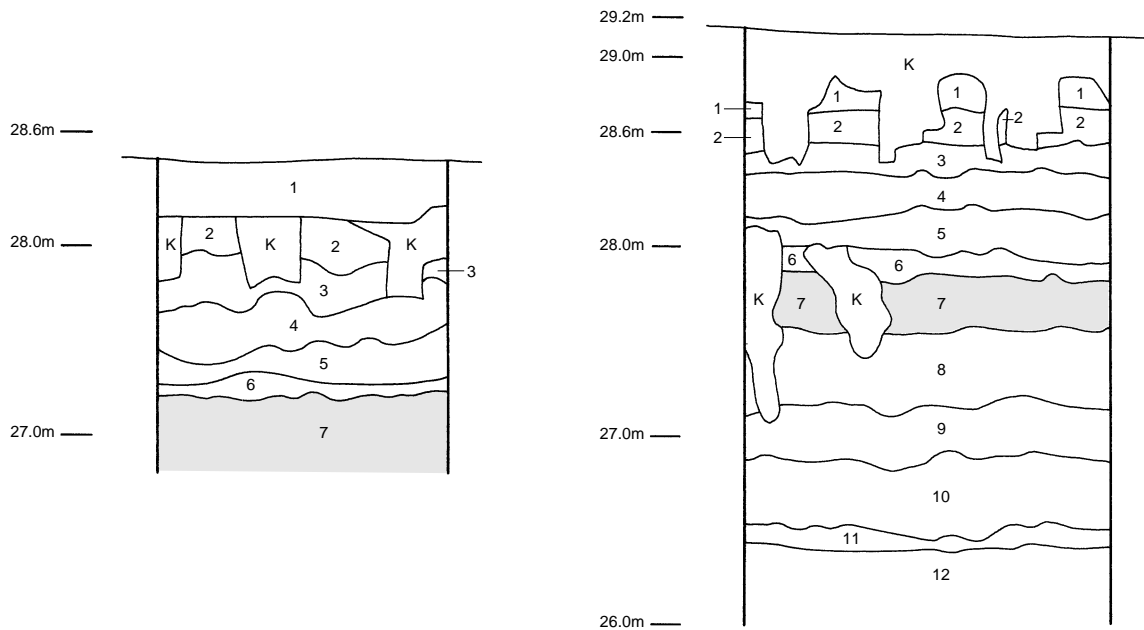
第9層は褐色を呈するハードローム層で，粘性・締まりが強い。層厚は21～29cmである。

第10層は褐色を呈するハードローム層で，黒色粒子を微量含んでいる。層厚は34～46cmである。

第11層は暗褐色を呈する常総粘土層の漸移層で，粘土粒子を少量含んでいる。層厚は5～14cmである。

第12層は灰黄色を呈する常総粘土層で，粘土粒子を多量含んでいる。下層は未掘のため本来の層厚は不明である。

遺構は、第2層上面で確認している。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の石器集中地点と遺物

(1) 調査の方法

遺構確認作業及び遺構調査を進めていく中で、特定の地区から多くの石器が出土してきたため、石器集中地点が確認できると想定される地点に調査区を設定し、ローム層の掘り下げを行った。

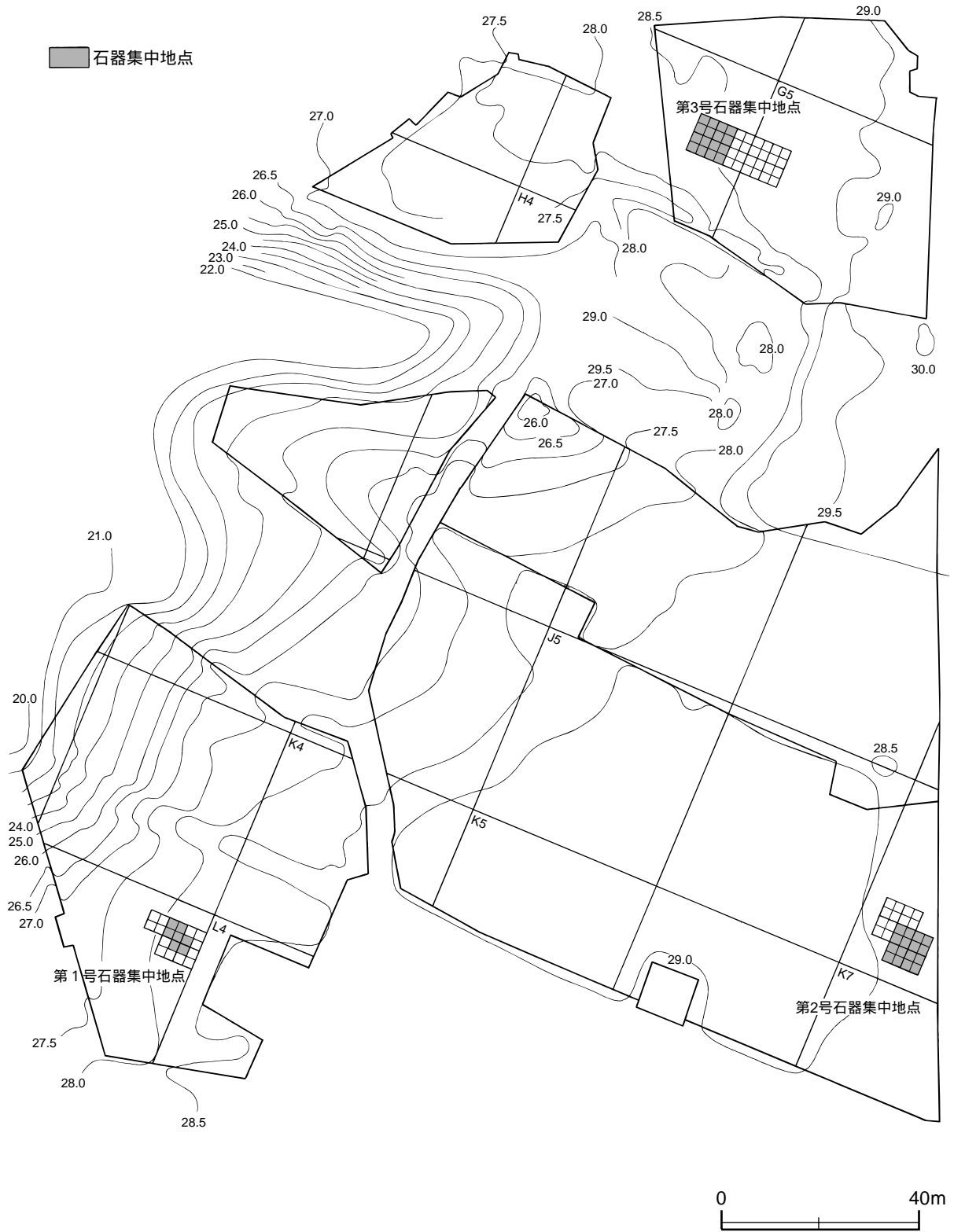
調査区は3か所に分けられる。第1調査区は、A区の中央部、標高28.0～28.3mの台地の緩斜面部に位置し、調査面積は約36㎡である。第2調査区はE区の東部で、標高27.9～28.3mの台地の平坦部で調査面積は104㎡である。第3調査区はF区の西部で標高28.1～28.5mの台地縁辺部で調査面積は160㎡である。

調査の結果、第1調査区ではL 3 b9～L 3 c0区から28点、第2調査区ではJ 7 g3～J 7 i4区で359点、第3調査区ではG 4 d8～G 4 e9区で110点が出土した。

なお、調査の過程で出土した石器は原位置を保持し、旧石器時代の遺構検出にも配慮しながら注意して掘り下げ、出土状況の写真撮影及び位置と標高の計測を行った。

(2) 石器集中地点の記載方法

3か所の調査区から出土した石器の総数は497点である。調査時の遺物番号は石器集中地点ごとに番号を付している。本報告の番号とともに、調査時の番号も合わせて掲載した。また、実測図未掲載の石器もすべて一覧表に記載した。記載内容は「番号」「遺物番号」「器種」「石材」で、「出土位置」は小グリッド



第4図 旧石器時代調査区設定図

北西角を基準にして、X（南北）、Y（東西）への距離であり、Zは「標高」である。石器集中地点以外の石器については、表面採集したものも含めて、「調査区外出土石器」として扱い、一覧表に掲載した。

なお、時期の特定については「茨城県後期旧石器時代編年案」（『茨城県における旧石器時代研究の到達点－その現状と課題－ 発表要旨・資料集』）を参考にした。

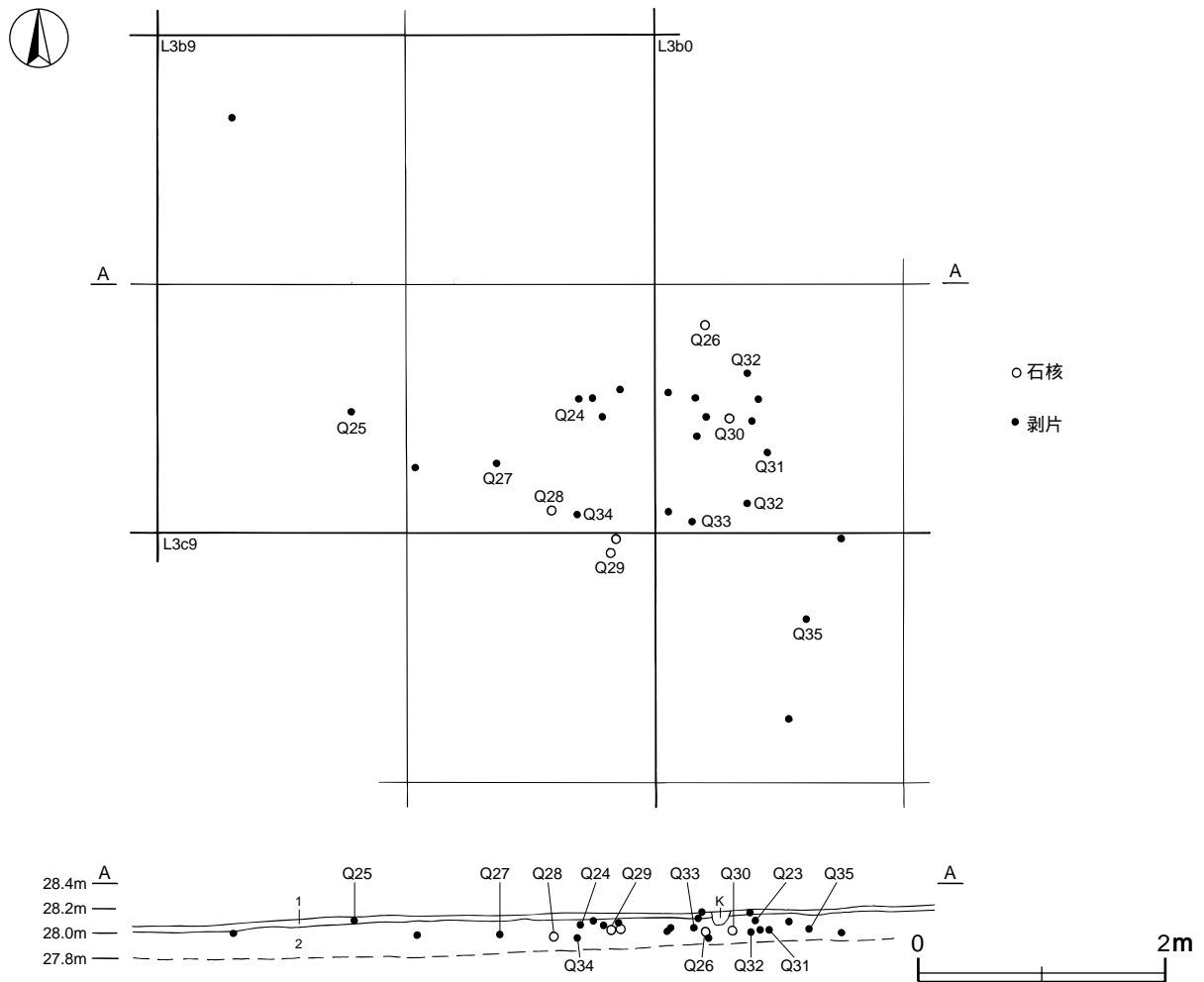
(3) 石器集中地点

A・E・F区で確認された石器集中地点をそれぞれ第1・2・3号石器集中地点とし、その特徴と出土した石器について記述する。

第1号石器集中地点（第5～8図）

位置 調査A区中央部のL3b9・L3b0・L3c9・L3c0区で、標高28mほどの台地の緩やかな斜面上に位置している。

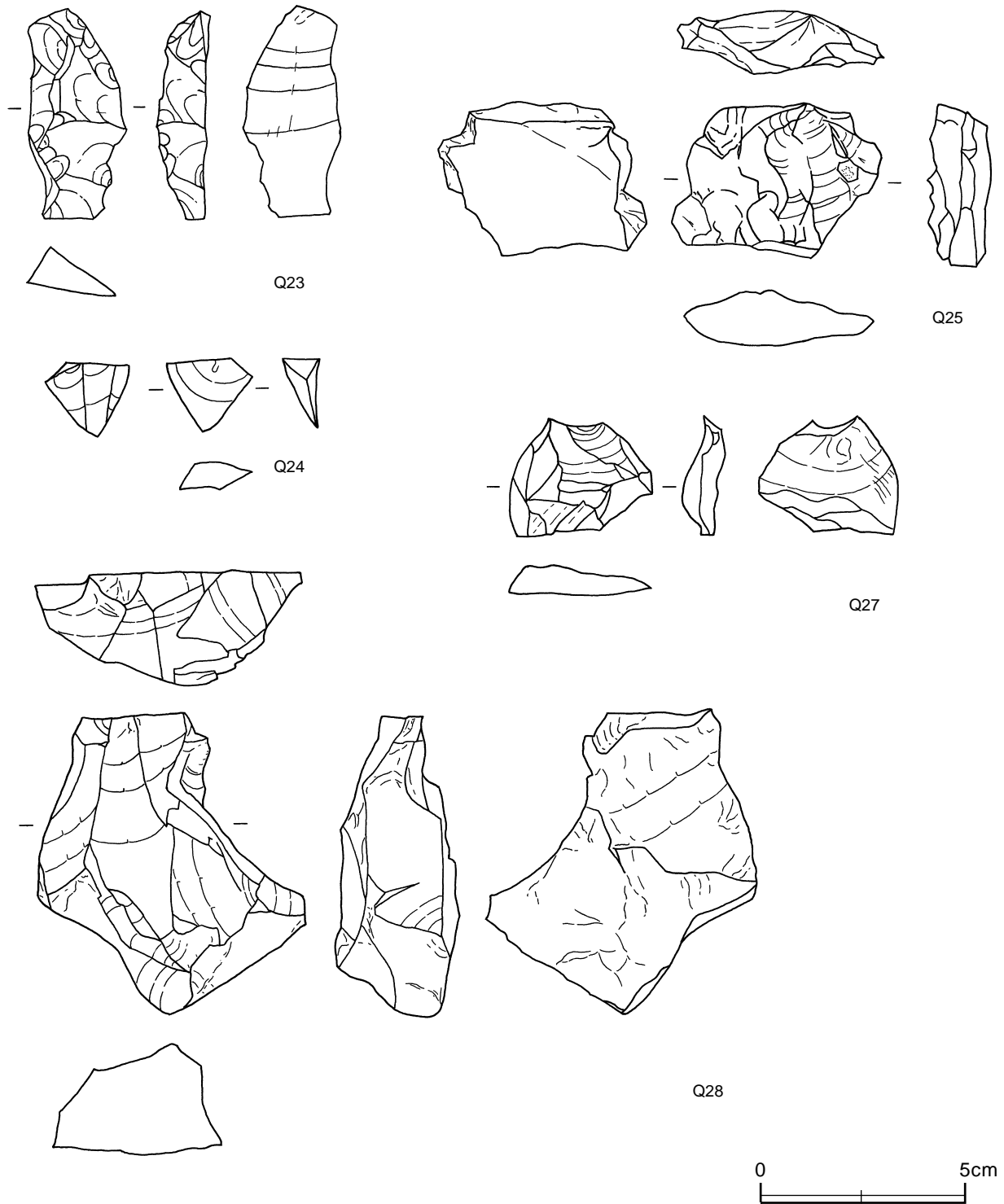
遺物出土状況 28点の石器が出土している。垂直分布は標高27.999～28.223mで、基本層序の第2層への漸移層（土層断面図の第1層）から第2層（土層断面図の第2層）及び表土に相当する。



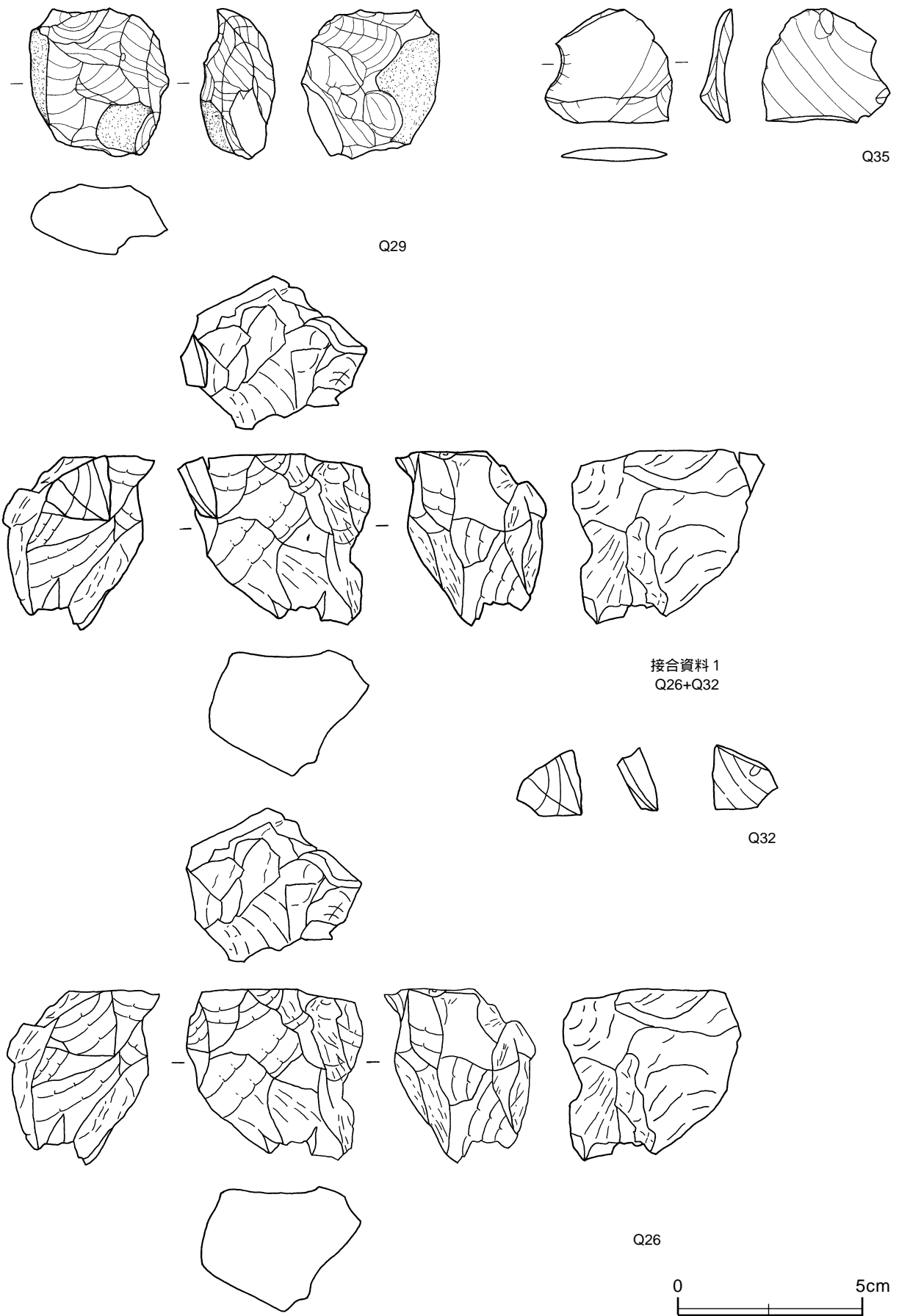
第5図 第1号石器集中地点実測図

遺物 石核5点，二次加工を有する剥片1点，剥片28点（瑪瑙14，チャート10，頁岩4）が出土している。接合する資料は2点で，Q26・Q32，Q33・Q34がそれぞれ接合している。Q24・Q32は同一母岩の可能性が高いと考えられる。Q35は二次加工を有する剥片である。

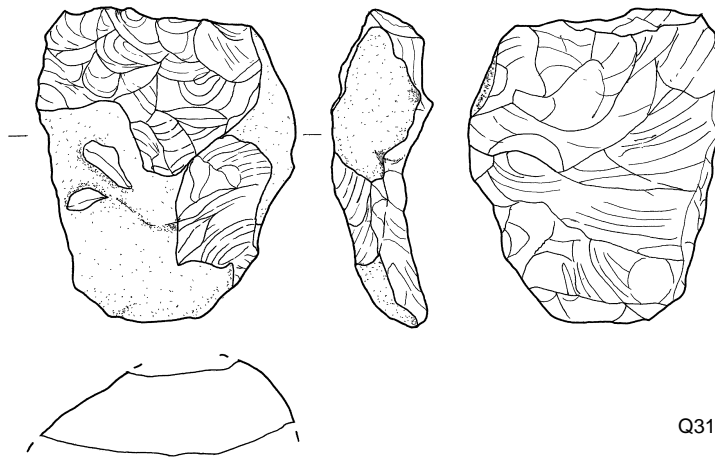
所見 石核が出土していることから，小規模な剥片剥離を行った場所で，不要とされた剥片類が廃棄されたものと考えられるが，時期については製品が出土していないため，旧石器時代の明確な判断は困難である。



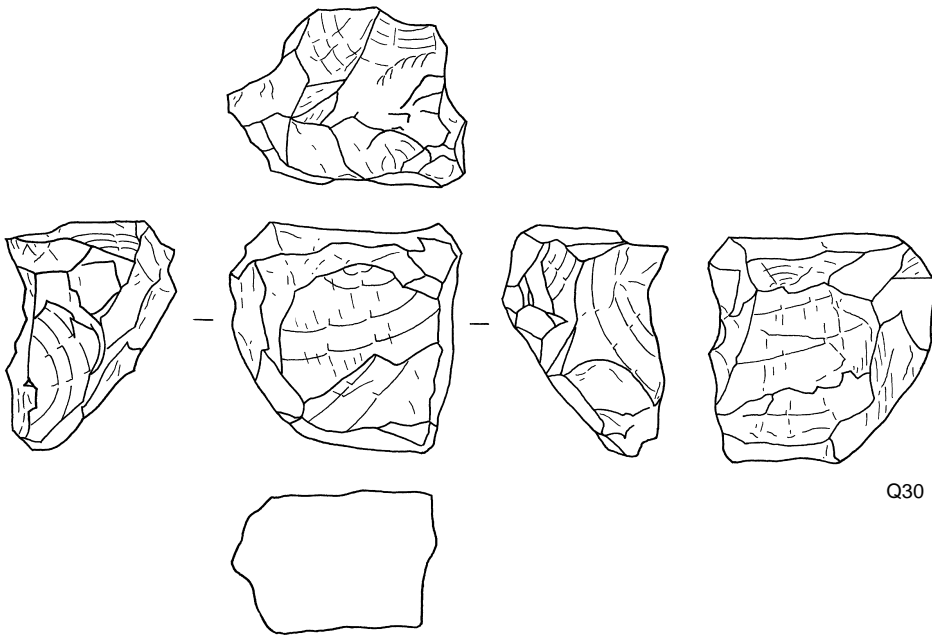
第6図 第1号石器集中地点出土遺物実測図(1)



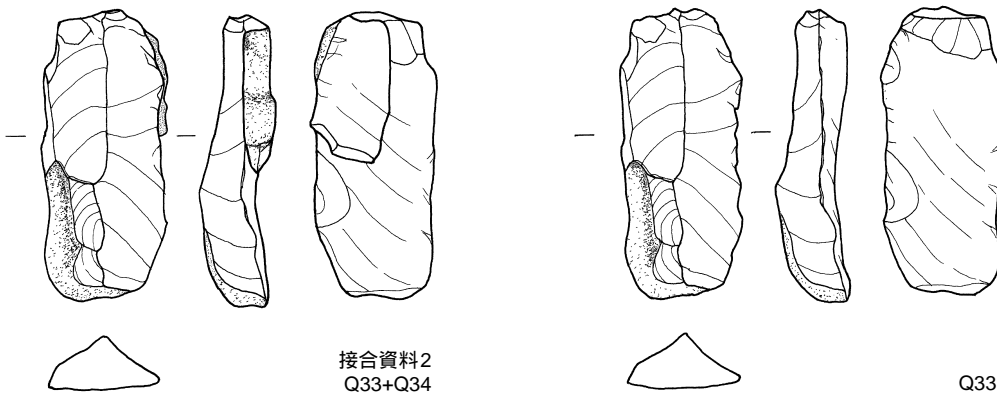
第7图 第1号石器集中地点出土遺物実測图(2)



Q31



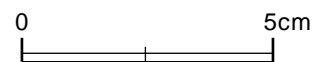
Q30



接合資料2
Q33+Q34

Q33

Q34



第8图 第1号石器集中地点出土遺物実測図(3)

第1号石器集中地点出土遺物観察表 (第6～8図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	剥片	5.1	2.4	1.3	10.2	瑪瑙	打面再生剥片	L 3 b0	PL39
Q24	剥片	1.8	2.1	0.9	2.0	頁岩	縦長の調整剥片	L 3 b9	PL39
Q25	剥片	5.0	1.3	3.7	30.6	瑪瑙	縦長剥片 背面に大きく礫面を残す	L 3 b9	PL39
Q26	石核	4.7	4.7	4.0	62.0	頁岩	背面に礫面を残す Q32と接合	L 3 b0	接合資料1 PL39
Q27	剥片	2.8	3.5	1.0	8.1	チャート	縦長剥片 背面は多方向からの剥離痕	L 3 b9	PL39
Q28	石核	7.3	6.5	3.1	103.8	チャート	縦長剥片を剥離	L 3 b9	PL39
Q29	石核	4.0	3.7	2.1	33.2	チャート	小形の横長剥片や縦長剥片を剥離 背面に礫面を残す	L 3 c9	PL39
Q30	石核	4.6	4.7	3.4	84.6	チャート	小形の横長剥片や縦長剥片を剥離 下面に礫面を残す	L 3 b0	PL39
Q31	剥片	6.2	5.2	2.0	61.4	瑪瑙	縦長剥片 背面に大きく礫面を残す	L 3 b0	PL39
Q32	剥片	1.7	1.8	1.0	1.4	頁岩	縦長の調整剥片 Q26と接合	L 3 b0	接合資料1 PL39
Q33	剥片	5.7	2.4	1.4	19.2	瑪瑙	石刃状 背面と左側縁に一部礫面を残す Q34と接合	L 3 b0	接合資料2 PL39
Q34	剥片	2.8	1.5	0.6	3.2	瑪瑙	縦長の調整剥片 左側縁に自然面を残す Q33と接合	L 3 b9	接合資料2 PL39
Q35	剥片	3.0	3.4	0.9	7.2	チャート	縦長剥片 片縁細部調整	L 3 c0	PL39

表2 第1号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)	番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
1	Q23	剥片	瑪瑙	L 3 b0	-2.73	0.75	28.204	15		石核	チャート	L 3 c9	-0.07	3.69	28.054
2		剥片	瑪瑙	L 3 b0	-2.92	0.31	28.159	16	Q29	石核	チャート	L 3 c9	-0.17	3.65	28.052
3		剥片	瑪瑙	L 3 b0	-3.24	0.34	28.223	17		剥片	瑪瑙	L 3 c0	-1.51	1.06	28.102
4		剥片	頁岩	L 3 b9	-2.86	3.71	28.126	18		剥片	瑪瑙	L 3 b0	-2.93	0.83	28.051
5		剥片	チャート	L 3 b9	-2.92	3.50	28.145	19	Q30	石核	チャート	L 3 b0	-3.07	0.61	28.064
6	Q24	剥片	頁岩	L 3 b9	-2.93	3.39	28.095	20		剥片	瑪瑙	L 3 b0	-3.07	0.41	28.003
7		剥片	チャート	L 3 b9	-3.07	3.57	28.110	21		剥片	瑪瑙	L 3 b0	-2.88	0.10	28.077
8	Q25	剥片	瑪瑙	L 3 b9	-3.04	1.56	28.117	22	Q31	剥片	瑪瑙	L 3 b0	-3.38	0.91	28.069
9		剥片	瑪瑙	L 3 b9	-0.67	0.60	28.027	23	Q32	剥片	頁岩	L 3 b0	-3.78	0.74	28.048
10		剥片	チャート	L 3 b0	-3.11	0.78	28.123	24	Q33	剥片	瑪瑙	L 3 b0	-3.92	0.30	28.078
11	Q26	石核	頁岩	L 3 b0	-2.35	0.40	28.026	25		剥片	チャート	L 3 b0	-3.83	0.10	28.064
12	Q27	剥片	チャート	L 3 b9	-3.45	2.74	28.018	26	Q34	剥片	瑪瑙	L 3 b9	-3.87	3.37	28.004
13		剥片	瑪瑙	L 3 b9	-3.47	2.08	27.999	27		剥片	瑪瑙	L 3 c0	-0.06	1.51	28.042
14	Q28	石核	チャート	L 3 b9	-3.83	3.24	28.008	28	Q35	剥片	チャート	L 3 c0	-0.71	1.23	28.050

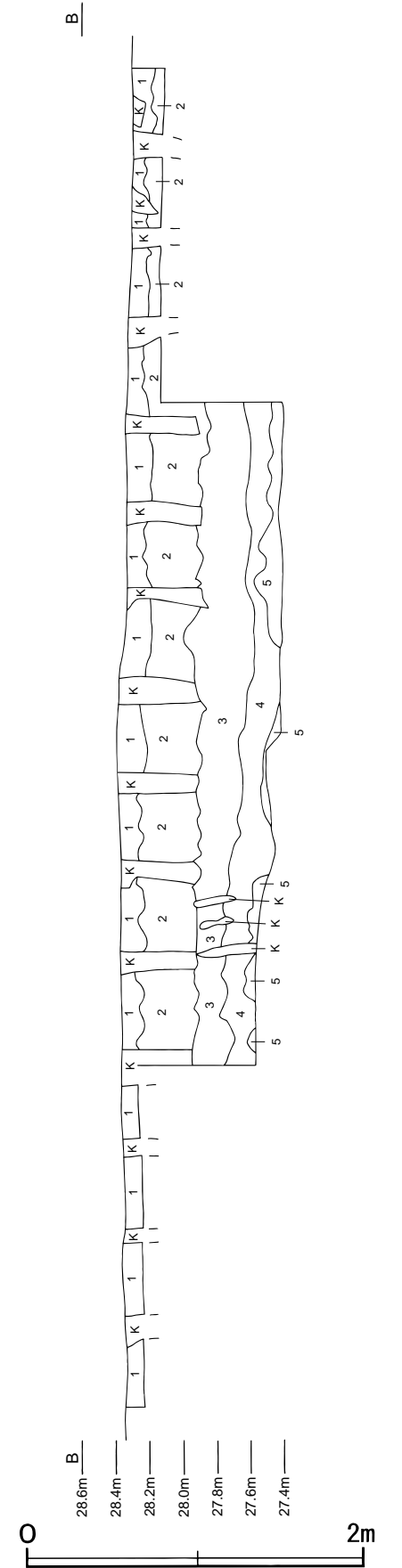
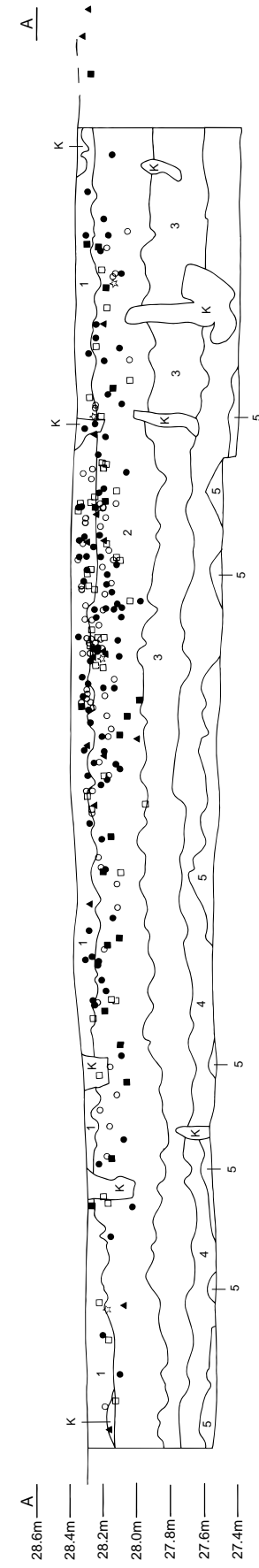
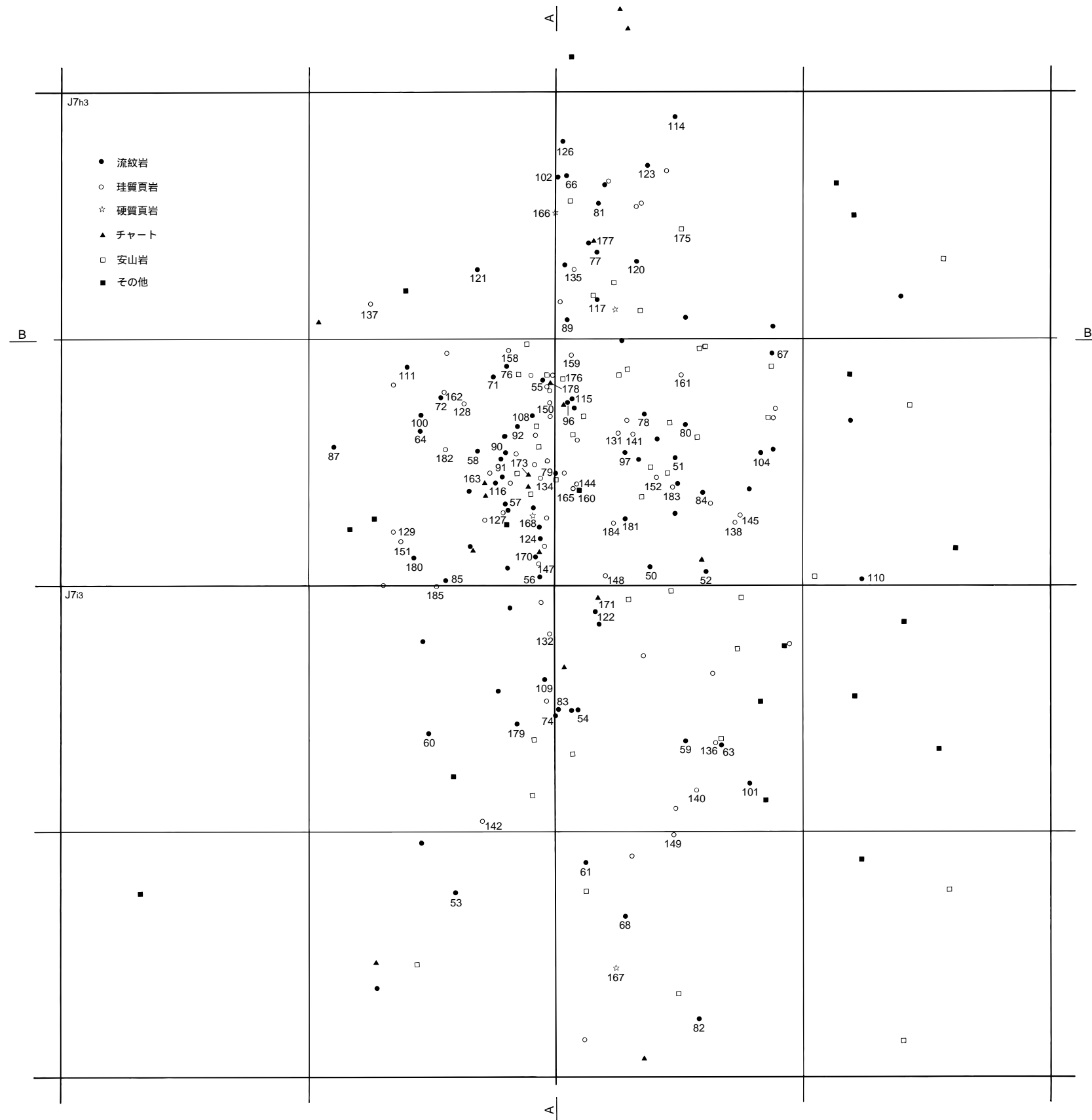
- 「番号」は調査時の取り上げ番号を表す。3節(3)以降使用する遺物番号とは異なる。
- X, Yは小グリッド北西角を基準にした位置を表す。Zは標高を表す。

第2号石器集中地点 (第9～14図)

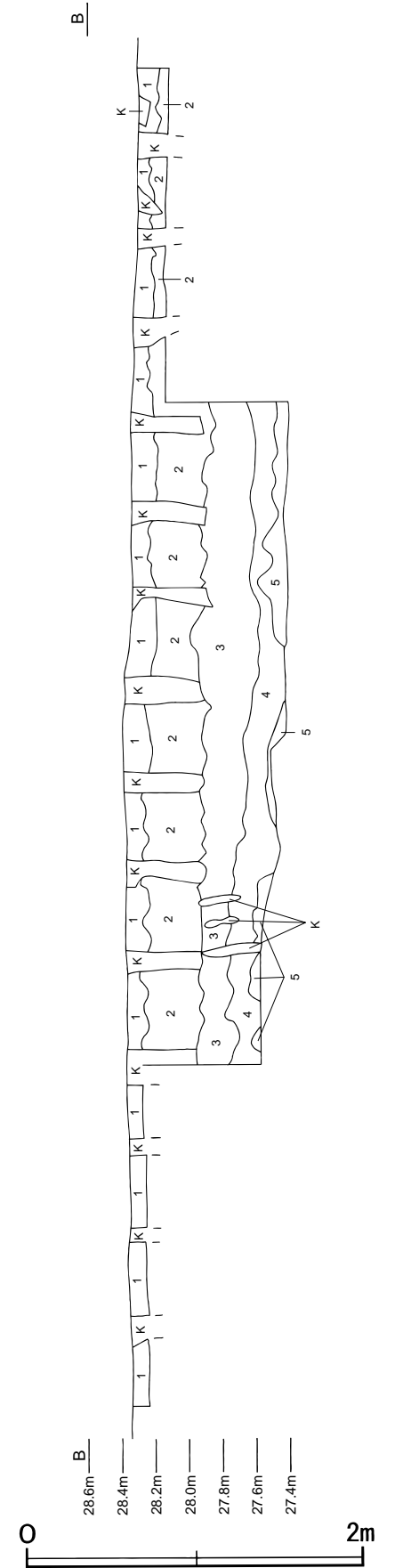
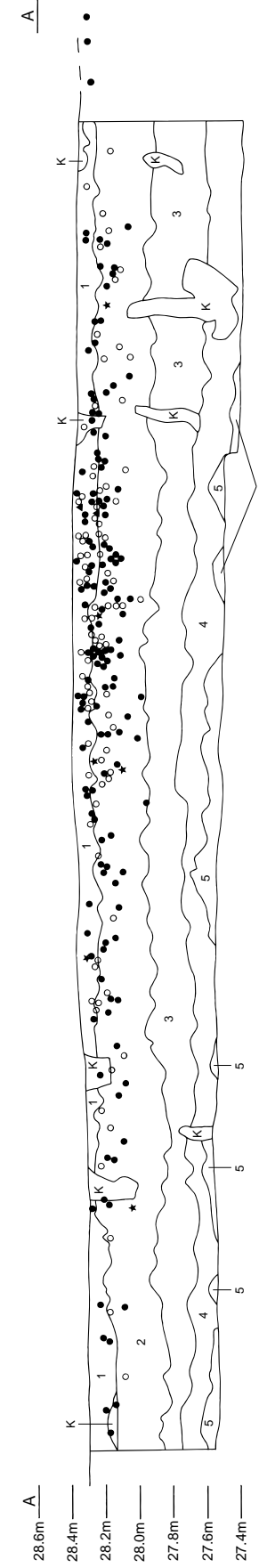
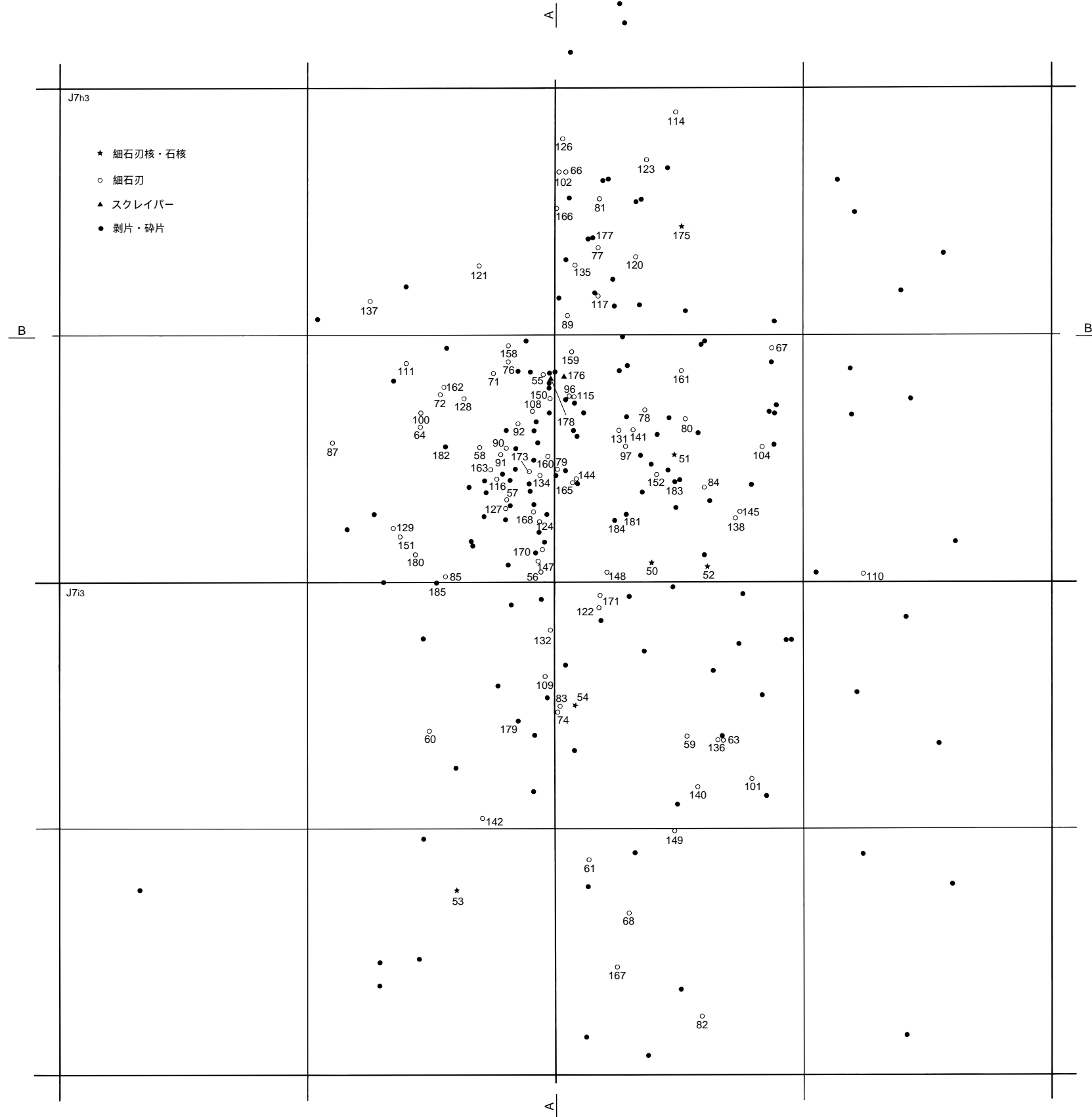
位置 調査E区東側のJ 7 g3・J 7 g4・J 7 h2・J 7 h3・J 7 h4・J 7 i3・J 7 i4区で、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

遺物出土状況 359点の石器が出土している。239点は原位置を保ったもの、120点は耕作による攪乱、及び掘り込んだ土を水洗いすることによって確認できたものである。垂直分布は標高27.965～28.359mで、基本層序の第3層(土層断面図の第1層)から第4層(土層断面図の第2層)の間に相当する。

遺物 石核6点、細石刃120点、削器1点、剥片232点が出土している。石核6点のうち5点(Q50～Q54)は流紋岩の細石刃石核で、関東以西で多く見られる円錐形細石刃核を作出する野岳・休場型であるとみられる。Q51とQ54は接合関係にあり、細石刃の剥離面の再生のために剥離されたものと考えられる。いずれの細石刃石核も小形であり、細石刃剥離を繰り返した結果、廃棄されたものと思われる。Q128・Q129は折れ面での接合関係にある。Q179・Q180・Q185は一部自然面を残しており、石核を作る際の調整剥片であると考えられる。Q176は安山岩の削器(サイドスクレイパー)で、一側縁に連続して刃部加工が施してある。本集中地点から出土した安山岩は同一母岩の可能性が高いと考えられる。細石刃の石材としては他に、珪質頁岩、硬質頁岩、チャートなどが確認された。

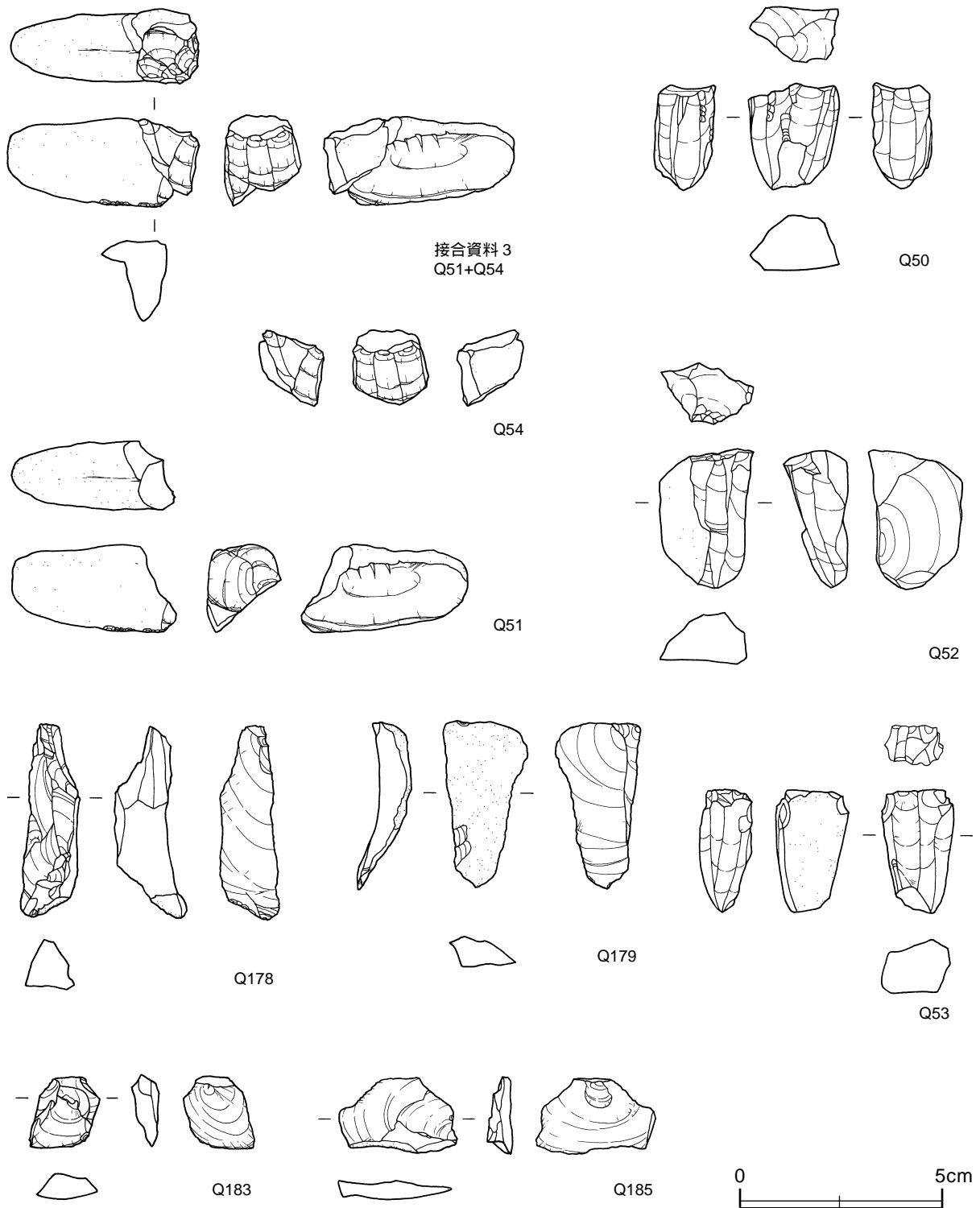


第9図 第2号石器集中地点実測図(1)

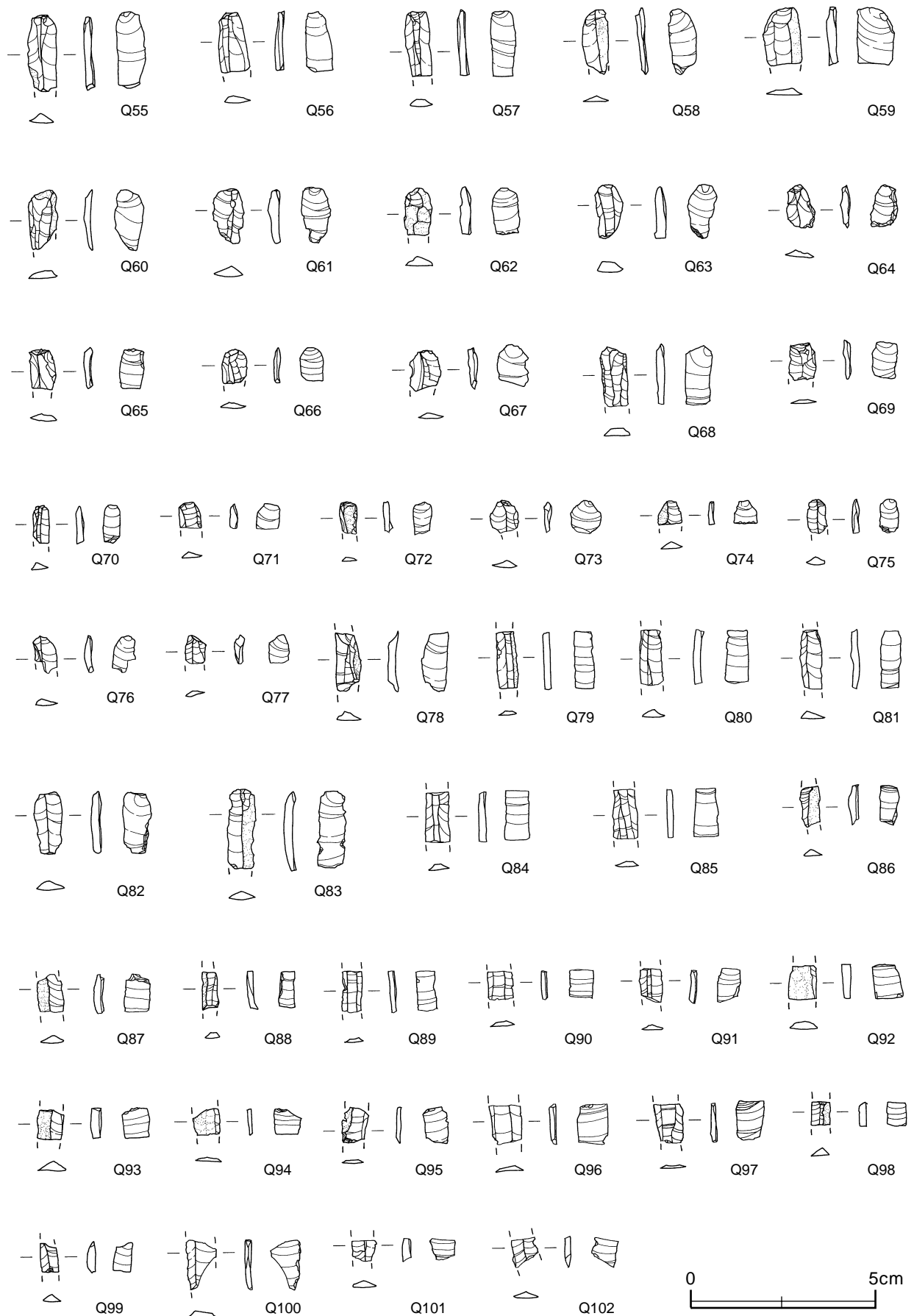


第10図 第2号石器集中地点実測図(2)

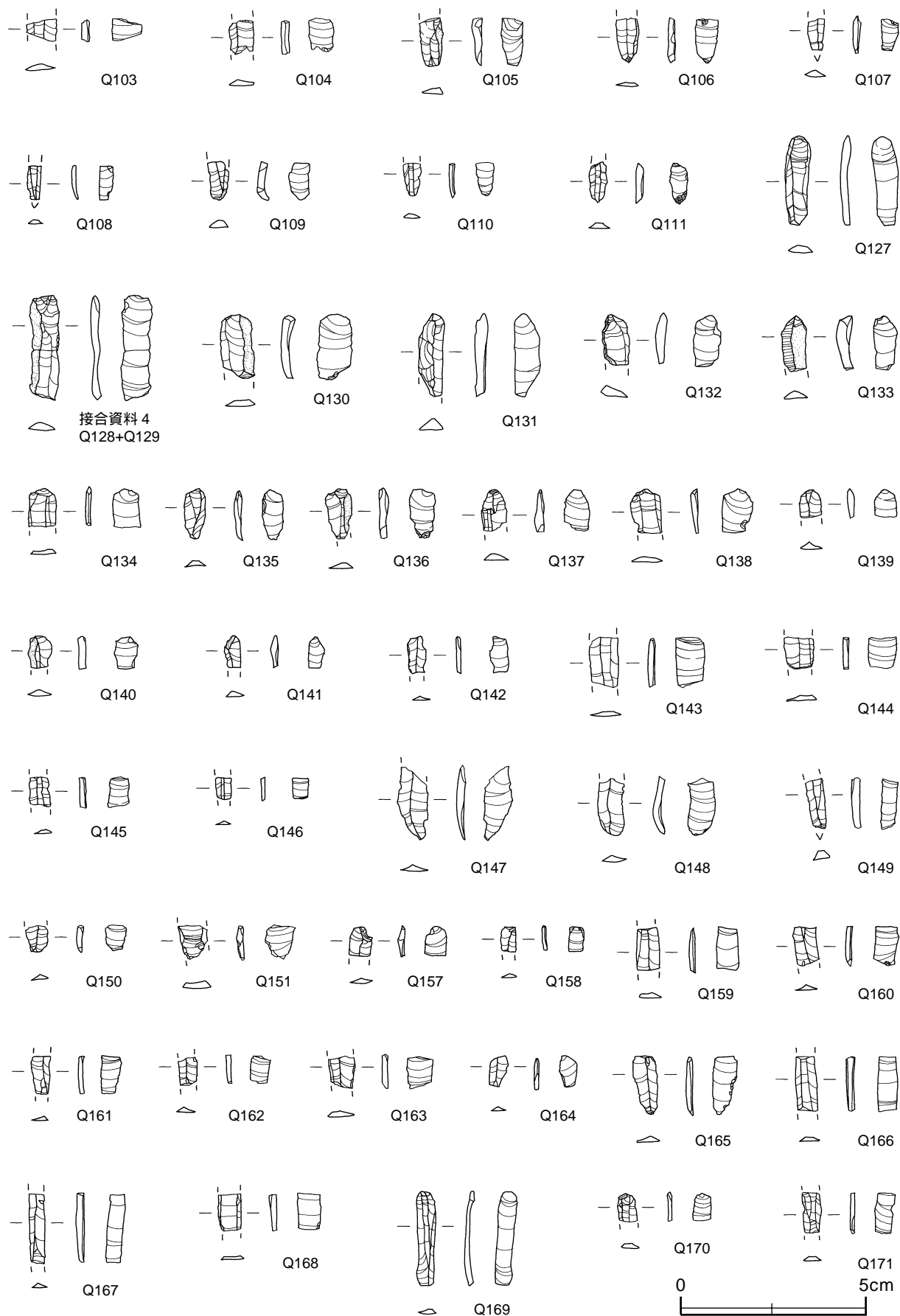
所見 本石器集中地点は、細石刃を主体としている。同一石材の細石刃核、細石刃、剥片が出土していることから、小規模な細石刃製作が行われた場所と考えられる。時期は、細石刃製作が行われたことや、出土層位から後期旧石器時代のⅢ a 期と考えられる。細石刃生産関係以外のツールとして確認された削器も同時期と考えられる。



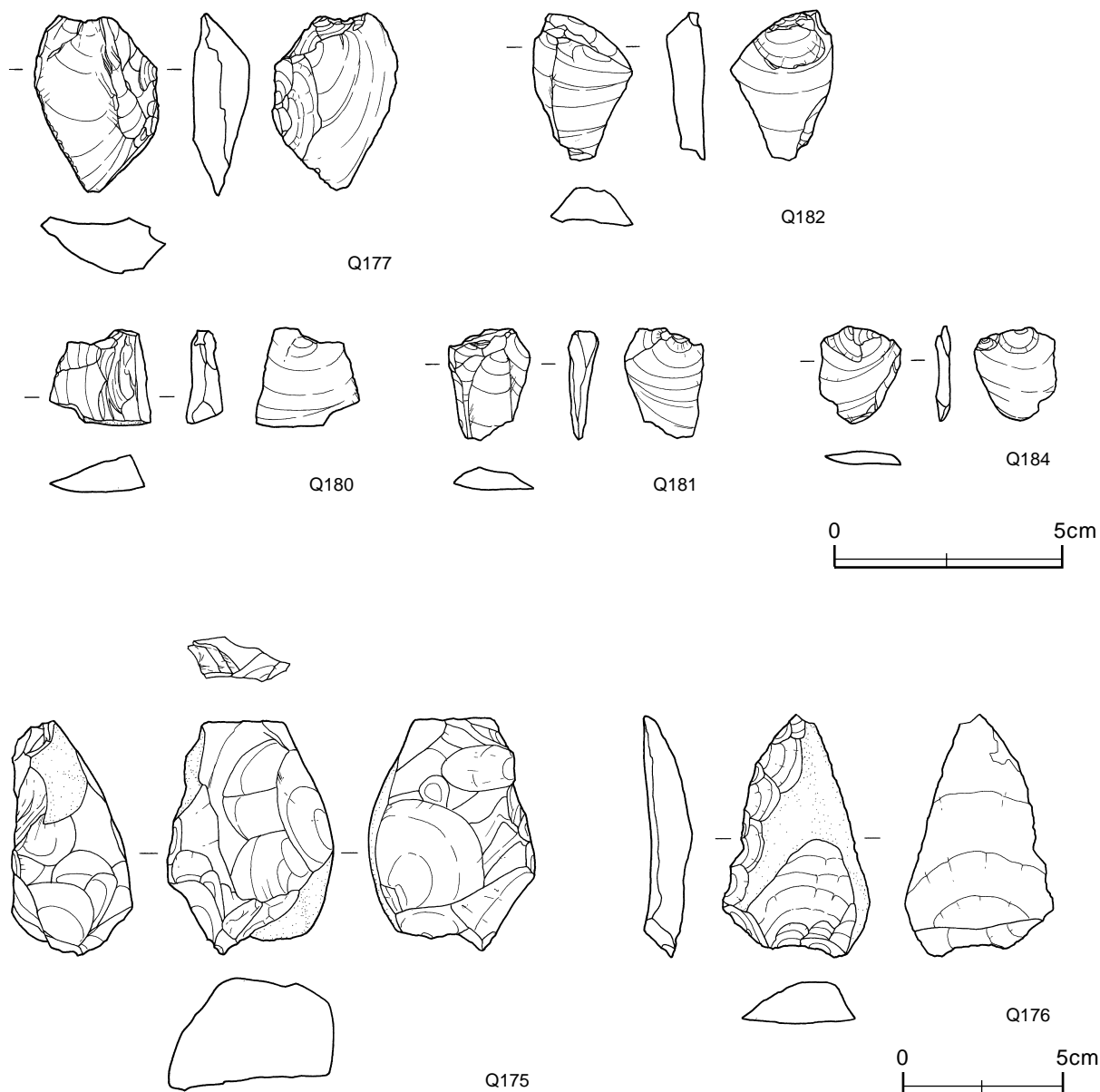
第11図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(1)



第12图 第2号石器集中地点出土遗物实测图(2)



第13图 第2号石器集中地点出土遺物実測図(3)



第14図 第2号石器集中地点出土遺物実測図(4)

第2号石器集中地点出土遺物観察表(第11・14図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q50	細石刃核	2.6	2.2	1.5	8.5	流紋岩	逆台形状 正面から両側面にかけて6~7条の細石刃剥離痕 打面には作業面からの細調整が施される 裏面に自然面を残す	J 7 h4	PL41
Q51	細石刃核	4.1	1.7	2.2	13.9	流紋岩	正面に一部細石刃剥離痕 上面・左側面に自然面, 右側面は大きく剥取された剥離面 Q54と接合	J 7 h4	接合資料3 PL41
Q52	細石刃核	3.4	2.3	1.6	9.6	流紋岩	逆円錐形 正面から右側面にかけて4条の細石刃剥離痕 左側面に自然面 裏面に大きく剥取された剥離面	J 7 i3	PL41
Q53	細石刃核	3.0	1.8	1.3	6.9	流紋岩	逆円錐形 正面から両側面にかけて7条の細石刃剥離痕 裏面に自然面を有する	J 7 i3	PL41
Q54	細石刃核	1.5	1.9	1.9	3.9	流紋岩	打面調整後正面から3条を剥離 剥離面を再生するために打面調整を行う Q51と接合	J 7 i4	接合資料3 PL41
Q175	石核	7.3	5.2	3.8	176.0	安山岩	大形礫を素材として分割, 上下及び側面から剥片を剥離している一部自然面を残す	J 7 h4	
Q176	スクレイパー	7.6	4.6	1.5	45.4	安山岩	厚みのある剥片の片縁に連続した調整を行い刃部を形成 背面に礫面を残す	J 7 h5	PL39
Q177	剥片	4.2	2.7	1.2	11.7	チャート	側面に微細剥離痕	J 7 h4	PL39
Q178	剥片	4.8	1.7	1.9	8.6	チャート	縦長剥片 背面に多方向からの剥離痕	J 7 h3	PL39
Q179	剥片	4.2	2.3	1.4	5.6	流紋岩	礫面を打点とする縦長剥片 背面に2か所剥離痕を有する	J 7 i3	
Q180	剥片	2.2	2.1	0.9	2.5	流紋岩	調整剥片 側面に自然面を残す 背面に凹状の剥離痕	J 7 h3	PL39

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q181	剥片	2.6	1.9	0.7	1.9	流紋岩	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕	J 7 h4	PL39
Q182	剥片	3.2	2.3	0.8	4.0	珩質頁岩	縦長の調整剥片	J 7 h3	PL39
Q183	剥片	1.8	1.8	0.7	1.8	珩質頁岩	縦長不整剥片	J 7 h4	PL39
Q184	剥片	2.1	1.9	0.3	1.1	珩質頁岩	下端に広がる縦長剥片	J 7 h4	PL39
Q185	剥片	2.1	1.8	0.6	2.1	珩質頁岩	横長剥片 背面に自然面を残す	J 7 i3	PL39

第2号石器集中地点出土細石刃観察表 (第12・13図)

番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	部位	側面形状	折断方向	出土位置	備考
Q55	2.00	0.90	0.28	0.42	流紋岩	頭部	平	腹面	J 7 h3	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q56	1.60	0.80	0.20	0.26	流紋岩	頭部	平	背面	J 7 h3	PL40
Q57	1.85	0.70	0.22	0.29	流紋岩	頭部	平	腹面	J 7 h3	左側縁下部に微細剥離痕 PL40
Q58	1.80	0.70	0.18	0.25	流紋岩	頭部	ヒネリ	-	J 7 h3	一部自然面を有する PL40
Q59	1.60	1.40	0.21	0.36	流紋岩	頭部	ヒネリ	-	J 7 i4	一部自然面を有する PL40
Q60	1.65	0.80	0.24	0.24	流紋岩	頭部	ヒネリ	-	J 7 i3	一部自然面を有する PL40
Q61	1.50	0.90	0.32	0.27	流紋岩	頭部	曲	-	J 7 i4	右側縁に微細剥離痕 PL40
Q62	1.30	0.70	0.28	0.19	流紋岩	頭部	平	-	J 7 h4	一部自然面を有する PL40
Q63	1.40	0.70	0.35	0.24	流紋岩	頭部	平	-	J 7 i4	PL40
Q64	1.20	0.70	0.20	0.17	流紋岩	頭部	平	-	J 7 h3	両側縁に微細剥離痕 PL40
Q65	1.10	0.70	0.21	0.16	流紋岩	頭部	平	腹面	J 7 i4	右側縁下部に微細剥離痕 PL40
Q66	0.90	0.65	0.16	0.09	流紋岩	頭部	平	-	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q67	1.10	0.85	0.14	1.00	流紋岩	頭部	ヒネリ	腹面	J 7 h4	PL40
Q68	1.60	0.70	0.22	0.29	流紋岩	頭部	平	腹面	J 7 i4	左側縁に微細な押圧剥離痕 PL40
Q69	1.00	0.80	0.10	0.11	流紋岩	頭部	平	-	J 7 i4	両側縁に微細剥離痕 PL40
Q70	1.10	0.50	0.22	0.08	流紋岩	頭部	平	腹面	J 7 h3	PL40
Q71	0.75	0.65	0.18	0.08	流紋岩	頭部	平	背面	J 7 h3	PL40
Q72	0.90	0.50	0.12	0.06	流紋岩	頭部	ヒネリ	背面	J 7 h3	右側縁に微細な押圧剥離痕 PL40
Q73	0.90	0.80	0.22	0.09	流紋岩	頭部	曲	腹面	J 7 i4	PL40
Q74	0.60	0.70	0.22	0.05	流紋岩	頭部	曲	-	J 7 i4	PL40
Q75	0.95	0.55	0.24	0.08	流紋岩	頭部	ヒネリ	-	J 7 i4	右側縁に微細剥離痕 PL40
Q76	1.05	0.60	0.22	0.13	流紋岩	頭部	平	腹面	J 7 h3	左側縁欠損 PL40
Q77	0.75	0.55	0.20	0.08	流紋岩	頭部	曲	背面	J 7 h4	PL40
Q78	1.60	0.70	0.26	0.24	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	一部自然面を有する PL40
Q79	1.50	0.60	0.12	0.18	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q80	1.50	0.70	0.24	0.19	流紋岩	中間部	平	腹面	J 7 h4	PL40
Q81	1.60	0.60	0.24	0.17	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q82	1.70	0.80	0.30	0.27	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 i4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q83	2.20	0.80	0.28	0.33	流紋岩	中間部	曲	-	J 7 i4	左側縁に微細剥離痕 一部自然面を有する PL40
Q84	1.40	0.70	0.18	0.20	流紋岩	中間部	平	腹面	J 7 h4	PL40
Q85	1.40	0.70	0.16	0.19	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 i3	PL40
Q86	1.10	0.60	0.21	0.10	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	PL40
Q87	1.05	0.80	0.24	0.15	流紋岩	中間部	平	腹面	J 7 h3	一部自然面を有する PL40
Q88	1.00	0.50	0.20	0.07	流紋岩	中間部	曲	背面	J 7 h4	一部自然面を有する PL40
Q89	1.10	0.60	0.14	0.13	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q90	0.80	0.70	0.18	0.10	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h3	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q91	0.90	0.65	0.16	0.09	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h3	PL40
Q92	0.90	0.80	0.25	0.18	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h3	一部自然面を有する PL40
Q93	0.80	0.80	0.30	0.13	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h3	一部自然面を有する PL40

番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	部位	側面形状	折断方向	出土位置	備考
Q94	0.70	0.80	0.12	0.05	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	一部自然面を有する PL40
Q95	1.00	0.80	0.10	0.09	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q96	1.10	0.90	0.20	0.15	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	PL40
Q97	1.10	0.80	0.12	0.11	流紋岩	中間部	曲	背面	J 7 h4	右側縁に微細剥離痕 PL40
Q98	0.70	0.55	0.22	0.06	流紋岩	中間部	平	腹面	J 7 h4	一部自然面を有する PL40
Q99	0.80	0.50	0.20	0.05	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h4	PL40
Q100	1.40	0.90	0.24	0.14	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h3	左側縁に微細剥離痕 右側縁下部欠損 PL40
Q101	0.55	0.70	0.20	0.08	流紋岩	中間部	平	腹面	J 7 i4	PL40
Q102	0.80	0.70	0.20	0.09	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	PL40
Q103	0.70	0.80	0.18	0.07	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 i4	右側縁に微細剥離痕 PL40
Q104	1.00	0.65	0.20	0.13	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h4	PL40
Q105	1.30	0.60	0.22	0.17	流紋岩	端部	ヒネリ	背面	J 7 h4	一部自然面を有する PL40
Q106	1.20	0.60	0.14	0.11	流紋岩	端部	平	背面	J 7 i4	PL40
Q107	0.90	0.50	0.22	0.06	流紋岩	端部	平	-	J 7 h4	PL40
Q108	0.90	0.40	0.12	0.04	流紋岩	端部	平	背面	J 7 h3	PL40
Q109	1.10	0.60	0.22	0.12	流紋岩	端部	曲	背面	J 7 i3	一部自然面を有する PL40
Q110	0.90	0.50	0.18	0.04	流紋岩	端部	平	腹面	J 7 h4	右側縁に微細剥離痕 PL40
Q111	1.10	0.50	0.11	0.08	流紋岩	端部	平	-	J 7 h3	PL40
Q112	0.50	0.50	0.12	0.02	流紋岩	端部	曲	-	J 7 i4	写真のみ掲載 PL40
Q113	0.70	0.60	0.10	0.03	流紋岩	端部	ヒネリ	-	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q114	0.90	0.60	0.28	0.10	流紋岩	端部	平	腹面	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q115	0.80	0.60	0.12	0.05	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q116	0.80	0.50	0.12	0.04	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h3	写真のみ掲載 PL40
Q117	0.90	0.50	0.18	0.08	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q118	0.50	0.40	0.15	0.04	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 i4	写真のみ掲載 PL40
Q119	0.70	0.60	0.08	0.03	流紋岩	中間部	平	-	J 7 i4	写真のみ掲載 PL40
Q120	0.80	0.20	0.16	0.05	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q121	1.00	0.50	0.08	0.05	流紋岩	端部	平	背面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL40
Q122	0.80	0.40	0.15	0.05	流紋岩	中間部	平	-	J 7 i4	写真のみ掲載 PL40
Q123	0.50	0.40	0.12	0.05	流紋岩	中間部	平	腹面	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q124	0.60	0.30	0.10	0.02	流紋岩	中間部	平	背面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL40
Q125	0.40	0.40	0.10	0.01	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q126	0.90	0.30	0.12	0.02	流紋岩	中間部	平	-	J 7 h4	写真のみ掲載 PL40
Q127	2.40	0.70	0.22	0.36	珩質頁岩	完形	平	-	J 7 h3	PL40
Q128	1.50	0.90	0.22	0.20	珩質頁岩	頭部	曲	背面	J 7 h3	Q129と接合(接合資料4) 一部自然面を有する PL40
Q129	1.30	0.90	0.78	0.28	珩質頁岩	中間部	ヒネリ	背面	J 7 h3	Q128と接合(接合資料4) 一部自然面を有する PL40
Q130	1.70	0.90	0.25	0.35	珩質頁岩	頭部	曲	-	J 7 i4	一部自然面を有する PL40
Q131	2.20	0.70	0.35	0.41	珩質頁岩	完形	ヒネリ	背面	J 7 h4	PL40
Q132	1.40	0.65	0.32	0.18	珩質頁岩	頭部	ヒネリ	背面	J 7 i3	PL40
Q133	1.50	0.80	0.24	0.31	珩質頁岩	頭部	ヒネリ	腹面	J 7 h4	一部自然面を有する 背面に横位の削痕 PL40
Q134	1.10	0.80	0.12	0.10	珩質頁岩	頭部	ヒネリ	背面	J 7 h3	PL40
Q135	1.30	0.60	0.20	0.14	珩質頁岩	完形	ヒネリ	-	J 7 h4	左側縁腹面に微細な押圧剥離痕 PL40
Q136	1.40	0.70	0.18	0.15	珩質頁岩	頭部	ヒネリ	-	J 7 i4	左側縁に微細剥離痕 一部自然面を有する PL40
Q137	1.20	0.70	0.21	0.13	珩質頁岩	頭部	平	-	J 7 h3	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q138	1.20	0.90	0.18	0.13	珩質頁岩	頭部	曲	-	J 7 h4	PL40
Q139	0.80	0.60	0.22	0.06	珩質頁岩	頭部	平	背面	J 7 h3	PL40
Q140	0.85	0.60	0.18	0.08	珩質頁岩	頭部	平	-	J 7 i4	PL40

番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質	部位	側面形状	折断方向	出土位置	備考
Q141	0.90	0.45	0.20	0.04	珩質頁岩	頭部	平	背面	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL40
Q142	1.00	0.45	0.12	0.06	珩質頁岩	頭部	平	-	J 7 i3	PL40
Q143	1.40	0.80	0.16	0.18	珩質頁岩	中間部	曲	背面	J 7 h3	PL40
Q144	0.90	0.90	0.20	0.10	珩質頁岩	中間部	平	-	J 7 h4	PL40
Q145	0.90	0.60	0.14	0.06	珩質頁岩	中間部	平	背面	J 7 h4	両側縁に微細剥離痕 PL40
Q146	0.60	0.40	0.10	0.02	珩質頁岩	中間部	平	背面	J 7 h3	PL40
Q147	2.10	0.90	0.22	0.17	珩質頁岩	端部	ヒネリ	-	J 7 h3	PL40
Q148	1.60	0.80	0.18	0.21	珩質頁岩	端部	ヒネリ	腹面	J 7 h4	右側縁に微細剥離痕 PL40
Q149	1.40	0.50	0.24	0.10	珩質頁岩	端部	曲	-	J 7 i4	PL40
Q150	0.70	0.60	0.16	0.05	珩質頁岩	端部	曲	背面	J 7 h3	PL40
Q151	0.90	0.80	0.22	0.10	珩質頁岩	中間部	曲	-	J 7 h3	PL41
Q152	0.80	0.70	0.20	0.06	珩質頁岩	端部	曲	-	J 7 h4	写真のみ掲載 PL41
Q153	0.80	0.60	0.16	0.09	珩質頁岩	頭部	平	背面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41
Q154	0.60	0.60	0.15	0.04	珩質頁岩	頭部	平	腹面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41
Q155	0.85	0.40	0.12	0.01	珩質頁岩	端部	平	-	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41
Q156	0.50	0.80	0.12	0.06	珩質頁岩	中間部	ヒネリ	背面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41
Q157	0.90	0.70	0.14	0.07	珩質頁岩	頭部	曲	背面	J 7 h3	PL41
Q158	0.70	0.40	0.12	0.03	珩質頁岩	頭部	曲	背面	J 7 h3	左側縁に微細剥離痕 PL41
Q159	1.20	0.70	0.20	0.12	珩質頁岩	中間部	平	腹面	J 7 h4	PL41
Q160	1.10	0.70	0.20	0.13	珩質頁岩	中間部	ヒネリ	背面	J 7 h3	PL41
Q161	1.00	0.60	0.16	0.06	珩質頁岩	中間部	ヒネリ	背面	J 7 h4	PL41
Q162	0.80	0.50	0.12	0.05	珩質頁岩	中間部	平	背面	J 7 h3	PL41
Q163	0.90	0.80	0.18	0.10	珩質頁岩	中間部	平	腹面	J 7 h3	右側縁に微細剥離痕 PL41
Q164	0.90	0.50	0.12	0.03	珩質頁岩	中間部	平	背面	J 7 h4	右側縁下部欠損 PL41
Q165	1.60	0.70	0.14	0.14	珩質頁岩	端部	平	腹面	J 7 h4	左側縁下部に微細剥離痕 PL41
Q166	1.50	0.60	0.14	0.02	硬質頁岩	中間部	平	腹面	J 7 h4	左側縁に微細剥離痕 PL41
Q167	1.90	0.40	0.14	0.14	硬質頁岩	中間部	平	背面	J 7 i4	PL41
Q168	1.00	0.70	0.12	0.13	硬質頁岩	中間部	平	背面	J 7 h3	左側縁下部に微細剥離痕 PL41
Q169	2.50	0.50	0.18	0.24	チャート	完形	平	-	J 7 h3	PL41
Q170	0.80	0.60	0.16	0.06	チャート	頭部	曲	背面	J 7 h3	PL41
Q171	1.10	0.50	0.14	0.09	チャート	中間部	曲	背面	J 7 i4	左側縁に微細剥離痕 PL41
Q172	0.90	0.40	0.12	0.07	チャート	頭部	ヒネリ	背面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41
Q173	0.50	0.40	0.15	0.04	チャート	中間部	平	腹面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41
Q174	0.75	0.40	0.16	0.02	チャート	端部	曲	腹面	J 7 h3	写真のみ掲載 PL41

表3 第2号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
1		剥片	チャート	J 7 g4	-3.50	0.60	28.317
2		剥片	チャート	J 7 g4	-3.32	0.51	28.315
3		碎片	その他	J 7 g4	-3.72	0.15	28.289
4		碎片	その他	J 7 h2	-4.00	0.00	28.318
5		剥片	チャート	J 7 h3	-1.86	2.10	28.274
6	Q121	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-1.43	3.39	28.215
7	Q137	細石刃	珩質頁岩	J 7 h3	-1.71	2.54	28.226
8		碎片	その他	J 7 h3	-1.60	2.80	28.161
9	Q57	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-3.35	3.61	28.340
10	Q127	細石刃	珩質頁岩	J 7 h3	-3.41	3.60	28.304
11	Q91	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.95	3.56	28.284
12	Q90	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.92	3.61	28.270
13	Q116	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-3.16	3.52	28.240
14	Q163	細石刃	珩質頁岩	J 7 h3	-3.09	3.48	28.228
15	Q72	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.47	3.08	28.240
16		剥片	珩質頁岩	J 7 h3	-3.48	3.43	28.340
17		碎片	その他	J 7 h3	-3.51	3.60	28.334
18	Q182	剥片	珩質頁岩	J 7 h3	-2.90	3.12	28.322
19	Q128	細石刃	珩質頁岩	J 7 h3	-2.51	3.27	28.339
20	Q180	剥片	流紋岩	J 7 h3	-3.80	2.87	28.197
21		剥片	安山岩	J 7 h3	-2.29	3.70	28.236
22	Q100	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.62	2.92	28.351
23	Q64	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.75	2.92	28.321
24	Q71	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.30	3.50	28.339

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
25	Q 151	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-3.65	2.75	28.263
26		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-3.18	3.63	28.242
27		碎片	チャート	J 7 h3	-3.18	3.43	28.216
28		碎片	流紋岩	J 7 h3	-3.23	3.31	28.206
29		剥片	流紋岩	J 7 h3	-3.70	3.32	28.222
30		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.37	2.70	28.211
31	Q 162	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-2.42	3.11	28.239
32	Q 92	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.72	3.70	28.289
33		碎片	流紋岩	J 7 h3	-2.78	3.60	28.196
34	Q 58	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.91	3.39	28.197
35		剥片	安山岩	J 7 h3	-3.10	3.69	28.211
36		碎片	チャート	J 7 h3	-3.28	3.45	28.203
37	Q 129	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-3.57	2.70	28.199
38		碎片	流紋岩	J 7 h3	-2.76	3.63	28.136
39		剥片	安山岩	J 7 h3	-2.30	3.94	28.343
40	Q 55	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.32	3.90	28.348
41		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.78	3.84	28.337
42	Q 108	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.62	3.82	28.326
43	Q 160	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-2.99	3.94	28.335
44		碎片	流紋岩	J 7 h3	-3.77	3.85	28.338
45	Q 124	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-3.52	3.87	28.310
46		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-3.46	3.93	28.320
47		剥片	流紋岩	J 7 h3	-3.38	3.83	28.313
48	Q 168	細石刃	硬質頁岩	J 7 h3	-3.44	3.83	28.318
49	Q 56	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-3.94	3.88	28.316
50		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.21	3.95	28.330
51	Q 173	細石刃	チャート	J 7 h3	-3.11	3.79	28.284
52		碎片	チャート	J 7 h3	-3.21	3.79	28.277
53		碎片	安山岩	J 7 h3	-3.28	3.80	28.253
54		剥片	安山岩	J 7 h3	-2.70	3.84	28.309
55	Q 158	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-2.08	3.43	28.319
56	Q 147	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-3.84	3.86	28.249
57		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-3.02	3.83	28.250
58		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.93	3.68	28.215
59		剥片	安山岩	J 7 h3	-2.05	3.78	28.229
60		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.30	3.80	28.241
61	Q 76	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.22	3.62	28.206
62	Q 150	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-2.31	3.95	28.204
63		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.43	3.95	28.169
64		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-3.69	3.91	28.183
65		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.10	3.13	28.335
66	Q 111	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.22	2.81	28.256
67	Q 170	細石刃	チャート	J 7 h3	-3.75	3.90	28.312
68		剥片	流紋岩	J 7 h3	-3.62	3.88	28.301
69	Q 134	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-3.14	3.88	28.259
70		碎片	流紋岩	J 7 h3	-3.40	3.63	28.156
71		碎片	流紋岩	J 7 h3	-3.12	3.58	28.130
72		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.38	3.95	28.321
73	Q 178	剥片	チャート	J 7 h3	-2.36	3.97	28.266
74		碎片	珪質頁岩	J 7 h3	-2.30	3.99	28.235
75		剥片	安山岩	J 7 h3	-2.88	3.87	28.060
76		碎片	瑪瑙	J 7 h3	-3.58	2.34	28.066
77		剥片	チャート	J 7 h3	-3.72	3.33	28.030
78		碎片	その他	J 7 h3	-3.47	2.54	28.060
79	Q 87	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-2.86	2.22	28.005
80		碎片	安山岩	J 7 h4	-1.34	3.12	28.266
81		碎片	その他	J 7 h4	-0.75	2.27	28.236
82		碎片	瑪瑙	J 7 h4	-1.02	2.40	28.184
83		碎片	流紋岩	J 7 h4	-1.65	2.78	28.188
84		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.55	2.85	28.197
85		碎片	その他	J 7 h4	-2.30	2.37	28.184
86		碎片	安山岩	J 7 h4	-3.94	2.07	28.212
87	Q 110	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-3.96	2.46	28.194
88		剥片	流紋岩	J 7 h4	-2.67	2.37	28.135
89		碎片	その他	J 7 h4	-3.71	3.20	28.126
90	Q 79	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-3.09	0.01	28.362
91	Q 96	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.51	0.10	28.359
92	Q 165	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-3.21	0.14	28.333
93	Q 80	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.70	1.04	28.312

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
94	Q 159	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-2.14	0.12	28.281
95	Q 84	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-3.25	1.18	28.284
96	Q 78	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.62	0.72	28.235
97	Q 131	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-2.76	0.51	28.345
98	Q 176	スクレイパー	安山岩	J 7 h4	-3.33	0.07	28.358
99	Q 181	剥片	流紋岩	J 7 h4	-3.47	0.57	28.333
100	Q 184	剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-3.51	0.46	28.273
101	Q 183	剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-3.20	0.95	28.298
102		剥片	安山岩	J 7 h4	-3.05	0.76	28.286
103		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.26	0.58	28.270
104		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.69	0.90	28.301
105		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.08	1.17	28.224
106		剥片	安山岩	J 7 h4	-3.14	0.00	28.291
107		剥片	安山岩	J 7 h4	-3.30	0.69	28.214
108		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.79	0.15	28.314
109		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.29	0.52	28.284
110		碎片	安山岩	J 7 h4	-2.81	1.14	28.273
111	Q 152	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-3.14	0.81	28.292
112		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-2.67	0.57	28.230
113	Q 138	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-3.51	1.44	28.295
114		剥片	流紋岩	J 7 h4	-3.41	0.96	28.205
115		剥片	流紋岩	J 7 h4	-2.81	0.81	28.173
116	Q 50	細石核	流紋岩	J 7 h4	-3.86	0.77	28.280
117	Q 51	細石核	流紋岩	J 7 h4	-2.98	0.95	28.257
118		碎片	チャート	J 7 h4	-3.81	1.18	28.210
119	Q 145	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-3.45	1.48	28.206
120		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-2.59	1.77	28.174
121		碎片	安山岩	J 7 h4	-2.07	1.19	28.213
122		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-2.66	1.74	28.158
123	Q 141	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-2.76	0.62	28.167
124	Q 148	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-3.93	0.40	28.190
125	Q 161	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-2.30	1.02	28.144
126		碎片	安山岩	J 7 h4	-2.24	1.73	28.134
127		碎片	流紋岩	J 7 h4	-2.91	1.76	28.131
128		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-3.36	1.24	28.152
129		剥片	流紋岩	J 7 h4	-3.22	1.56	28.115
130	Q 104	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.93	1.66	28.112
131	Q 97	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.91	0.56	28.134
132	Q 52	細石核	流紋岩	J 7 h4	-3.90	1.22	28.117
133	Q 67	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.12	1.74	28.090
134		剥片	安山岩	J 7 h4	-3.11	0.90	28.254
135		剥片	流紋岩	J 7 h4	-3.19	0.98	28.250
136		剥片	流紋岩	J 7 h4	-2.01	0.54	28.242
137		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.64	0.22	28.117
138		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-2.83	0.17	28.191
139		剥片	安山岩	J 7 h4	-2.65	1.72	28.136
140		剥片	流紋岩	J 7 h4	-2.98	0.68	28.111
141		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-3.10	0.08	28.316
142	Q 144	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-3.18	0.17	28.230
143		碎片	その他	J 7 h4	-3.21	0.18	28.226
144	Q 115	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-2.50	0.13	28.326
145		碎片	チャート	J 7 h4	-2.52	0.06	28.309
146		碎片	流紋岩	J 7 h4	-2.56	0.15	28.282
147		剥片	安山岩	J 7 h4	-1.67	0.32	28.283
148	Q 77	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-1.30	0.34	28.255
149		碎片	流紋岩	J 7 h4	-1.22	0.28	28.252
150		碎片	流紋岩	J 7 h4	-0.74	0.39	28.233
151	Q 123	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-0.58	0.75	28.213
152	Q 177	剥片	チャート	J 7 h4	-1.22	0.19	28.227
153	Q 114	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-3.62	0.98	28.173
154		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-0.92	0.66	28.151
155	Q 89	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-1.86	0.10	28.327
156		碎片	流紋岩	J 7 h4	-1.40	0.09	28.310
157		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-1.70	0.04	28.265
158	Q 126	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-0.40	0.07	28.315
159	Q 102	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-0.68	0.04	28.316
160		剥片	硬質頁岩	J 7 h4	-1.77	0.48	28.270
161		剥片	安山岩	J 7 h4	-1.78	0.68	28.256
162		剥片	流紋岩	J 7 h4	-1.82	1.05	28.271

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
163		剥片	流紋岩	J 7 h4	-3.91	1.76	28.209
164		碎片	安山岩	J 7 h4	-0.88	0.12	28.226
165	Q 175	石核	安山岩	J 7 h4	-1.12	1.00	28.197
166	Q 166	細石刃	硬質頁岩	J 7 h4	-0.98	0.00	28.149
167	Q 81	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-0.90	0.36	28.111
168		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-0.92	0.70	28.133
169		碎片	珪質頁岩	J 7 h4	-0.74	0.44	28.185
170	Q 66	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-0.68	0.10	28.182
171	Q 120	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-1.37	0.65	28.126
172	Q 117	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-1.69	0.35	28.105
173		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-0.66	0.92	28.072
174		剥片	安山岩	J 7 h4	-1.55	0.46	28.058
175	Q 135	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-1.42	0.16	28.058
176		剥片	珪質頁岩	J 7 i3	0.00	2.62	28.316
177	Q 185	剥片	珪質頁岩	J 7 i3	-0.01	3.04	28.283
178		剥片	流紋岩	J 7 i3	-0.87	3.54	28.302
179		碎片	珪質頁岩	J 7 i3	-0.14	3.88	28.275
180		碎片	流紋岩	J 7 i3	-0.19	3.65	28.263
181		剥片	流紋岩	J 7 i3	-0.46	2.94	28.229
182	Q 85	細石刃	流紋岩	J 7 i3	0.00	3.14	28.229
183	Q 132	細石刃	珪質頁岩	J 7 i3	-2.40	3.96	28.251
184		剥片	安山岩	J 7 i3	-1.72	3.82	28.229
185	Q 142	細石刃	珪質頁岩	J 7 i3	-1.94	3.51	28.229
186	Q 179	剥片	流紋岩	J 7 i3	-1.14	3.70	28.227
187		剥片	珪質頁岩	J 7 i3	-2.96	3.93	28.212
188	Q 60	細石刃	流紋岩	J 7 i3	-1.22	2.98	28.194
189	Q 109	細石刃	流紋岩	J 7 i3	-0.68	3.92	28.168
190		剥片	その他	J 7 i3	-1.54	3.19	28.126
191		剥片	安山岩	J 7 i3	-1.27	3.83	28.135
192		碎片	安山岩	J 7 i3	-3.10	2.89	28.223
193		碎片	流紋岩	J 7 i3	-3.30	2.57	28.212
194		碎片	流紋岩	J 7 i3	-2.12	2.95	28.103
195		碎片	チャート	J 7 i3	-3.11	2.59	28.089
196	Q 53	細石核	流紋岩	J 7 i3	-2.52	3.21	28.056
197		碎片	その他	J 7 i3	-2.52	0.66	28.297
198		碎片	その他	J 7 i4	-1.35	3.07	28.201
199		碎片	その他	J 7 i4	-0.30	2.79	28.188
200		碎片	その他	J 7 i4	-0.91	2.40	28.143
201		碎片	安山岩	J 7 i4	-2.51	3.16	28.217
202		碎片	その他	J 7 i4	-2.25	2.45	28.171
203		碎片	安山岩	J 7 i4	-3.72	2.80	28.151
204	Q 61	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-2.28	0.25	28.241
205	Q 167	細石刃	硬質頁岩	J 7 i4	-3.15	0.48	28.192
206		剥片	チャート	J 7 i4	-3.87	0.74	28.179
207		剥片	安山岩	J 7 i4	-3.34	0.99	28.184
208	Q 68	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-2.72	0.58	28.184
209		剥片	珪質頁岩	J 7 i4	-2.22	0.62	28.184
210		剥片	安山岩	J 7 i4	-2.50	0.25	28.197
211	Q 149	細石刃	珪質頁岩	J 7 i4	-2.06	0.94	28.181
212		剥片	珪質頁岩	J 7 i4	-3.72	0.23	28.208
213	Q 82	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-3.54	1.17	28.102
214	Q 59	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-1.29	1.04	28.285
215	Q 63	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-1.32	1.33	28.258
216	Q 136	細石刃	珪質頁岩	J 7 i4	-1.32	1.29	28.259
217		剥片	安山岩	J 7 i4	-1.28	1.32	28.258
218		剥片	安山岩	J 7 i4	-0.05	0.92	28.310
219		剥片	安山岩	J 7 i4	-0.12	0.58	28.270
220	Q 122	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-0.22	0.34	28.299
221	Q 171	細石刃	チャート	J 7 i4	-0.11	0.34	28.261
222		剥片	流紋岩	J 7 i4	-0.32	0.36	28.226
223		剥片	珪質頁岩	J 7 i4	-0.46	1.87	28.214
224		剥片	その他	J 7 i4	-0.95	1.63	28.190
225	Q 140	細石刃	珪質頁岩	J 7 i4	-1.69	1.12	28.169
226		剥片	珪質頁岩	J 7 i4	-1.84	0.96	28.133
227		剥片	珪質頁岩	J 7 i4	-0.93	1.25	28.130
228		剥片	珪質頁岩	J 7 i4	-0.58	0.70	28.135
229	Q 101	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-1.62	1.56	28.111
230		剥片	流紋岩	J 7 i4	-1.02	0.12	28.315
231		剥片	安山岩	J 7 i4	-1.39	0.13	28.279

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X (m)	Y (m)	Z (m)
232		剥片	チャート	J 7 i4	-0.69	0.07	28.296
233	Q 74	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-1.08	0.01	28.261
234	Q 54	細石核	流紋岩	J 7 i4	-1.01	0.18	28.287
235	Q 83	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-1.03	0.02	28.257
236		剥片	その他	J 7 i4	-0.48	1.85	28.213
237		剥片	安山岩	J 7 i4	-0.52	1.47	28.106
238		剥片	その他	J 7 i4	-1.77	1.66	28.089
239		剥片	安山岩	J 7 i4	-0.10	1.49	27.965
f1-1	Q 70	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-	-	-
f1-2	Q 153	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f1-3		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f1-4		剥片	流紋岩	J 7 h3	-	-	-
f1-5		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f1-6		剥片	流紋岩	J 7 h3	-	-	-
f2-1	Q 169	細石刃	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-2	Q 172	細石刃	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-3	Q 174	細石刃	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-4		剥片	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-5		剥片	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-6		剥片	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-7		剥片	チャート	J 7 h3	-	-	-
f2-8	Q 139	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-9	Q 146	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-10	Q 154	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-11	Q 155	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-12		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-13		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-14	Q 156	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-15		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-16		剥片	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f2-17	Q 93	細石刃	流紋岩	J 7 h3	-	-	-
f2-18		剥片	流紋岩	J 7 h3	-	-	-
f2-19		剥片	流紋岩	J 7 h3	-	-	-
f2-20	Q 157	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f3-1		剥片	チャート	J 7 h3	-	-	-
f3-2		剥片	安山岩	J 7 h3	-	-	-
f3-3	Q 143	細石刃	珪質頁岩	J 7 h3	-	-	-
f4-1		剥片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f5-1		剥片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f5-2	Q 94	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f5-3		剥片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f5-4		剥片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f5-5	Q 88	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f5-6		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f5-7		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f5-8		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f5-9		剥片	チャート	J 7 h4	-	-	-
f5-10		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f5-11		剥片	チャート	J 7 h4	-	-	-
f6-1		剥片	チャート	J 7 h4	-	-	-
f6-2	Q 105	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-3	Q 62	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-4		剥片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f6-5		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f6-6		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-7	Q 95	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-8		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-9		剥片	チャート	J 7 h4	-	-	-
f6-10		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f6-11	Q 113	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-12		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-13		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-14		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-15	Q 125	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-16		剥片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f6-17		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-18		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-19		剥片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-20		剥片	チャート	J 7 h4	-	-	-

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
f6-21	Q 164	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f6-22		破片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f6-23		破片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f6-24		破片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-1	Q 133	細石刃	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f7-2		破片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-3	Q 86	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-4	Q 99	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-5	Q 107	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-6	Q 98	細石刃	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-7		破片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f7-8		破片	流紋岩	J 7 h4	-	-	-
f7-9		剥片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f7-10		破片	安山岩	J 7 h4	-	-	-
f7-11		破片	チャート	J 7 h4	-	-	-
f7-12		破片	珪質頁岩	J 7 h4	-	-	-
f8-1		破片	流紋岩	J 7 i3	-	-	-
f8-2		破片	瑪瑙	J 7 i3	-	-	-
f9-1		破片	チャート	J 7 i3	-	-	-
f9-2		破片	チャート	J 7 i3	-	-	-
f9-3		破片	安山岩	J 7 i3	-	-	-
f10-1		破片	安山岩	J 7 i3	-	-	-
f10-2		破片	安山岩	J 7 i3	-	-	-
f10-3		破片	安山岩	J 7 i3	-	-	-
f11-1	Q 106	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f11-2		破片	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-
f12-1		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f12-2		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f12-3		破片	その他	J 7 i4	-	-	-
f12-4		破片	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
f13-1		剥片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f13-2	Q 75	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f13-3	Q 112	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f13-4		破片	その他	J 7 i4	-	-	-
f13-5		剥片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f13-6		破片	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-
f13-7		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f14-1	Q 65	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f14-2	Q 69	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f14-3		破片	チャート	J 7 i4	-	-	-
f14-4		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f14-5		破片	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-
f14-6		破片	チャート	J 7 i4	-	-	-
f14-7		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f14-8		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f14-9		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f14-10		破片	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-
f15-1	Q 130	細石刃	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-
f15-2		破片	安山岩	J 7 i4	-	-	-
f15-3		破片	チャート	J 7 i4	-	-	-
f15-4		破片	その他	J 7 i4	-	-	-
f15-5		破片	珪質頁岩	J 7 i4	-	-	-
f16-1	Q 73	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f16-2	Q 118	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f16-3	Q 119	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f16-4	Q 103	細石刃	流紋岩	J 7 i4	-	-	-
f16-5		破片	チャート	J 7 i4	-	-	-
f16-6		破片	チャート	J 7 i4	-	-	-
f17-1		剥片	流紋岩	H S	-	-	-

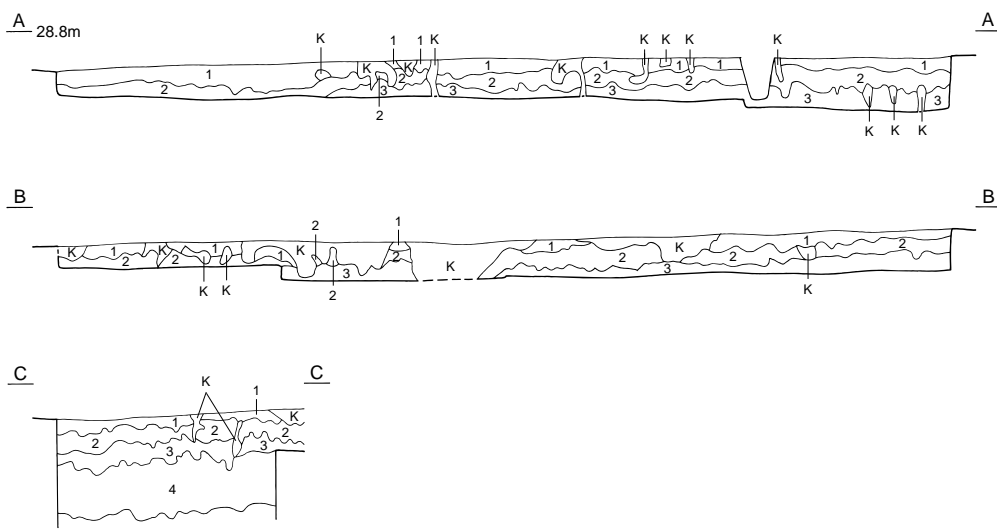
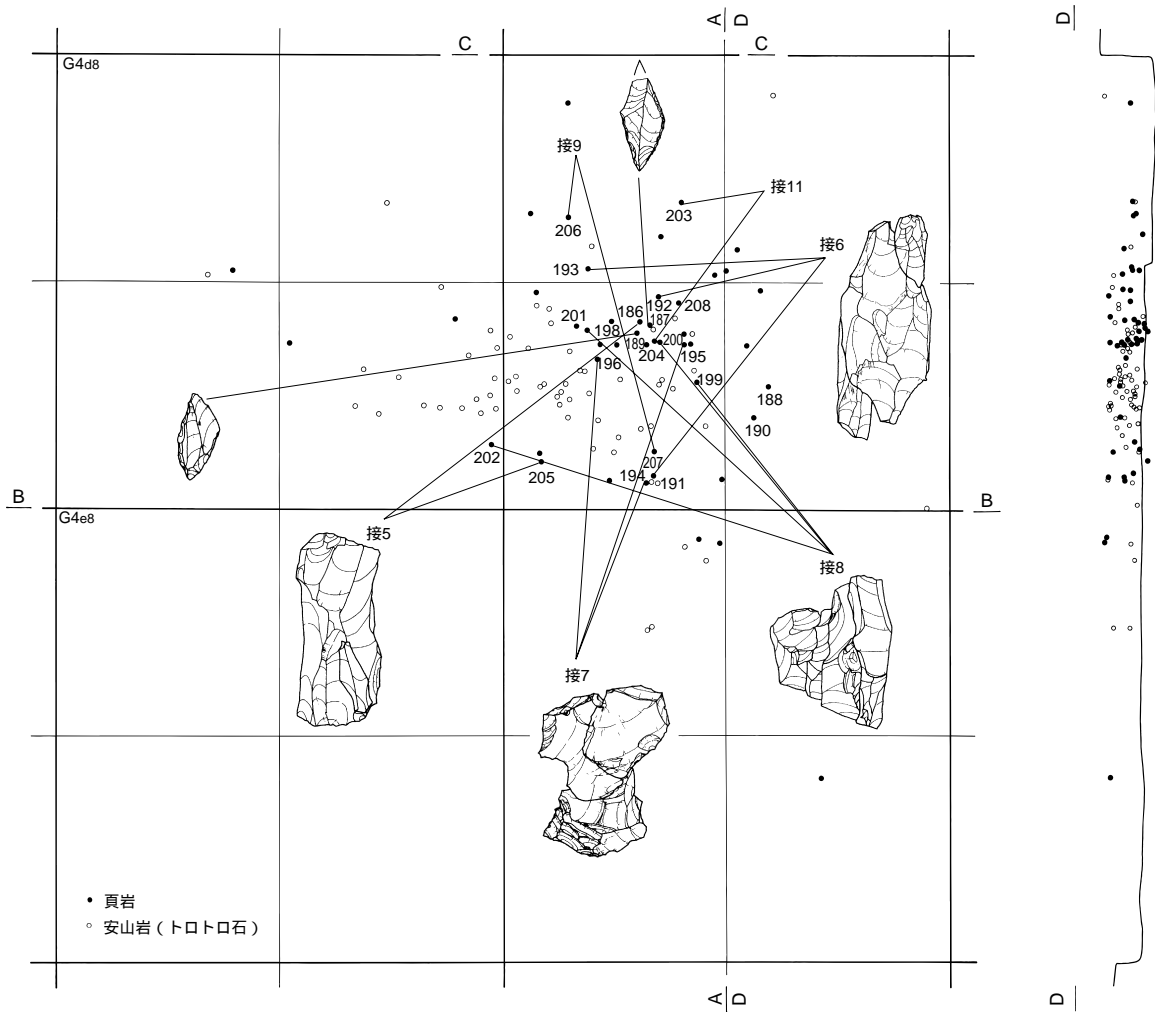
第3号石器集中地点 (第15～19区)

位置 調査F区西側のG 4 d8・G 4 d9・G 4 e8・G 4 e9区で、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

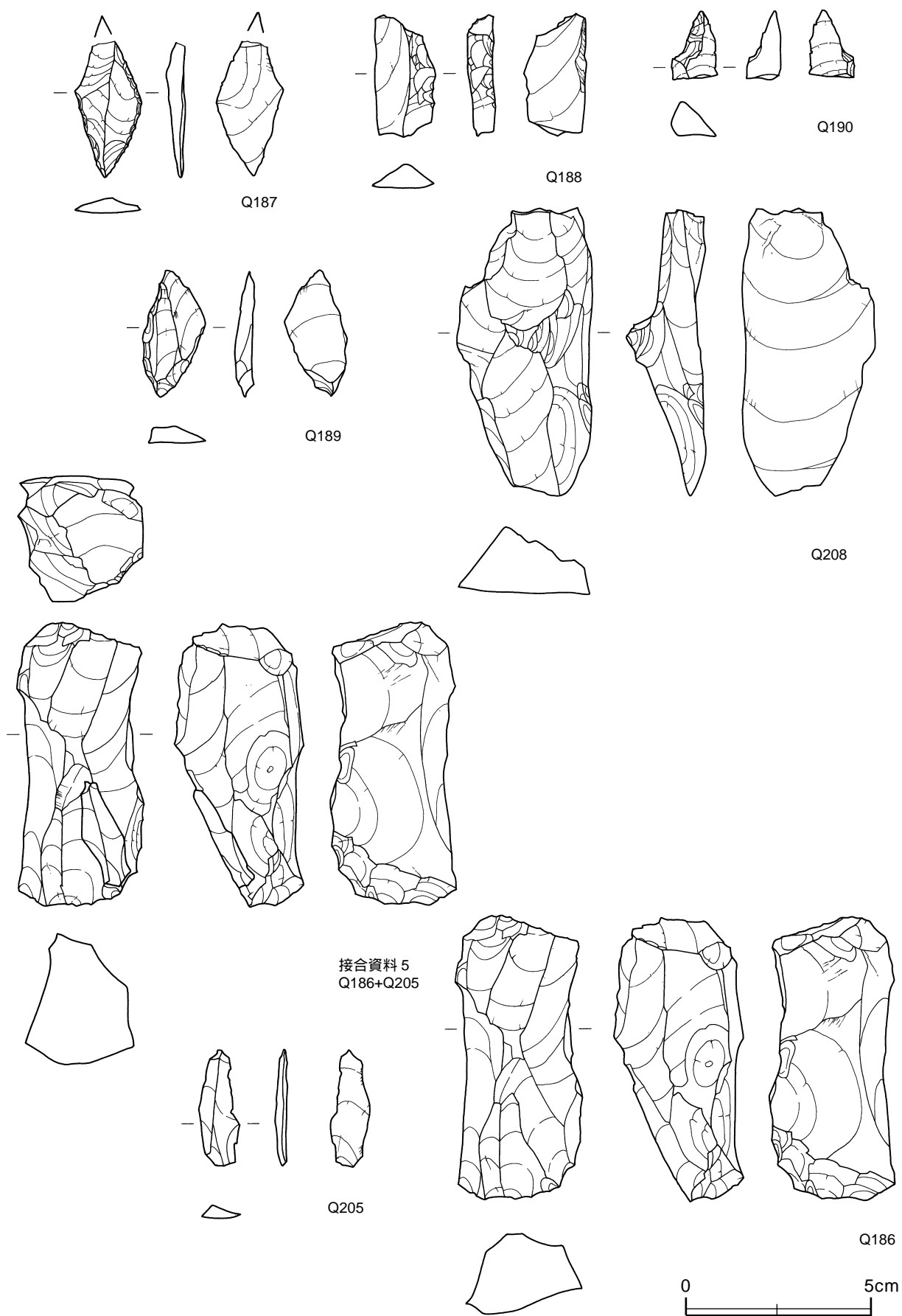
遺物出土状況 110点の石器が出土している。垂直分布は標高28.151～28.523mで、基本層序の第2層下部(土層断面図の第1層)から第4層上部(土層断面図の第3層)に相当する。

遺物 石核1点、ナイフ形石器5点、剥片104点が出土している。Q187のナイフ形石器は小形の石刃の側縁の一部を刃部として、下半部とその反対側の側縁に二次加工を施してあり、先端部を欠いている。Q189は石刃の側縁部を刃部とし、反対側の側縁に二次加工を施し、基部を加工している。Q186の石核は石刃技法により打面から縦長剥片を剥がし、再度反対側からも縦長剥片を剥がしている。接合関係は7点確認された。Q194～Q196は、石核の打面調整剥片と考えられる(接合資料7)。Q199～Q202の接合関係からは、縦長剥片を剥離するたびに、打面調整を行った様子が確認できる(接合資料8)。また、石材別には頁岩47点、安山岩(トロトロ石)61点、黒曜石1点、チャート1点である。

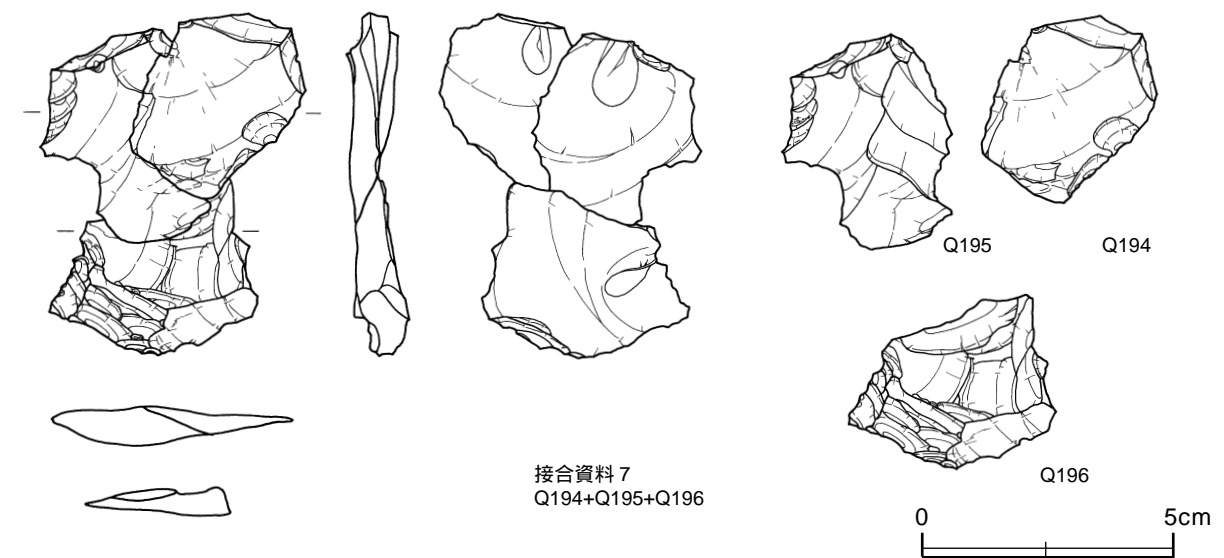
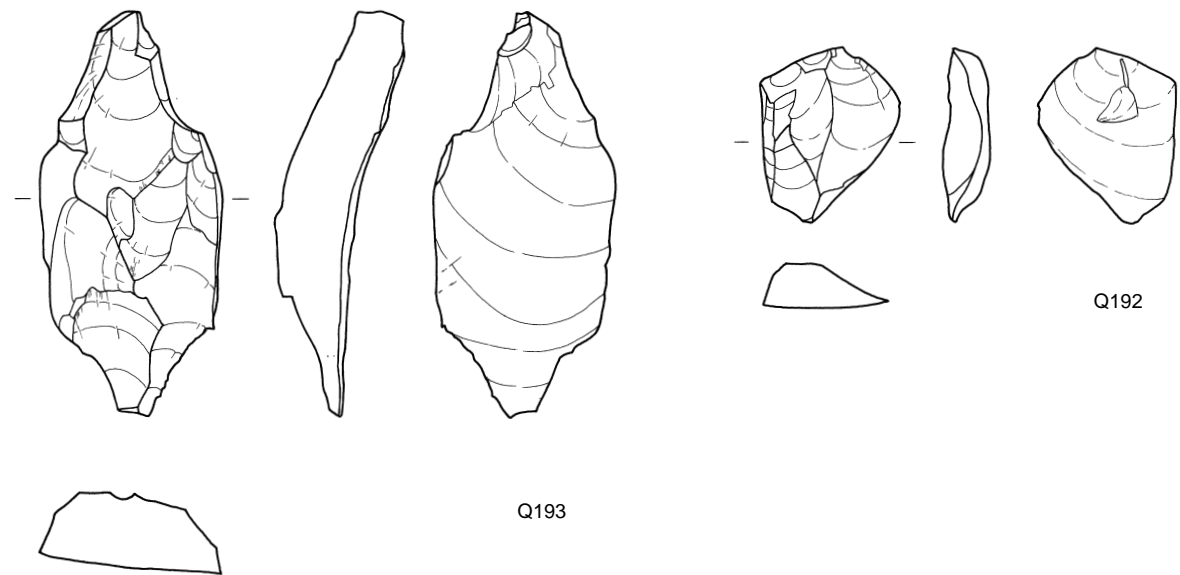
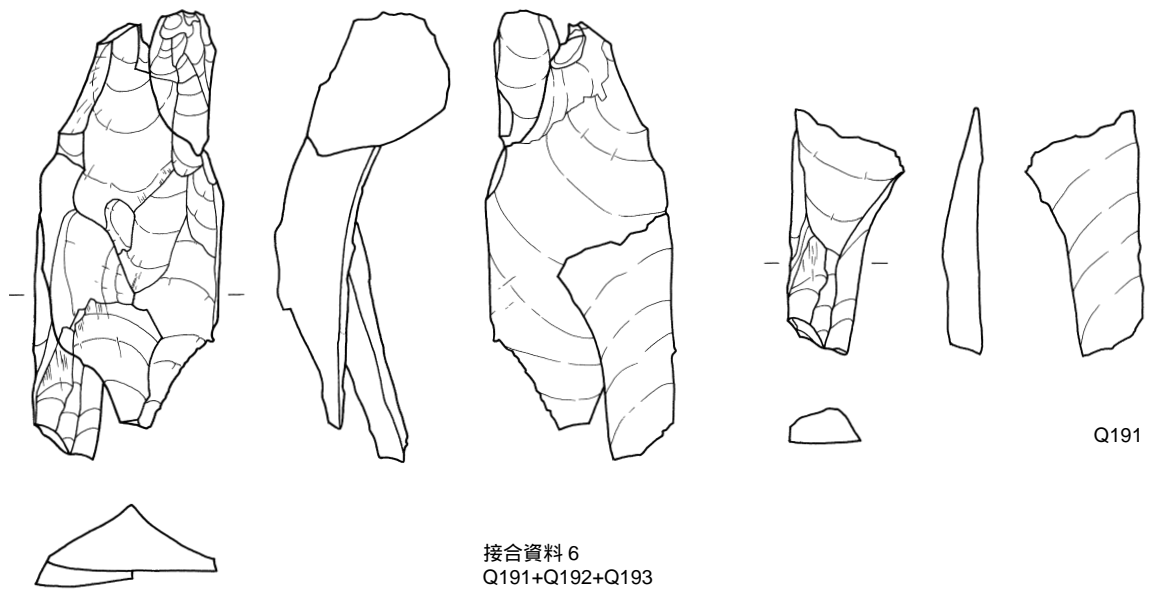
所見 石核や製品、それに伴う剥片が出土していることから、石器製作の場と考えられる。石核と接合する縦長剥片が確認できないことから、製品に加工されて持ち出されたことが想定される。このことは本跡が一時的なキャンプサイトの地として利用されたことが推測できる。また、石材として2種類(頁岩、安山岩)が使われているが、層位や分布状況に差異が認められないことから、同時期に異なる石材を用いて石器を製作していたと考えられる。時期は、出土層位等から後期旧石器時代のII c期と考えられる。



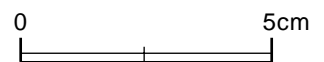
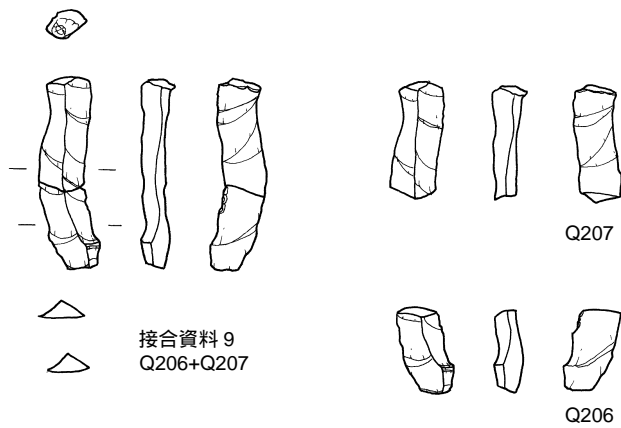
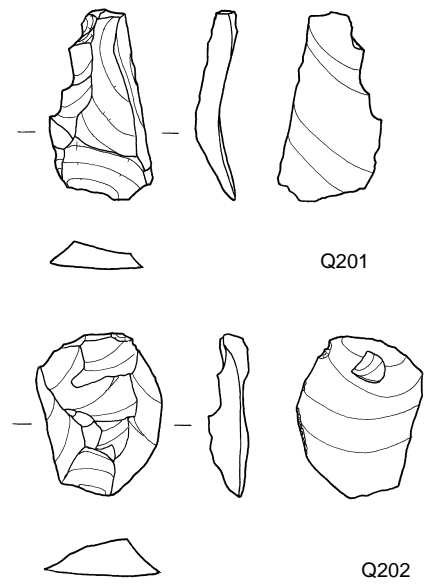
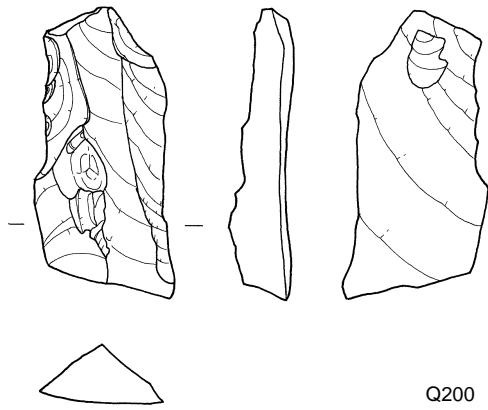
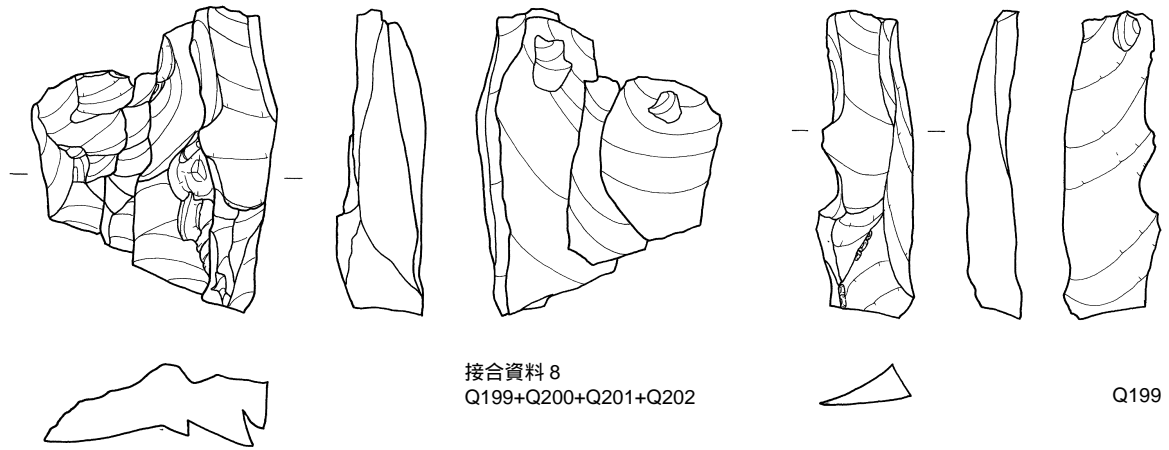
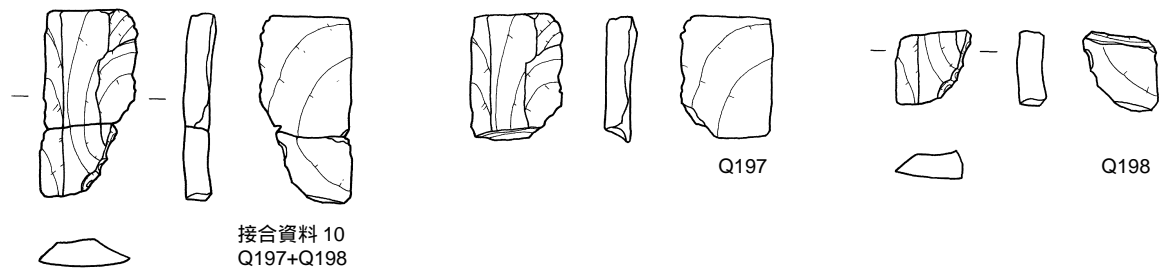
第15図 第3号石器集中地点実測図



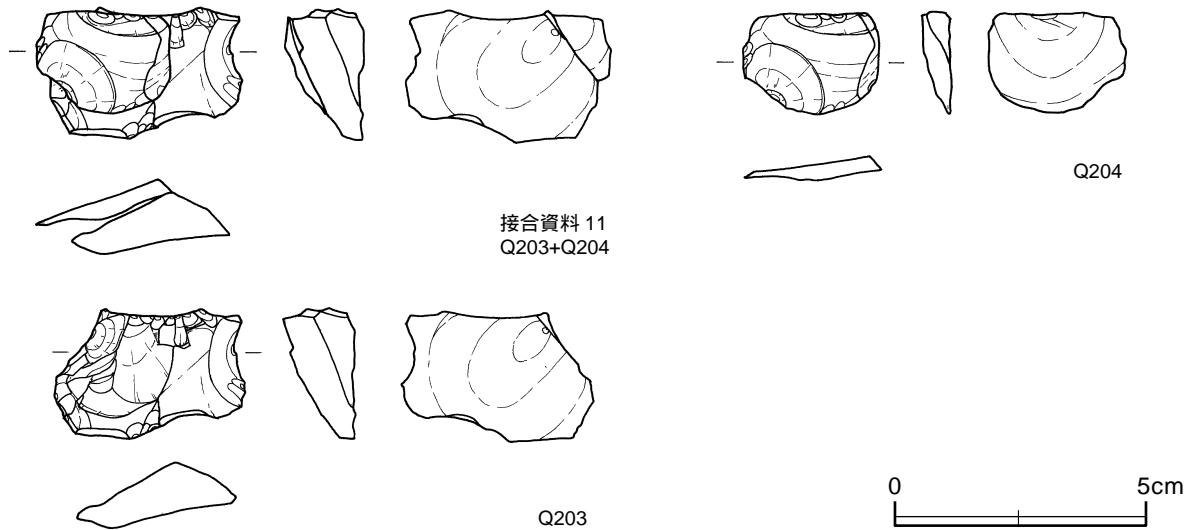
第16图 第3号石器集中地点出土遺物実測图(1)



第17图 第3号石器集中地点出土遺物実測図(2)



第18图 第3号石器集中地点出土遺物実測图(3)



第19図 第3号石器集中地点出土遺物実測図(4)

第3号石器集中地点出土遺物観察表(第16~19図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q186	石核	7.6	3.4	3.5	87.3	頁岩	上下の打点に打面調整を施した後、縦長剥片を全側面から剥離 Q205と接合	G 4 d9	接合資料5 PL42
Q187	ナイフ形石器	3.7	1.8	0.5	2.1	頁岩	縦長剥片を素材とし、一側縁ともう一方の側縁の下半部に調整を施す 先端部欠損	G 4 d9	PL42
Q188	ナイフ形石器	3.3	1.6	0.7	3.0	頁岩	縦長剥片を素材とし、一側縁に調整を施す 下部欠損	G 4 d9	PL42
Q189	ナイフ形石器	3.4	1.7	0.5	2.1	頁岩	縦長剥片を素材とし、一側縁ともう一方の基部に調整を施す 刃部は斜行している	G 4 d9	PL42
Q190	ナイフ形石器	1.8	1.2	0.9	1.1	頁岩	一側縁の上部に調整を施す 下部欠損	G 4 d9	
Q191	剥片	4.9	2.3	0.7	5.4	頁岩	縦長剥片 Q193と反対方向から剥離が行われる 打点に調整有り Q192・Q193と接合	G 4 d9	接合資料6 PL42
Q192	剥片	3.5	2.7	0.9	6.5	頁岩	横長剥片 打面調整後剥離が行われる Q191・Q193と接合	G 4 d9	接合資料6 PL42
Q193	剥片	8.0	3.6	2.6	35.6	頁岩	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕と自然面を残す 上部に打面調整の痕跡 Q191・Q192と接合	G 4 d9	接合資料6 PL42
Q194	剥片	3.7	3.2	0.4	3.7	頁岩		G 4 d9	接合資料7 PL42
Q195	剥片	4.2	3.4	0.9	6.9	頁岩	打面調整剥片 石核の上部で、多方向から剥離を繰り返している それぞれ打点には打面調整した痕跡有り Q194・Q195・Q196の3点接合	G 4 d9	接合資料7 PL42
Q196	剥片	3.4	4.2	0.6	7.2	頁岩		G 4 d9	接合資料7 PL42
Q197	石刃	2.4	1.9	0.6	1.1	頁岩	石刃 背面に2本の稜を持つ Q197には基部加工に似た二次加工痕有り Q197・Q198の2点接合	G 4 d9	接合資料10 PL42
Q198	石刃	1.4	1.6	0.6	2.3	頁岩		G 4 d9	接合資料10 PL42
Q199	剥片	6.1	2.0	1.1	7.8	頁岩	縦長剥片 剥離後、打点と反対側を腹面から折断 背面に前段階の剥離痕 Q200・Q201・Q202と接合	G 4 d9	接合資料8 PL42
Q200	剥片	5.7	2.8	1.3	14.4	頁岩	縦長剥片 剥離後、打点と反対側を腹面から折断 背面に前段階の剥離痕 Q199・Q201・Q202と接合	G 4 d9	接合資料8 PL42
Q201	剥片	3.8	2.1	0.8	3.0	頁岩	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕と一部自然面を残す Q199・Q200・Q202と接合	G 4 d9	接合資料8 PL42
Q202	剥片	3.2	2.5	0.8	4.7	頁岩	縦長剥片 背面に前段階の剥離痕を残す Q199・Q200・Q201と接合	G 4 d8	接合資料8 PL42
Q203	剥片	2.1	2.8	0.6	8.1	頁岩	横長剥片 打点には打面調整の痕跡 Q203・Q204の2点接合	G 4 d9	接合資料11 PL42
Q204	剥片	2.6	3.8	1.5	2.0	頁岩		G 4 d9	接合資料11 PL42
Q205	剥片	3.1	1.1	0.3	0.6	頁岩	石核の下部から剥離された縦長剥片 Q186と接合	G 4 d9	接合資料5 PL42
Q206	剥片	2.3	1.1	0.6	0.5	頁岩		G 4 d9	接合資料9
Q207	剥片	1.8	1.2	0.6	0.8	頁岩	縦長剥片 Q206・Q207の2点折れ面接合	G 4 d9	接合資料9
Q208	剥片	7.7	3.6	2.1	33.8	頁岩	縦長剥片 打点調整後剥離される 背面に多方向の剥離痕	G 4 d9	PL42

表4 第3号石器集中地点における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)	番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
1	Q187	ナイフ形石器	頁岩	G 4 d9	-2.39	1.30	28.191	4		剥片	頁岩	G 4 d9	-1.60	1.40	28.204
2		剥片	安山岩	G 4 d9	-0.36	2.41	28.539	5		剥片	頁岩	G 4 d9	-1.72	2.09	28.359
3	Q203	剥片	頁岩	G 4 d9	-1.31	1.58	28.282	6		剥片	頁岩	G 4 d9	-1.94	1.89	28.375

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
7		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.08	2.29	28.379
8		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.56	2.17	28.388
9	Q 188	ナイフ形石器	頁岩	G 4 d9	-2.92	2.36	28.388
10	Q 190	ナイフ形石器	頁岩	G 4 d9	-3.20	2.24	28.382
11		剥片	頁岩	G 4 d9	-3.75	1.95	28.498
12		剥片	頁岩	G 4 e9	-0.30	1.93	28.523
13		剥片	頁岩	G 4 e9	-0.26	1.75	28.521
14		剥片	安山岩	G 4 e9	-0.45	1.81	28.270
15		剥片	安山岩	G 4 e9	-1.03	1.32	28.456
16		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.76	1.32	28.513
17		剥片	頁岩	G 4 d9	-3.75	0.95	28.355
18	Q 191	剥片	頁岩	G 4 d9	-3.61	1.34	28.274
19	Q 207	剥片	頁岩	G 4 d9	-3.48	1.34	28.208
20		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.30	1.22	28.432
21		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.25	1.33	28.234
22		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.27	1.80	28.324
23	Q 199	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.88	1.72	28.486
24		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.94	1.51	28.259
25		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.91	1.39	28.501
26		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.76	1.38	28.304
27	Q 194	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.76	1.27	28.351
28		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.55	1.68	28.371
29		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.55	1.61	28.360
30		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.45	1.69	28.298
31	Q 195	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.45	1.51	28.229
32		剥片	自然石	G 4 d9	-2.32	1.53	28.202
33		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.55	1.27	28.465
34	Q 200	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.53	1.39	28.241
35	Q 186	石核	頁岩	G 4 d9	-2.35	1.21	28.274
36	Q 192	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.12	1.38	28.484
37	Q 208	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.18	1.56	28.306
38	Q 197	石刃	頁岩	G 4 d9	-2.35	0.96	28.360
39		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.55	1.00	28.305
40	Q 196	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.68	0.83	28.357
41		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.56	0.86	28.241
42	Q 201	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.43	0.74	28.167
43		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.39	0.64	28.238
44	Q 193	剥片	頁岩	G 4 d9	-1.88	0.75	28.291
45		剥片	安山岩	G 4 d9	-1.69	0.79	28.305
46	Q 206	剥片	頁岩	G 4 d9	-1.45	0.57	28.266
47		剥片	頁岩	G 4 d9	-1.41	0.24	28.249
48		剥片	頁岩	G 4 d9	-0.43	0.58	28.303
49		剥片	頁岩	G 4 d9	-2.10	0.28	28.314
50		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.21	0.29	28.406
51		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.25	0.40	28.408
52		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.37	0.42	28.454
53		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.62	0.59	28.318
54		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.78	0.69	28.414
55		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.86	1.04	28.401
56		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.99	0.76	28.450
57		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.22	0.84	28.437
58		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.37	1.03	28.375

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	X(m)	Y(m)	Z(m)
59		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.50	0.98	28.236
60		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.47	0.80	28.345
61		剥片	頁岩	G 4 d9	-3.51	0.32	28.458
62		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.20	0.57	28.371
63		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.04	0.59	28.307
64		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.08	0.50	28.300
65		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.01	0.47	28.392
66		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.90	0.55	28.395
67		剥片	チャート	G 4 d9	-2.79	0.68	28.411
68		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.99	0.32	28.376
69		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.59	0.22	28.341
70		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.55	0.27	28.313
71		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.49	0.05	28.327
72		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.43	3.88	28.340
73		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.59	3.94	28.398
74		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.97	4.11	28.384
75		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.85	3.92	28.321
76		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.65	3.69	28.374
77		剥片	頁岩	G 4 d8	-2.33	3.56	28.493
78		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.05	3.44	28.468
79		剥片	安山岩	G 4 d8	-1.32	2.96	28.264
80		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.78	2.75	28.361
81		剥片	安山岩	G 4 d8	-2.85	3.06	28.358
82		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.11	3.43	28.492
83		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.10	3.29	28.497
84		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.12	3.63	28.234
85		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.04	3.75	28.271
86		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.16	3.80	28.259
87	Q 202	剥片	頁岩	G 4 d8	-3.43	3.89	28.271
88		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.12	3.93	28.249
89		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.01	3.87	28.289
90		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.17	2.89	28.278
91		剥片	安山岩	G 4 d8	-3.10	2.68	28.494
92		剥片	頁岩	G 4 d8	-2.54	2.09	28.213
93		剥片	頁岩	G 4 d8	-1.91	1.58	28.288
94		剥片	黒曜石	G 4 d8	-1.95	1.36	28.455
95		剥片	安山岩	G 4 d9	-3.98	3.78	28.259
96		剥片	頁岩	G 4 e9	-2.36	2.84	28.496
97		剥片	安山岩	G 4 e9	-0.33	1.62	28.301
98		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.84	0.11	28.412
99		剥片	頁岩	G 4 d9	-1.92	1.98	28.229
100		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.78	1.70	28.244
102	Q 204	剥片	頁岩	G 4 d9	-2.52	1.35	28.326
103	Q 189	ナイフ形石器	頁岩	G 4 d9	-2.45	1.18	28.169
104	Q 205	剥片	頁岩	G 4 d9	-3.58	0.33	28.151
105		剥片	安山岩	G 4 e9	-1.06	1.29	28.320
106		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.97	0.51	28.279
107		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.86	1.42	28.451
108		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.92	0.35	28.177
109		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.42	1.34	28.261
110		剥片	安山岩	G 4 d9	-2.89	0.04	28.297
111	Q 198	石刃	頁岩	G 4 d9	-	-	-

(4) 調査区外出土旧石器

表採、試掘トレンチ、遺構の覆土中等、集中地点以外から確認された旧石器について一括して一覧表に記載する。

表5 旧石器調査区外における石器出土位置

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	出土位置
1		剥片	頁岩	G 5 c2	9.7	S165覆土中
2		剥片	頁岩	G 5 c2	4.7	S165覆土中
3		剥片	頁岩	G 5 c2	3.9	S165覆土中

番号	遺物番号	器種	材質	グリッド	重量(g)	出土位置
4		剥片	頁岩	G 5 c2	3.7	S165覆土中
5		剥片	頁岩	G 5 c2	4.7	S165覆土中

2 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代と考えられる住居跡を1軒確認した。また、平面形が長楕円形または隅丸長方形で深い掘り込みを有し、壁が直立気味に外傾する土坑13基を確認した。これらの土坑のうち11基は遺物がほとんど出土していないため時期判断が困難であるが、形状から縄文時代の陥し穴と判断した。以下、遺構の特徴について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第13号住居跡 (第20・21図)

位置 調査A区のK4h3区、標高28mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸4.45m、短軸3.64mの隅丸長方形で、主軸方向はN-79-Wである。壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

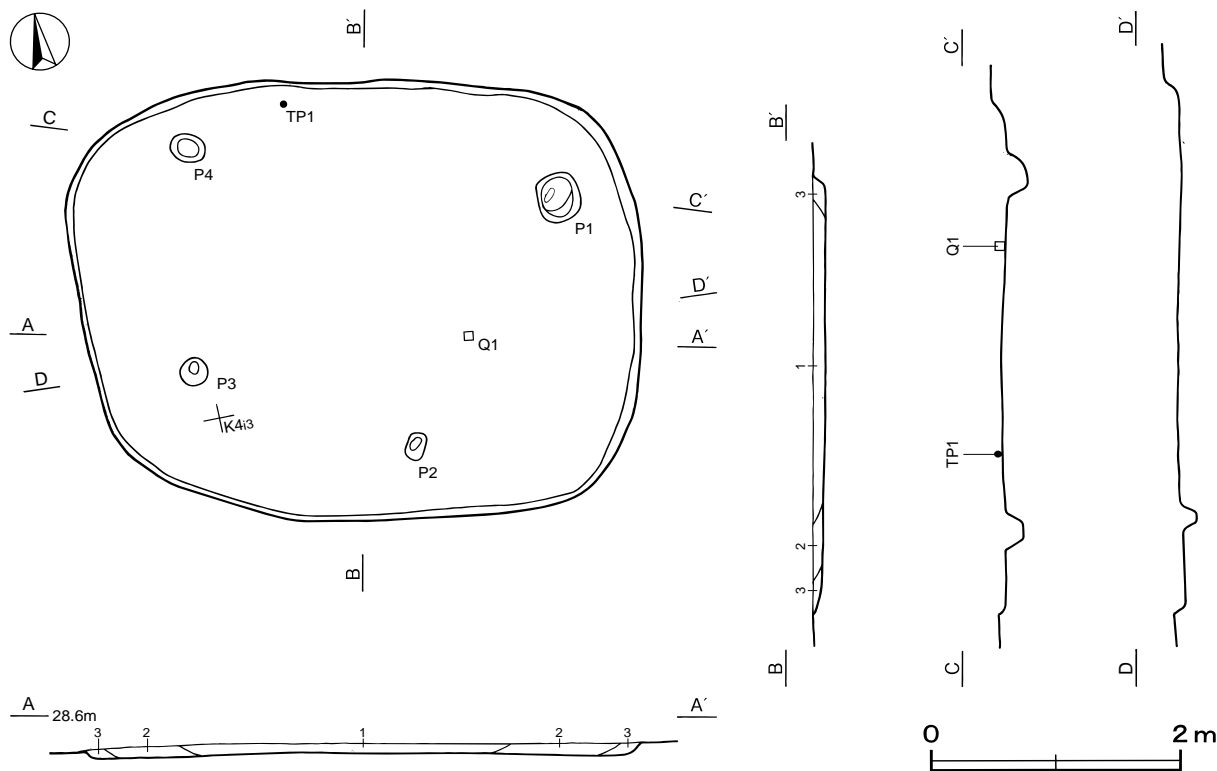
ピット 4か所。P1~P4は深さ10~15cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 3層からなる。ロームブロックを中量含んだ褐色を基調とした土層で、層厚は10cmほどの浅さのため、堆積状況は不明である。

土層解説

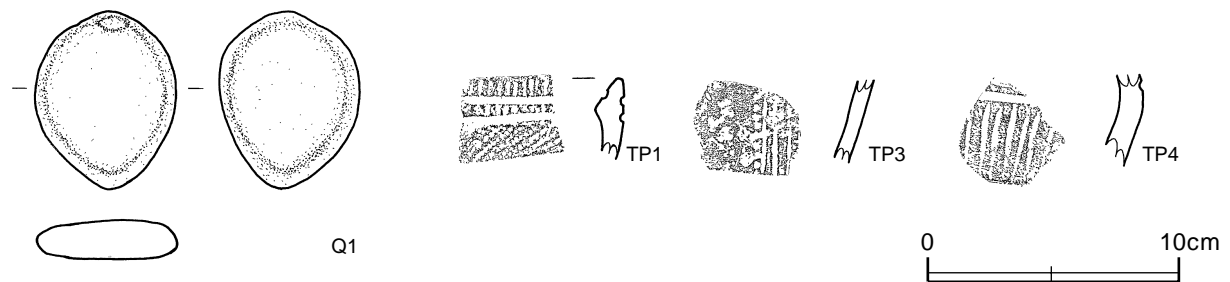
- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片17点(深鉢)のほか、石器1点(磨石)が出土している。TP1は北壁際、Q1は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP3・TP4は覆土中から出土している。



第20図 第13号住居跡実測図

所見 炉跡は確認できなかったが、形状及び柱穴の配置から住居跡とした。時期は、出土土器から中期前葉と考えられる。



第21図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第21図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口唇部直下短い沈線文と2条の横位の平行沈線・LRの単節縄文施文 内面稜有り	覆土下層	
TP3	縄文土器	深鉢	-	(3.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縦位の平行沈線とそれに沿う刺突文	覆土中	
TP4	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	縦位の沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石	7.0	5.6	1.5	87.1	安山岩	全面研磨痕 上端部敲打痕	覆土下層	PL44

(2) 陥し穴

第1号陥し穴 (第69号土坑) (第22図)

位置 調査A区のK 4 i4区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

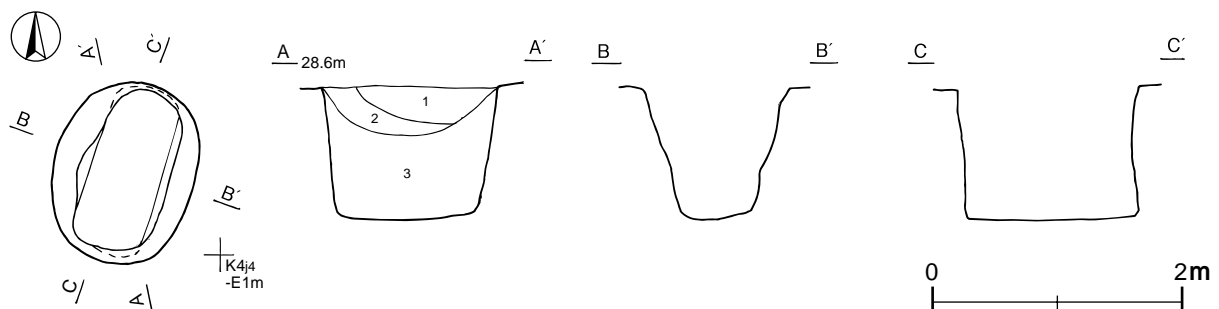
規模と形状 長径1.42m, 短径1.10mの楕円形で, 深さは104cmである。東壁と西壁は外傾して立ち上がり, 断面はU字状を呈し, 底面は平坦である。南壁と北壁はほぼ直立している。長径方向はN-20 - Eである。

覆土 3層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

所見 時期は, 規模や形状から縄文時代と考えられるが, 明確な時期判断は困難である。



第22図 第1号陥し穴実測図

第2号陥し穴（第95号土坑）（第23図）

位置 調査A区のK3j7区，台地から低地に下り始める標高28mほどの極緩やかな斜面上に位置している。

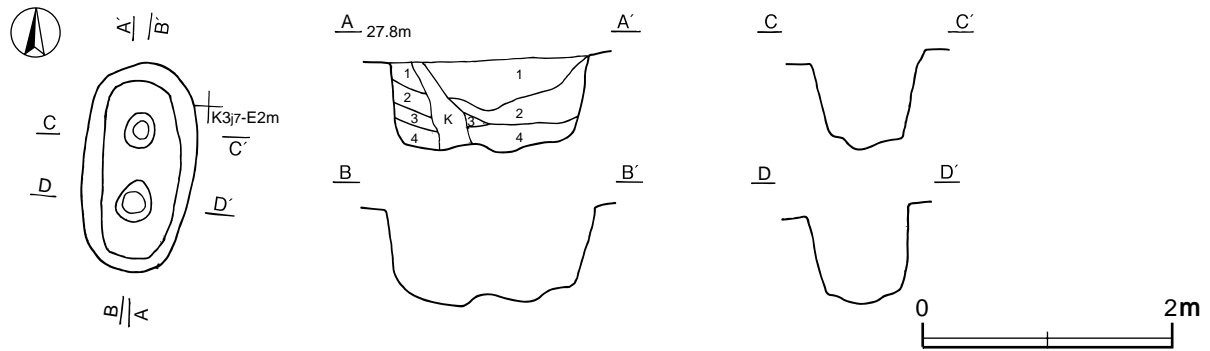
規模と形状 長径1.64m，短径0.88mの楕円形で，深さは73cmである。東壁と西壁は外傾して立ち上がり，断面はU字状を呈し，底面は平坦で，逆茂木の跡と想定されるくぼみが2か所確認された。南壁と北壁はほぼ直立している。長径方向はN-3-Eである。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ローム粒子微量 |

所見 時期は，規模や形状から縄文時代と考えられるが，明確な時期判断は困難である。



第23図 第2号陥し穴実測図

第3号陥し穴（第98号土坑）（第24図）

位置 調査A区のL3a7区，台地から低地に下り始める標高28mほどの極緩やかな斜面上に位置している。

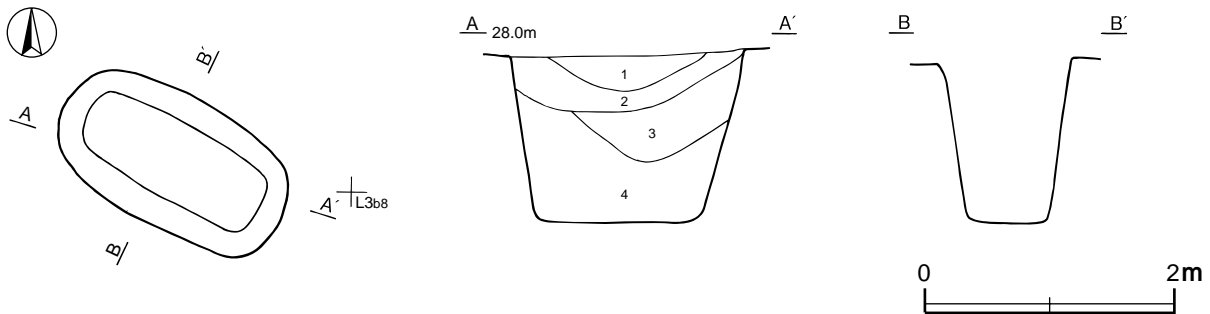
規模と形状 長径1.94m，短径1.07mの楕円形で，深さは129cmである。南壁と北壁は外傾して立ち上がり，断面はU字状を呈し，底面は平坦である。東壁と西壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-59-Wである。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子極微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |

所見 時期は，規模や形状から縄文時代と考えられるが，明確な時期判断は困難である。



第24図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴（第107号土坑）（第25図）

位置 調査A区のK4h1区，標高28mほどの台地の端部に位置している。

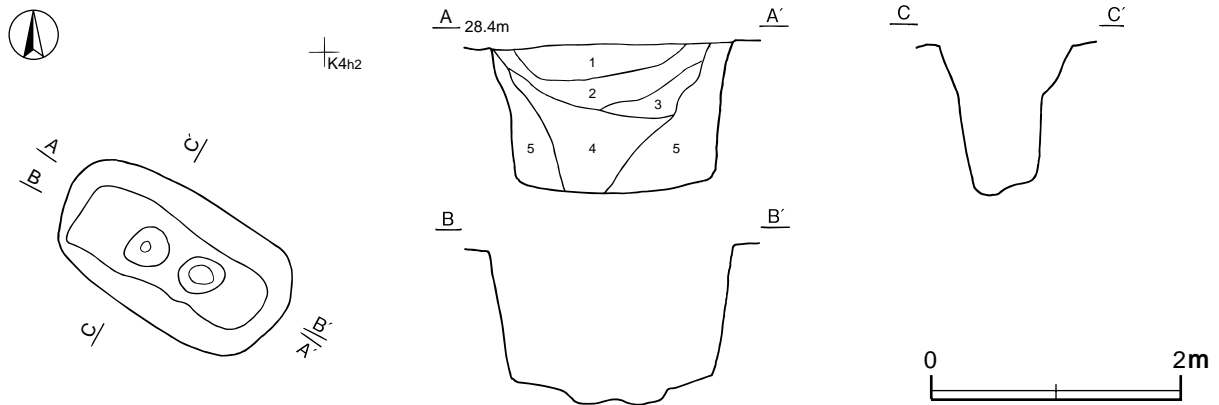
規模と形状 長軸1.95m，短軸1.06mの隅丸長方形で，深さは107cmである。南壁と北壁は中位から外傾して立ち上がり，断面はU字状を呈している。底面は平坦で，逆茂木の跡と想定されるくぼみが2か所確認された。東壁と西壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-57-Wである。

覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

所見 時期は，規模や形状から縄文時代と考えられるが，明確な時期判断は困難である。



第25図 第4号陥し穴実測図

第5号陥し穴（第114号土坑）（第26図）

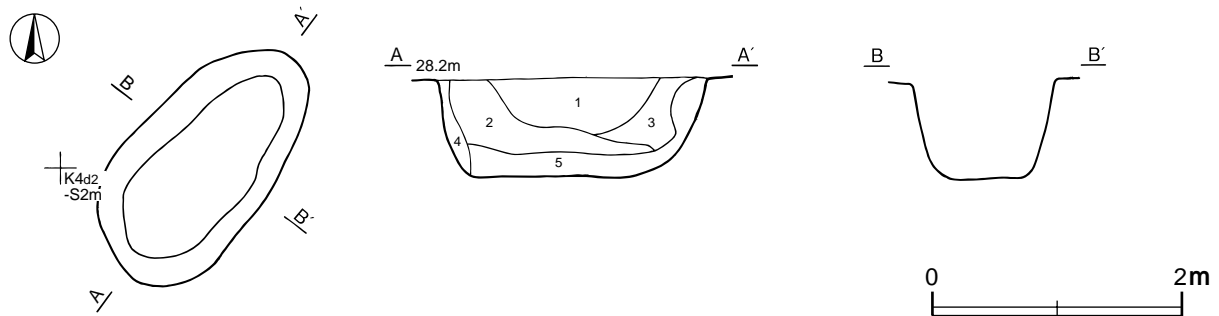
位置 調査A区のK4d2区，標高28mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 長径2.13m，短径1.15mの楕円形で，深さは75cmである。東壁と西壁は外傾して立ち上がり，断面はU字状を呈し，底面は平坦である。南壁と北壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-38-Eである。

覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | |



第26図 第5号陥し穴実測図

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

第6号陥し穴（第138号土坑）（第27図）

位置 調査B区のI 4 f8区、標高28mほどの台地の端部に位置している。

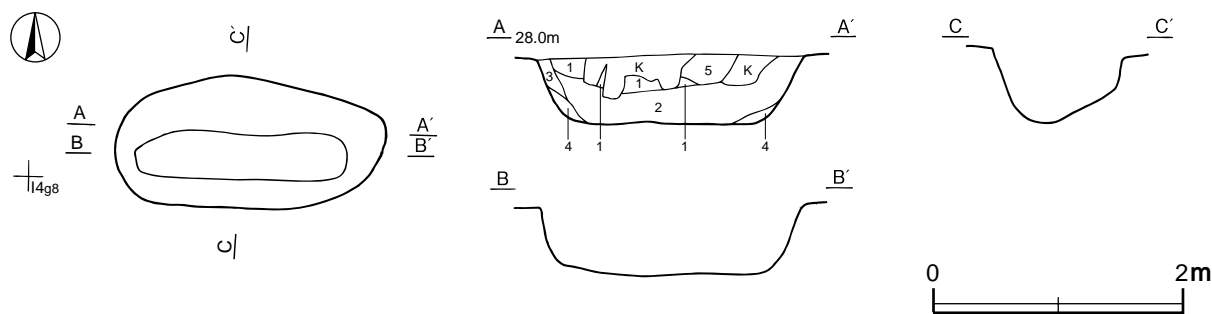
規模と形状 長径2.15m、短径1.02mの楕円形で、深さは54cmである。南壁と北壁は外傾して立ち上がり、断面はU字状を呈し、底面は平坦である。東壁と西壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-90°-Eである。

覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量（粘性弱い）	4	褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量，炭化物微量	5	黒色	ローム粒子少量，炭化物微量
3	褐色	ローム粒子少量，炭化粒子微量			

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



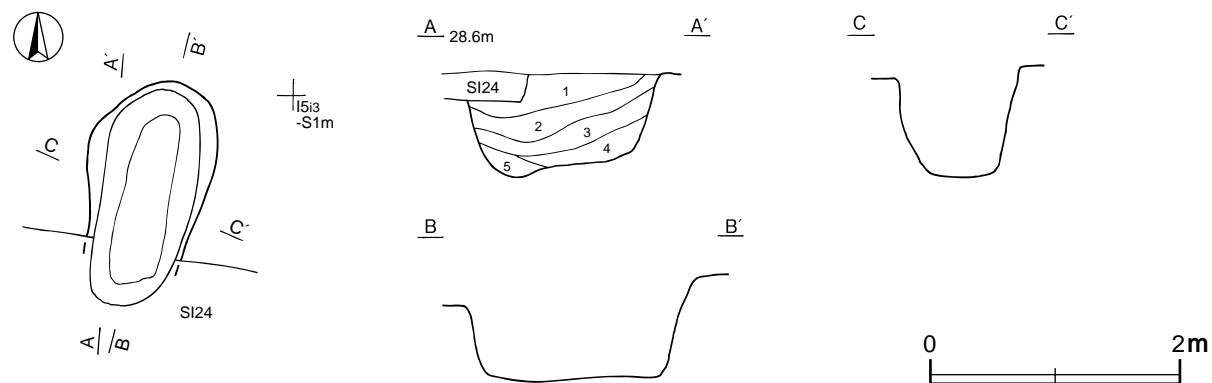
第27図 第6号陥し穴実測図

第7号陥し穴（第182号土坑）（第28図）

位置 調査A区のI 5 i2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.80m、短径1.00mの楕円形で、深さは82cmである。東壁と西壁は外傾して立ち上がり、断面はU字状を呈し、底面は平坦である。南壁と北壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-13°-Eである。



第28図 第7号陥し穴実測図

覆土 5層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 (縮まり強い) |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

第8号陥し穴 (第53号土坑) (第29図)

位置 調査A区のK 3 j0区、標高28mほどの台地の端部に位置している。

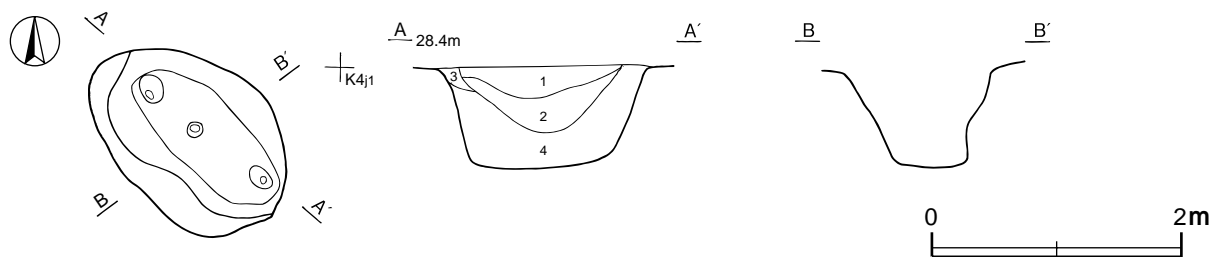
規模と形状 長径1.80m、短径1.20mの楕円形で、深さは78cmである。南壁と北壁は外傾して立ち上がり、断面はU字状を呈している。底面は平坦で、逆茂木の跡と想定されるくぼみが3か所確認された。東壁と西壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-50-Wである。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第29図 第8号陥し穴実測図

第9号陥し穴 (第30図)

位置 調査E区のK 7 d2区、標高28mほどの平坦部に位置している。

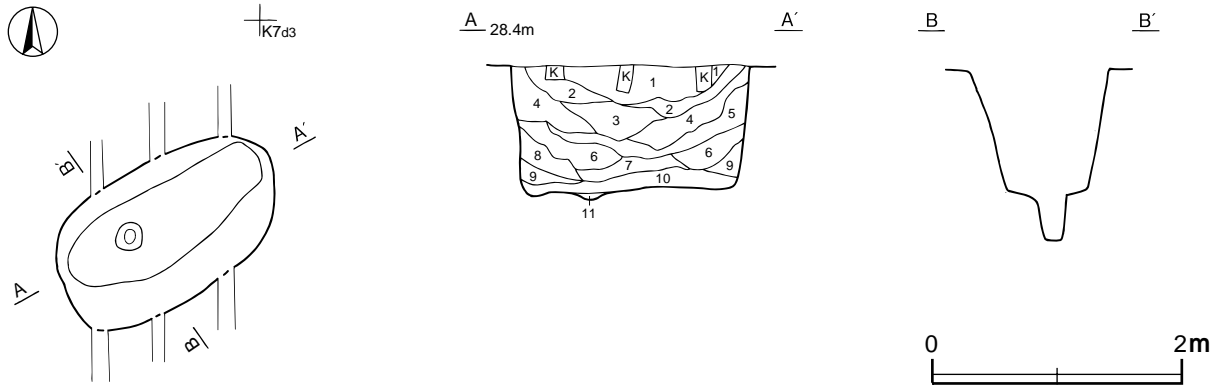
規模と形状 長径1.91m、短径1.09mの楕円形で、長径方向はN-60-Eである。深さは135cmで、東壁と西壁は直立し、断面形は逆台形状を呈している。底面は狭くなっており、逆茂木の跡と想定されるくぼみが1か所確認された。南壁と北壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 11層からなる。周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|--------|-----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子, 焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 黄褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

所見 遺構の東側に北東に延びる深い谷津があり、その谷津に沿った緩やかな斜面部に配されていたと考えられる。時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第30図 第9号陥し穴実測図

第10号陥し穴 (第31図)

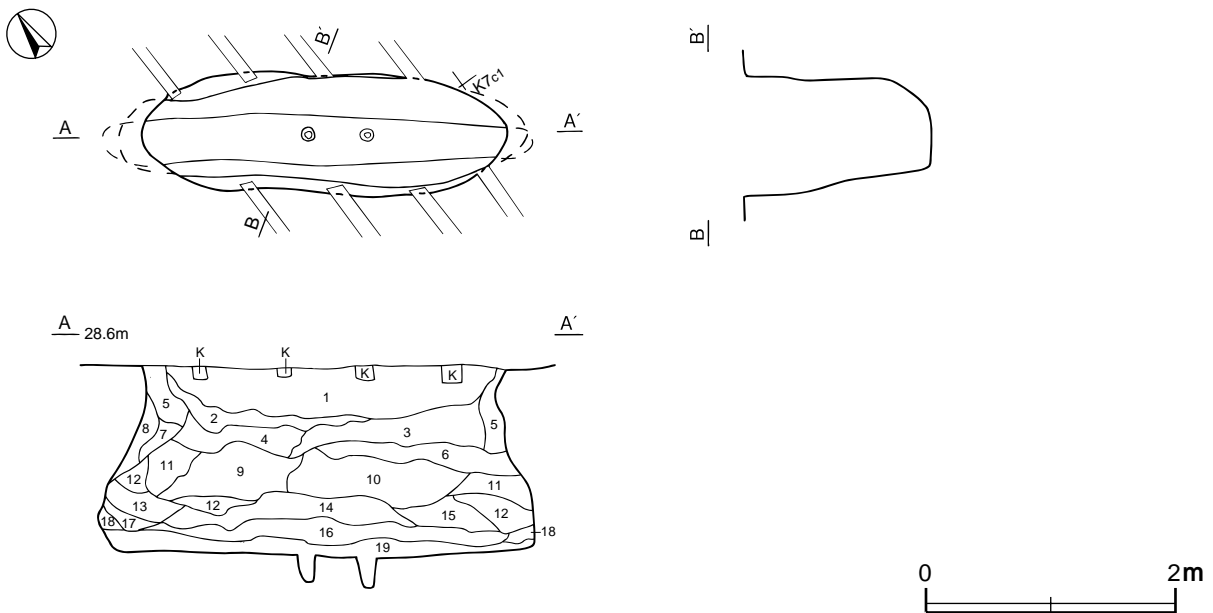
位置 調査E区のK 6 b0区, 標高28mほどの平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.90m, 短径0.92mの楕円形で, 長径方向はN-55 -Wである。深さは148cmで, 東壁と西壁は直立し, 断面形はU字状を呈している。底面は平坦で, 逆茂木の跡と想定されるくぼみが2か所確認された。南壁と北壁は内傾して立ち上がっている。

覆土 19層からなる。第9~19層まではブロック状の堆積状況を示しているため人為的に埋め戻され, 第1~8層までは, 周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-----------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 褐色 | ローム粒子多量, 鹿沼パミス微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量 | 16 極暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック少量 | 17 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス少量 |
| 9 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス・白色粒子微量 | 18 褐色 | ロームブロック多量 |
| | | 19 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス微量 |



第31図 第10号陥し穴実測図

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。

第11号陥し穴（第32図）

位置 調査E区のK 6 d0区、標高28mほどの平坦部に位置している。

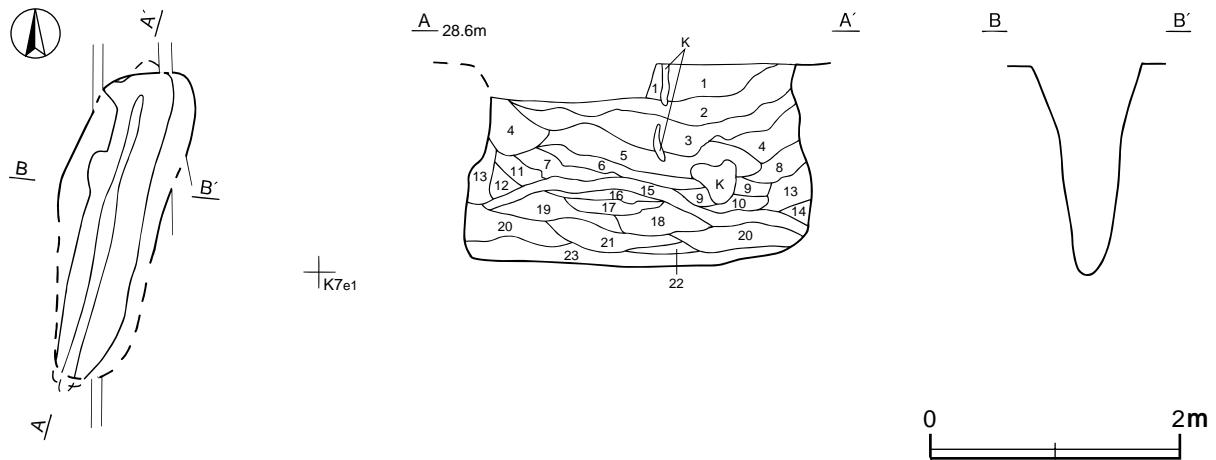
規模と形状 長径2.54m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-15 - Eである。深さは167cmで、東壁と西壁は外傾し、断面形はV字状を呈している。南壁と北壁は内傾して立ち上がっている。

覆土 23層からなる。第15～23層はブロック状の堆積状況を示しているため人為的に埋め戻されたと考えられるが、第1～14層までは周囲からの土砂の流入を示す堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	褐色	ロームブロック多量、鹿沼パミス中量
2	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	12	褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量
3	暗褐色	ロームブロック・黒色粒子少量、焼土粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
5	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量、鹿沼パミス微量
6	暗褐色	ロームブロック少量、黒色粒子・鹿沼パミス微量	16	にぶい黄褐色	ロームブロック多量、鹿沼パミス微量
7	褐色	ロームブロック少量、黒色粒子・鹿沼パミス微量	17	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
8	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス微量	18	橙褐色	鹿沼パミス多量、ローム粒子微量
9	褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量	19	褐色	ロームブロック多量、鹿沼パミス少量
10	にぶい黄褐色	鹿沼パミス中量、ロームブロック少量	20	にぶい黄褐色	ロームブロック多量、鹿沼パミス少量
			21	褐色	ロームブロック・鹿沼パミス中量
			22	黒褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
			23	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼パミス少量

所見 時期は、規模や形状から縄文時代と考えられるが、明確な時期判断は困難である。



第32図 第11号陥し穴実測図

表6 陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考(時代,新旧関係)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	K 4 i4	N - 20° - E	楕円形	1.42 × 1.10	104	U字状	平坦	自然	-	旧SK69, 縄文時代
2	K 3 j7	N - 3° - E	楕円形	1.64 × 0.88	73	U字状	平坦	自然	-	旧SK95, 縄文時代
3	L 3 a7	N - 59° - W	楕円形	1.94 × 1.07	129	U字状	平坦	自然	-	旧SK98, 縄文時代
4	K 4 h1	N - 57° - W	隅丸長方形	1.95 × 1.06	107	U字状	平坦	自然	-	旧SK107, 縄文時代
5	K 4 d2	N - 38° - E	楕円形	2.13 × 1.15	75	U字状	平坦	自然	-	旧SK114, 縄文時代

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (時代, 新旧関係)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
6	I 4 f8	N - 90° - E	楕円形	2.15 × 1.02	54	U字状	平坦	自然	-	旧SK138, 縄文時代
7	I 5 i2	N - 13° - E	楕円形	1.80 × 1.00	82	U字状	平坦	自然	-	旧SK182, 縄文時代, 本跡 SI24
8	K 3 j0	N - 50° - W	楕円形	1.80 × 1.20	78	U字状	平坦	自然	-	旧SK53, 縄文時代
9	K 7 d2	N - 60° - E	楕円形	1.91 × 1.09	135	逆台形状	凹凸	自然	-	縄文時代
10	K 6 b0	N - 55° - W	楕円形	2.90 × 0.92	148	U字状	平坦	自然	-	縄文時代
11	K 6 d0	N - 15° - E	楕円形	[2.54] × 0.86	167	V字状	U字状	自然	-	縄文時代

(3) 土坑

第289号土坑 (第33図)

位置 調査E区のJ 6 i6区, 標高28mほどの平坦部に位置している。

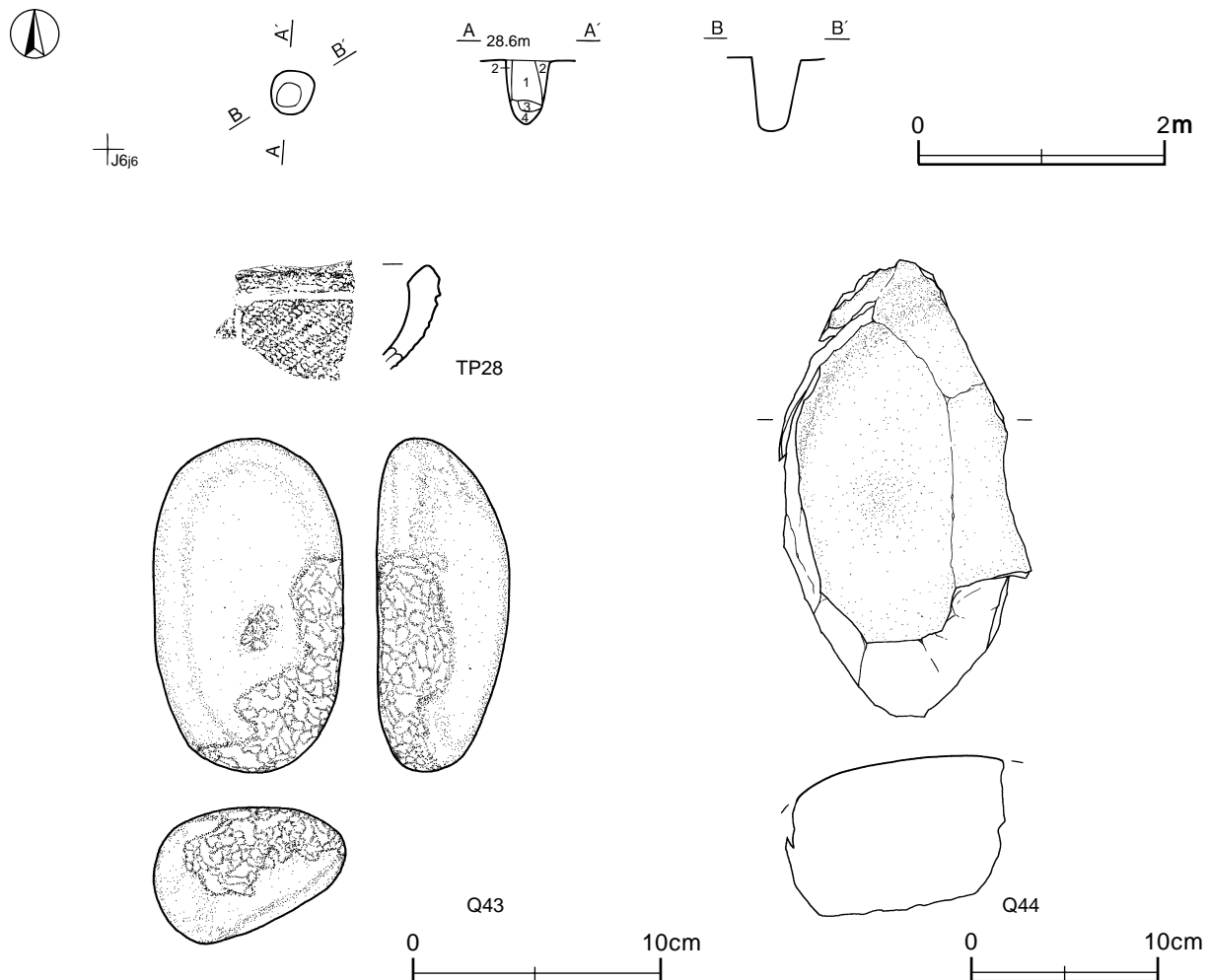
規模と形状 径0.4mの円形で, 深さは60cmである。底面は平坦で, 壁はほぼ直立している。

覆土 4層からなる。ブロック状の堆積状況を示していることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量



第33図 第289号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片6点、石器9点（敲石1，台石8）が覆土の第1～3層にかけて出土している。また、覆土下層から粘土塊が出土している。TP28は、第1層から出土している。

所見 南東2.5mには同規模の第290号土坑があり、竪穴住居跡の柱穴の可能性を考えて周辺を精査したが検出できなかった。時期は、出土土器から中期以前と考えられる。

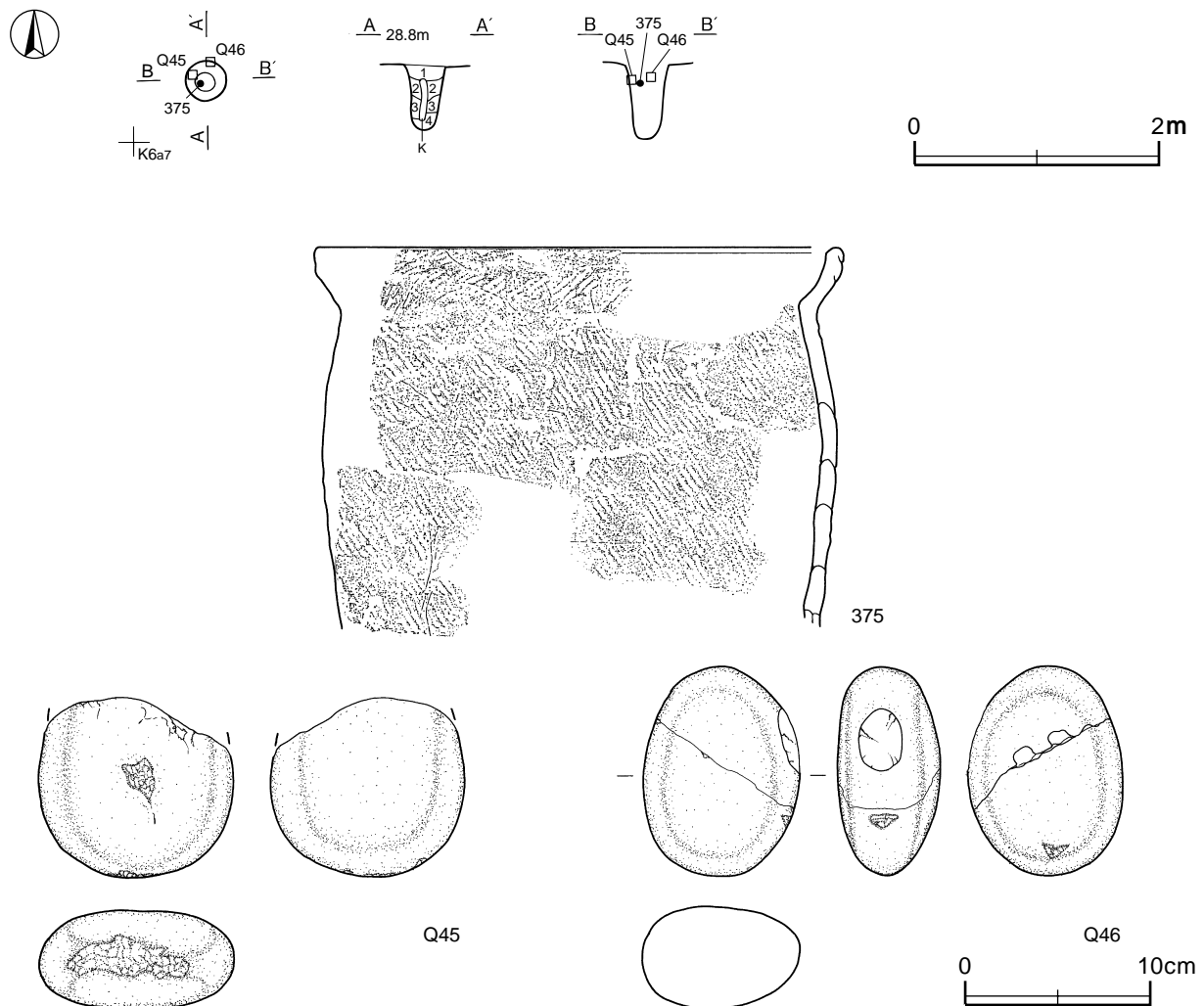
第289号土坑出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP28	縄文	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	沈線区画内にL Rの単節縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q43	敲石	13.5	7.6	5.4	744.0	砂岩	敲打痕1か所	覆土上層	PL44
Q44	台石	(24.2)	(13.2)	(7.7)	(30300)	砂岩	表面磨耗によりわずかにくぼむ	覆土上層	

第290号土坑（第34図）

位置 調査E区のJ 6 j7区、標高28mほどの平坦部に位置している。



第34図 第290号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 径0.3mの円形で、深さは61cmである。底面は皿状で、壁はほぼ直立している。

覆土 4層からなる。周囲からの土砂が流入し、レンズ状の堆積状況であることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片27点, 石器4点(磨石)が出土した。土器は第1・2層に多く出土しており, 何らかの目的で投棄されたと思われる。375は深鉢で, 覆土上層から出土している。

所見 第289号土坑と規模, 形状が似ており, 北西2.5mの位置にあり, 堅穴住居跡の柱穴を想定して精査したが, 検出することができなかった。時期は, 出土土器から中期以前と考えられる。

第290号土坑出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
375	縄文土器	深鉢	[28.0]	(20.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	地文はLRの単節縄文	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	磨石	(9.7)	10.5	5.3	(803.0)	砂岩	使用面2面 表面・側面に敲打痕	覆土上層	PL44
Q46	磨石	11.3	8.4	5.4	675.0	砂岩	使用面2面 側面に敲打痕	覆土上層	PL44

表7 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
289	J 6 i6	N-65°-E	楕円形	0.40×0.34	60	直立	平坦	人為	縄文土器, 敲石, 台石	
290	J 6 j7	N-0°	円形	0.35×0.32	61	直立	皿状	自然	縄文土器, 磨石	

3 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代前期から中期の堅穴住居跡14軒を確認した。以下, 遺構の特徴と遺物について記述する。

第22号住居跡 (第35図)

位置 調査B区のI 4g7区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 耕作による攪乱が床面まで及んでいる。長軸4.42m, 短軸4.30mの方形で, 主軸方向はN-38°-Eである。壁高は28~36cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 全体的に軟弱である。貼床は全体的に10cmほど掘り込み, ロームに黒褐色土を含んだ埋土で構築している。

炉 中央部から北コーナー寄りに位置している。長径60cm, 短径55cmの円形である。掘り込みを伴わない地床炉で, 炉床は凹凸がみられ, 火熱を受けてわずかに赤変硬化している。

ピット 深さは8cmで, 南西壁際の中央に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

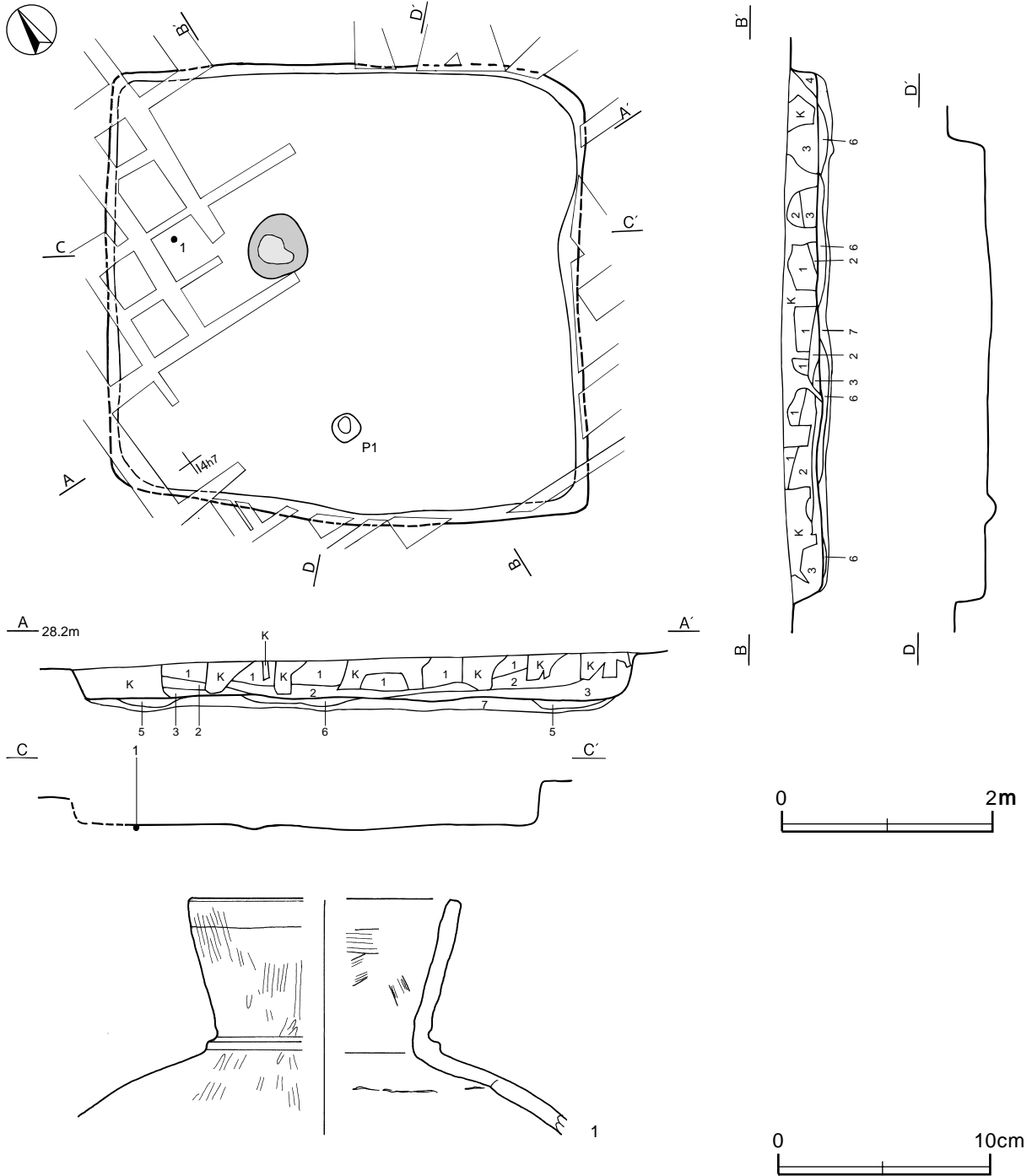
覆土 4層からなる。全体的に周囲から土砂が流入した状況を示しており, 自然堆積と考えられる。第5~7層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒色	ローム粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量
2 黒色	ローム粒子少量	6 褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	ロームブロック微量	7 明褐色	ロームブロック多量
4 褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片15点（壺1，甕14）が出土している。1は北西壁寄りの床面から逆位で出土している。

所見 時期は，遺物が少ないため明確ではないが，出土土器から4世紀前半と考えられる。



第35図 第22号住居跡・出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	壺	[12.4]	(11.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	□縁部内・外面横ナデ 頸部から体部外面ハケ 目調整痕 内面ハケ目調整後ナデ 輪積痕	床面	10%

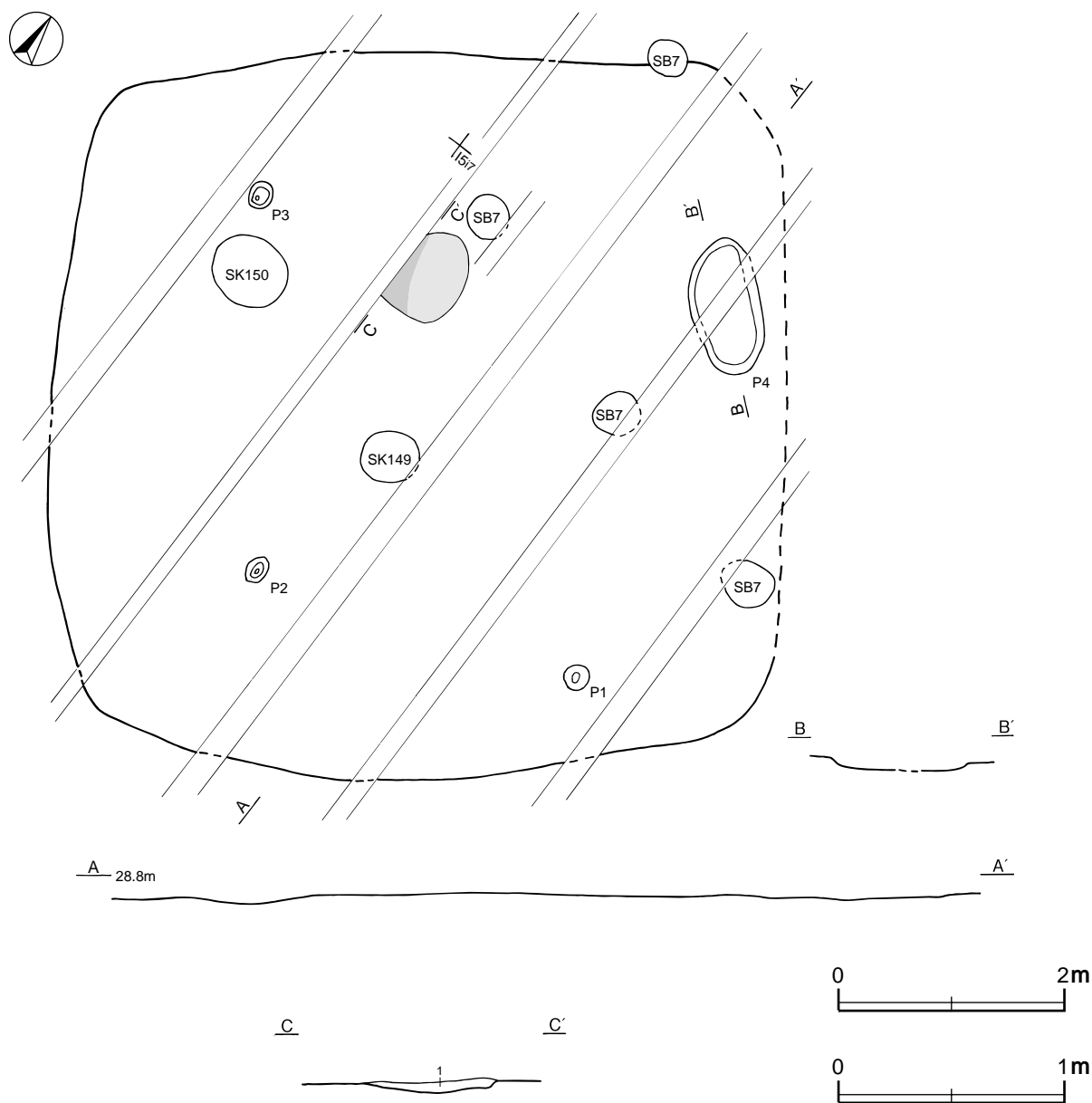
第28号住居跡 (第36図)

位置 調査B区のI 5 i7区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第149・150号土坑と第7号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 耕作による攪乱のため, 床面が露出した状態で確認された。黒褐色を呈した床面の広がりから, 長軸6.5m, 短軸6.4mほどの方形と推測される。主軸方向はN-31-Wである。

床 ほぼ平坦である。全体的に軟質で, 硬化面は確認できなかった。



第36図 第28号住居跡実測図

炉 中央部よりやや北西壁寄りに位置している。長径83cm、推定短径70cmほどの楕円形で、掘り込みの極めて浅い地床炉である。炉床は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。

ピット 4か所。P 1・P 2は深さ69cm・50cmで、支柱穴と考えられる。P 3・P 4は深さ12cm・10cmで、性格は不明である。

炉土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量

所見 本跡に伴う遺物は出土していないが、4世紀後半から5世紀初頭の他の住居跡と主軸方向や規模がほぼ一致することから、ほぼ同じ時期と推定される。

第30号住居跡（第37・38図）

位置 調査B区のI 6 d1区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸7.18m、短軸7.09mの方形で、主軸方向はN-36-Wである。壁高は22~29cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部から北西壁際及び南東壁際が踏み固められている。

炉 径70cmの円形で、掘り込みの極めて浅い地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗 褐 色 焼土ブロック少量

3 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ71~94cmで、支柱穴と考えられる。P 5は深さ44cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

3 明 褐 色 ローム粒子中量

2 褐 色 ロームブロック少量、炭化物・鹿沼パミス微量

4 褐 色 ロームブロック少量

貯蔵穴 南コーナーに位置し、長軸133cm、短軸119cmの隅丸長方形で、深さは20cmである。底面は平坦で、壁は外傾し立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 褐 色 ロームブロック少量

2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

覆土 6層からなる。全体的に周囲から土砂が流入した様相を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子微量

4 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 黒 褐 色 ロームブロック少量

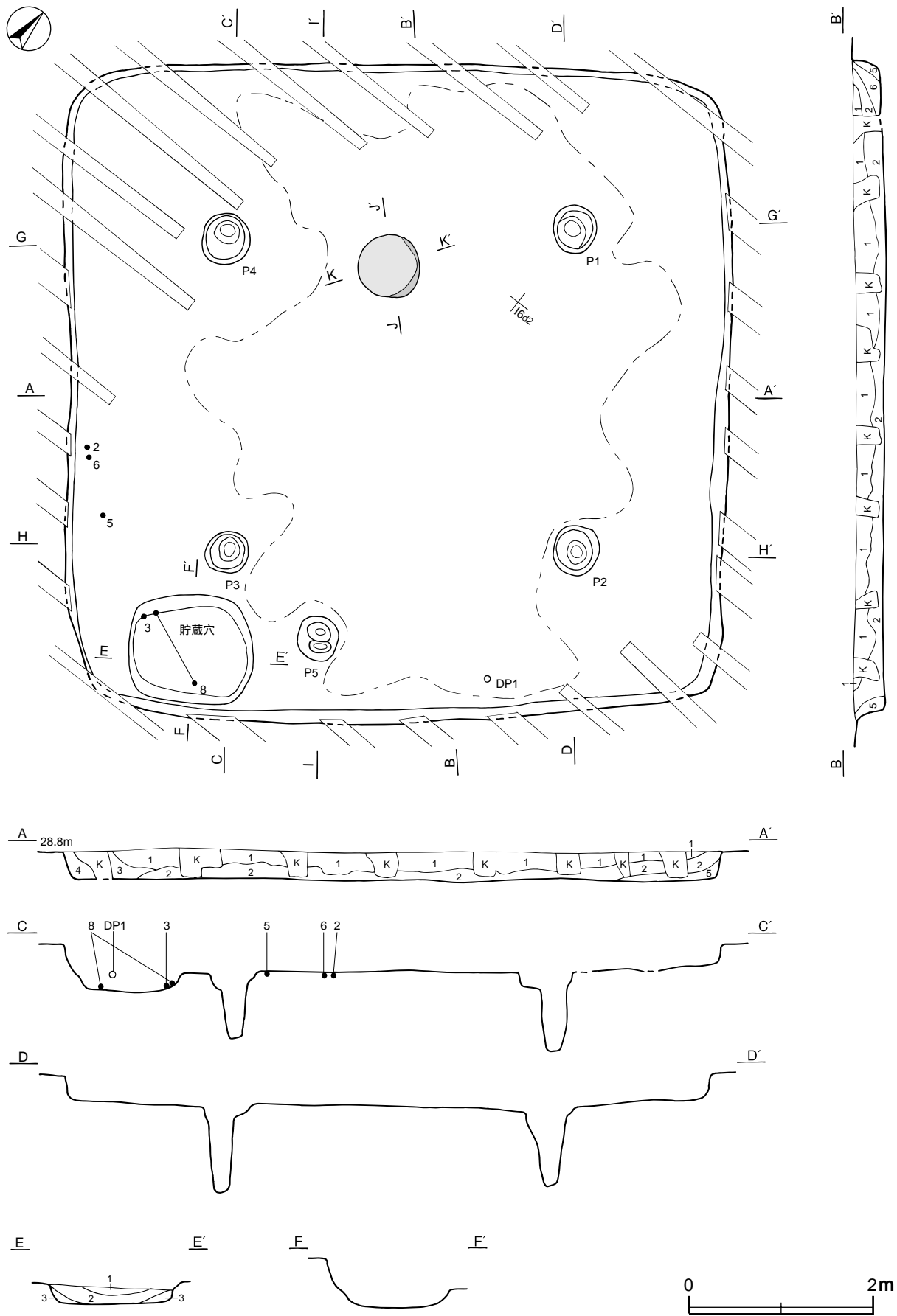
5 暗 褐 色 ロームブロック少量

3 極暗褐 色 ローム粒子少量

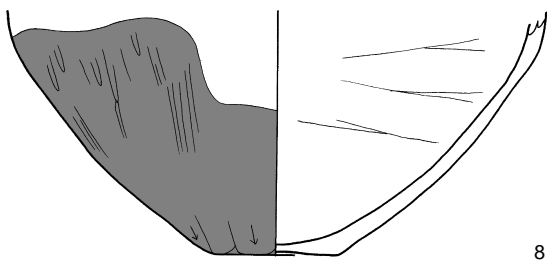
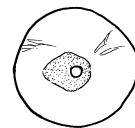
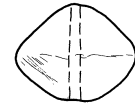
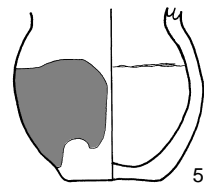
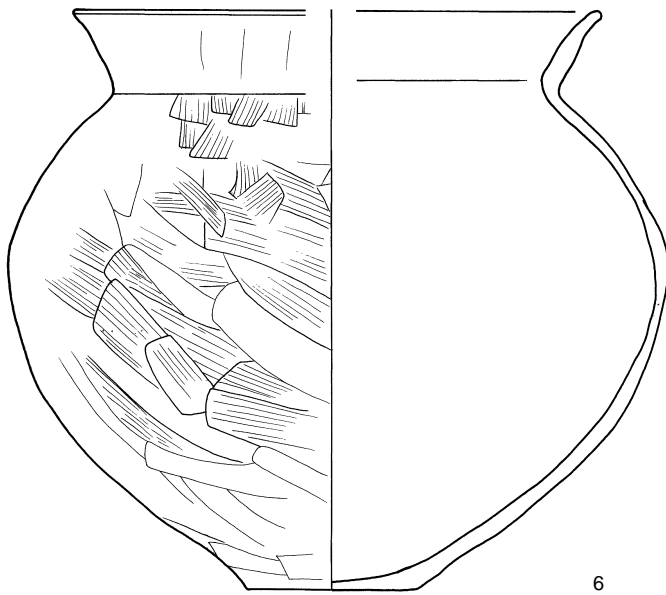
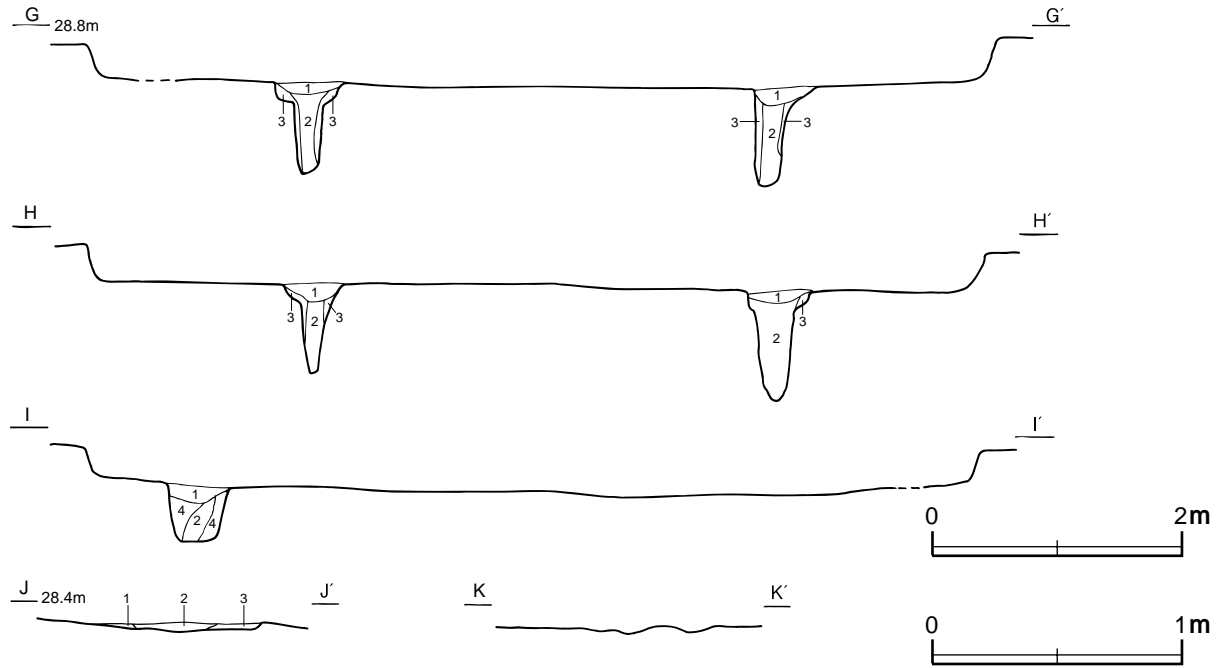
6 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片273点（坏7、椀1、埴39、甕224、ミニチュア2）、土製品1点（紡錘車）が出土している。南西壁際の床面から5が横位で、6が斜位で出土し、さらに2が出土している。DP 1は南東壁際の床面から正位で出土している。8は貯蔵穴の底面から出土した破片が接合したものである。3は貯蔵穴の底面と覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から4世紀後半から5世紀初頭と考えられる。



第37图 第30号住居跡実測图



第38图 第30号住居跡・出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
2	土師器	椀	-	(4.7)	2.9	長石・石英・赤色 長石粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	床面	40%
3	土師器	甕	-	(4.8)	5.2	長石・石英・赤色 長石粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 体部内面ヘラナデ	貯蔵穴	10%
4	土師器	埴	[11.4]	(4.6)	-	長石・雲母・赤色 長石粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面横ナデ 口縁部外面ハケ目調整後ナデ	覆土中	10%
5	土師器	ミニチュア	-	(6.8)	3.9	長石・石英・雲母	褐	普通	内・外面ナデ 内面輪積痕	床面	80% 外面煤付着
6	土師器	甕	[20.7]	23.0	6.7	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部内面横ナデ 口縁部・体部外面ハケ目調整 体部外面下位ヘラ削り	床面	50% PL37
7	土師器	甕	[14.8]	(3.2)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ ハケ目調整	覆土中	10%
8	土師器	甕	-	(9.7)	5.0	長石・石英・赤色 長石粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 下端ヘラ削り後ナデ	貯蔵穴 覆土中	20% 外面煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 1	紡錘車	4.9	3.8	0.4	(70.3)	粘土	ナデ 中央部片側からの穿孔	床面	PL43

第34号住居跡（第39図）

位置 調査B区のI 6g7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺5.80mの方形で、主軸方向はN-41-Wである。壁高は18~26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、西コーナー部から炉の周辺と貯蔵穴の周りを除いて踏み固められている。

炉 長径85cm、短径75cmの楕円形で、床面を10cmほど掘り込んだ地床炉である。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 黒色 焼土粒子・ローム粒子少量 | 3 黒色 ロームブロック・焼土粒子少量 |
| 2 黒色 焼土ブロック少量 | |

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ64~74cmで、規模や配置から支柱穴と考えられる。P 5・P 6は深さ44cm・22cmで、支柱穴の内側に位置することから、支柱穴の可能性も想定されるが性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径90cm、短径56cmの楕円形で、深さは32cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | |

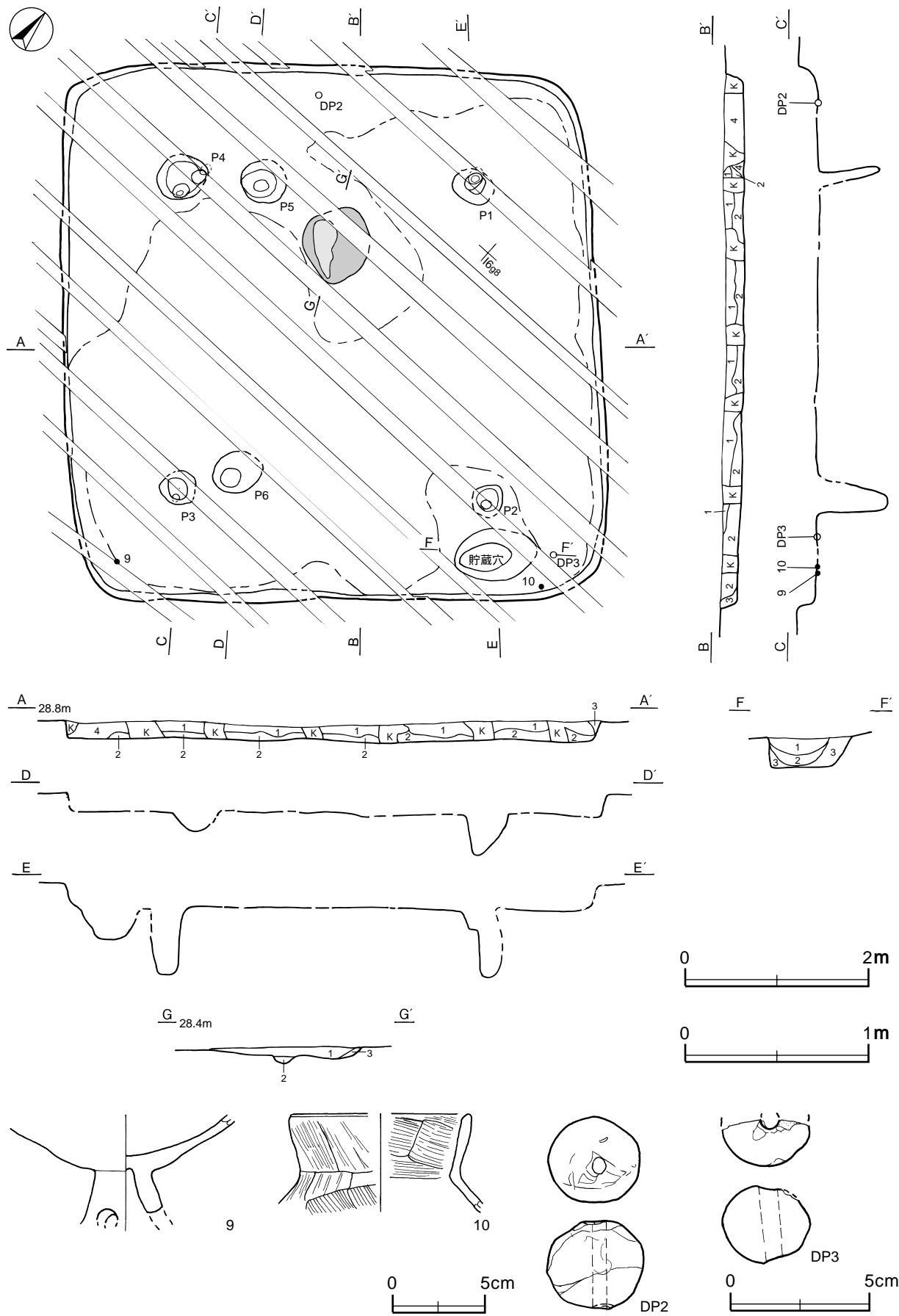
覆土 4層からなる。全体的に周囲から土砂の流入を示す堆積状況が確認されることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 3 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片135点（坏2，高坏4，埴3，甕126），土製品3点（球状土錘）が出土している。9は南コーナー部、10・DP 3は東コーナー部、DP 2は北西壁際のいずれも床面から出土している。なお、南コーナー部の床面からは甕を中心として土師器の破片が多く出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀後半と考えられる。



第39図 第34号住居跡・出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
9	土師器	器台	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	磨耗により調整不明 脚部孔3か所	床面	20%
10	土師器	壺	[9.6]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面及び体部外面ハゲ目調整	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 2	球状土錘	3.3	3.2	0.5	30.5	粘土	ナデ 中央部片側からの穿孔	床面	PL43
DP 3	球状土錘	[3.1]	2.7	[0.6]	(10.6)	粘土	ナデ 中央部片側からの穿孔	床面	

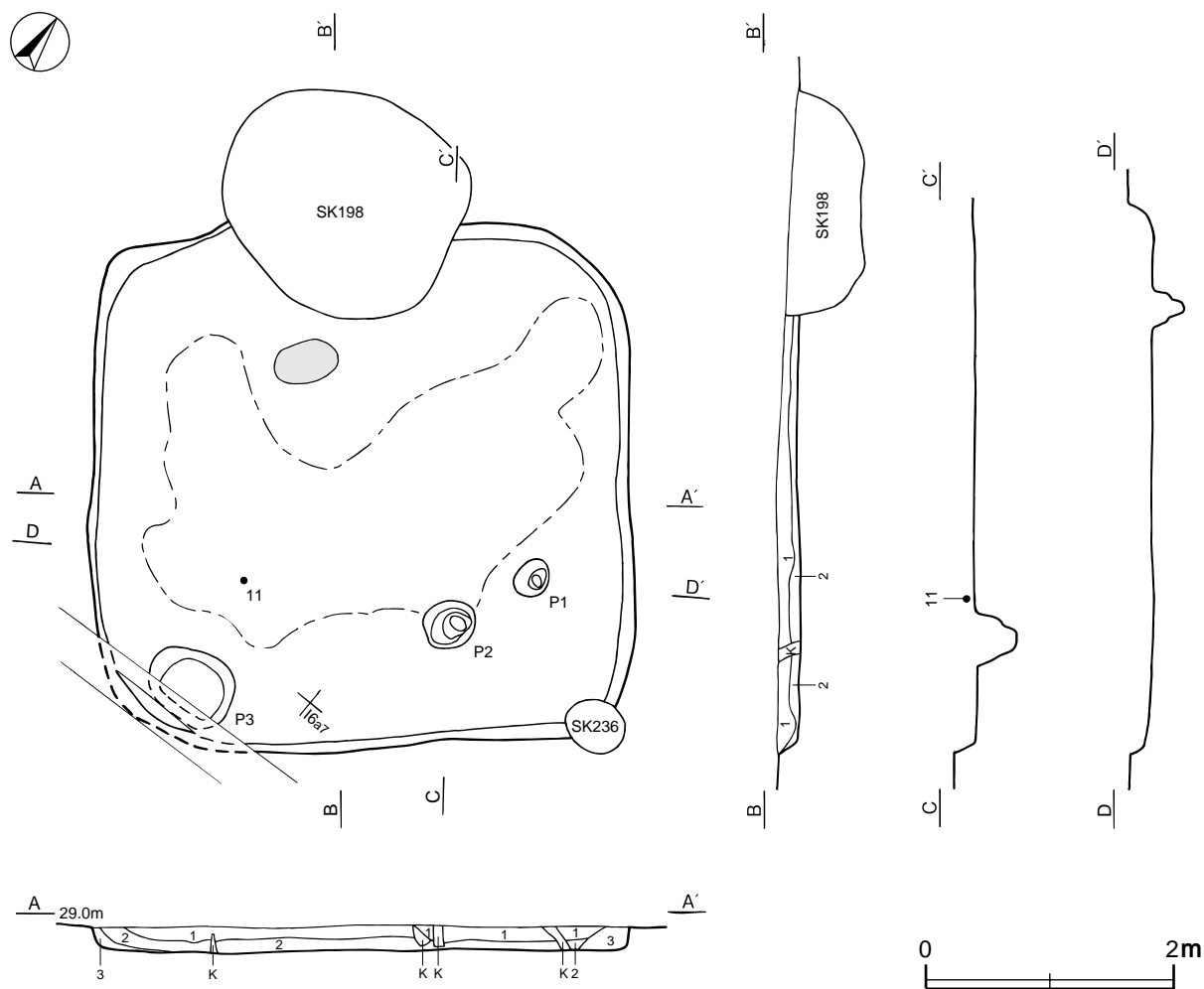
第37号住居跡 (第40・41図)

位置 調査B区のH 6 j6区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第198・236号土抗に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.33m, 短軸4.13mの隅丸方形で, 主軸方向はN-39°-Wである。壁高は15~20cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。中央部の北西壁寄りに焼土の散らばりが見られた。



第40図 第37号住居跡実測図

ピット 3か所。P1・P2は深さは25cm・29cmである。それぞれのピットの覆土は、住居の上層の覆土と同様の黒褐色を呈しており、本跡が埋没した後に掘り込まれた可能性も考えられ、性格は不明である。P3は長径75cm、推定短径60cmほどの楕円形と推測される。深さは14cmで、底面は平坦である。南コーナー部にあることから、貯蔵穴の可能性が考えられるが、P1・P2と同様の黒褐色の覆土であり、埋没後に掘り込まれた土抗の可能性もあり、明確でない。

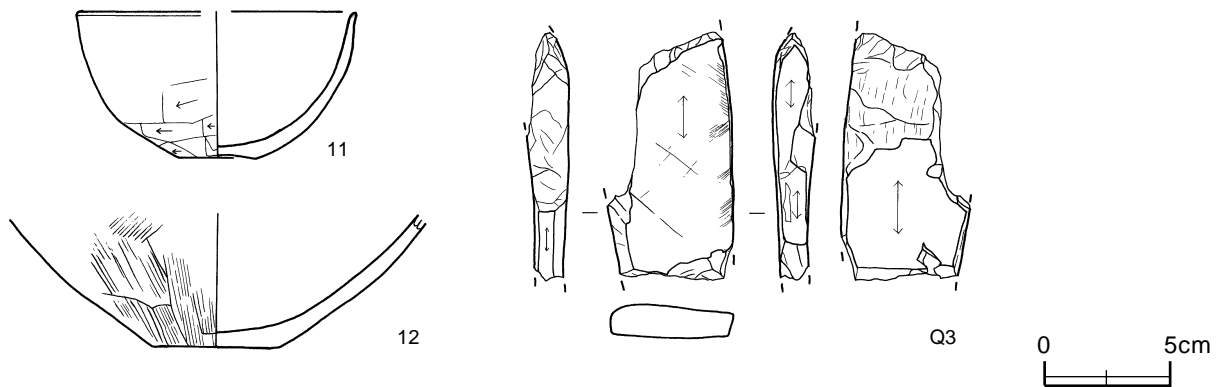
覆土 3層からなる。全体的に周囲から土砂が流入した状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片76点（坏3，椀14，甕59），石器1点（砥石）が出土している。11は南コーナー部の覆土下層から正位で出土している。12は覆土中から出土した破片が接合したものである。Q3も覆土中から出土している。

所見 炉跡や支柱穴は検出されなかったが、遺構の形状や床の硬化面が確認されたことから、古墳時代の住居跡と判断した。時期は、出土土器から4世紀後半から5世紀初頭と考えられる。



第41図 第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
11	土師器	椀	[11.0]	5.8	3.1	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ 体部下位ヘラ削り	覆土下層	70% PL37
12	土師器	甕	-	(5.3)	5.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整 内面ナデ	覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	砥石	(9.8)	5.0	1.7	(106.6)	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL45

第42号住居跡（第42図）

位置 調査D区のG3 i9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.30m、短軸(3.16)mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は22~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉の東側を除く中央部が踏み固められている。

炉 中央部よりやや西コーナー寄りに位置し、径40cmほどの円形である。掘り込みを伴わない地床炉で、炉床面は火熱を受けてわずかに赤変硬化している。

炉土層解説

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | |

ピット 4か所。P2・P4は深さは25cm・30cmで、支柱穴と考えられる。P1は深さ33cmで、南東壁寄りに位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P3は深さ25cmで、支柱穴の可能性が考えられる。トレンチャー痕にピット跡が攪乱されている可能性が考えられたので、地山面を精査したが、P1～P4の他には確認できなかった。

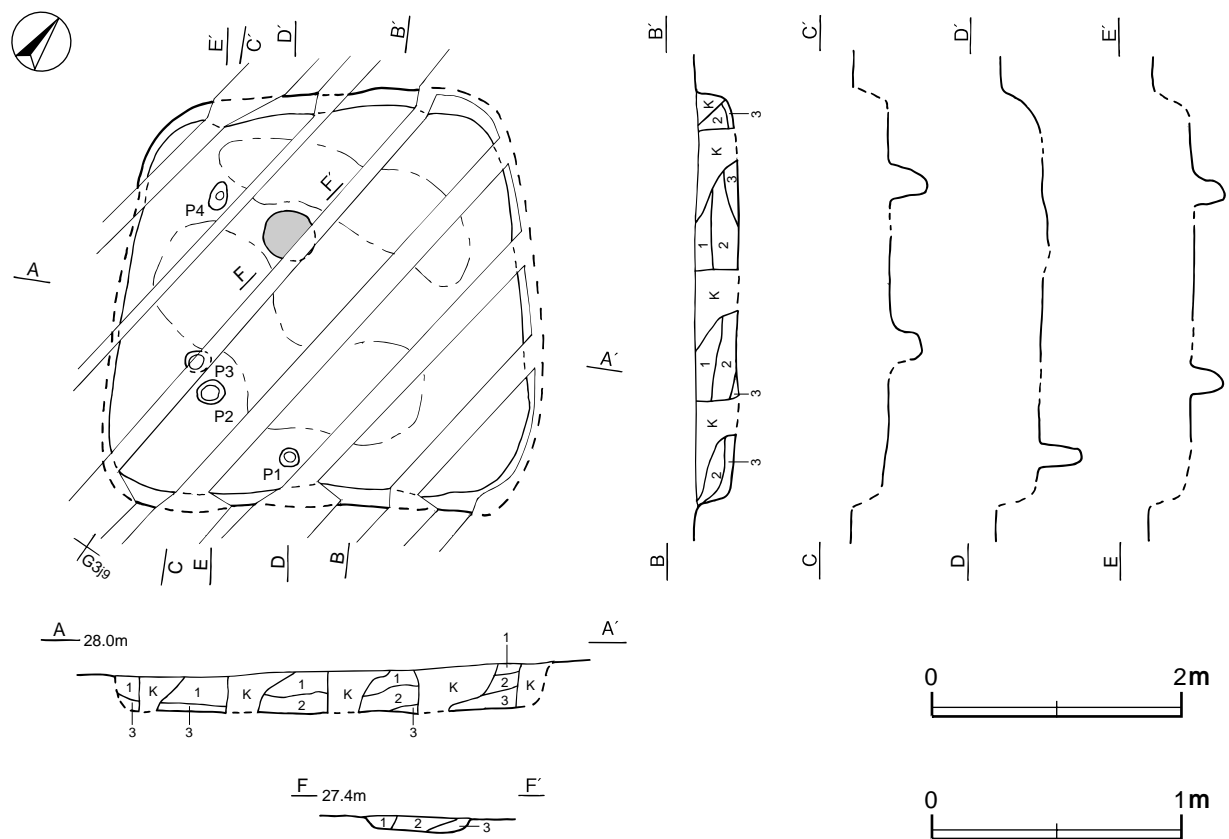
覆土 3層からなる。全体的に周囲から土砂が流入した状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片35点（甕32、甌3）が出土している。遺物はすべて細片のため図示できない。ハケ目のある甕の体部片や、折り返しのある甌の口縁部と思われる破片が、南コーナー部や西コーナー部の床面から出土している。

所見 出土遺物が細片のため明確な時期判断は困難であるが、4世紀後半から5世紀初頭と推定される。



第42図 第42号住居跡実測図

第43号住居跡 (第43・44図)

位置 調査D区のH3b5区、標高27mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西壁を第1号炭焼窯に掘り込まれている。耕作による攪乱が多く見られ、遺存状態は不良である。

規模と形状 長軸3.65m、短軸3.45mの方形で、主軸方向はN-44°-Wである。壁高は25cmほどで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。炉2の南西側で硬化面が部分的に確認された。

炉 2か所。炉1は中央部、炉2は北西壁際の中央部に位置している。炉1は径53cm、炉2は径35cmのいずれも円形である。炉1、2とも掘り込みを伴わない地床炉で、炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量

炉2土層解説

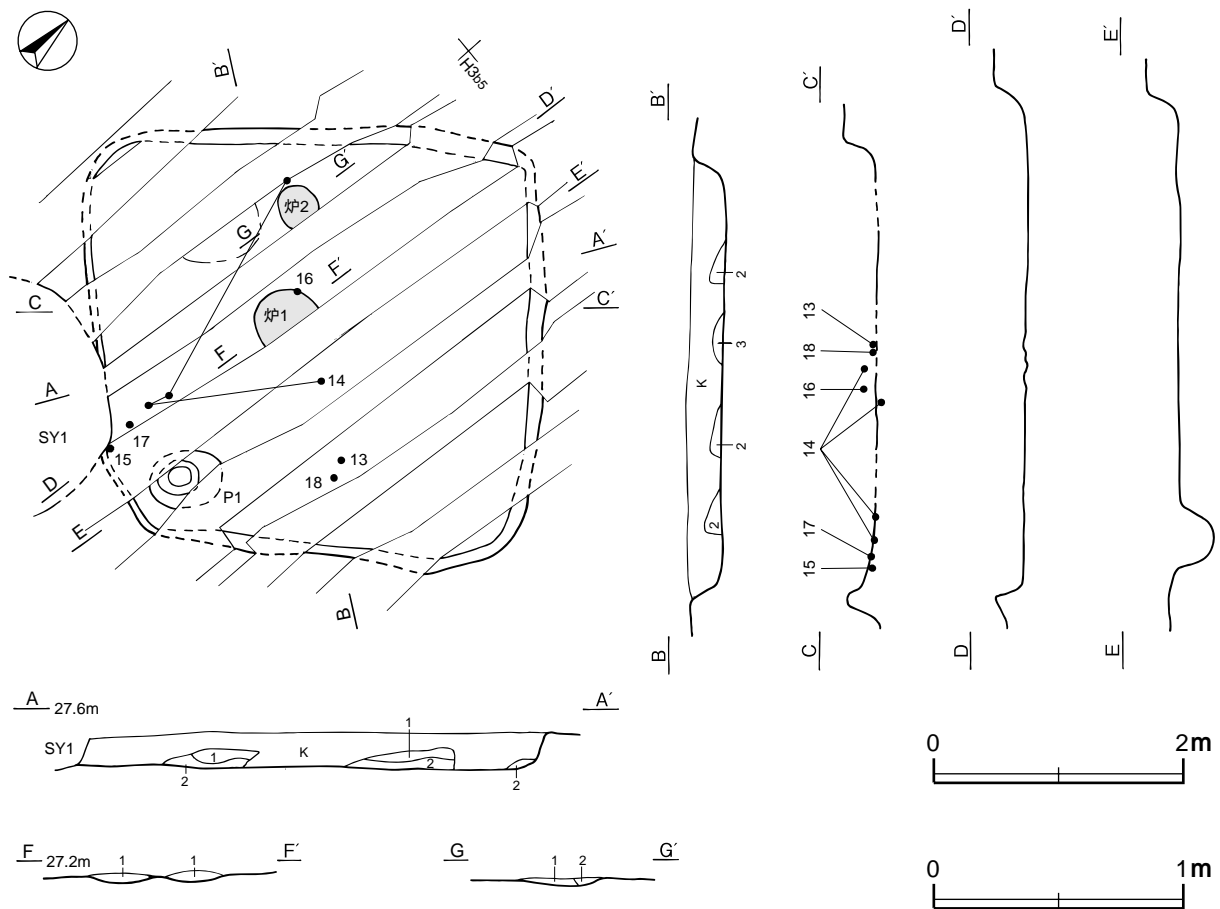
- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 推定長径60cm、推定短径50cmほどの楕円形と推測される。深さは28cmで、底面は皿状である。コーナー部に位置していることから貯蔵穴の可能性も考えられる。

覆土 3層に分層される。耕作による攪乱がひどく、堆積状況は不明である。

土層解説

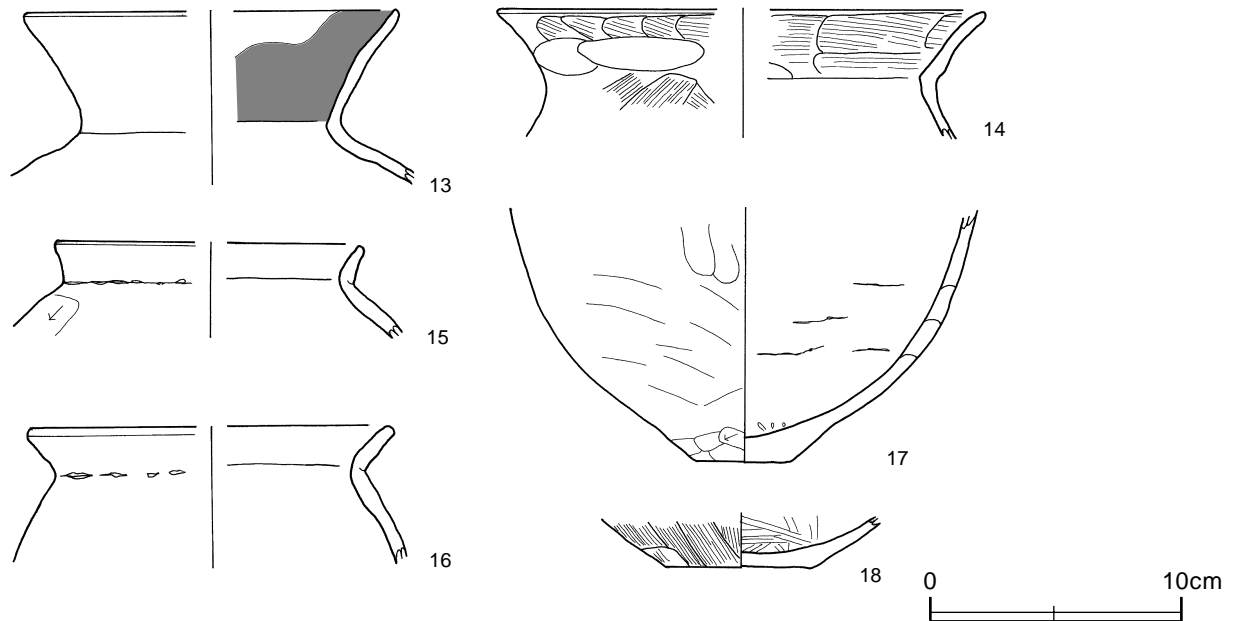
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量



第43図 第43号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片239点（甕）が出土している。13は中央部の南東壁寄りの床面から正位で出土している。18は中央部の南東壁寄り，15は南コーナー部のいずれも床面から出土している。17は南コーナー部の床面とP1の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器が細片のため特定は困難だが，4世紀代と考えられる。



第44図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
13	土師器	壺	[14.7]	(6.9)	-	長石・石英・赤色 粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 口縁部内面輪積痕	床面	10%
14	土師器	甕	[19.2]	(5.1)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面ハケ目調整後ナデ	床面 覆土中	10%
15	土師器	甕	[12.2]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面へラ削り	床面	10%
16	土師器	甕	[14.2]	(5.5)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内横ナデ 頸部外面輪積痕	覆土下層	10%
17	土師器	甕	-	(10.1)	3.7	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	体部外面下位へラ削り後ナデ 内面輪積痕	床面 P1覆土中	20%
18	土師器	甕	-	(2.1)	5.8	長石・石英・赤色 粒子	にぶい褐	普通	体部外面下位ハケ目調整 底部内面へラナデ	床面	20%

第51号住居跡（第45図）

位置 調査E区のK 6 b4区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.56m，短軸5.10mの方形で，主軸方向はN-47-Wである。壁高は8~20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 全体的に軟弱である。貼床は壁際を全周するように帯状に掘り込み，ローム土を主体とする埋土で構築している。南東壁の東寄りには，約3~5cmの高まりがあり，床面上にロームブロック主体の埋土で構築され，踏み固められている。

炉 中央部のやや北寄りに2か所確認された。耕作による攪乱を受けているが，炉1は長径70cm，短径50cmの楕円形，炉2は長径72cm，短径48cmの楕円形である。炉1は床面を5cm掘りくぼめ，炉2の炉床をかきだした

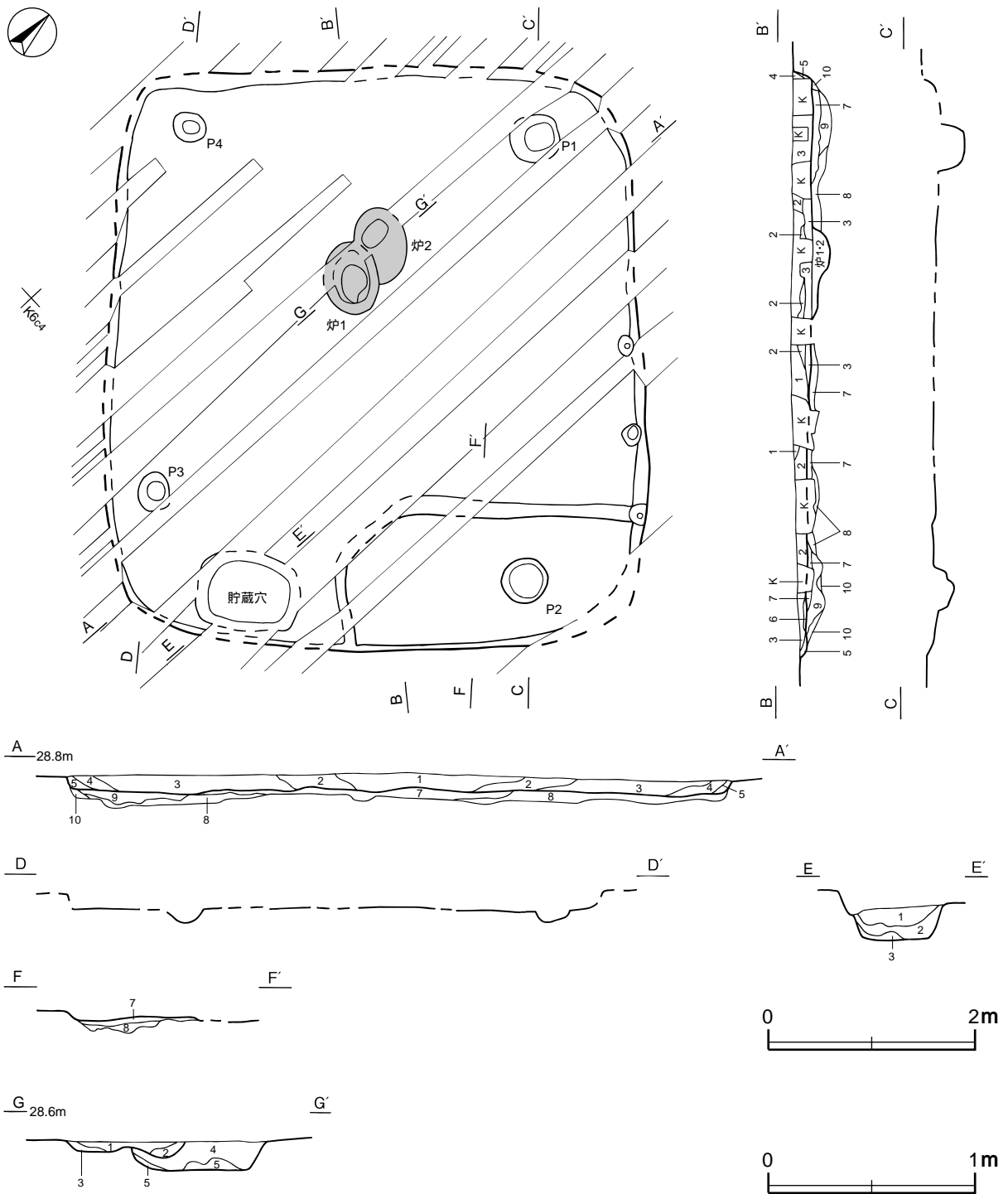
上に再構築された地床炉である。炉1の炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

炉1・2土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |

ピット 4か所。深さ9～18cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東壁際の西寄りに位置し、長径98cm、短径67cmの楕円形で、深さは29cmである。底面は平坦で、壁



第45図 第51号住居跡実測図

は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|------|---------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量 | | |

覆土 6層に分層される。全体的にレンズ状の堆積状況を示す自然堆積である。第7～10層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-----------|
| 1 黒 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | 焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック少量 | 9 黒 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片35点（甕類）の他，流れ込んだ縄文土器片2点も出土している。いずれも細片のため，図示することができなかった。

所見 時期は，出土土器と遺構の様相から4世紀前半と考えられる。

第52号住居跡（第46・47図）

位置 調査E区のJ 5 j0区，標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.61m，短軸4.54mの方形で，主軸方向はN-31-Wである。壁高は14～20cmで，外傾して立ち上がっている。

床 出入り口付近に部分的な硬化面が確認できる。貼床は壁際を全周するように帯状に掘り込み，ロームブロックを含んだ埋土で構築している。

炉 中央部のやや北西壁寄りに位置し，長径94cm，短径65cmの楕円形で，掘り込みの極めて浅い地床炉である。炉床は，火熱を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------|------|--------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量，焼土ブロック微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子少量 |

ピット 8か所。P 1～P 6は深さ10～16cmで，位置と配置から支柱穴と考えられる。P 7は深さ49cmで，位置から出入り口に伴うピットと考えられる。P 8は深さ16cmで，性格は不明である。

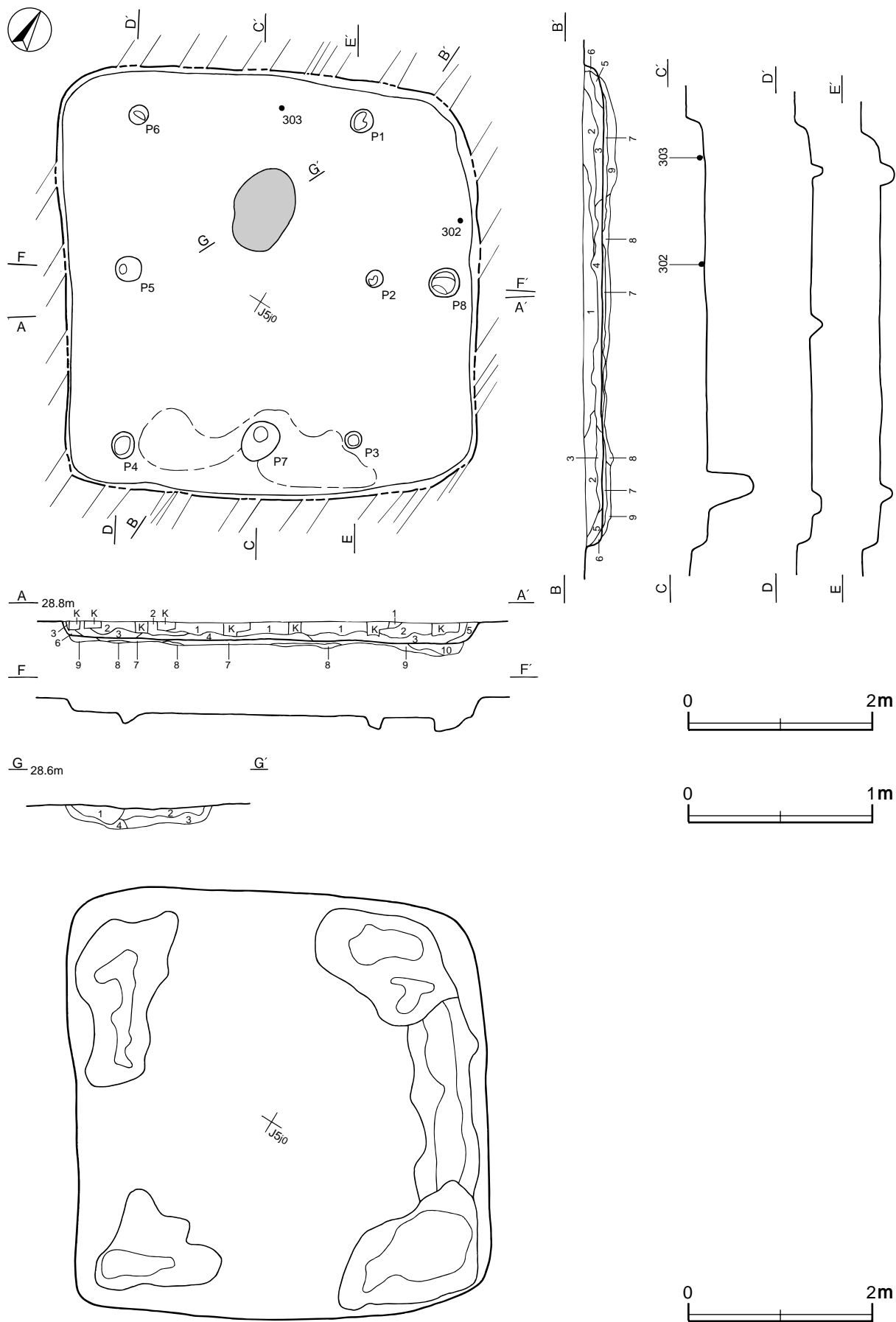
覆土 6層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を示す自然堆積である。第7～10層は貼床の構築土である。

土層解説

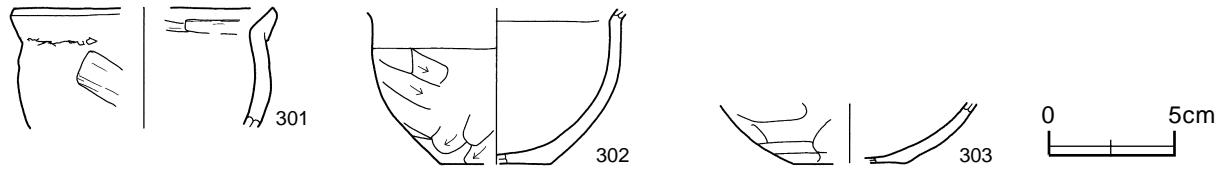
- | | | | |
|----------|-------------------------|---------|------------------|
| 1 黒 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 3 極 暗 褐色 | ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 9 暗 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗 褐色 | ロームブロック微量 | 10 暗 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片37点（高坏1，甕類36）が，覆土下層から床面にかけて出土している。また，流れ込んだ縄文土器片10点も出土している。302は北東壁寄り床面から正位で，303は北西壁寄り床面からそれぞれ出土している。301は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器や，4世紀後半の他の住居跡と主軸方向や形状がほぼ一致することから，同じ時期と推定される。



第46图 第52号住居跡実測図



第47図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
301	土師器	小形甕	[10.2]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	折り返し口縁 頸部から体部外面ハケ目調整 頸部内面ハケ目調整後ナデ	覆土中	5%
302	土師器	小形甕	-	(6.2)	[4.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部から体部外面ヘラ削り 頸部内・外面横ナデ	床面	20%
303	土師器	小形甕	-	(2.4)	[4.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ナデ	床面	5%

第53号住居跡 (第48図)

位置 調査E区のJ 5 d7区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第267号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.97m、短軸3.94mの方形で、主軸方向はN-62-Wである。壁高は2~5cmで、ほぼ直立している。

床 中央部が若干硬化している。貼床は各コーナー部を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。

炉 中央部のやや西壁寄りに位置している。長径87cm、短径55cmの楕円形で、床面を5~10cm掘りくぼめて炉床とした地床炉である。炉床面は凹凸が激しく、火熱により硬化しているが赤変はしていないことから、短期間の使用が想定される。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

ピット 4か所。P1~P3は深さ10~15cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P4は深さ29cmで、南東壁寄りに位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

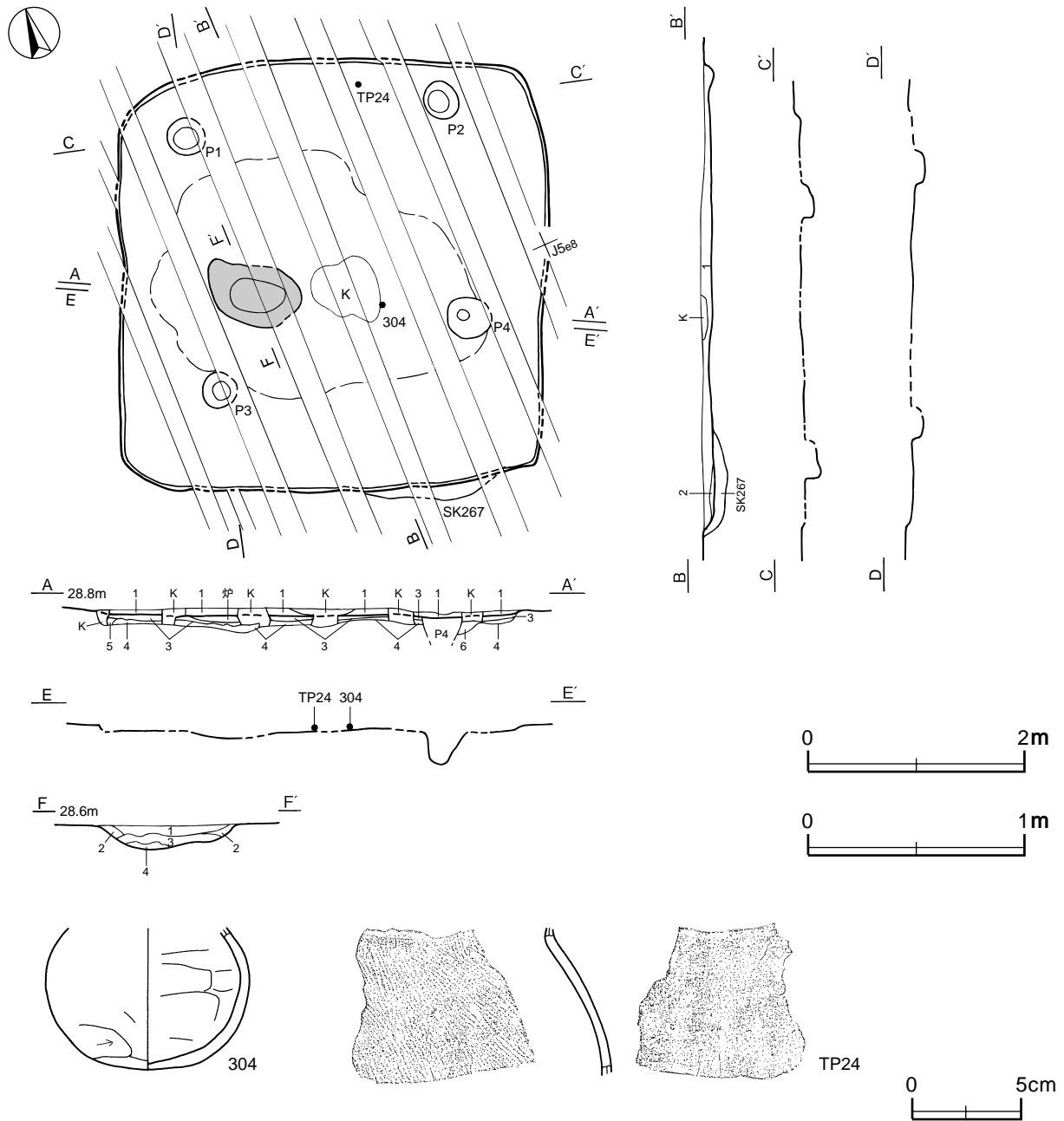
覆土 2層に分層される。耕作による攪乱及び堆積が薄いため、堆積状況は不明である。第3~6層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片65点(小形壺8, 甕57)が第2層から床面にかけて出土している。また、流れ込みの縄文土器片31点も出土している。304は中央部の南東壁寄り、TP24は北壁寄りの床面から逆位でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



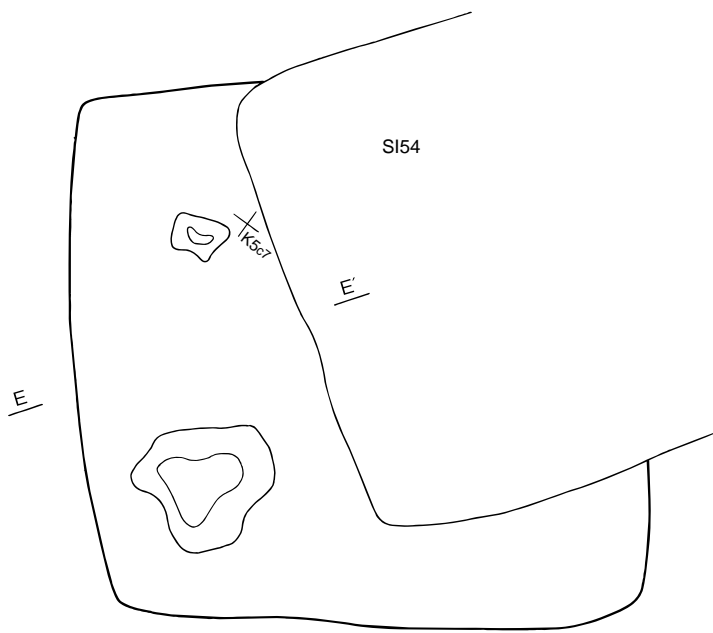
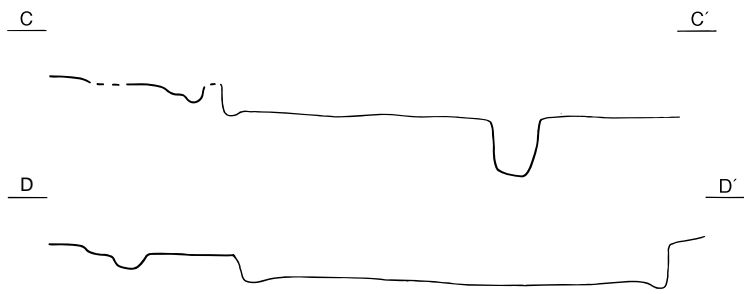
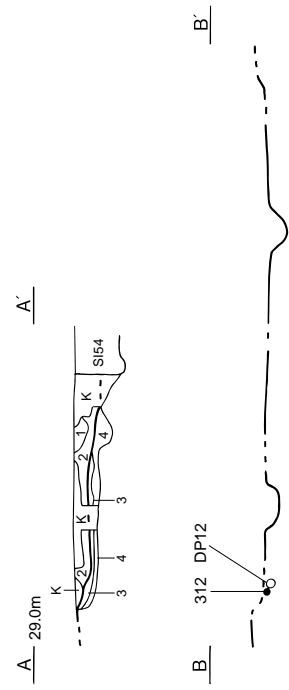
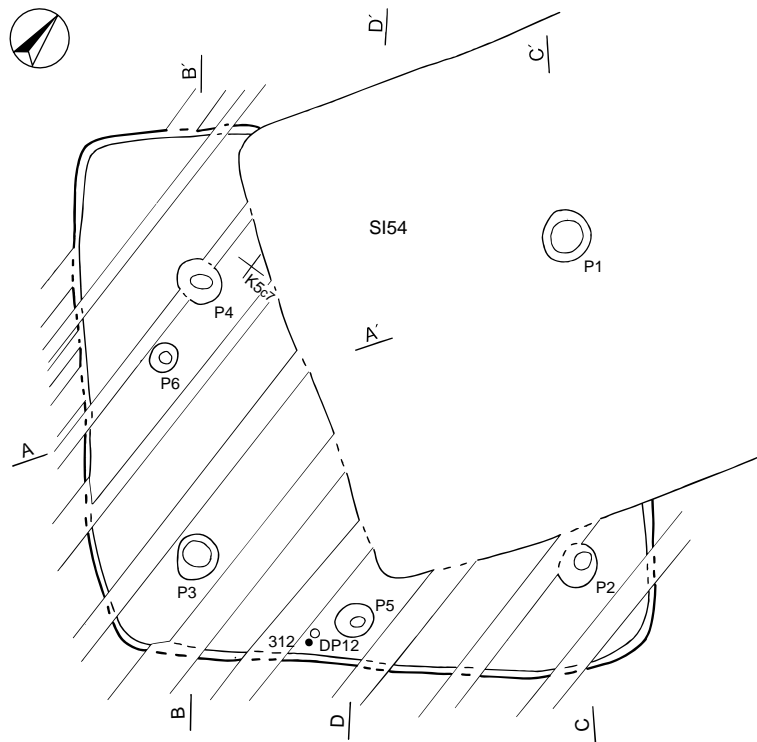
第48図 第53号住居跡・出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表 (第48図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
304	土師器	埴	-	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面下位から底部へラ削り 内面ナデ	床面	10%
TP24	土師器	甕	-	(6.7)	-	長石	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整	覆土下層	

第55号住居跡 (第49・50図)

位置 調査E区のK 5 c7区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。



第49图 第55号住居跡実測図

重複関係 北コーナー部を第54号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.48m、短軸4.19mの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁高は3～7cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦だが、顕著な硬化面は確認できない。貼床は地山にローム土を薄く埋土して構築している。

ピット 6か所。P1～P4は深さ10～46cmで、位置や配置から支柱穴と考えられる。特にP1は46cmと極端に深く、第54号住居の貼床下から検出された。P5は深さ9cmで位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ11cmで、性格は不明である。

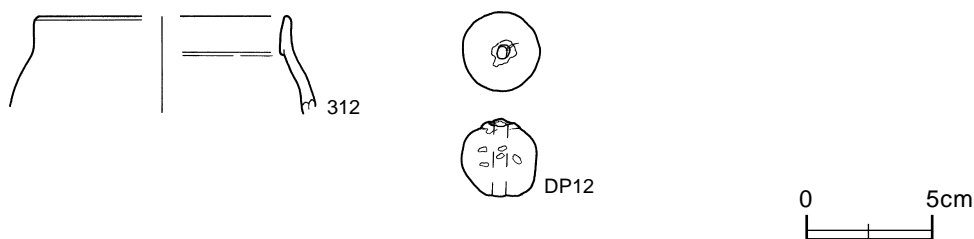
覆土 2層に分層される。層厚は薄いだが、壁外からの土砂の流入が確認できるため自然堆積と考えられる。第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片24点（甕類24）、土製品1点（球状土錘）が出土している。312・DP12は、いずれも南東壁際の床面から出土している。

所見 炉は第54号住居に掘り込まれたと考えられ、検出することができなかった。時期を特定できる土器が少ないが、他の4世紀後半の住居跡と主軸方向がほぼ同じことから同じ時期と考えられる。



第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
312	土師器	小形甕	[9.7]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	5%

番号	機種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	球状土錘	3.1	3.1	0.5	29.2	粘土	ナデ 片側からの穿孔	床面	PL43

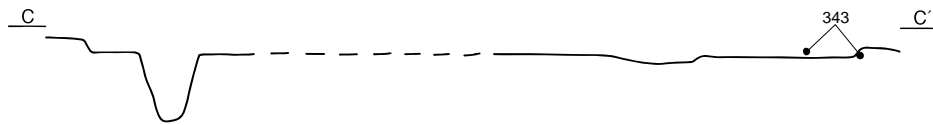
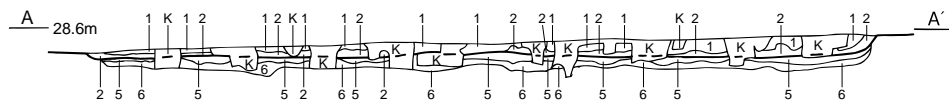
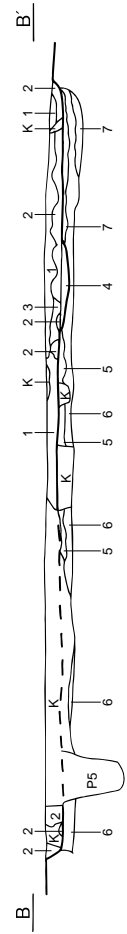
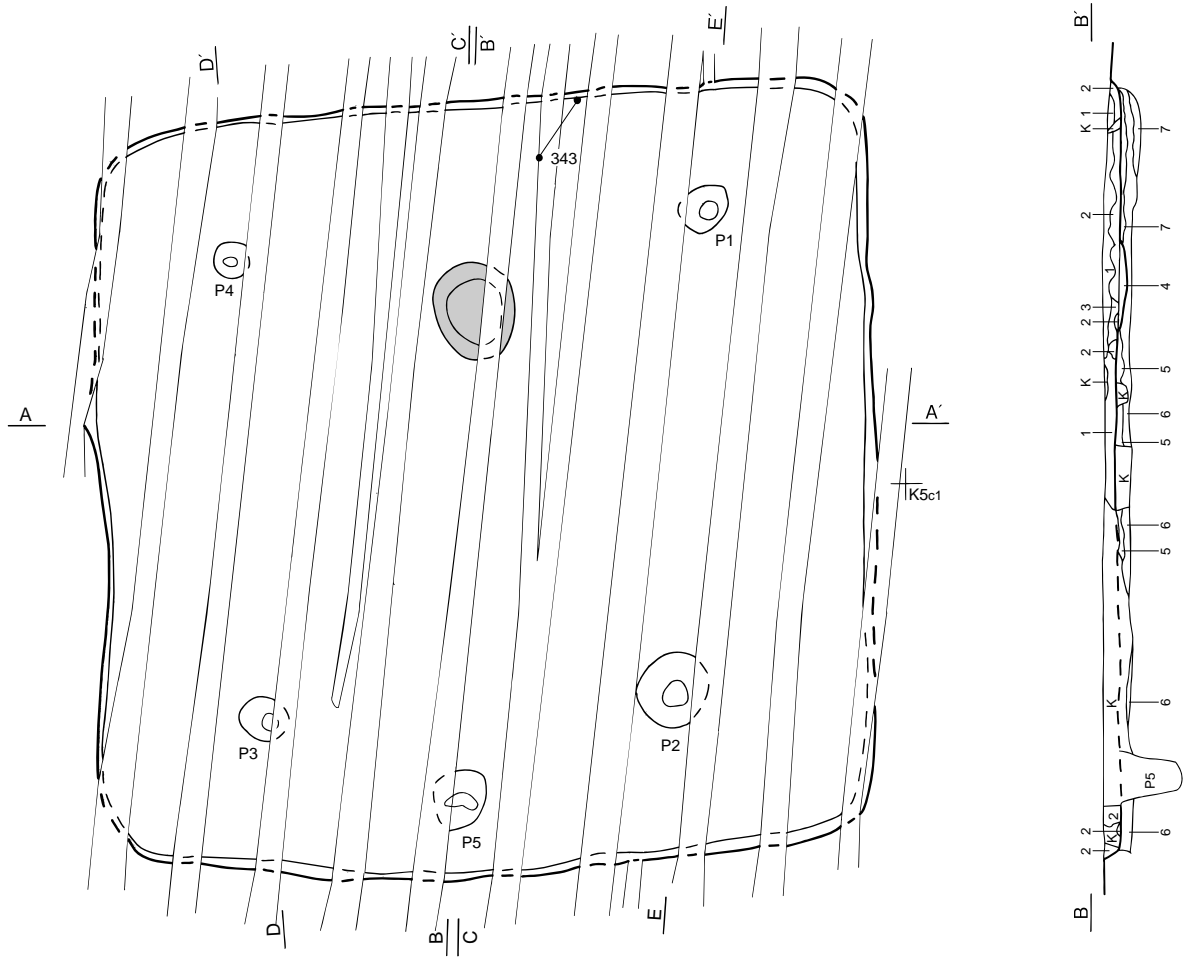
第60号住居跡（第51・52図）

位置 調査E区のK4b0区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.20m、短軸6.16mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は7～16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。貼床はコーナー部分を深く掘り込み、ロームブロックを多量に含んだ埋土で構築している。

炉 中央部北壁寄りに位置し、長径75cm、短径64cmの楕円形で、床を浅く皿状に掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、底面及び地山が火熱を受けてわずかに硬化している。



第51图 第60号住居跡実測图

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ30～44cmで、位置や配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ54cmで南壁際中央寄りに位置しており、出入り口施設に伴うピットと思われる。

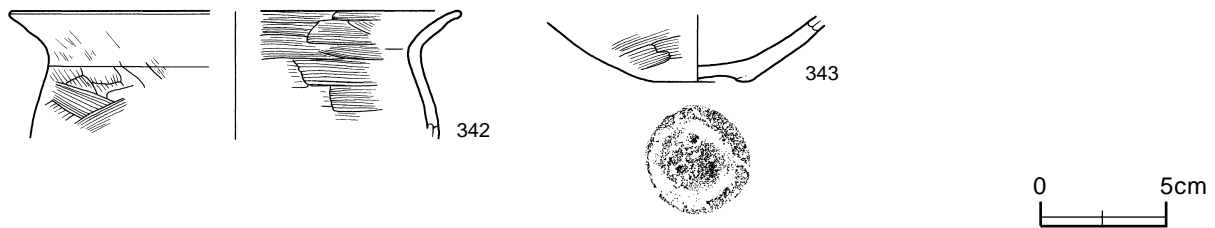
覆土 3層に分層される。耕作による攪乱がひどく、堆積状況は不明である。第4層は炉の覆土、第5～7層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 黒 褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 暗 赤褐色 焼土ブロック多量 | |

遺物出土状況 土師器片99点（甕類）が出土している。また、須恵器片18点（坏15、甕3）は耕作の攪乱により流れ込んだと考えられる。343は北壁際の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第52図 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
342	土師器	甕	[17.8]	(5.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内面ハケ目調整、口縁部外面ハケ目調整 後横ナデ 体部内・外面ハケ目調整	覆土中	5%
343	土師器	甕	-	(2.7)	4.1	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外面下位ハケ目調整	床面	5%

第64号住居跡（第53図）

位置 調査F区のG 5 e6区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.32m、短軸4.16mの方形で、主軸方向はN-20-Wである。壁高は6～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 全体的に軟弱である。貼床は壁際を中央部より若干深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。

ピット 4か所。深さ14～20cmで、位置や配置から支柱穴と考えられる。

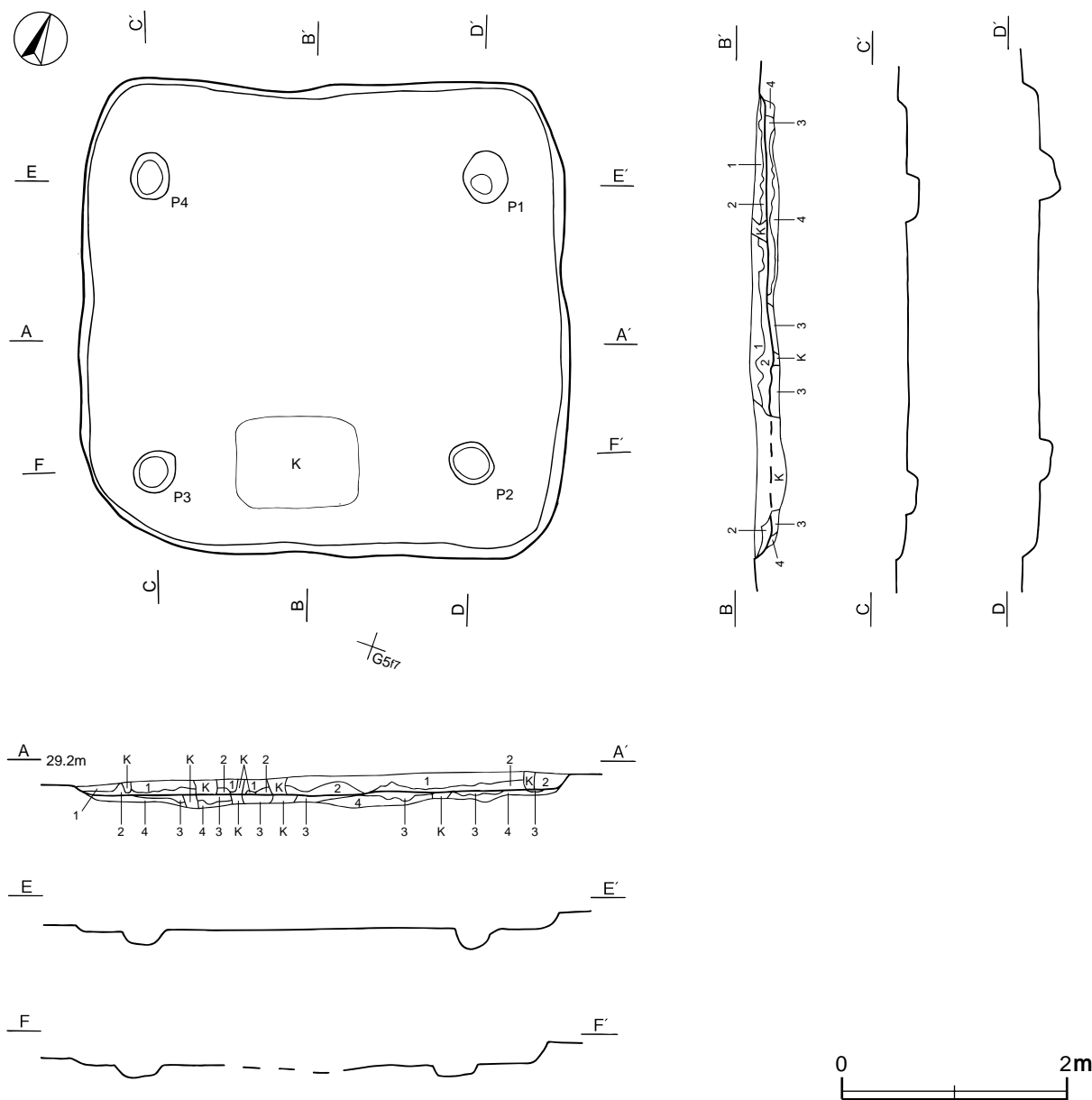
覆土 2層に分層される。耕作による攪乱により、堆積状況は不明である。第3・4層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 黒 褐色 ロームブロック少量 | 3 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗 褐色 ローム粒子少量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片8点（甕類）が出土している。遺物はいずれも細片のため図示することはできなかった。

所見 炉は検出されなかった。出土土器が少ないため時期の特定は困難であるが、第66号住居跡と主軸方向が等しいため、4世紀前半と考えられる。



第53図 第64号住居跡実測図

第66号住居跡 (第54～56図)

位置 調査F区のG 4 b8区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

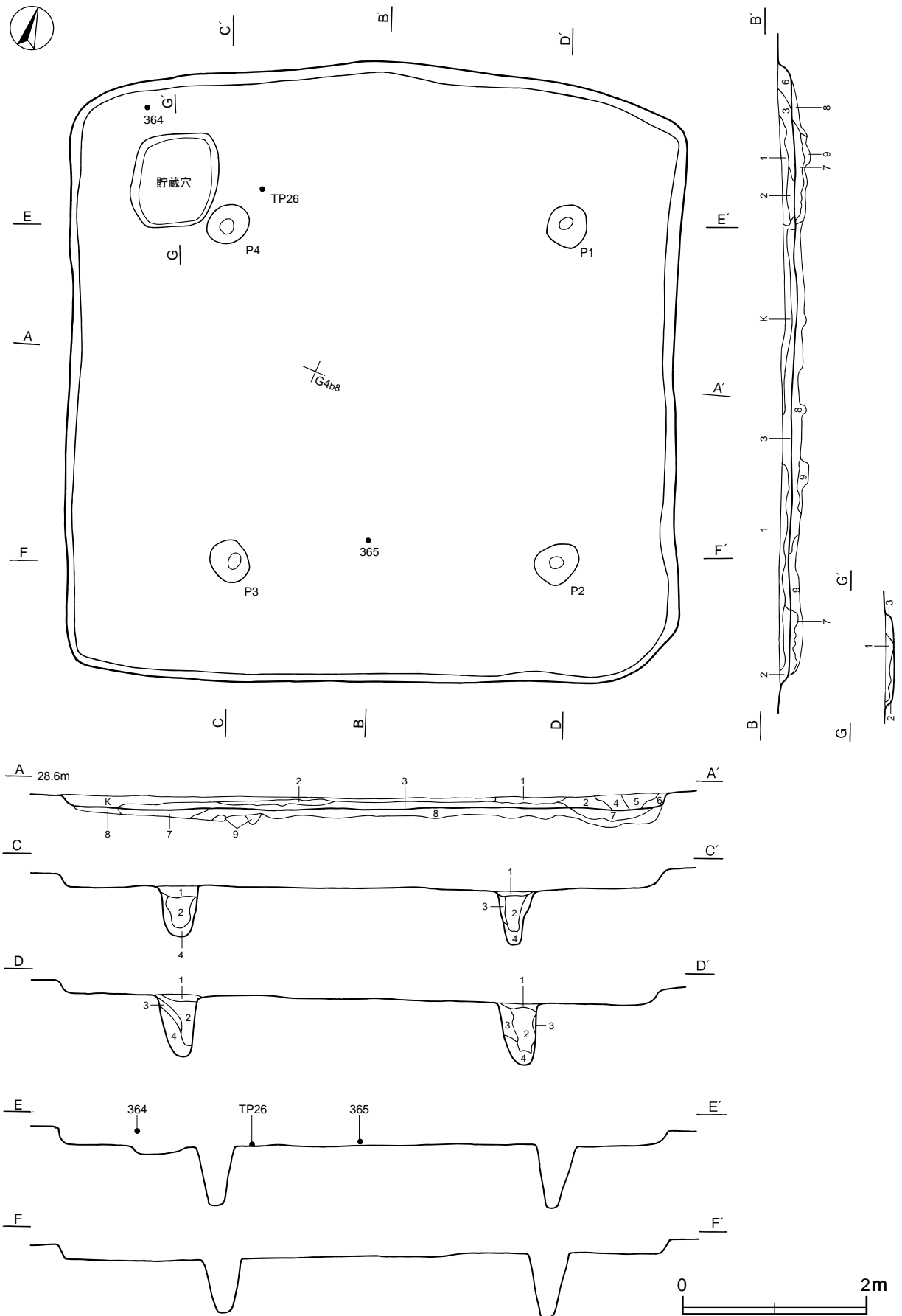
規模と形状 長軸6.60m，短軸6.54mの方形で，主軸方向はN-19 -Wである。壁高は16～22cmで，直立している。

床 平坦で，顕著な硬化面は確認できなかった。貼床は壁際を帯状に掘り込み，ローム土を主体とする埋土で構築している。

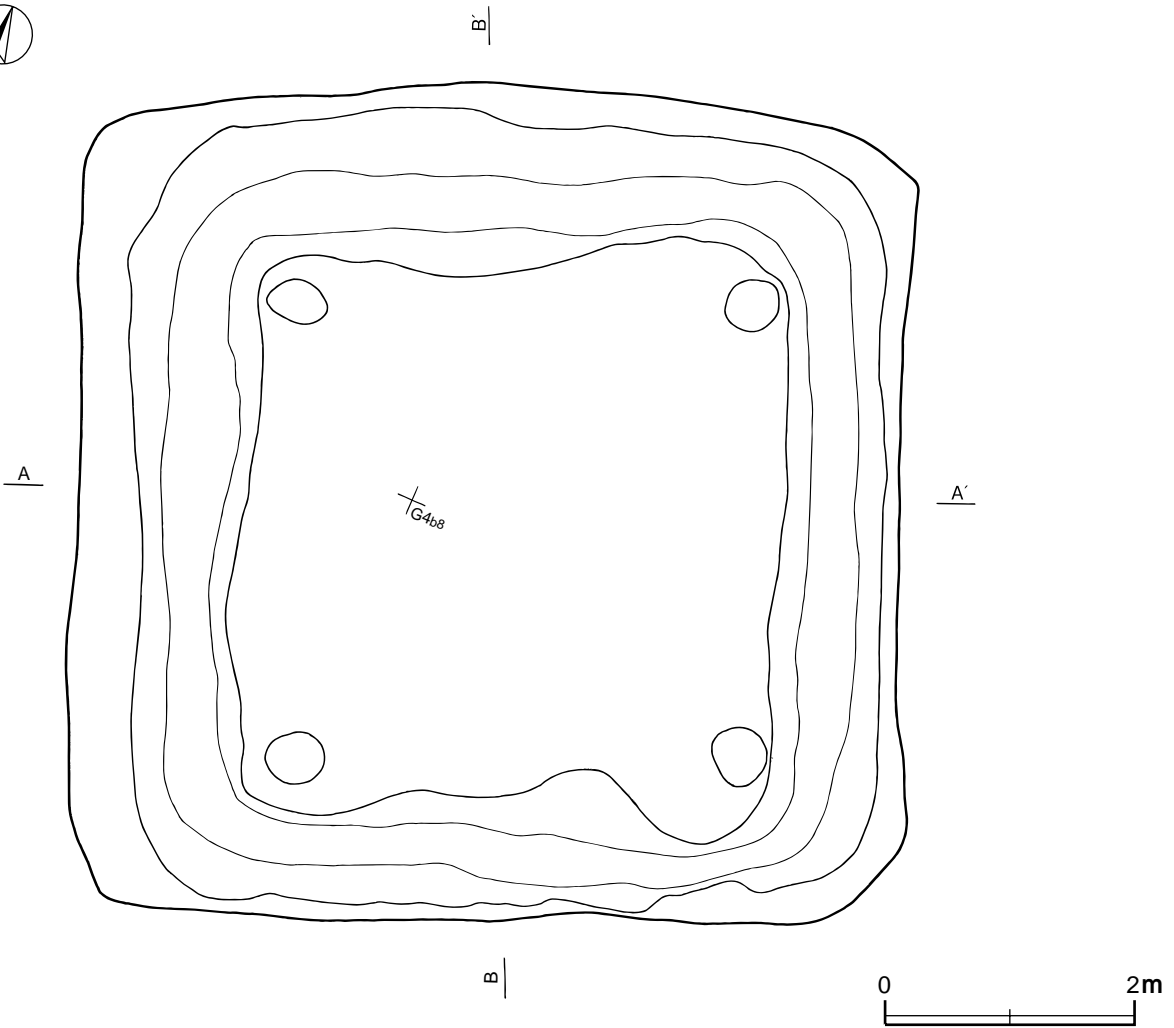
ピット 4か所。深さ56～64cmで，位置や配置から主柱穴と考えられる。第2層は柱抜き取り痕で，締まりの弱い暗褐色土である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量 |



第54図 第66号住居跡実測図(1)



第55図 第66号住居跡実測図(2)

貯蔵穴 北西コーナー部に位置し、長軸102cm、短軸92cmの隅丸方形で、深さは13cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ローム粒子中量 | |

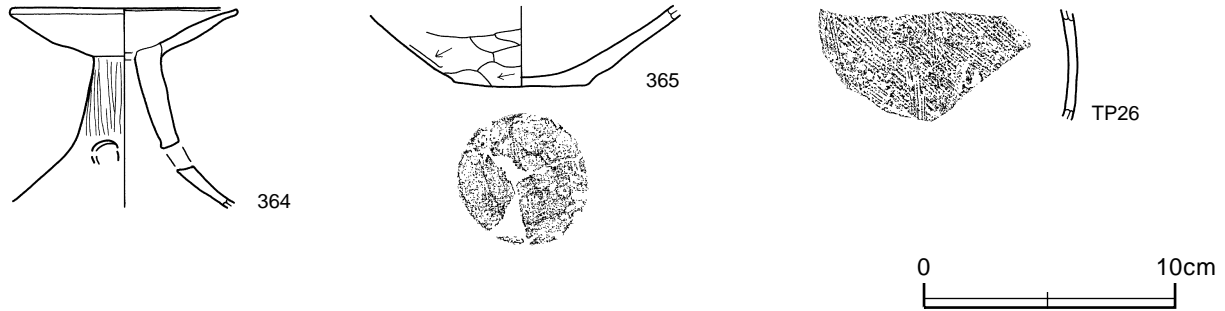
覆土 6層に分層される。東壁際にブロック状の堆積状況が見られるが、全体的に周囲から土砂が流入した状況を示しており、自然堆積と考えられる。第7～9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 明褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子微量 | 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子多量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量 | 9 明褐色 ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量 | |

遺物出土状況 土師器片44点（器台5、甕類39）が覆土下層から床面にかけて出土している。364は北西コーナー部壁際の床面から逆位で出土している。365は中央部南寄りの床面、覆土中から出土したものが接合したものである。

所見 炉は検出されなかった。時期は、出土土器から4世紀前半と考えられる。



第56図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
364	土師器	器台	8.9	(7.9)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き 器受部内・外面横ナデ	床面	60% PL37
365	土師器	甕	-	(3.2)	5.2	石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端横位のヘラ削り後ナデ	床面	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP26	土師器	甕	-	(5.8)	-	長石	橙	普通	体部外面ハケ目調整	床面	

表8 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設					覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧 新)
							主柱穴	出入口	ピット	炉	貯蔵穴				
22	I 4 g7	N-38°-E	方形	4.42×4.30	28~36	貼床	-	1	-	1	-	自然	土師器	前期前半	
28	I 5 i7	N-31°-W	[方形]	(6.50)×6.40	-	-	2	-	2	1	-	-	-	前期後半 ~中期初頭	本跡 SK149- 150, SB7
30	I 6 d1	N-36°-W	方形	7.18×7.09	22~29	-	4	1	-	1	1	自然	土師器, 土製品	中期前半	
34	I 6 g7	N-41°-W	方形	5.80×5.80	18~26	-	4	-	2	1	1	自然	土師器, 土製品	前期後半	
37	H 6 j6	N-39°-W	隅丸方形	4.33×4.13	15~20	-	-	-	3	-	-	自然	土師器, 石器	前期後半 ~中期初頭	本跡 SK198- 236
42	G 3 i9	N-30°-W	[方形]	3.30×(3.16)	22~44	-	2	1	1	1	-	自然	土師器	前期後半 ~中期初頭	
43	H 3 b5	N-44°-W	方形	3.65×3.45	25	-	-	-	1	2	-	不明	土師器	前期	本跡 SY 1
51	K 6 b4	N-47°-W	方形	5.56×5.10	8~20	貼床	4	-	-	2	1	自然	土師器	前期前半	
52	J 5 j0	N-31°-W	方形	4.61×4.54	14~20	貼床	6	1	1	1	-	自然	土師器	前期後半	
53	J 5 d7	N-62°-W	方形	3.97×3.94	2~5	貼床	3	1	-	1	-	不明	土師器	前期前半	SK267 本跡
55	K 5 c7	N-38°-W	方形	4.48×4.19	5~10	貼床	4	1	1	-	-	自然	土師器, 土製品	前期後半	本跡 SI54
60	K 4 b0	N-2°-E	方形	6.20×6.16	7~16	貼床	4	1	-	1	-	不明	土師器	前期前半	
64	G 5 e6	N-20°-W	方形	4.32×4.16	6~18	貼床	4	-	-	-	-	不明	土師器	前期前半	
66	G 4 b8	N-19°-W	方形	6.60×6.54	16~22	貼床	4	-	-	-	1	自然	土師器	前期前半	

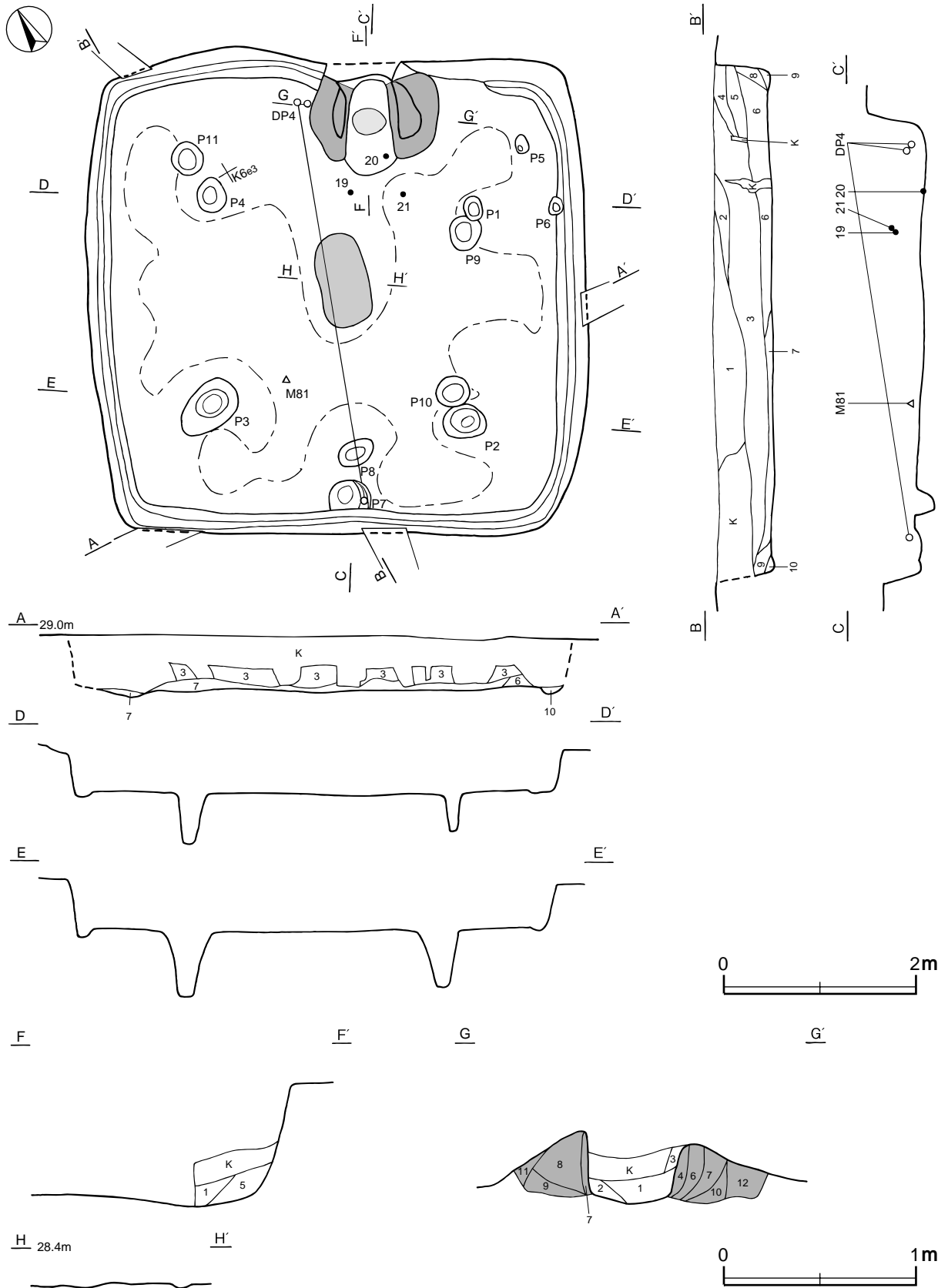
4 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の竪穴住居跡48軒，掘立柱建物跡16棟，道路跡1条を確認した。以下，遺構の特徴と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡 (第57・58図)

位置 調査E区のK 6 e3区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。



第57図 第1号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.14m，短軸4.98mの方形で，主軸方向はN-33 - Eである。壁高は42～61cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，コーナー部及び竈手前を除いて踏み固められている。壁溝が，竈右袖部脇を除いて周回している。

炉 中央部に位置している。長径94cm，短径50cmの楕円形を呈し，掘り込みを伴わない地床炉である。炉床面は部分的に火熱により赤変硬化している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで確認できた長さ120cm，袖部幅130cmである。袖部は床面を10cmほど掘り下げた地山面を基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部の壁外への掘り込みは，耕作の攪乱のため確認できなかった。

竈土層解説

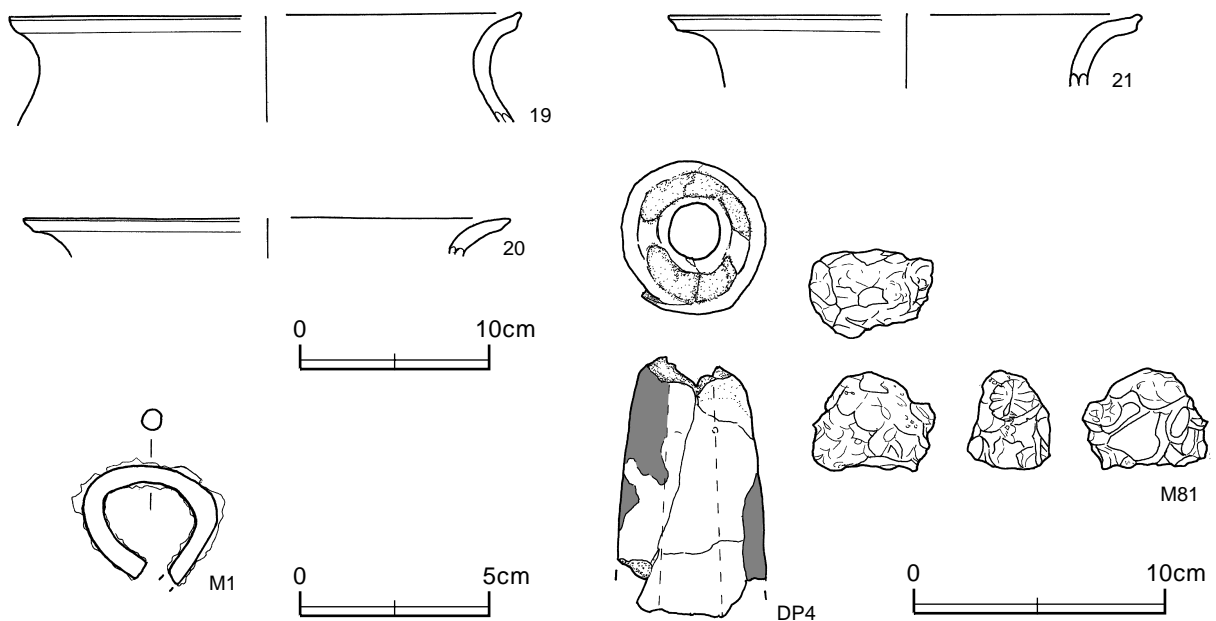
1 暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子・砂粒微量	7 褐色	粘土粒子中量，ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量	8 褐色	粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
3 暗赤褐色	粘土粒子・砂粒中量，焼土ブロック少量	9 褐色	粘土粒子中量，ロームブロック少量，炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量，ローム粒子微量	10 褐色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック・粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量	11 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	12 褐色	粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量

ピット 11か所。P 1～P 4は深さ39～68cmで，位置と配置から支柱穴と考えられる。P 8は深さ10cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 9～P 11は深さ34～36cmで，支柱穴の可能性が考えられる。P 5～P 7は深さ7～22cmで，性格は不明である。

覆土 10層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子微量，炭化粒子極微量
2 黒褐色	ローム粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
3 極暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子極微量	8 暗褐色	ロームブロック微量，焼土粒子極微量
4 黒褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック微量
5 極暗褐色	ローム粒子微量，焼土粒子極微量	10 暗褐色	ローム粒子少量



第58図 第1号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片251点（坏類2，甕類248，甑1），須恵器片95点（坏類47，蓋3，盤3，甕類42），土製品12点（羽口片10，不明2），金属製品1点（不明），鉄滓類22点が出土している。20は竈右袖内側の火床部の底面から出土している。DP4は竈左脇及び南壁際の覆土下層から出土した細片が接合したものである。M81は中央部の覆土下層から出土している。その他21点の鉄滓類は覆土中層及び上層から出土している。鉄滓類の内訳は椀状滓4点（293.7g），鉄滓18点（234.7g）である。

所見 耕作による攪乱が多く見られ，遺物はほとんどが細片であり時期の特定は困難であるが，8世紀中葉頃と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
19	土師器	甕	[26.5]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
20	土師器	甕	[25.5]	(2.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈底面	10%
21	土師器	甕	[18.6]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	最大径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP4	羽口	(10.3)	5.9	2.1	(252.0)	粘土	ナデ	覆土下層	煤附着 PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	不明	(3.2)	3.6	0.5	(8.5)	鉄	環状 断面円形	覆土中	PL48

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置	備考
M81	鉄滓	3.9	4.9	3.3	94.2	表面茶褐色 着磁性なし	覆土下層	

第2号住居跡（第59～62図）

位置 調査A区のL4f1区，標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 西壁中央部が第58号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.85m，短軸3.80mの方形で，主軸方向はN-28-Eである。壁高は52～72cmで，外傾して立ち上がっている。

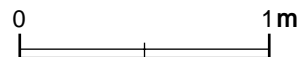
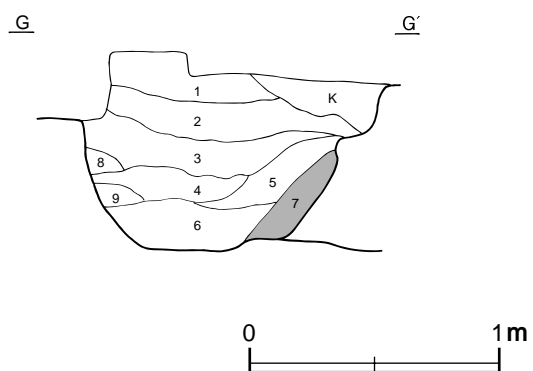
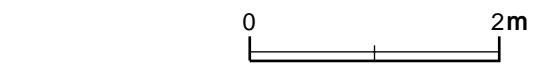
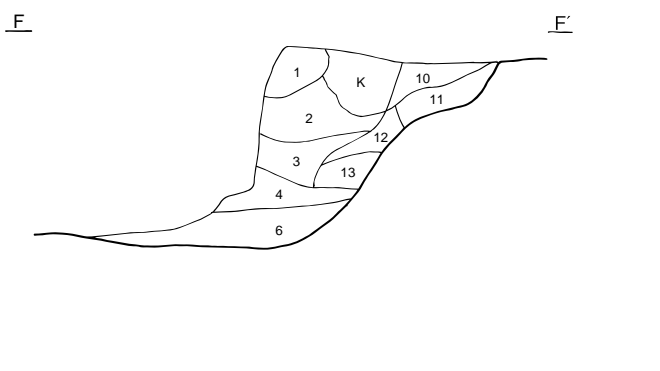
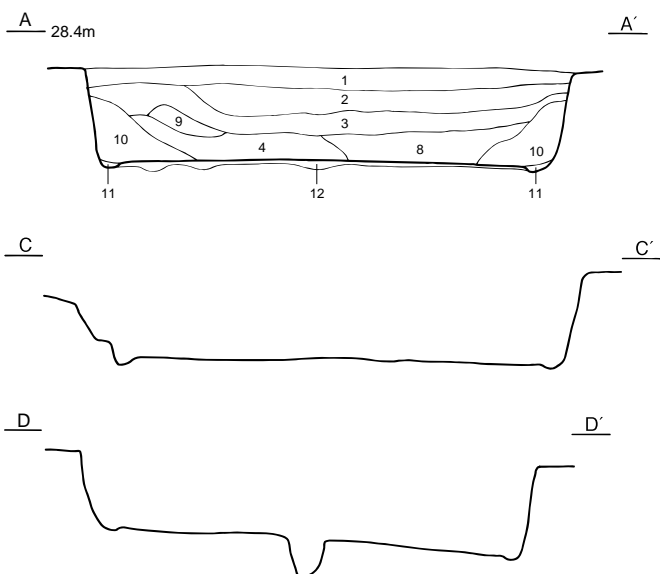
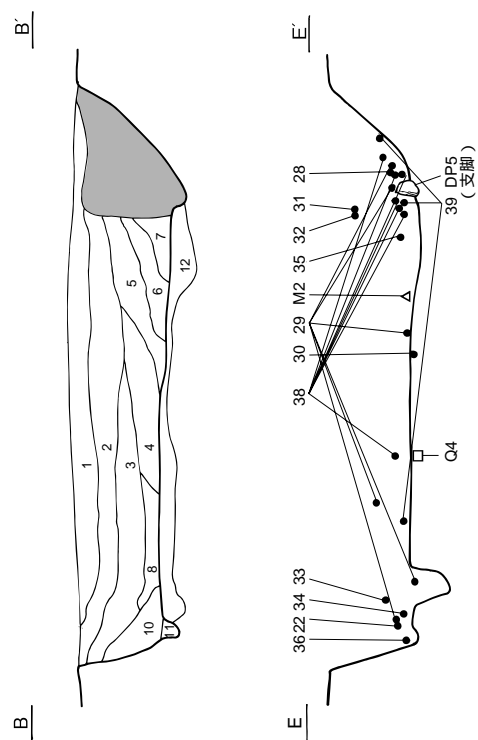
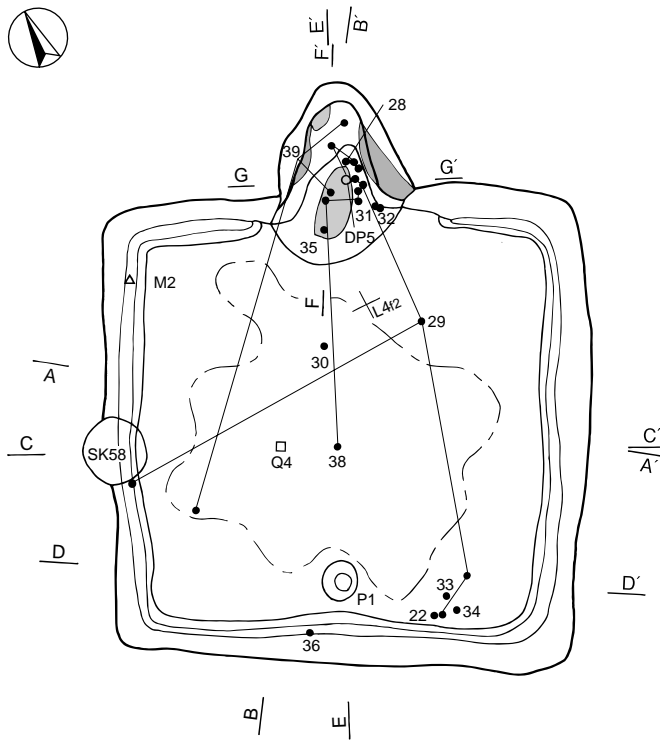
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。貼床は竈から出入り口にかけて深く掘り込み，ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が，竈の両脇を除き周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで143cm，袖部幅105cmほどである。袖部の遺存状態は極めて悪く，構築状況は，床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されていたと考えられる。

火床部は床面を4cm掘りくぼめて，火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に88cm掘り込み，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量
2	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	9	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，粘土粒子微量	10	褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	11	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量	12	褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
			13	暗褐色	ローム粒子少量



第59图 第2号住居跡実測图

ピット 深さは30cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

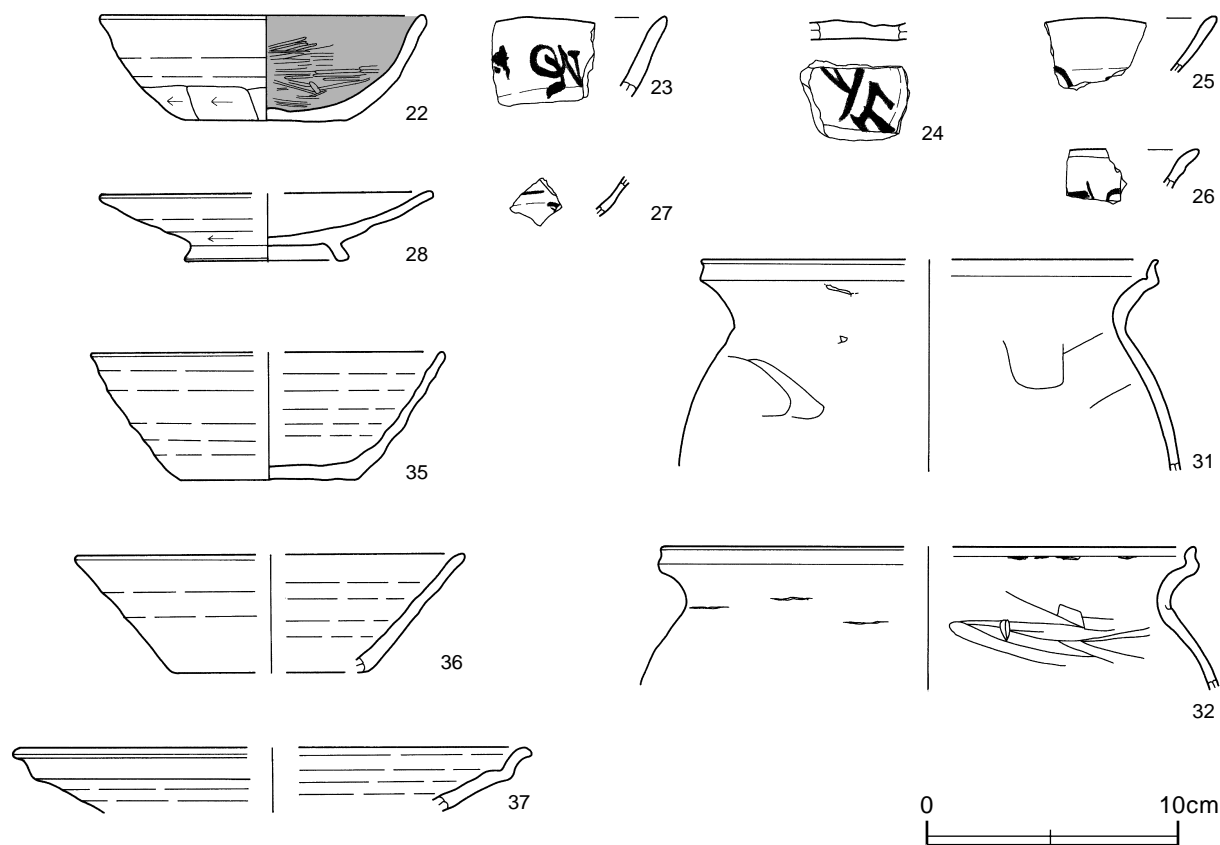
覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第12層は貼床の構築土である。

土層解説

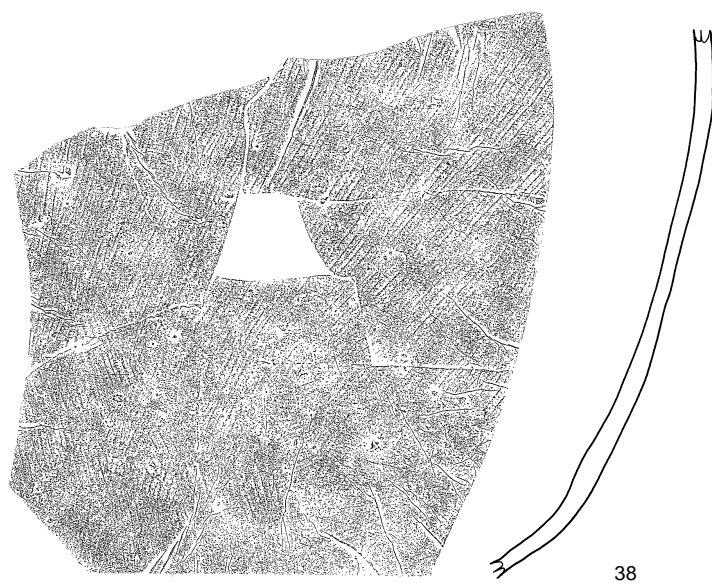
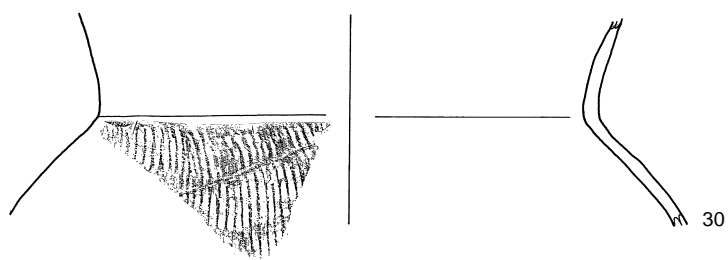
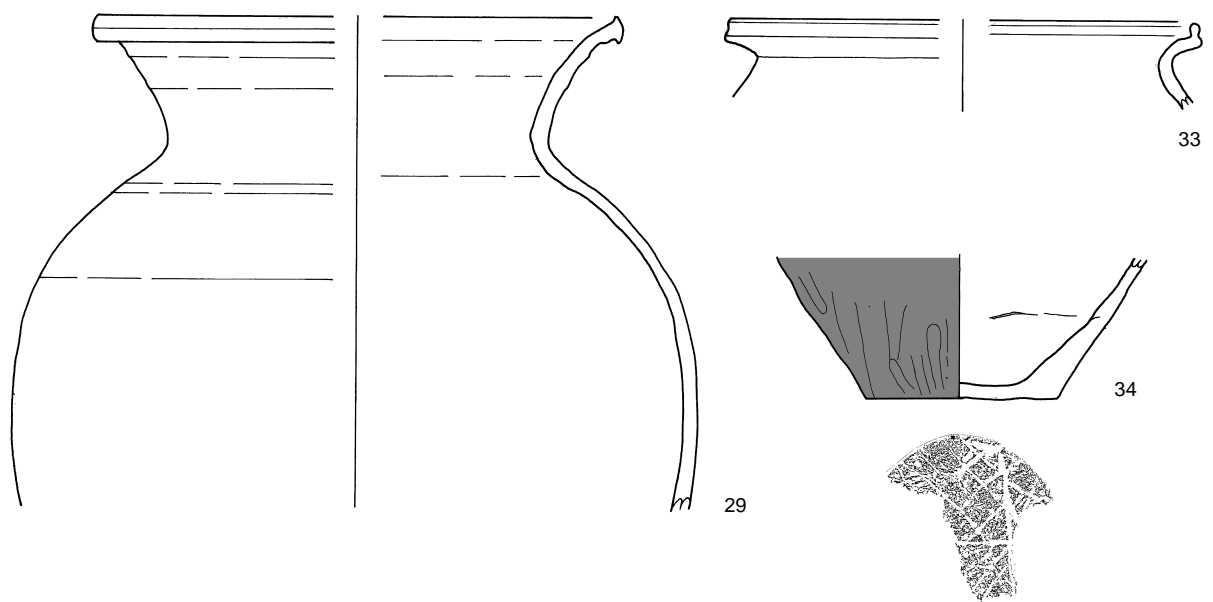
1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	8 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	9 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量
4 褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック少量
5 暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子中量	12 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物・粘土粒子少量		
7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子中量, 炭化物少量		

遺物出土状況 土師器片1186点（坏類75，高台付皿1，甕類1110），須恵器片478点（坏類344，高台付坏2，蓋11，甕類121），土製品2点（支脚，不明），石器1点（台石カ），金属器2点（刀子）が出土している。22は南壁際の覆土下層と，中央部や南東コーナー部の覆土中層及び下層から出土した破片が接合したものである。23～27は墨書土器であり，いずれも覆土中から出土している。28は竈，35は竈手前，36は南壁際の，いずれも覆土下層から出土している。38は中央部の覆土下層と竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。DP5は火床部の底面から，M2は西壁際の床面からそれぞれ出土している。Q4は中央部の床面に半分ほど埋まった状態で出土している。

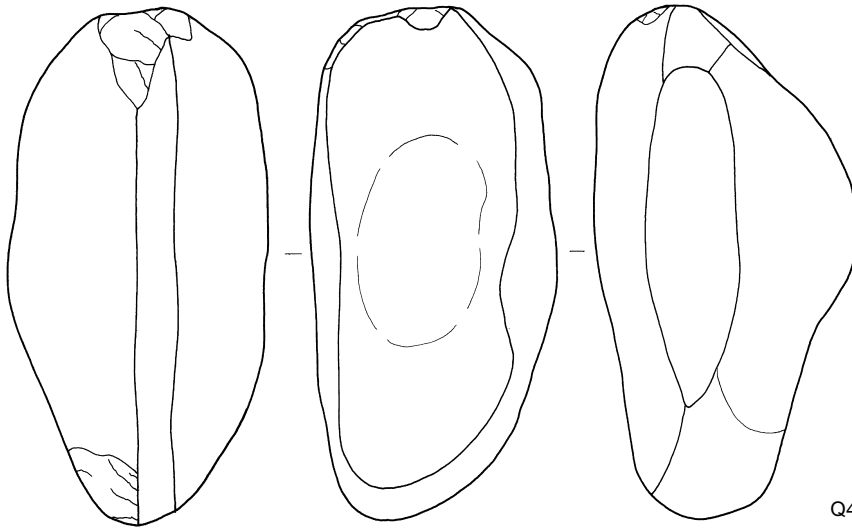
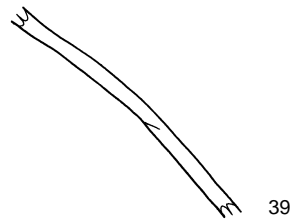
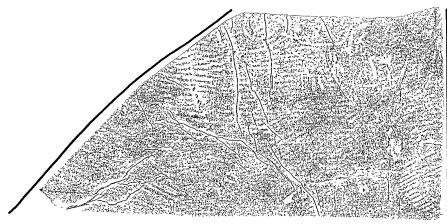
所見 確認面から床面までの掘り込みが深く，耕作等による攪乱も見られないが，竈の袖の遺存状態は不良である。廃絶時に壊された可能性がある。時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



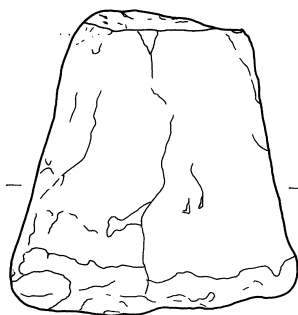
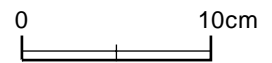
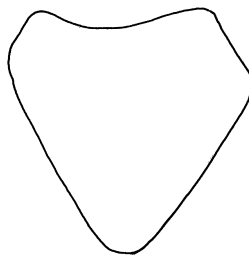
第60図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)



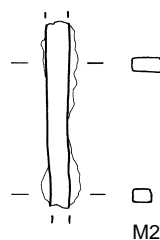
第61图 第2号住居跡出土遺物実測図(2)



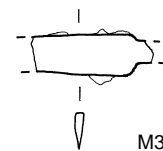
Q4



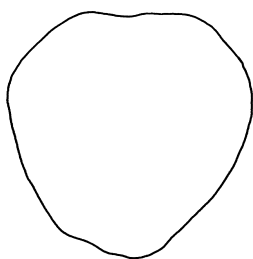
DP5



M2



M3



第62图 第2号住居跡出土遺物実測図(3)

第2号住居跡出土遺物観察表 (第60～62図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
22	土師器	坏	12.6	4.2	6.7	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後ナデ 内面ヘラ磨き	覆土下層 覆土中	70% PL33
23	土師器	坏	-	(3.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書「家」 PL38
24	土師器	坏	-	(0.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ磨き 底部外面回転ヘラ削り	覆土中	10% PL38 墨書「山万」カ 10% 墨書「」 PL38
25	土師器	坏	-	(2.1)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書「」 PL38
26	土師器	坏	-	(1.6)	-	長石	にぶい橙	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書「」 PL38
27	土師器	坏	-	(1.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面ロクロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書「」 PL38
28	土師器	高台付皿	[13.0]	2.7	6.4	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台貼付 体部外面下端回転ヘラ削り	竈下層	50%
29	須恵器	甗	[19.4]	(19.4)	-	長石・石英	灰褐	普通	内・外面ロクロナデ	床面 竈下層	20%
30	須恵器	甗	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外面ロクロナデ 体部外面縦位の平行叩き 内面磨耗調整不明	掘り方	10%
31	土師器	甗	[18.0]	(8.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 外面輪積痕	竈上層	10%
32	土師器	甗	[21.0]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面ナデ 外面輪積痕 内面ヘラナデ	竈上層	10%
33	土師器	甗	[18.4]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%
34	土師器	甗	-	(5.5)	7.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	内面輪積痕 外面縦位のヘラ磨き	覆土下層 外面煤付着	10%
35	須恵器	坏	[14.0]	5.0	7.0	長石・石英	灰白	普通	内・外面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	60% PL33
36	須恵器	坏	[15.2]	4.7	[7.6]	長石	灰オリーブ	普通	内・外面ロクロナデ	覆土下層	30%
37	須恵器	盤	[20.2]	(2.6)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	内・外面ロクロナデ	覆土中	10%
38	須恵器	甗	-	(29.3)	-	長石・石英	内 黄灰 外 灰赤	普通	外面斜位の平行叩き 内面同心円状の当て具痕 輪積痕	竈覆土中 覆土下層	10%
39	須恵器	甗	-	(16.7)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面横位の平行叩き 内面輪積痕	竈下層 床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP5	支脚	12.0	11.4	9.7	(13700)	粘土	ナデ 火熱痕あり	竈底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	台石カ	27.2	12.9	15.1	5440.0	砂岩	断面逆三角形 上面がくぼんでいる	床面	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	鎌カ	(5.1)	0.8	0.4	(4.9)	鉄	切先・茎部欠損	床面	PL47
M3	刀子	(3.1)	1.1	0.2	(2.4)	鉄	切先・茎部欠損 両開	覆土中	

第3号住居跡 (第63図)

位置 調査A区のL3g9区、標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と形状 長軸3.90m、短軸3.80mの方形で、主軸方向はN-3-Wである。壁高は16～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部の南側半分が踏み固められている。壁溝が、南東コーナーを除いて、北東コーナーから南壁中央まで周回している。

竈 木の根による攪乱を受けているが、左袖の基部が確認されたことから、北壁のほぼ中央部に付設されていたと考えられる。

ピット 7か所。P1～P5は深さ18～66cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P6は深さ31cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ26cmで、P6の支柱穴の可能性が考えられる。

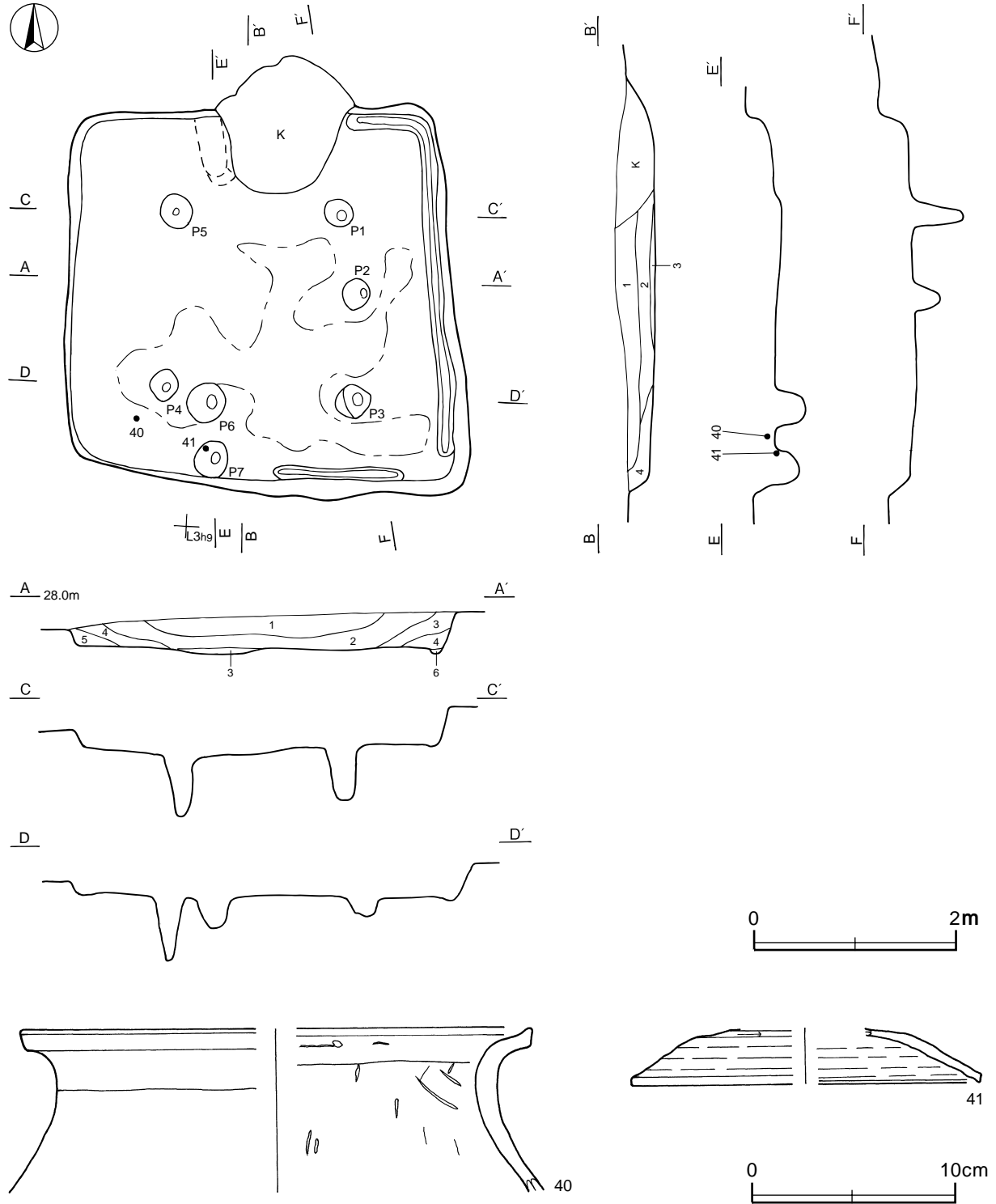
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片97点(甕類), 須恵器片31点(坏類20, 蓋5, 甕類6)が出土している。40は南西コーナー一部の覆土下層から, 41はP7の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第63図 第3号住居跡・出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
40	土師器	甕	[24.6]	(8.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ナデ 内面	覆土下層	10%
41	須恵器	蓋	[17.0]	(2.8)	-	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	内・外面口クロナデ 天井部回転ヘラ削り	P7 覆土上層	10%

第4号住居跡 (第64～66図)

位置 調査A区のL3e8区, 標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

重複関係 東壁が第11号掘立柱建物に, 南壁が第41・42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.06m, 短軸4.02mの方形で, 主軸方向はN-15-Eである。壁高は32～45cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 南壁際から竈の手前にかけての中央部が踏み固められている。壁溝が, 北壁を除き周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで150cm, 袖部幅110cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面を楕円形に22cm掘りくぼめて, 暗褐色土を埋め戻して構築されている。火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に70cm掘り込み, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック・焼土粒子中量, 炭化物微量	8	灰褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック・炭化物中量
2	にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物少量	9	暗褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
3	褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子多量, ローム粒子中量	10	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
4	暗褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量	11	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化物少量	12	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化物微量	13	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック中量, 炭化物微量	14	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 2か所。P2は深さは47cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1は深さ40cmで, 性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径99cm, 短径68cmの楕円形で, 深さは55cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

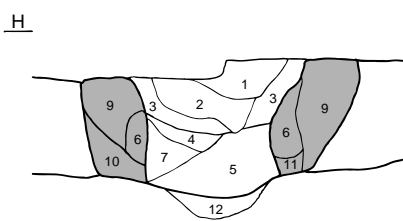
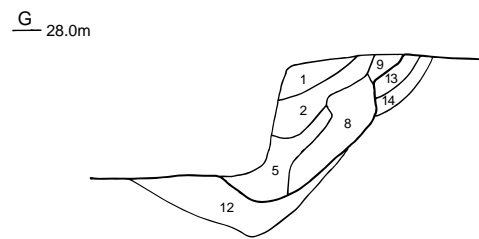
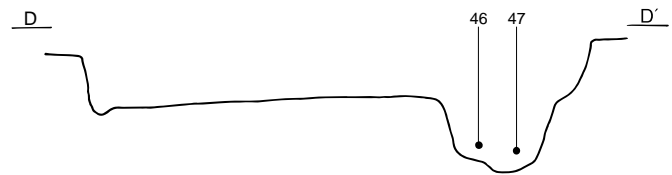
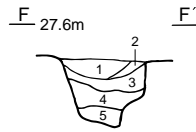
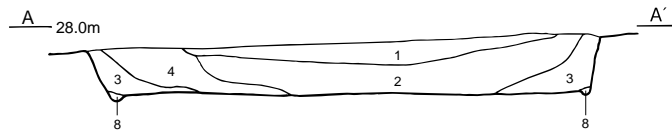
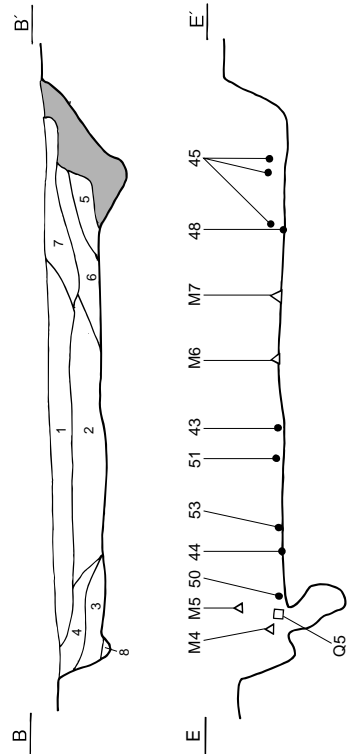
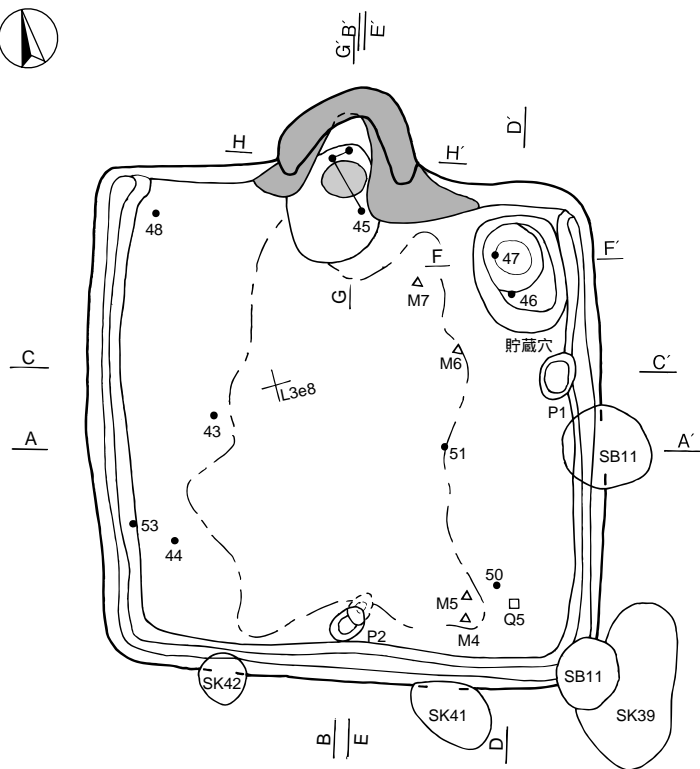
貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量	4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, 鹿沼パミス微量
2	褐色	焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	5	褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子少量
3	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・鹿沼パミス微量			

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

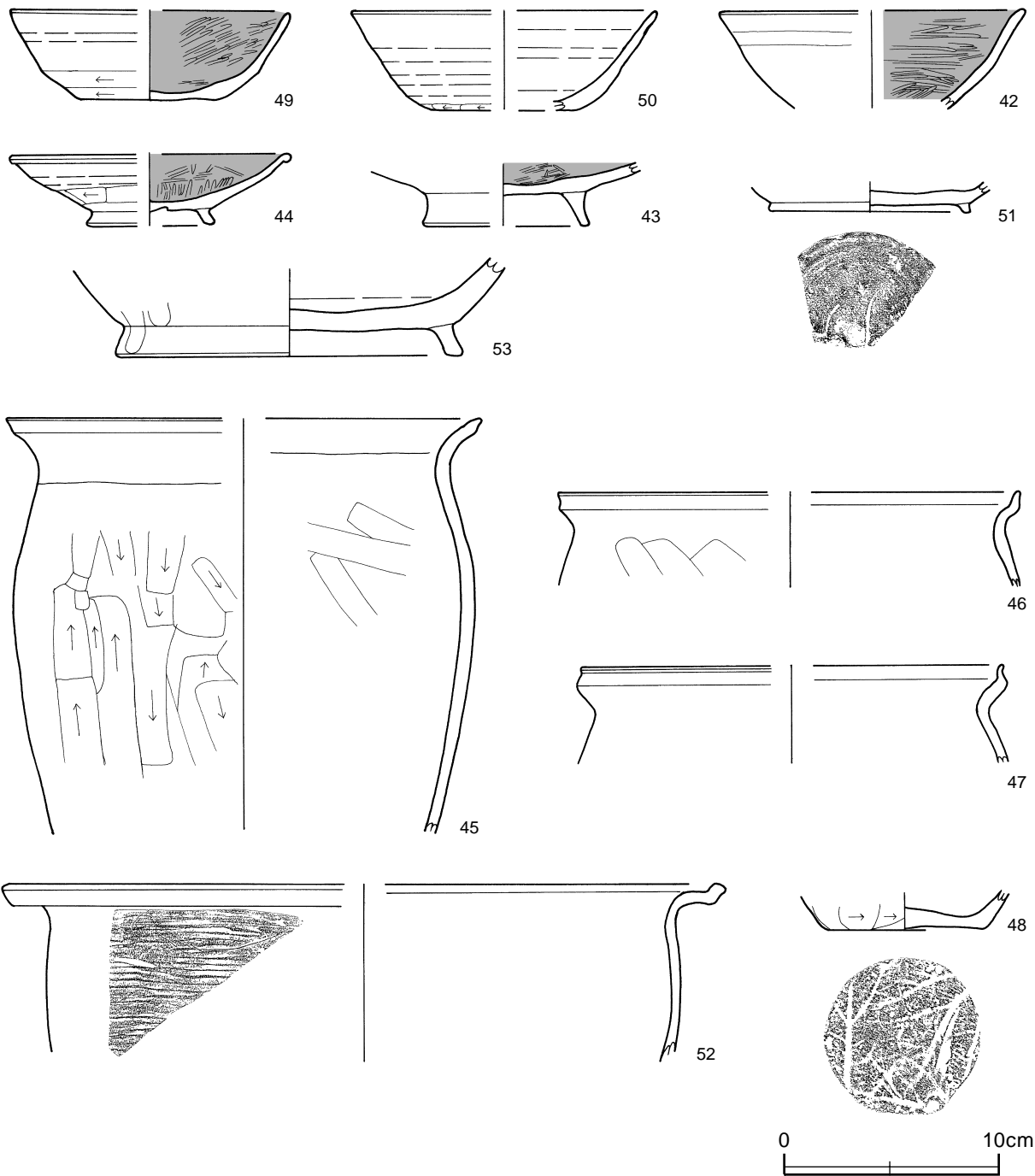
1	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化物微量	5	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物微量	6	暗褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
3	黒褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量	7	黒褐色	ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック少量



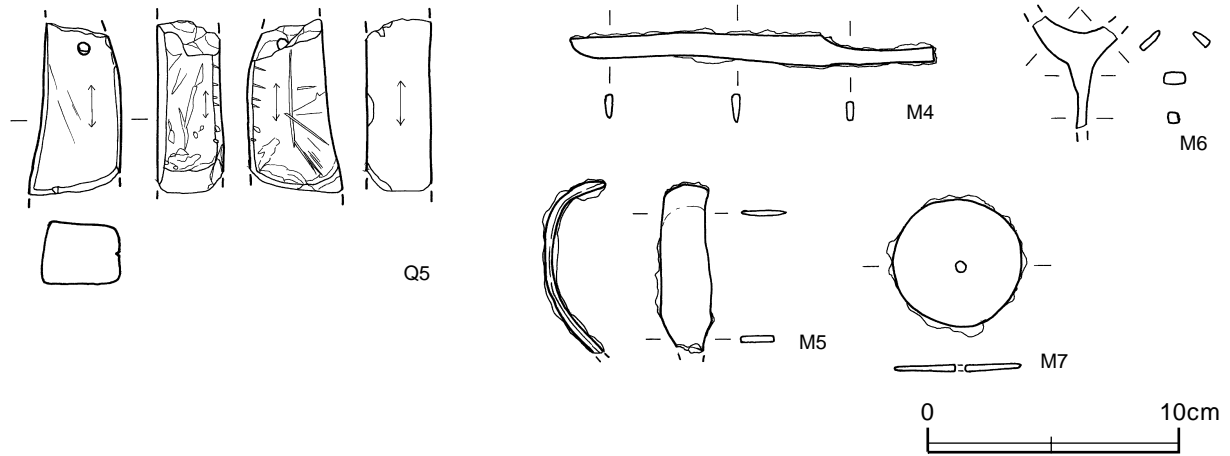
第64图 第4号住居跡実測图

遺物出土状況 土師器片775点（坏類45，高台付坏4，高台付皿3，甕類723），須恵器片153点（坏類85，蓋5，甕類53，短頸壺10），石器1点（砥石），金属器・金属製品4点（刀子，鎌，紡錘車，槍鉋カ）が出土している。43は中央部やや西壁寄りの覆土下層，44は西壁際で南西コーナー寄りの床面，53は同じく覆土下層から，それぞれ出土している。45は竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。M4・Q5は南東コーナー部の覆土下層，M5は同じく覆土上層，M6・M7は中央部でやや北東コーナー寄りの覆土下層から，それぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第65図 第4号住居跡出土遺物実測図（1）



第66図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)

第4号住居跡出土遺物観察表(第65・66図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
42	土師器	椀カ	[14.2]	(4.7)	-	長石・石英・赤色 長粒子	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ 内面へら磨き	竈覆土中	30%
43	土師器	高台付皿	-	(2.8)	[7.6]	長石・石英・黒色 長粒子	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ 底部回転へら削り 後高台貼付 内面へら磨き	覆土下層	30%
44	土師器	高台付皿	[12.8]	3.3	[5.7]	長石・石英・黒色 長粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部回転へら削り後高台貼付 体部外面下端回転へら削り	床面	40%
45	土師器	甕	[22.0]	(19.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面縦位のへら削り 内面輪積痕 内面へらナデ	竈 覆土下層	40%
46	土師器	甕	[21.4]	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面へら削り後ナデ	貯蔵穴 覆土下層	10%
47	土師器	甕	[19.6]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	貯蔵穴 覆土下層	10%
48	土師器	甕	-	(1.7)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下端へら削り	床面	10%
49	土師器	坏	[12.8]	4.1	6.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	ロクロナデ 体部外面下端・底部回転へら削り 内面へら磨き	覆土中	30%
50	須恵器	坏	[14.2]	4.6	[5.6]	長石	灰黄	普通	ロクロナデ 体部外面下端手持ちへら削り	覆土下層	20%
51	須恵器	盤カ	-	(1.4)	9.2	長石・石英	灰オリーブ	普通	内・外面ロクロナデ 底部回転へら削り 後高台貼付	覆土下層	10% 底部へら記号
52	須恵器	甌	[33.0]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内・外面ロクロナデ 外面横位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	5%
53	須恵器	短頸壺	-	(4.0)	16.0	長石・石英	灰白	普通	内・外面ロクロナデ 底部回転へら削り 後高台貼付	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	砥石	(6.8)	3.7	2.7	(88.5)	凝灰岩	提砥 砥面4面 上端部に孔あり	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	刀子	14.5	1.3	0.2	11.0	鉄	ほぼ完存 棟関のみ	覆土下層	PL46
M5	槍砲カ	(6.7)	2.1	0.3	(11.7)	鉄	茎部欠損	覆土上層	PL47
M6	鏃	(4.4)	(3.4)	0.5	(6.3)	鉄	雁股形 切先・茎部欠損	床面	PL47

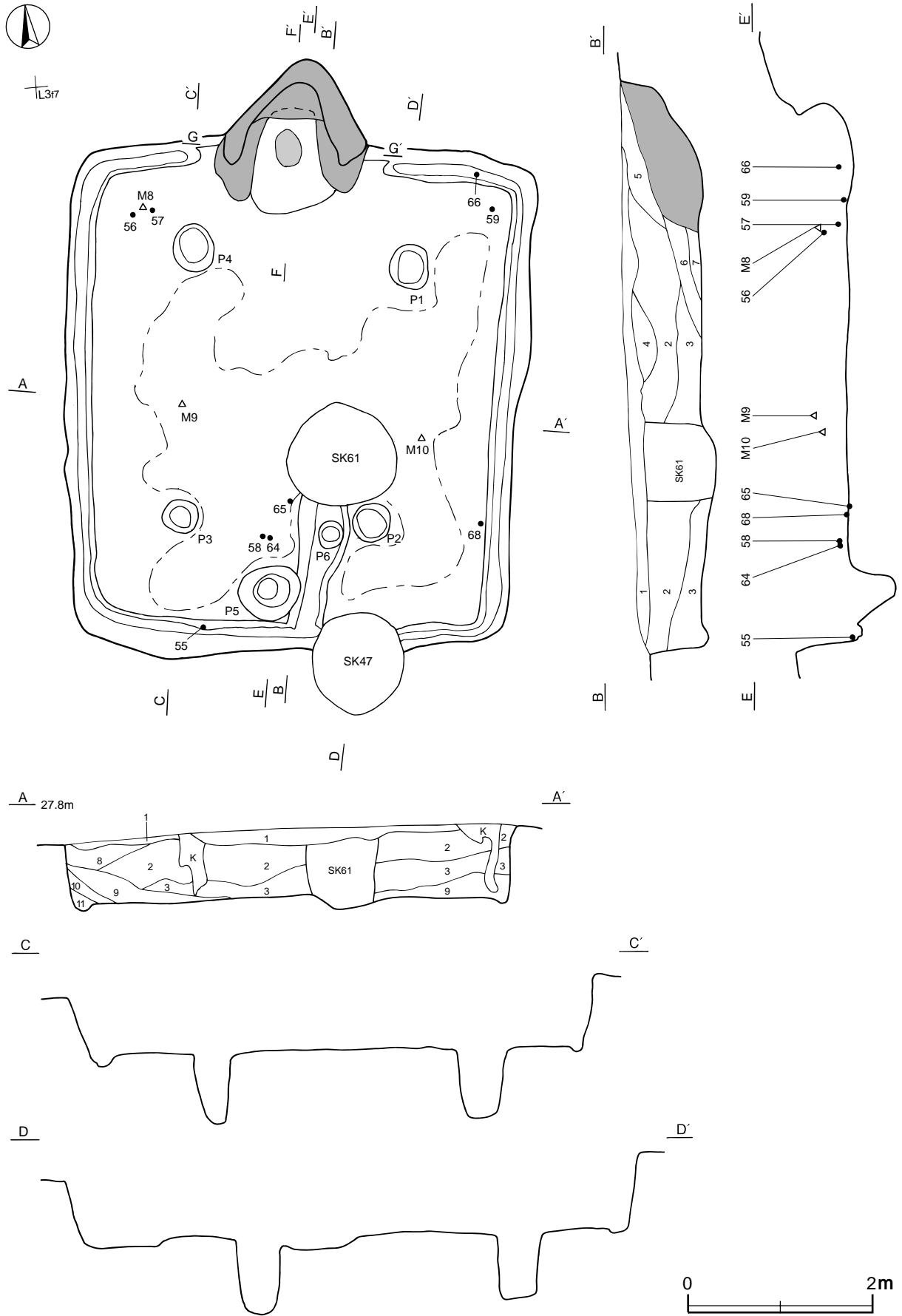
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	紡錘車	5.0	0.5	0.3	25.3	鉄	軸部欠損	床面	PL47

第5号住居跡(第67~70図)

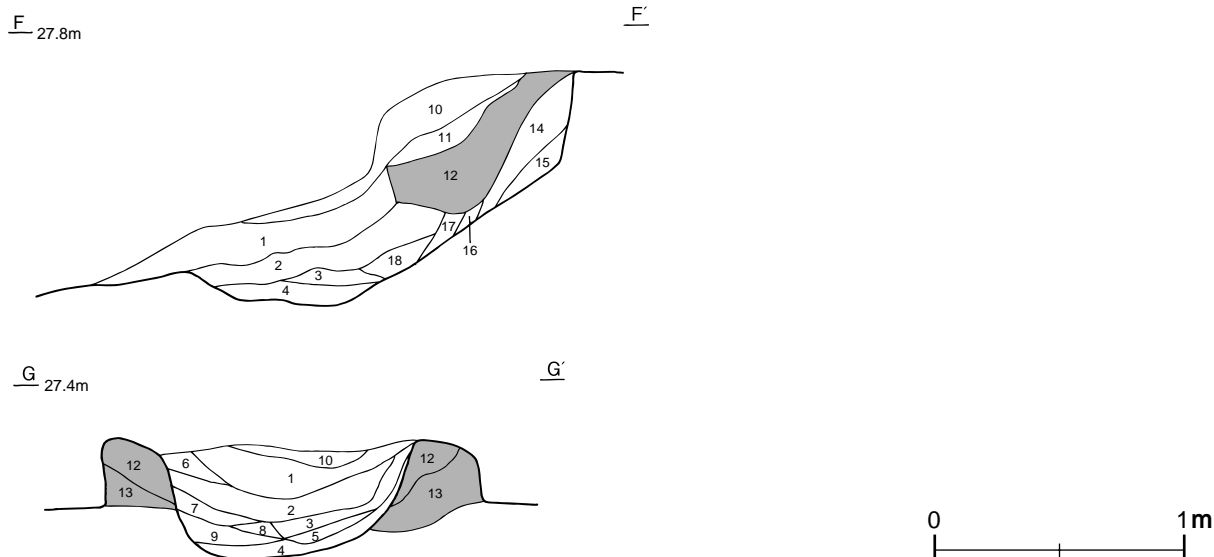
位置 調査A区のL3f7区, 標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

重複関係 南壁が第47号土坑に, 中央部が第61号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.60m, 短軸4.90mの長方形で, 主軸方向はN-10-Eである。壁高は62~82cmで, 外傾して立ち上がっている。



第67图 第5号住居跡実測图(1)



第68図 第5号住居跡実測図(2)

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が、竈の両脇を除き周回している。南壁から中央部に向かって、間仕切り溝と考えられる溝が1条検出されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで163cm、袖部幅155cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面から20cm掘りくぼめており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に85cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量	10	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
2	にぶい黄褐色	ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
3	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	12	褐色	粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量	13	褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	14	にぶい赤褐色	焼土ブロック少量, ロームブロック・粘土粒子微量
6	にぶい黄褐色	粘土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量	15	にぶい赤褐色	ローム粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量	16	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
8	赤褐色	焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量	17	暗赤褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量	18	暗赤褐色	焼土ブロック中量, 炭化粒子少量

ピット 6か所。P1～P4は深さ68～75cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ45cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ18cmで、性格は不明である。

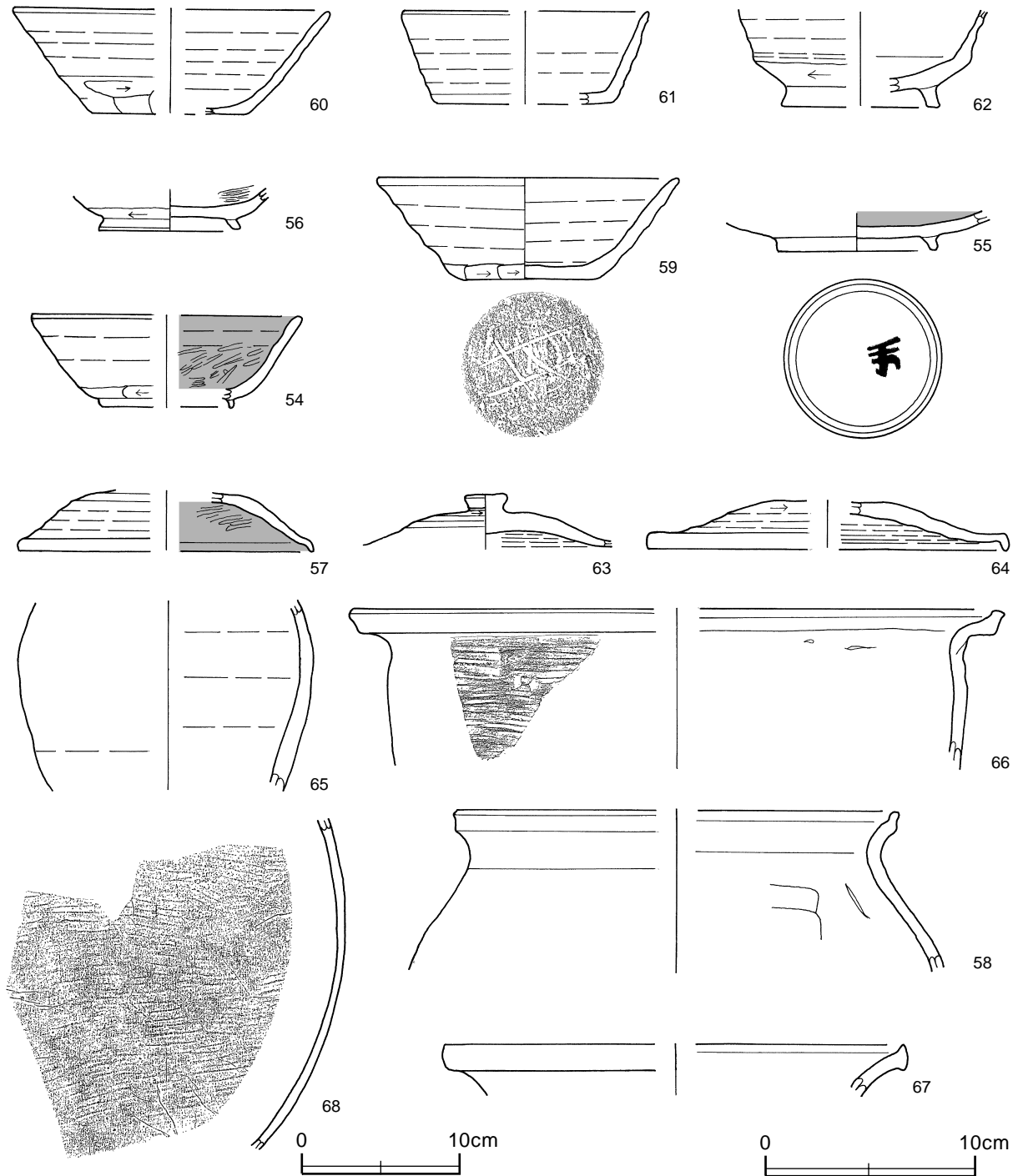
覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

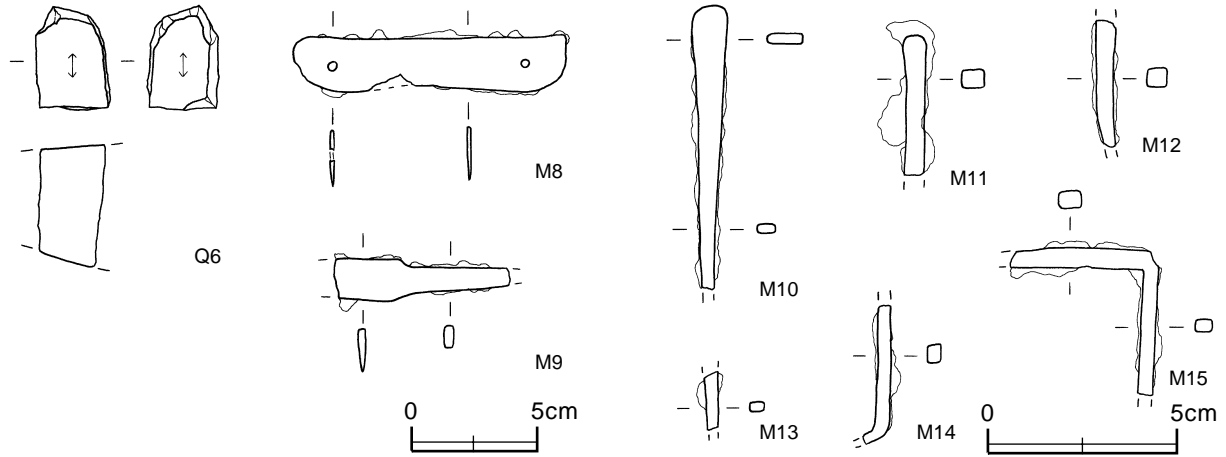
1	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子・鹿沼パミス微量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化物微量
4	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片1288点（坏類101，高台付坏7，高台付皿1，蓋2，甕類1176，甌1），須恵器片241点（坏類126，高台付坏6，蓋17，盤2，高台付皿3，甕類86，瓶1），石器1点（砥石），金属器・金属製品8点（刀子1，手鎌1，門金具カ1，鎌カ2，釘3）が出土している。55は墨書土器で，南壁際の覆土下層から逆位で出土している。59は北東コーナー部の床面から正位で，66は同じく覆土下層，64・65は中央部の覆土下層から，それぞれ出土している。M8は北西コーナー部，M9は中央部，M10は東壁際の，それぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第69図 第5号住居跡出土遺物実測図(1)



第70図 第5号住居跡出土遺物実測図(2)

第5号住居跡出土遺物観察表(第69・70図)

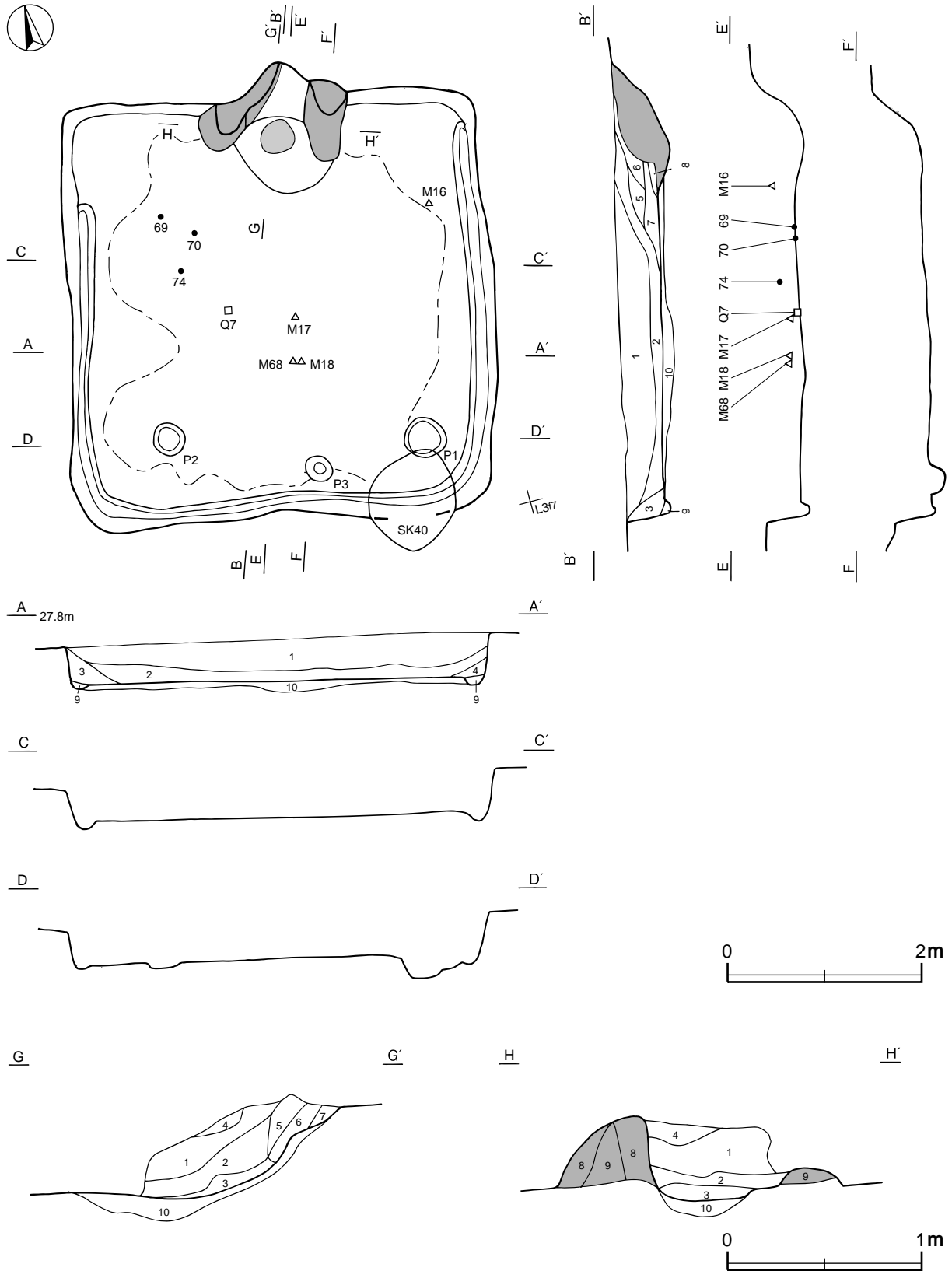
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
54	土師器	高台付坏	12.8	4.3	[6.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	ロクロナデ 体部外面下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土中	10%
55	土師器	高台付皿	-	(1.8)	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	30% 墨書「J」 PL38
56	土師器	高台付坏	-	(2.0)	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付 黒色処理の痕跡	覆土中層	20%
57	土師器	蓋	[13.8]	(2.8)	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ	覆土下層 覆土中	20%
58	土師器	甗	[20.8]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ状工具痕	覆土下層 覆土中	10%
59	須恵器	坏	14.4	4.8	6.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	床面	70% ヘラ記号 PL32
60	須恵器	坏	[14.8]	5.0	[7.4]	長石・石英	灰	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土中	20%
61	須恵器	坏	[11.6]	4.4	[8.4]	長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	10%
62	須恵器	高台付坏	-	(4.5)	[7.4]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 高台貼付	竈覆土中	10%
63	須恵器	蓋	-	(2.6)	-	長石・黒色粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
64	須恵器	蓋	[17.0]	(2.3)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	20%
65	須恵器	瓶	-	(9.0)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面ロクロナデ	覆土下層	10%
66	須恵器	甗	[31.0]	(7.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	口縁部内・外面ロクロナデ 体部外面横位の平行叩き 内面ナデ	覆土下層	10%
67	須恵器	甗	[21.8]	(2.3)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部内・外面ロクロナデ	覆土中 竈覆土中	10%
68	須恵器	甗	-	(20.8)	-	長石・石英	灰黄	普通	体部外面横位の平行叩き	床面	10% 自然釉付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	砥石	(4.1)	(2.9)	4.8	(81.1)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	手鎌	10.8	2.3	0.1	16.0	鉄	両端に穴(目釘穴)あり	覆土中層	PL48
M9	刀子	(7.0)	1.7	0.4	(10.3)	鉄	切先・茎部欠損 両関とも緩やか	覆土中層	PL46
M10	鎌カ	(7.5)	1.0	0.3	(5.5)	鉄	長頸鎌 茎部欠損 鎌身部・籠被断面長方形	覆土中層	PL47
M11	鎌カ	(3.7)	1.7	0.5	(5.3)	鉄	長頸鎌 籠被部・茎部欠損	覆土中	PL47
M12	釘	(3.4)	0.6	0.5	(2.2)	鉄	頭部・脚部欠損 断面方形	覆土中	
M13	釘カ	(1.6)	0.4	0.2	(0.6)	鉄	頭部・脚部先端欠損 断面長方形	覆土中	
M14	釘	(3.7)	0.4	0.5	(2.3)	鉄	頭部・脚部先端欠損 断面長方形	覆土中	
M15	門金具カ	(4.0)	0.6	0.4	(5.6)	鉄	断面長方形	覆土中	

第6号住居跡 (第71~73図)

位置 調査A区のL3e6区、標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。



第71図 第6号住居跡実測図

重複関係 南壁が第40号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.38m、短軸4.35mの方形で、主軸方向はN-13-Eである。壁高は34~43cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際とコーナーを除き広く踏み固められている。貼床は中央部を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が、北西コーナーと北壁を除き周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで132cm、袖部幅150cmである、袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を14cm掘りくぼめて、暗褐色土を埋め戻して構築されている。火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に36cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 灰褐色	ローム粒子・砂粒少量	7 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	8 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	砂質粘土粒子少量
4 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量		
6 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 3か所。P3は深さ20cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P1・P2は深さ19cm・8cmと浅く、性格は不明である。

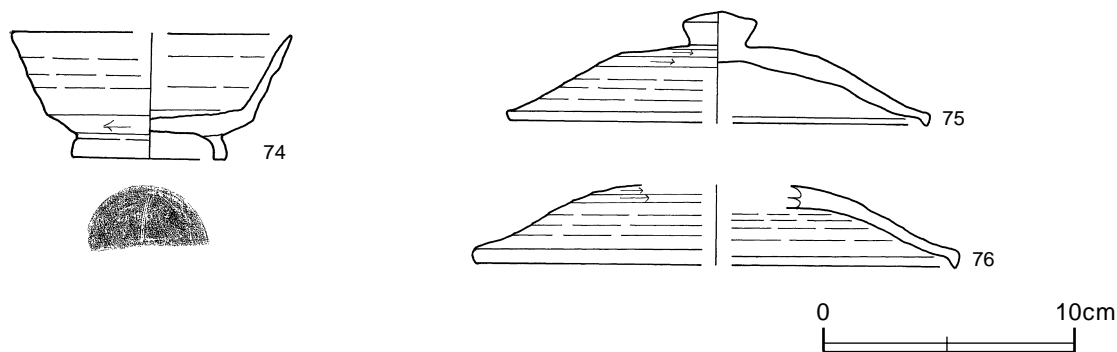
覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第10層は貼床の構築土である。

土層解説

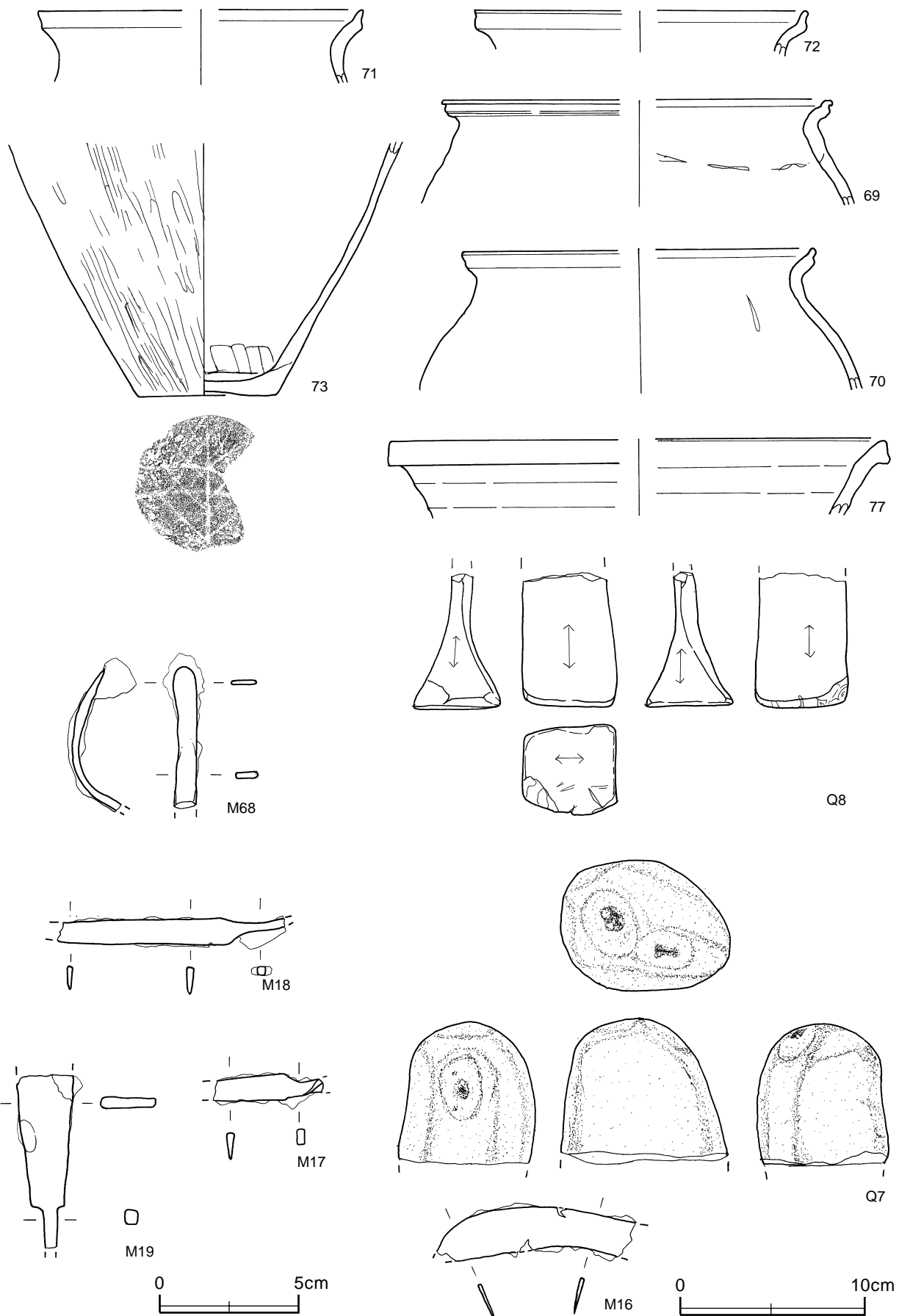
1 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	6 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量
5 褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片241点（坏類5、高台付坏1、蓋1、甕類234）、須恵器片79点（坏類38、高台付坏1、蓋28、甕12）、石器2点（砥石、敲石）、金属器・金属製品5点（鎌1、鎌1、刀子1、不明2）が出土している。74は中央部の覆土中層、69・70は中央部でやや北西コーナー寄りの床面、Q7は中央部の床面、M17・M18・M68は中央部の覆土下層、M16は北東コーナー部の覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第72図 第6号住居跡出土遺物実測図(1)



第73图 第6号住居跡出土遺物実測図(2)

第6号住居跡出土遺物観察表 (第72・73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
69	土師器	甕	[21.0]	(5.5)	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面輪積痕	床面	10%
70	土師器	甕	[19.2]	(7.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラ状工具 痕	床面	10%
71	土師器	甕	[17.4]	(3.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土中	10%
72	土師器	甕	[17.8]	(2.1)	-	長石・石英・赤色 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%
73	土師器	甕	-	(13.6)	7.6	長石・石英・赤色 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 体部内面ヘラ ナデ 輪積痕	覆土中	30%
74	須恵器	高台付杯	[11.0]	5.0	6.0	長石・石英・赤色 粒子	灰オリーブ	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	覆土中層	50% ヘラ記号 PL34
75	須恵器	蓋	[16.6]	4.4	-	長石・石英・黒色 粒子	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20% 自然釉付着
76	須恵器	蓋	[19.0]	(3.2)	-	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
77	須恵器	甕	[26.8]	(4.1)	-	長石・石英	黄灰	普通	内・外面口クロナデ	掘り方	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	敲石	(7.7)	9.0	7.2	(671.0)	安山岩	上端部・左側面に敲打痕あり	床面	PL44
Q8	砥石	(7.3)	5.1	4.8	(140.9)	凝灰岩	砥面5面	覆土中	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M16	鎌	(10.7)	2.3	0.2	(20.1)	鉄	刃部先端一部欠損 基部欠損	覆土中層	PL48
M17	刀子	(3.8)	0.9	0.3	(3.3)	鉄	切先・茎部欠損 棟間緩やか 茎部捻れている	覆土下層	
M18	刀子	(8.2)	1.0	0.35	(6.8)	鉄	切先・茎部欠損 両側とも緩やか	覆土下層	PL46
M19	鎌	(6.1)	2.1	0.3	(12.0)	鉄	籠被部が闊から逆三角形に広がる 鎌身部断面幅広	覆土中	PL47
M68	鎌カ	(5.1)	0.9	0.4	(6.3)	鉄	長茎鎌カ 茎部欠損 鎌身部・籠被部断面長方形	覆土下層	PL47

第7号住居跡 (第74・75図)

位置 調査A区のL3g0区、標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と形状 長軸2.60m、短軸2.10mの長方形で、主軸方向はN-20°-Eである。壁高は75~86cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の前から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで80cm、袖部幅95cmである。袖部は、床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を6cm掘りくぼめており、火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に20cmほど掘り込み、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 6 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、炭化物少量 | 7 褐色 | 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、砂質粘土粒子少量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量、炭化物微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子・鹿沼パミス微量 | | |

覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

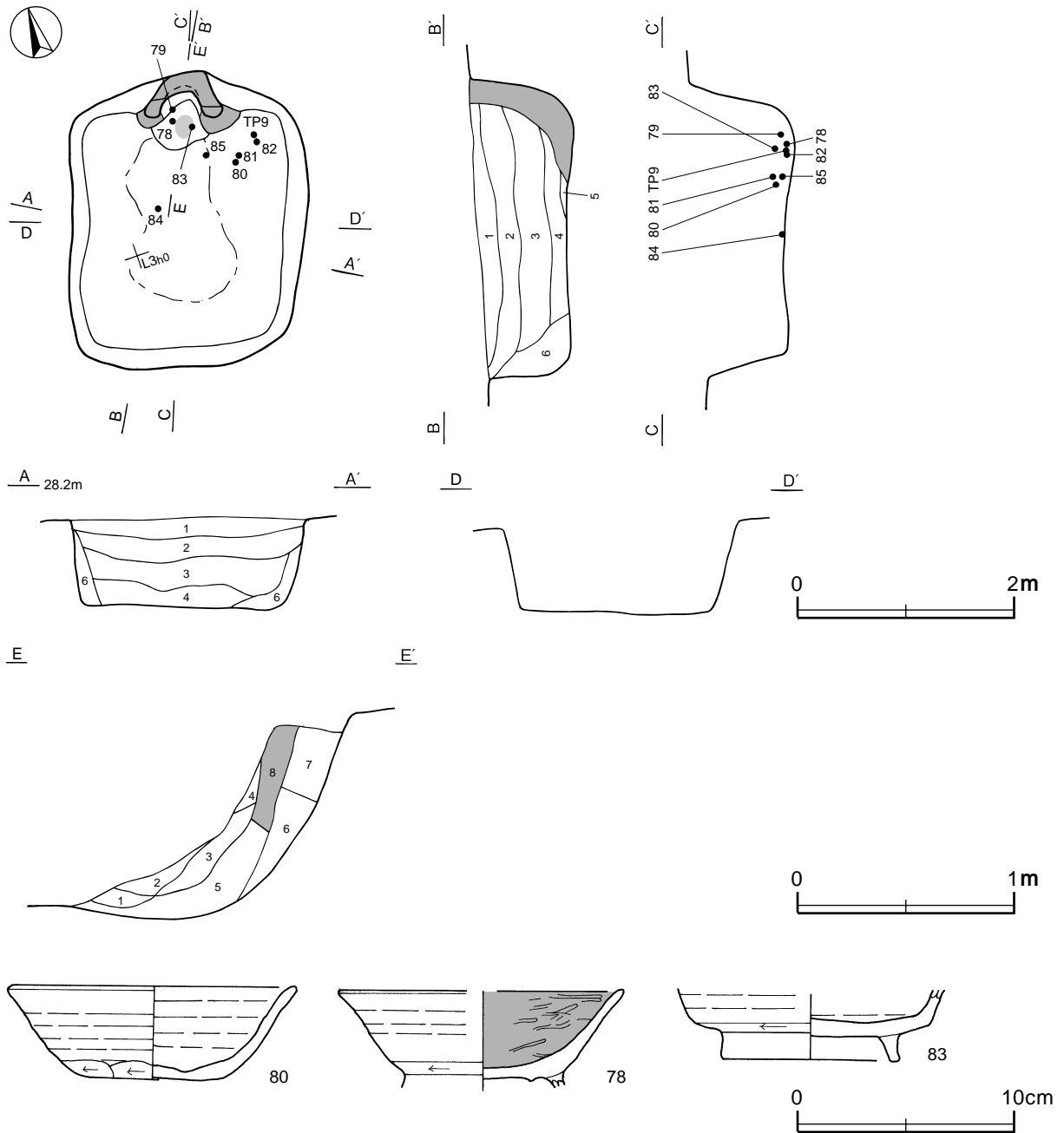
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック多量、鹿沼パミス少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化物・鹿沼パミス少量 | | |

4 黒褐色 ロームブロック多量,炭化物中量,鹿沼パミス少量
 5 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子多量,鹿沼パミス少量

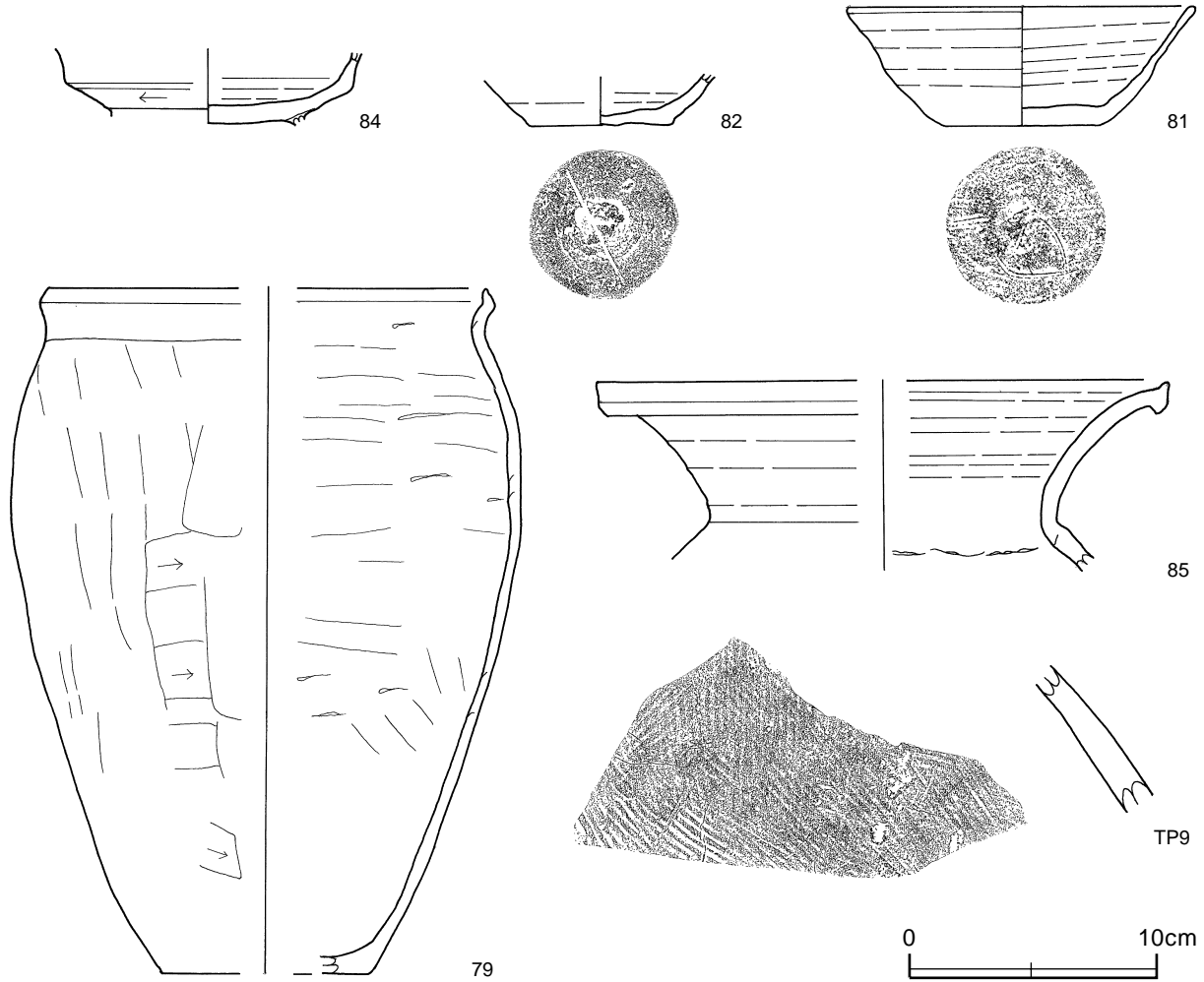
6 暗褐色 ロームブロック多量,炭化物微量

遺物出土状況 土師器片118点(坏類16, 高台付坏1, 高台付皿1, 甕類100), 須恵器片43点(坏類28, 高台付坏4, 蓋1, 盤1, 甕9), 粘土塊2点が出土している。84は中央部の床面から逆位で, 80・81は北東コーナー部の床面近くから重なった状態で, それぞれ出土している。78・83は逆位で, 79は横位でつぶれた状態で, いずれも竈の覆土下層から出土している。

所見 周囲の住居跡と比べて極めて規模が小さいが, 掘り込みは深い。時期は, 出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第74図 第7号住居跡・出土遺物実測図



第75図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第74・75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
78	土師器	高台付坏	[13.0]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付 内面ヘラ磨き	竈下層	40%
79	土師器	甗	[17.6]	27.7	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り後ナデ 体部内面ヘラナデ 輪積痕	竈下層	50%
80	須恵器	坏	13.1	4.4	6.2	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL32
81	須恵器	坏	13.8	4.8	6.4	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土下層	80% PL32
82	須恵器	坏	-	(2.3)	5.9	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土下層	35% ヘラ記号
83	須恵器	高台付坏	-	(3.3)	8.0	長石・石英	オリーブ灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部ヘラ削り後高台貼付	竈下層	40%
84	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	-	長石・石英	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	30%
85	須恵器	甗	[22.8]	(7.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面口クロナデ 内面輪積痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP9	須恵器	甗	-	(5.8)	-	長石	オリーブ灰	普通	外面斜位の平行叩き 内面指頭圧痕	覆土下層	

第8号住居跡 (第76・77図)

位置 調査A区のL4c1区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 北西壁が第23号土坑に、南西壁が第46号土坑に掘り込まれている。東側は調査区域外である。

規模と形状 長軸5.17m、短軸4.90mほどの方形と推測される。主軸方向はN-37°-Eである。壁高は62cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、コーナー部と壁際を除いて踏み固められている。壁溝が北西壁際で確認された。

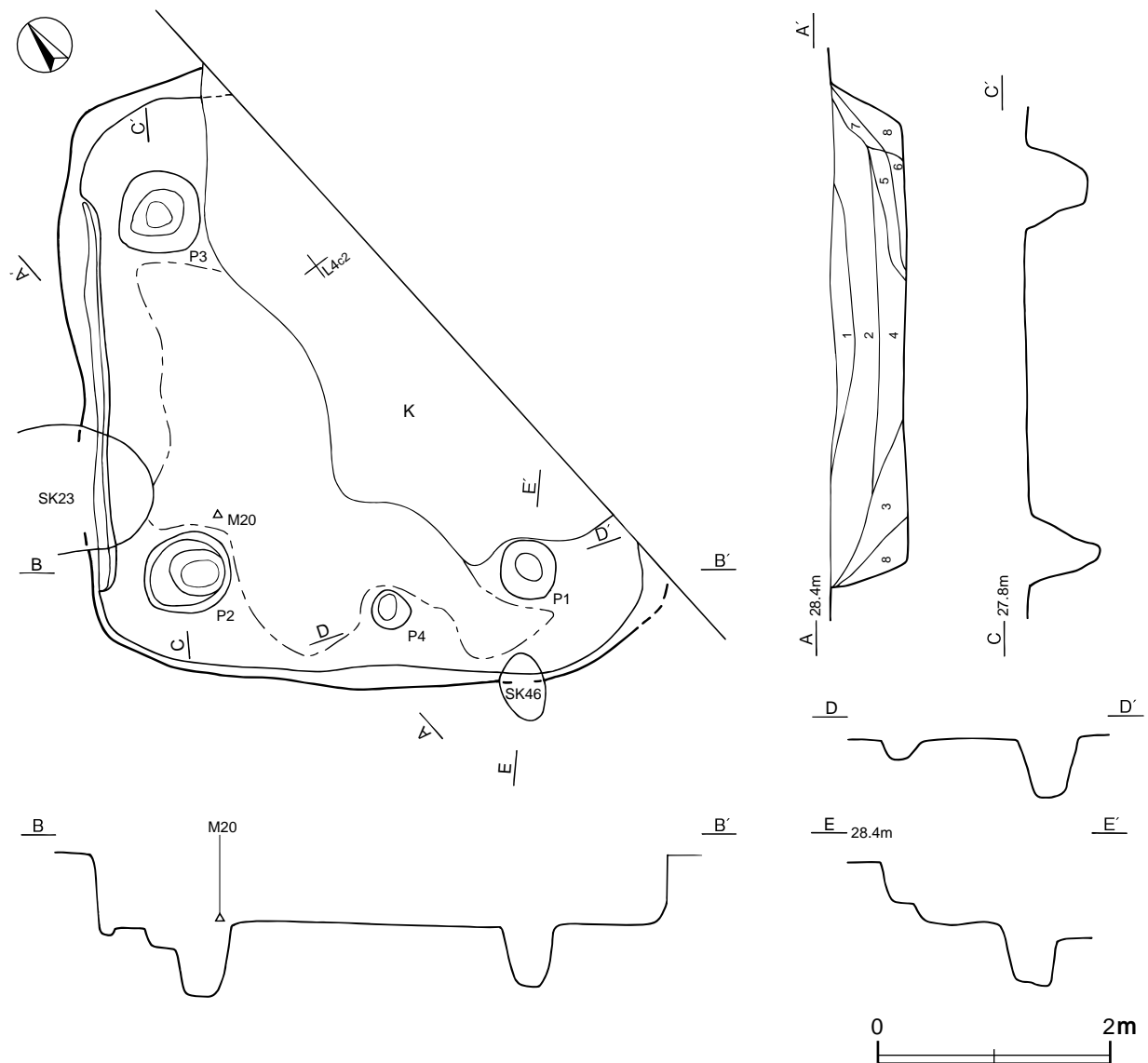
ピット 4か所。P1～P3は深さ50～60cmで、支柱穴と考えられる。P4は深さ15cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 6 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (3より締まりが強い) |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (ローム中ブロックを含む) |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

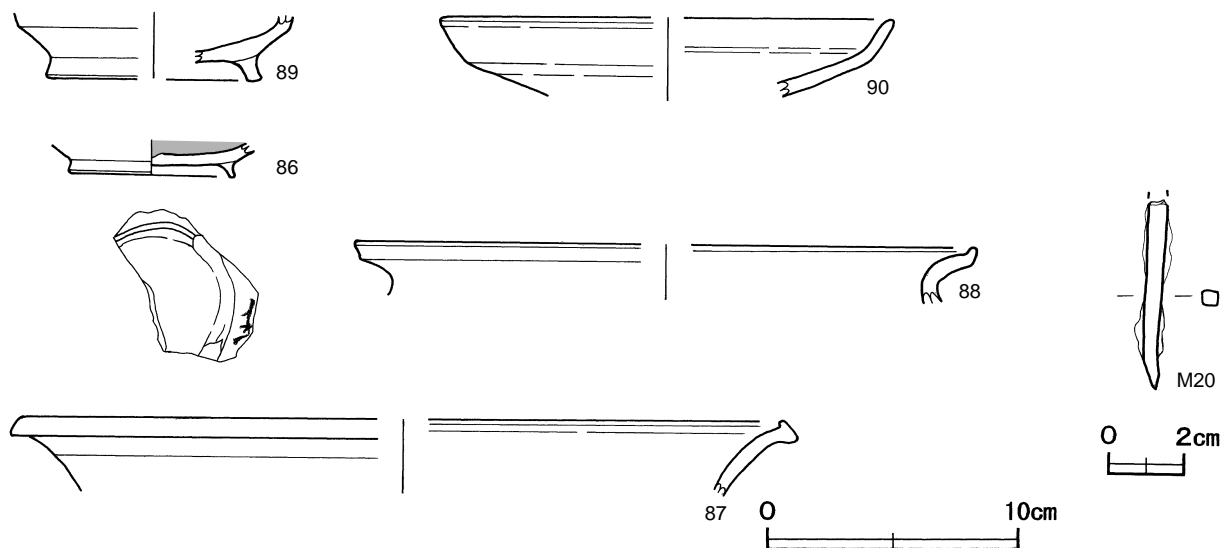
遺物出土状況 土師器片128点 (高台付坏1, 甕類127), 須恵器片27点 (坏類10, 高台付坏2, 蓋5, 高台付皿1, 甕9), 金属製品1点 (釘) が出土している。M20は中央部で西コーナー寄りの覆土下層から出土して



第76図 第8号住居跡実測図

いる。86～90は覆土中からの出土である。86の墨書土器は混入と考えられる。

所見 東半分が調査区域外であり竈を確認することができなかったが、P4を出入り口施設に伴うピットと想定すれば北東壁際に付設されていると推測される。時期は、住居の形態や軸線が第1号住居跡に類似していることや出土土器から、8世紀中葉頃と考えられる。



第77図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表 (第77図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
86	土師器	高台付坏カ	-	(1.4)	6.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付 内面ヘラ磨き	覆土中	10% 墨書「r」
87	土師器	甌カ	[30.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%
88	土師器	甕	[24.6]	(2.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%
89	須恵器	高台付坏	-	(2.6)	[8.4]	石英	灰	普通	高台貼付	覆土中	10%
90	須恵器	盤	[18.0]	(3.1)	-	長石・石英・赤色 粒子	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M20	釘	(5.0)	0.5	0.5	(3.6)	鉄	頭部欠損 断面方形	覆土下層	

第9号住居跡 (第78・79図)

位置 調査E区のJ7f3区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.26m、短軸3.25mの方形で、主軸方向はN-30°-Eである。壁高は28~29cmで、外傾して立ち上がっている。

床 軟弱で中央部がややくぼんでいる。貼床は中央部とコーナー部を深く掘り込み、混じり土の少ないロームを埋土して構築している。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅が108cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、細礫や砂質粘土をわずかに混ぜたローム土で構築されている。火床部は攪乱により確認できなかった。煙道部は壁外へ三角形に60cmほど掘り込み、緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

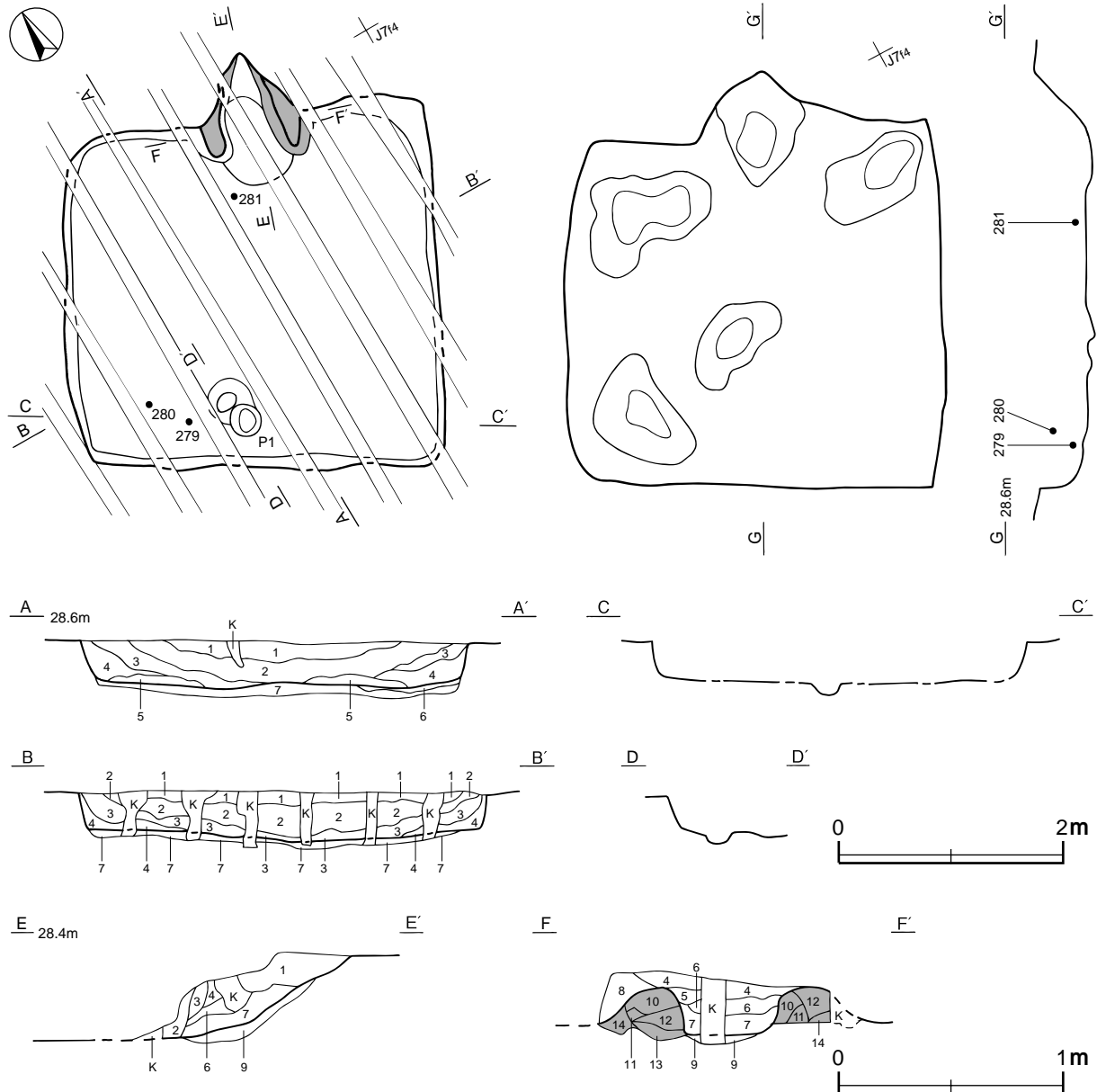
- | | | | | | |
|---|------|---------------------------------|----|-----|--------------------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 8 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 4 | 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 | 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 12 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 13 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 |
| 7 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量 | 14 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |

ピット 深さ7cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。中央部の黒褐色の層が、床面までレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

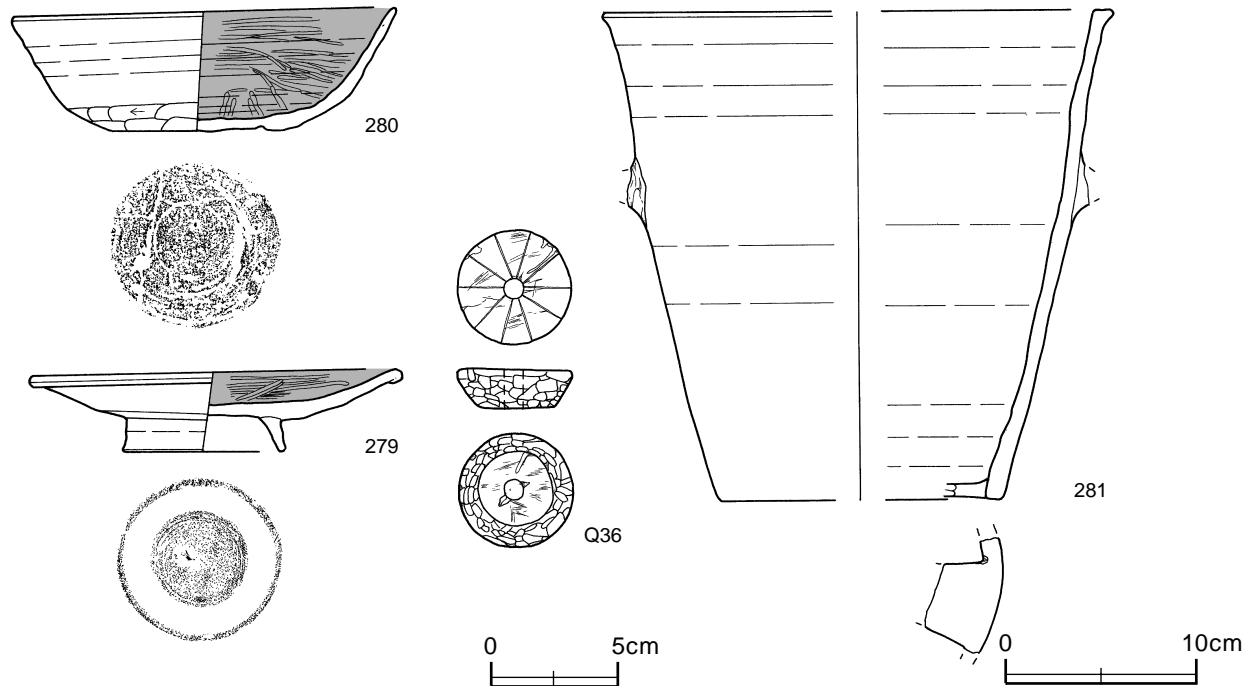
- | | | | | | |
|---|-----|------------------------|---|-----|---------------------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 7 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 4 | 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | | | |



第78図 第9号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片162点（皿1，坏7，甕151，甑3），須恵器片41点（坏31，蓋4，盤1，甕5），石製品1点（紡錘車）が出土している。279は南西壁際の床面から逆位で，281は竈前面の床面から斜位で出土している。いずれも本跡に伴うものと考えられる。280は西コーナー部の覆土上層から出土しており，廃絶後に流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第79図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
279	土師器	高台付皿	14.4	3.5	6.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	良好	底部回転ヘラ切り後高台貼付 内面ヘラ磨き	床面	70% PL35
280	土師器	坏	14.9	4.9	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り 体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土上層	90% PL33
281	土師器	甕	[26.1]	25.4	[14.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 把手部欠損	床面	20%

番号	器種	最大径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q36	紡錘車	4.5	0.8	1.5	50.2	滑石	上面に放射状の線刻有り 両方向からの穿孔 研磨痕を残す	覆土中	PL44

第10号住居跡（第80・81図）

位置 調査E区のJ7g4区，標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.19m，短軸3.12mの方形で，主軸方向はN-40-Eである。壁高は32~40cmで，直立している。

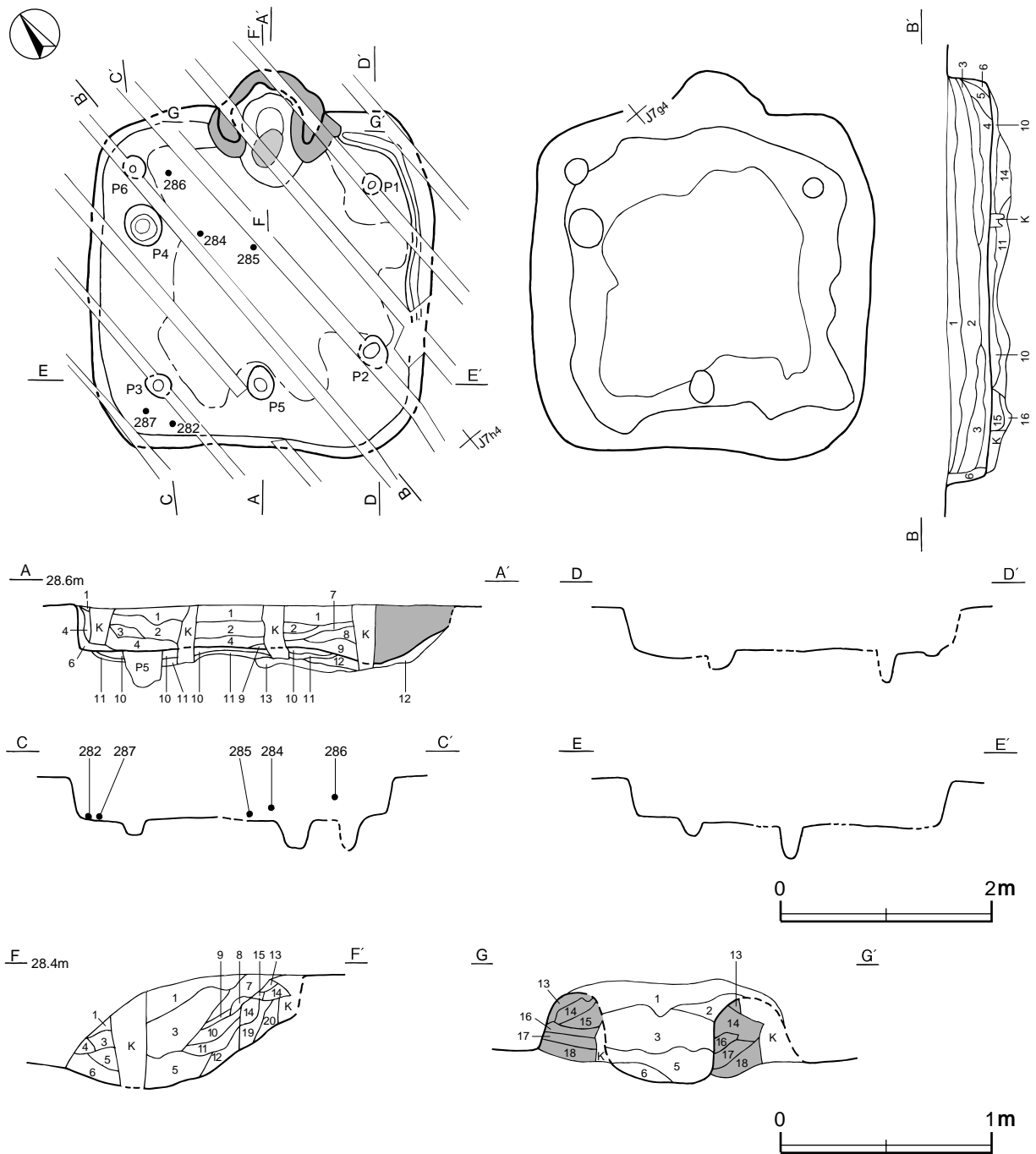
床 平坦で中央部が踏み固められている。貼床は中央部を島状に掘り残すように壁際を深く掘り込み，ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が北東コーナーで確認された。

竈 北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cm，袖部幅118cmである。袖部は地山を

わずかに掘り込み、ローム土の基部の上に細礫を混ぜた砂質粘土で構築されている。火床部は床面を15cmほど掘り込み、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込み、火床面から直立している。また、煙道部内壁まで砂質粘土が貼られている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 炭化物微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 9 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化物微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |



第80図 第10号住居跡実測図

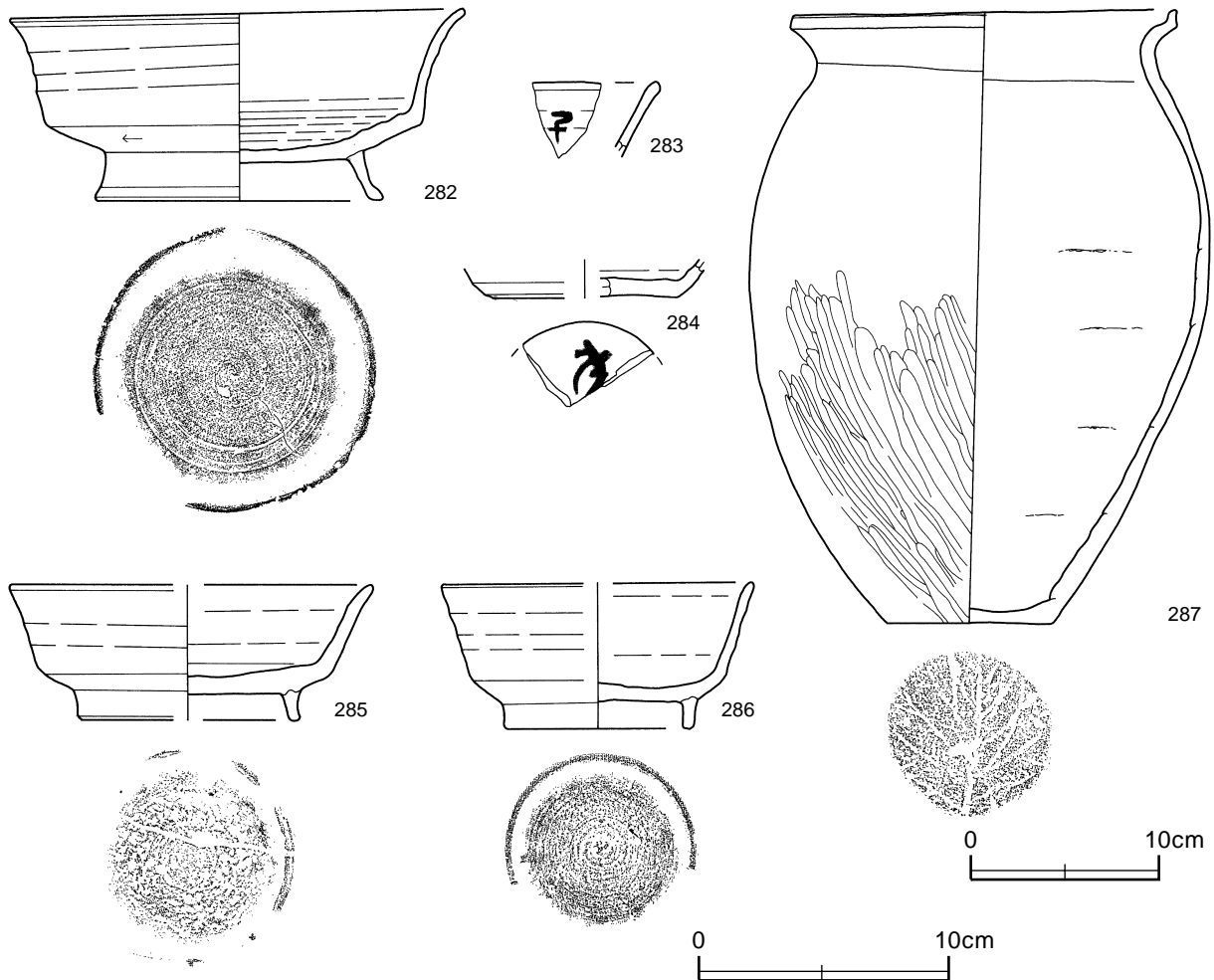
- | | | | |
|-----------|-------------------------------|---------|------------------------------|
| 11 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 12 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 18 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 13 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 19 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 20 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 15 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量 | | |
| 16 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 6か所。P1～P4は深さ16～33cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ33cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ23cmで、性格は不明である。

覆土 9層に分層される。中層に粘土ブロックを含んだ黒褐色の層をはさみ、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。下層には竈の構築材が流れ込んだ様相が確認された。第10～16層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子多量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 12 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 13 褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 極暗褐色 | 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土ブロック微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 15 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 16 黒褐色 | ローム粒子少量 |



第81図 第10号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片161点（坏9，甕152），須恵器片80点（坏45，高台付坏4，蓋3，盤2，壺6，甕20）が出土している。中央部の覆土上層から須恵器片が集中して出土しており，本跡が埋没した段階で廃棄されたものと考えられ，床上の土器と時期差がみられる。282は西コーナー壁際の床上から正位で，287は逆位でそれぞれ出土している。286は竈西側の床面から出土し，底部には朱墨が付着している。283は覆土中，284は覆土下層から出土した墨書土器であるが判読不能である。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表（第81図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
282	須恵器	高台付坏	17.8	7.7	11.4	長石・石英・小礫	灰黄	普通	内・外面口クロナデ 体部下端回転ヘラ削り	床面	60% PL34
283	須恵器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	10% 体部 墨書「」 10% 底部 墨書「」
284	須恵器	坏		(1.5)	[7.4]	長石・石英	灰	良好	内・外面口クロナデ	覆土下層	10% 底部 墨書「」
285	須恵器	高台付坏	[14.3]	5.4	[8.6]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付 体部下端回転ヘラ削り	床面	70% PL34
286	須恵器	高台付坏	[12.2]	5.8	7.3	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	回転ヘラ削り後高台貼付	床面	40% 底部朱墨
287	土師器	甕	19.8	32.3	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ磨き 輪積痕	床面	80% PL35

第11号住居跡（第82～85図）

位置 調査A区のL3c5区，標高27mほど台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

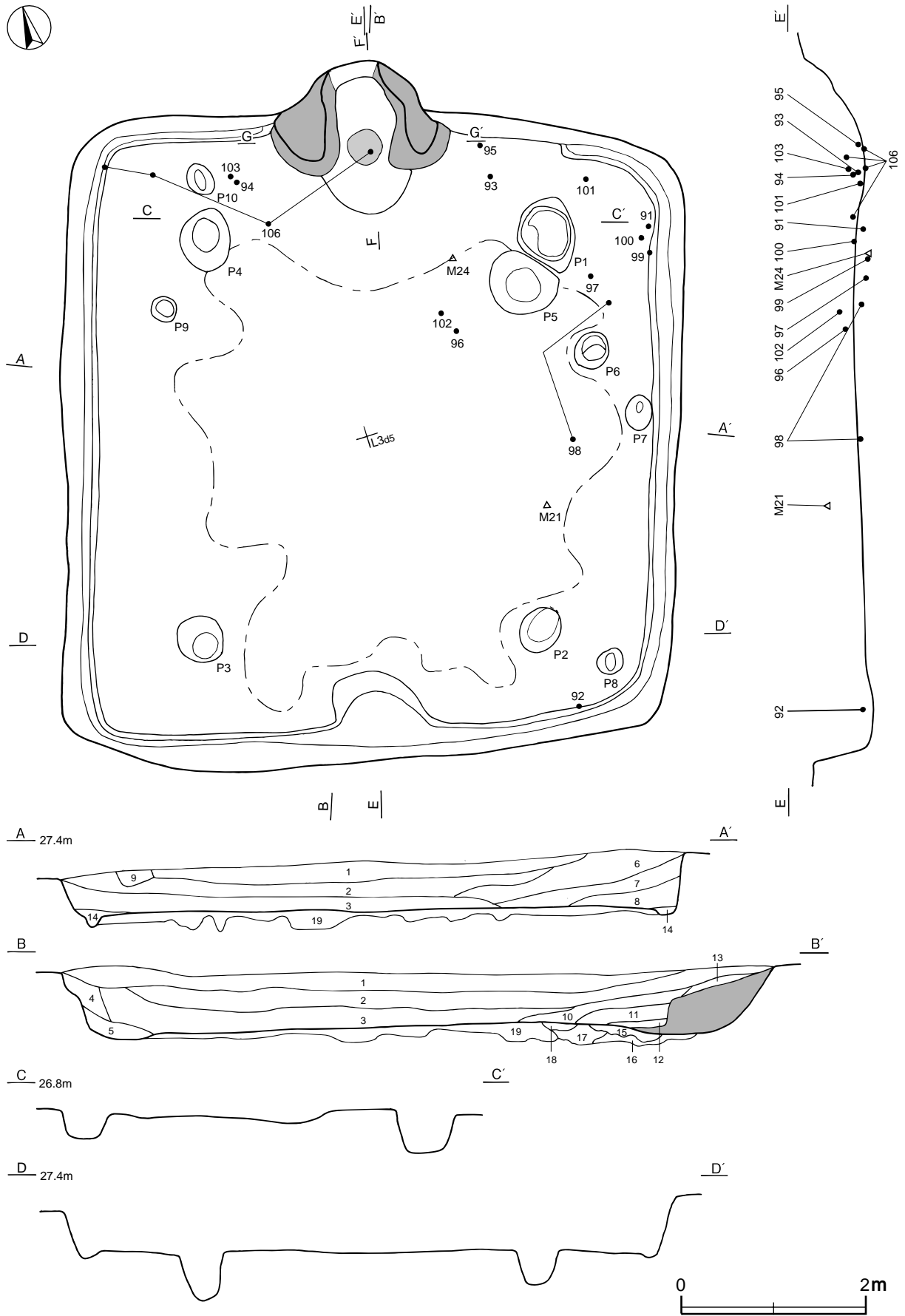
規模と形状 長軸7.00m，短軸6.55mの方形で，主軸方向はN-16-Eである。壁高は53～81cmで，外傾して立ち上がっている。

床 東壁際から南東コーナー寄りがわずかに盛り上がっている。支柱穴の内側が踏み固められている。貼床は竈周辺を深く掘り込み，ロームに砂質粘土粒子を含んだ埋土で構築している。壁溝が竈右袖部脇を除いて周回している。

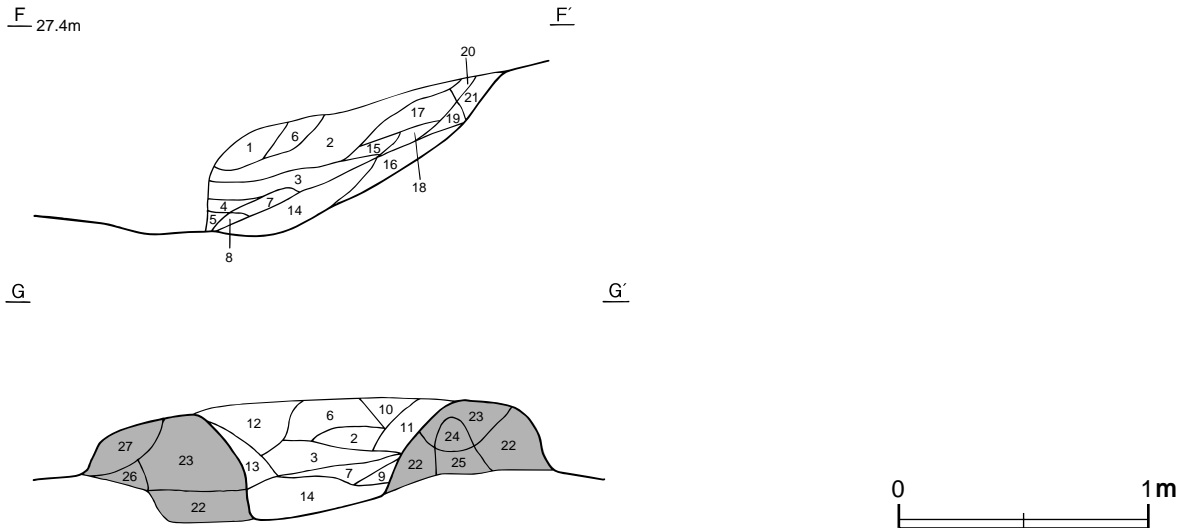
竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで155cm，袖部幅187cmである。右袖部は床面と同じ高さを，左袖部は床面を18cm掘り下げた地山面を基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており，火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に57cm掘り込み，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	15	暗赤褐	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2	灰褐	色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量	16	褐	色	粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗赤褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗褐	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	18	暗赤褐	色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子少量
5	暗褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	19	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
6	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	20	暗褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
7	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	21	暗褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
8	褐	色	焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量	22	暗褐	色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9	暗褐	色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量	23	褐	色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10	灰褐	色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	24	暗褐	色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量
11	暗褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	25	褐	色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量
12	褐	色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子少量	26	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
13	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	27	褐	色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
14	暗褐	色	炭化物・ローム粒子少量				



第82图 第11号住居跡実測图(1)



第83図 第11号住居跡実測図(2)

ピット 10か所。P 1～P 4は深さ27～48cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P 5は支柱穴の可能性が考えられる。P 6～P 10の性格は不明である。南壁際の壁溝は中央部が半円状に広がっており、出入口施設に伴うピットの機能を有していた可能性が考えられる。

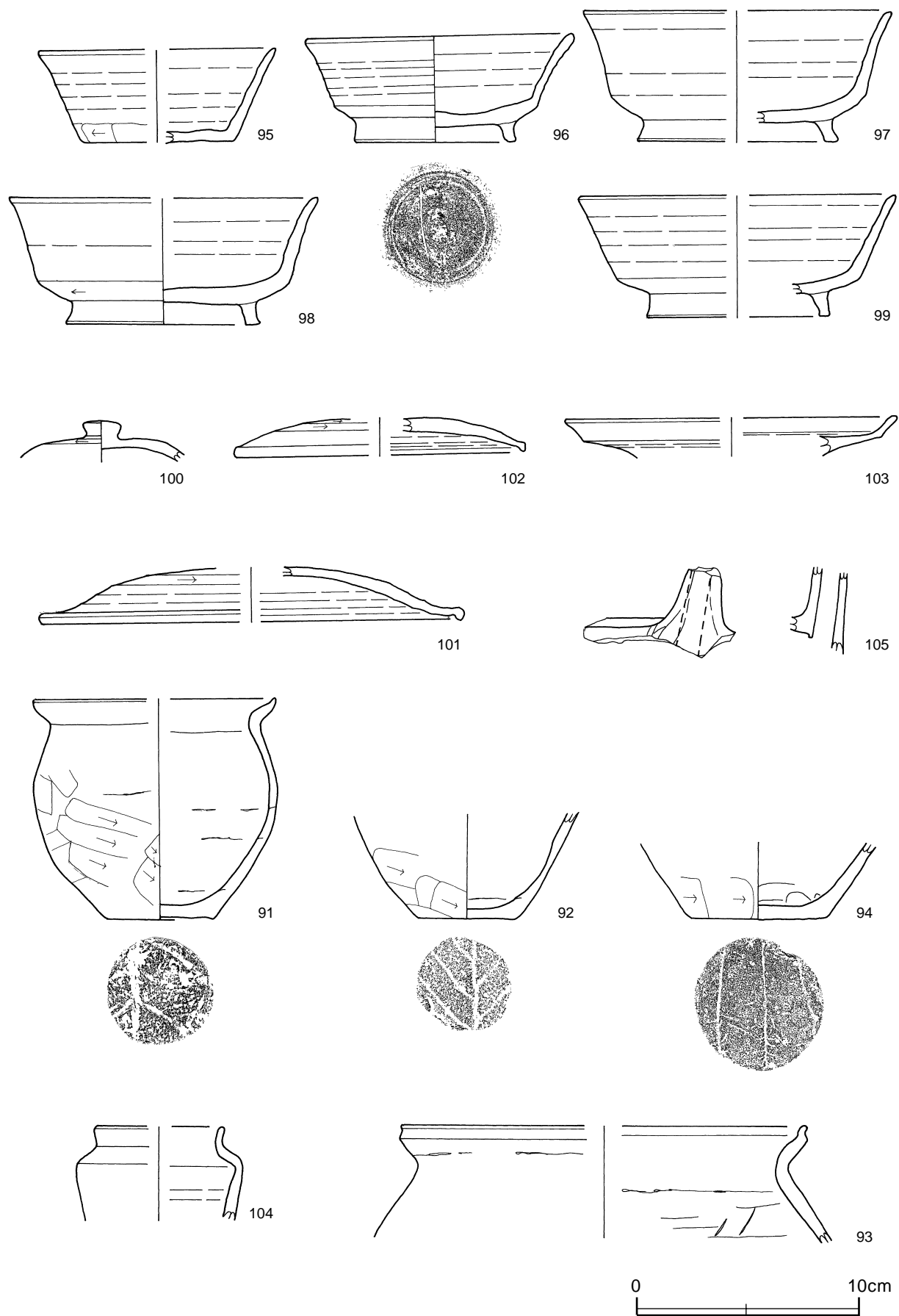
覆土 14層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第15～19層は貼床の構築土である。

土層解説

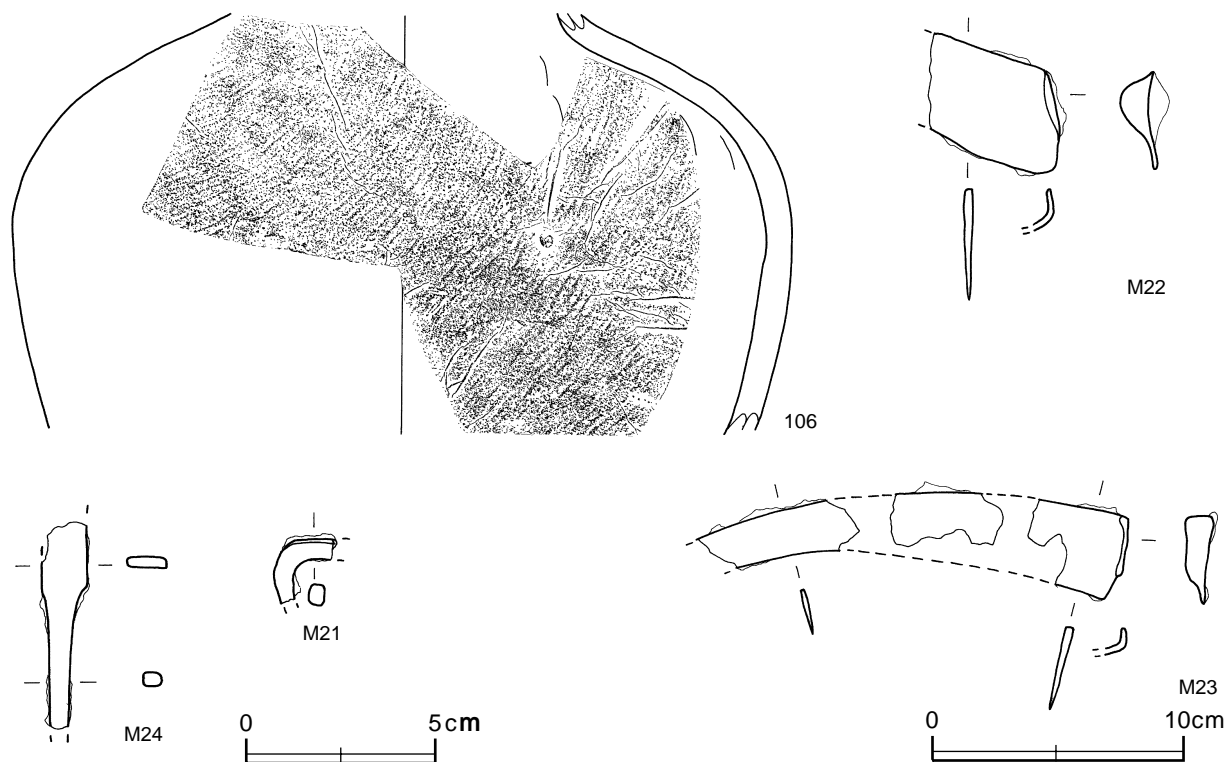
1 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	炭化物中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	13 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
3 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	14 褐色	ロームブロック少量
4 灰褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	15 黒褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ロームブロック微量
5 褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量	16 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子・鹿沼パミス少量
6 褐色	ロームブロック少量	17 褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子・鹿沼パミス少量
7 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	18 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
8 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	19 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子少量
9 黒褐色	ロームブロック少量		
10 褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量		
11 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量		

遺物出土状況 土師器片835点(坏類20, 高台付坏5, 甕類810), 須恵器片630点(坏類444, 高台付坏43, 蓋121, 盤17, 高盤1, 短頸壺1, 注口付瓶カ1, 甌1, 長頸瓶1), 粘土塊17点, 金属器・金属製品4点(鎌2, 鍬カ1, 不明1)が、北壁際と東壁際を中心に廃棄されたような状態で出土している。98は中央部から東壁寄りの床面と中央部から北東コーナー寄りの床面から出土した破片が接合したものである。95は竈右袖脇の床面, 99は北東コーナー部の床面から、それぞれ出土した破片が、覆土中から出土した破片と接合したものである。91は北東コーナー部の床面, 96は中央部の覆土下層から逆位で、それぞれつぶれた状態で出土している。M21は中央部から東壁寄りの覆土中層, M24は竈手前の床面下から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。当遺跡の奈良・平安時代の住居跡のなかでは最大規模のものであり、集落の有力者の住居とも考えられる。



第84图 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第85図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)

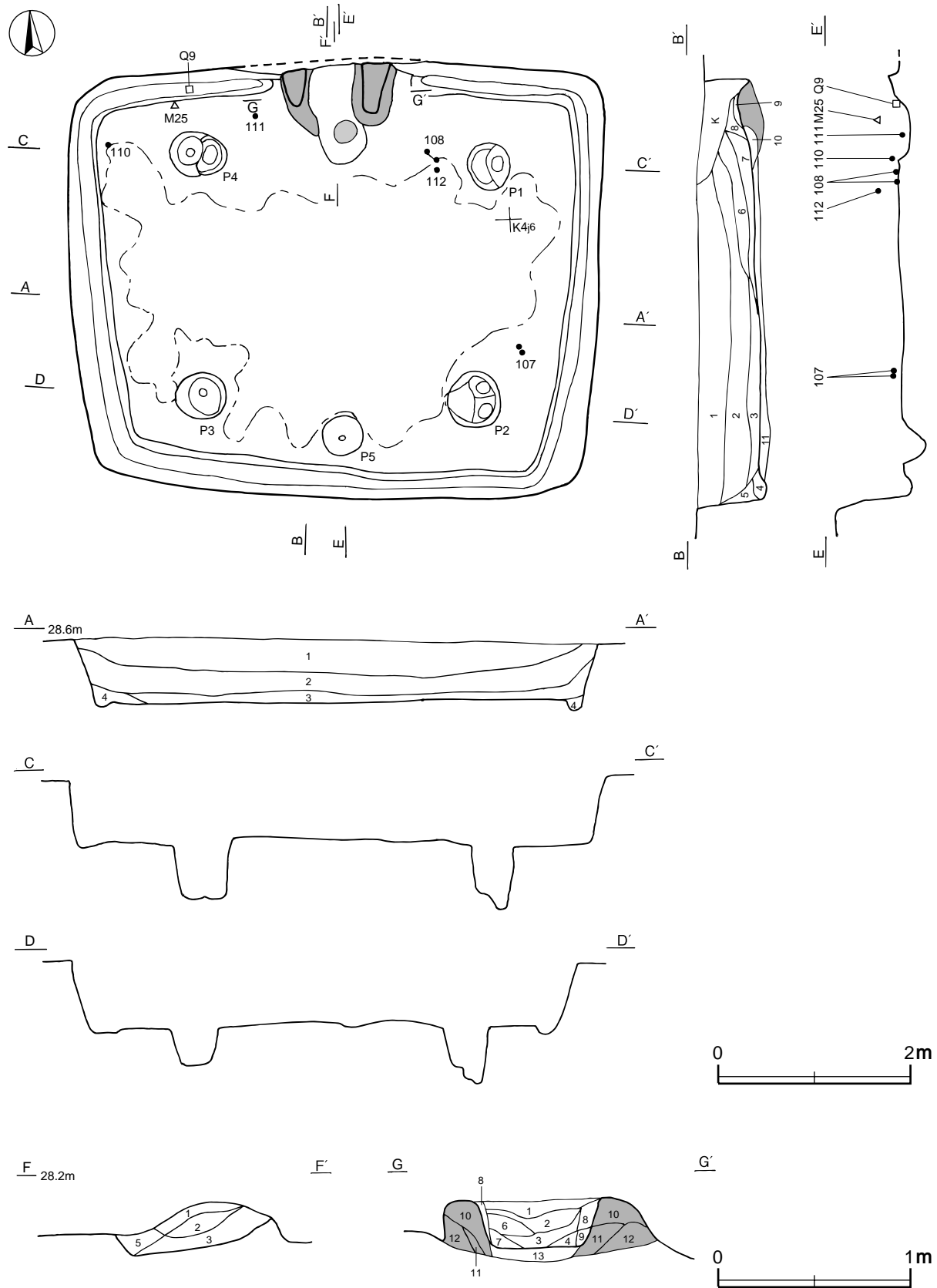
第11号住居跡出土遺物観察表(第84・85図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
91	土師器	小形甕	[12.8]	12.0	5.8	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内・外面輪積痕	床面	70% PL37 底部煤付着
92	土師器	小形甕	-	(5.7)	5.4	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面輪積痕	覆土下層	30% 煤付着
93	土師器	甕	[21.8]	(6.3)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内・外面輪積痕 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
94	土師器	甕	-	(4.2)	7.4	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面下端ヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	30% 底部煤付着
95	須恵器	坏	[12.8]	5.0	[8.2]	長石・石英・ 雲母・黒色粒子	灰白	普通	体部外面下端手持ヘラ削り 底部回転 ヘラ切り後ナデ	床面 覆土中	20%
96	須恵器	高台付坏	14.2	5.9	8.6	長石・石英	オリーブ灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部ヘラ切 り後高台貼付	覆土下層	80% PL34 ヘラ記号「-」
97	須恵器	高台付坏	[16.6]	7.1	[10.8]	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	40%
98	須恵器	高台付坏	[16.6]	6.9	10.4	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 底部回転ヘ ラ削り後高台貼付	床面	40%
99	須恵器	高台付坏	[16.9]	6.6	[9.8]	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ 高台貼付	床面 覆土中	40%
100	須恵器	蓋	-	(2.2)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	10%
101	須恵器	蓋	[22.6]	(3.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	10% 自然釉付着
102	須恵器	蓋	[15.6]	(2.0)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
103	須恵器	盤	[18.0]	(2.1)	-	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%
104	須恵器	短頸壺	[7.0]	(5.1)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	10% 自然釉付着
105	須恵器	注口付瓶カ	-	(4.9)	-	長石・石英	黄灰	普通	注口部 先端欠損	覆土中	10% 自然釉付着
106	須恵器	甕	-	(16.7)	-	長石	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面指頭圧痕 工具痕	竈火床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M21	不明	(1.7)	0.6	0.4	(1.4)	鉄	断面長方形	覆土中層	
M22	鎌	(5.3)	4.2	0.3	(35.0)	鉄	基部残存 端部上端折り返し	覆土中	PL48
M23	鎌	(17.1)	3.5	0.3	(31.1)	鉄	刃部・基部残存 刃部先端欠損 端部上端折り返し	覆土中	PL48
M24	鎌カ	(5.6)	1.2	0.2	(4.9)	鉄	鎌身部欠損 籠被部断面長方形 茎部断面方形	床面	PL47

第12号住居跡 (第86・87図)

位置 調査A区のK4j5区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。



第86図 第12号住居跡実測図

規模と形状 長軸5.50m，短軸4.56mの長方形で，主軸方向はN-4-Eである。壁高は62～69cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，支柱穴の内側が踏み固められている。貼床は全体的に平坦に掘り込み，ロームブロック主体の埋土で構築している。壁溝が竈の両側を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部までで確認できた長さは102cm，袖部幅110cmである。袖部は床面を9cmほど掘り下げて基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめており，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部の壁外への掘り込みは攪乱のため確認できなかった。

竈土層解説

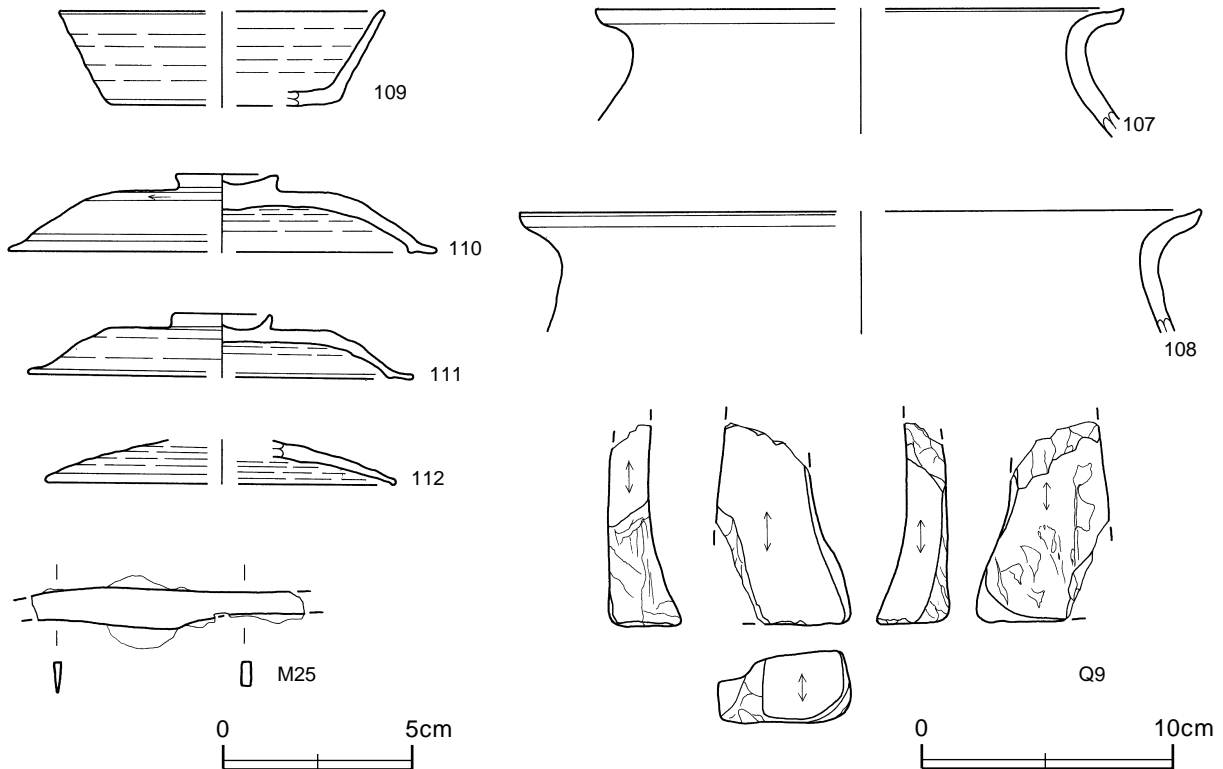
1 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	8 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
2 暗赤褐色	焼土粒子中量，砂質粘土少量，ローム粒子微量	9 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3 暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子微量	10 褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	11 褐色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量 (10より彩度が低い)
5 極暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量	12 灰褐色	砂質粘土粒子・焼土粒子中量，ロームブロック少量
6 暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量	13 暗褐色	炭化物・ローム粒子少量
7 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量		

ピット 5か所。P1～P4は深さ56～61cmで，支柱穴と考えられる。P5は深さ23cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	11 褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
5 褐色	ロームブロック少量		
6 極暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量		
7 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量		



第87図 第12号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片459点（坏類17，蓋1，甕類441），須恵器片88点（坏類53，高台付坏2，蓋18，盤2，甕13），土製品5点（支脚片），石器1点（砥石），金属器1点（刀子）が出土している。110は北西コーナーの覆土下層から逆位で出土している。111は竈左袖部脇の床面と，住居及び竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。Q9は北壁際の覆土下層から，M25は同じく覆土中層から，それぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
107	土師器	甕	[21.0]	(5.1)	-	長石・赤色粒子・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%
108	土師器	甕	[27.0]	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	10%
109	須恵器	坏	[13.0]	3.8	[9.2]	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	覆土中	30%
110	須恵器	蓋	[17.0]	3.1	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	40%
111	須恵器	蓋	[15.4]	2.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	天井部回転ヘラ削り	床面 竈覆土中	30%
112	須恵器	蓋	[14.0]	(1.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	砥石	(8.0)	5.3	2.9	(99.7)	凝灰岩	砥面5面	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M25	刀子	(7.3)	1.0	0.3	(6.8)	鉄	切先・茎尻欠損 棟間・刃間とも緩やか	覆土中層	PL46

第14号住居跡（第88・89図）

位置 調査A区のK3i0区，標高25mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸3.86m，短軸3.54mの方形で，主軸方向はN-25-Eである。壁高は39～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 北壁のほぼ中央に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで128cm，袖部幅116cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土で構築されており，左袖の内側は火熱により赤変している。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用したと考えられ，火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に57cmほど掘り込み，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量（縮まり弱い）	9	褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	10	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量	11	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
5	褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量	12	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	13	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量（縮まりやや強い）			

ピット 深さは30cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

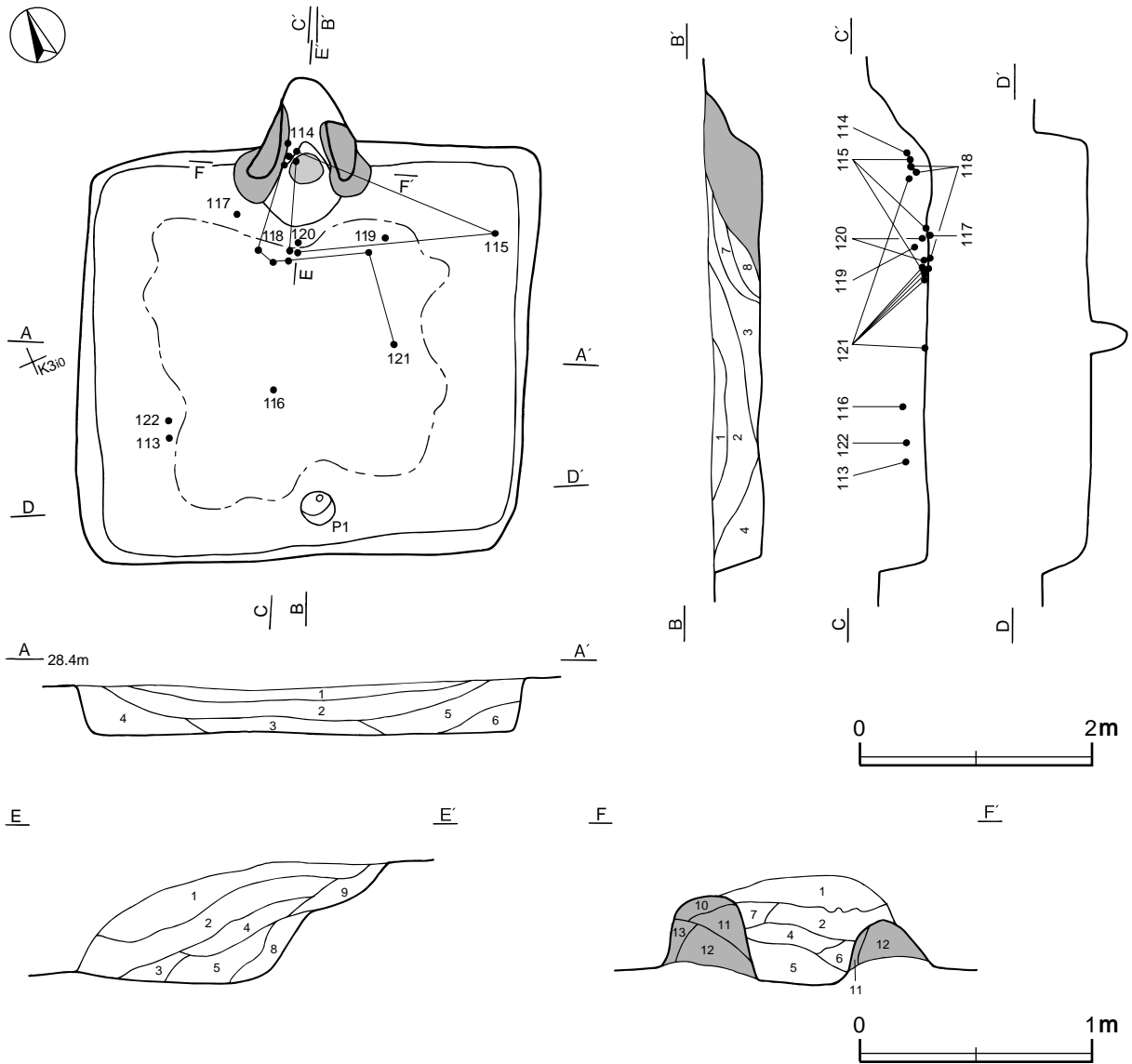
覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

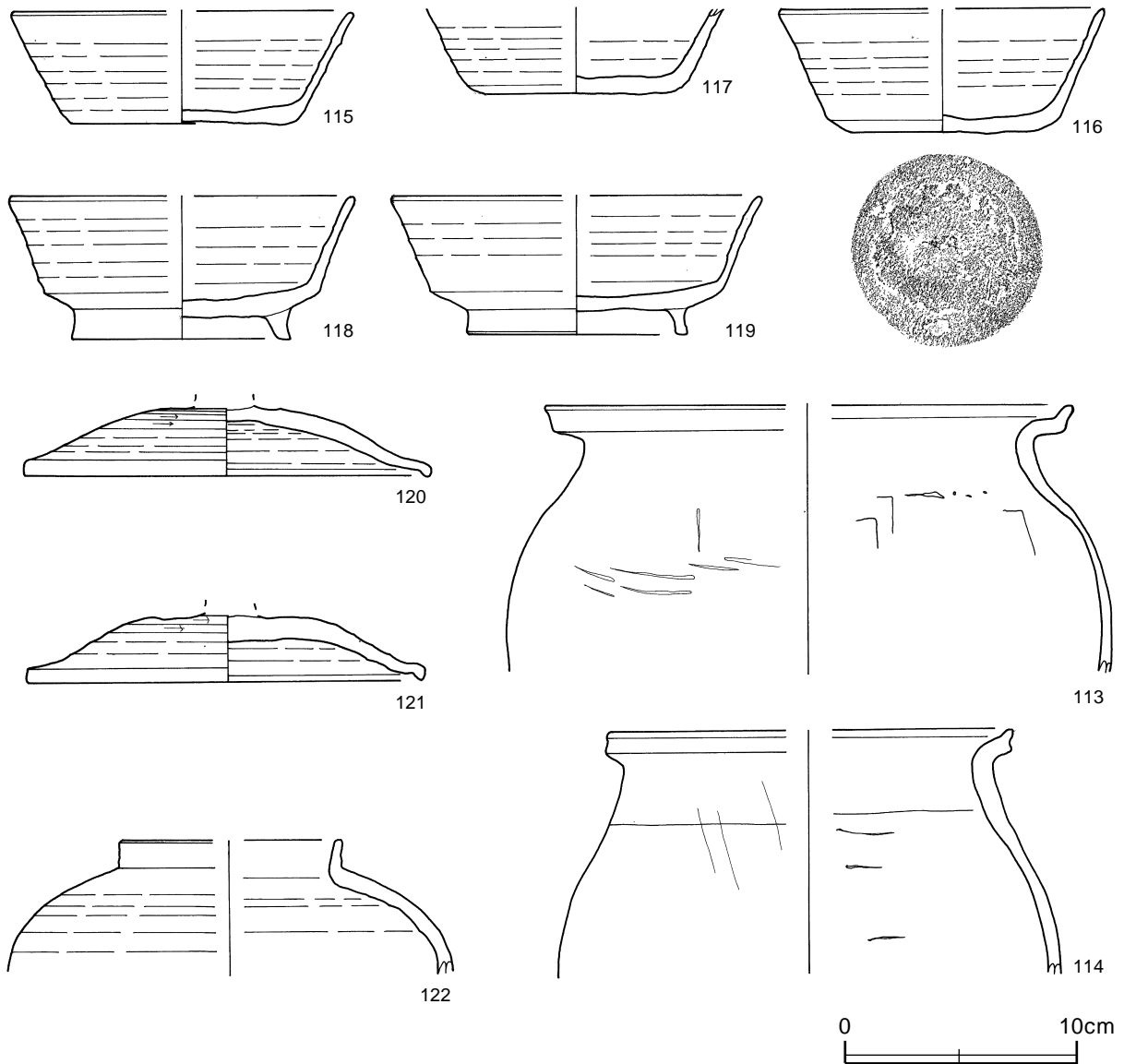
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 黒褐色 | 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片161点（坏類1，甕類160），須恵器片64点（坏類44，高台付坏2，蓋12，甕6）が出土している。115は竈手前から北東コーナーの床面及び竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。116は中央部の覆土中層，117は竈左袖手前の床面から出土した破片が覆土中から出土した破片と接合したものである。118は竈の底面及び竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。119は竈右袖部手前の覆土下層と覆土中及び床面から出土した細片が接合したものである。120は竈手前の床面及び竈の底面から出土した破片が接合したものである。121は中央部の床面及び竈手前の覆土下層及び竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。122は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第88図 第14号住居跡実測図



第89図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
113	土師器	甕	[22.4]	(11.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面工具痕 内面輪積痕	覆土中層	10%
114	土師器	甕	[17.4]	(10.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面輪積痕	竈下層	10%
115	須恵器	坏	[14.6]	4.9	9.6	長石	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	床面 竈下層	50% PL31
116	須恵器	坏	[13.8]	5.2	8.0	長石・石英	黄橙	普通	底部回転ヘラ切り 体部外面下端ナデ	覆土中層 覆土中	60% ヘラ記号 PL31
117	須恵器	坏	-	(3.7)	8.0	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り 体部外面下端ナデ	床面 覆土中層	30%
118	須恵器	高台付坏	[14.6]	6.1	9.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付 内・外面 口クロナデ	覆土下層 竈底面	50%
119	須恵器	高台付坏	[15.8]	6.0	9.4	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付	床面 覆土下層	40%
120	須恵器	蓋	17.5	(3.1)	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面 竈底面	80% PL35
121	須恵器	蓋	16.9	(3.0)	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面 覆土下層	80% PL35
122	須恵器	短頸壺	[9.4]	(5.8)	-	長石	灰白	普通	内・外面口クロナデ	覆土中層	10%

第15号住居跡 (第90・91図)

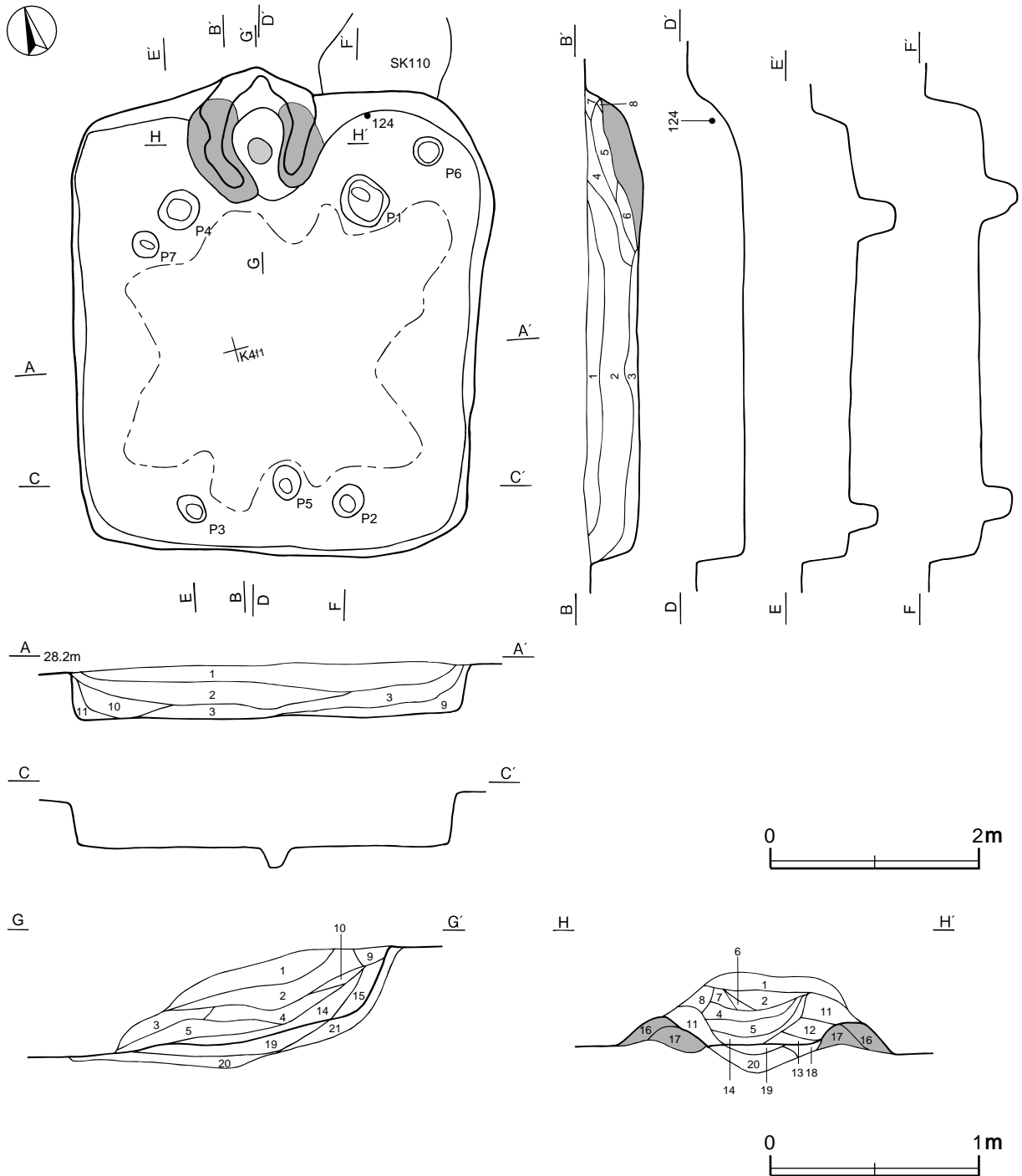
位置 調査A区のK 4e1区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 北東コーナー部が第110号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.30m, 短軸4.00mの方形で, 主軸方向はN-11-Eである。壁高は40~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで126cm, 袖部幅130cmである, 袖部は床面を



第90図 第15号住居跡実測図

わずかに掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を16cmほど掘りくぼめて褐色土を埋め戻しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に30cmほど掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	12 にぶい赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
3 褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
4 褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子少量	14 にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子少量	15 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
6 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
7 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量(縮まりやや強い)
8 極暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	18 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量(縮まり弱い)	19 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
10 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	20 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
		21 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ26～36cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ5cm・29cmで、性格は不明である。

覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

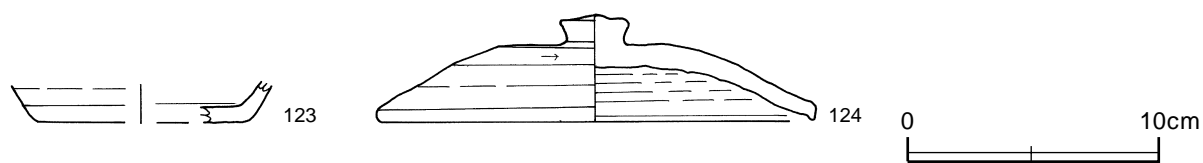
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒色	ロームブロック少量
		11 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片127点(坏類5, 甕類122), 須恵器片26点(坏類21, 蓋3, 甕2)が出土している。

124は北壁際の覆土中層から出土している。123は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第91図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表 (第91図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
123	須恵器	坏	-	(1.5)	[8.4]	長石・黒色粒子	灰黄	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	覆土中	10%
124	須恵器	蓋	17.2	4.1	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	95% PL34 自然粘付着

第16号住居跡 (第92・93図)

位置 調査A区のK 4 b3区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 南西コーナー部が、第126号土坑に掘り込まれている。

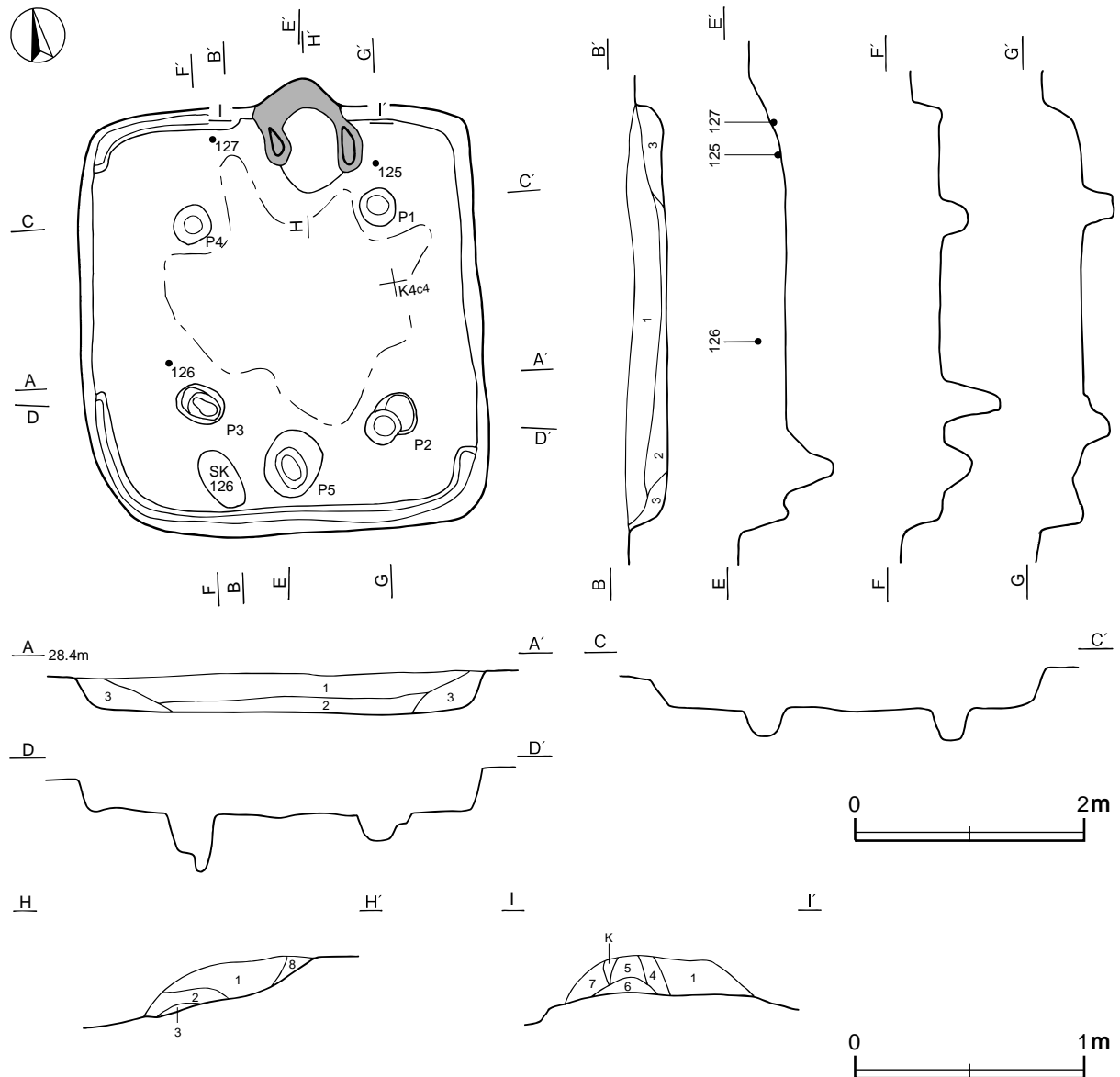
規模と形状 長軸3.70m、短軸3.48mの方形で、主軸方向はN-11-Eである。壁高は22~37cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が、南東コーナーから南西コーナー北壁の一部で確認された。

竈 北壁のほぼ中央に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm、袖部は遺存状況が不良で、袖部幅84cmほどと推定される。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さを使用したと考えられ、火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に26cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（1より彩度が高い） | 8 褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子中量 |



第92図 第16号住居跡実測図

ピット 5か所。P 1～P 4は深さは23～50cmで、位置と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ42cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

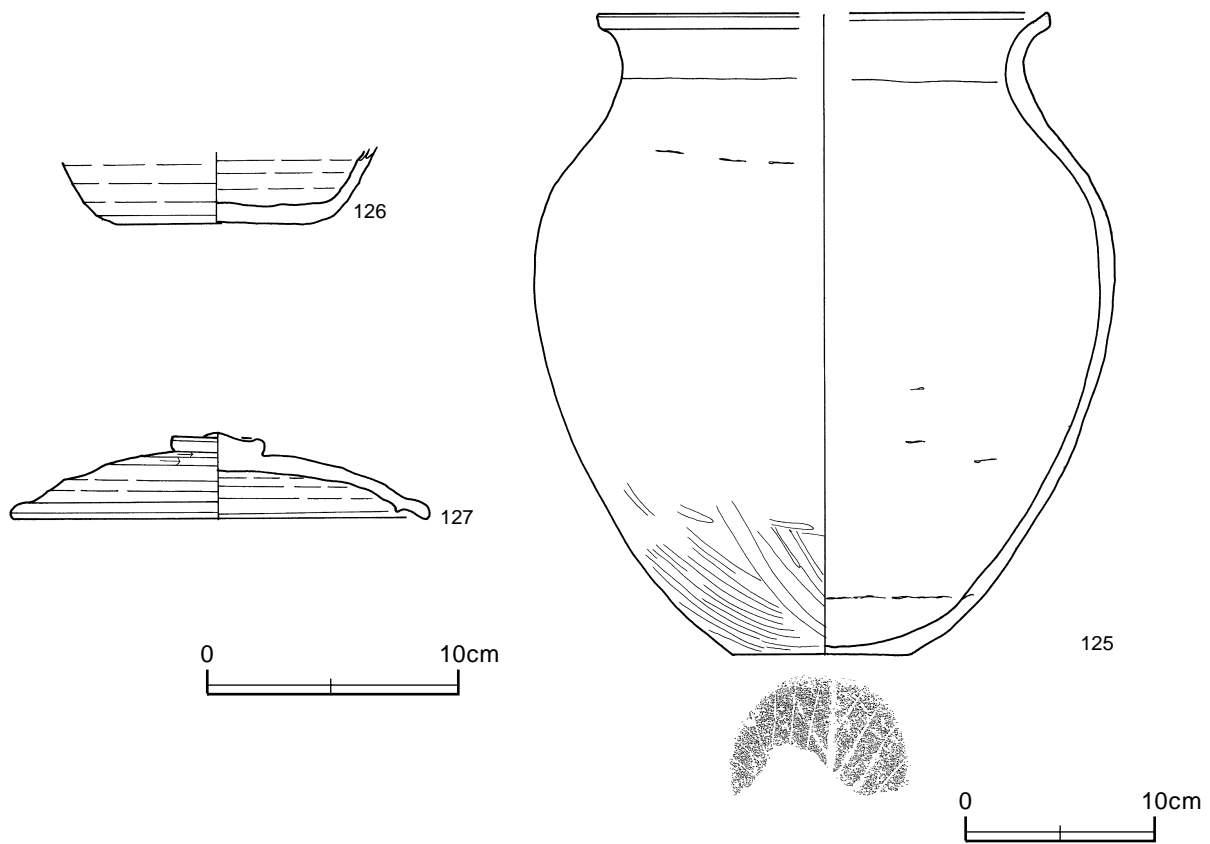
覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片56点（坏類1，甕類55），須恵器片24点（坏類8，高台付坏1，蓋3，甕11，長頸瓶1）が出土している。125は北東コーナー部の床面から横位で、127は竈左袖部脇の北壁直下の床面から逆位で、126は中央部から西壁寄りの覆土中層から正位で、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第93図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第93図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
125	土師器	甕	[23.4]	33.2	9.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面縦位のヘラ磨き 輪積痕	床面	40%
126	須恵器	坏	-	(3.1)	7.6	長石・石英	灰	普通	底部多方向の手持ちヘラ削り	覆土中層	40%
127	須恵器	蓋	16.4	3.4	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	天井部回転ヘラ削り後つまみ部貼付	床面	100% PL34

第17号住居跡（第94・95図）

位置 調査A区のK 4 f4区，標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 東壁が、第18号住居に掘り込まれている。

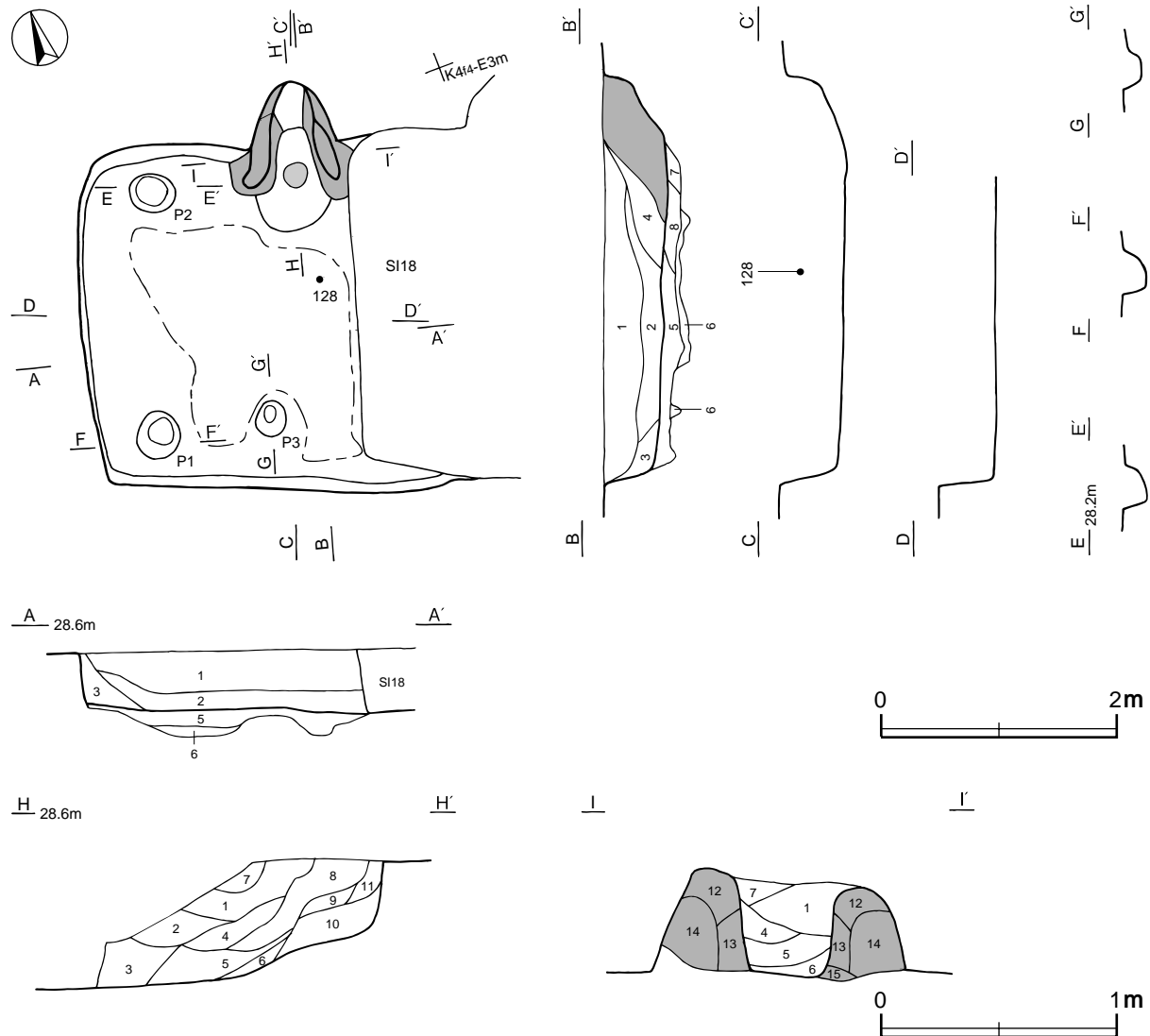
規模と形状 南北軸2.89m、確認された東西軸2.90mで、方形または長方形と推測される。主軸方向はN-20-Eである。壁高は48~50cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。貼床は確認された部分では壁際を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで127cm、袖部幅105cmほどであると推定される。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用したと考えられ、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に54cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾し立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量、砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 12 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 13 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 6 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 7 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 褐色 | ローム粒子中量 |



第94図 第17号住居跡実測図

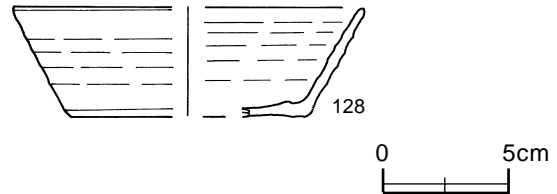
ピット 3か所。P1・P2は深さは20cm・18cmで、主柱穴と考えられる。P3は深さ16cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。第5～8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 灰褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 8 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片59点（甕類），須恵器片49点（坏類47，甕2）が出土している。128は中央部の覆土中層から出土している。



第95図 第17号住居跡出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器及び出土状況から8世紀中葉以前と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
128	須恵器	坏	[13.8]	4.3	[9.2]	長石・石英・黒色 粘土	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中層	20%

第18号住居跡（第96図）

位置 調査A区のK4f4区，標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 西壁が，第17号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.10m，短軸3.08mの方形で，主軸方向はN-21-Eである。壁高は43～53cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で中央部が踏み固められている。貼床は中央部を深く掘り込み，ローム土を主体とした埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで102cm，袖部は遺存状況が不良で，袖部幅112cmほどと推定される。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さを使用したと考えられ，火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に54cm掘り込み，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |

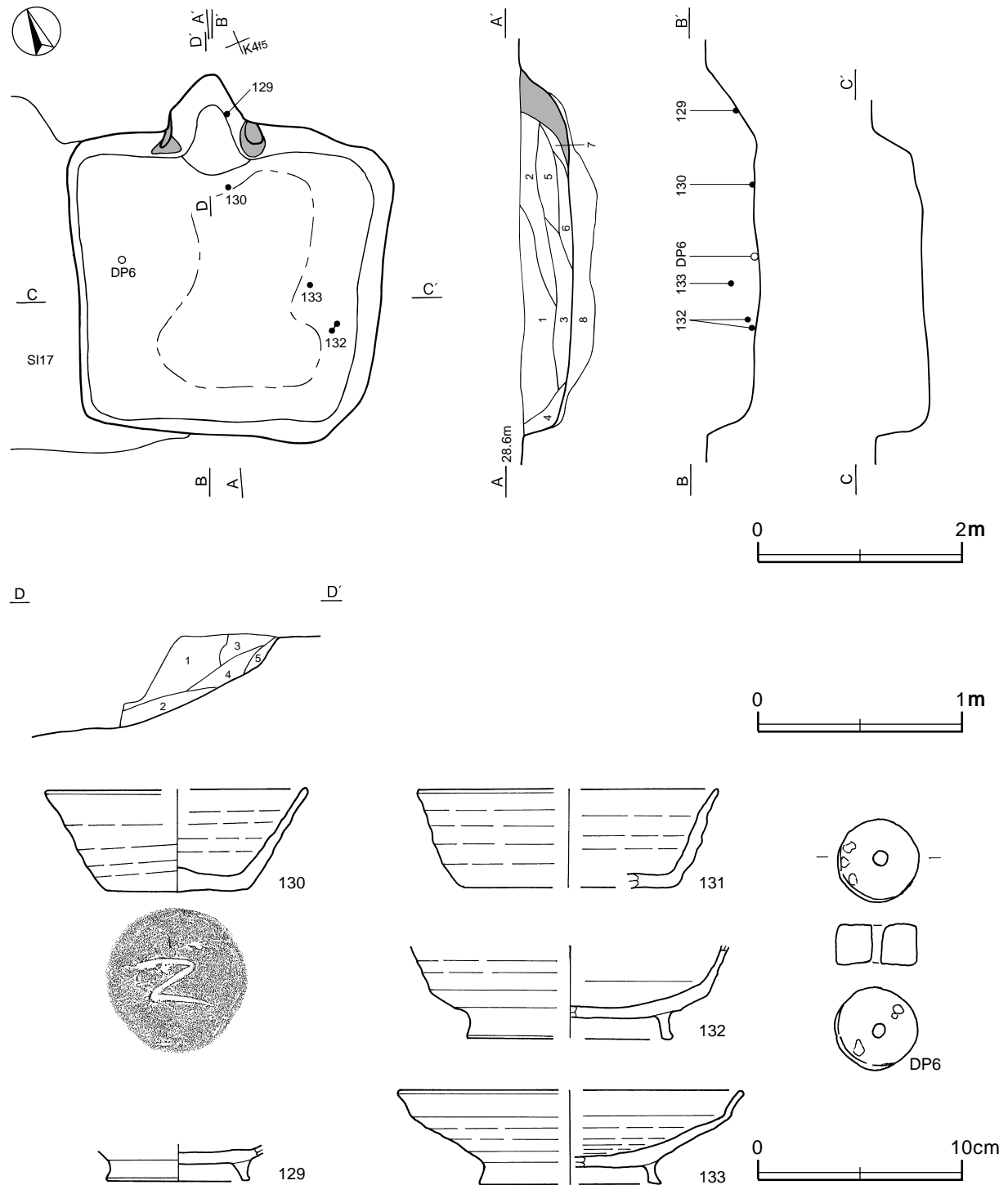
覆土 7層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 灰褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片48点（高台付坏1，甕類47），須恵器片23点（坏類9，高台付坏2，蓋2，盤4，甌6），土製品1点（紡錘車）が出土している。129は竈の右袖部内から出土している。132は東壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。130は竈手前の床面から出土した破片が，133は東壁際の覆土中層から出土した破片が，それぞれ覆土中から出土した破片と接合したものである。DP6は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第96図 第18号住居跡・出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
129	土師器	高台付皿カ	-	(1.7)	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付 内面ヘラ磨き	竈底面	20%
130	須恵器	坏	[12.6]	4.9	6.8	長石	灰	普通	底部ヘラ削り後ナデ	床面 覆土中	60% ヘラ記号
131	須恵器	坏	[14.4]	4.7	[10.4]	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	10%
132	須恵器	高台付坏	-	(4.5)	[9.4]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	20%
133	須恵器	盤	[16.4]	4.5	[8.8]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中層 覆土中	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP6	紡錘車	3.9	2.0	0.7	43.0	粘土	ナデ 中央部片側からの穿孔	覆土下層	PL43

第19号住居跡 (第97・98図)

位置 調査C区のI 3g7区, 標高26mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と形状 長軸2.67m, 短軸2.40mの長方形で, 主軸方向はN-3°-Eである。壁高は44~50cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床は中央部から南側を深く掘り込み, ローム土を主体とした埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 推定焚口部から煙道部まで96cm, 袖部は遺存状況が極めて不良で, 袖部幅は100cmほどである。袖部は地山を掘り残して基部とし, 砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面と同じ高さを使用したと考えられ, 火床面は火熱によりわずかに赤変している。煙道部は壁外へ三角形に62cm掘り込み, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	5	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
3	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐色	炭化粒子微量
			9	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量
			10	褐色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子少量

ピット 深さ22cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

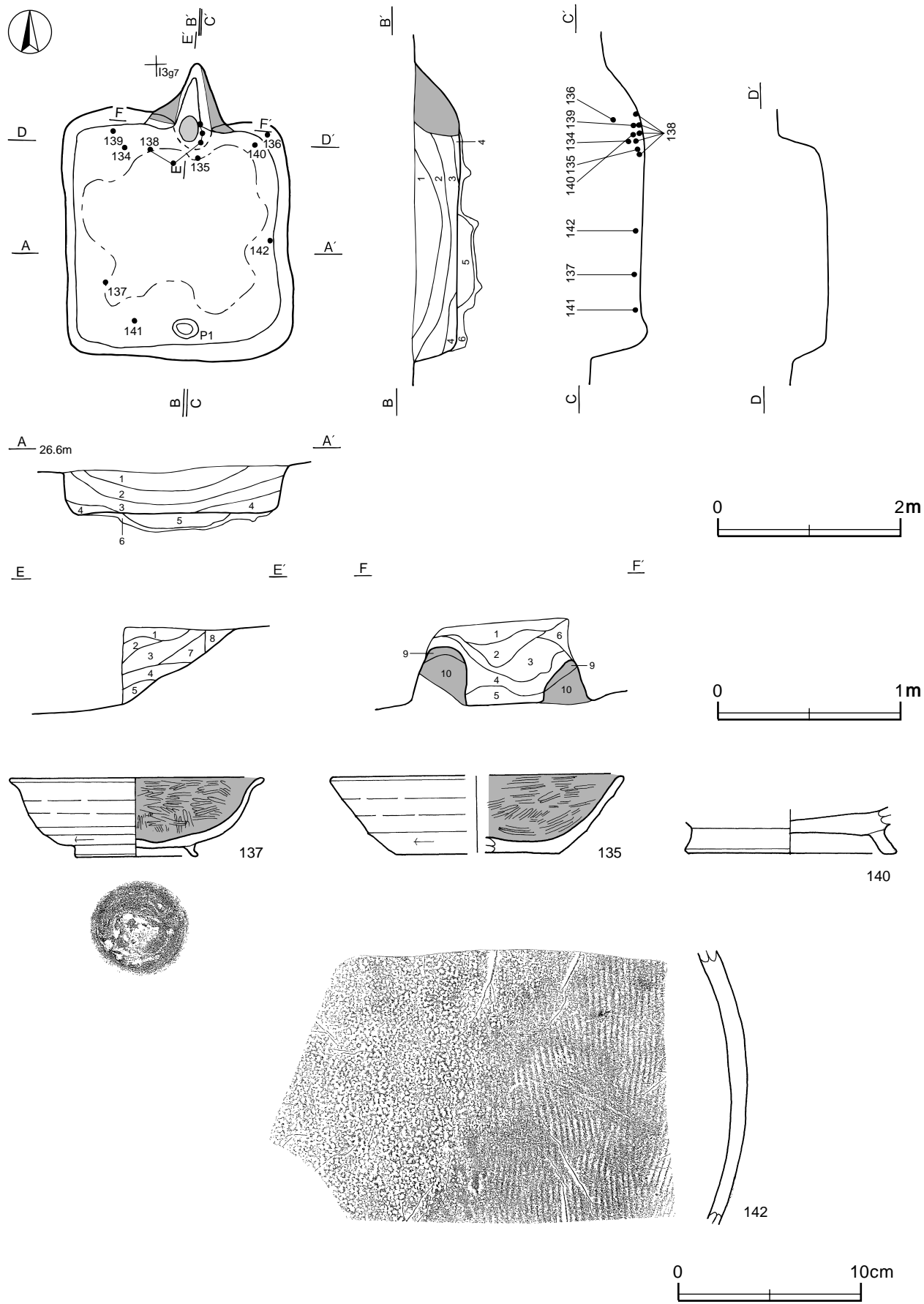
覆土 4層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。第5・6層は貼床の構築土である。

土層解説

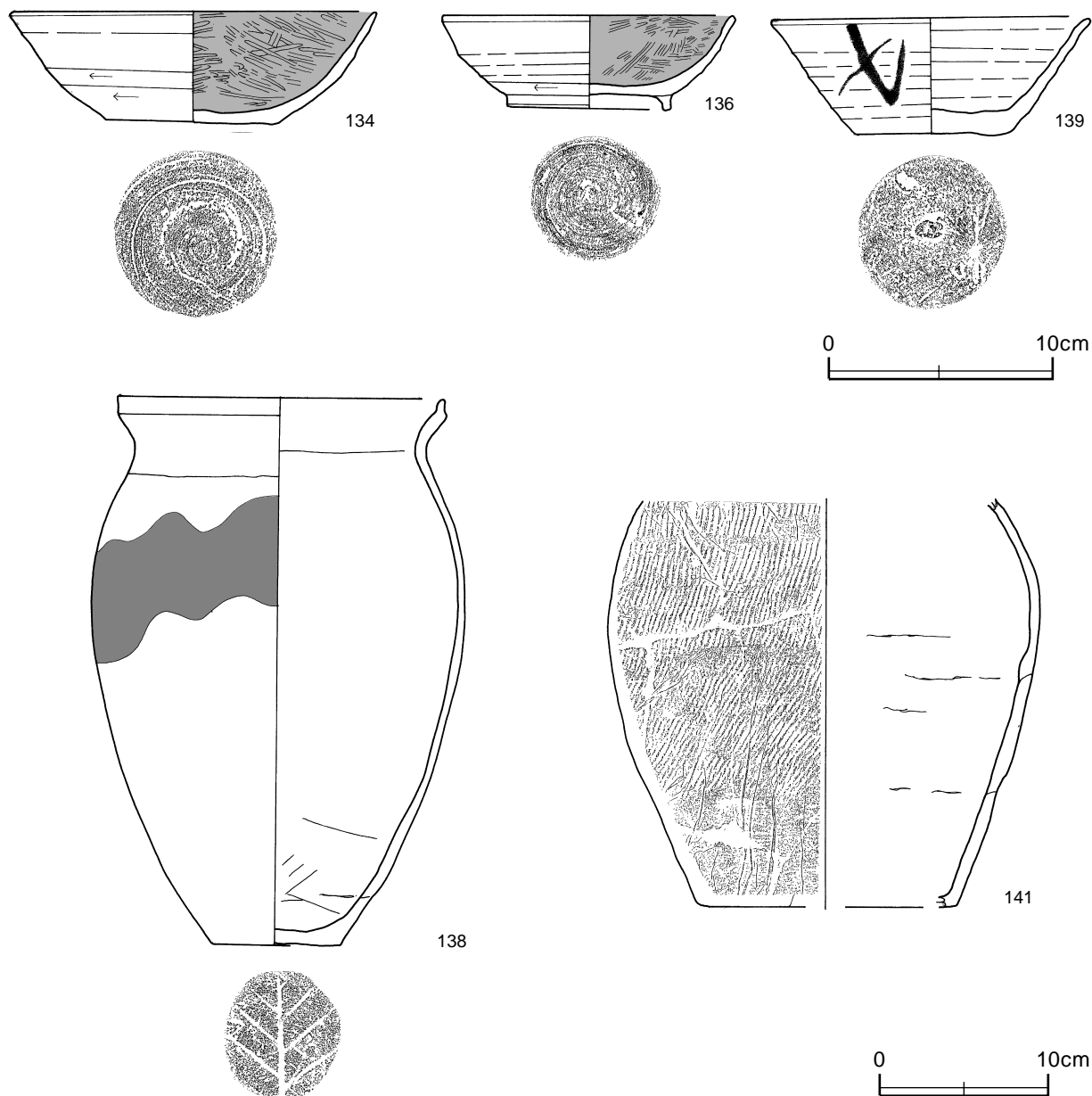
1	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	4	褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ローム粒子少量	5	褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ローム粒子中量	6	褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片98点(坏類9, 高台付坏3, 甕類86), 須恵器片3点(坏, 盤, 甕)が出土している。134・139は北西コーナー部の覆土下層から正位で出土している。135は竈手前の覆土下層と床面から出土した破片が接合したものである。136は北東コーナー部の覆土中層から正位で, 140は同じく覆土下層から正位で, 137は南西コーナー部の覆土下層から正位で, 141は同じく覆土下層からつぶれた状態で, 142は東壁際の覆土下層から, それぞれ出土している。138は竈手前の覆土下層と竈の底面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。



第97图 第19号住居跡・出土遺物実測図



第98図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表 (第97・98図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
134	土師器	坏	16.1	5.0	7.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	覆土下層	90% 煤付着 PL33
135	土師器	坏	[15.8]	4.2	[8.7]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り	床面 覆土下層	40%
136	土師器	高台付坏	12.8	4.3	7.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中層	80% PL33
137	土師器	高台付坏	13.5	4.2	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	80% PL33
138	土師器	甕	19.3	32.5	7.7	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面輪積痕	床面 覆土下層	70% 煤付着
139	須恵器	坏	14.0	5.1	6.7	長石・石英	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	100% 墨書 ^T 又 PL32・38
140	須恵器	長頸瓶	-	(2.6)	11.3	長石・石英	にぶい赤褐	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	10%
141	須恵器	甌	-	(24.3)	[15.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面縦位の平行叩き 下位横位のヘラ削り 内面輪積痕	覆土下層	70%
142	須恵器	甕	-	(14.9)	-	長石	オリーブ	普通	外面縦位の平行叩き	覆土下層	10% 自然粘付着

第21号住居跡 (第99・100図)

位置 調査B区のI 4h6区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 南壁を第13号溝に掘り込まれている。

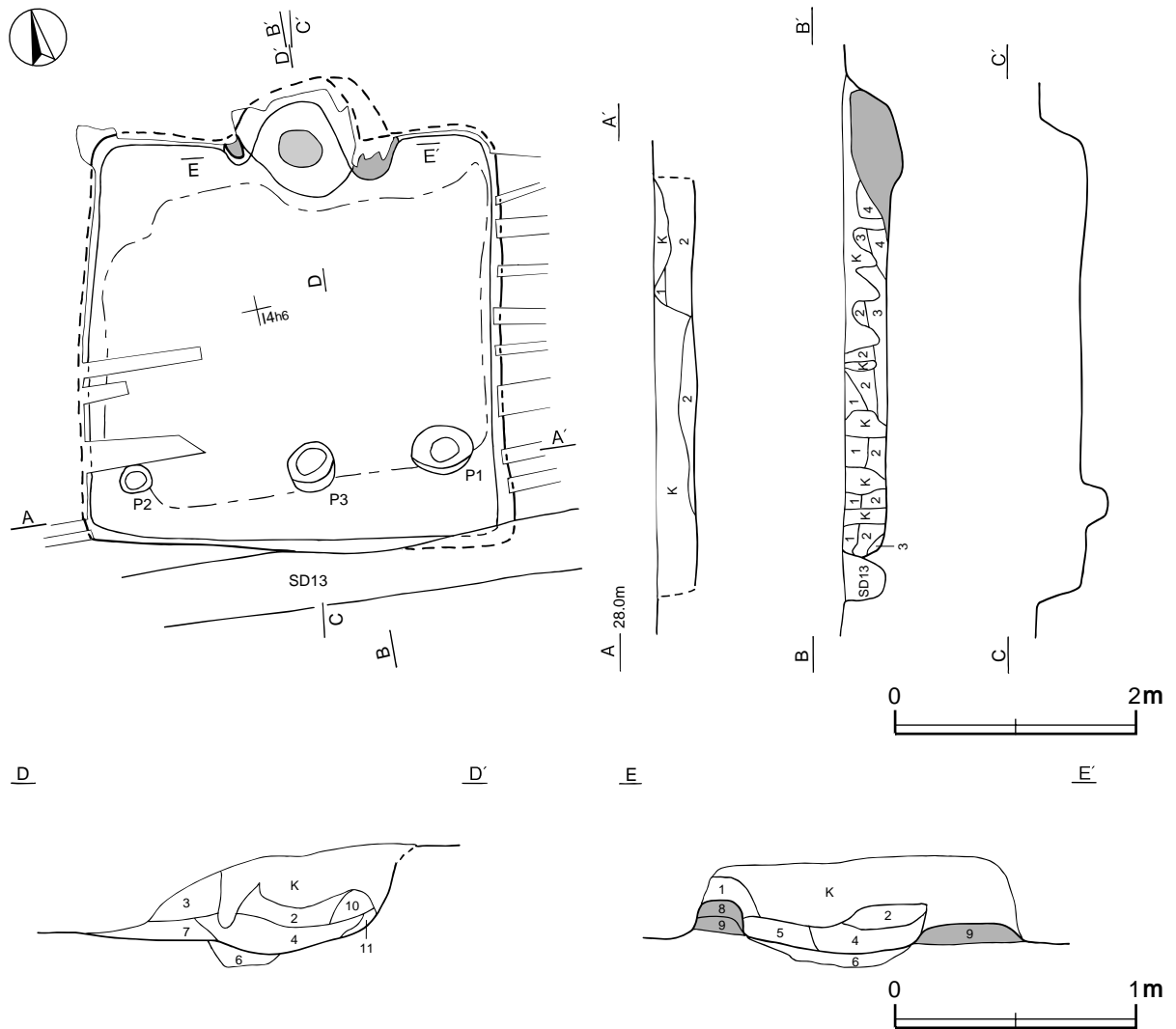
規模と形状 長軸3.38m, 短軸3.31mの方形で, 主軸方向はN-11-Eである。壁高は28~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 北壁際と南壁際を除いて広い範囲で踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部は耕作により攪乱を受けている。規模は, 焚口部から推定で煙道部まで98cm, 袖部幅135cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面を11cm掘りくぼめており, 火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に47cmほど半円形状に掘り込まれていたと考えられ, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|-------------------------------|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 | 褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 | 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 |



第99図 第21号住居跡実測図

- 9 褐色 ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量
 10 暗赤褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

- 11 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 3か所。P1・P2は、深さ42cm・22cmで位置と配置から支柱穴と考えられる。P3は深さ25cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

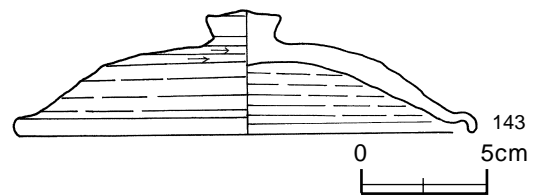
覆土 4層からなる。耕作による攪乱を受けているが、レンズ状の堆積状況を示しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量

- 4 褐色 砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片41点（坏類2，甕類39），須恵器片8点（坏類5，蓋3）が出土している。耕作により攪乱を受けているため、原位置をとどめている遺物がない。



第100図 第21号住居跡出土遺物実測図

所見 原位置をとどめている土器はないが、出土遺物全体の様相から8世紀後葉と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
143	須恵器	蓋	18.0	4.9	-	長石	灰オリーブ	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	90% PL34

第23号住居跡（第101・102図）

位置 調査B区のI4h0区で、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 南壁を第13号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m，短軸3.56mの方形で，主軸方向はN-18-Eである。壁高は35～46cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除いて広く踏み固められている。貼床は中心部を25cmほど掘り込み，ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が，南壁及び南東コーナーと南西コーナーで確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで108cm，袖部幅107cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を4cm掘りくぼめており，火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に75cm掘り込み，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
 3 褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子微量
 5 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
 6 褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

- 7 にぶい赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
 8 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
 9 にぶい褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
 10 暗赤褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
 11 にぶい赤褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

ピット 深さ18cmで，竈と向かい合う位置にあることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

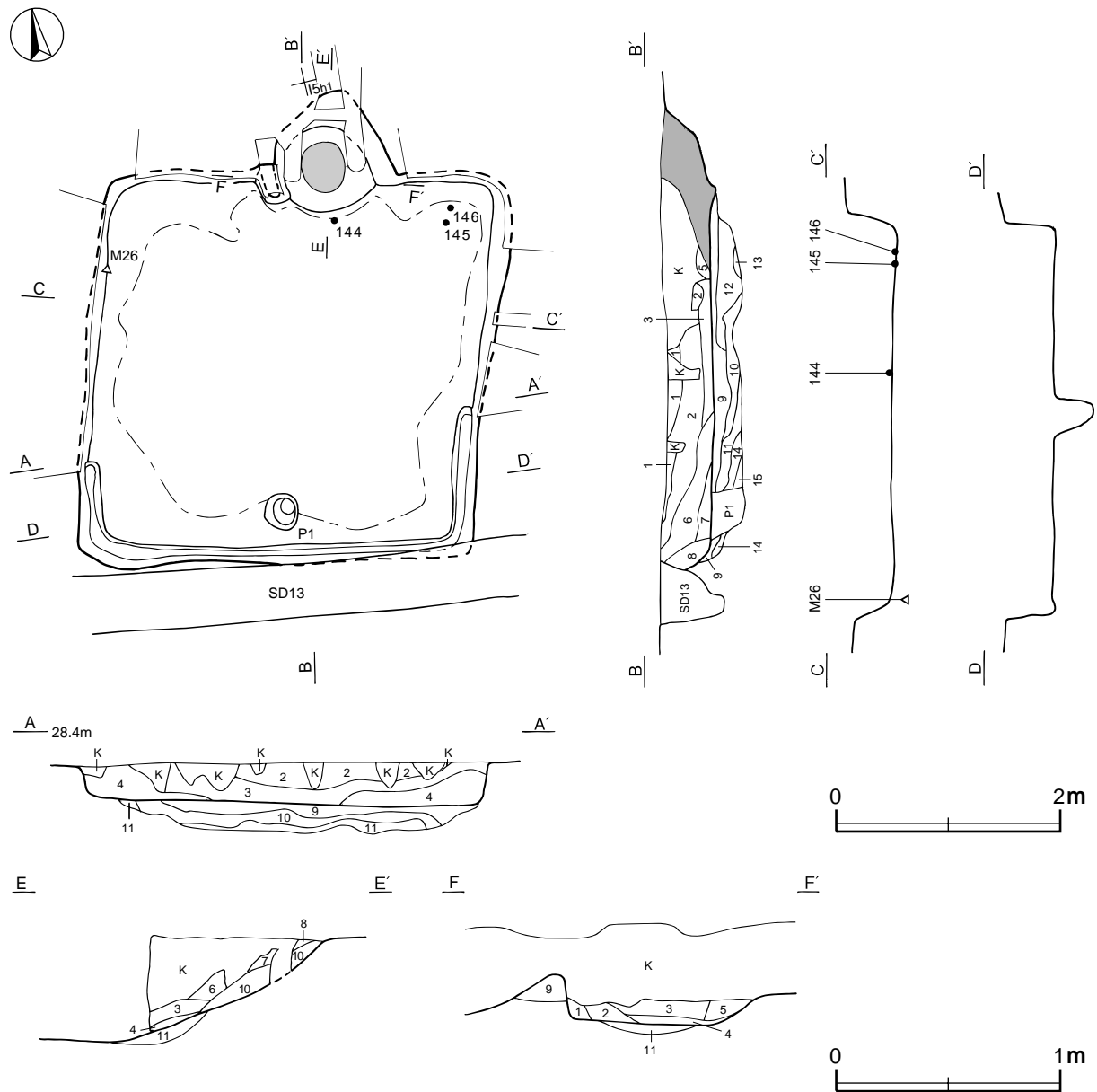
覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第9～15層は貼床の構築土である。

土層解説

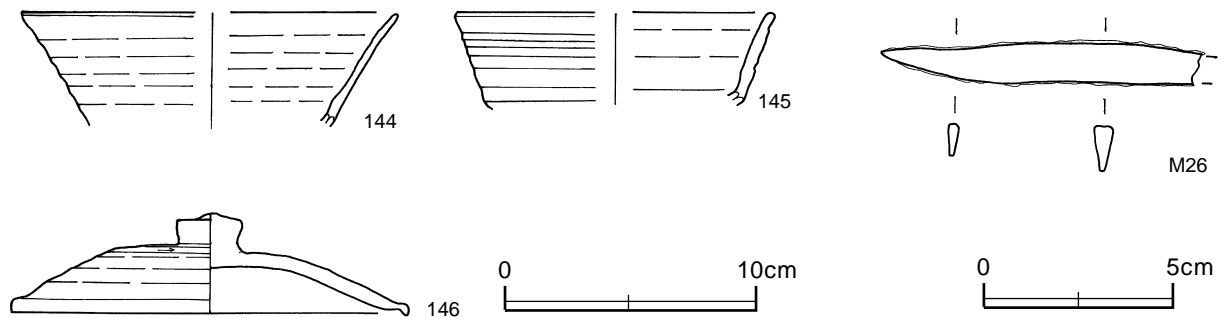
- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 11 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 13 褐色 | ロームブロック少量 (縮まり弱い) |
| 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| | | 15 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片29点(甕類), 須恵器片6点(坏類5, 盤1), 金属器1点(刀子)が出土している。144は竈手前の床面から出土している。146は北東コーナー部の床面から正位で出土している。145は北東コーナー部の床面と覆土中から出土した破片が接合したものである。M26は西壁際の床面下から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第101図 第23号住居跡実測図



第102図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
144	須恵器	坏	[14.8]	(4.5)	-	長石・石英	灰白	普通	内・外面口クロナデ	床面	10%
145	須恵器	高台付坏	[12.6]	(3.7)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	床面	10%
146	須恵器	蓋	15.7	3.9	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面 覆土中	70%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M26	刀子	(8.4)	1.1	0.5	(8.1)	鉄	切先・身部残存 茎部欠損	掘り方	PL46

第24号住居跡 (第103・104図)

位置 調査B区のI 5 j2区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 北壁が第7号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺5.60mの方形で, 主軸方向はN-10-Eである。壁高は17~30cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き広く踏み固められている。貼床は中心部を深く掘り込み, ローム土を主体とした埋土で構築している。南東コーナー部の床面から, 径30cm, 厚さ2cmほどの焼土塊が確認された。

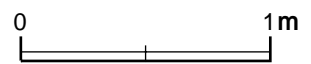
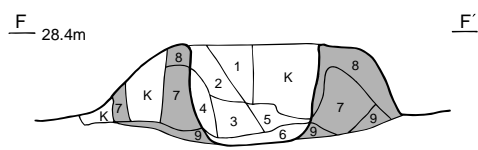
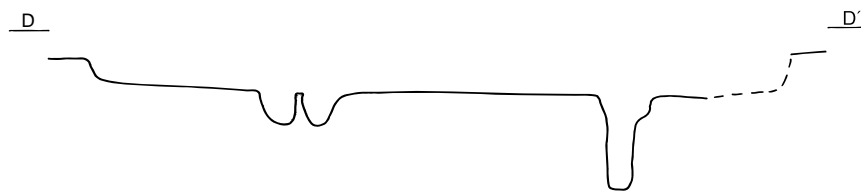
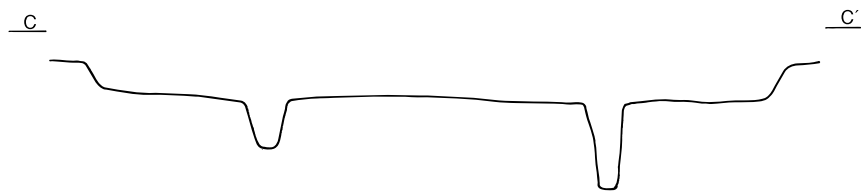
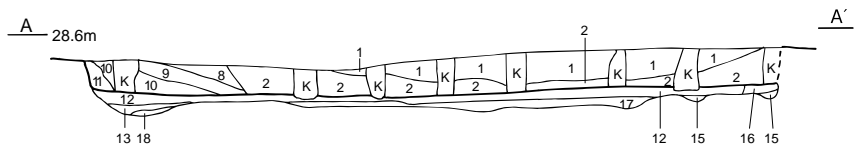
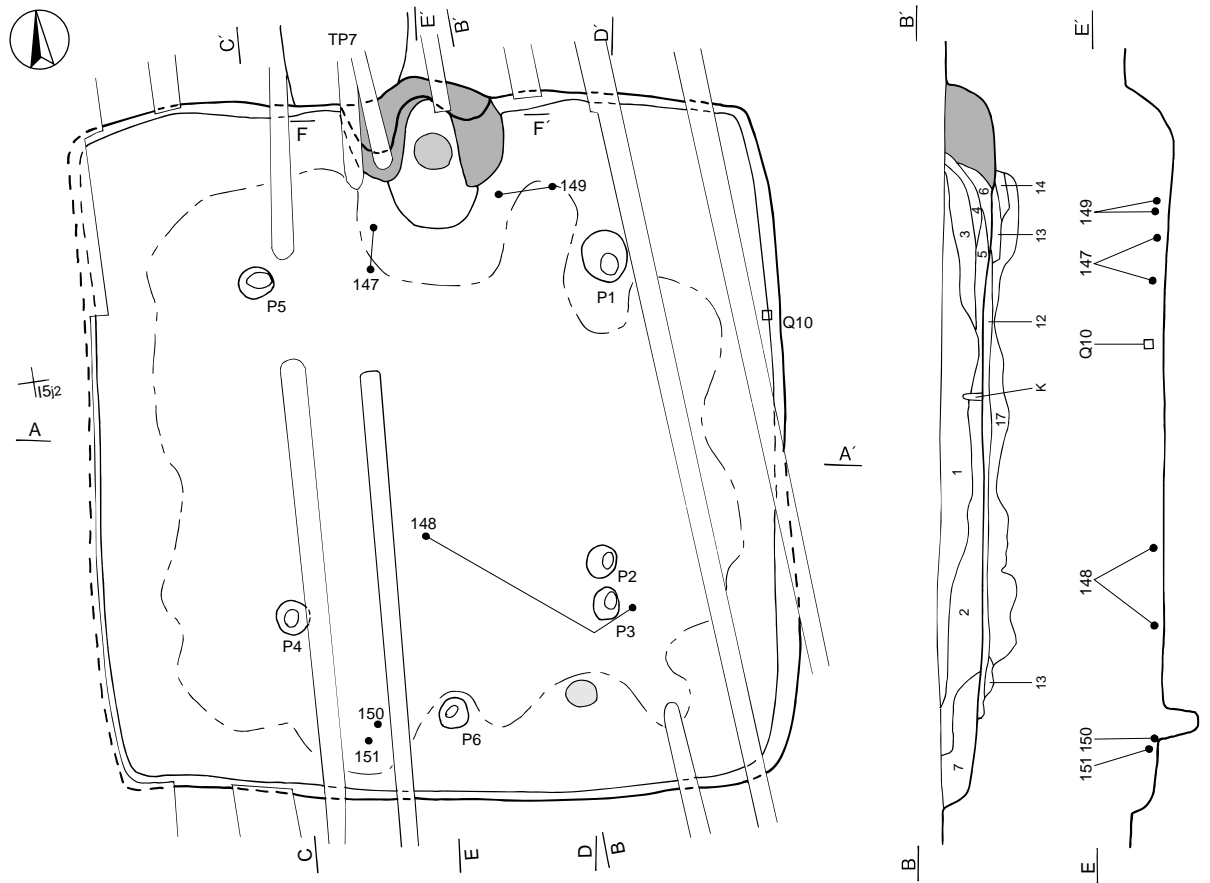
竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで120cm, 袖部幅128cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用しており, 火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に20cm掘り込み, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	7	にぶい黄褐色	色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量
4	黒褐色	色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
				9	暗褐色	色	ローム粒子少量, 焼土粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 6か所。P1・P3~P5は, 深さ27~70cmで, 位置と配置から支柱穴と考えられる。P6は, 深さ33cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は深さ23cmで, 支柱穴と考えられる。

覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。第12~18層は貼床の構築土である。



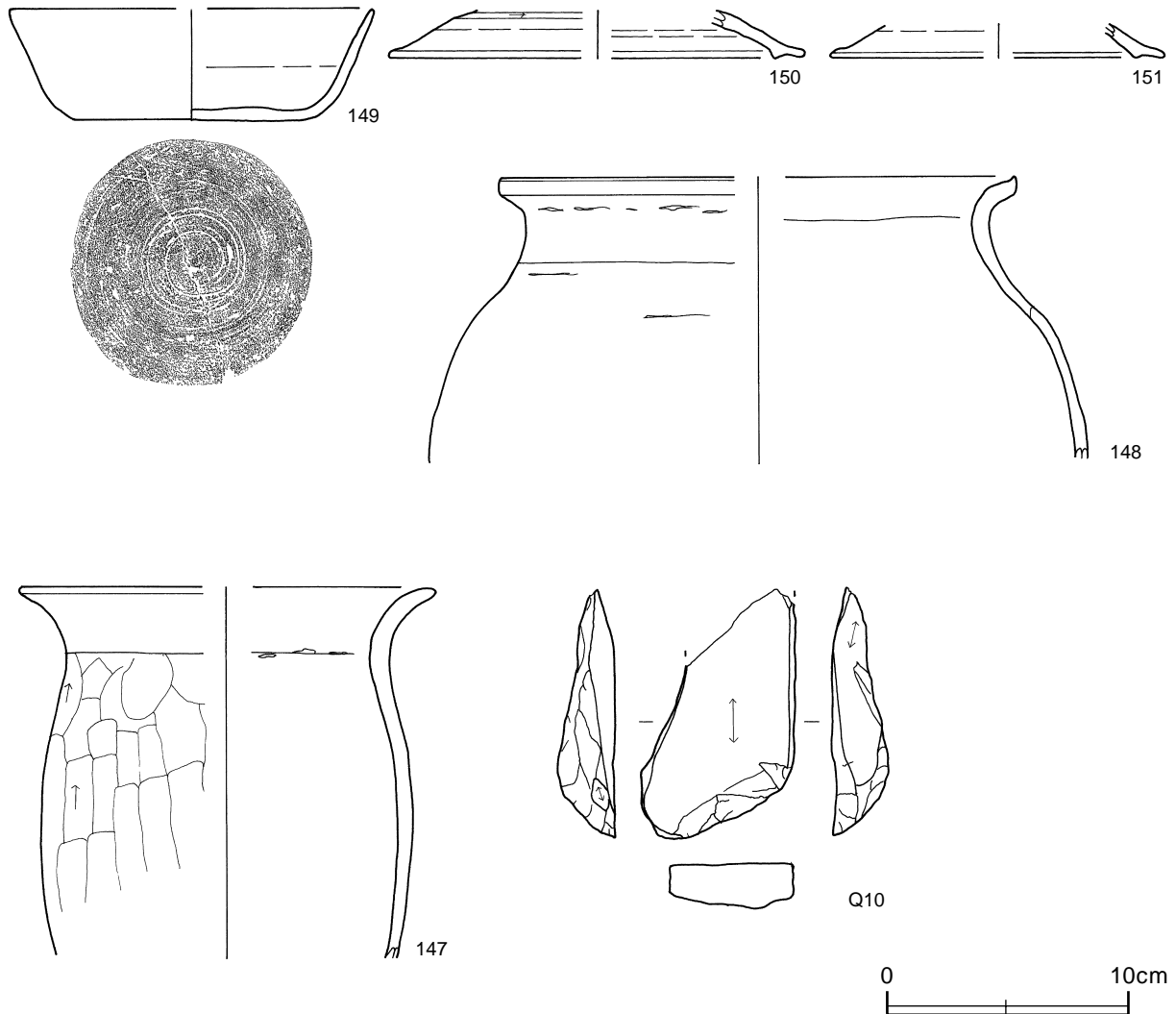
第103图 第24号住居跡実測图

土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	9 黒 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐色	ローム粒子少量	10 暗 褐色	ロームブロック中量
3 黒 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
4 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 褐色	ロームブロック少量 (縮まり強い)
5 暗 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量	13 黒 褐色	ロームブロック少量
6 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗 褐色	ロームブロック少量
7 暗 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック少量
8 暗 褐色	ロームブロック少量	16 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
		17 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
		18 褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師器片111点 (坏類5, 甕類104, 甌2), 須恵器片9点 (坏類4, 盤4, 甕1) が出土している。147は竈左袖手前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。148は中央部の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。149は竈右袖脇の覆土下層から出土した破片が接合したものである。150は南壁際の床面, 151は同じく覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第104図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
147	土師器	甌カ	[17.0]	(15.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面輪積痕	覆土下層	40%
148	土師器	甕	[21.3]	(11.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面輪積痕	覆土下層 覆土中	10%
149	須恵器	坏	[14.8]	4.6	10.0	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	60%
150	須恵器	蓋	[17.0]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	10%
151	須恵器	蓋	[13.6]	(1.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	砥石	(10.3)	6.5	(2.4)	(134.6)	凝灰岩	砥面3面	覆土下層	PL45

第25号住居跡 (第105図)

位置 調査B区のI 5 f5区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.14m、短軸3.07mの方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は28~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、南西コーナー部を除き踏み固められている。貼床は中心部を深く掘り込み、ローム土に炭化粒子を含む埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部と焚口部の一部が耕作により攪乱されている。規模は、確認できた焚口部から煙道部まで88cm、袖部幅131cmである。袖部は地山を掘り残した上に暗褐色土を盛って基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用したと考えられ、火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外に55cmほど三角形に掘り込まれていたと考えられ、火床面から直立している。

竈土層解説

1	黒褐色	色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	にぶい赤褐色	色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗褐色	色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3	黒褐色	色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	褐色	色	ローム粒子中量
4	褐色	色	砂質粘土粒子中量	13	暗褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	褐色	色	砂質粘土粒子多量	14	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗褐色	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子微量	16	黒褐色	色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
8	暗褐色	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	にぶい黄褐色	色	炭化物・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
9	にぶい赤褐色	色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 深さ15cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

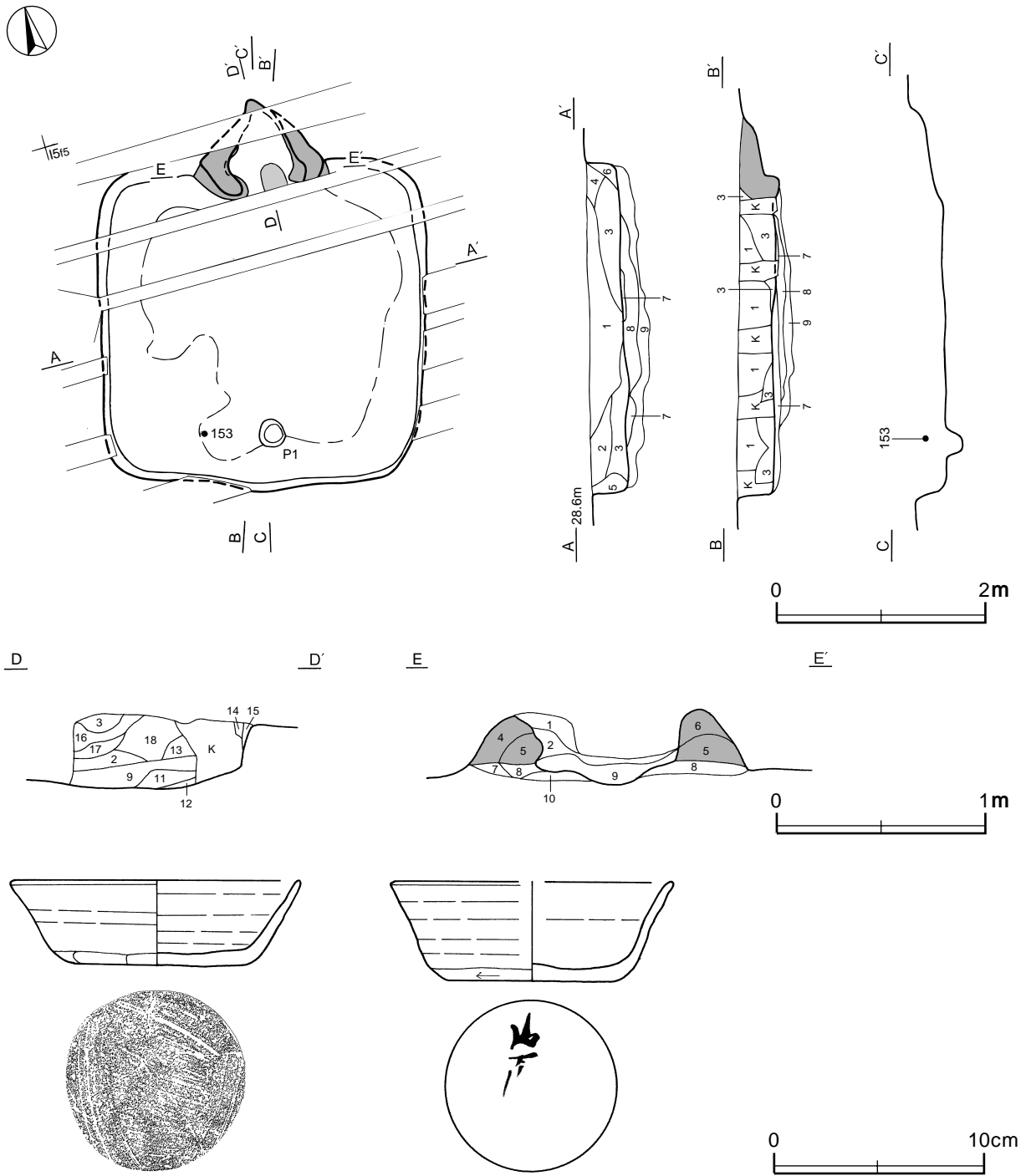
覆土 6層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第7~9層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	黒褐色	色	ロームブロック少量
3	暗褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量(2より彩度が低い)	7	褐色	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	色	ローム粒子・炭化粒子微量
				9	褐色	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片23点(甕類)、須恵器片17点(坏類16、蓋1)が出土している。153は南西コーナー部付近の覆土中層から出土している。152は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が少ないため断定することが難しいが、152・153に従えば、8世紀中葉から後葉と考えられる。



第105図 第25号住居跡・出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表 (第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
152	須恵器	坏	13.7	4.0	8.5	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面下端手持ちへら削り 底部多方向の手持ちへら削り	覆土中	90% PL31
153	須恵器	坏	[13.2]	4.7	8.0	長石・石英	灰白	普通	体部外面下端回転へら削り 底部回転へら削り	覆土中層	50% PL38 墨書「山」カ

第26号住居跡 (第106・107図)

位置 調査B区のI 5d7区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

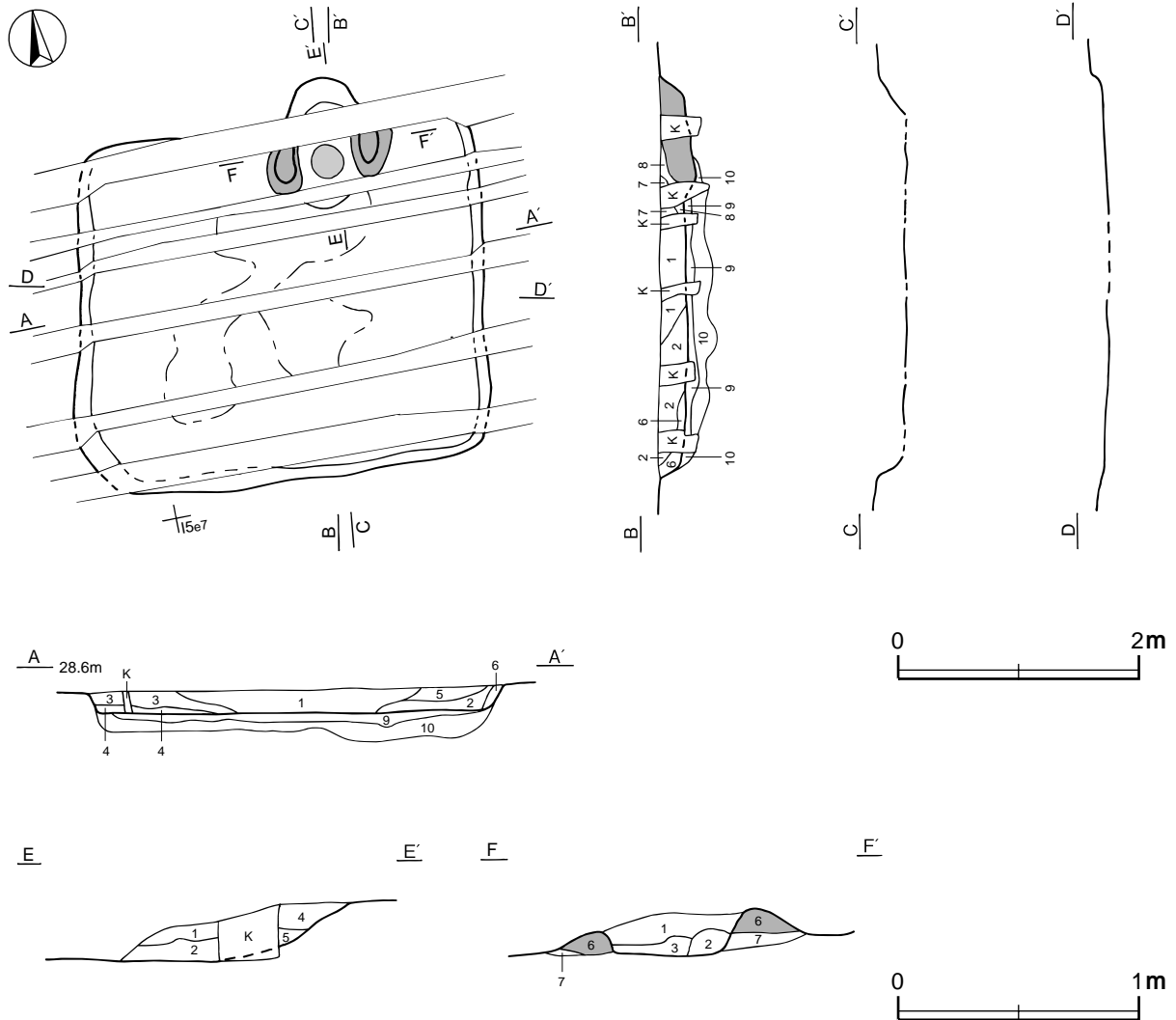
規模と形状 長軸3.36m, 短軸2.90mの長方形で, 主軸方向はN-8-Eである。壁高は10~19cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部の一部が踏み固められている。貼床は中心部から東側を深く掘り込み, ローム土に焼土粒子を含む埋土で構築している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。壁際と焚口部の一部が耕作により攪乱されている。規模は焚口部から煙道部まで110cm, 袖部幅104cmである。袖部は地山を掘り残した上に褐色土を盛って基部とし, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さを使用したと考えられ, 火床面は火熱で赤変硬化している。煙道部は壁外へ39cmほど掘り込まれていたと考えられ, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |



第106図 第26号住居跡実測図

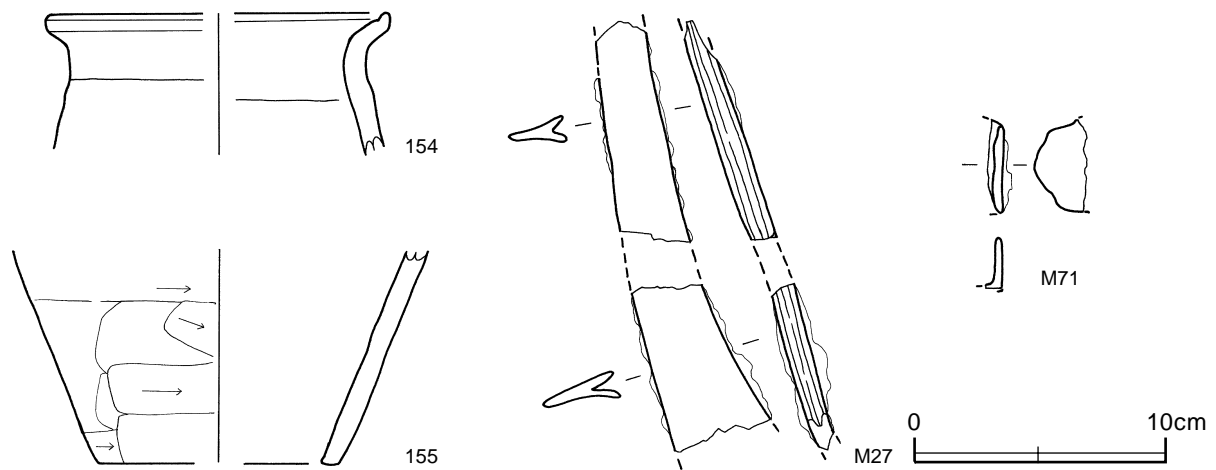
覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第9・10層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------|-------|---------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片37点（甕類34，甌3），金属器2点（鋤先，鎌）が出土している。154は北西コーナー部の覆土中から出土している。155は廃絶時に遺棄されたものと考えられ、竈の覆土と北東コーナー部の覆土中から出土した破片が接合したものである。M27は覆土中から出土した破片が接合したものである。M71は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が少なく特定が難しいが、154・155及び住居の規模や形状が第25号住居跡と似ていることから考慮すると、8世紀中葉と考えられる。



第107図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
154	土師器	甕	[13.4]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%
155	土師器	甌	-	(8.5)	[9.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り 内面横ナデ	竈覆土中 覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M27	鋤先	(17.1)	4.0	1.0	(84.4)	鉄	断面Y字形	覆土下層 覆土中	PL47
M71	鎌	(0.6)	(3.7)	0.3	(6.3)	鉄	基部残存 端部折り返し	覆土中	

第27号住居跡（第108・109図）

位置 調査B区のI 4 f6区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

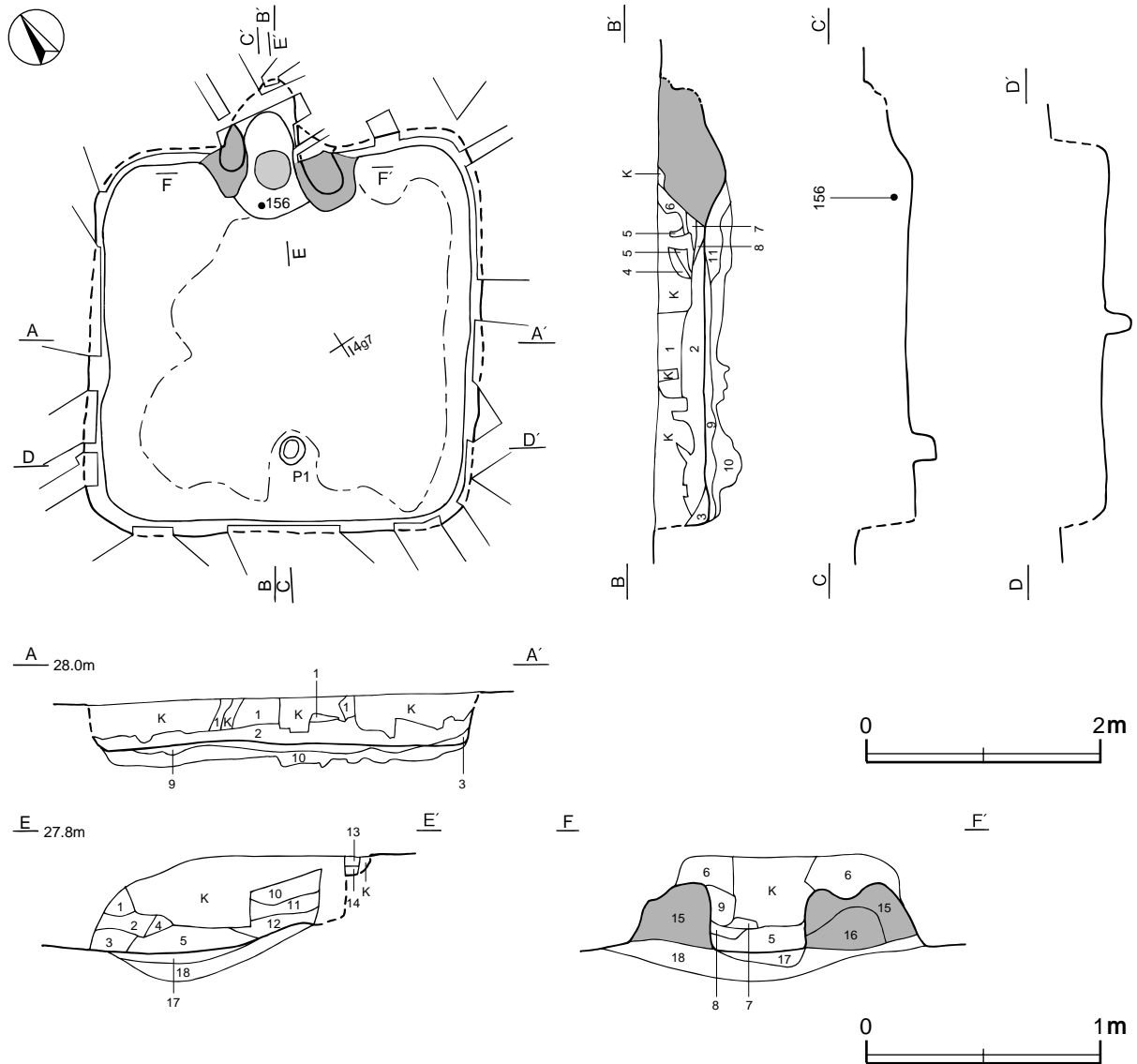
規模と形状 長軸3.35m，短軸3.30mの方形で，主軸方向はN-31°-Eである。壁高は40～50cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体的に20cmほど掘り込み、ロームに焼土をわずかに含んだ埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部の一部が耕作により攪乱を受けている。規模は、焚口部から煙道部まで116cm、袖部幅123cmである。袖部は床面を10cmほど掘り下げ、暗褐色土を埋め戻して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm楕円形に掘りくぼめ、褐色土を埋め戻して使用しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に57cmほど掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 砂質粘土ブロック中量 | 11 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 14 暗褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 明褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | | |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | | |
| 9 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子少量 | | |



第108図 第27号住居跡実測図

16 明 褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

17 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量

18 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 深さ20cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。第9～11層は貼床の構築土である。

土層解説

1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

2 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック少量

4 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

5 灰 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量

6 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

7 褐色 砂質粘土ブロック中量, ローム粒子少量

8 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

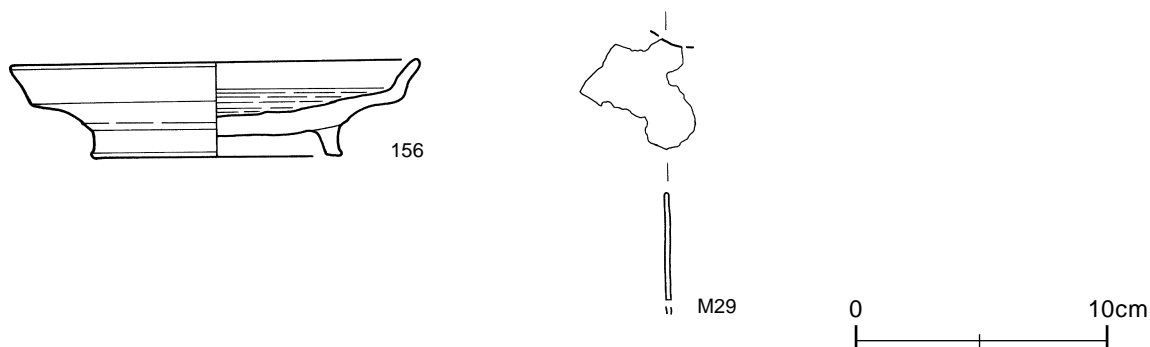
9 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

10 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

11 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片37点 (坏類1, 甕類36), 須恵器片7点 (坏類1, 蓋4, 盤2), 金属製品1点 (不明)が出土している。156は竈の覆土下層から出土し, 廃絶時に遺棄されたものと考えられる。M29は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第109図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表 (第109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
156	須恵器	盤	16.0	3.7	9.8	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	50% PL35

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M29	不明	(4.6)	(4.4)	0.15	(8.1)	鉄	板状 鎌カ	覆土中	

第29号住居跡 (第110・111図)

位置 調査B区のI 5 j0区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.95m, 短軸3.80mの方形で, 主軸方向はN-11-Eである。壁高は34～37cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際を除き踏み固められている。貼床は壁際を深く掘り込み, ローム土を主体とする暗褐色土を埋め土して構築している。壁溝が全周している。

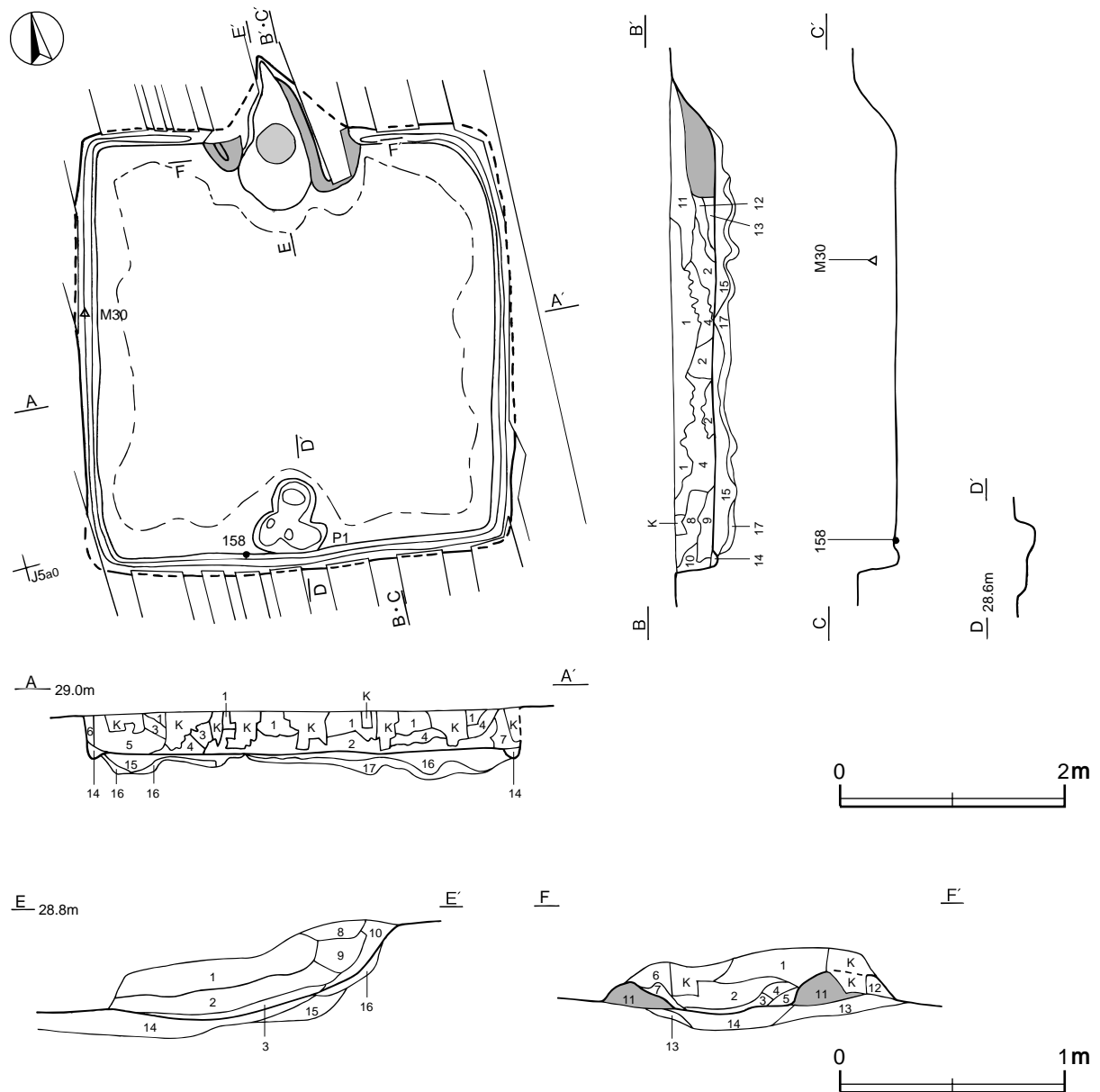
竈 北壁中央部に付設されている。両袖部は耕作により攪乱されて遺存状況は不良である。規模は, 焚口部から煙道部まで139cm, 袖部幅129cmほどである。袖部は地山を掘りくぼめた後に暗褐色土を埋め戻して基部とし,

砂質粘土で構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめ、暗褐色土を埋め戻しており、火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に67cmほど掘り込まれていたと考えられ、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|----------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 にぶい赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 2 灰褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 10 赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 暗褐色 | ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック少量 |
| 8 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 16 暗褐色 | ローム粒子微量 |

ピット 深さは17cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第110図 第29号住居跡実測図

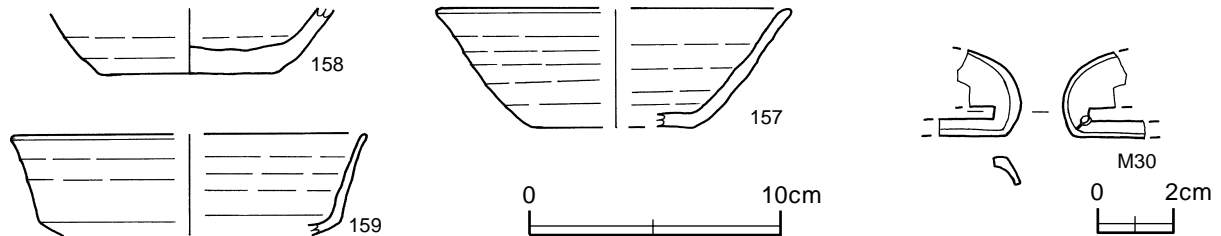
覆土 14層からなる。不規則な堆積状況を示しており、人為堆積と考えられる。第15～17層は貼床の構築土と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック微量	13 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック少量	14 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	15 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
6 褐色	ローム粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	17 褐色	ロームブロック多量
8 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量		
9 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量		
10 黒褐色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片77点（甕類76, 甌1）, 須恵器片31点（坏類26, 高台付坏1, 蓋3, 甌1）, 金属製品1点（丸軋）が出土している。158は南壁際の床面から出土している。157・159は掘り方の埋土から出土した破片が接合したものである。M30は西壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器と出土状況から9世紀前葉と考えられる。



第111図 第29号住居跡出土遺物実測図

第29号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
157	須恵器	坏	[13.8]	4.7	6.3	長石	黄灰	普通	底部ヘラ切り後ナデカ	床面下	70% PL32
158	須恵器	坏	-	(2.4)	7.1	長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	30%
159	須恵器	高台付坏	[14.0]	(4.0)	-	長石	灰	普通	体部内・外面口クロナデ	床面下	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M30	丸軋	2.3	(2.2)	0.2	(3.8)	銅	残存率50% 鋳1か所確認	覆土中層	PL48

第31号住居跡（第112～114図）

位置 調査B区のI 6 f2区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.09m, 短軸3.65mの長方形で, 主軸方向はN-15-Eである。壁高は35～38cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 壁際と竈手前を除き踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。右袖部の遺存状況は不良である。規模は, 焚口部から煙道部まで97cm, 袖部幅114cmほどである。袖部は床面と同じ高さに褐色土を盛り基部として, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面を20cm掘りくぼめ, 暗褐色土を埋め戻して使用したと考えられ, 火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に15cmほど掘り込み, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

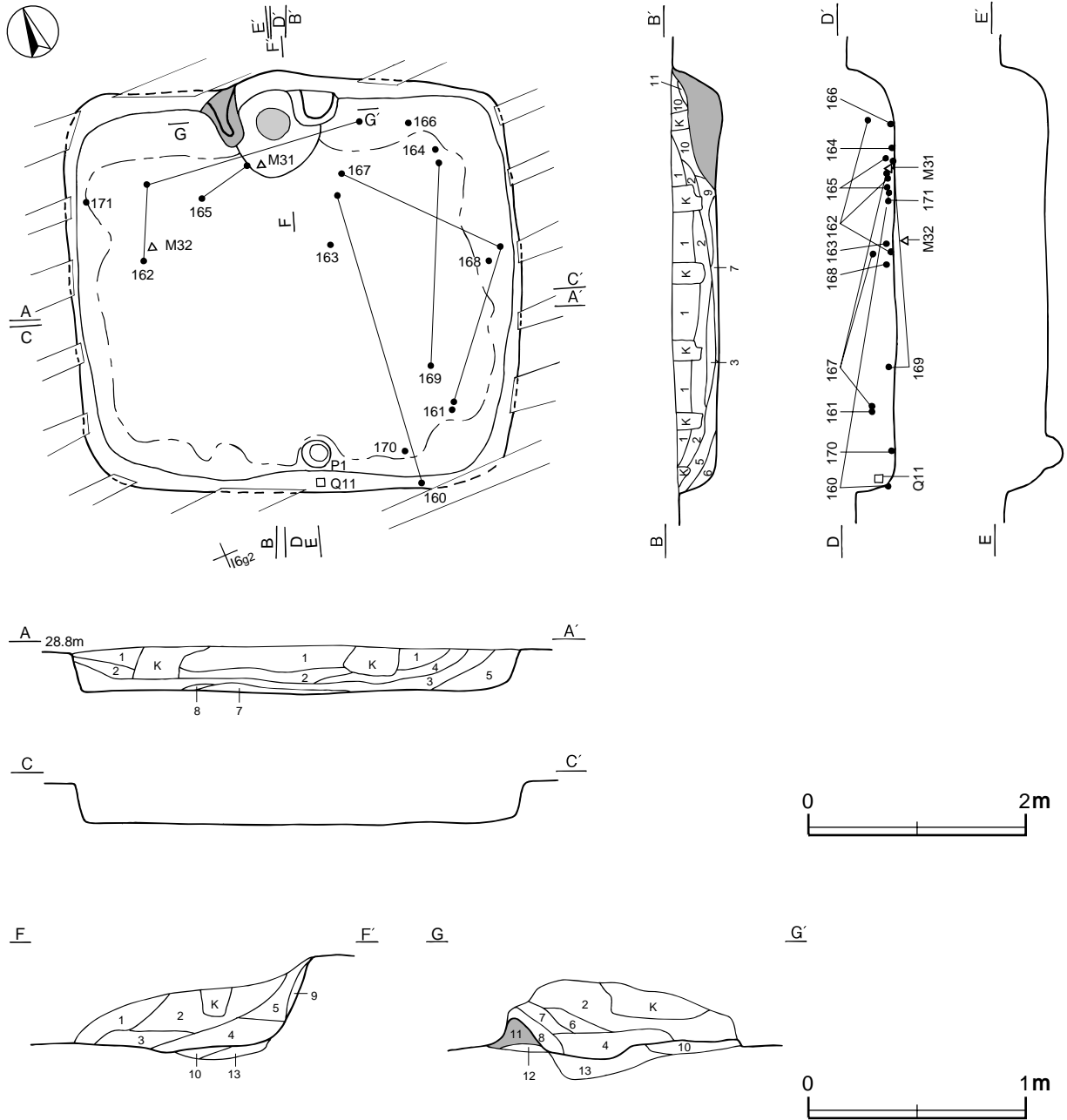
- | | | | |
|-----------|----------------------------|-----------|---------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗 褐 色 | 砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 | 8 灰 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 | 9 暗 褐 色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗 赤 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 10 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 6 黒 褐 色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 12 褐 色 | ロームブロック少量 |
| | | 13 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さは15cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-----------|------------------------|---------|-----------------|
| 1 極 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐 色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |



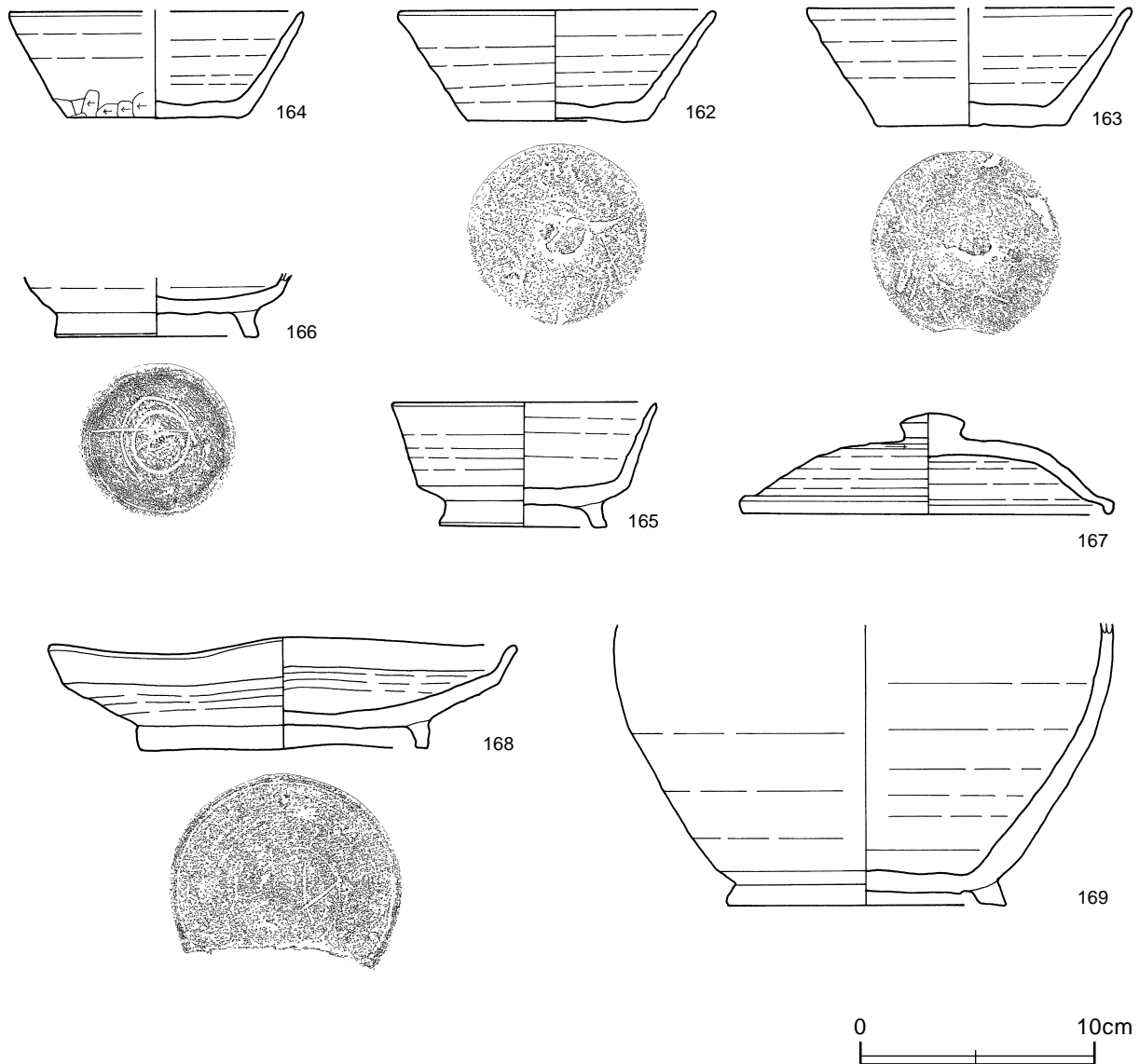
第112図 第31号住居跡実測図

- 5 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 7 にぶい黄褐色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量

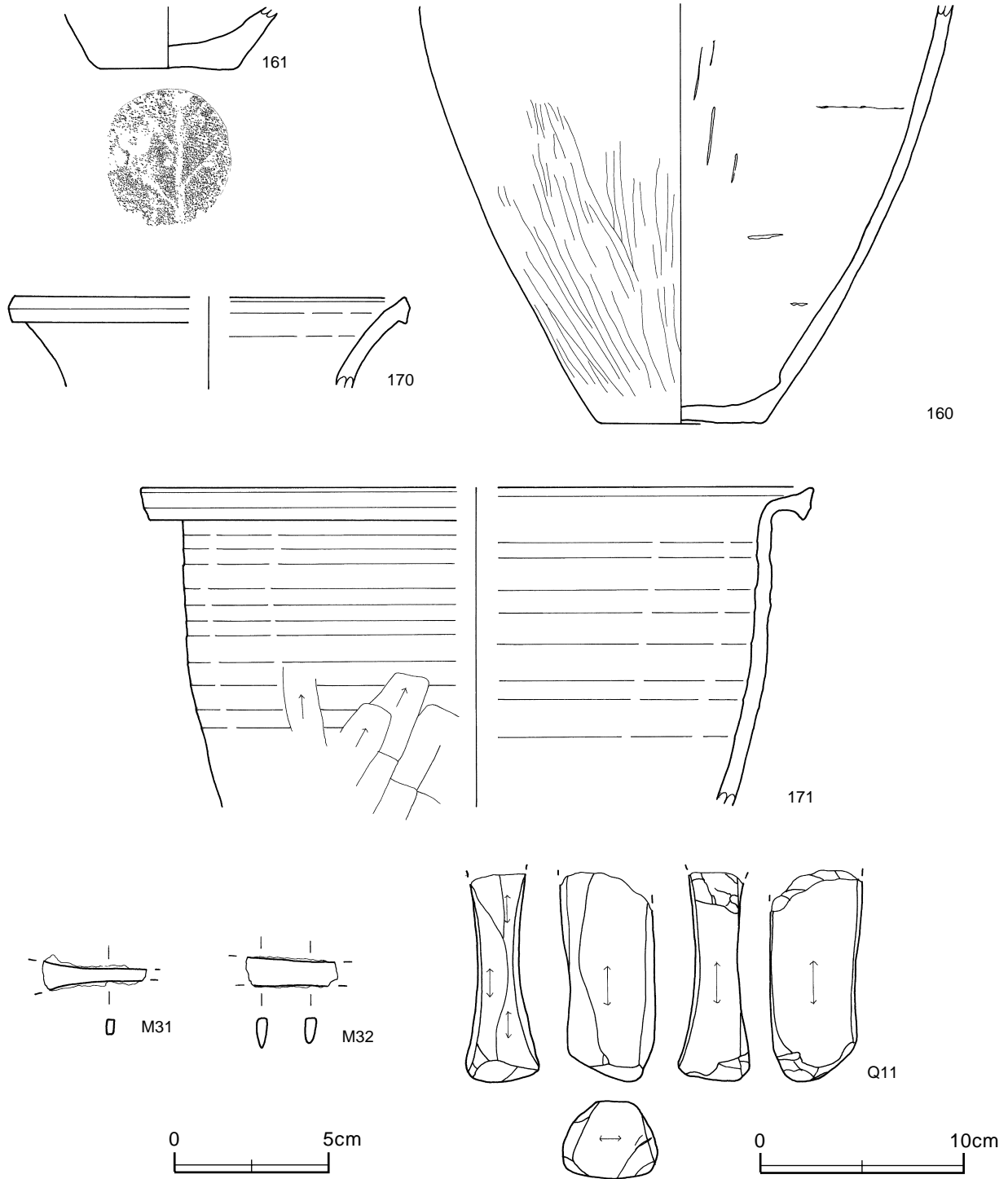
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
- 10 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 11 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片183点（坏1，甕類182），須恵器片59点（坏類29，高台付坏4，蓋12，盤3，瓶1，甕9，甌1），土製品1点（支脚），石器1点（砥石），金属器2点（刀子カ）が出土している。160は南壁際及び竈右袖部手前の覆土下層から出土した破片が接合したものである。162は西壁際及び北西コーナー部の覆土下層と竈右袖部脇の覆土中層から出土した破片が接合したものである。163は中央部の覆土下層，164は北東コーナー部の床面，166は北東コーナー部の覆土下層，168は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。165は竈左手前及び竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。167は竈右袖部手前の覆土下層及び東壁際と南東コーナー部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。169は中央部から南東コーナー寄り
の床面から逆位で出土した底部片と北東コーナー部の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第113図 第31号住居跡出土遺物実測図（1）



第114図 第31号住居跡出土遺物実測図(2)

第31号住居跡出土遺物観察表(第113・114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
160	土師器	甕	-	(20.4)	7.8	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外面へら削り後へら磨き 内面輪稜痕 工具痕	覆土下層	40%
161	土師器	甕	-	(2.7)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部木葉痕	覆土上層	10% 内・外面火熱痕
162	須恵器	坏	13.3	4.7	7.4	長石・石英	灰	普通	底部回転へら切り後ナデ	覆土下層 覆土中層	90% PL32
163	須恵器	坏	[13.8]	5.0	8.0	石英・長石	灰	普通	底部回転へら切り後ナデ	覆土下層	50%
164	須恵器	坏	[12.4]	4.5	7.6	長石	灰褐	普通	体部外面下端手持ちへら削り 底部一方 向のへら削り	床面	40% PL31

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
165	須恵器	高台付坏	11.1	5.4	7.0	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	竈下層 覆土下層	80%
166	須恵器	高台付坏	-	(2.8)	8.6	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	30%
167	須恵器	蓋	15.6	4.3	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	竈下層 覆土中層	70% PL34
168	須恵器	盤	19.8	4.8	12.2	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	60% PL35 ヘラ記号
169	須恵器	瓶	-	(11.9)	11.8	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ後高台貼付	床面	40% 自然釉付着
170	須恵器	甕	[19.0]	(4.4)	-	長石	灰	普通	内・外面口クロナデ	床面	10%
171	須恵器	甌	[32.5]	(15.6)	-	石英	にぶい黄橙	普通	体部外面下端ヘラ削り	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	砥石	(10.2)	4.6	3.6	(177.6)	凝灰岩	砥面5面	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M31	刀子カ	(3.4)	1.1	0.3	(2.7)	鉄	茎部残存 茎尻欠損	覆土下層	
M32	刀子カ	(3.0)	1.0	0.4	(2.6)	鉄	身部残存	床面下	

第32号住居跡（第115～117区）

位置 調査B区のI 6 i2区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 南壁を第33号住居に，西壁際を第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m，短軸4.13mの方形で，主軸方向はN-16-Eである。壁高は36～40cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。貼床は中心部を深く掘り込み，ローム土に鹿沼パミスを含む埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は，焚口部から煙道部まで153cm，右袖部の遺存状況は不良であるが，袖部幅160cmほどである。袖部は地山を掘りくぼめ，暗褐色土を埋め戻して基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめ，暗褐色土及び黒褐色土を埋め戻して使用したと考えられ，火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に46cmほど掘り込み，火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

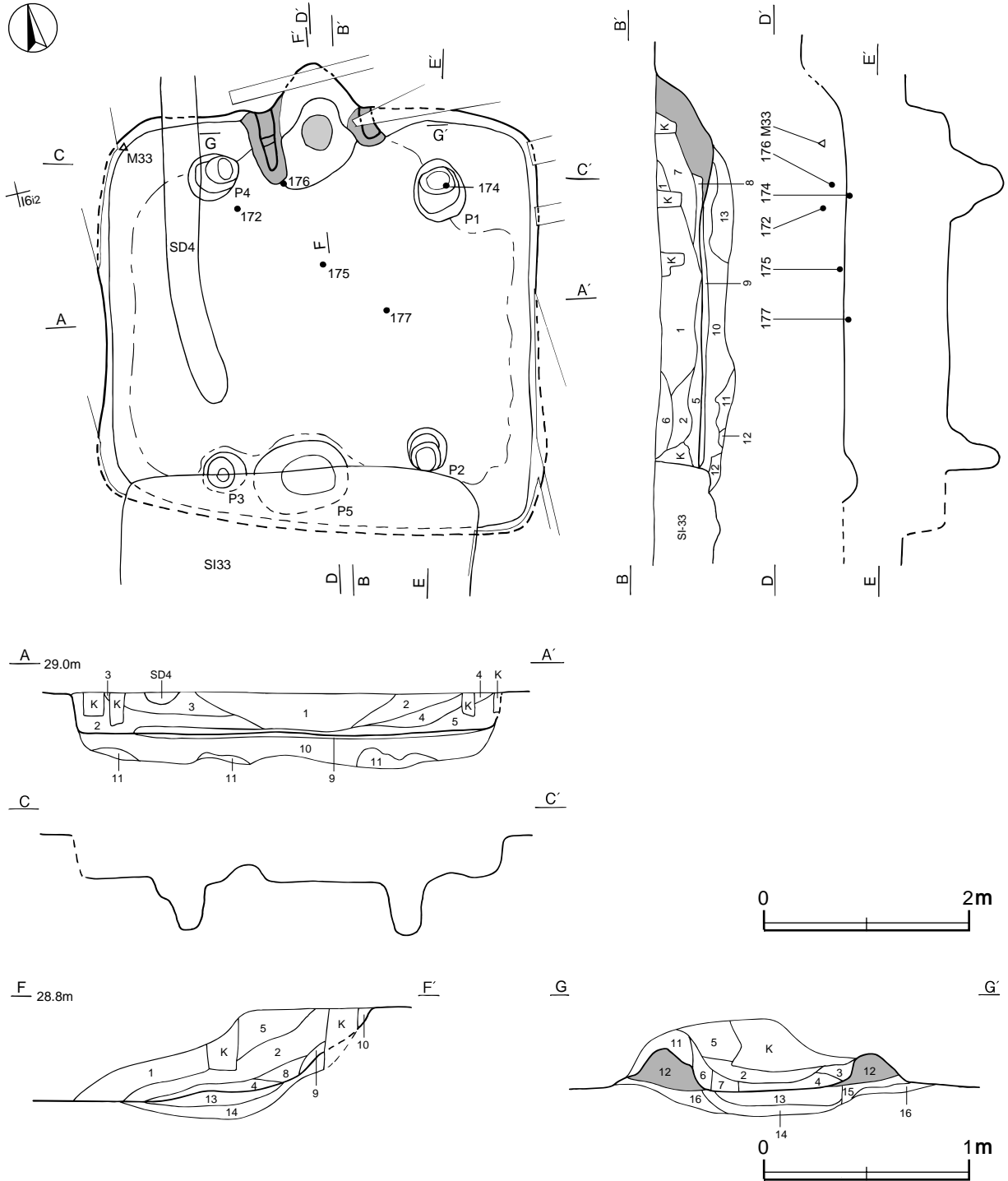
1	黒褐色	色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9	暗褐色	色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐色	色	焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	12	暗褐色	色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量
5	黒褐色	色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	暗赤褐色	色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	にぶい褐色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量	14	黒褐色	色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
7	暗赤褐色	色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15	暗褐色	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
8	褐色	色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ51～53cmで，位置と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ25cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。なお，P5は平面形が大きく，南側に隣接する第33号住居の竈が構築される際に，掘り込まれた可能性も考えられる。

覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。第9～13層は貼床の構築土である。

土層解説

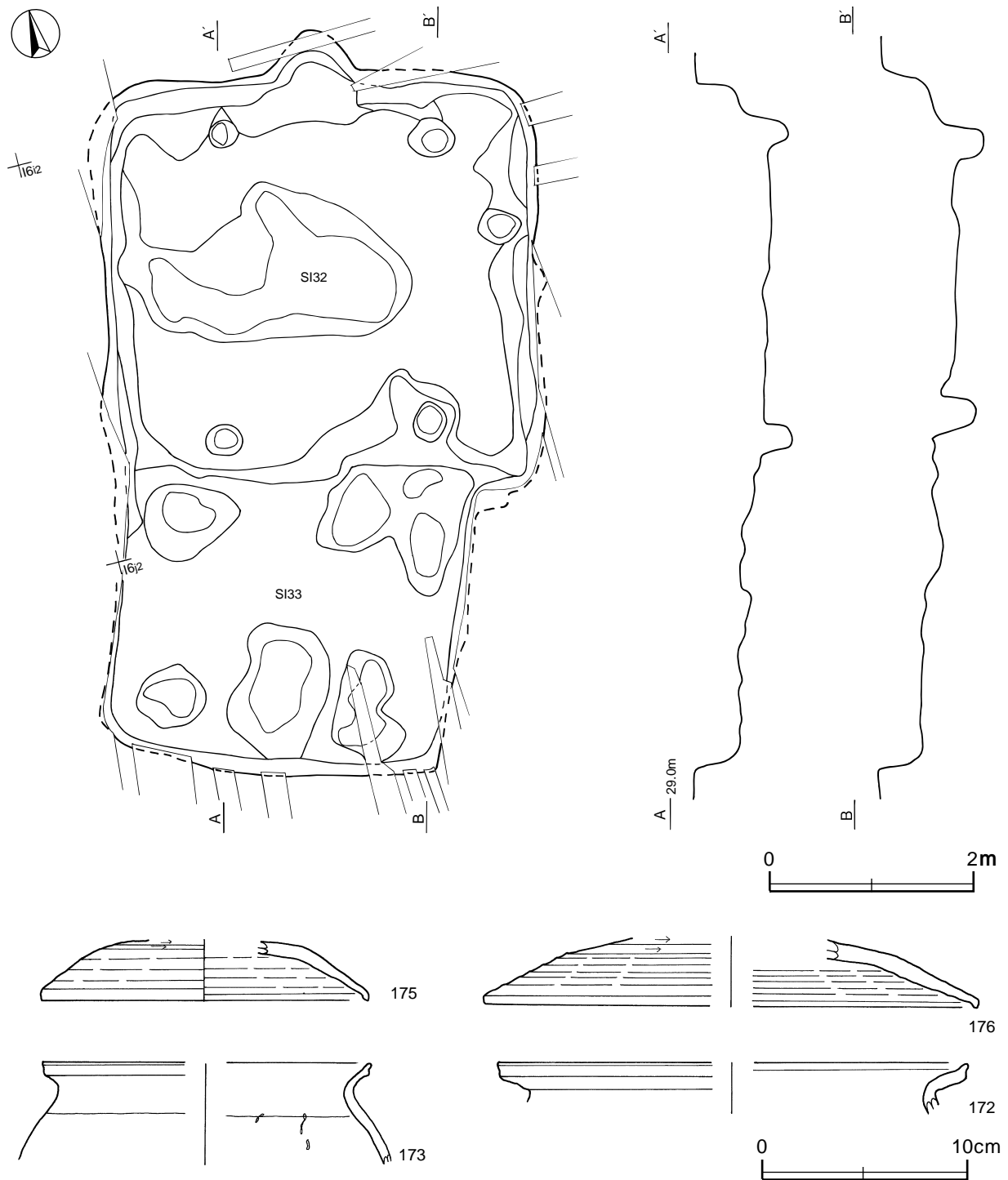
- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 11 褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 (2より彩度が低い) | 12 褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス少量 |
| 6 灰褐色 | ローム粒子少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, 鹿沼パミス微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量 | | |



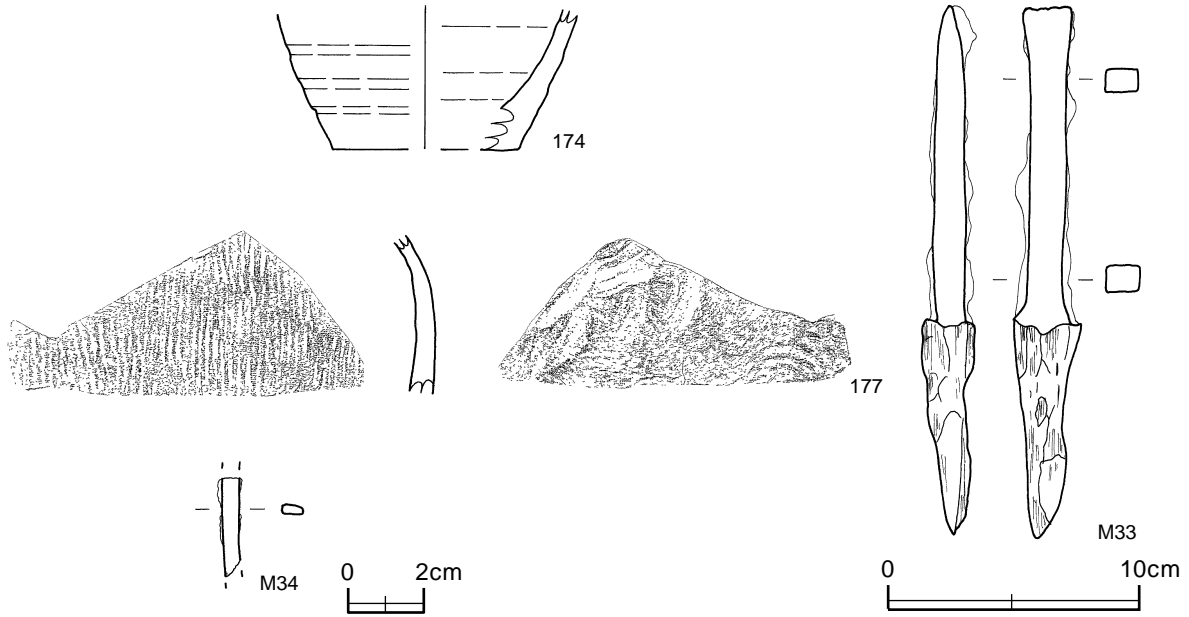
第115図 第32号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片57点（甕類），須恵器片28点（坏類6，高台付坏1，蓋18，甕3），土製品1点（支脚），金属器・金属製品2点（鏝，釘）が出土している。174はP1の覆土上層，177は中央部の床面，M33は北西コーナー部の覆土中層，173はP3の覆土中，M34は覆土中からそれぞれ出土している。176は，竈左袖手前の覆土下層と竈の覆土中から出土した破片が接合したものである。175は，中央部の床面と覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第116図 第32・33号住居跡，第32号住居跡出土遺物実測図



第117図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表 (第116・117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
172	土師器	甕	[22.7]	(2.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
173	土師器	甕	[16.0]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	P 3 覆土中	10%
174	土師器	捏鉢カ	-	(5.7)	[7.4]	長石・石英	黒褐	普通	内・外面口口ナデ	P 1 覆土上層	10%
175	須恵器	蓋	15.9	(2.8)	-	長石・石英・黒色 粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面 覆土中	10%
176	須恵器	蓋	[23.8]	(3.3)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層 覆土中	30%
177	須恵器	甕	-	(6.3)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面同心円の 当て具痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M33	鑿	(21.2)	2.8	1.1	(156.9)	鉄	ほぼ完存 木質付着	覆土中層	PL47
M34	釘カ	(2.7)	0.5	0.2	(1.0)	鉄	頭部・脚部欠損 断面長方形	覆土中	

第33号住居跡 (第116・118・119図)

位置 調査B区のI 6 j2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 北壁が第32号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作により攪乱を受けており、推定で長軸3.42m、短軸3.38mの方形で、主軸方向はN-18-Eである。壁高は36~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。貼床は四隅を深く掘り込み、ローム土に鹿沼パミスを含む埋土で構築している。

竈 北壁際は耕作により著しく攪乱を受けており、確認できなかった。しかし、中央部から北壁寄り床面で粘土塊や焼土の散らばりが確認できたことや、隣接する第32号住居跡のP 5は本跡の竈の掘り方である可能性があるため、竈は北壁のほぼ中央に付設されていたと考えられる。

ピット 深さは28cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

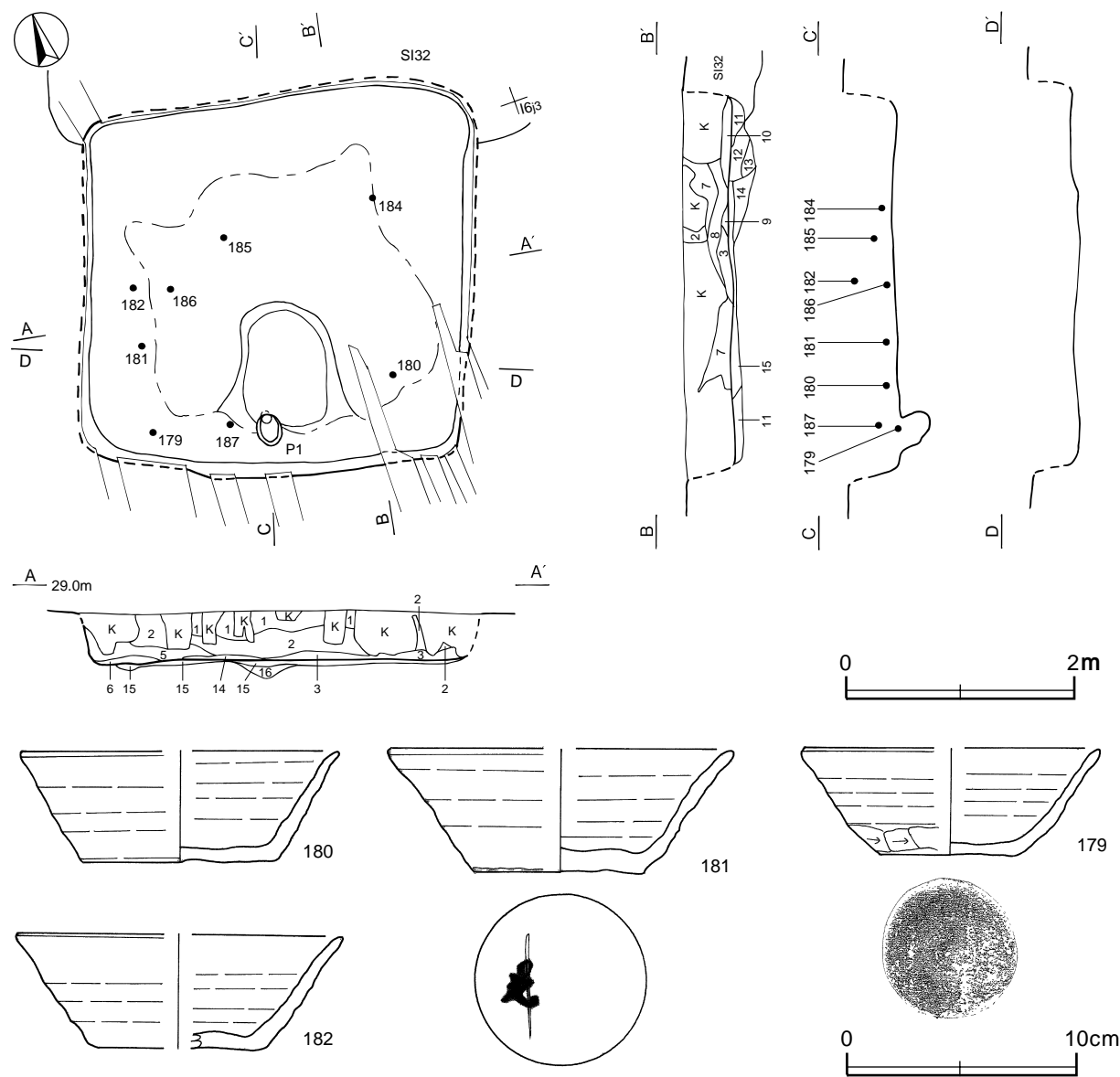
覆土 10層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第11～16層は貼床の構築土である。

土層解説

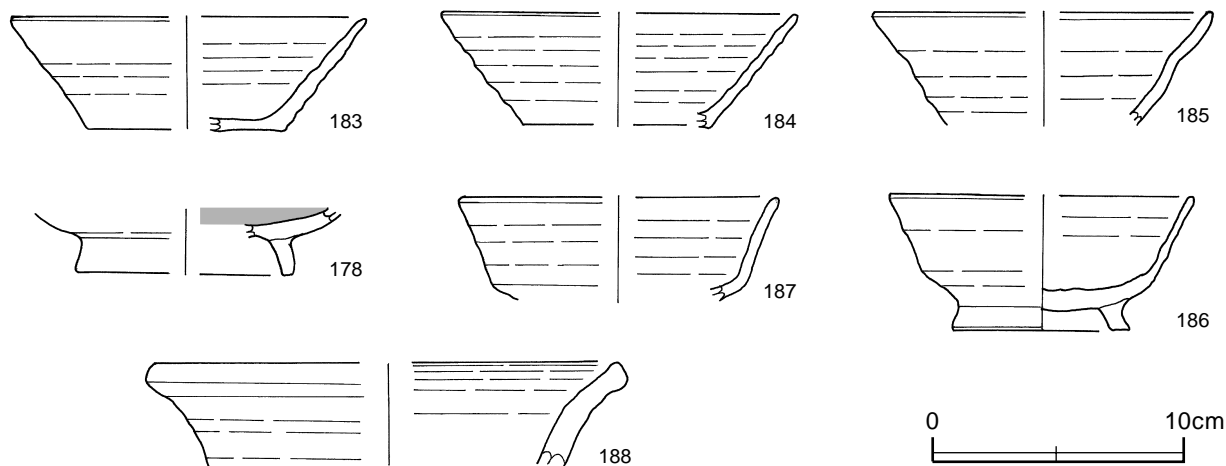
1 黒 褐色	ロームブロック少量 (縮まり弱い)	9 黒 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
2 黒 褐色	ロームブロック微量	10 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量
3 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	11 黒 褐色	ローム粒子少量, 鹿沼パミス微量
4 黒 褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量	12 黒 褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子微量
5 黒 褐色	ローム粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量
6 暗 褐色	ロームブロック少量	14 暗 褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
7 黒 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	15 褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
8 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16 黒 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片16点 (高台付坏2, 甕類14), 須恵器片40点 (坏類35, 高台付坏2, 甕3) が出土している。179は南西コーナー部の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。181は西壁際, 184は北東コーナー部, 185は中央部の覆土下層, 182は西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。180は南東コーナー部, 186は中央部, 187は南壁際の覆土下層から出土した破片が, それぞれ覆土中から出土した破片と接合したものである。また, 178・183・188は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第118図 第33号住居跡・出土遺物実測図



第119図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表 (第118・119図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
178	土師器	高台付坏	-	(2.3)	[8.4]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面口クロナデ 内面ヘラ磨き	覆土中	10%
179	須恵器	坏	[12.8]	4.6	5.9	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外面下端及び底部手持ちヘラ削り	覆土下層 覆土中	40% 煤付着
180	須恵器	坏	[13.6]	4.8	8.4	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層 覆土中	30%
181	須恵器	坏	[14.8]	5.3	7.3	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	50% 墨書「J」 PL32・38
182	須恵器	坏	[13.8]	4.9	[7.0]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	30% ヘラ記号
183	須恵器	坏	[13.8]	4.5	[7.8]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	40%
184	須恵器	坏	[14.0]	4.4	[7.4]	長石	灰白	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	20%
185	須恵器	坏	[13.4]	(4.4)	-	長石・石英	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%
186	須恵器	高台付坏	[12.0]	5.4	6.9	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ後高台貼付	覆土下層 覆土中	30%
187	須恵器	高台付坏	[12.4]	4.0	-	長石	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層 覆土中	20%
188	須恵器	甕	[18.4]	(4.0)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土中	10%

第35号住居跡 (第120～122図)

位置 調査B区のI 6 a2区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第199・200号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.00m、短軸2.97mの方形で、主軸方向はN-17 - Eである。壁高は40～44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、壁際と竈手前を除き踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は不良である。規模は、焚口部から煙道部まで107cm、袖部幅104cmほどである。袖部は床面と同じ高さに褐色土を盛り基部として、砂質粘土で構築されていたと考えられる。火床部は床面を12cm掘りくぼめ、暗褐色土を埋め戻しており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ半円形状に54cmほど掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 7 暗赤褐色 焼土粒子微量 | 10 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 8 灰褐色 砂質粘土中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 9 褐色 ロームブロック中量 | |

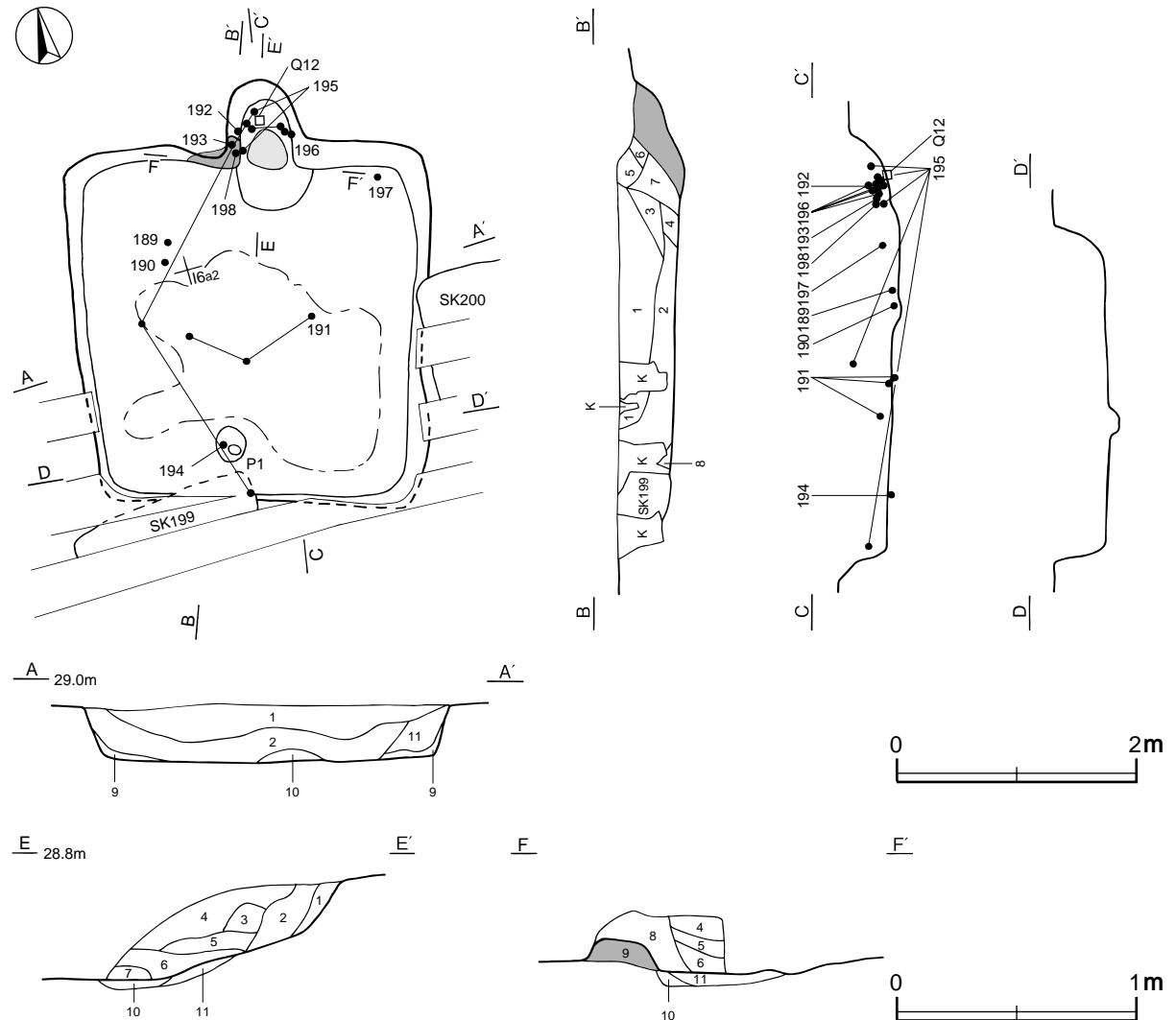
ピット 深さは10cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

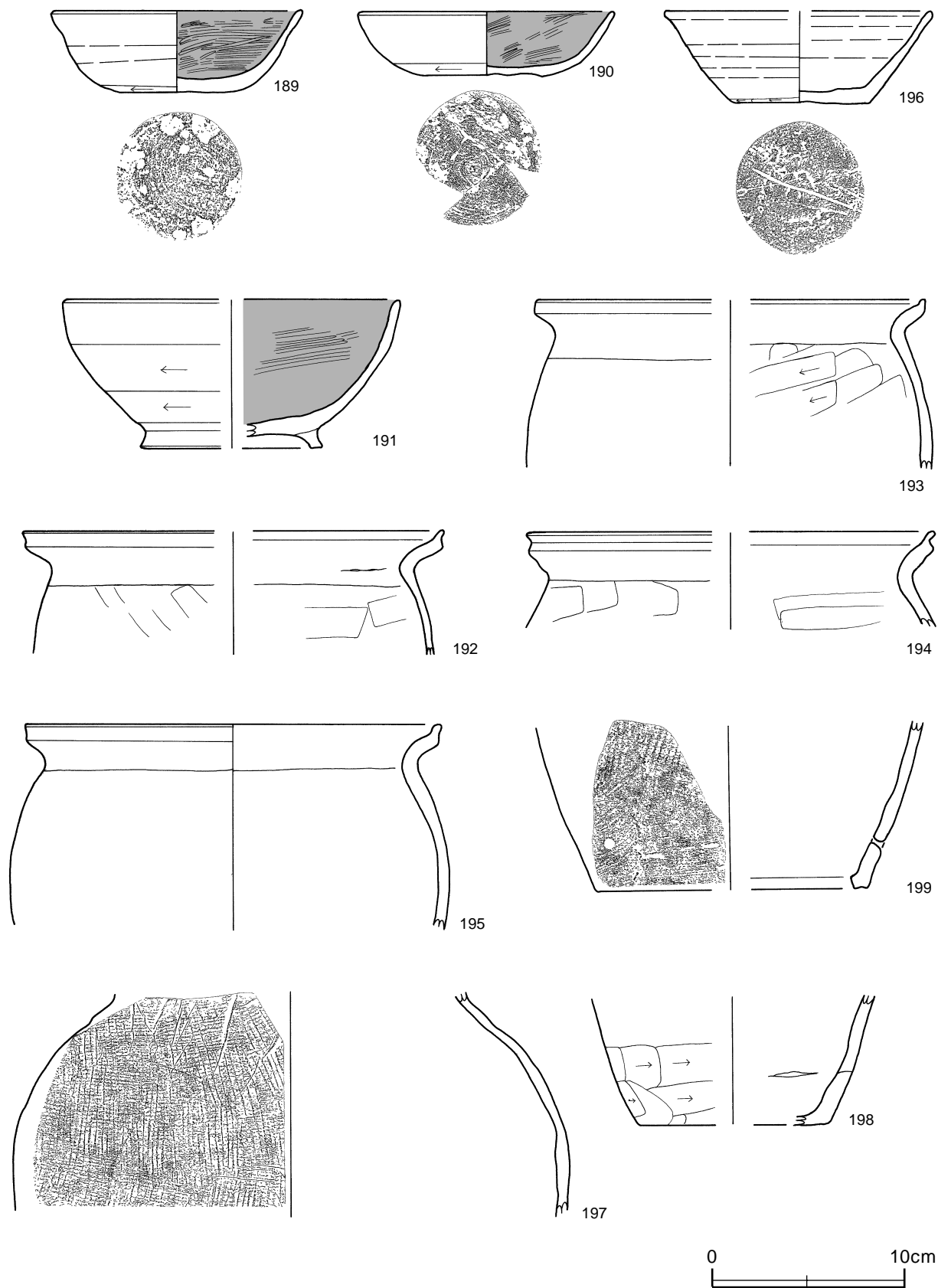
- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 褐色 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 5 黒色 ロームブロック少量 | 11 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 6 黒色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片205点(坏類15, 高台付坏6, 甕類184), 須恵器片70点(坏27, 盤1, 甕41, 甗1), 石製品1点(支脚), 金属器・金属製品3点(釘1, 不明2)が出土している。189・190は北西コーナー一部の覆土下層から出土している。191は中央部の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。195は南壁際及び竈の覆土下層と西壁際の覆土中層から出土した破片が接合したものである。196は竈の覆土下層から出土した破片が接合したものである。Q12は竈の火床面奥から出土している。M35~M37は覆土中から出土している。

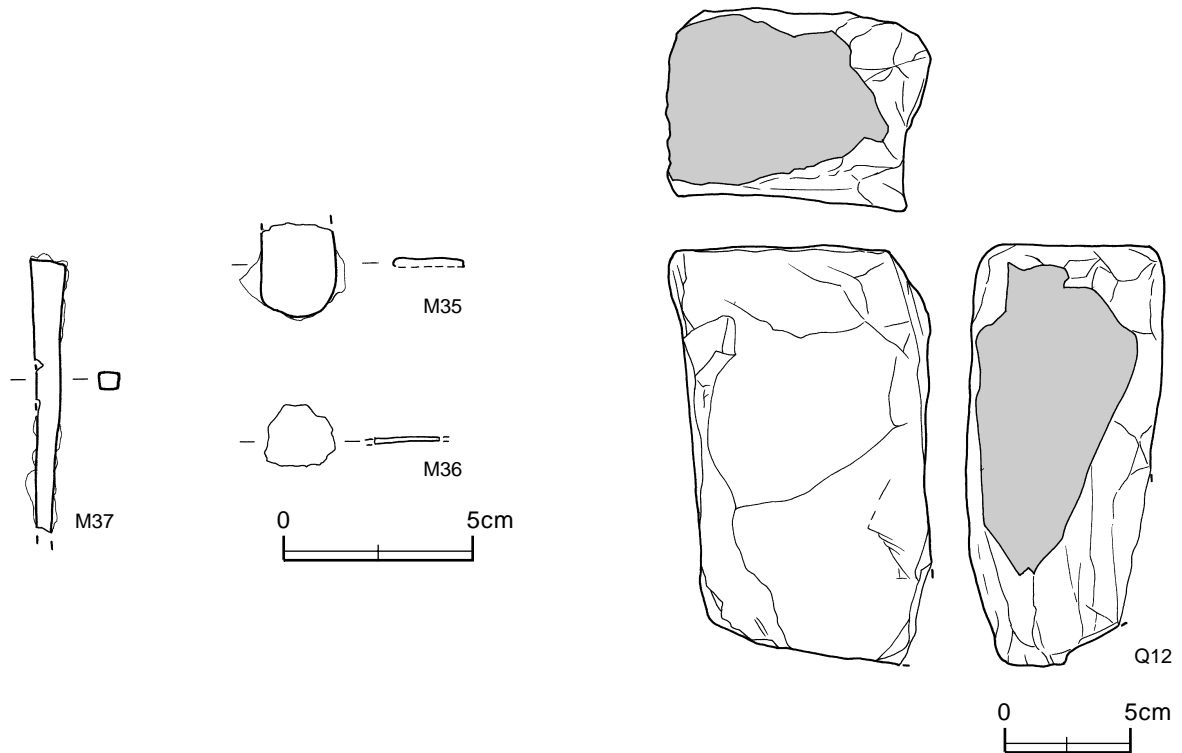


第120図 第35号住居跡実測図

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第121図 第35号住居跡出土遺物実測図(1)



第122図 第35号住居跡出土遺物実測図(2)

第35号住居跡出土遺物観察表(第121・122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
189	土師器	坏	12.8	4.2	6.2	石英・長石・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下位から底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	80% 外面煤付着 PL33
190	土師器	坏	13.1	3.3	6.2	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部下位から底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	60% 外面煤付着
191	土師器	椀	[17.2]	7.6	[9.2]	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面中位から下位回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り後高台貼付	床面	30% 口縁部煤付着
192	土師器	甕	[21.8]	(6.3)	-	石英・長石・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面輪積痕	甕袖内側	10%
193	土師器	甕	[20.0]	(8.8)	-	雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面ヘラナデ 外面磨減調整不明	甕袖内側	10%
194	土師器	甕	[21.0]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 内面ヘラナデ	P 1 覆土上層	10%
195	土師器	甕	21.3	(10.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層 覆土中層	30% 煤付着
196	須恵器	坏	[13.8]	4.8	7.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外面下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り後ナデ	甕 覆土下層	70% ヘラ記号 PL33
197	須恵器	甕	-	(11.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外面格子目叩き 内面磨減調整不明	覆土下層	10%
198	土師器	甕	-	(6.7)	[9.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面下位横位のヘラ削り 内面輪積痕	甕袖内側 覆土中	10%
199	須恵器	甕	-	(8.5)	[14.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部外面格子目叩き 体部下位横位のヘラ削り 孔1つ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	支脚	16.6	(10.5)	8.2	(21600)	砂岩	前面に火熱痕あり	甕底面	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M35	不明	(2.4)	(2.0)	0.2	(3.6)	鉄	板状	覆土中	
M36	不明	(1.6)	(1.8)	0.1	(1.4)	鉄	板状	覆土中	
M37	釘	(7.2)	0.9	0.5	(5.9)	鉄	頭部・脚部先端欠損 断面方形	覆土中	

第36号住居跡 (第123~125図)

位置 調査B区のH6 j5区, 標高28mほどの台地平坦部に位置している。

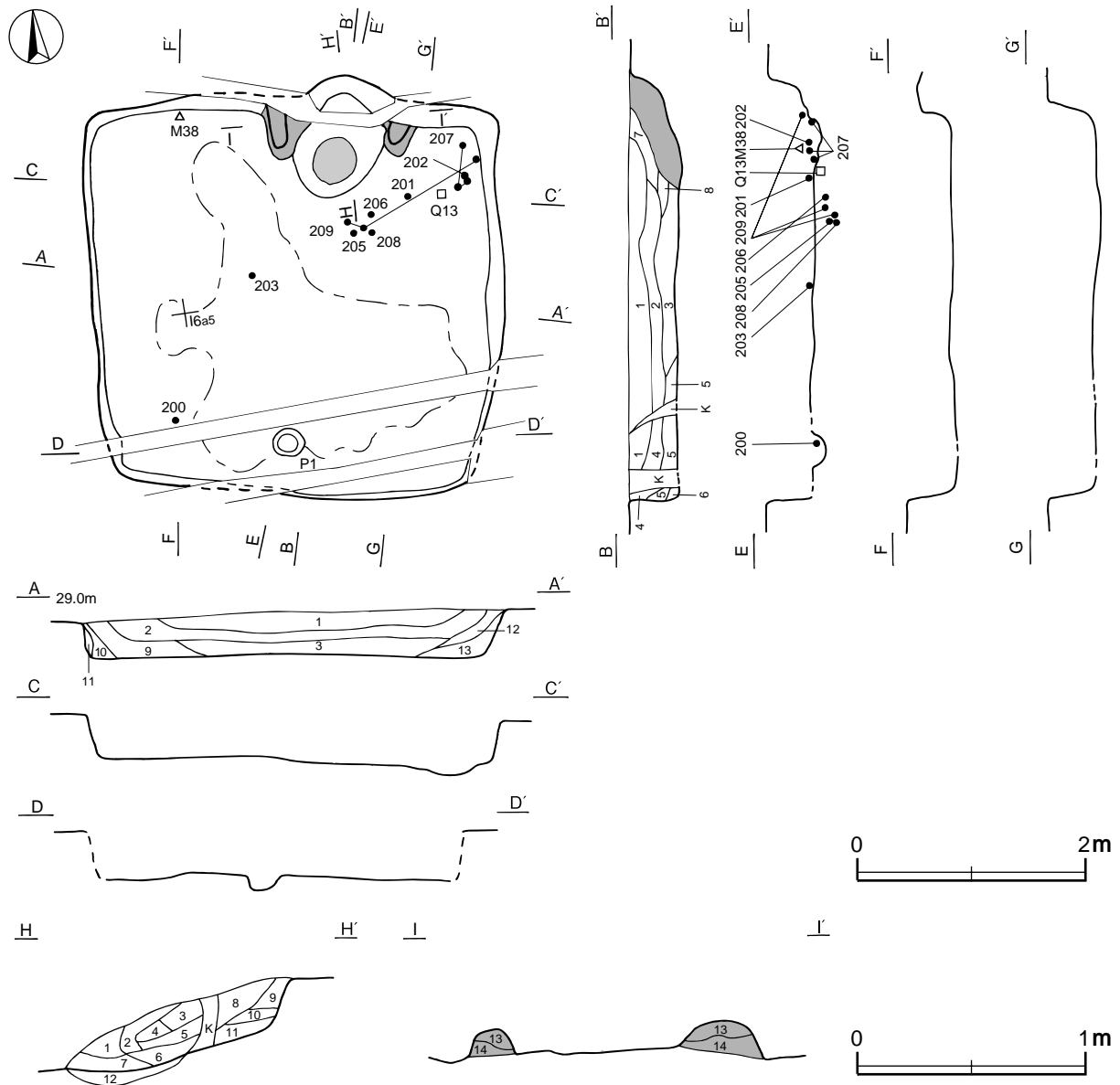
規模と形状 長軸3.59m, 短軸3.45mの方形で, 主軸方向はN-12 - Eである。壁高は26~45cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 北東コーナー部を除く中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで106cm, 袖部幅125cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として, 砂質粘土で構築されている。火床部は床面を12cm掘りくぼめ, 暗褐色土を埋め戻して使用したと考えられ, 火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に20cmほど掘り込み, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 (8より色相が黄色味を帯びている) |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | 焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・砂質粘土粒子少量 | 7 黒褐色 | 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |



第123図 第36号住居跡実測図

8 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量	11 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9 褐 色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
10 暗 褐 色	焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	13 褐 色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量
		14 暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量

ピット 深さは10cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

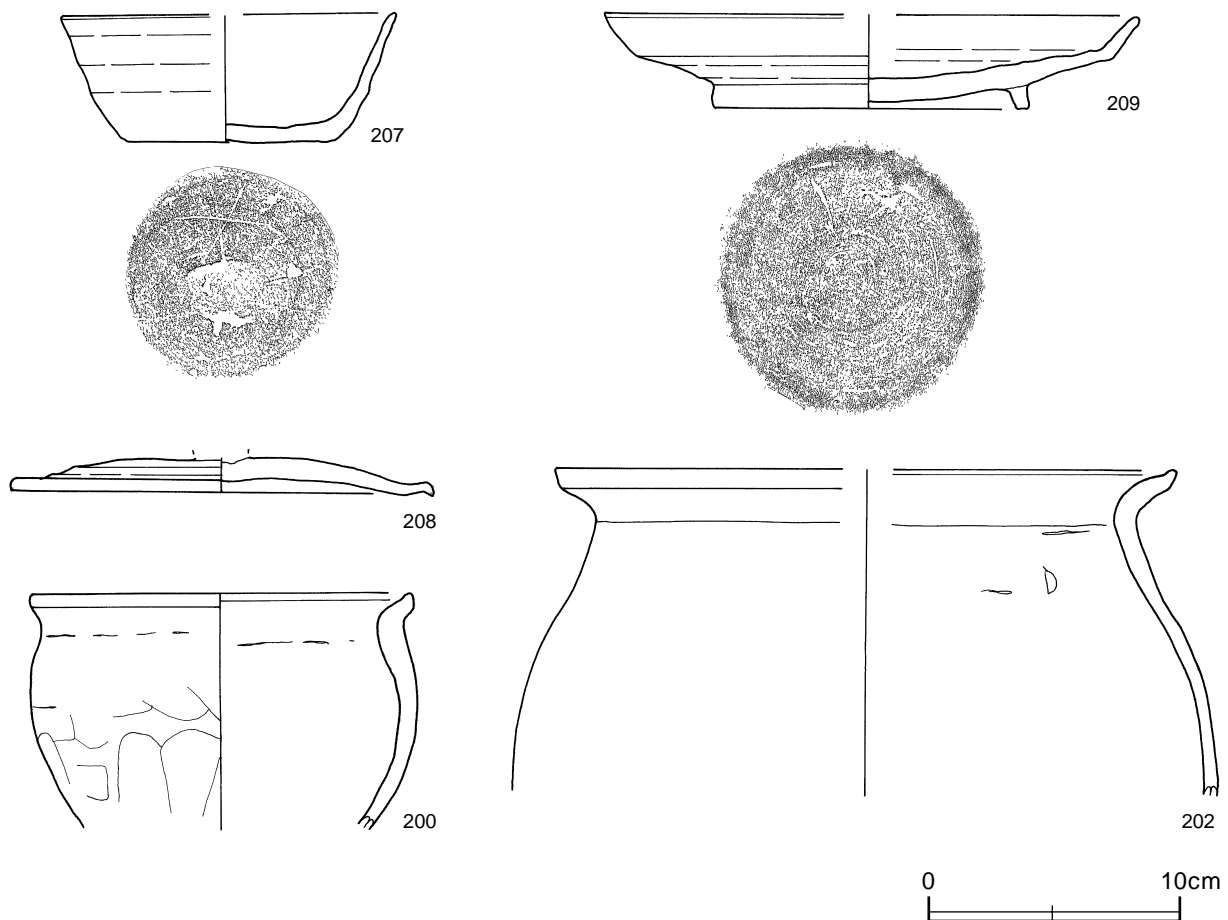
覆土 13層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。

土層解説

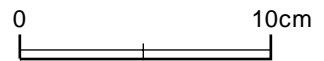
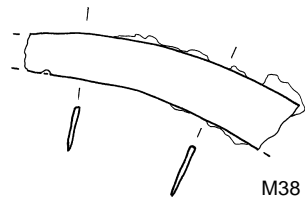
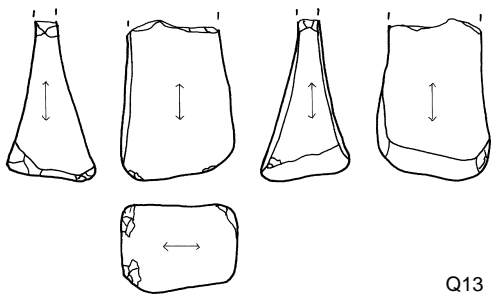
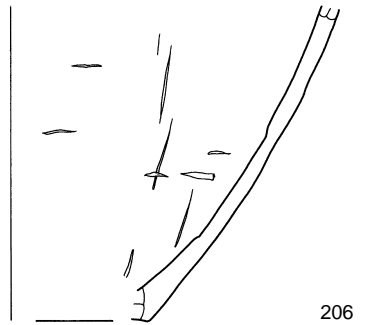
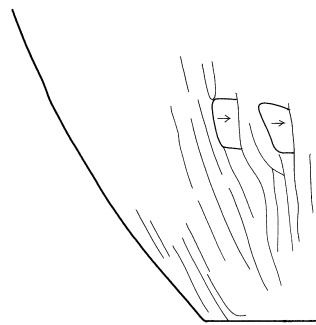
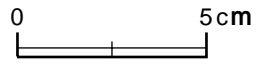
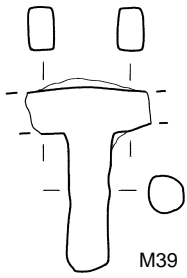
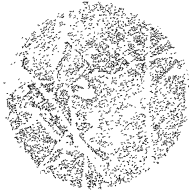
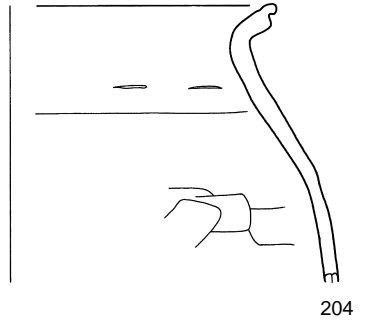
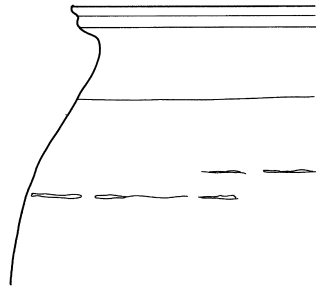
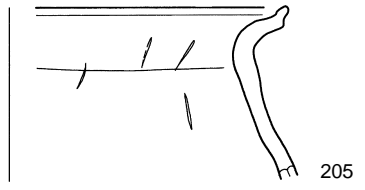
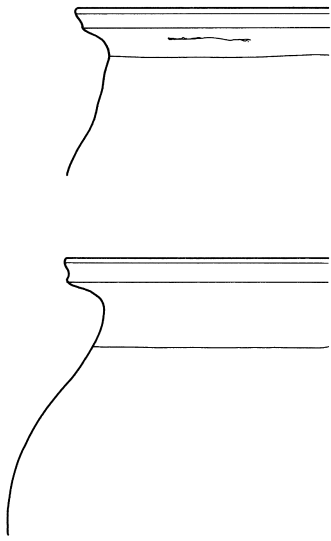
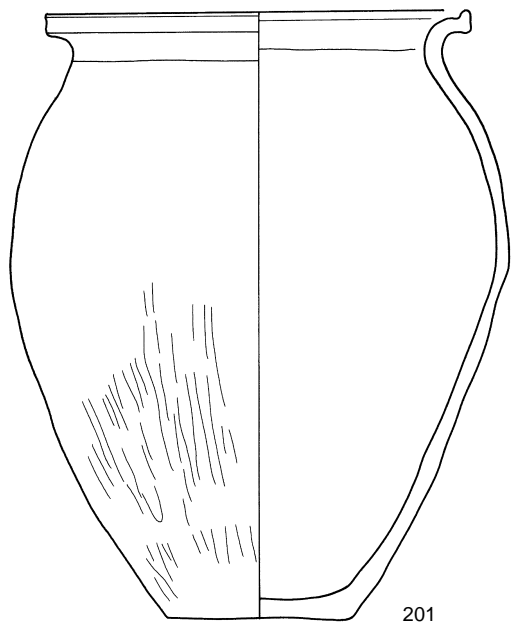
1 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 黒 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
2 黒 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒 褐 色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒 褐 色	ローム粒子少量 (6より彩度が高い)
4 黒 褐 色	ローム粒子微量	11 黒 褐 色	ローム粒子中量
5 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量	12 黒 褐 色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
6 黒 褐 色	ローム粒子少量	13 黒 褐 色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片171点 (甕類170, 甌1), 須恵器片41点 (坏類32, 蓋3, 盤3, 瓶1, 甕2), 石器1点 (砥石), 金属器・金属製品2点 (鎌, 不明) が出土している。200は南西コーナー部の床面から逆位で, 201は北東コーナー部の床面から横位でつぶれた状態で, 208は北東コーナー部の床面下から逆位で, それぞれ出土している。207は北東コーナー部の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。209は北東コーナーの覆土下層と竈手前の床面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第124図 第36号住居跡出土遺物実測図 (1)



第125图 第36号住居跡出土遺物実測图(2)

第36号住居跡出土遺物観察表 (第124・125図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
200	土師器	小形甕	15.0	(9.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面輪積痕	床面	70%
201	土師器	甕	22.2	32.2	9.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下位縦位のヘラ磨き	床面	90% PL35
202	土師器	甕	[24.8]	(13.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 内面輪積痕	覆土下層 覆土中	10%
203	土師器	甕	[22.8]	(11.0)	-	石英・雲母・赤色 粒子	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	床面	10%
204	土師器	甕	[21.0]	(11.0)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部から頸部内・外面横ナデ 輪積痕	竈覆土中	10%
205	土師器	甕	[22.0]	(6.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面輪積痕 工具痕	掘り方	10%
206	土師器	甕	-	(12.5)	[11.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下位横位のヘラ削り後縦位のヘラ磨き 輪積痕 工具痕	掘り方 覆土中	10%
207	須恵器	坏	[13.2]	5.0	8.2	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層 覆土中	60% ヘラ記号 PL32
208	須恵器	蓋	16.8	(1.4)	-	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	掘り方 覆土中	60% 口縁部 自然釉付着
209	須恵器	盤	[20.6]	3.7	12.5	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	掘り方 覆土下層	90% PL35

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q13	砥石	(6.4)	4.5	3.6	(90.6)	凝灰岩	砥面5面	床面下	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M38	鎌	(10.5)	(2.5)	0.3	(28.8)	鉄	刃部先端・基部欠損	覆土下層	PL48
M39	不明	4.8	(3.3)	0.9	(32.8)	鉄	T字形 断面長方形と円形	覆土中	PL48

第38号住居跡 (第126～128図)

位置 調査B区のI 6 j9区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 南西コーナー部が、第207号土坑を掘り込んでいる。

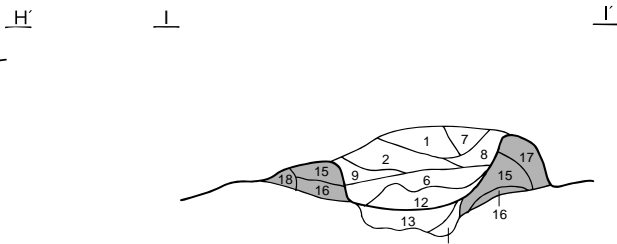
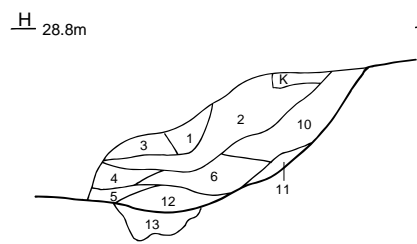
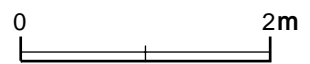
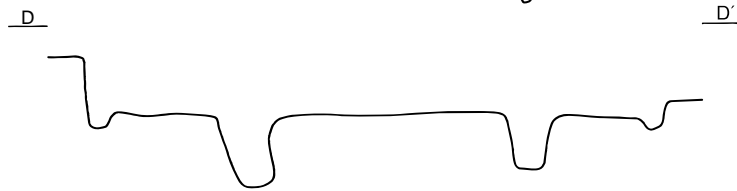
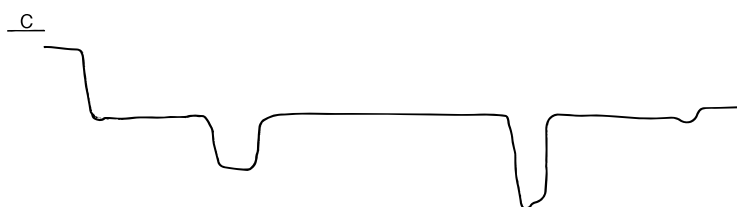
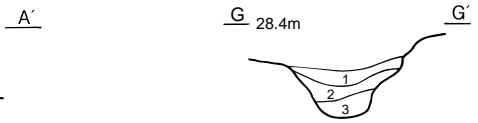
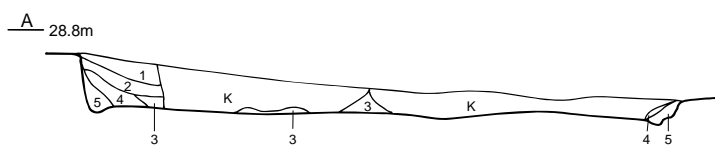
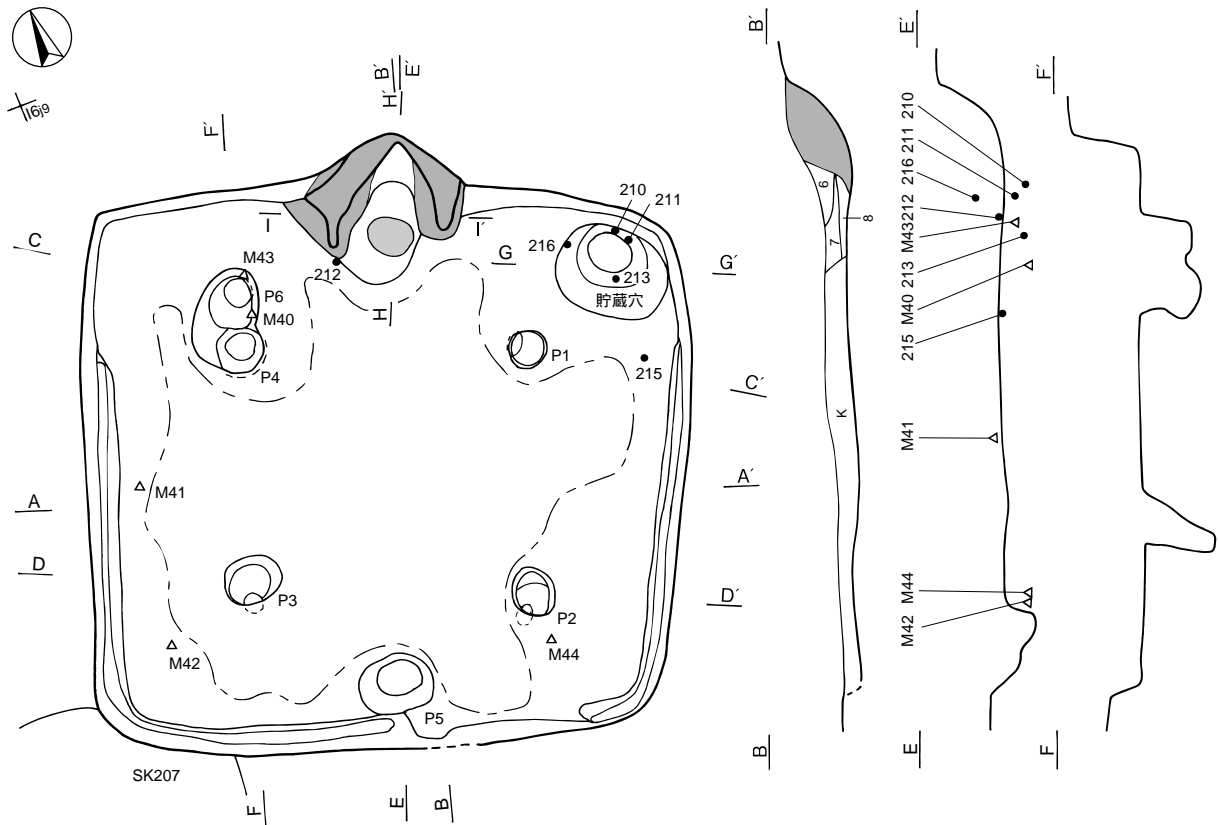
規模と形状 長軸4.85m、短軸4.56mの方形で、主軸方向はN-20-Eである。壁高は10～52cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が、北西コーナー付近から南壁中央にかけて、及び東壁の一部を周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで120cm、袖部幅135cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめ、暗褐色土を埋め戻して使用したと考えられ、火床面は火熱によりわずかに赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に38cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量(7より彩度が高い)
2	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	黒褐色	砂質粘土粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
8	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
			17	褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量
			18	褐色	ローム粒子多量



第126图 第38号住居跡実測图

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ43～72cmで位置と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ17cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ42cmで、支柱穴の可能性はある。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、長径90cm、短径72cmの楕円形で、深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |

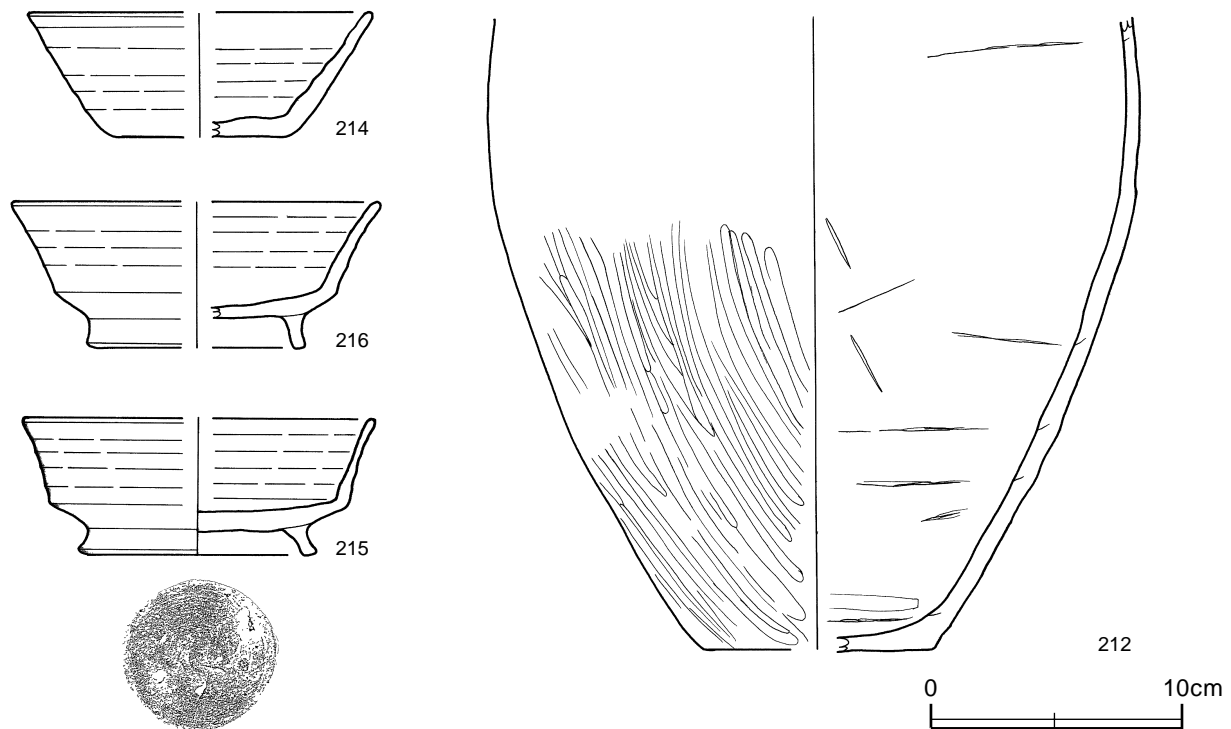
覆土 8層からなる。西壁と北壁際を除き、床面付近まで攪乱を受けており、堆積状況は不明である。

土層解説

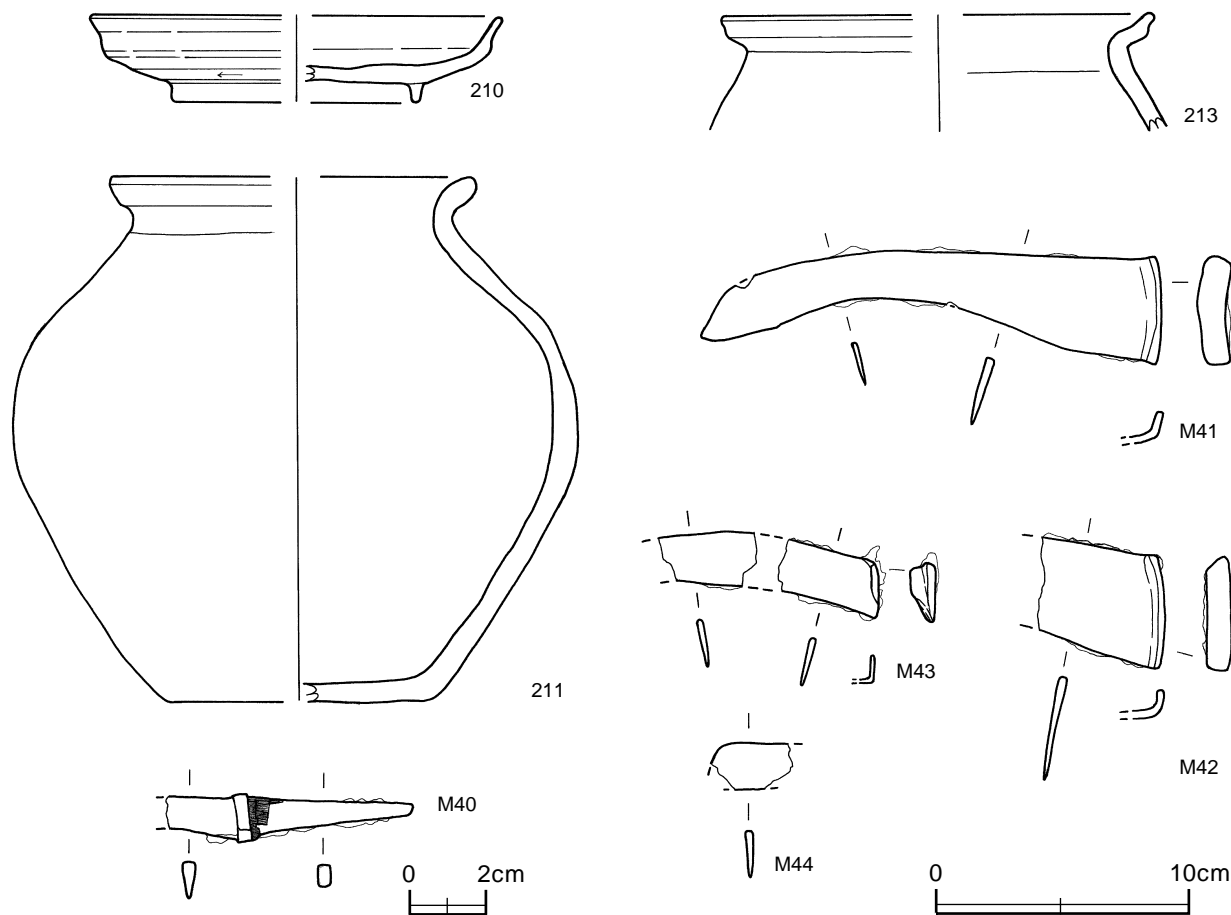
- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| 1 極 暗 褐 色 ロームブロック少量 | 6 黒 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 7 暗 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 ローム粒子少量 | 8 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 極 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | |
| 5 暗 褐 色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片431点（坏1，甕類430），須恵器片28点（坏類19，高台付坏3，盤1，蓋2，甕3），金属器5点（鎌4，刀子1）が出土している。215は東壁際から北東コーナー寄りの床面から正位で出土している。210・213は貯蔵穴の覆土中層から出土している。211は貯蔵穴の覆土中層と住居の覆土中から出土した破片が接合したものである。212は竈手前の床面と北西コーナー部の覆土中から出土した破片が接合したものである。M40はP 4の覆土中層から，M43はP 6の覆土上層からそれぞれ出土している。M41は西壁際中央部の覆土下層から出土している。M42は南西コーナー部，M44は南東コーナー部のそれぞれ床面下から出土している。

所見 覆土は、竈の手前を除き、南側の大部分が床面直上まで攪乱を受けている。取り上げた遺物は、攪乱の影響を受けていないと考えられるものである。時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第127図 第38号住居跡出土遺物実測図（1）



第128図 第38号住居跡出土遺物実測図(2)

第38号住居跡出土遺物観察表(第127・128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
210	土師器	高台付坏	[16.0]	3.5	[9.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下位回転ヘラ削り後高台貼付	底部回転ヘラ削り	貯蔵穴 覆土中層	25%
211	土師器	甕	[14.3]	20.8	[10.3]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	体部内・外面磨滅調整不明	貯蔵穴 覆土中層	80% PL37
212	土師器	甕	-	(25.0)	[9.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き	内面輪積痕	床面 覆土中層	30%
213	土師器	甕	[17.0]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ		貯蔵穴 覆土中層	10%
214	須恵器	坏	[13.6]	4.9	[7.0]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ		覆土中	20% ヘラ記号
215	須恵器	高台付坏	[13.8]	5.4	9.0	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付		床面	50%
216	須恵器	高台付坏	[14.4]	5.8	[8.2]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付		覆土下層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M40	刀子	(6.4)	1.3	0.4	(4.9)	鉄	切先欠損 木質附着 縁金残存	P 4 覆土中層	PL46
M41	鎌	18.1	4.4	0.3	62.0	鉄	ほぼ完存 端部折り返し	覆土下層	PL48
M42	鎌	(5.2)	4.6	0.3	(25.7)	鉄	基部残存 端部折り返し	掘り方	PL48
M43	鎌	(7.8)	2.3	0.2	(12.5)	鉄	刃部先端欠損 端部上端折り返し	P 6 覆土上層	PL48
M44	鎌カ	(3.2)	1.9	0.3	(4.2)	鉄	刃部カ	掘り方	

第40号住居跡(第129・130図)

位置 調査D区のG 4 g2区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 南壁を第41号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.28m，短軸3.20mの方形で，主軸方向はN-12-Wである。壁高は26～45cmで，外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で，北西コーナー寄りを除く中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部と煙道部が耕作により攪乱されており，遺存状況は不良である。規模は，確認できた火床部の先端から推定煙道部まで61cm，袖部幅113cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として，砂質粘土で構築されている。火床部は床面を10cmほど掘りくぼめ，褐色土を埋め戻しており，火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に20cmほど掘り込まれていたと推測され，火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

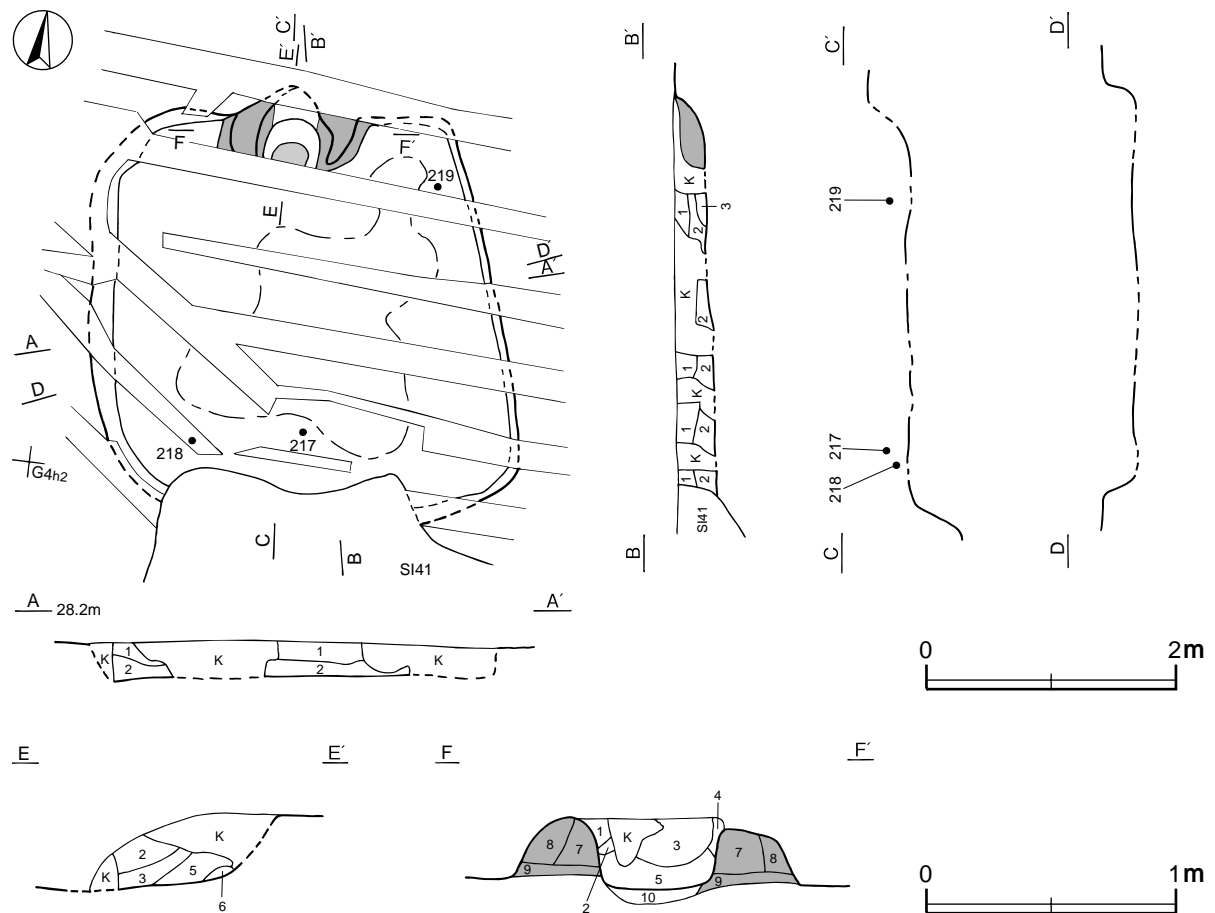
- | | | | | | |
|---|--------|----------------------|----|-----|-----------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ローム粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 7 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量 | 9 | 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 | 褐色 | ロームブロック少量 |

覆土 3層からなる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|-----|----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量 | | | |

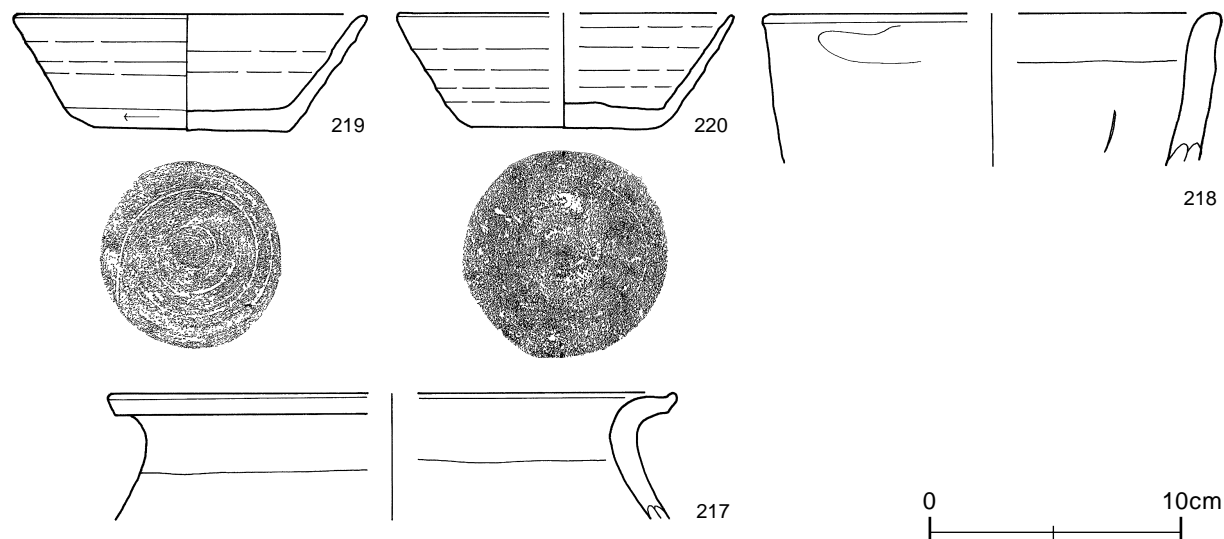
遺物出土状況 土師器片44点（坏2，高台付坏1，甕類41），須恵器片10点（坏6，蓋1，甕2，甌1）が出



第129図 第40号住居跡実測図

土している。219は北東コーナー部の覆土中層から、217は中央部から南壁寄りの覆土中層、218は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 ピットは確認できなかった。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第130図 第10号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表 (第130図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
217	土師器	甕	[22.4]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面輪種痕	覆土中層	10%
218	土師器	甕	[18.0]	(6.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%
219	須恵器	坏	13.7	4.7	7.7	石英・黒色粒子	灰白	普通	底部及び体部下端回転ヘラ削り	覆土中層	80% PL31
220	須恵器	坏	[13.2]	4.5	7.4	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	50%

第41号住居跡 (第131～133図)

位置 調査D区のG 4h2区、標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 北壁が第40号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.36m、短軸3.28mの方形で、主軸方向はN-7-Eである。壁高は59～65cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。貼床は壁際を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が、北西コーナー及び南西コーナーを除き周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで112cm、袖部幅115cmである。袖部は床面を6cmほど掘りくぼめ、ローム土を埋め戻して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめ、褐色土を埋め戻して使用し、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形状に37cm掘り込み、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	4	暗褐色	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	褐色	色	ローム粒子・焼土粒子微量
			6	褐色	色	砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量

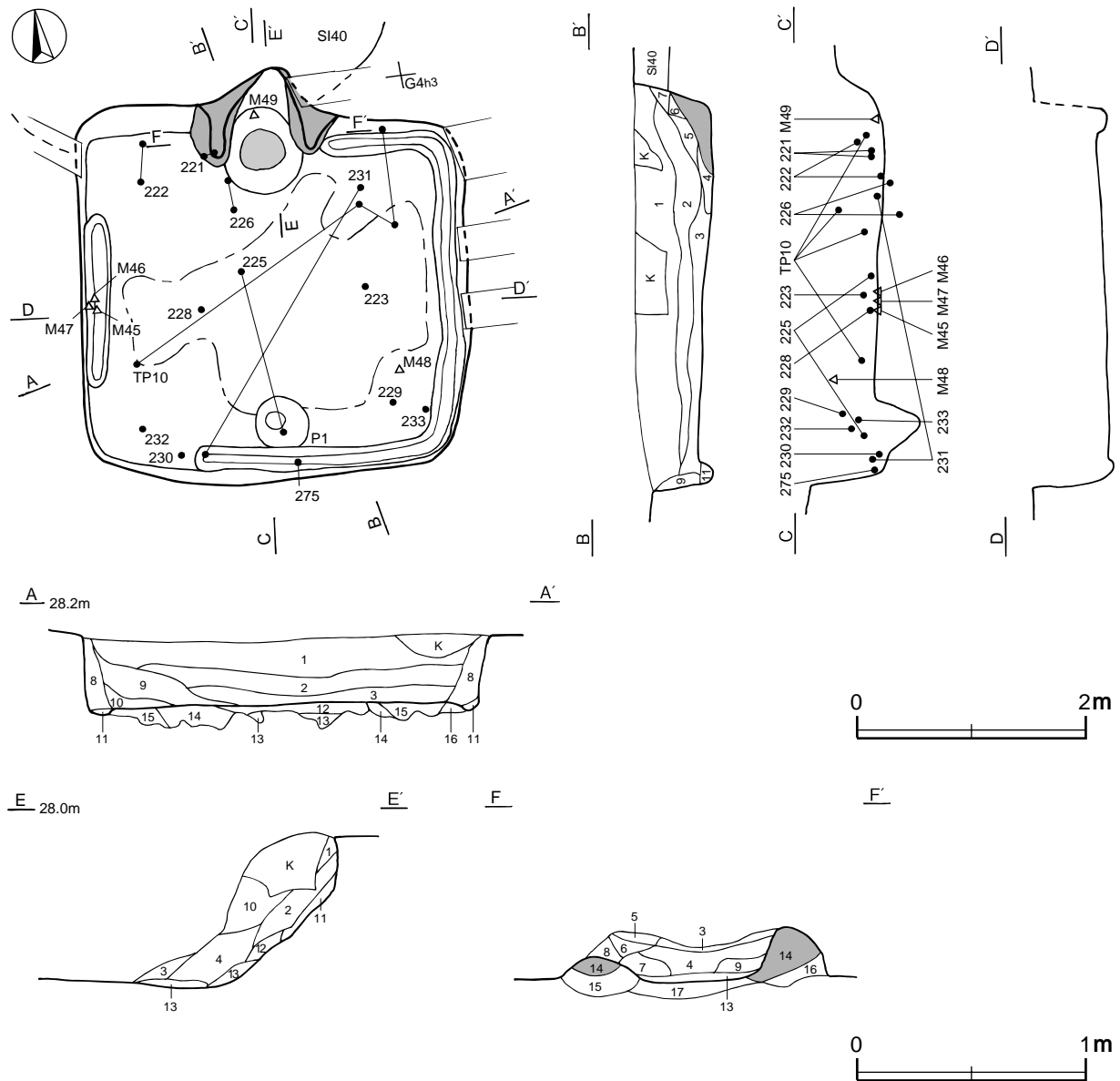
- | | | | |
|--------|--------------------------------|-----------|------------------------|
| 8 褐色 | 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量 | 13 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子・鹿沼パミス微量 | 14 褐色 | 砂質粘土粒子中量 |
| 10 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼パミス微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 褐色 | ロームブロック中量 |
| 12 暗褐色 | 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | 17 暗褐色 | 鹿沼パミス少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

ピット 深さは40cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 11層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。第12～16層は貼床の構築土である。

土層解説

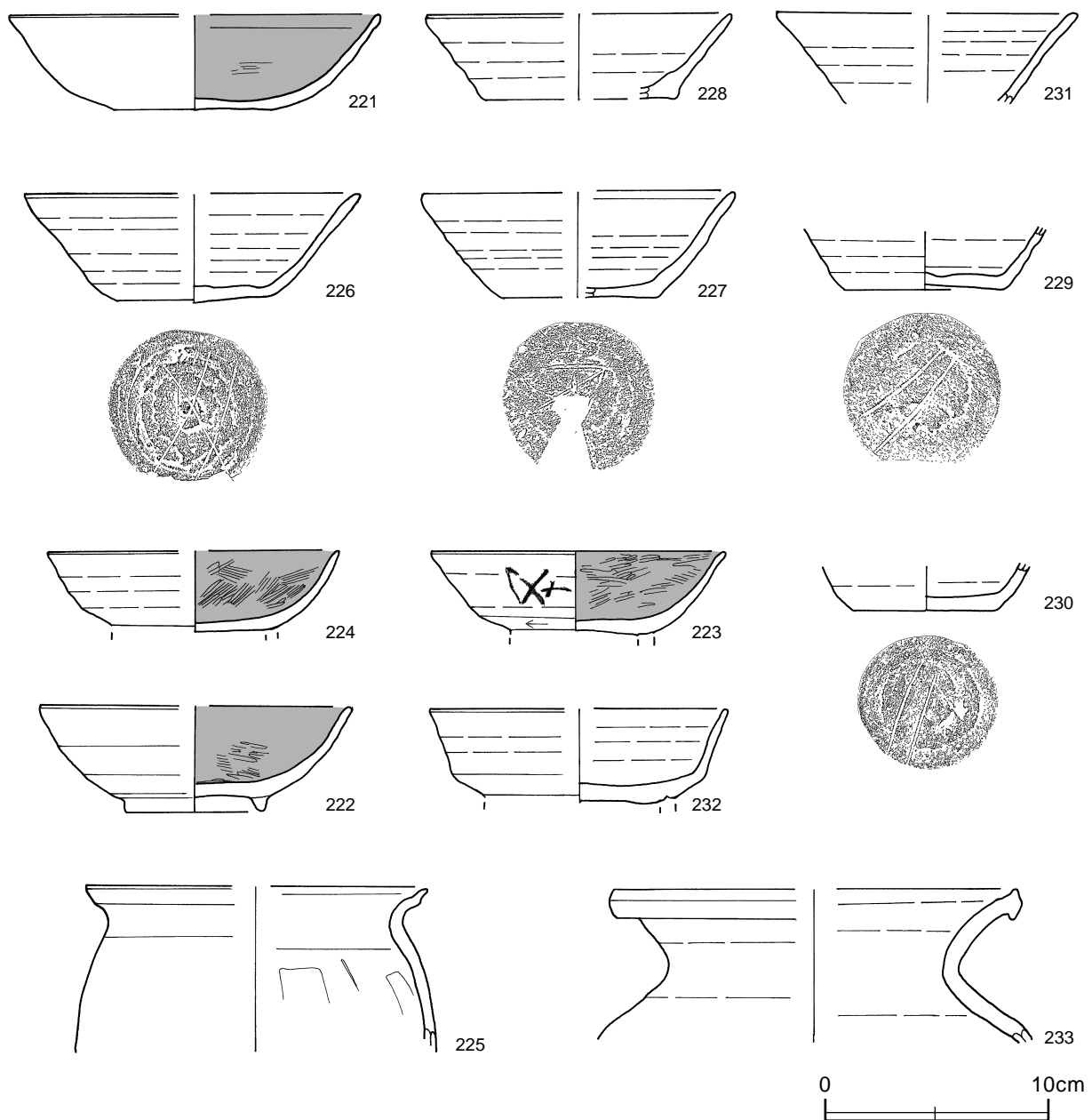
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 13 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 15 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 | 16 褐色 | ローム粒子中量 |
| 8 褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 9 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |



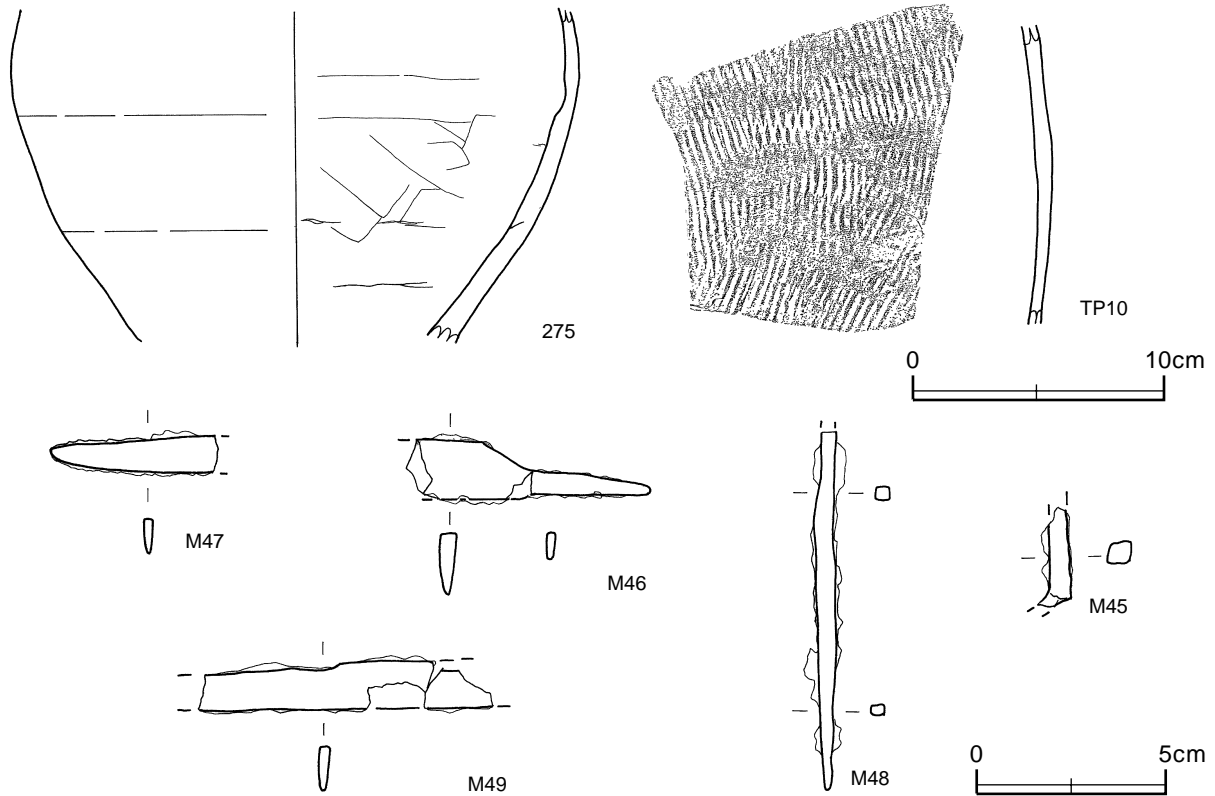
第131図 第41号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片285点（坏類91，高台付坏9，甕類185），須恵器片159点（坏類107，高台付坏1，蓋6，甕44，長頸瓶1），土製品1点（支脚），金属器・金属製品5点（刀子3，釘2）が出土している。222は北西コーナー部の覆土下層から出土した破片が，223は中央部から東壁寄りの覆土下層から出土した破片が，230は南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が，231は南西コーナー部と北東コーナー部の覆土下層から出土した破片が，232は南西コーナー部の覆土下層から出土した破片が，それぞれ覆土中から出土した破片と接合したものである。228は中央部の覆土下層，229は南東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。221は竈手前の覆土下層と覆土中から出土した破片が接合したものである。226は竈手前の床面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。M45～M47は西壁際の床面から，M49は竈の底面から，M48は南東コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第132図 第41号住居跡出土遺物実測図（1）



第133図 第41号住居跡出土遺物実測図(2)

第41号住居跡出土遺物観察表(第132・133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
221	土師器	坏	[16.6]	4.2	7.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	45%
222	土師器	高台付坏	[13.8]	4.7	6.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部下位から底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	40%
223	土師器	高台付坏	13.0	(3.7)	-	長石・石英・赤色	橙	普通	体部下位から底部回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	50% PL38 墨書「」
224	土師器	高台付坏	[12.8]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ後高台貼付 内面ヘラ磨き	覆土中層	35%
225	土師器	甗	[15.2]	(7.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面磨滅調整不明	覆土下層	10%
226	須恵器	坏	[14.9]	4.9	6.7	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面 覆土下層	40% ヘラ記号
227	須恵器	坏	[13.7]	4.7	[7.0]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	40% ヘラ記号
228	須恵器	坏	[13.5]	3.8	[8.7]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	40%
229	須恵器	坏	-	(2.8)	7.2	長石・石英	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中層	50% ヘラ記号
230	須恵器	坏	-	(2.0)	6.1	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層 覆土中層	30% ヘラ記号
231	須恵器	坏	[13.4]	(4.0)	-	長石・石英	灰褐	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層 覆土中層	20%
232	須恵器	高台付坏	[13.2]	4.2	-	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付	覆土下層 覆土中層	40%
233	須恵器	甗	[18.2]	(6.7)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部内・外面口クロナデ	覆土下層	10%
275	須恵器	瓶	-	(13.1)	-	長石・石英	にぶい黄灰	普通	体部内・外面口クロナデ 内面輪積痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP10	須恵器	甗	-	(11.7)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	外面縦位の平行叩き 内面輪積痕 指頭圧痕	覆土中層	

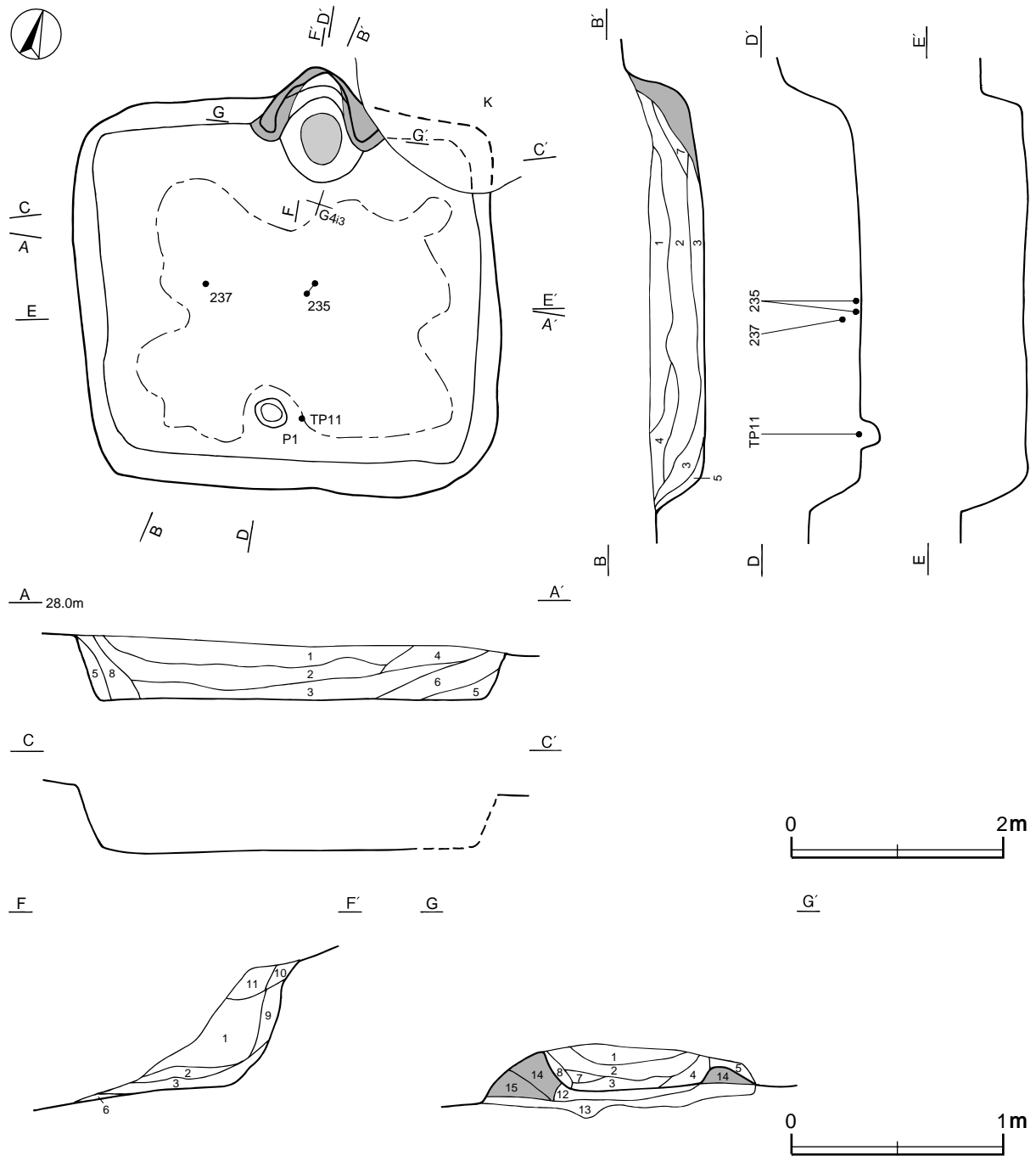
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M45	釘	(2.6)	0.9	0.6	(2.7)	鉄	頭部・脚部欠損 断面方形	床面	
M46	刀子	(6.5)	1.6	0.5	(4.6)	鉄	切先欠損 棟間のみ 棟間緩やか	床面	PL46
M47	刀子	(4.9)	1.0	0.2	(3.6)	鉄	切先部残存	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M48	釘	(9.4)	0.5	0.35	(4.5)	鉄	頭部欠損 断面方形	覆土上層	
M49	刀子	(7.7)	(1.4)	0.3	(5.4)	鉄	身部残存	竈底面	PL46

第44号住居跡 (第134・135図)

位置 調査D区のG 4 i2区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸3.92m, 短軸3.64mの方形で, 主軸方向はN-8°-Wである。壁高は38~65cmで, 外傾して立ち上がっている。



第134図 第44号住居跡実測図

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。右袖部外側が木の根により攪乱されている。規模は、焚口部から煙道部まで106cm、確認できた袖部幅は126cmである。袖部は床面を6cmほど掘りくぼめ、暗褐色土を埋め戻して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめ、暗褐色土を埋め戻して使用し、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に30cm掘り込み、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8 灰褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子微量
2 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
5 褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	12 にぶい赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	13 褐色	ロームブロック少量、鹿沼パミス微量
7 褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	14 暗褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量
		15 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量

ピット 深さは20cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

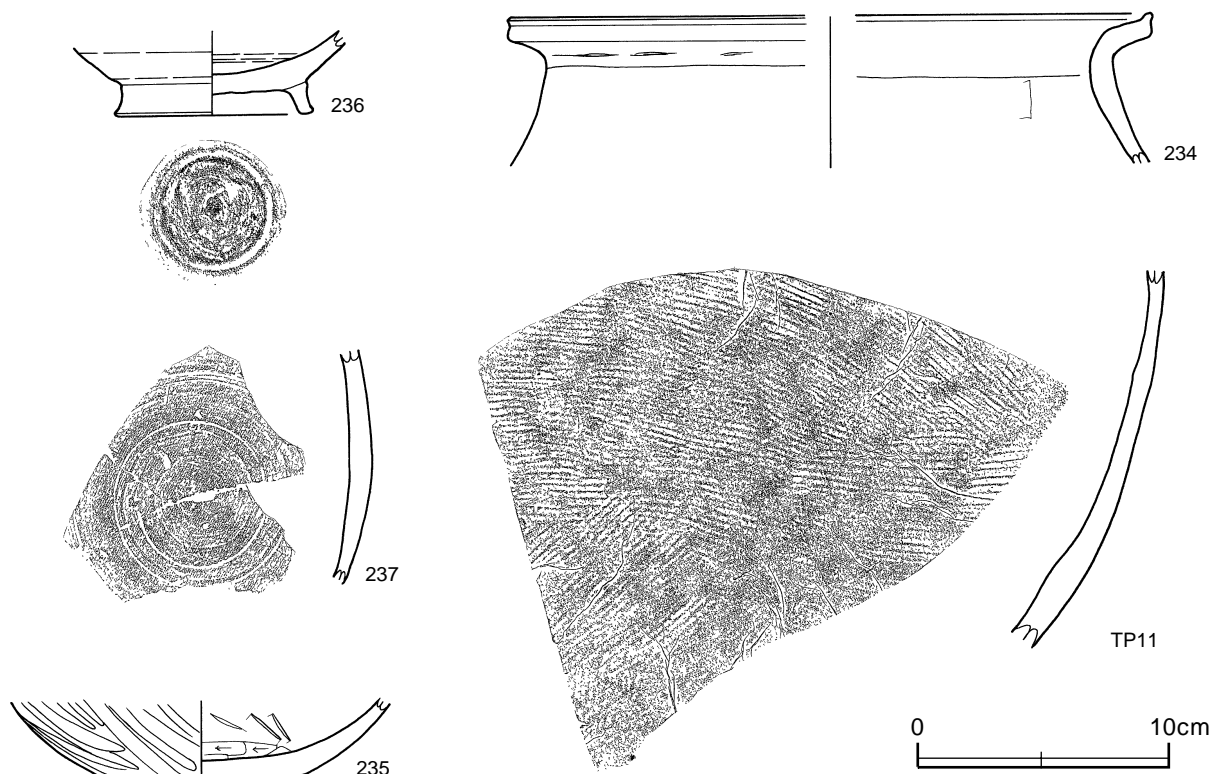
覆土 8層からなる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	5 褐色	ロームブロック中量
2 極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
3 暗褐色	ロームブロック少量	7 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
4 極暗褐色	ロームブロック少量、鹿沼パミス微量	8 褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片40点（坏類3，鉢2，甕類35），須恵器片18点（坏類5，高台付坏2，盤2，蓋4，提瓶1，甕4）が出土している。235は中央部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。237も中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。



第135図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表 (第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
234	土師器	甕	[25.4]	(5.8)	-	長石・石英・ 雲母・赤色 粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面輪積痕	覆土中	10%
235	土師器	甕	-	(3.0)	8.0	長石・石英・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	10%
236	須恵器	高台付坏	-	(3.3)	7.7	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付	覆土中	30%
237	須恵器	提瓶	-	(9.3)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP11	須恵器	甕	-	(15.7)	-	長石	暗紫灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面指頭圧痕	覆土中	

第45号住居跡 (第136図)

位置 調査D区のG 3 j0区, 標高28mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸3.60m, 短軸3.40mの方形で, 主軸方向はN-8-Wである。壁高は50~58cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。貼床は中央部から北側を深く掘り込み, ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が, 西壁と北西コーナーの一部で確認された。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部の遺存状況は極めて不良である。規模は, 火床面の先端から推定煙道部先端まで110cmである。袖部は床面と同じ高さを基部として, 砂質粘土で構築されていたと考えられる。北東コーナーの床面で竈材と見られる焼土粒子及び炭化粒子を含んだ粘土塊が検出された。火床部は床面と同じ高さで, 火床面は火熱により赤変硬化している。煙道部は壁外へ三角形に30cmほど掘り込まれていたと考えられ, 火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐色	ロームブロック少量	5	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量	6	暗褐色	砂質粘土粒子中量, 炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 深さは30cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層からなる。レンズ状の堆積状況から, 自然堆積と考えられる。第6~10層は貼床の構築土である。

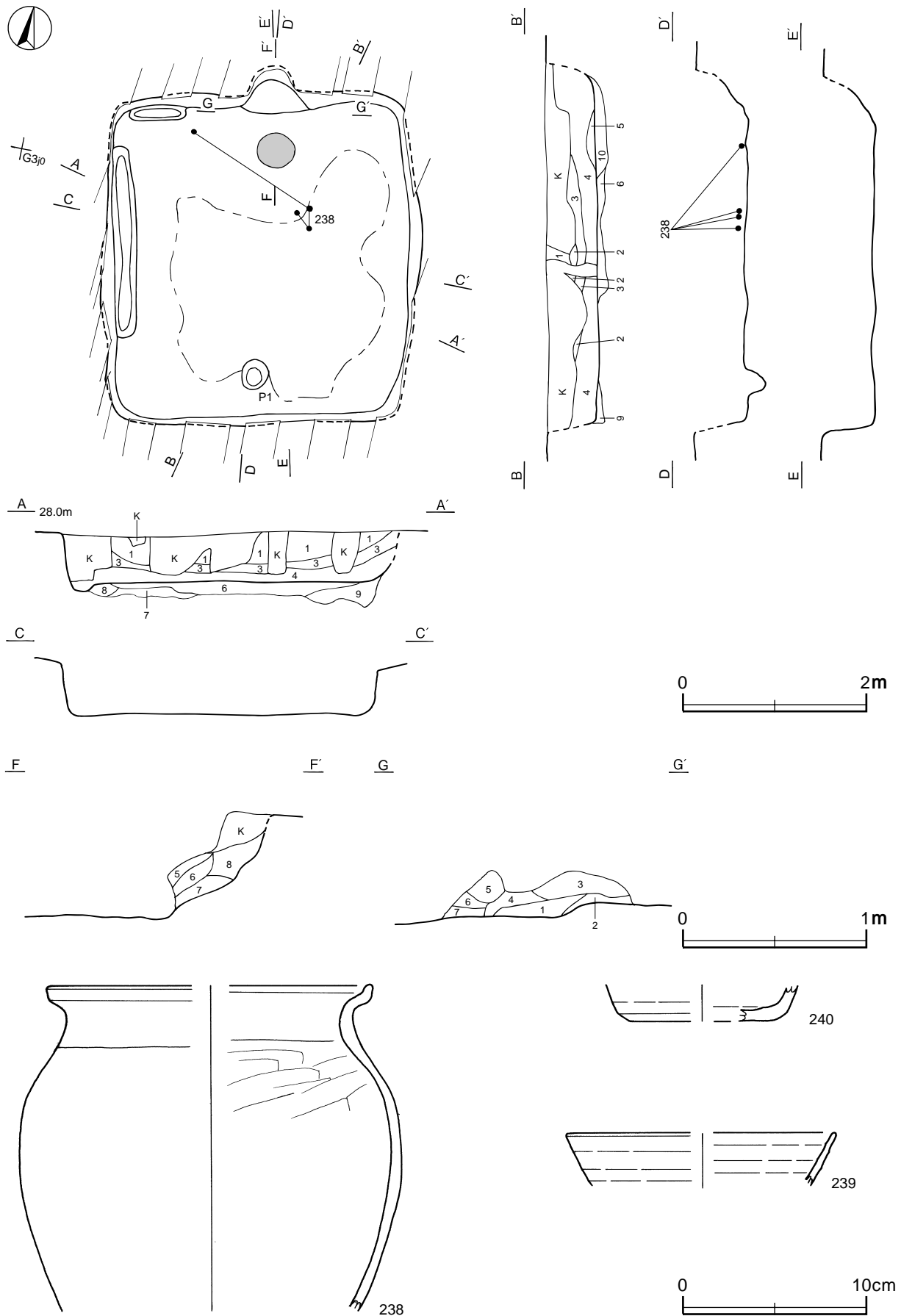
土層解説

1	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	7	褐色	ロームブロック中量
3	暗褐色	ローム粒子少量 (2より彩度が低い)	8	褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ローム粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
5	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	10	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片33点 (高台付坏1, 甕類32), 須恵器片10点 (坏類6, 蓋1, 甕3) が出土している。

238は竈手前の覆土下層から出土した細片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から9世紀前葉から中葉と考えられる。



第136图 第45号住居跡・出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表 (第136図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
238	土師器	甕	[17.4]	(17.5)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 不明 工具痕	外面磨滅調整不 明	覆土下層	30%
239	須恵器	坏	[14.4]	(2.9)	-	長石	灰	普通	内・外面口クロナデ		覆土中	10%
240	須恵器	坏	-	(1.9)	[8.0]	長石	灰オリブ	普通	底部回転ヘラ切り後ナデカ		覆土中	10%

第48号住居跡 (第137・138図)

位置 調査E区のJ7h2区, 標高28mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 耕作による攪乱のため, 床面がほぼ露出した状態で確認された。

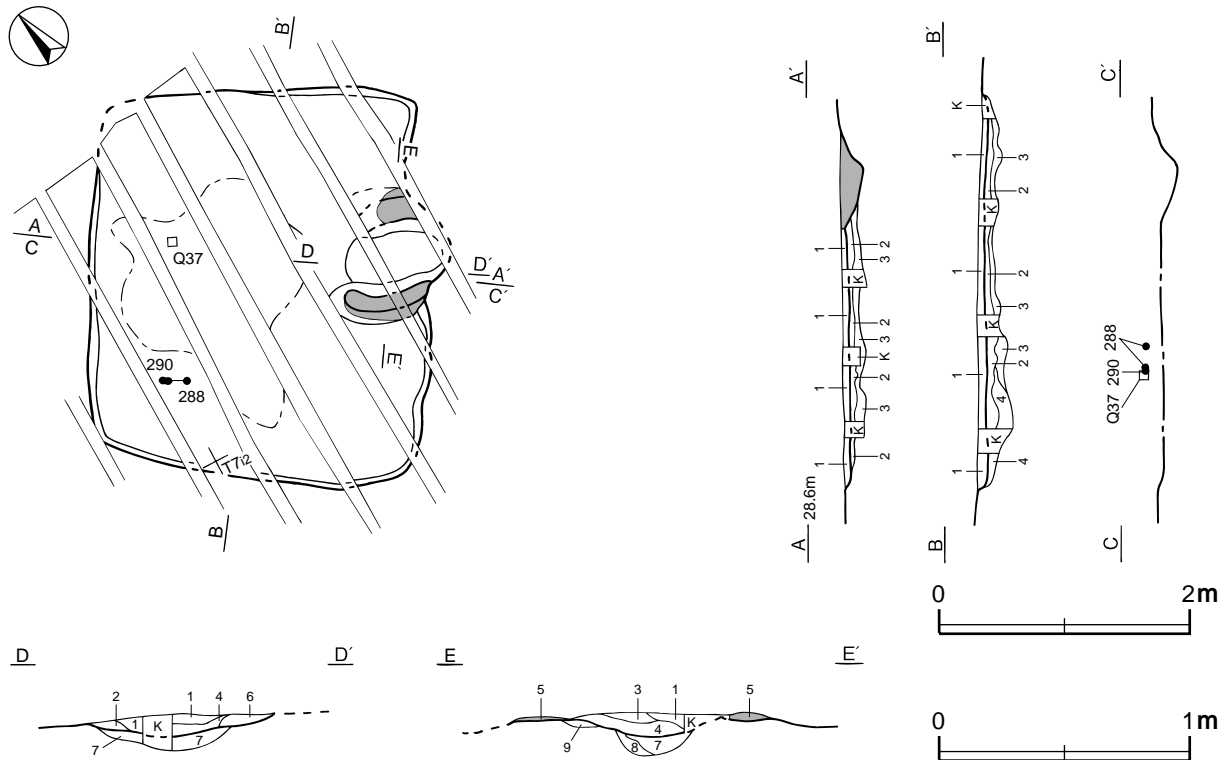
規模と形状 長軸3.02m, 短軸2.70mの長方形で, 主軸方向はN-118 - Eである。壁高は4~10cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部を10cmほど掘り込み, ローム土を主体とした埋土で構築している。

竈 南東壁の中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで45cm, 袖部幅90cmと推定される。袖部はローム土を掘り残して基部とし, その上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さの地山を5cmほど掘りくぼめており, 火床面は火熱を受けて硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量 |



第137図 第48号住居跡実測図

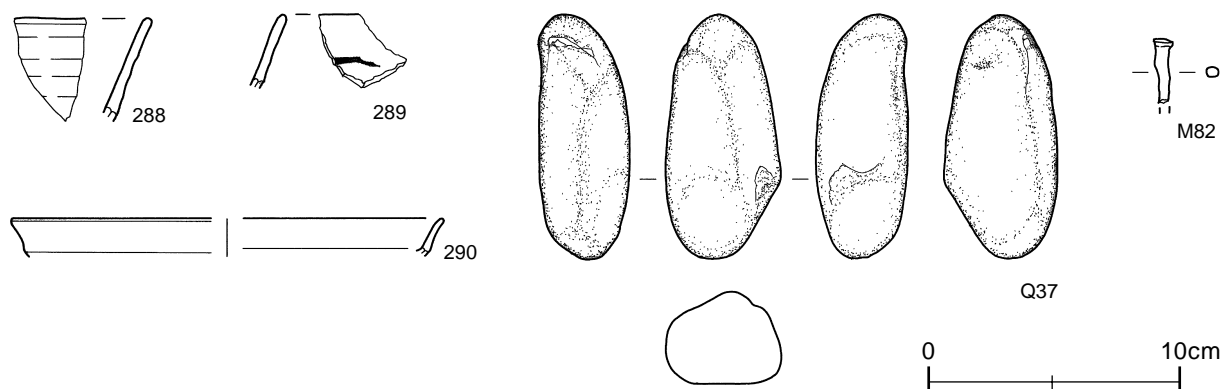
覆土 単一層で、層厚が薄いため堆積状況は不明である。第2～4層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|---------------------------|---|-----|-------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子
微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 褐色 | ロームブロック少量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片32点（甕）、須恵器片14点（坏9、甕5）、石器1点（磨石）、金属製品1点（釘）が出土している。290は北西壁際、Q37は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。289の須恵器坏片は覆土下層から出土した墨書土器であるが、判読不能である。

所見 ピットは貼床下や壁外柱穴の可能性も考えて精査したが、検出されなかった。時期は、出土土器が細片のため判断することは困難であるが、周辺の遺構の様相から8世紀後葉と考えられる。



第138図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表（第138図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
288	須恵器	坏	-	(4.1)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%
289	須恵器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	40% 墨書「r」
290	須恵器	盤	[17.0]	(1.5)	-	石英	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	磨石	9.6	4.6	3.6	206.0	流紋岩	使用面1面と両端部	覆土下層	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M82	釘	(2.5)	0.8	0.6	(1.1)	鉄	脚部欠損	掘り方	

第49号住居跡（第139図）

位置 調査E区のK6c9区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

確認状況 耕作による攪乱のため、床面が露出した状態で確認された。

規模と形状 遺存している壁や竈の位置から、確認された範囲は、長軸4.10m、短軸4.10mで、方形あるいは長方形で、主軸方向はN-0°と推定される。壁高は最大14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。

竈 北壁中央部に付設されているが、遺存状況が悪く規模や形状が不明瞭である。袖部は地山を掘り残して基

部とし、その上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面から5cmほど掘り込み、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 | 9 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 赤褐色 | 焼土ブロック多量, ロームブロック微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 11 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量, 焼土ブロック少量 |

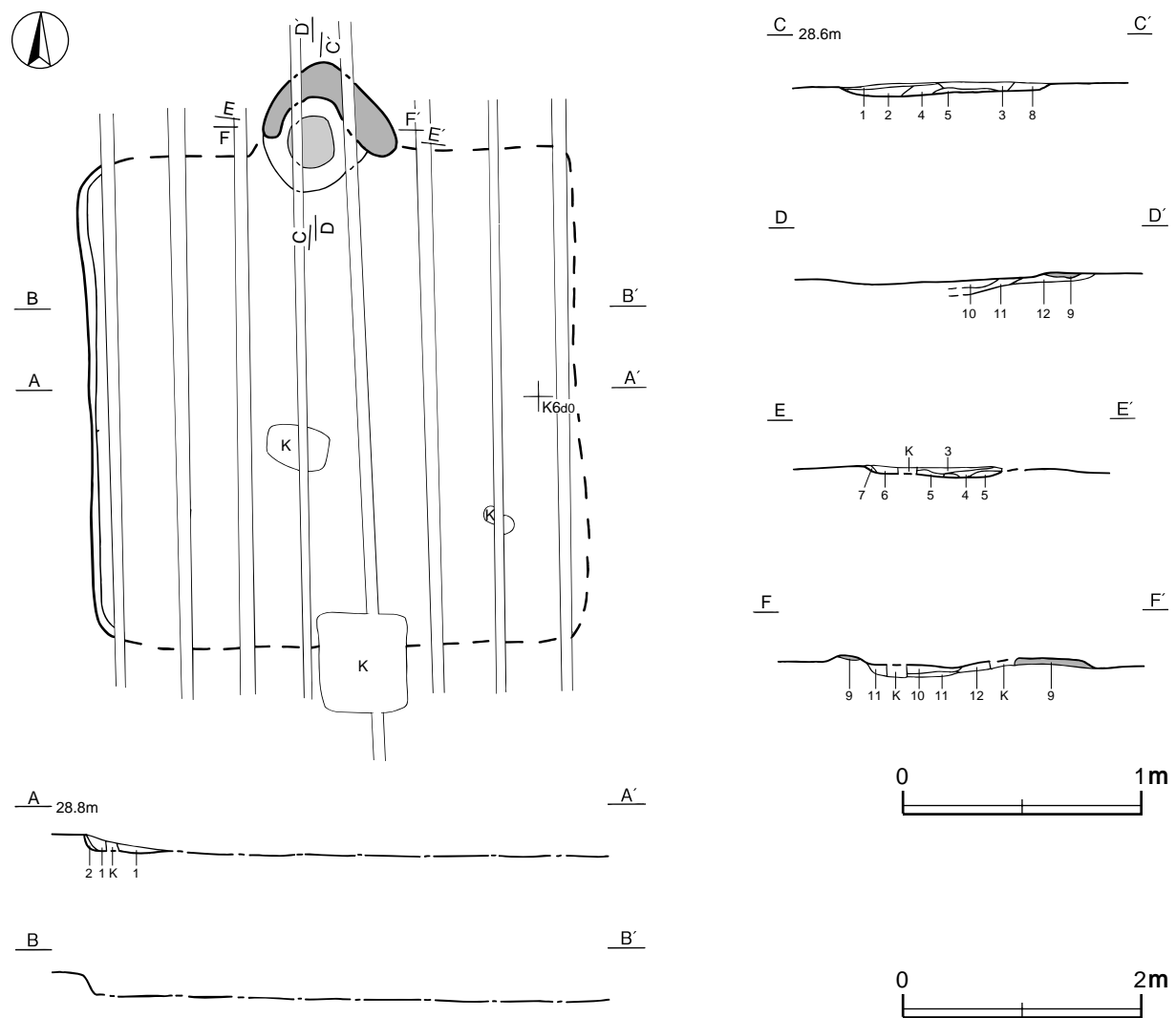
覆土 2層に分層される。攪乱及び層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
|-------|-------------------|-------|-------------------|

遺物出土状況 土師器片23点(坏4, 甕19), 須恵器片6点(坏4, 高台付坏1, 蓋1)が出土しているが、いずれも細片のため図示できない。

所見 ピットは確認できなかった。時期を特定できる土器が少なく判断することは困難であるが、出土土器から8世紀代と考えられる。



第139図 第49号住居跡実測図

第50号住居跡（第140～142図）

位置 調査E区のK 6 e8区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.22m、短軸4.81mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。壁高は20～36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 中央部が踏み固められている。貼床は壁際を全周するように掘り込み、ロームブロックを含む黒色土を埋土して構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cm、袖部幅が114cmである。袖部は左右の構築法が異なり、左袖部は地山に黒色土で基部を作り、その上に砂質粘土で構築されている。右袖部は20cmほどの掘り方の上に砂質粘土で構築されている。両袖の砂質粘土には灰を混ぜて構築している。火床部は床面から5cmほど掘り込んでおり、火床面には硬化面が確認された。煙道部は壁外へ34cm掘り込み、直立している。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量	11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
5 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量	15 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子微量
6 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	16 褐色	ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
7 黒褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	17 極暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
8 暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量	18 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量	19 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量
10 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	20 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ22～66cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ26cmで、南壁付近に位置し、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ21～28cmで支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸47cm、短軸36cmの隅丸方形で、深さは24cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	2 暗褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量
-------	---------------------------	-------	---------------------------

覆土 9層に分層される。周囲からの土砂の流入が見られるため自然堆積と考えられる。第10～15層は貼床の構築土である。

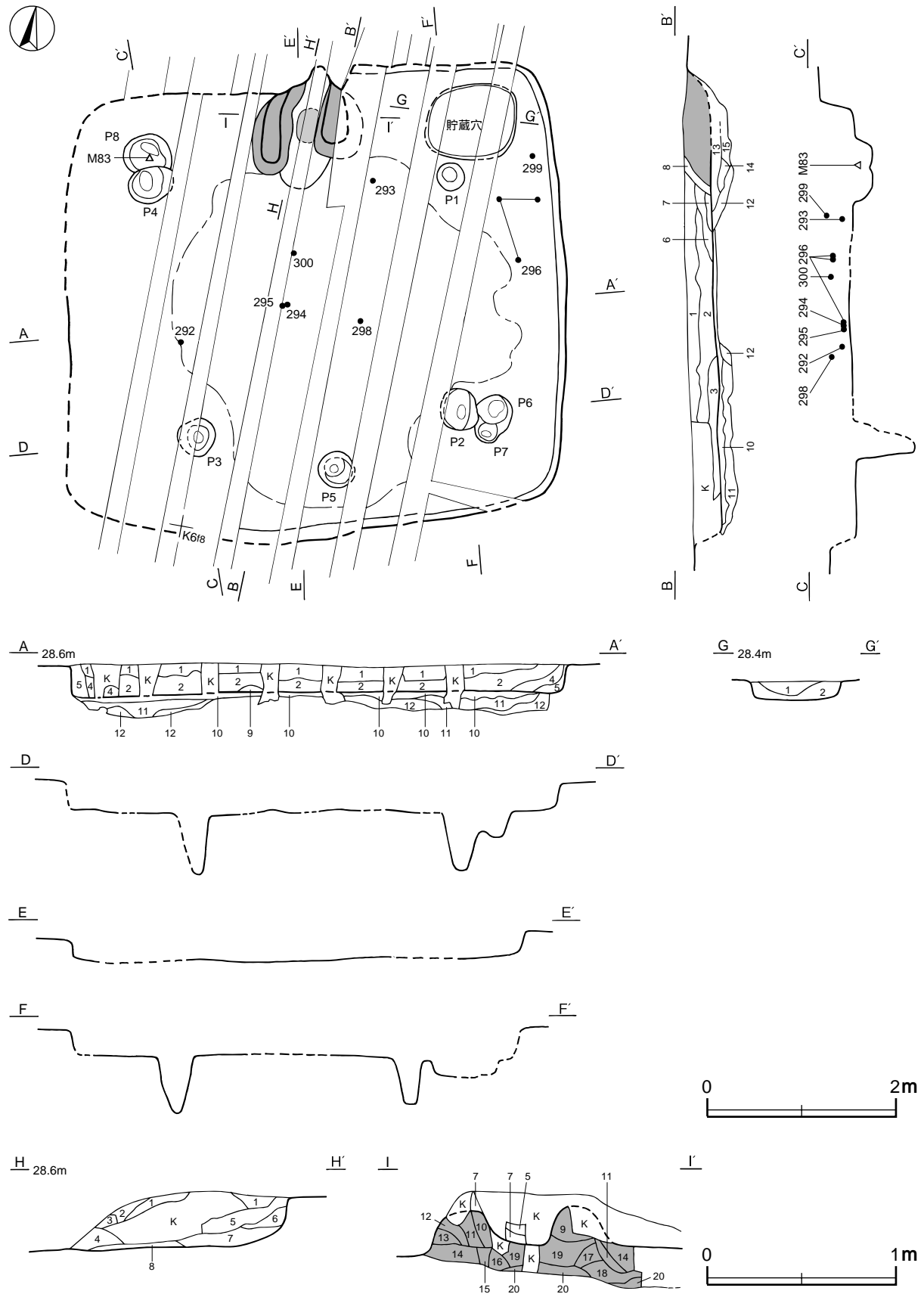
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量	10 褐色	ロームブロック中量
3 暗褐色	ロームブロック少量	11 黒褐色	ロームブロック少量
4 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	12 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 褐色	ロームブロック少量	13 黒褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化物微量
6 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	14 褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量		

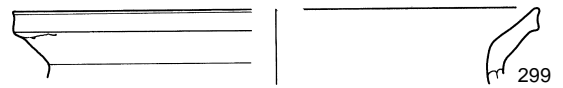
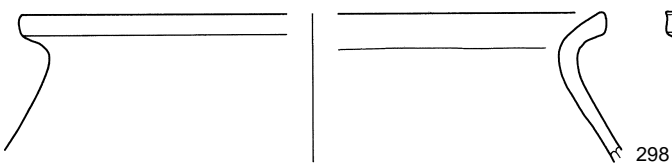
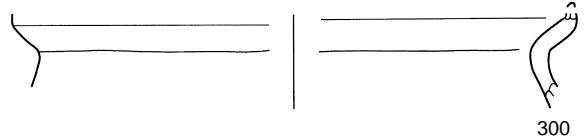
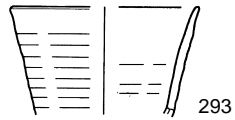
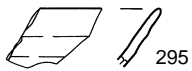
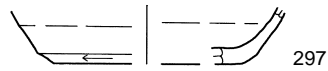
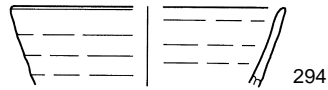
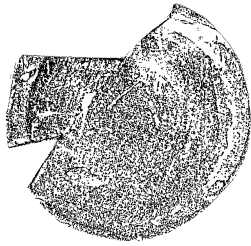
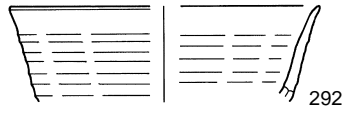
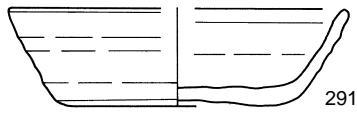
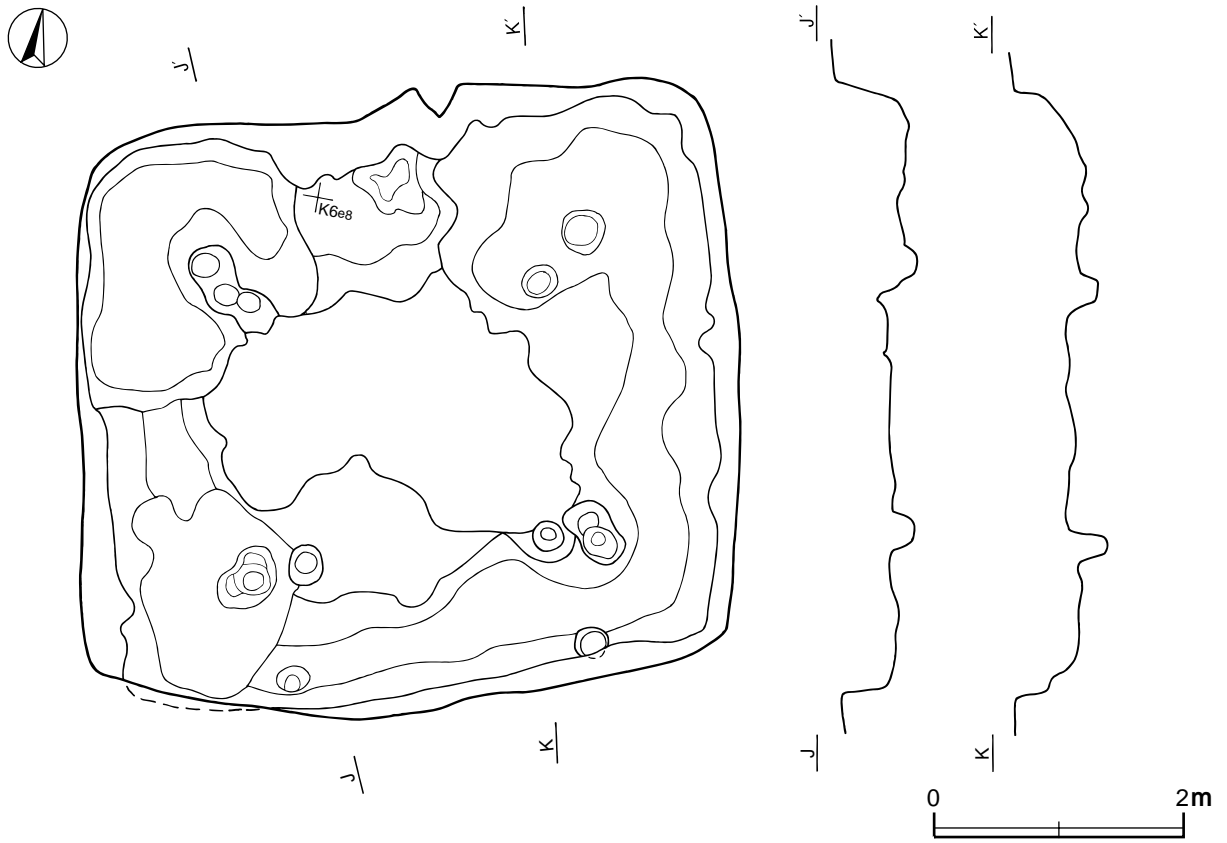
遺物出土状況 土師器片264点（坏3、甕261）、須恵器片105点（坏89、蓋6、壺3、甕7）、石器1点（砥石）、金属製品3点（釘）が出土している。296は東壁際の床面と、覆土中層から出土した破片が接合したものである。294は中央部の床面から出土している。

所見 貼床下からピットを6か所確認した。その内の4か所は支柱穴の内側に位置し、他の2か所は南壁際に位置していた。このことから柱の立て替えが行われたことが想定できる。また、竈の作り替えが見られないこ

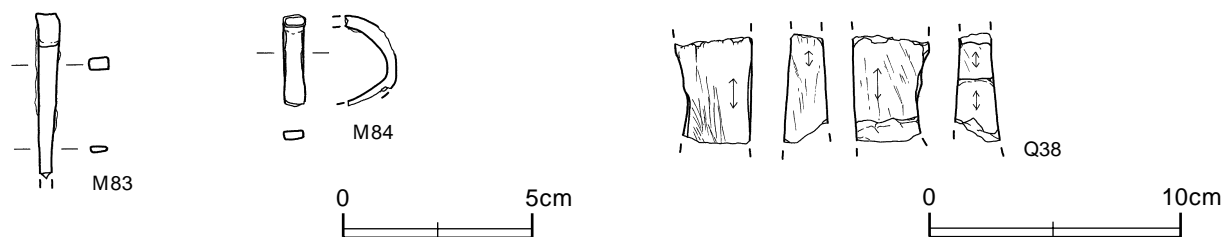
とや、南壁際から2か所のピットが確認されたことから、東西への拡張が想定される。時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第140図 第50号住居跡実測図



第141图 第50号住居跡・出土遺物実測図



第142図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表 (第141・142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
291	須恵器	坏	[13.2]	3.9	9.7	長石・石英・黒色 粒子・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	覆土中層	50% PL31 ヘラ記号「-」
292	須恵器	坏	[12.2]	(3.8)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面ロクロナデ	床面	10%
293	須恵器	小形鉢	[7.4]	(4.3)	-	長石	灰	普通	内・外面ロクロナデ	覆土下層	10%
294	須恵器	坏	[10.8]	(3.1)	-	長石	灰	普通	内・外面ロクロナデ	床面	10%
295	須恵器	坏	-	(2.3)	-	砂粒	黄灰	普通	内・外面ロクロナデ	床面	10%
296	須恵器	坏	-	(2.0)	9.4	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	覆土中層	30% ヘラ記号「=」
297	須恵器	坏	-	(3.3)	[7.4]	長石・石英	灰白	普通	体部下端回転ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	覆土中層	10%
298	土師器	甕	[23.0]	(5.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
299	土師器	甕	[20.8]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・小礫	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%
300	土師器	甕	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母・小礫	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	砥石	(4.2)	(3.0)	1.8	(31.6)	凝灰岩	砥面2面 片面に削痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M83	鐵	(4.3)	0.6	0.4	(2.0)	鉄	茎部	覆土中	
M84	不明	(2.3)	0.6	0.3	(1.1)	鉄	断面方形 環状を呈する	覆土下層	

第54号住居跡 (第143～145図)

位置 調査E区のK 5b7区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第55号住居跡の北コーナー部を掘り込んでいます。

規模と形状 長軸4.00m、短軸3.88mの方形で、主軸方向はN-33-Eである。壁高は26～40cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部と南壁際を深く掘り込み、ローム土を主体とした褐色土を埋土して構築している。壁溝が全周している。

竈 北東壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cm、袖部幅は149cmである。左袖部は焼土を含む暗褐色土、右袖部はロームブロックを含む褐色土を基部とし、灰と砂質粘土を混ぜて構築されている。火床部は床面より4cmほど高まっており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に38cm掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がっている。

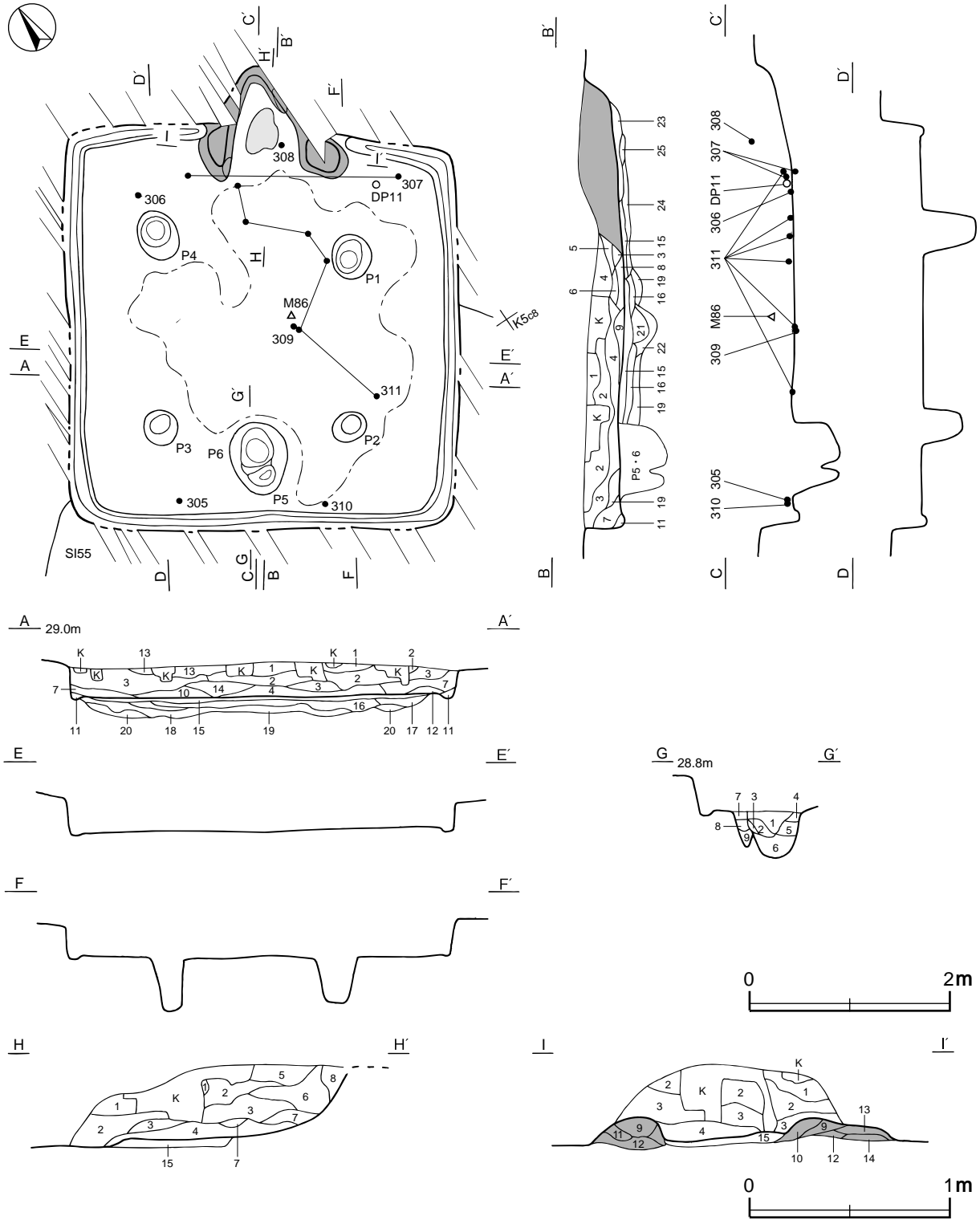
竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤灰色 | 焼土ブロック少量、炭化物微量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック中量、炭化材微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |

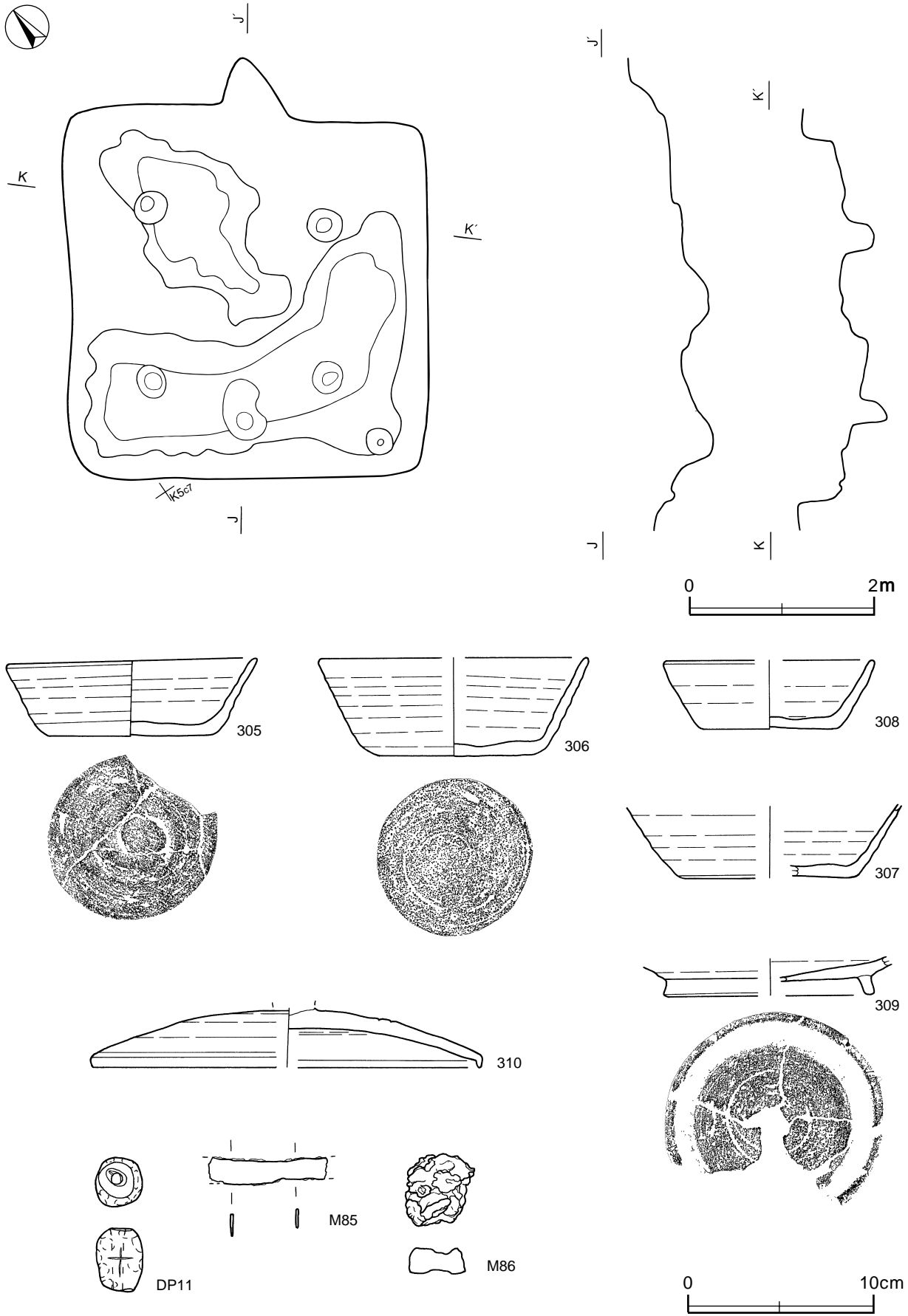
- 9 にぶい黄褐色 焼土粒子微量
- 10 赤褐色 焼土ブロック少量
- 11 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

- 13 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 14 褐色 ロームブロック多量
- 15 暗赤灰色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量

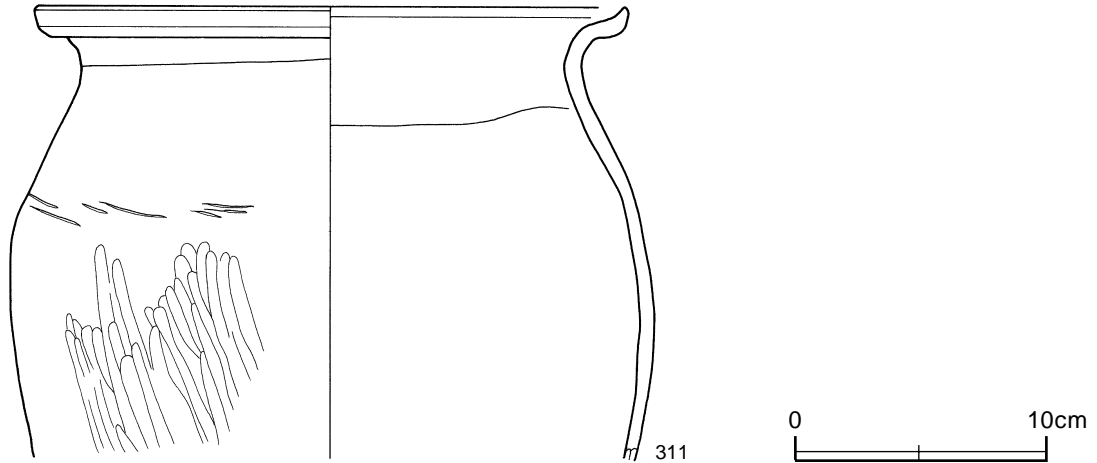
ピット 6か所。P1～P4は深さ44～54cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ45cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ47cmで、P5を掘り込んでいることから、作り替えが行われたと想定できる。



第143図 第54号住居跡実測図



第144图 第54号住居跡・出土遺物実測図



第145図 第54号住居跡出土遺物実測図

ビット土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 9 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

覆土 14層に分層される。上層はレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。中層から下層は、ロームブロックを含んだ不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第15～25層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒色 | ローム粒子少量 | 16 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量, ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量 | 18 褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 黒褐色 | 砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量 | 19 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 砂質粘土粒子多量, ローム粒子微量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 7 黒色 | ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | 21 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 22 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子中量 | 23 暗褐色 | ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 24 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子多量 | 25 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 12 褐色 | ローム粒子多量 | | |
| 13 黒褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 | | |
| 14 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片194点（坏6，甕188），須恵器片51点（坏46，高台付坏3，蓋2），土製品1点（球状土錘），金属器・金属製品3点（刀子1，不明2），鉄滓1点の他に，流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。311は竈前面から中央部にかけての床面に散在していた破片が接合したものである。305・310は南西壁際の床面から出土している。覆土中層から下層に見られる遺物は，埋め戻しの際に一括して廃棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第54号住居跡出土遺物観察表（第144・145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
305	須恵器	坏	13.3	4.2	8.9	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	床面	95% PL31
306	須恵器	坏	[14.2]	5.3	8.5	雲母・礫	灰白	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面口ロナデ	床面	45% PL31
307	須恵器	坏	-	(3.9)	[9.8]	長石・黒色粒子	灰黄	不良	底部回転ヘラ削り後ナデ 内・外面口ロナデ	床面	40%

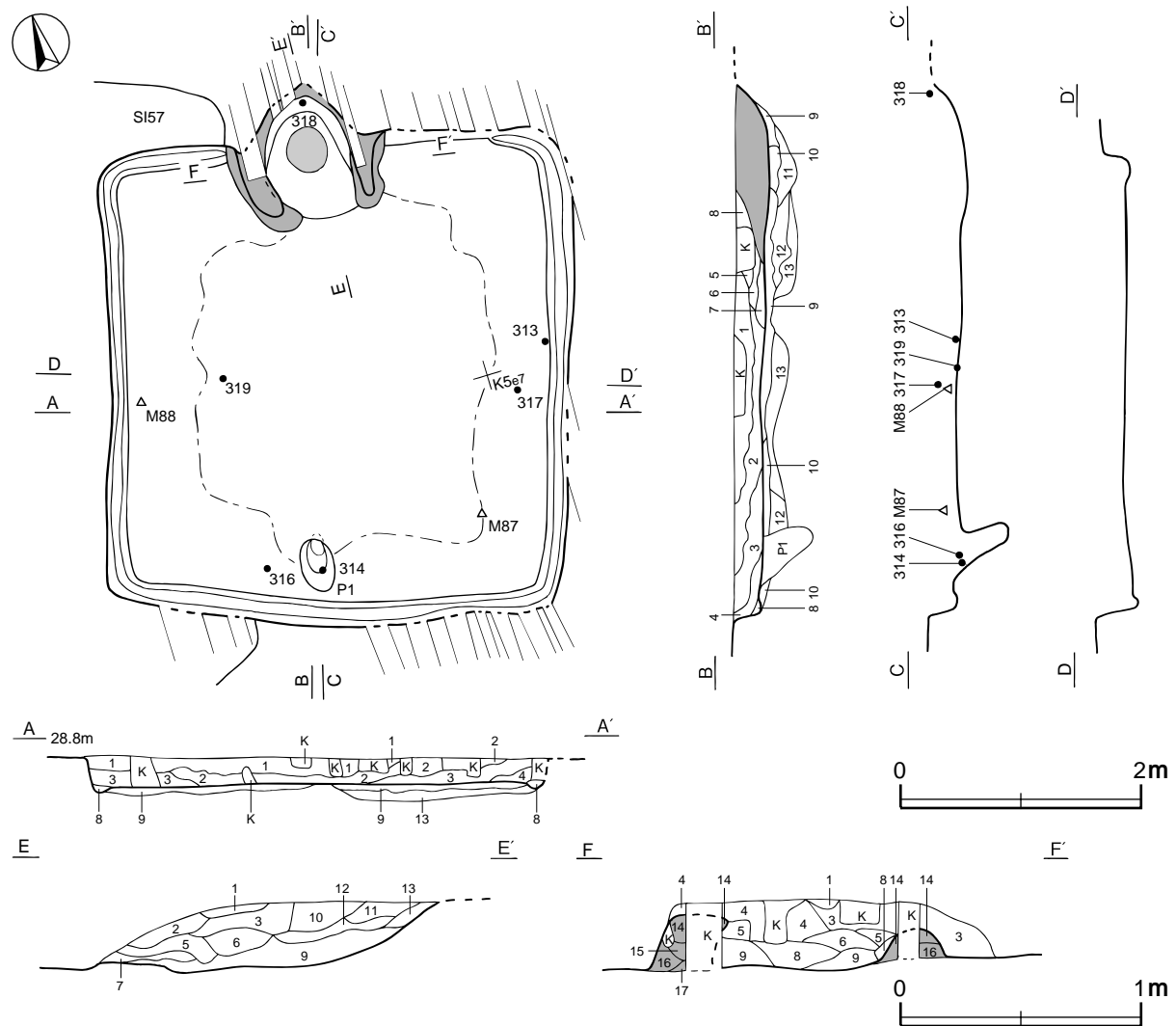
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
308	須恵器	坏	[11.1]	3.7	7.0	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ 内・外面口クロナデ	覆土上層	30%
309	須恵器	高台付坏	-	(2.0)	[11.0]	長石・石英・小礫	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	床面	30%
310	須恵器	蓋	[20.8]	(3.2)	-	長石・雲母・小礫	黄灰	良好	天井部回転ヘラ削り	床面	25%
311	土師器	甕	23.3	(17.8)	-	長石・石英・雲母	にびい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 口縁部内・外面横ナデ 輪槽痕	床面	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	球状土錘	2.6	3.4	0.6	18.3	粘土	ナデ 片側からの穿孔 指頭痕	床面	ヘラ記号「+」 PL43

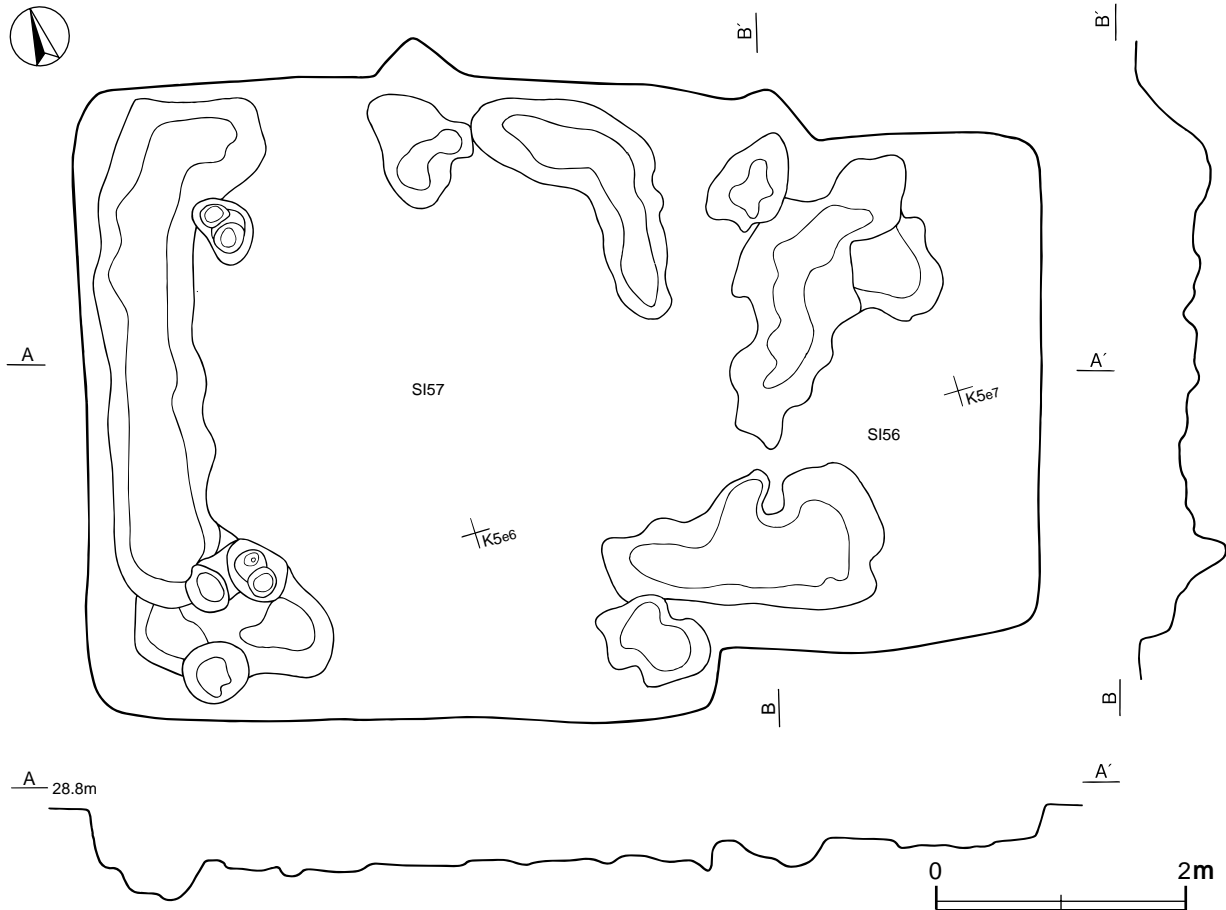
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M85	刀子	(6.5)	1.6	0.1	(3.3)	鉄	刃部の一部	覆土下層	PL47
M86	鉄滓	3.8	3.6	1.7	34.1	鉄	表面は暗赤褐色 着磁性なし	床面	

第56号住居跡 (第146~148図)

位置 調査E区のK 5 d6区, 標高28mの台地上の平坦部に位置している。



第146図 第56号住居跡実測図



第147図 第56・57号住居跡実測図

重複関係 第57号住居跡の東壁を掘り込んでいます。

規模と形状 長軸4.04m、短軸3.88mの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁高は20~29cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部と南壁際を深く掘り込み、ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が北壁の一部を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで104cm、袖部幅は115cmである。袖部は床面上に黒色土をはさみ、灰を練り混ぜた砂質粘土で構築されている。袖部の構築材は壁外まで貼り付けてある。火床部は地山面を皿状に4cmほど掘りくぼめて使用している。火床面は不明瞭である。煙道部は壁外に39cm掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 | 12 赤褐色 | 焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量 | 13 黒褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 5 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化物微量 | 14 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量 | 16 暗赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック微量 |
| 8 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 9 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

ピット 深さ42cmで、南壁から中央に向かって斜めに掘り込まれ、位置と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

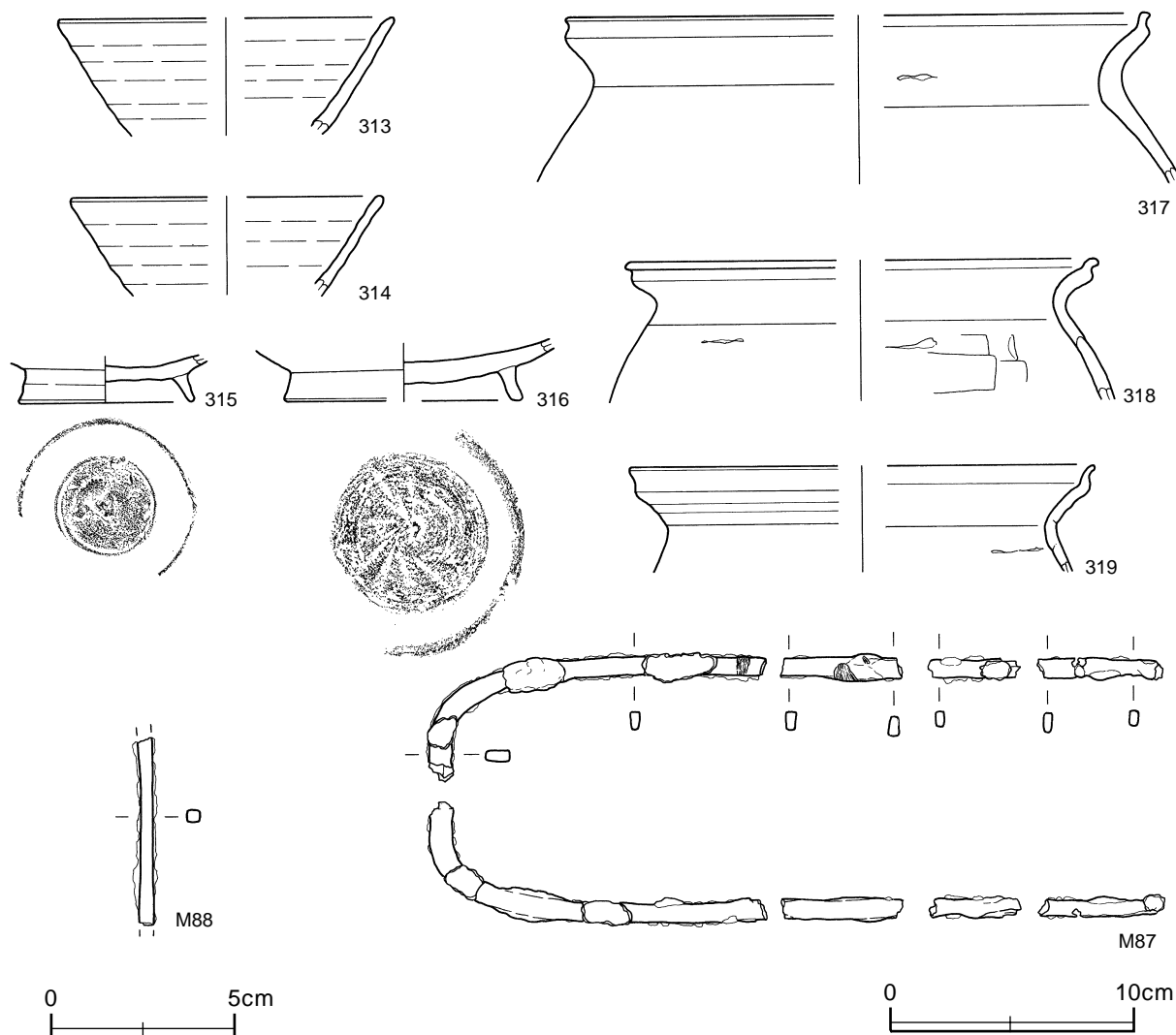
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第8層は壁溝の覆土、第9～13層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	11 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック微量
5 極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量
6 暗褐色	ロームブロック中量, 砂質粘土粒子少量	13 褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片133点（坏10, 甕123）, 須恵器片28点（坏27, 盤1）, 陶器1点, 金属製品2点（鉤, 釘）, 鉄滓1点が出土している。318は竈内からの出土で、住居廃絶時に竈にかけられた状態で遺棄された可能性が考えられる。314は出入り口ピットの覆土上層, M87は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 支柱穴と考えられるピットは確認できなかった。4mほど西側に軸線を同じくする第14号掘立柱建物跡が位置しており、本跡との関連が考えられる。時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第148図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
313	須恵器	坏	[13.5]	(4.8)	-	長石・小礫	灰	普通	内・外面口クロナデ	床面	15%
314	須恵器	坏	[12.5]	(4.1)	-	長石・石英・小礫	灰	普通	内・外面口クロナデ	床面	10%
315	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	6.9	長石・石英・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	20%
316	須恵器	盤	-	(2.5)	[9.6]	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	30%
317	土師器	甗	[23.5]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 輪積痕	覆土下層	10%
318	土師器	甗	[19.0]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部外面輪積痕	竈覆土中	10%
319	土師器	甗	[19.0]	(4.4)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部内面輪積痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M87	鉄鉤	(27.7)	1.1	0.4	(35.7)	鉄	断面方形	床面	PL48
M88	釘	(5.0)	0.4	0.3	(2.4)	鉄	脚部・頭部欠損 断面方形の棒状	床面	

第57号住居跡 (第147・149・150図)

位置 調査E区のK 5 d6区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第56号住居に東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.06m、短軸4.85mの方形で、主軸方向はN-19-Eである。壁高は10~42cmで、直立している。

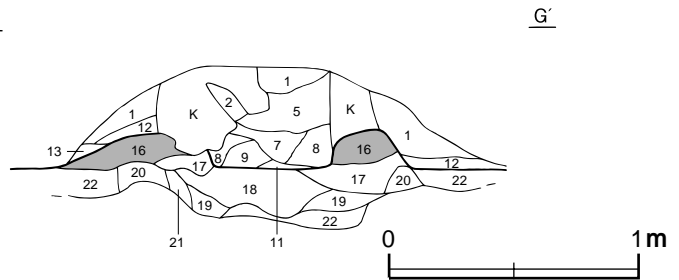
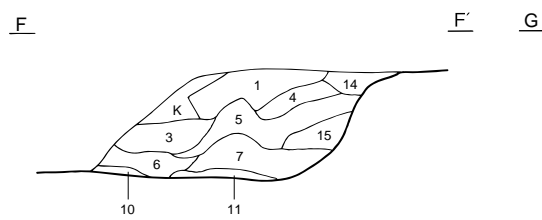
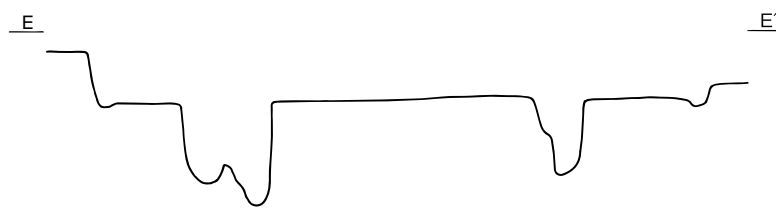
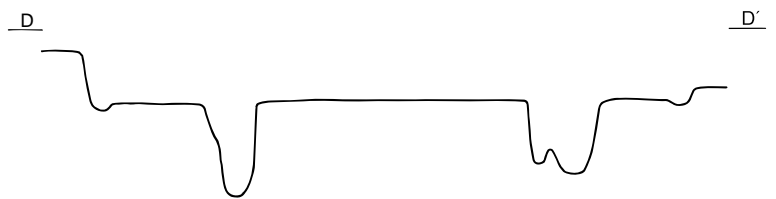
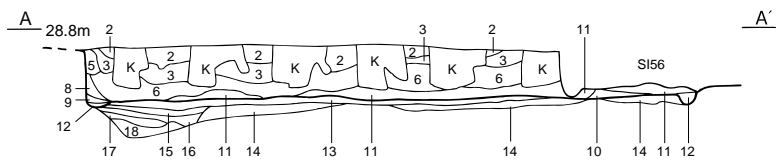
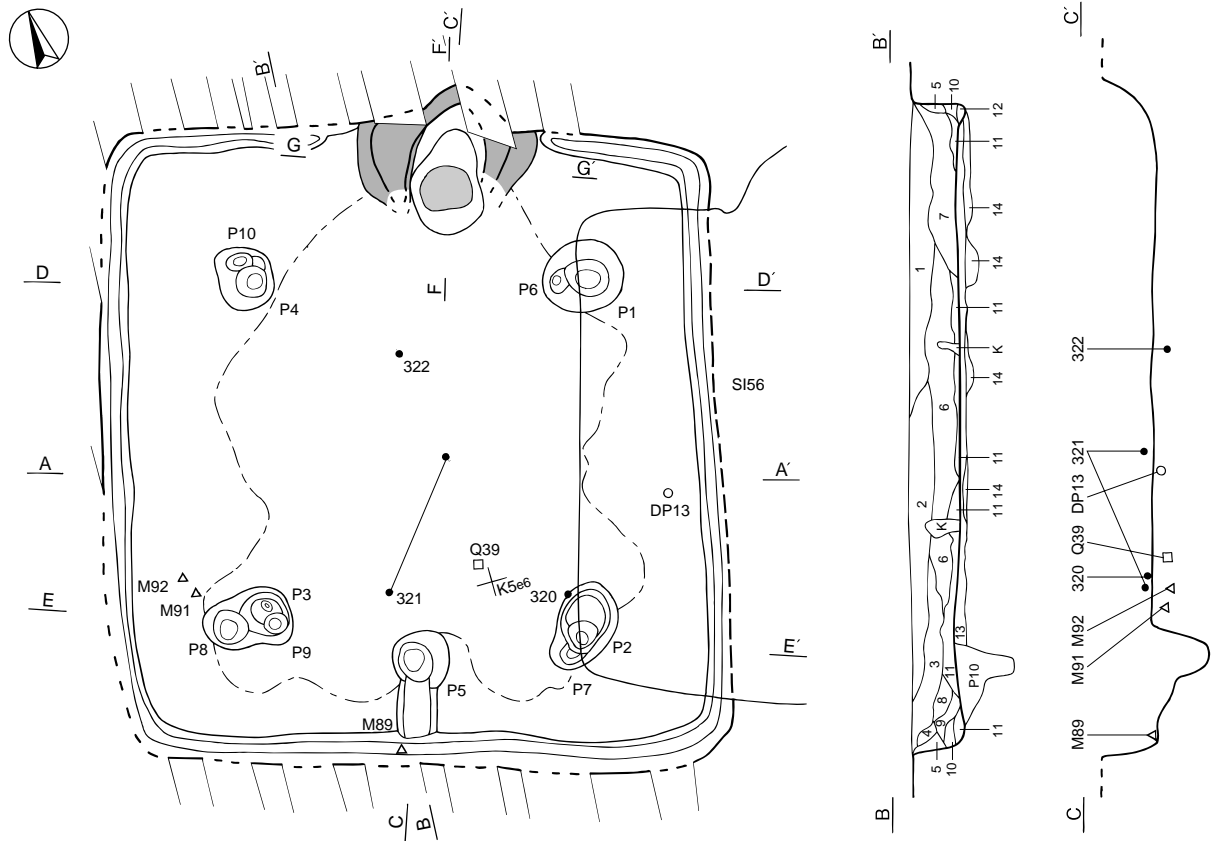
床 中央部が踏み固められている。貼床は四隅を深く掘り込み、ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までは106cm、袖部幅は136cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、焼土混じりの砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は火熱を受けて赤変している。煙道部は壁外に30cm掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

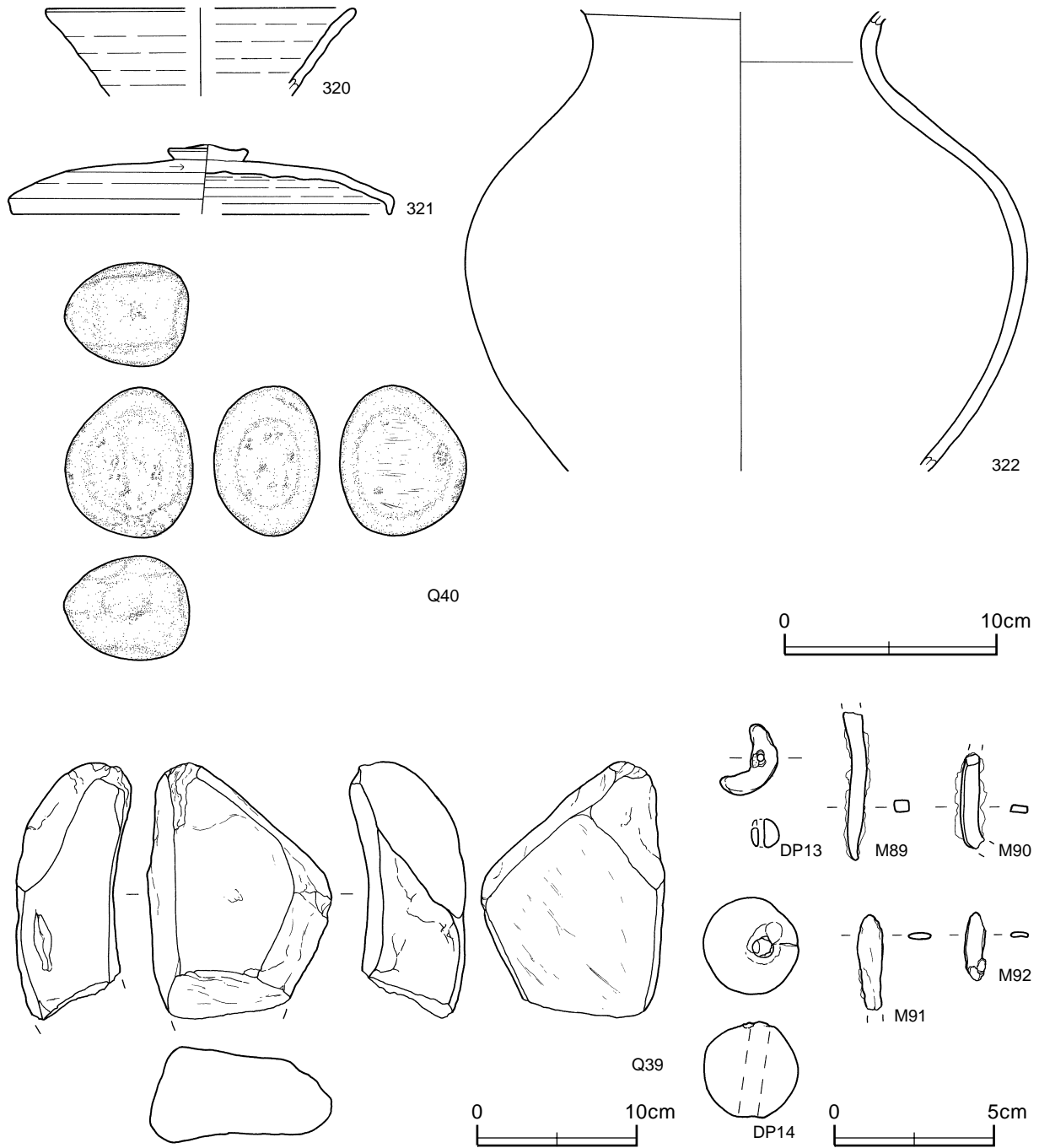
竈土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	14	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物微量
3	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量
4	黒褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	16	暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量
5	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	18	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	19	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量
8	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	20	にぶい褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量
9	暗赤褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	21	褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子微量	22	黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
11	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量			
12	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

ピット 10か所。P 1~P 4は深さ54~70cmで、位置と配置から支柱穴と考えられる。P 5は深さ48cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6~P 10は深さ25~49cmで、支柱穴に沿うように確認されており、それぞれ支柱穴と考えられる。



第149图 第57号住居跡実測图



第150図 第57号住居跡出土遺物実測図

覆土 12層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第12層は壁溝の覆土，第13～18層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|----------------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 | 9 黒 褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック微量 | 10 黒 褐色 | ローム粒子少量，炭化物微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 暗 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 黒 褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 13 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 黒 褐色 | ローム粒子少量 | 14 褐色 | ローム粒子多量 |
| 7 黒 褐色 | ロームブロック・炭化物少量・砂質粘土粒子微量 | 15 褐色 | ロームブロック中量 |
| 8 暗 褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 16 暗 褐色 | ロームブロック少量 |
| | | 17 褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子少量 |
| | | 18 褐色 | ロームブロック多量・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片402点（坏12，甕390），須恵器片53点（坏27，高台付坏2，蓋10，甕14），土製品2点（勾玉，球状土錘），石製品2点（台石，磨石），金属製品4点（釘），鉄滓9点の他に，流れ込んだ縄文土器片3点も出土している。321は中央部の床面，322・M90は貼床下からそれぞれ出土している。DP13は東壁際の貼床の構築土から出土している。320は覆土下層から逆位で出土しており，廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表（第150図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	須恵器	坏	[14.4]	(4.2)	-	長石・石英・小礫	灰黄褐	良好	内・外面口クロナデ	床面	20%
321	須恵器	蓋	[17.8]	3.3	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り 内・外面口クロナデ	床面	30% PL35
322	土師器	甕	-	(21.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	表面剥離のため調整不明	床面	50% PL37 体部火熱痕

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP13	勾玉	2.2	0.9	-	1.7	粘土	ナデ 片側からの穿孔	床面	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP14	球状土錘	3.0	3.0	0.6	25.1	粘土	ナデ 片側からの穿孔	覆土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q39	台石	(15.9)	11.4	7.1	(1470.0)	安山岩	表面磨耗によりくぼむ	床面	
Q40	磨石	7.0	6.0	4.8	292.0	砂岩	使用面2面	覆土中	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M89	釘	(4.6)	0.8	0.4	(2.3)	鉄	頭部欠損 断面は方形の棒状	床面	
M90	釘	(2.9)	0.7	0.3	(3.0)	鉄	脚部・頭部欠損 断面は方形の棒状	床面	
M91	鏝	(3.0)	0.8	0.3	(1.1)	鉄	鏝身	床面	
M92	鏝	(2.1)	0.6	0.2	(0.6)	鉄	茎尻の一部	床面	

第58号住居跡（第151～153図）

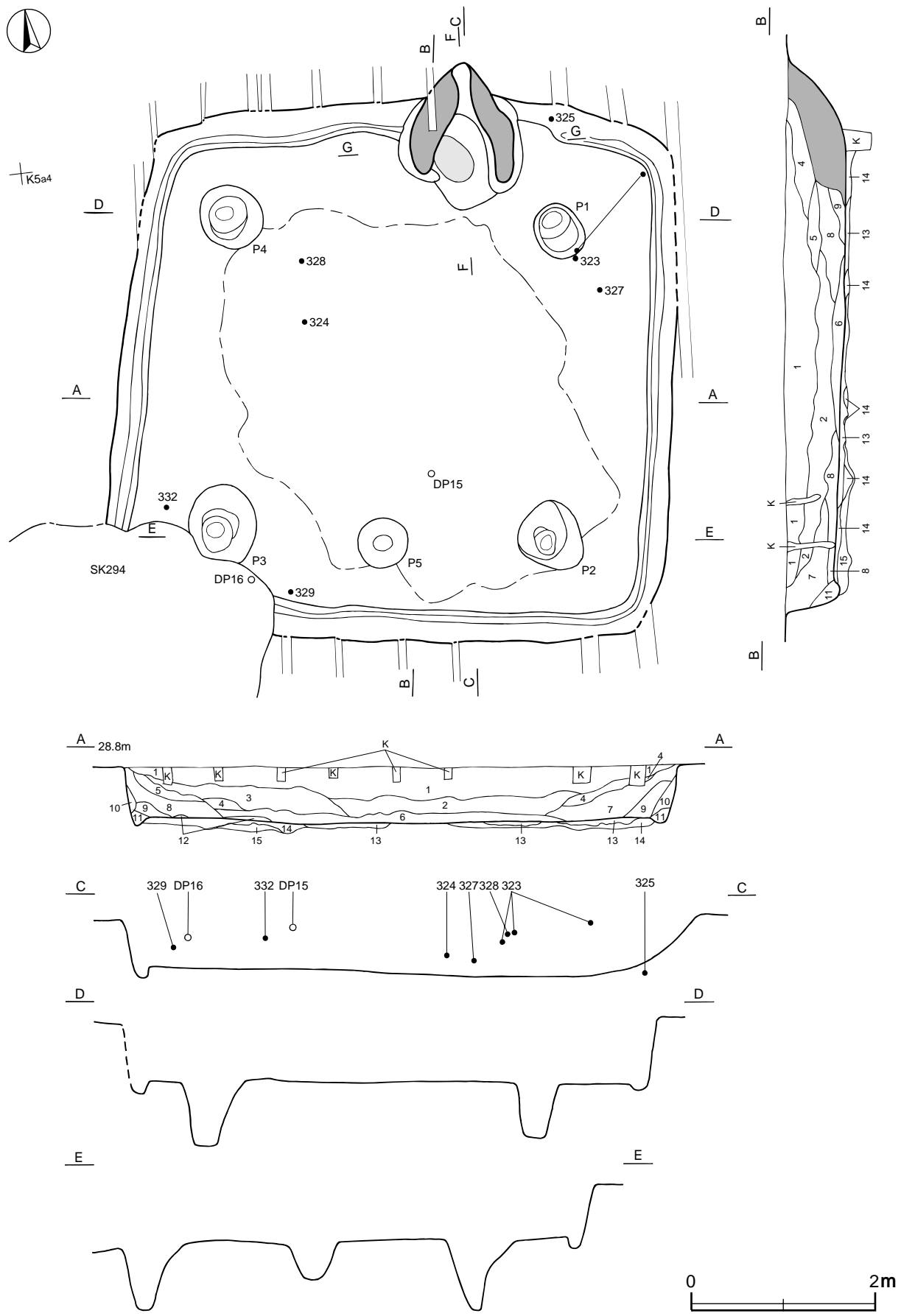
位置 調査E区のK 5 a4区，標高28mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第294号土抗に南西コーナー一部を掘り込まれている。

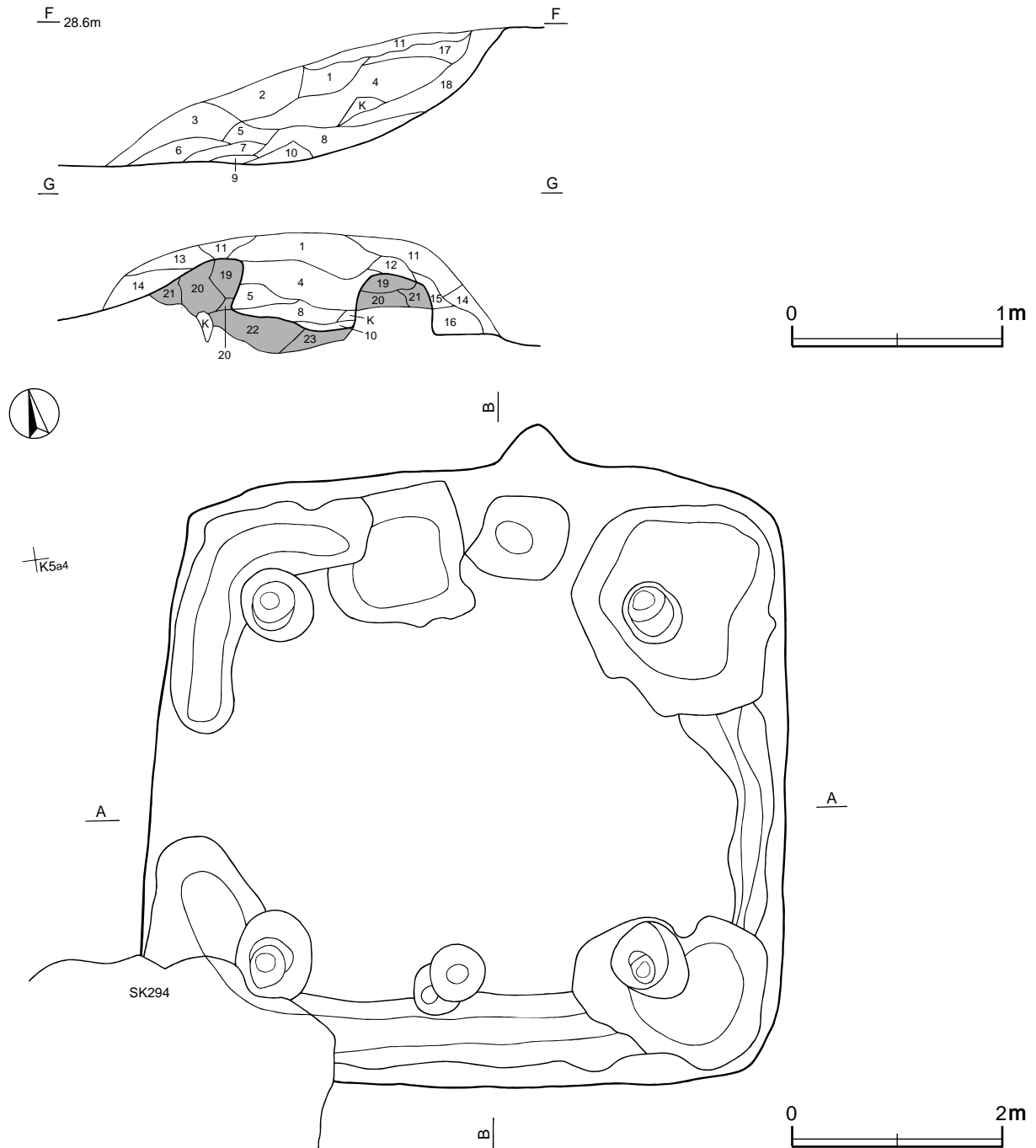
規模と形状 長軸5.98m，短軸5.80mの方形で，主軸方向はN-15 - Eである。壁高は50～72cmで，直立している。

床 中央部の広い範囲が踏み固められている。貼床は四隅を深く掘り込み，ローム土を主体とする埋土で構築している。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで149cm，袖部幅は133cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし，砂質粘土で構築されている。火床部は，床面と同じ高さの地山面を使用しており，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ32cm掘り込み，火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。



第151图 第58号住居跡実測图(1)



第152図 第58号住居跡実測図(2)

竈土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	12	暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量
2	黒色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
3	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量	14	黄褐色	砂質粘土粒子多量, 炭化粒子微量
4	黄褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	15	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量
5	褐色	砂質粘土粒子中量	16	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
6	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック微量	17	黄褐色	砂質粘土粒子多量
7	暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量	18	暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子微量
8	暗赤褐色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子少量	19	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量
9	暗赤褐色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子少量	20	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量
10	赤褐色	焼土ブロック多量	21	暗褐色	砂質粘土粒子少量, ローム粒子微量
11	黒褐色	焼土粒子少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量	22	にぶい赤褐色	焼土ブロック多量
			23	褐色	ロームブロック多量

ピット 5か所。P 1～P 4は、深さ53～78cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ38cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

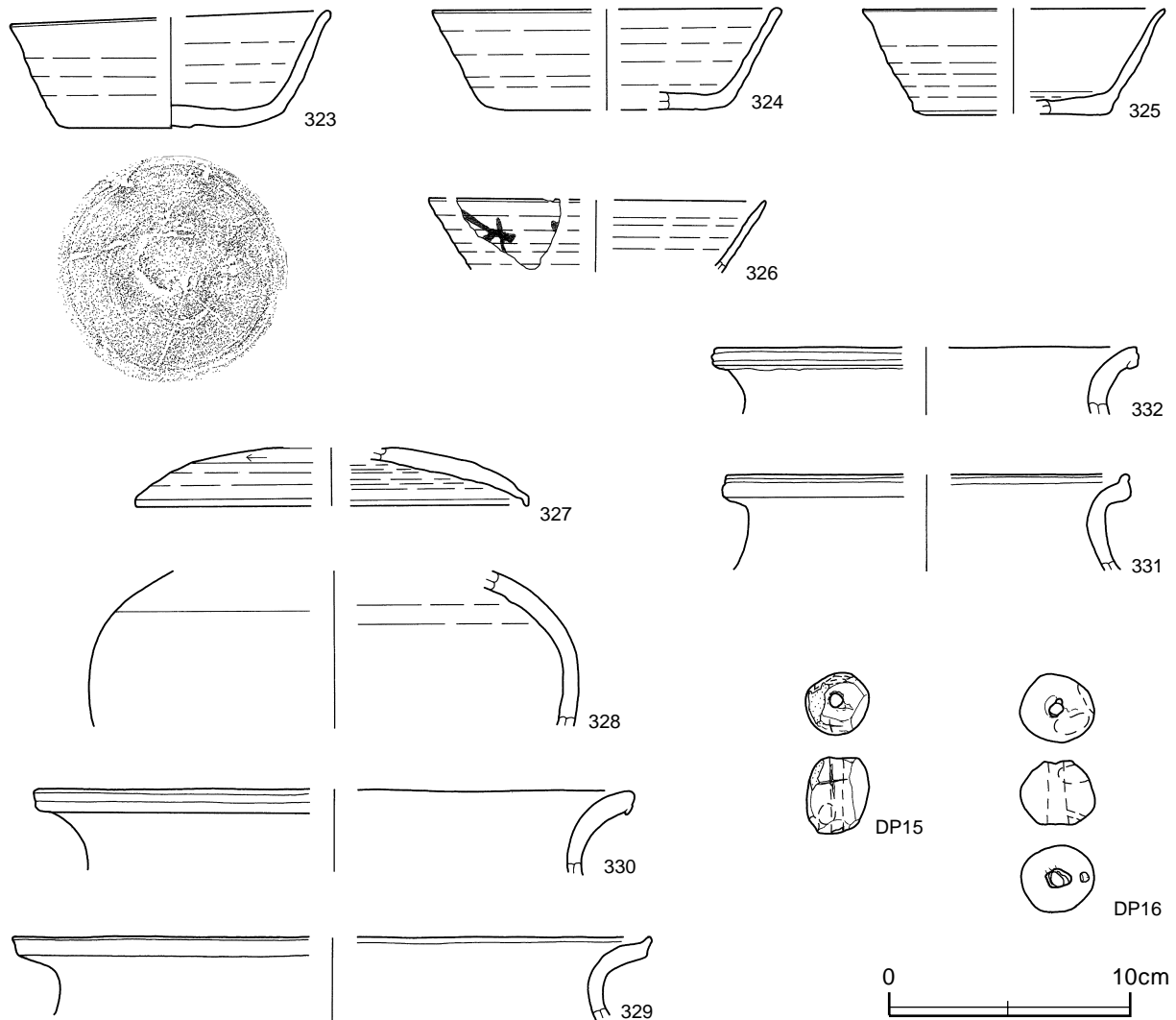
覆土 12層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第13～15層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子少量，ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 暗褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 | 14 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 極暗赤褐色 | ロームブロック少量，鹿沼パミス微量 |
| 8 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片632点（坏17，皿1，，甕614），須恵器片123点（坏96，高台付坏1，蓋8，長頸瓶1，短頸壺1，甕16），土製品2点（球状土錘），石器1点（敲石）が出土している。細片が多く，覆土上層から出土していることから，廃絶後投棄されたものが多いと考えられる。325は北壁際の壁溝内から逆位で，327は東壁際の床面，329は南壁際の覆土下層から斜位でそれぞれ出土している。326は覆土中から出土しており，「□大」と墨書されている。

所見 時期は，出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第153図 第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表 (第153図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
323	須恵器	坏	[13.0]	4.9	9.4	長石・石英・小礫	灰黄褐	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ 内・外面口ロナデ	覆土中層	55% PL31 ヘラ記号「+」
324	須恵器	坏	[14.2]	4.2	[8.9]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面口ロナデ	覆土下層	20%
325	須恵器	坏	[12.4]	4.4	[8.2]	長石・石英・小礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り後ナデ 内・外面口ロナデ	壁溝	25%
326	須恵器	坏	[13.8]	(2.9)	-	長石・石英	灰	普通	内・外面口ロナデ	覆土中	10% 墨書 「大」カ
327	須恵器	蓋	[16.2]	(2.4)	-	長石・小礫	灰	不良	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
328	須恵器	短頸壺	-	(6.5)	-	長石	灰	良好	内・外面口ロナデ	覆土中層	10%
329	土師器	甕	[26.1]	(3.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%
330	土師器	甕	[24.4]	(3.4)	-	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈覆土中	10%
331	土師器	甕	[16.4]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	10%
332	土師器	甕	[17.2]	(2.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP15	球状土錘	2.6	3.1	0.6	(17.8)	粘土	ナデ 片側からの穿孔 指頭痕	覆土中層	ヘラ記号「+」 PL43
DP16	球状土錘	3.1	2.7	0.6	20.9	粘土	ナデ 片側からの穿孔 指頭痕	覆土中層	

第59号住居跡 (第154～157図)

位置 調査E区のJ 5g3区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸5.73m、短軸5.46mの方形で、主軸方向はN-44 - Eである。壁高は50～68cmで、直立している。

床 中央部が踏み固められている。貼床は四隅を深く掘り込み、ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が、北東壁の一部を除いて周回している。

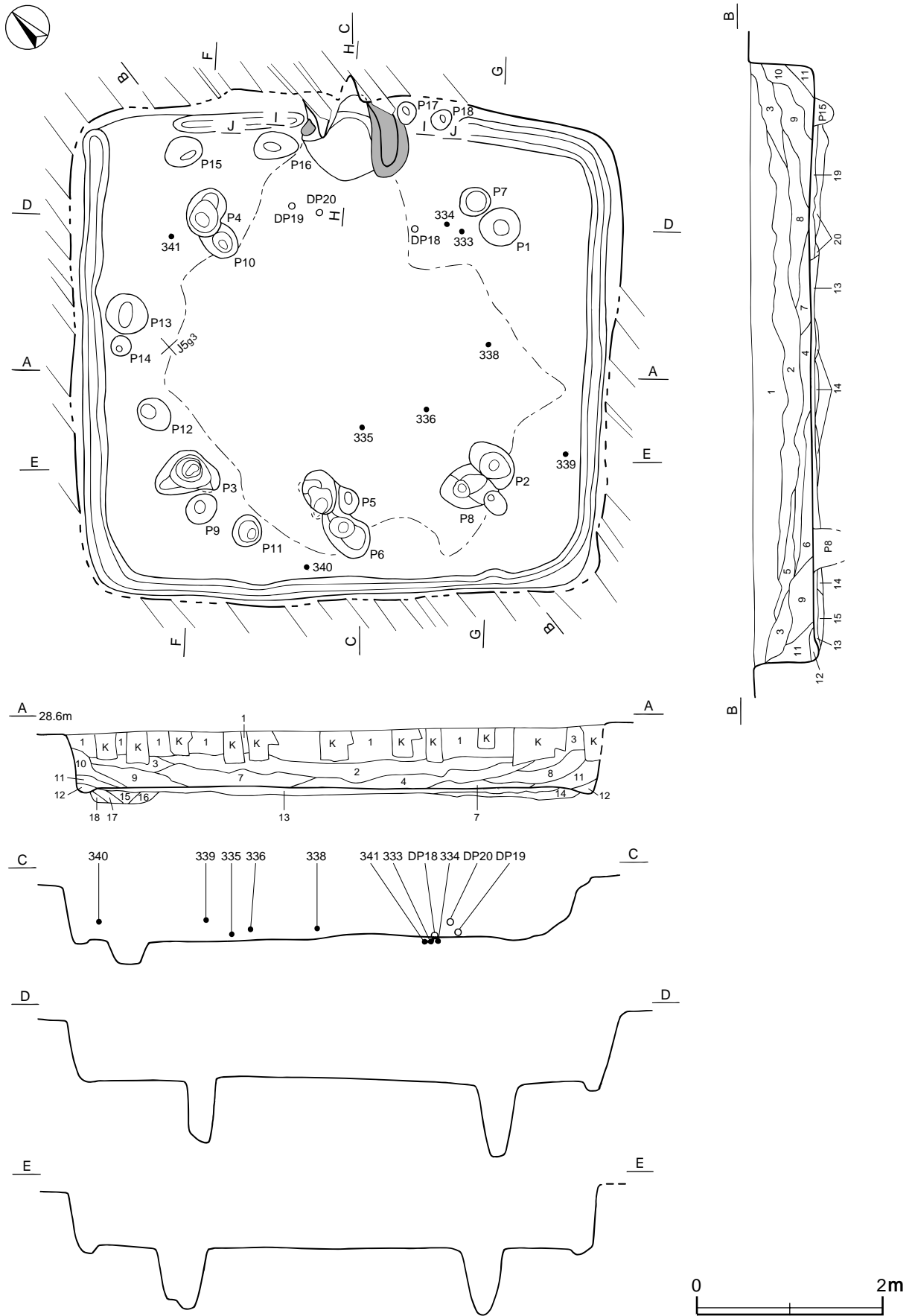
竈 北東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cmである。攪乱のため左袖部の遺存状況が悪く、袖部幅はおよそ120cmと推定される。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土を含むローム土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面は焼土が確認されたが、不明瞭である。煙道部は壁外に22cm掘り込み、火床部から直立している。

竈土層解説

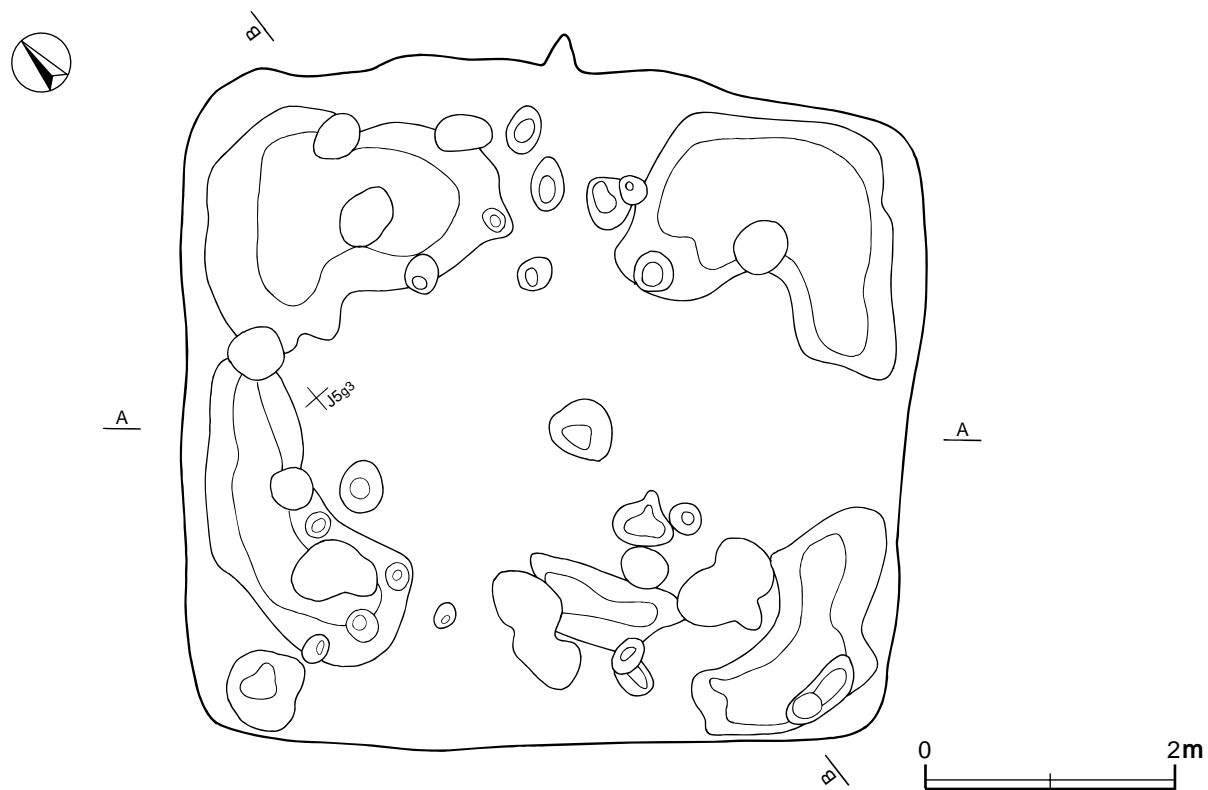
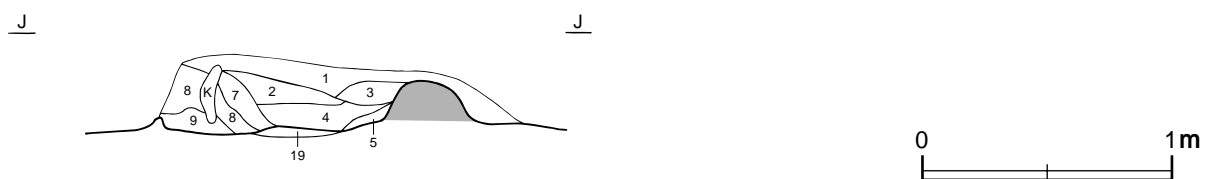
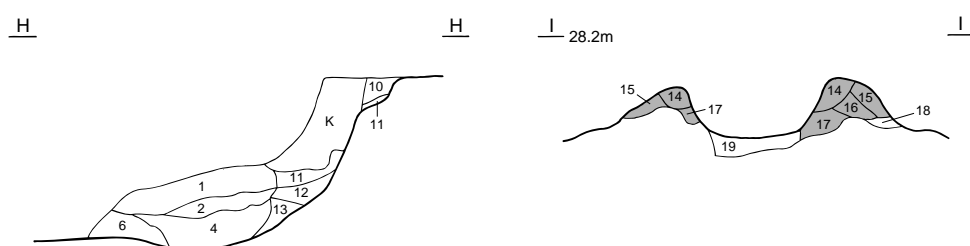
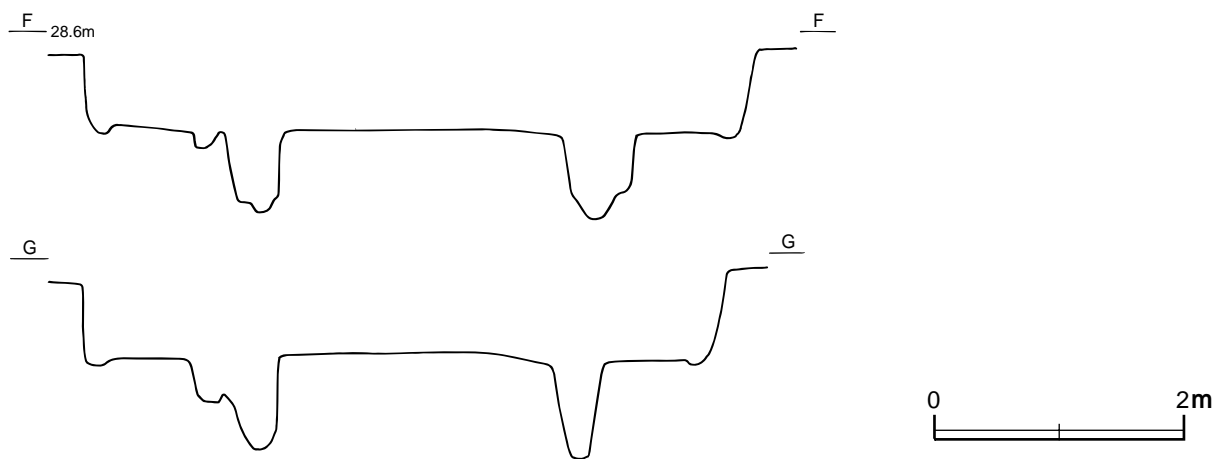
1 黒 褐 色	焼土ブロック少量, ローム粒子微量	10 黒 褐 色	砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量
2 赤 褐 色	焼土ブロック中量	11 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量
3 暗 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック微量
4 暗 赤 褐 色	焼土粒子中量, 砂質粘土粒子微量	13 暗 褐 色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック少量
5 黒 褐 色	焼土ブロック少量, ロームブロック・砂質粘土粒子微量	14 暗 赤 褐 色	焼土ブロック中量, 砂質粘土粒子微量
6 黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量	15 黒 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量, 砂質粘土粒子微量
7 にぶい黄褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量	16 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
8 暗 褐 色	ローム粒子少量, 砂質粘土粒子微量	17 暗 赤 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 砂質粘土粒子微量
9 暗 褐 色	ロームブロック多量	18 暗 褐 色	ローム粒子中量, 砂質粘土粒子微量
		19 褐 色	焼土ブロック多量

ピット 18か所。P 1～P 4は深さ39～68cmで、位置や配置から支柱穴と考えられる。P 5・P 6は、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7～P 10は深さ22～57cmで、位置から支柱穴と考えられる。P 11～P 18は深さ25～32cmで、性格は不明である。

覆土 12層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第13～20層は貼床の構築土である。



第154图 第59号住居跡出土遺物実測図(1)



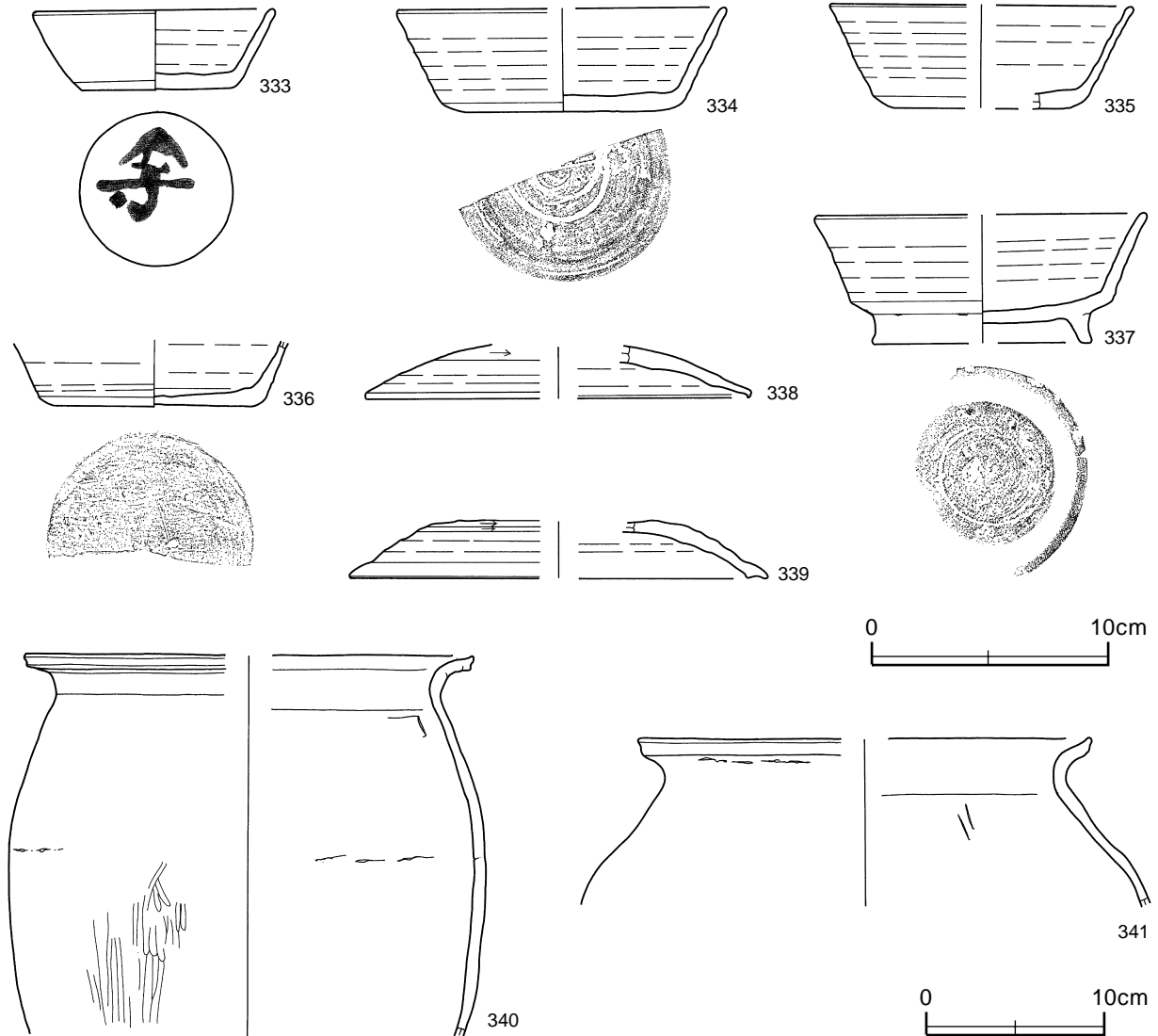
第155图 第59号住居跡実測图(2)

土層解説

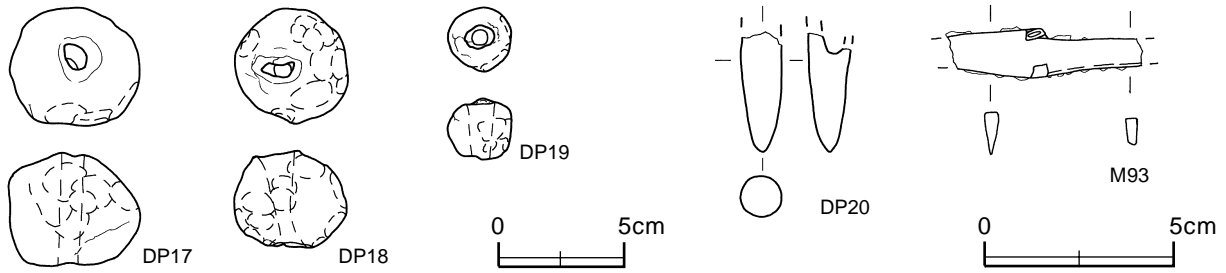
1 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	10 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 黒 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	11 暗 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量
3 黒 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	12 褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量
4 暗 褐色	ロームブロック・鹿沼パミス少量	13 褐色	ロームブロック中量
5 暗 褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量	14 褐色	ローム粒子多量
6 暗 褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量	15 黒 褐色	ロームブロック少量
7 褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量	16 暗 褐色	ロームブロック中量, 鹿沼パミス微量
8 黒 褐色	ロームブロック少量, 炭化物微量	17 褐色	ローム粒子多量, 鹿沼パミス微量
9 黒 褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	18 黒 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・鹿沼パミス微量
		19 黒 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量, 鹿沼パミス・炭化粒子微量
		20 黒 褐色	ロームブロック少量, 砂質粘土粒子・鹿沼パミス微量

遺物出土状況 土師器片578点（坏10，蓋1，甕567），須恵器片86点（坏61，高台付坏5，蓋8，甕12），土製品4点（球状土錘3，不明1），石器1点（石斧），金属製品1点（釘）が出土している。333は竈東側の床面から正位で出土し，底部には「寺カ」の墨書がある。334は竈南側の床面から正位で，341は北西壁際の床面から逆位で，DP18～DP20は竈前面の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第156図 第59号住居跡出土遺物実測図(1)



第157図 第59号住居跡出土遺物実測図(2)

第59号住居跡出土遺物観察表(第156・157図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
333	須恵器	坏	9.9	3.4	6.4	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	床面	95% PL31・38 墨書「寺」カ
334	須恵器	坏	[13.7]	4.4	9.0	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	床面	50% ヘラ記号「-」
335	須恵器	坏	[12.6]	4.4	[7.7]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	床面	15%
336	須恵器	坏	-	(2.8)	8.6	長石・石英	灰	普通	底部ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	覆土下層	40% ヘラ記号
337	須恵器	高台付坏	[13.6]	5.4	[9.1]	石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	50% PL34
338	須恵器	蓋	[16.1]	(2.2)	-	長石・黒色粒子	灰	良好	天井部回転ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	覆土下層	15%
339	須恵器	蓋	[17.6]	(2.3)	-	長石・石英・雲母	灰	良好	天井部回転ヘラ削り 内・外面ロクロナデ	覆土下層	20%
340	土師器	甗	[24.8]	(21.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部下端縦位のヘラ磨き	覆土下層	15%
341	土師器	甗	[25.1]	(9.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 輪積痕 内面工具痕	床面	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP17	球状土錘	4.6	4.5	0.8	106.9	粘土	ナデ 片側からの穿孔 指頭痕	床面	PL43
DP18	球状土錘	4.5	3.8	0.7	73.1	粘土	ナデ 片側からの穿孔 指頭痕	床面	PL43
DP19	球状土錘	2.5	2.4	0.7	12.1	粘土	ナデ 片側からの穿孔 指頭痕	覆土下層	PL43

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP20	不明	(3.1)	1.1	-	(2.7)	粘土	円錐形を呈する	覆土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M93	刀子	(5.1)	(1.2)	0.3	(4.1)	鉄	緑金具遺存 茎尻・切先欠損	覆土中	PL47

第61号住居跡(第158・159図)

位置 調査F区のG 5h0区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.96m、短軸3.81mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は43~47cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈前面から南壁際にかけて踏み固められている。壁溝が北壁と南西コーナー部を除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで96cmである。右袖部は攪乱により遺存状況は悪く、袖部幅はおよそ120cmである。袖部は床面に砂質粘土を含むローム土で構築されている。火床部は地山を6cmほど掘りくぼめられ、焼土粒子が若干確認できたが火床面は不明瞭である。煙道部は壁外に34cm掘り込み、火床部から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

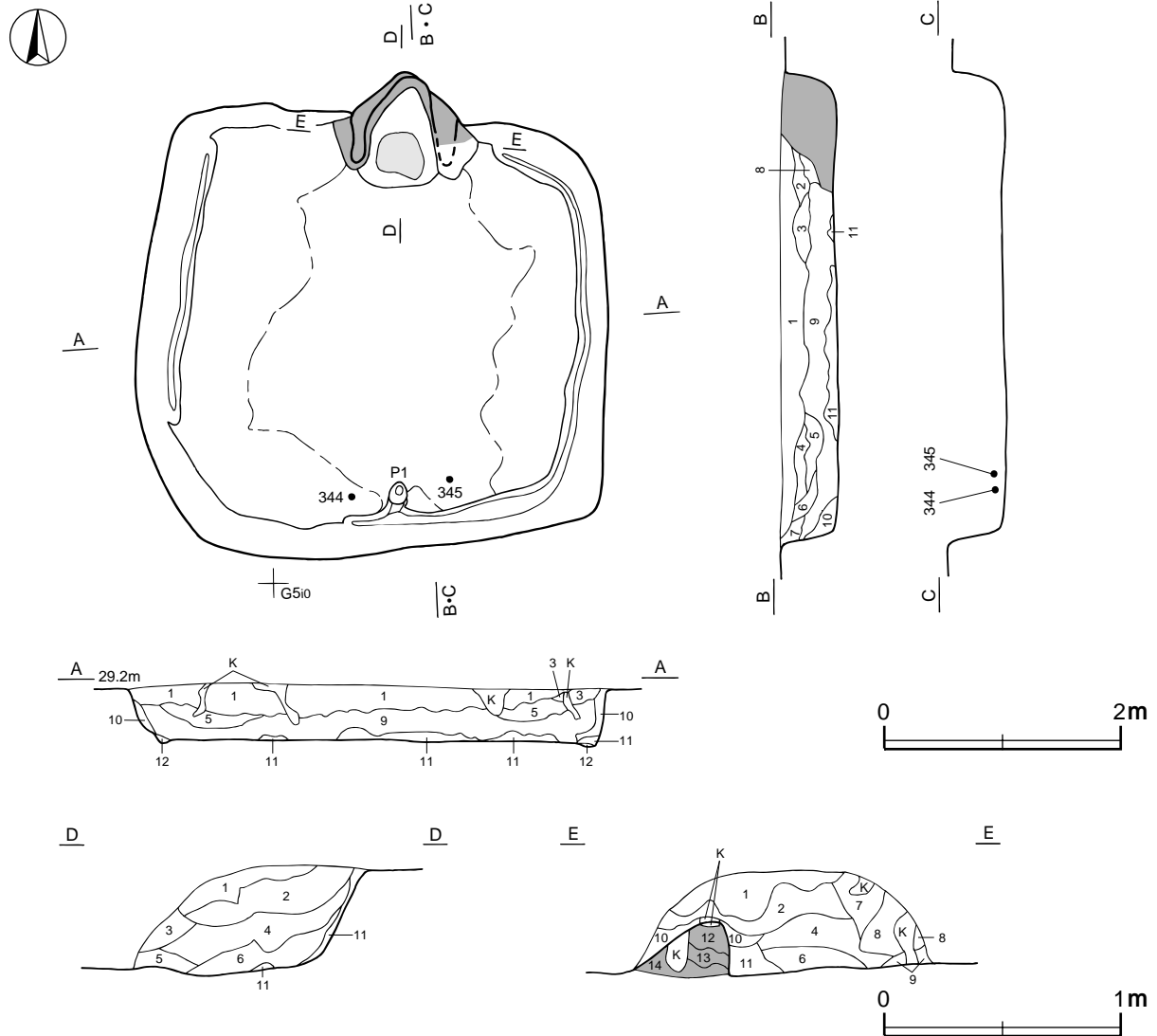
- | | | | |
|-------|------------------------------|----------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量 | 8 にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 砂質粘土粒子多量，ローム粒子・炭化物微量 | 9 褐色 | ローム粒子多量，砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量 | 11 褐色 | 焼土粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | 12 灰黄褐色 | 砂質粘土粒子多量，炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量，砂質粘土粒子微量 |
| 7 黄褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック少量 | 14 褐色 | ロームブロック中量，砂質粘土粒子微量 |

ピット 深さ11cmで，南壁際に位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 12層に分層される。第9～12層は土砂の流入を示すレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第2～4層はブロック状の堆積状況が見られることから，廃絶の過程の中で埋め戻されたと考えられる。

土層解説

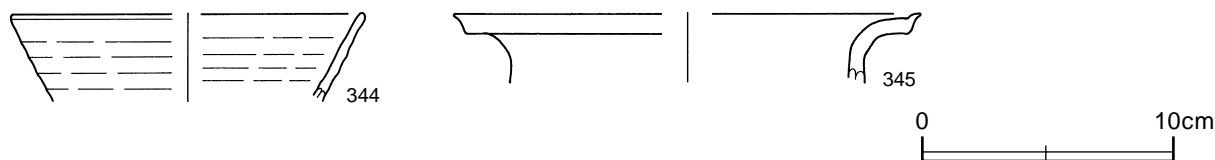
- | | | | |
|-------|-------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黄褐色 | ローム粒子多量，炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量，砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |



第158図 第61号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片10点（甕）、須恵器片6点（坏4、蓋1、甕1）が出土している。344・345は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 壁外柱穴の可能性も考えて精査したが、支柱穴となるピットは検出されなかった。時期は、特定できる土器が少ないため明確ではないが、8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。



第159図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表（第159図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
344	須恵器	坏	[13.8]	(3.5)	-	砂粒	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	10%
345	土師器	甕	[18.2]	(2.7)	-	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土下層	10%

第62号住居跡（第160・161図）

位置 調査F区のG5j7区、標高28mほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 東部は調査区域外へ延びるため全体を確認することができなかった。確認できた範囲は長軸4.30m、短軸4.02mである。平面形は方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-17-Eである。壁高は10～25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

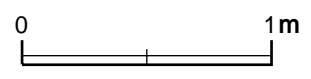
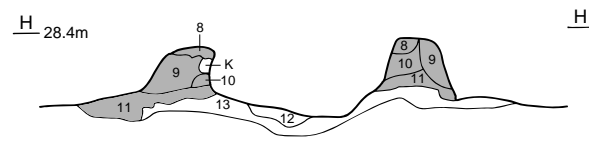
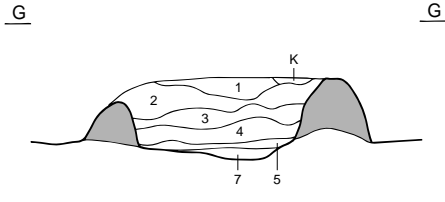
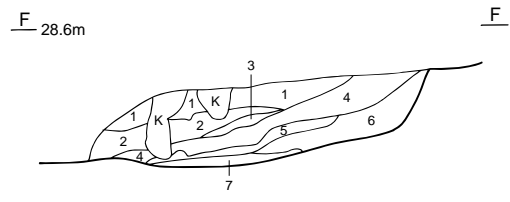
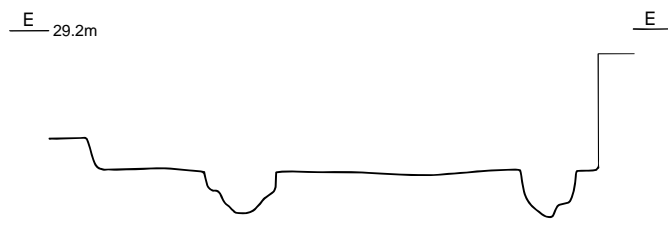
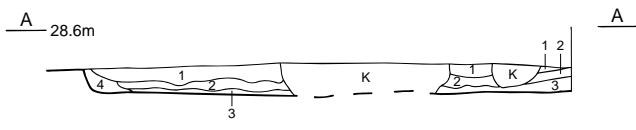
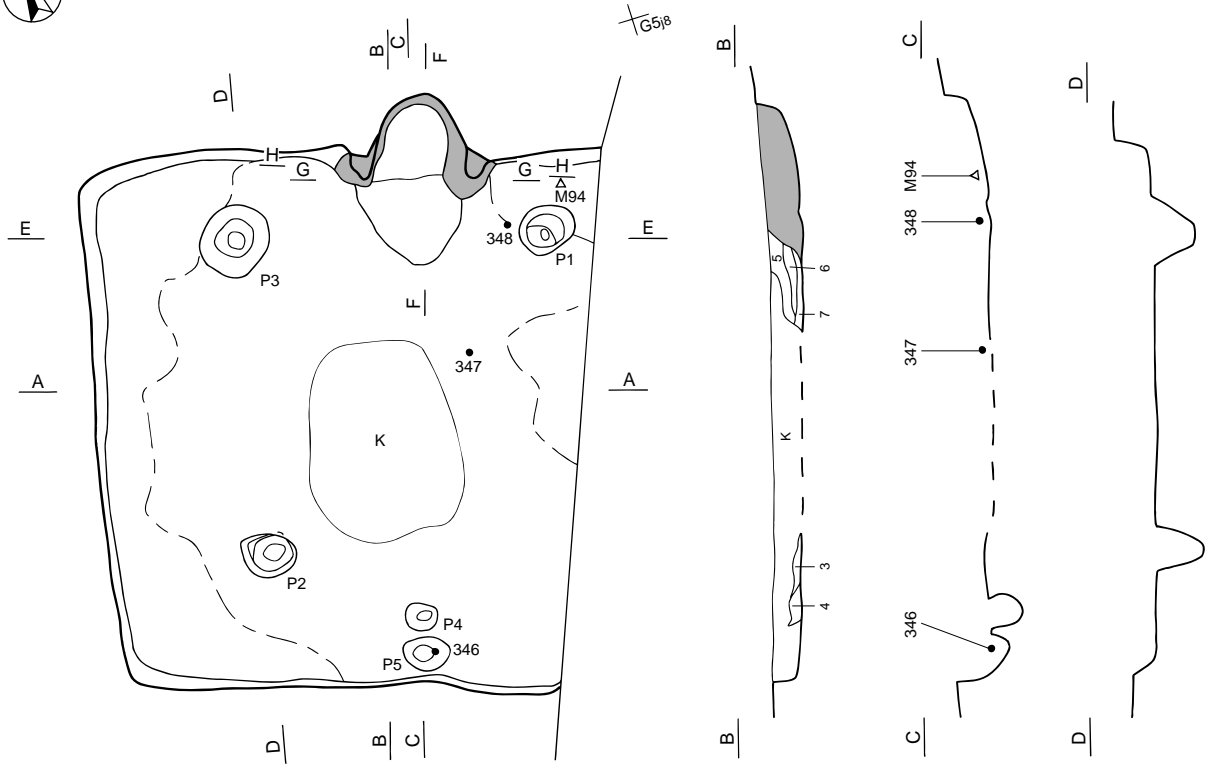
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで137cm、袖部幅は123cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を皿状に6cm掘りくぼめている。火床面は焼土が若干見られるが、顕著な赤変硬化が確認できない。煙道部は壁外に44cm掘り込み、火床部から直立している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	8 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
3 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	10 褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量	11 褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子少量
5 黒褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	12 暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
6 褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	13 明褐色	ロームブロック中量
7 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量		

ピット 5か所。P1～P3は深さ35～40cmで、規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は深さ29cm、P5は深さ19cmで、配置からいずれも出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 7層に分層される。壁際からの土砂の流入を示すレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第5～7層には竈の構築土が多く見られる。



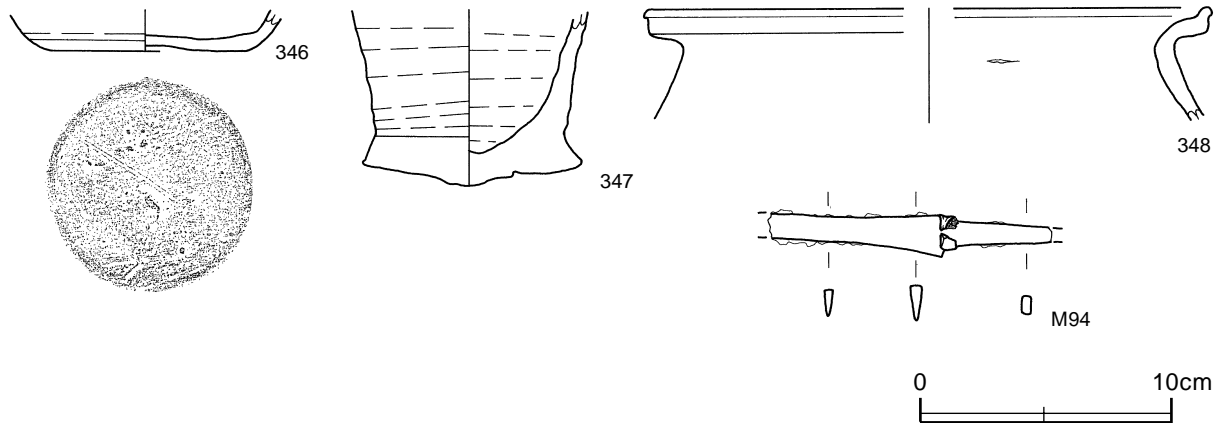
第160图 第62号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片114点（甕），須恵器片22点（坏11，蓋6，捏鉢1，甕4），金属器1点（刀子）が出土している。346は南壁際の床面，347は中央部の床面から斜位で，348は竈東側の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第161図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
346	須恵器	坏	-	(1.6)	8.1	長石・石英・小礫	灰	良好	底部回転ヘラ切り後一方向のナデ	床面	30% ヘラ記号「-」
347	須恵器	捏鉢	-	(7.0)	8.7	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	10% PL37
348	土師器	甕	[21.8]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面輪積痕	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M94	刀子	(11.3)	1.7	0.5	(15.9)	鉄	縁金具遺存 茎尻・切先欠損 茎の一部に木質遺存	床面	PL46

第63号住居跡（第162・163図）

位置 調査F区のG 5 g5区，標高28mの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第8号ピット群のP 3・P 4に西壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.18m，短軸2.93mの方形で，主軸方向はN-9-Eである。壁高は20～41cmで，外傾して立ち上がっている。

床 中央部が踏み固められている。貼床は中央部を深く掘り込み，ローム土に炭化粒子を含んだ埋土で構築している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで106cm，袖部幅は117cmである。袖部は砂質粘土によって構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめており，焼土を多く確認できるが，火床面は顕著な赤変硬化がみられない。煙道部は壁外に45cm掘り込み，火床部から直立している。

竈土層解説

- | | | | |
|-----------|-------------------------|---------|----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 黄 褐 色 | 砂質粘土粒子多量, ロームブロック微量 |
| 3 暗 赤 褐 色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

ピット 3か所。P1・P2は深さ12cm・16cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ38cmで、南壁から中央部に向かって掘り込まれており、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

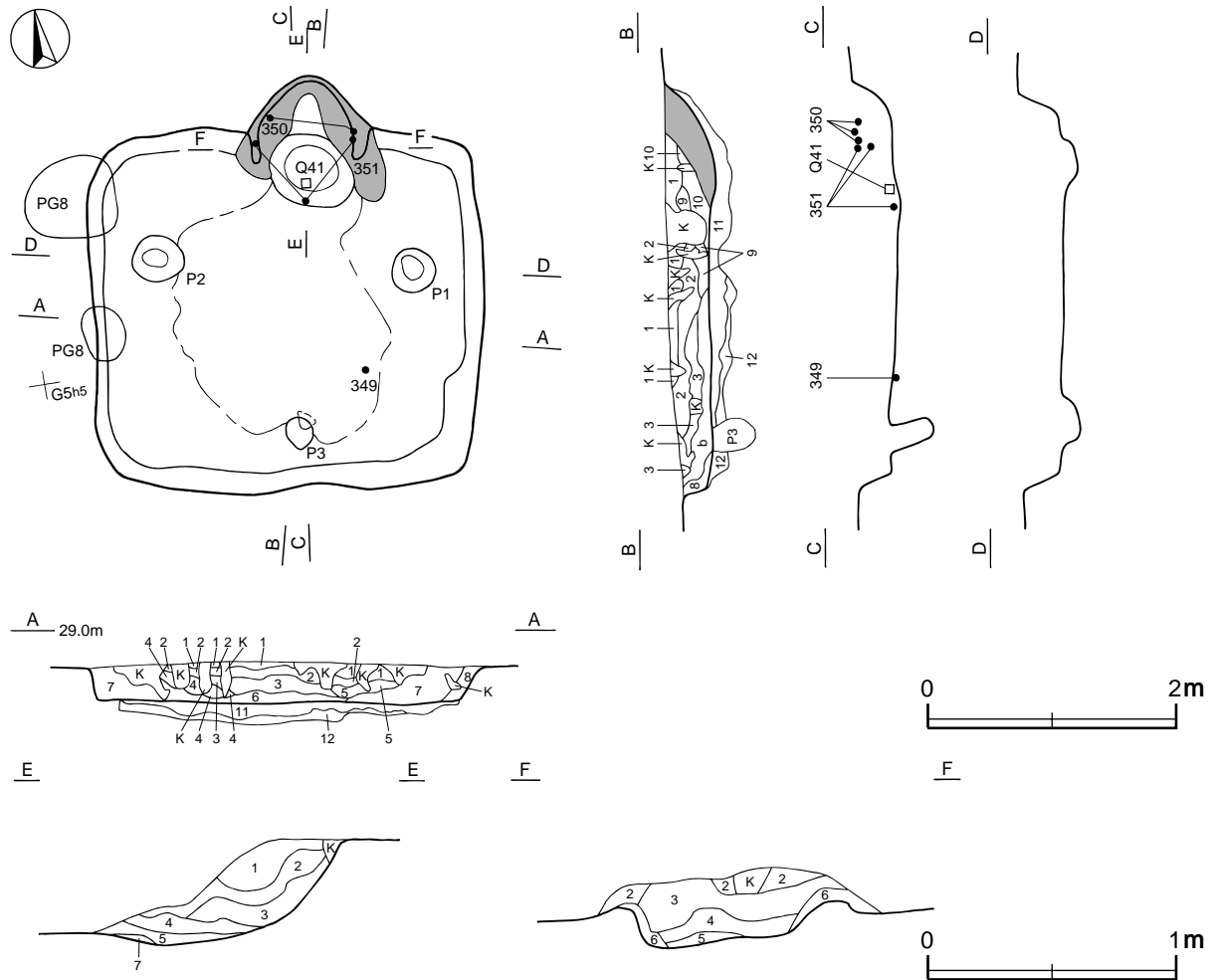
覆土 10層に分層される。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第9・10層は竈の構築土と考えられる。第11・12層は貼床の構築土である。

土層解説

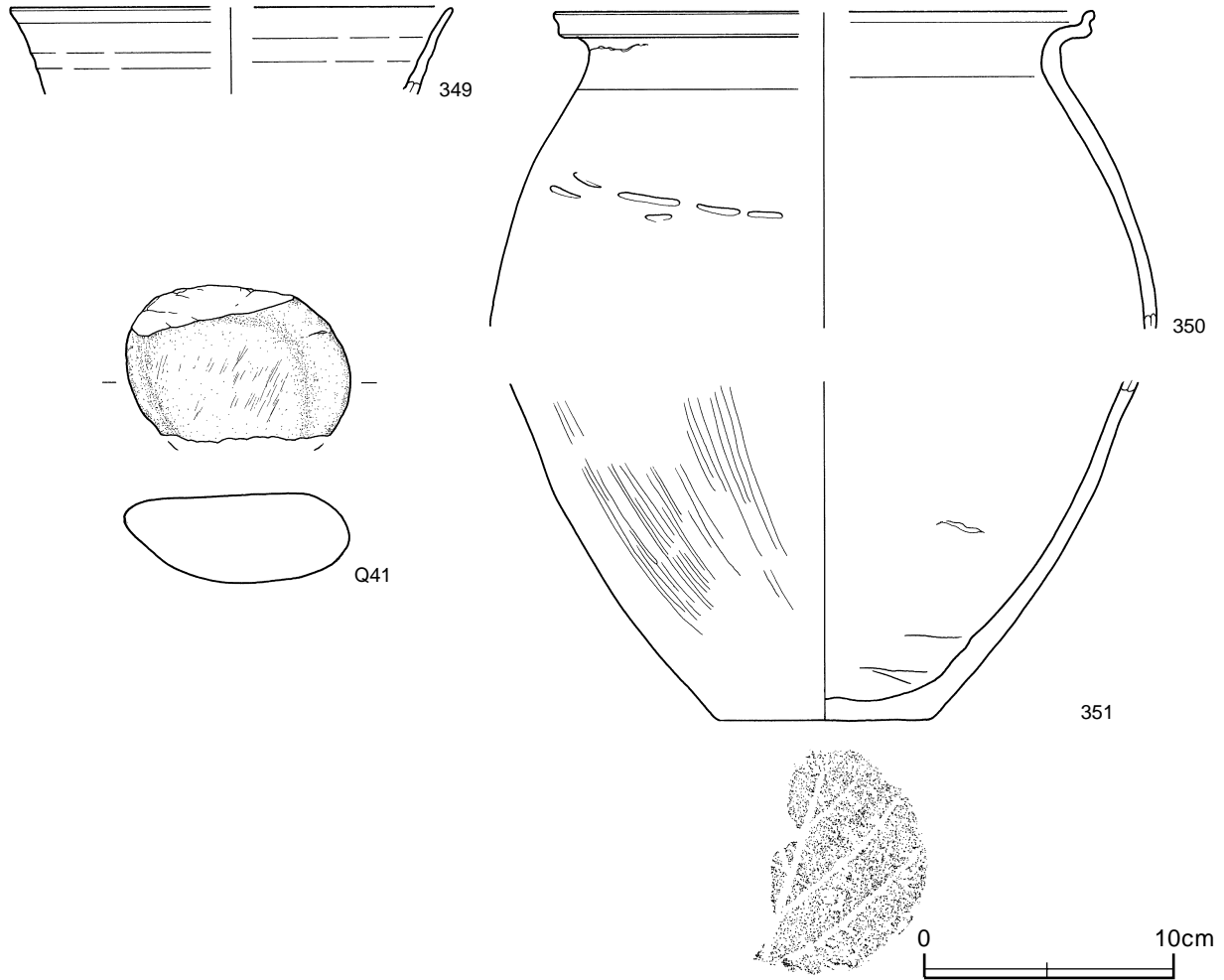
- | | | | |
|---------|------------------|----------|------------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子中量・炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量 | 9 黒 褐 色 | ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック少量 | 10 暗 褐 色 | ローム粒子・砂質粘土粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量 | 11 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量 | 12 褐 色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片76点（坏1，甕75），須恵器片2点（坏，高台付坏），石器1点（磨石）が出土している。349は中央部から南東寄りの覆土下層から斜位で出土している。350・351は竈内から出土した破片が接合したものであり、廃絶時に竈にかけられていたと想定できる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第162図 第63号住居跡実測図



第163図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第163図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
349	須恵器	坏	[17.6]	(3.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	床面	15%
350	土師器	甕	[21.6]	(12.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	竈	20%
351	土師器	甕	-	(13.6)	8.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部下端縦位のヘラ磨き 内面輪積痕	竈	15%

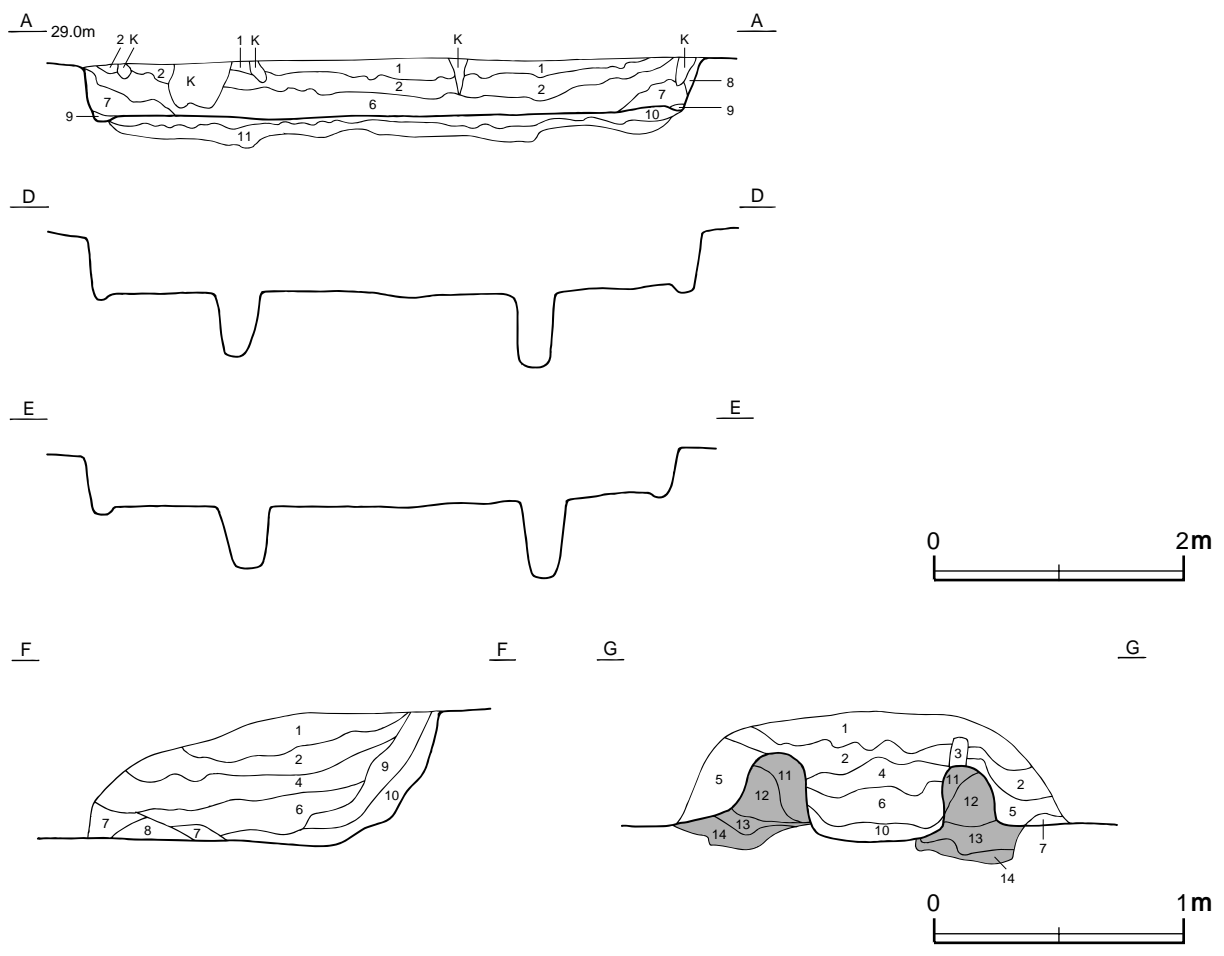
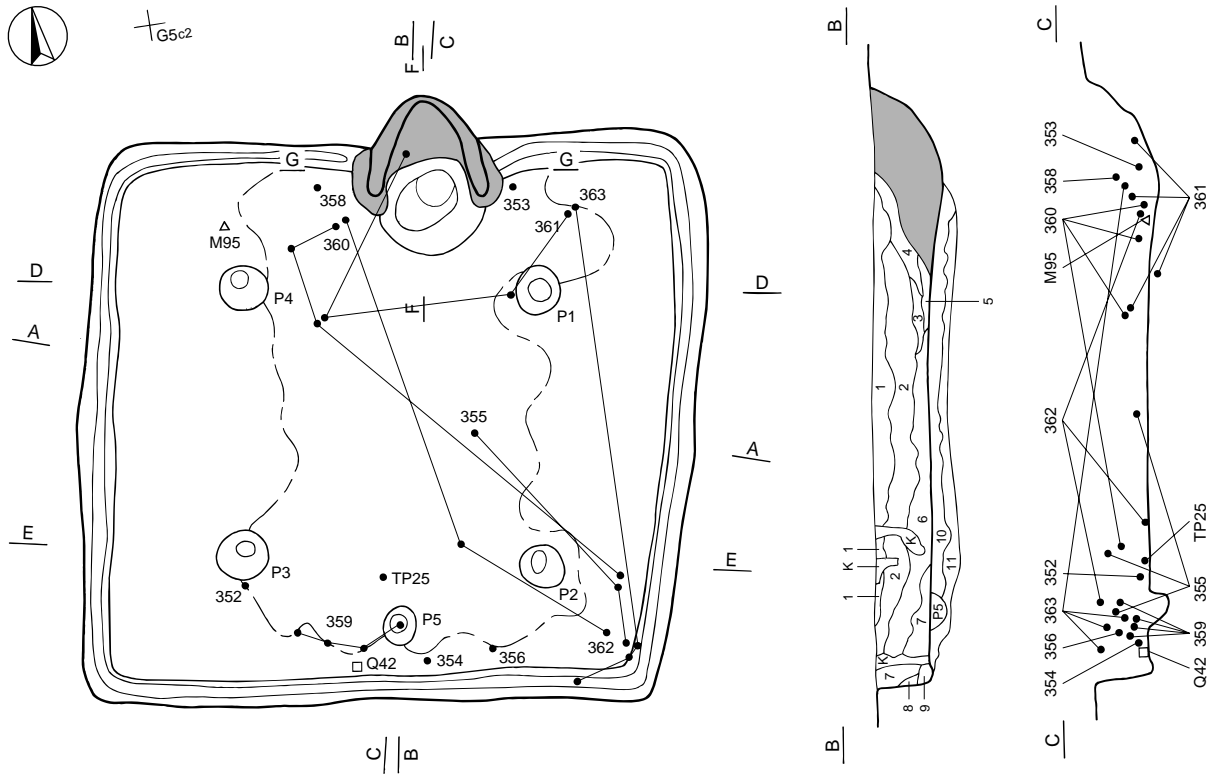
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q41	磨石	(6.3)	9.0	3.6	(241.0)	砂岩	使用面1面 側面に敲打痕	竈火床部	

第65号住居跡（第164～167図）

位置 調査F区のG 5 c2区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.90m、短軸4.48mの方形で、主軸方向はN-12 - Eである。壁高は35～46cmで、直立している。

床 竈から出入り口にかけて踏み固められている。貼床は壁際を深く掘り込み、ローム土を主体とした埋土で構築している。壁溝が全周している。



第164图 第65号住居跡実測图

竈 北壁中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで125cm、袖部幅は120cmである。袖部は地山を掘り下げて、砂質粘土で構築されている。火床部は地山を8cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cm掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化物微量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量
3 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子微量	9 にぶい赤褐色	砂質粘土粒子中量, ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土ブロック微量
4 褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子微量	11 褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子微量
6 褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化物微量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量, 焼土ブロック・ローム粒子微量
		13 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子微量
		14 褐色	ローム粒子多量

ピット 5か所。P1～P4は深さ51～65cmで、位置や配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ17cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

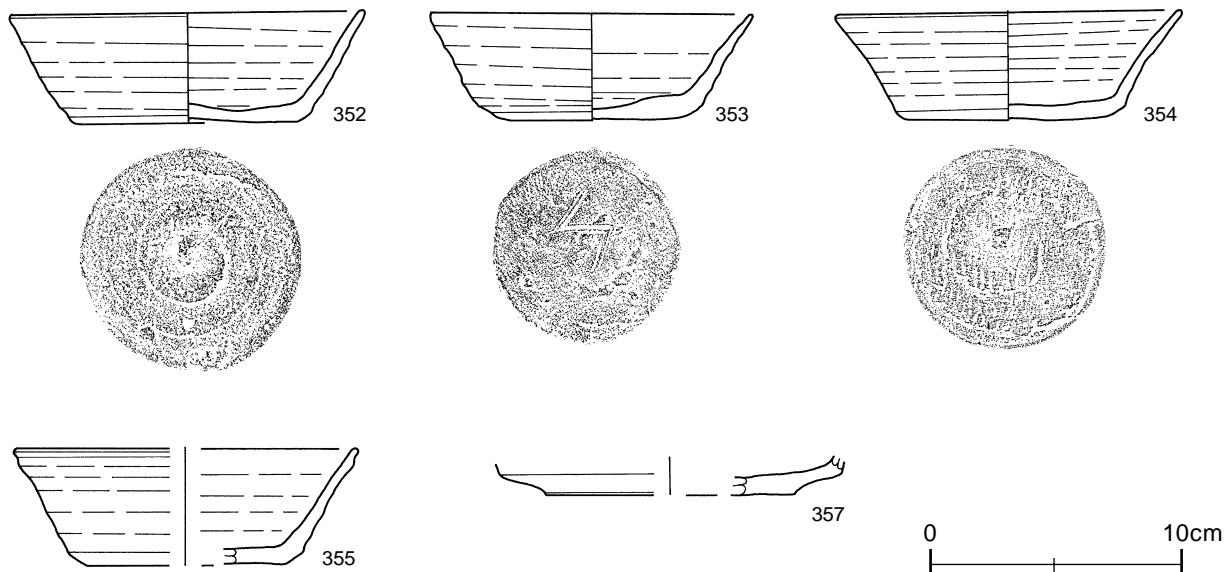
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況を示す自然堆積と考えられる。第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

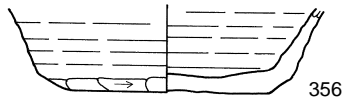
1 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量	7 黒褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	8 褐色	ローム粒子多量
3 黒褐色	砂質粘土粒子少量, ロームブロック微量	9 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量	10 褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量	11 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片391点（坏1，甕390），須恵器片111点（坏93，高台付坏1，盤1，蓋12，甕4），石器1点（磨石），金属器・金属製品3点（刀子1，不明2）のほかに、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。遺物は第6層から集中して出土していることや、広い範囲から出土した土器片が接合していることなどから、廃絶後に投棄されたものと考えられる。361は、P1の覆土上層から逆位で出土したものと、竈内から出土した破片が接合したものである。

所見 出土土器は、8世紀中葉から9世紀初頭のものが多いことから、時期は8世紀中葉以前と考えられる。



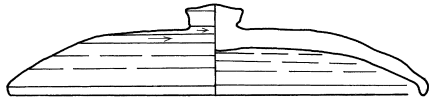
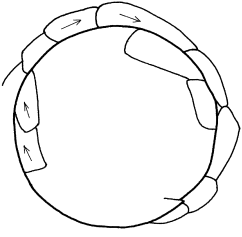
第165図 第65号住居跡出土遺物実測図(1)



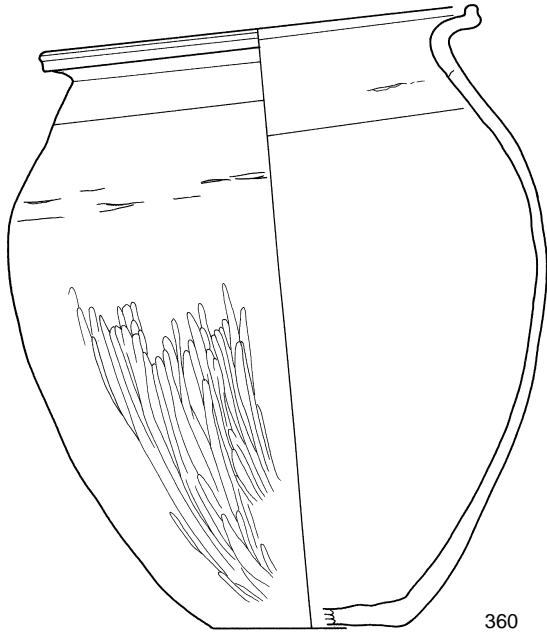
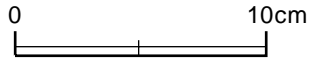
356



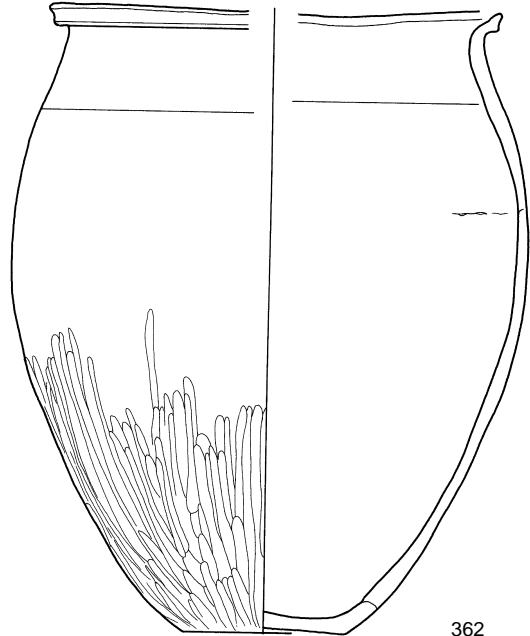
358



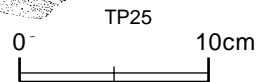
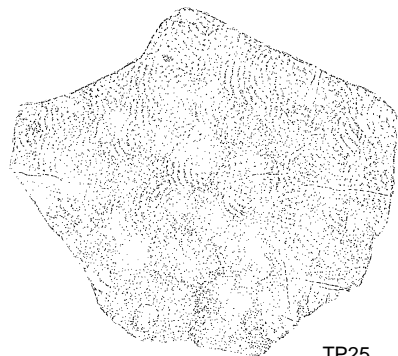
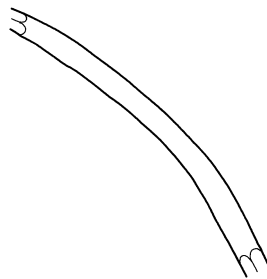
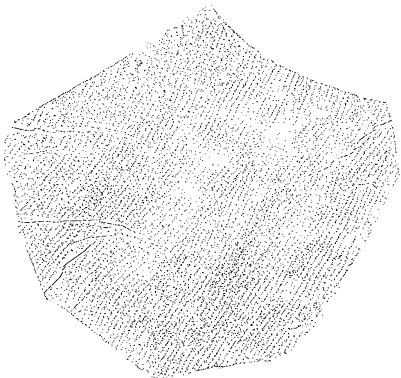
359



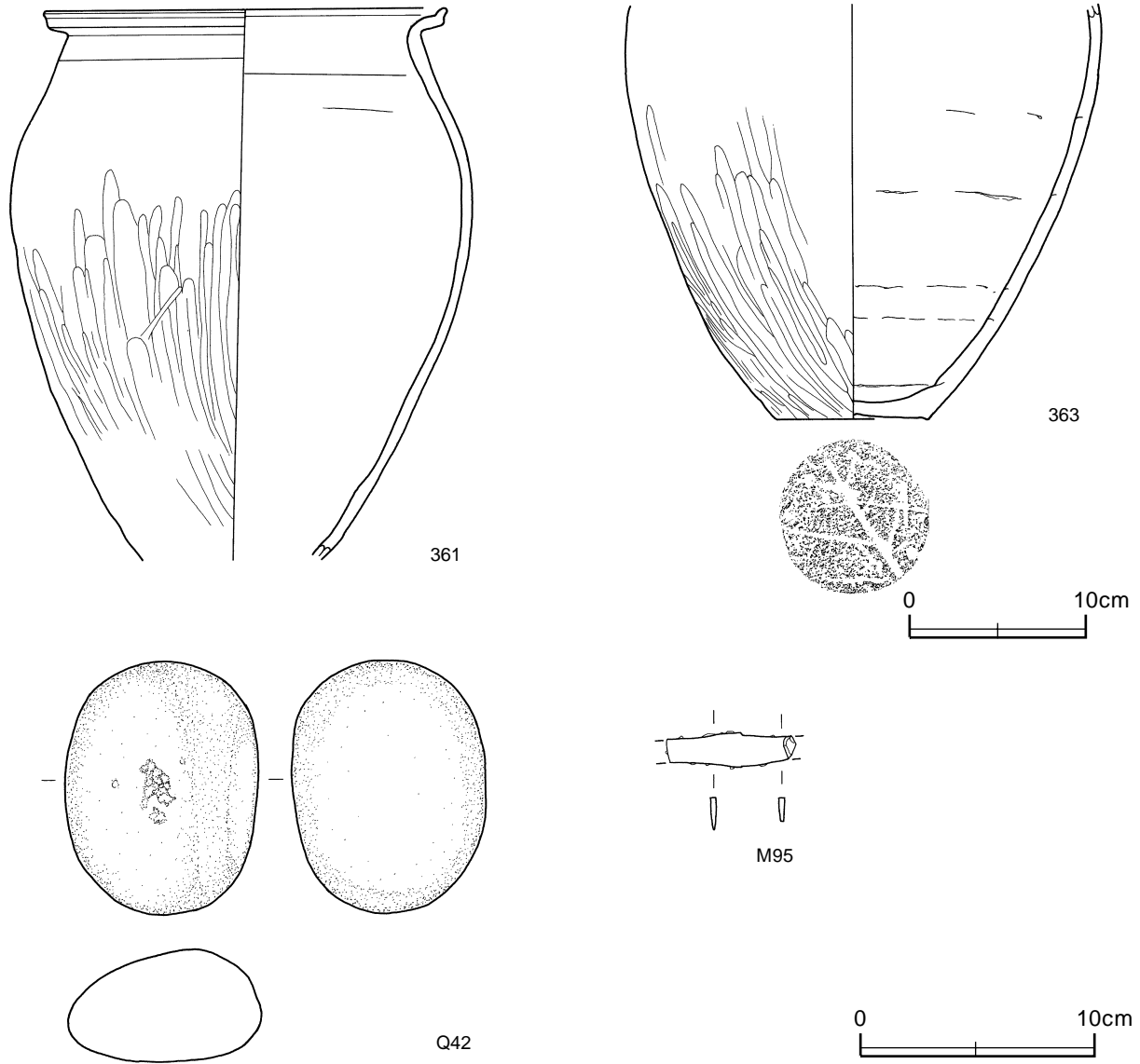
360



362



第166图 第65号住居跡出土遺物実測図(2)



第167図 第65号住居跡出土遺物実測図(3)

第65号住居跡出土遺物観察表(第165~167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
352	須恵器	坏	13.9	4.4	8.6	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	90% PL36 ヘラ記号「-」
353	須恵器	坏	12.7	4.3	8.0	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	90% PL36 ヘラ記号「Z」
354	須恵器	坏	13.4	4.4	8.0	長石・小礫	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土下層	80% PL36
355	須恵器	坏	[13.3]	4.7	[7.8]	長石	灰	普通	内・外面口クロナデ	覆土下層	50% PL36
356	須恵器	坏	-	(3.5)	8.1	長石・石英・小礫	灰褐	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ 体部下端手持ちヘラ削り	覆土中層	70%
357	須恵器	坏	-	(1.5)	[9.9]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土中	10%
358	須恵器	蓋	12.0	(2.0)	-	長石・小礫	灰白	良好	天井部内・外面口クロナデ	覆土下層	90%
359	須恵器	蓋	16.3	3.7	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	80% PL35
360	土師器	甕	22.1	32.6	10.2	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部縦位のヘラ磨き	覆土下層	60% PL36
361	土師器	甕	21.3	(31.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部縦位のヘラ磨き	竈	70% PL36
362	土師器	甕	[23.4]	32.8	8.4	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 体部縦位のヘラ磨き	覆土下層	40% PL36
363	土師器	甕	-	(23.2)	8.4	長石・石英・雲母	橙	普通	体部縦位のヘラ磨き 内面輪積痕	覆土中層	60% PL36

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP25	須恵器	甕	-	(13.8)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 内面同心円状 当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	磨石	10.8	8.2	4.7	588.0	砂岩	使用面1面 表面に敲打痕	床面	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M95	刀子	(5.5)	1.5	0.3	(5.5)	鉄	茎尻・切先欠損	覆土下層	PL47

第67号住居跡（第168・169図）

位置 調査F区のG 4 d6区、標高28mの台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.80m、短軸4.54mの方形で、主軸方向はN-3-Wである。壁高は48～55cmで、直立している。

床 掘り方調査の結果、床は二面あることが確認された。第二次面は平坦で、中央部が踏み固められている。貼床は第一次面の床面にロームに黒色土を含んだ厚さ5cmほどの暗褐色土（覆土土層断面図、第10層）を埋土して、直接構築されている。第一次面の貼床は中央部を島状に残すように壁際を深く掘り込み、ローム土を主体とした褐色土（覆土土層断面図、第11層）を埋土して構築している。第二次面の際に掘り込まれた壁溝が、北東コーナーを除いて周回している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで127cm、袖部幅は116cmである。右袖部は地山を掘り残して基部とし、左袖部は掘り方にロームブロックを充填し、それぞれ砂質粘土によって構築されている。火床部は地山を7cmほど掘りくぼめており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ47cmほど掘り込み、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

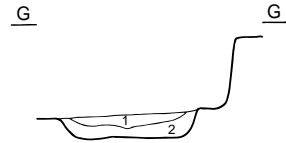
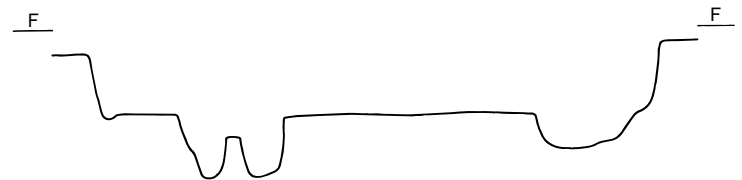
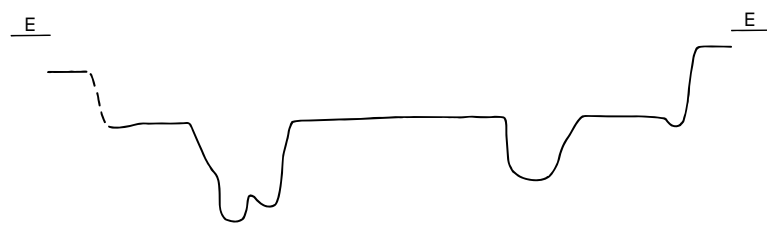
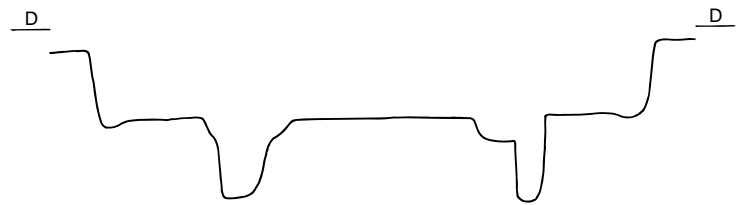
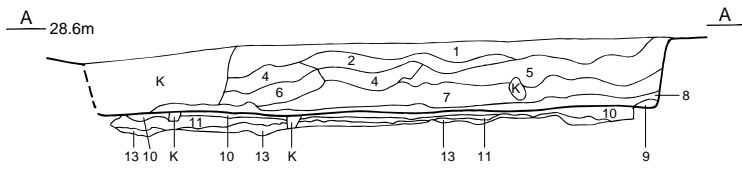
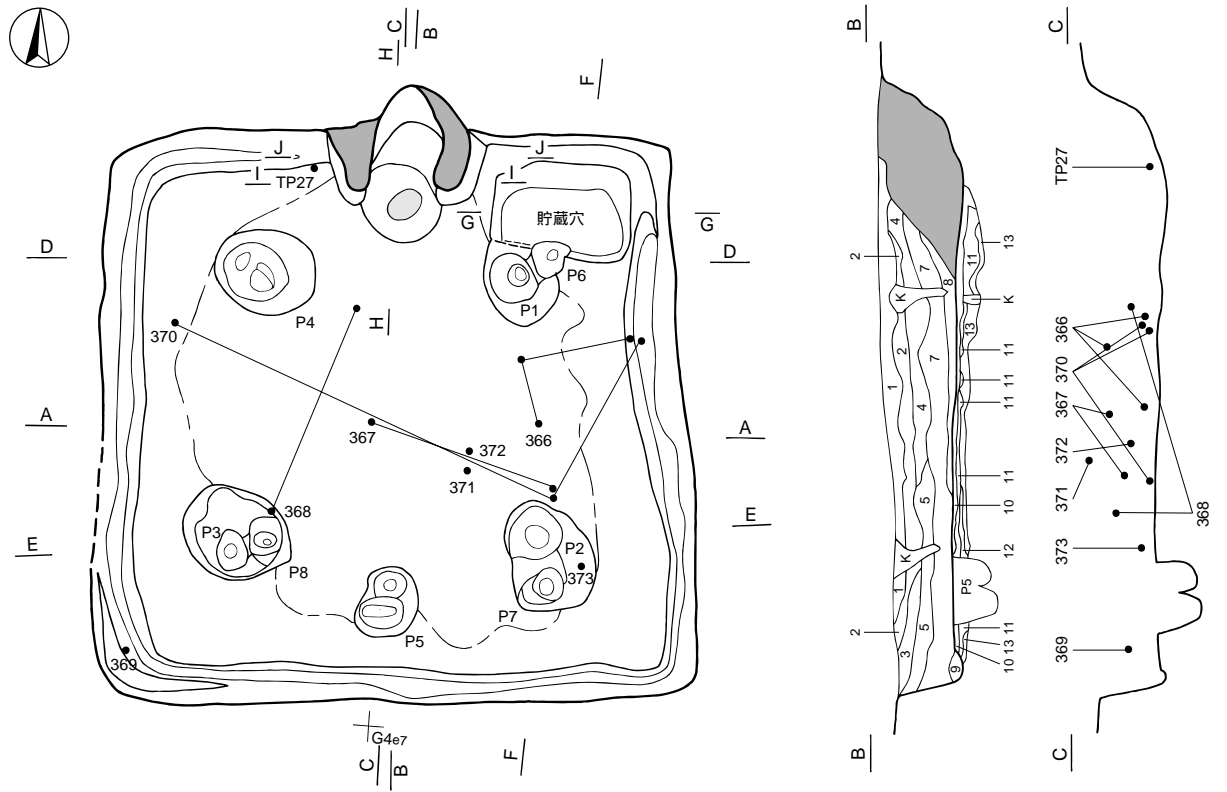
1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	8 極暗赤褐色	焼土粒子・炭化物少量、砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック微量	9 暗赤褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子少量
3 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土ブロック微量	10 褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量
4 褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量、砂質粘土粒子少量
5 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量	12 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
6 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量	13 にぶい黄褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子微量
7 暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量	14 褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量
		15 暗赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック中量、ロームブロック微量
		16 褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量

ピット 8か所。P1～P4は深さ52～80cmで、規模や配置から支柱穴と考えられる。P5は深さ35cmで、南壁の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ52～74cmで、第二次面の際に構築された支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸111cm、短軸75cmの隅丸長方形で、深さは25cmである。底部は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。P6に掘り込まれていることから、第一次面に伴うものと考えられる。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物微量	2 暗褐色	ロームブロック中量
-------	--------------------	-------	-----------



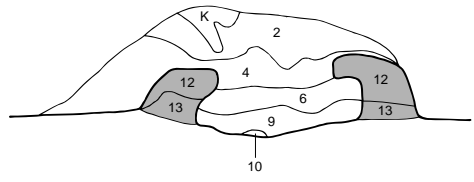
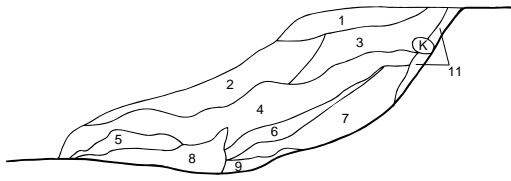
第168图 第67号住居跡実測图

H 28.6m

H

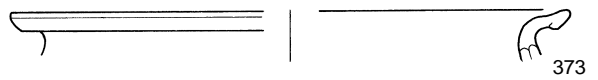
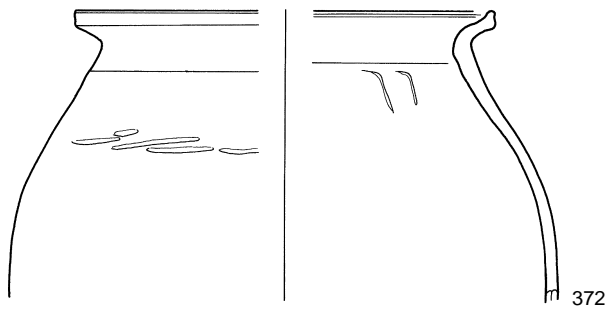
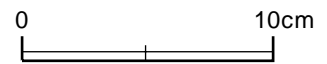
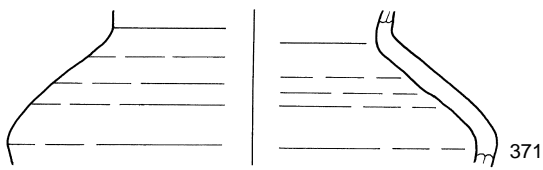
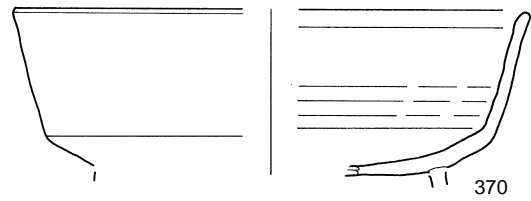
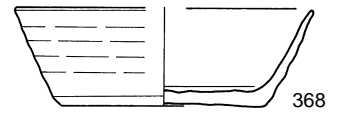
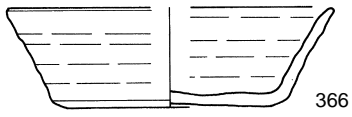
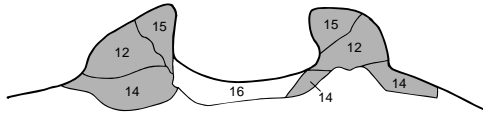
I

I



J 28.4m

J



第169图 第67号住居跡・出土遺物実測図

覆土 9層に分層される。下層はレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられるが、中層はブロック状の堆積状況を呈しており、人為堆積と考えられる。第10～13層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量	8 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	13 黄褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片350点（小皿4，甕346），須恵器片137点（坏102，高台付坏7，蓋3，短頸壺2，甕23），石器1点（砥石）のほか、流れ込んだ縄文土器片8点も出土している。土器の多くが覆土中層からの出土であり、人為的な堆積状況から考えて、投棄されたものと想定される。366～368・370はいずれも覆土中層からの出土で、分散していた破片が接合したものである。

所見 床は二面確認されたが、ピットの土層や、掘り方調査において、住居の拡張などの痕跡が確認されず、床の張り替えのみが行われたと想定される。二面の時期差はなく、出土土器から、8世紀中葉以前に機能していたと考えられる。

第67号住居跡出土遺物観察表（第169図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
366	須恵器	坏	[12.8]	4.0	8.0	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面口クロナデ	覆土中層	40%
367	須恵器	坏	[13.4]	4.0	8.1	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面口クロナデ	覆土中層	40%
368	須恵器	坏	[11.7]	3.9	8.1	長石・石英	灰白	普通	底部回転ヘラ削り 内・外面口クロナデ	覆土中層	50%
369	須恵器	坏	-	(2.0)	8.1	長石・雲母	灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	20% ヘラ記号「+」
370	須恵器	高台付坏	[20.3]	(6.6)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土下層	15%
371	須恵器	短頸壺	-	(6.2)	-	長石・石英	灰白	普通	内・外面口クロナデ	覆土上層	5%
372	土師器	甗	[21.8]	(15.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中層	5%
373	須恵器	甗	[29.2]	(2.7)	-	長石・石英	灰	普通	口縁部内・外面口クロナデ	覆土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP27	須恵器	甗	-	(4.7)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土下層	

表9 奈良・平安時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	出土遺物	時代	備考 (新旧関係)
								主柱穴	出入口	ピット	炉	竈	貯蔵穴				
1	K 6 e3	N-33°-E	方形	5.14×4.98	42~61	-	ほぼ 全周	4	1	6	炉	-	自然	土師器，須恵器， 土製品，金属製品	8世紀中葉		
2	L 4 f1	N-28°-E	方形	3.85×3.80	52~72	貼床	ほぼ 全周	-	1	-	竈	-	自然	土師器，須恵器，土製 品，金属製品，石器	9世紀中葉	本跡 SK58	
3	L 3 g9	N-3°-W	方形	3.90×3.80	16~35	-	一部	5	1	1	竈	-	自然	土師器，須恵器	8世紀中葉		
4	L 3 e8	N-15°-E	方形	4.06×4.02	32~45	-	ほぼ 全周	-	1	1	竈	1	自然	土師器，須恵器， 石器，金属器	9世紀中葉	本跡 SK41・ 42，SB11	
5	L 3 f7	N-10°-E	長方形	5.60×4.90	62~82	-	ほぼ 全周	4	1	1	竈	-	自然	土師器，須恵器， 石器，金属器	9世紀前葉	本跡 SK47・ 61	
6	L 3 e6	N-13°-E	方形	4.38×4.35	34~43	貼床	一部	-	1	2	竈	-	自然	土師器，須恵器， 石器，金属器	9世紀前葉	本跡 SK40	
7	L 3 g0	N-20°-E	長方形	2.60×2.10	75~86	-	-	-	-	-	竈	-	自然	土師器，須恵器， 粘土塊	9世紀中葉		
8	L 4 c1	N-37°-E	[方形]	5.17×[4.90]	62	-	-	3	1	-	-	-	自然	土師器，須恵器， 金属器	8世紀中葉	本跡 SK23・ 46	
9	J 7 f3	N-30°-E	方形	3.26×3.25	28~29	貼床	-	-	1	-	竈	-	自然	土師器，須恵器， 石器	9世紀中葉		

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧 新)
								主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
10	J 7 g4	N-40°-E	方形	3.19×3.12	32~40	貼床	一部	4	1	1	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
11	L 3 c5	N-16°-E	方形	7.00×6.55	53~81	貼床	ほぼ全周	4	-	6	電	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	8世紀後葉	
12	K 4 j5	N-4°-E	長方形	5.50×4.56	62~69	貼床	ほぼ全周	4	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属器	8世紀前葉	
14	K 3 i0	N-25°-E	方形	3.86×3.54	39~45	-	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
15	K 4 e1	N-11°-E	方形	4.30×4.00	40~50	-	-	4	1	2	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SK110 本跡
16	K 4 b3	N-11°-E	方形	3.70×3.48	22~37	-	一部	4	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡 SK126
17	K 4 f4	N-20°-E	[方形・長方形]	(2.90)×2.89	48~50	貼床	-	2	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉以前	本跡 SI18
18	K 4 f4	N-21°-E	方形	3.10×3.08	43~53	貼床	-	-	-	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品	9世紀前葉~中葉	SI17 本跡
19	I 3 g7	N-3°-E	長方形	2.67×2.40	44~50	貼床	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉~後葉	
21	I 4 g6	N-11°-E	方形	3.38×3.31	28~32	-	-	2	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡 SD13
23	I 4 h0	N-18°-E	方形	3.60×3.56	35~46	貼床	一部	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 金属器	8世紀後葉	本跡 SD13
24	I 5 j2	N-10°-E	方形	5.60×5.60	17~30	貼床	-	4	1	1	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀前葉	TP7 本跡
25	I 5 f5	N-14°-E	方形	3.14×3.07	28~30	貼床	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉~後葉	
26	I 5 d7	N-8°-E	長方形	3.36×2.90	10~19	貼床	-	-	-	-	電	-	自然	土師器, 鉄器	8世紀中葉	
27	I 4 f6	N-31°-E	方形	3.35×3.30	40~50	貼床	-	-	-	1	電	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉	
29	I 5 j0	N-11°-E	方形	3.95×3.80	34~37	貼床	全周	-	1	-	電	-	人為	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉	
31	I 6 f2	N-15°-E	長方形	4.09×3.65	35~38	-	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属器	8世紀後葉	
32	I 6 i2	N-16°-E	[方形]	[4.25]×4.13	36~40	貼床	-	4	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属器, 金属製品	8世紀後葉	本跡 SI33, SD 4
33	I 6 j2	N-18°-E	[方形]	3.42×[3.38]	36~40	貼床	-	-	1	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI32 本跡
35	I 6 a2	N-17°-E	方形	3.00×2.97	40~44	-	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属器	9世紀中葉	本跡 SK199・200
36	H 6 j5	N-12°-E	方形	3.59×3.45	26~45	-	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属器, 金属製品	8世紀後葉	
38	I 6 j9	N-20°-E	方形	4.85×4.56	10~52	-	一部	4	1	1	電	1	不明	土師器, 須恵器, 金属器	8世紀後葉	SK207 本跡
40	G 4 g2	N-12°-W	方形	3.28×3.20	26~45	-	-	-	-	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	本跡 SI41
41	G 4 h2	N-7°-E	方形	3.36×3.28	59~65	貼床	一部	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属器	9世紀中葉	SI40 本跡
44	G 4 i2	N-8°-W	方形	3.92×3.64	38~65	-	-	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉~9世紀前葉	
45	G 3 j0	N-8°-W	方形	3.60×3.40	50~58	貼床	一部	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉~中葉	
48	J 7 f3	N-118°-E	長方形	3.02×2.70	4~10	貼床	-	-	-	-	電	-	不明	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品	8世紀後葉	
49	K 6 c9	[N-0°]	[方形]	[4.10×4.10]	14	-	-	-	-	-	電	-	不明	土師器, 須恵器	8世紀代	
50	K 6 e8	N-12°-W	方形	5.22×4.81	20~36	貼床	-	4	1	3	電	1	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品	8世紀中葉	
54	K 5 b7	N-33°-E	方形	4.00×3.88	26~40	貼床	全周	4	2	-	電	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	8世紀中葉	SI55 本跡
56	K 5 d6	N-15°-E	方形	4.04×3.88	20~29	貼床	一部欠	-	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 金属製品	9世紀前葉	SI57 本跡
57	K 5 d6	N-19°-E	方形	5.06×4.85	10~42	貼床	全周	4	1	5	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品	8世紀中葉	本跡 SI56
58	K 5 a4	N-15°-E	方形	5.98×5.80	50~72	貼床	[全周]	4	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属製品	9世紀中葉	SK294 本跡
59	J 5 g3	N-44°-E	方形	5.73×5.46	50~68	貼床	一部欠	4	2	12	電	-	自然	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 金属器	8世紀中葉	
61	G 5 h0	N-0°	方形	3.96×3.81	43~47	-	一部欠	-	1	-	電	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉~9世紀前葉	
62	G 5 j7	N-17°-E	[方形]	4.30×(4.02)	10~25	-	-	3	2	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 金属製品	9世紀前葉	
63	G 5 g5	N-9°-E	方形	3.18×2.93	20~41	貼床	-	2	1	-	電	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀中葉	P G 7 本跡
65	G 5 c2	N-12°-E	方形	4.90×4.48	35~46	貼床	全周	4	1	-	電	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 金属製品	8世紀中葉以前	
67	G 4 d6	N-3°-W	方形	4.80×4.54	48~55	貼床	一部欠	4	1	3	電	1	自然	土師器, 須恵器, 石器	8世紀中葉以前	

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第170図)

位置 調査A区のL 3 a3区, 標高27mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と構造 南側が調査区域外にのびているが, 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡と考えられる。桁行方向を

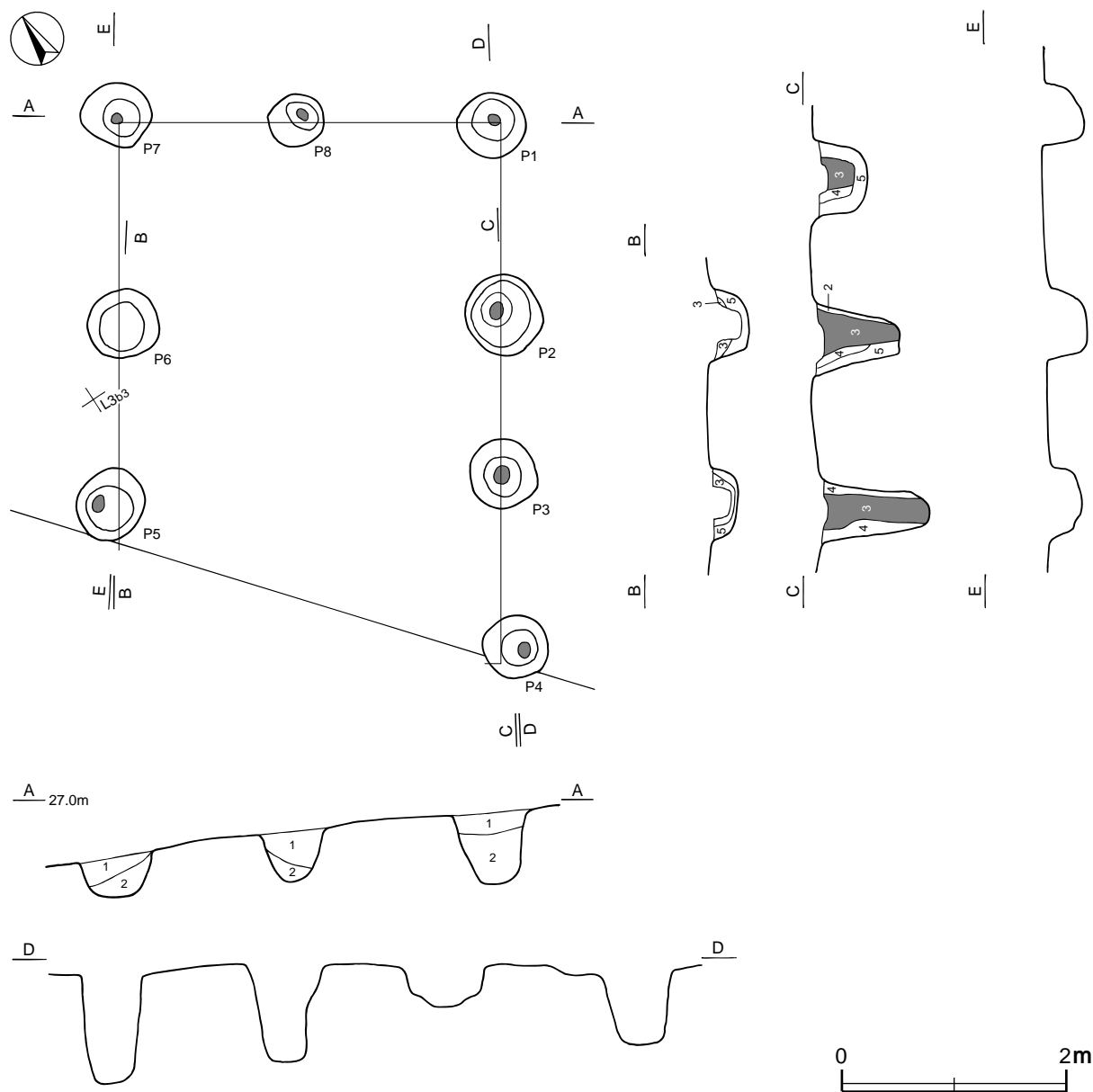
N-33 - Eとする南北棟で、規模は桁行が4.80m、梁行が3.40mである。柱間寸法は、桁行が西側で1.7m、東側で北から1.7m、1.5m、1.6mとばらつきがあり、梁行は1.7mを基調としており、面積は16.32㎡である。柱筋はおおむね通っている。

柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし、深さは28~100cmである。土層は第3層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土、第4・5層は掘り方の埋土でありローム土を含む暗褐色・褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。第1・2層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量（3より彩度が高い） |
| 2 褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片14点（甕類）、須恵器片3点（坏類2、甕1）が出土している。土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

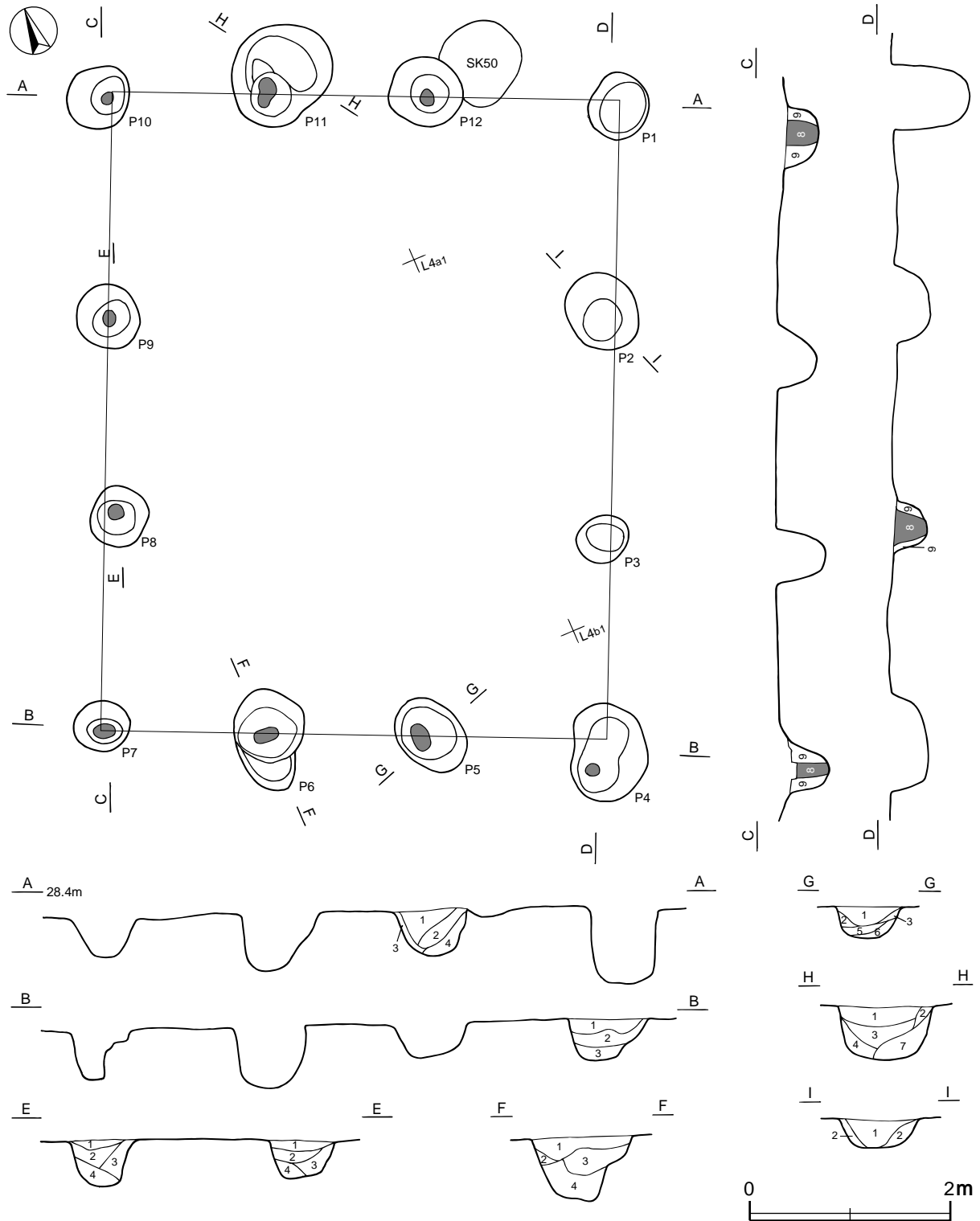


第170図 第1号掘立柱建物跡実測図

所見 時期は、出土土器は細片であるが、桁行方向や規模及び構造などから奈良・平安時代と考えられる。また、軸線がほぼ同じで、南北に並ぶ第5号掘立柱建物跡とともに同じ時期に機能していたと考えられる。

第2号掘立柱建物跡 (第171・172図)

位置 調査A区のK3j0区、標高28mほどの台地の端部に位置している。



第171図 第2号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第50号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向をN-24°-Eとする南北棟である。規模は桁行が6.30m、梁行が5.00mで、面積は31.50㎡である。柱間寸法は、桁行が2.1mを基調とし、梁行は西側の2間が1.6m、東間が1.8mである。柱筋はおおむね通っている。

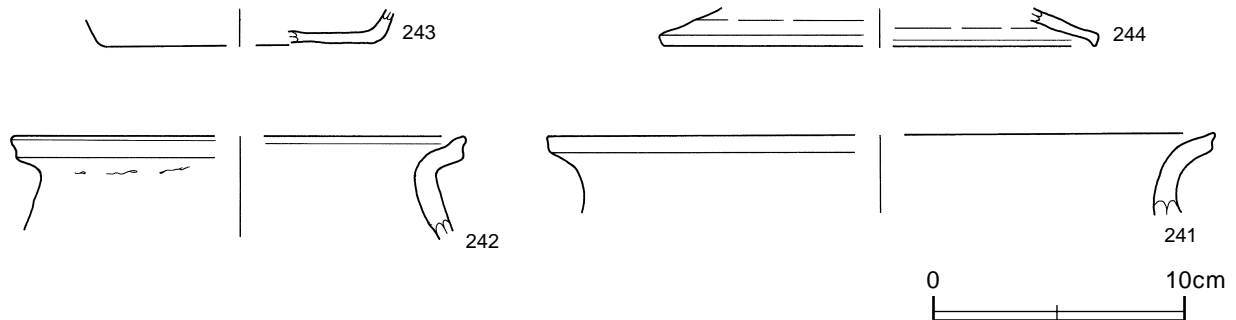
柱穴 12か所。平面形は円形を基調とし、深さは26~74cmである。土層は第8層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い暗褐色土、第9層は掘り方の埋土でありローム土を含む褐色土で、強く突き固めた痕跡は認められない。第1~7層はいずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量（5より彩度が低い） |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片30点（甕類）、須恵器片14点（坏類9、蓋5）が出土している。241はP9、242~244はP11の、それぞれ抜き取り後の覆土中から出土している。

所見 軸線や規模及び構造がほぼ同じであることから、西側に並列する第3・4号掘立柱建物跡とともに同時期に機能していたと考えられる。第3・4号掘立柱建物跡とともに当遺跡の中では規模が最大であり、南側に位置する当遺跡の住居跡では最大規模の第11号竪穴住居跡との関連が想定されることから、時期は、同時期の8世紀後葉と考えられる。



第172図 第2号掘立柱建物跡出土遺物実測図

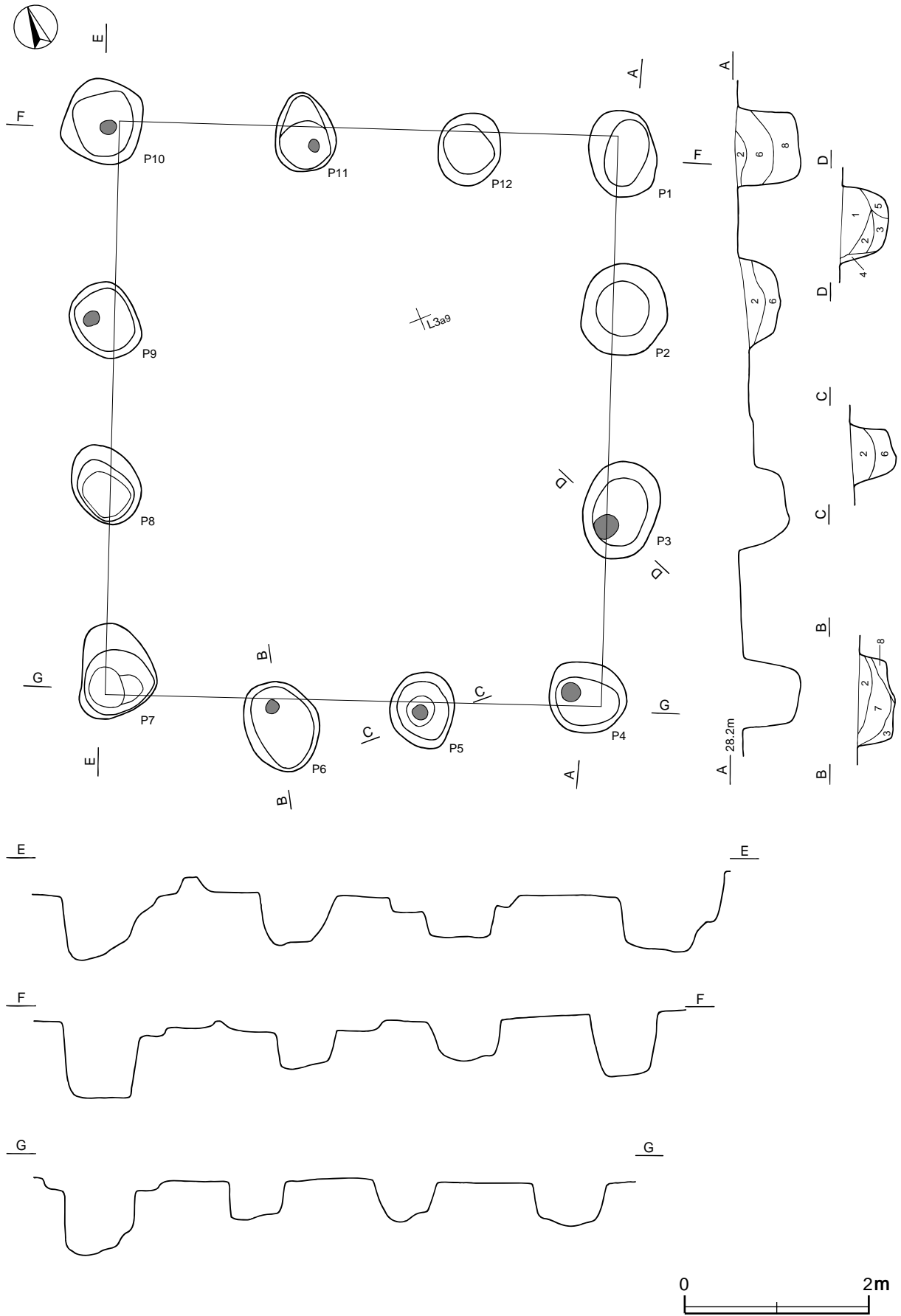
第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
241	土師器	甕	[26.4]	(3.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	P9 覆土中	10%
242	土師器	甕	[17.8]	(4.0)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ 外面輪積痕	P11 覆土中	10%
243	須恵器	坏	-	(1.2)	[10.6]	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	P11 覆土中	10%
244	須恵器	蓋	[17.0]	(1.5)	-	長石	灰白	普通	内・外面口クロナデ	P11 覆土中	10%

第3号掘立柱建物跡（第173・174図）

位置 調査A区のK3j8区、標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向をN-23°-Eとする南北棟である。規模は桁行が6.00m、梁行が5.40mで、面積は32.40㎡である。柱間寸法は桁行が2.0mを基調とし、梁行は1.6mを基調



第173图 第3号掘立柱建物跡実測图

としているが不規則で、北妻側で東から1.6m, 1.6m, 2.2mで、南妻側で東から2.0m, 1.6m, 1.8mである。柱筋はおおむね通っている。

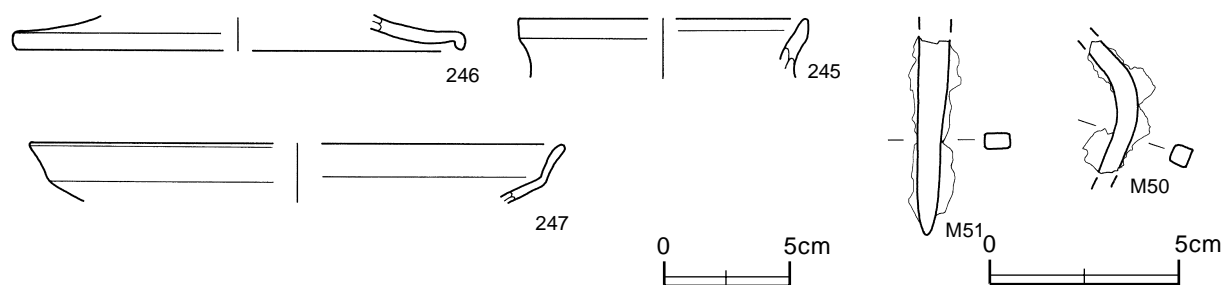
柱穴 12か所。平面形は円形または楕円形を基調とし、深さは32～76cmである。土層は、いずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 土師器片84点（坏類2, 甕82）, 須恵器片25点（坏類14, 盤4, 蓋4, 甕3）, 金属製品2点（釘, 不明）が出土している。245はP3, 246はP5, 247はP1, M50はP6, M51はP12のいずれも柱抜き取り後の覆土中から出土している。

所見 軸線や規模及び構造がほぼ同じであることから、東西に並列する第2・4号掘立柱建物跡とともに同時期に機能していたと考えられる。第2・4号掘立柱建物跡とともに当遺跡の中では規模が最大であり、南側に位置する当遺跡の住居跡では最大規模の第11号竪穴住居跡との関連が想定されることから、時期は、同時期の8世紀後葉と考えられる。



第174図 第3号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第174図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
245	土師器	甕	[11.4]	(2.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	P3 覆土中	10%
246	須恵器	蓋	[17.8]	(1.4)	-	長石	灰黄	普通	天井部外面口ロナデ	P5 覆土中	10%
247	須恵器	盤	[21.0]	(2.3)	-	長石	灰黄	普通	内・外面口ロナデ	P1 覆土中	10%

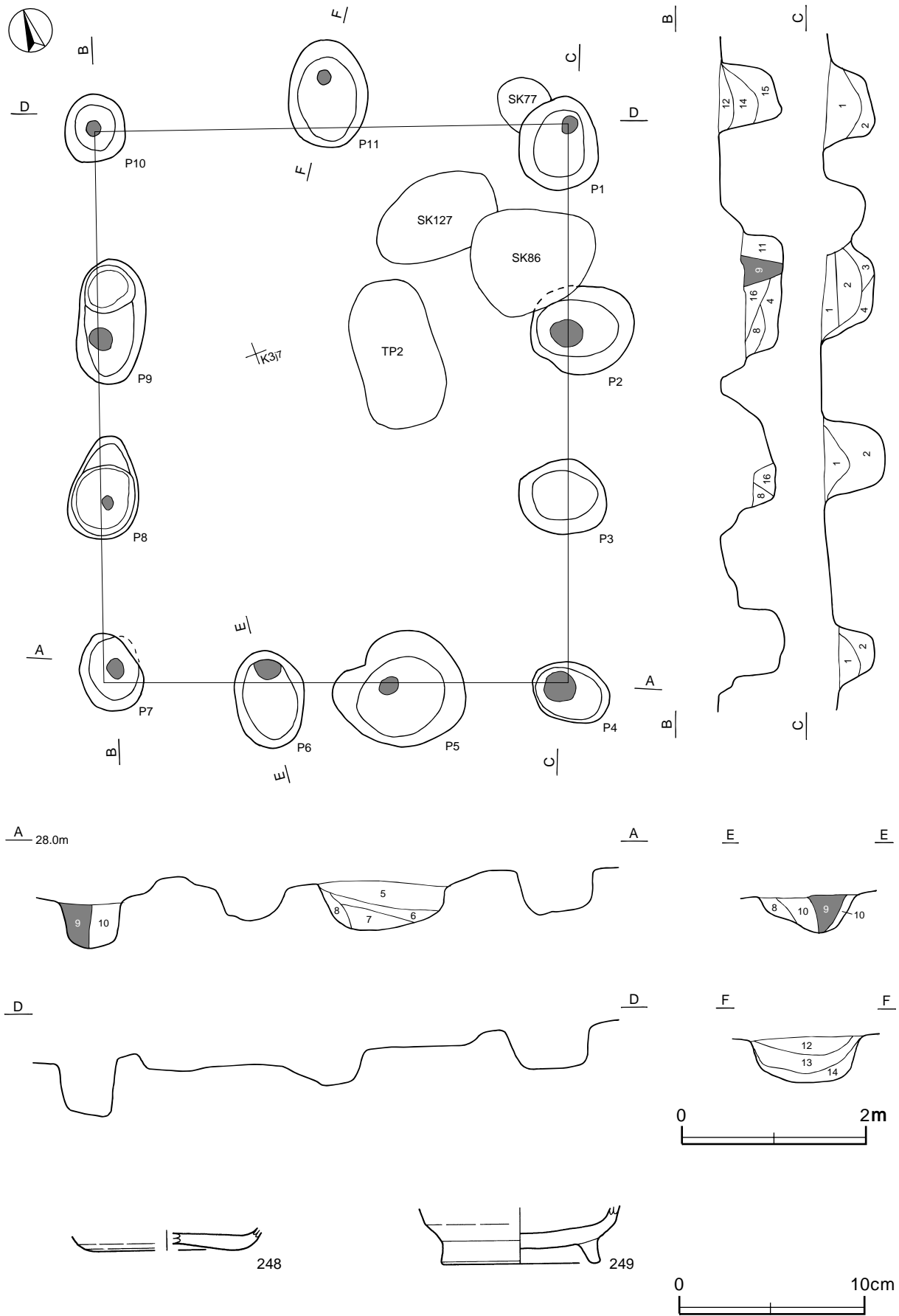
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M50	不明	(3.5)	0.6	0.5	(4.6)	鉄	断面方形	P6 覆土中	
M51	釘	(5.2)	0.9	0.4	(6.5)	鉄	頭部欠損 断面長方形	P12 覆土中	

第4号掘立柱建物跡（第175図）

位置 調査A区のK3i6区、標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

重複関係 第77号土坑を掘り込み、第86号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行3間（北側は2間）の側柱建物跡で、桁行方向をN-21°-Eとする南北棟である。規模は桁行が6.00m、梁行が5.10mで、面積は30.60㎡である。柱間寸法は、桁行が北側から2.2m, 1.8m, 2.0m、梁行は北側で2.6m、南側で東から2.0m, 1.4m, 1.8mとばらつきが見られる。柱筋は、P11を



第175图 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

除きおおむね通っている。

柱穴 11か所。平面形は円形を基調とし、深さは34～69cmである。土層は第9層が柱痕跡に相当し、締まりは普通の黒褐色土、第3・4・8・10・11・16層は掘り方の埋土でローム土を含む褐色・暗褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。第1・2・5～7・12～15層は柱抜き取り後の覆土である。P3を除いて底面が硬化しており、柱の据えられた痕跡とみられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量 (ローム中ブロック含む)
4 暗褐色	ロームブロック中量	13 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
5 褐色	ローム粒子中量	14 褐色	ロームブロック中量
6 黒褐色	ローム粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
8 褐色	ロームブロック少量		
9 黒褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片40点 (甕類), 須恵器片18点 (坏類12, 高台付坏1, 蓋1, 甕4) が出土している。

248・249はP2の抜き取り後の覆土中から出土している。

所見 軸線や規模及び構造がほぼ同じであることから、東側に並列する第2・3号掘立柱建物とともに同時期に機能していたと考えられる。第2・3号掘立柱建物跡とともに当遺跡の中では規模が最大であり、南側に位置する当遺跡の住居跡では最大規模の第11号堅穴住居跡との関連が想定されることから、時期は、同時期の8世紀後葉と考えられる。

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
248	須恵器	坏	-	(1.1)	[8.0]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り	P2 覆土中	10%
249	須恵器	高台付坏	-	(3.0)	8.4	長石・石英・赤色 粒子	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	P2 覆土中	30%

第5号掘立柱建物跡 (第176図)

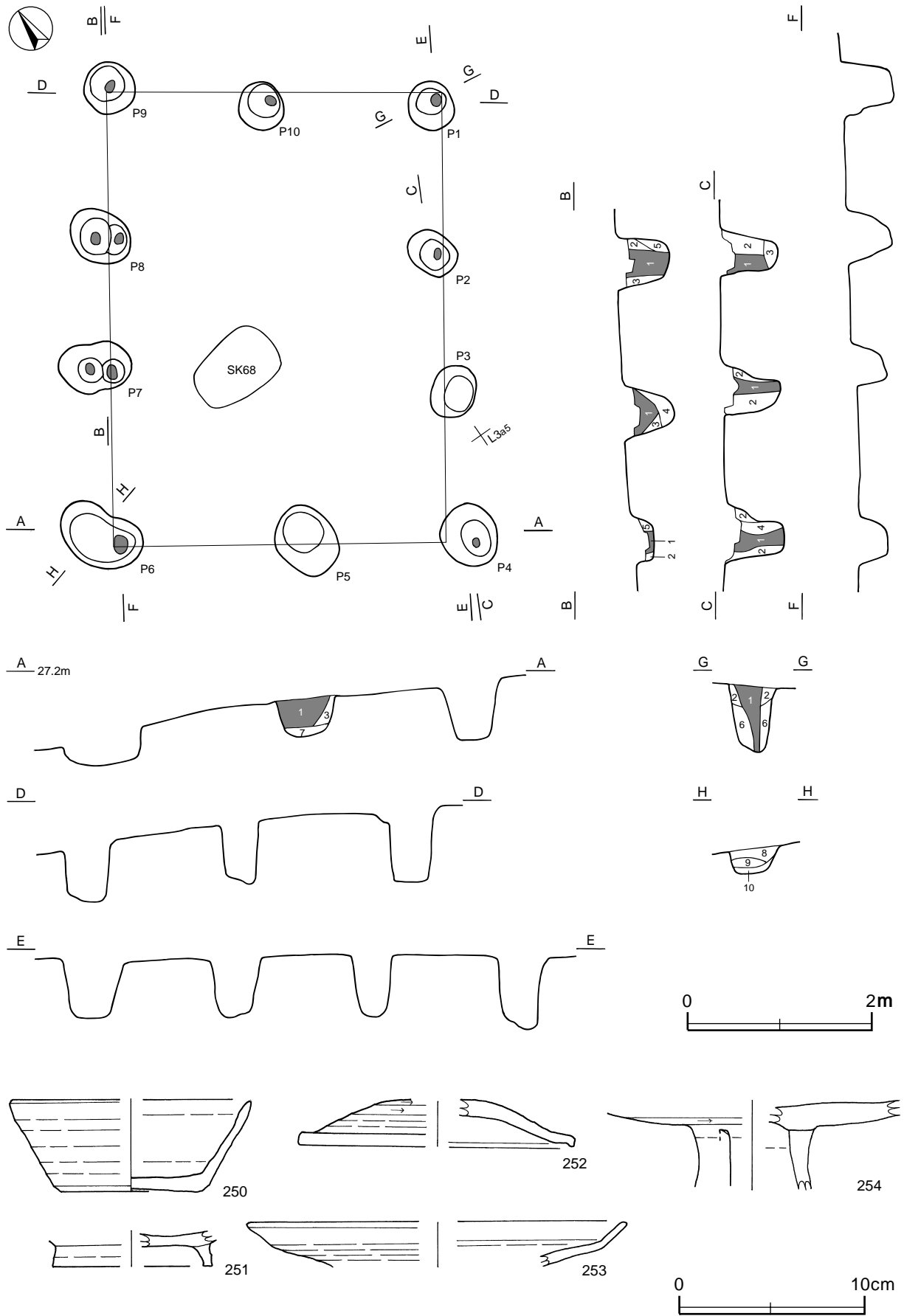
位置 調査A区のK3j4区, 標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と構造 桁行3間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向をN-35-Eとする南北棟である。規模は桁行が4.80m, 梁行が3.60mで, 面積は17.28㎡である。柱間寸法は, 桁行が西側で北から1.5m, 1.5m, 1.8m, 東側で1.6mとばらつきが見られ, 梁行は1.8mを基調としている。柱筋は東平側を除いておおむね通っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは30～76cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土、第2～7層は掘り方の埋土でローム土を含む褐色・暗褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。第8～10層は抜き取り後の覆土である。P3・P5を除いて底面が硬化しており、柱の据えられた痕跡とみられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック少量 (3より締まり強い)
3 褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ロームブロック少量
5 褐色	ロームブロック中量 (4より締まり強い)	10 黒褐色	ロームブロック微量



第176图 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片31点（甕類），須恵器片19点（坏類13，高台付坏1，盤1，蓋1，高盤1，甕2）が出土している。250・252～254はP6，251はP5の抜き取り後の覆土中から出土している。

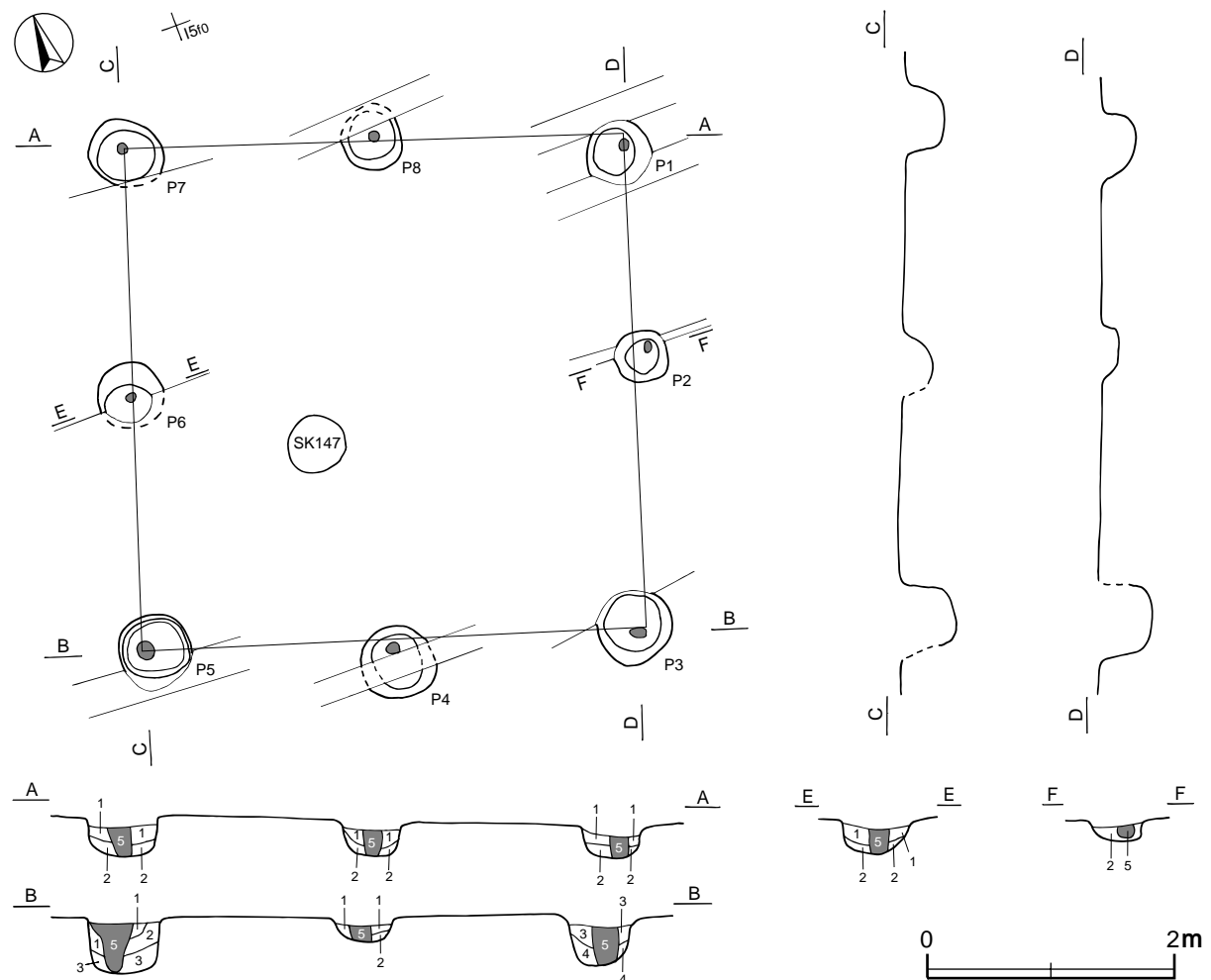
所見 軸線がほぼ同じで，南北に並ぶ第1号掘立柱建物跡とともに倉庫的な機能を果たしていたと考えられる。時期は，出土した土器から8世紀後葉から9世紀前葉と考えられる。

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第176図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
250	須恵器	坏	[12.8]	4.9	7.4	長石	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	P6 覆土中	40%
251	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[8.1]	長石	灰黄	普通	底部高台貼付後ナデ	P5 覆土中	10%
252	須恵器	蓋	[14.8]	(2.5)	-	長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	P6 覆土中	10%
253	須恵器	盤	[20.2]	(2.4)	-	長石・石英	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	P6 覆土中	10%
254	須恵器	高盤	-	(4.9)	-	長石	灰オリーブ	普通	内・外面口クロナデ 皿部中央回転ヘラ削り 三方透かし	P6 覆土中	10%

第6号掘立柱建物跡（第177・178図）

位置 調査B区のI5f9区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。



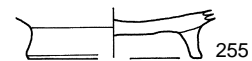
第177図 第6号掘立柱建物跡実測図

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向をN-18°-Eとする南北棟とみられる。規模は桁行，梁行とも4.00mで面積は16.00㎡である。柱間寸法は東平側が北から1.7m，2.3mで，その他は2.0mであり，柱筋はP4・P8がわずかに外側にずれるが，おおむね通っている。

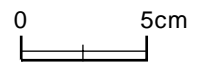
柱穴 8か所。平面形は円形・楕円形を基調とし，深さは15～42cmである。土層は第5層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。第1～4層は掘り方の埋土でローム土をわずかに含む褐色・黒色・黒褐色土であり，強く突き固めた痕跡は認められない。すべての柱穴の底面は硬化しており，柱の据えられた痕跡と見られる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量



遺物出土状況 土師器片1点（甕），須恵器片1点（高台付坏）が出土している。255はP1の埋土から出土している。



所見 明確な時期判断ができる遺物がないが，主軸方向や規模・構造から奈良・平安時代と考えられる。

第178図 第6号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
255	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[6.8]	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	P1埋土	10%

第7号掘立柱建物跡（第179図）

位置 調査B区のI5h7区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第28号住居跡を掘り込み，第5号溝に掘り込まれている。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向をN-20°-Eとする南北棟である。規模は桁行，梁行とも4.40mで，面積は19.36㎡である。柱間寸法は，桁行，梁行とも2.2mを基調とし，柱筋はP3が若干西に，P4・P8がわずかに外側にずれるが，それ以外はおおむね通っている。

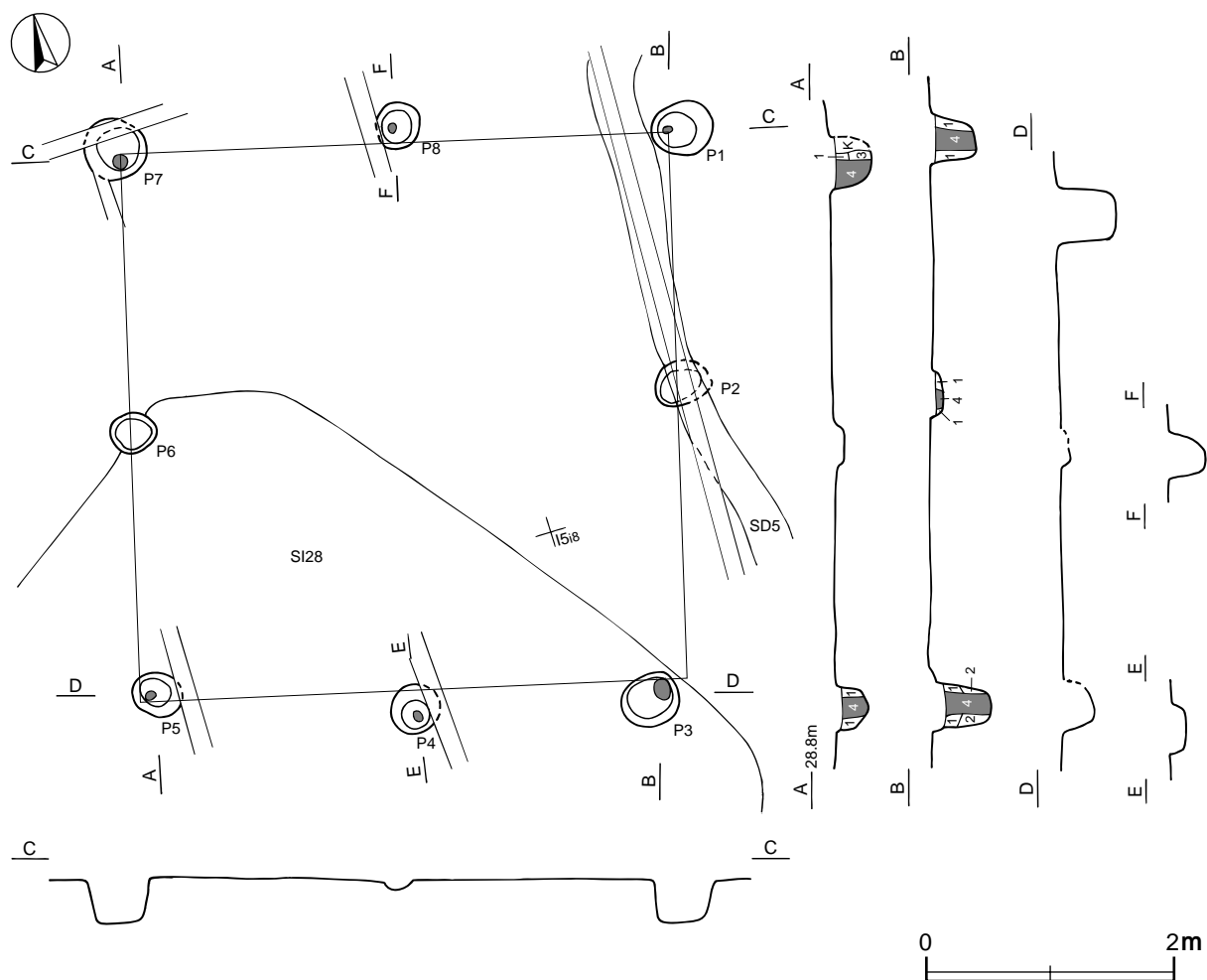
柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし，深さは10～46cmである。土層は第4層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い黒褐色土，第1～3層は，掘り方の埋土でローム土をわずかに含む暗褐色・黒褐色土であり，強く突き固めた痕跡は認められない。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片10点（坏類1，甕類9），須恵器片2点（坏類，甕）が出土している。土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

所見 時期は，規模や形状，軸方向が一致する第6号掘立柱建物跡とほぼ同時期と考えられる。



第179図 第7号掘立柱建物跡実測図

第8号掘立柱建物跡（第180図）

位置 調査B区のI 5 f6区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

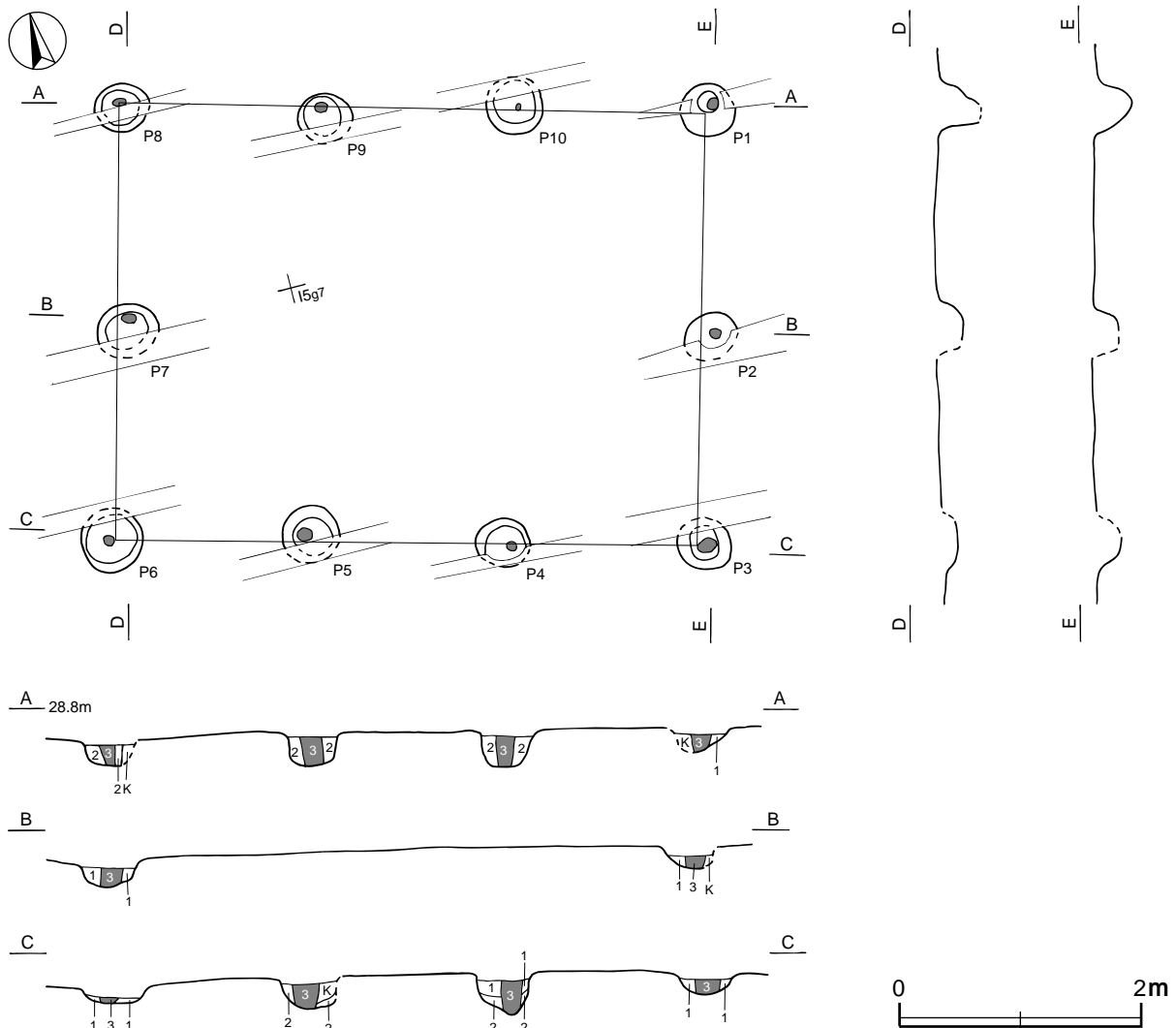
規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向を $N-76^{\circ}-W$ とする東西棟である。規模は桁行が4.80m，梁行が3.60mで，面積は17.28 m^2 である。柱間寸法は，桁行が1.6m，梁行きが1.8mを基調としており，柱筋はおおむね通っている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし，深さは11~35cmである。土層は第3層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い黒褐色土，第1・2層は掘り方の埋土でローム土を含む褐色・極暗褐色土であり，強く突き固めた痕跡は認められない。

土層解説

- | | | | |
|--------|----------------|-------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | | |

所見 東西棟の掘立柱建物跡は本跡だけである。時期は，規模や構造，軸方向から奈良・平安時代と考えられる。



第180図 第8号掘立柱建物跡実測図

第10号掘立柱建物跡 (第181図)

位置 調査B区のI 6 e4区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-23-Eとする南北棟である。規模は桁行が5.10m、梁行が3.80mで面積は19.38㎡である。柱間寸法は、桁行は東平側の北から2間が1.9m、1.5mである他は1.7m、梁行は1.9mを基調としている。柱筋は、P10が若干外側にずれるがおおむね通っている。

柱穴 10か所。平面形は円形及び楕円形を基調とし、深さは19~40cmである。土層は第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土、第2~4層は掘り方の埋土でローム土を含む暗褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。

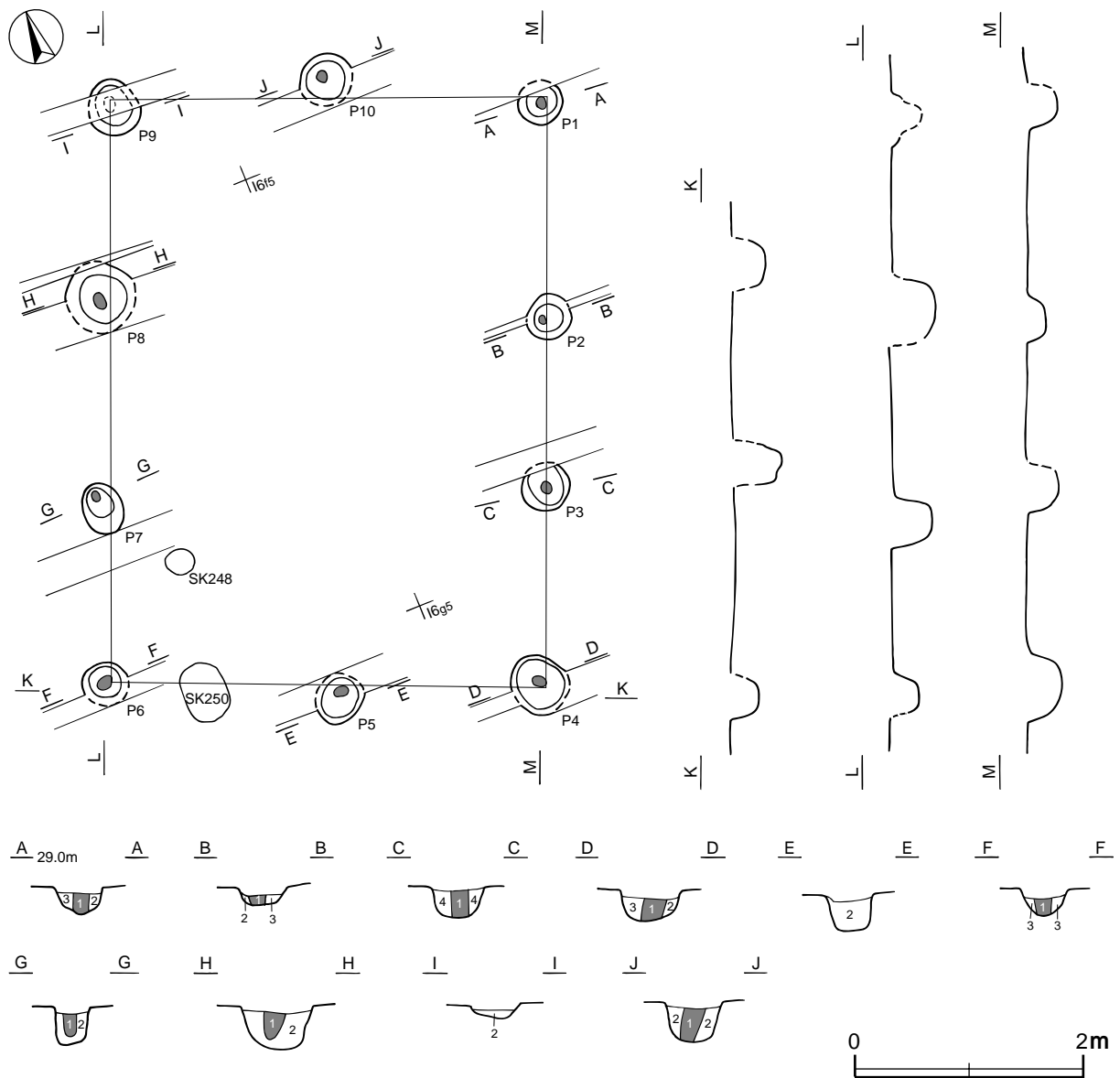
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量
4 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片6点(甕)が出土している。土器はいずれも細片のため図示できない。

所見 時期判断ができる遺物が出土していないが、軸方向及び規模・構造などから時期は奈良・平安時代と考えられる。



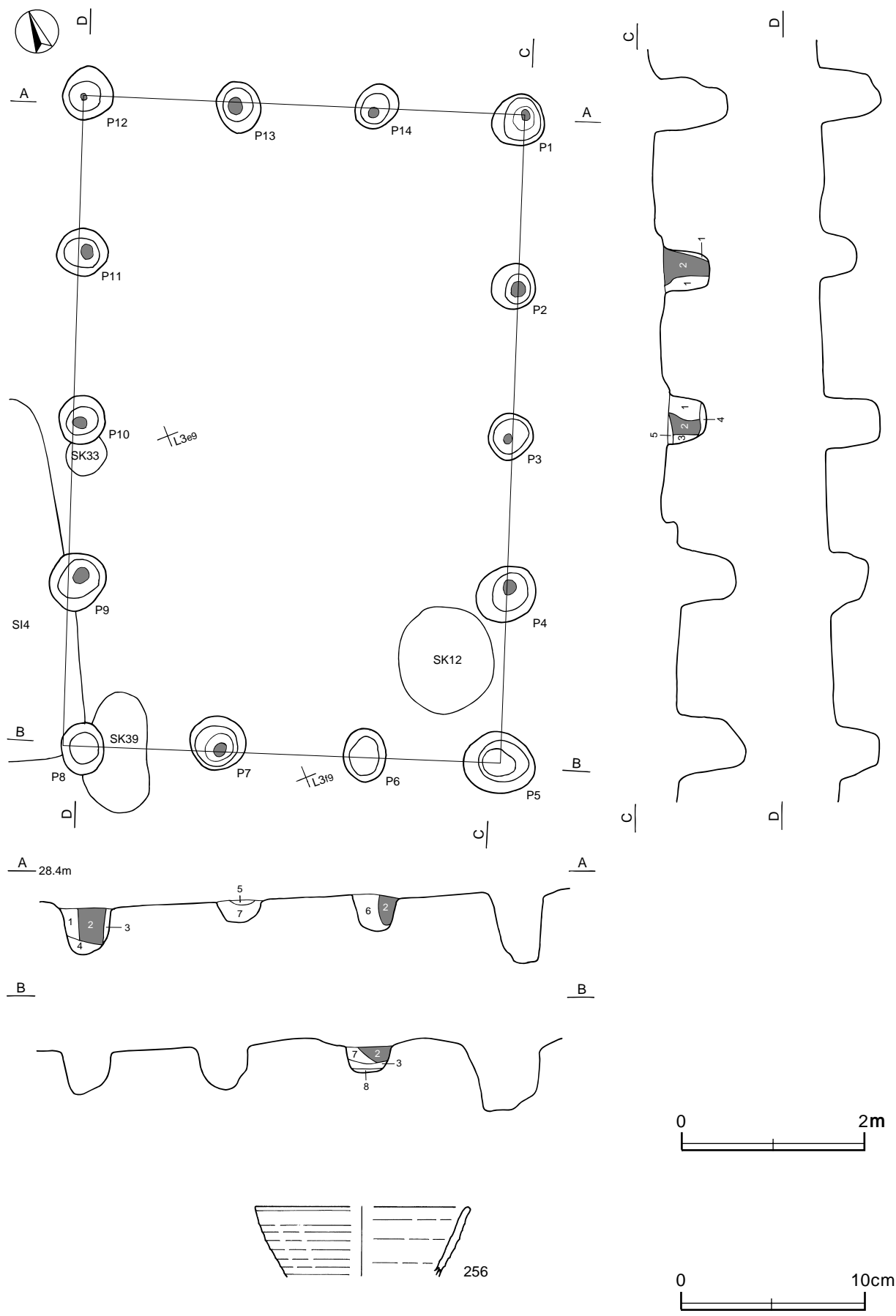
第181図 第10号掘立柱建物跡実測図

第11号掘立柱建物跡 (第182図)

位置 調査A区のL3d9区、標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

重複関係 第4号住居跡及び第33・39号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向をN-25-Eとする南北棟である。規模は桁行が7.00m、梁行が4.80mで、面積は33.60㎡である。柱間寸法は、桁行が西側で北から1.7m、1.8m、1.6m、1.9m、東側で北から1.9m、1.6m、1.6m、1.9mで、梁行が北側で東から1.7m、1.5m、1.6m、南側で東から1.5m、1.5m、1.8mとばらつきがある。柱筋はおおむね通っている。



第182图 第11号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

柱穴 14か所。平面形は円形または楕円形を基調とし、深さは25～78cmである。土層は第2層が柱痕跡で締まりの弱い黒褐色土、第1・3・4・6～8層は掘り方の埋土でローム土を含む暗褐色、黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。第5層は抜き取り後の覆土である。P5・P6・P8を除いて底面が硬化しており、柱の据えられた痕跡とみられる。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子中量
4 黒褐色	ローム粒子微量		
5 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片26点（甕類）、須恵器片8点（坏類5、蓋2、甕1）が出土している。256はP2から出土している。

所見 時期は、主軸方向及び規模・構造、第4号住居跡を掘り込んでいることなどから、9世紀中葉以降の平安時代と考えられる。

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第182図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
256	須恵器	坏	[11.6]	(3.8)	-	長石	灰	普通	内・外面口ロナデ	P2 覆土中	10%

第12号掘立柱建物跡（第183図）

位置 調査A区のL3e0区、標高28mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 P2が第58号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-28°-Eとする南北棟である。規模は桁行が5.70m、梁行が3.90mで、面積は22.23㎡である。柱間寸法は、桁行が1.9mを基調とし、梁行は東から2.1m（7尺）、1.8m（6尺）である。柱筋は、P10がわずかに外側にずれるが、その他はおおむね通っている。

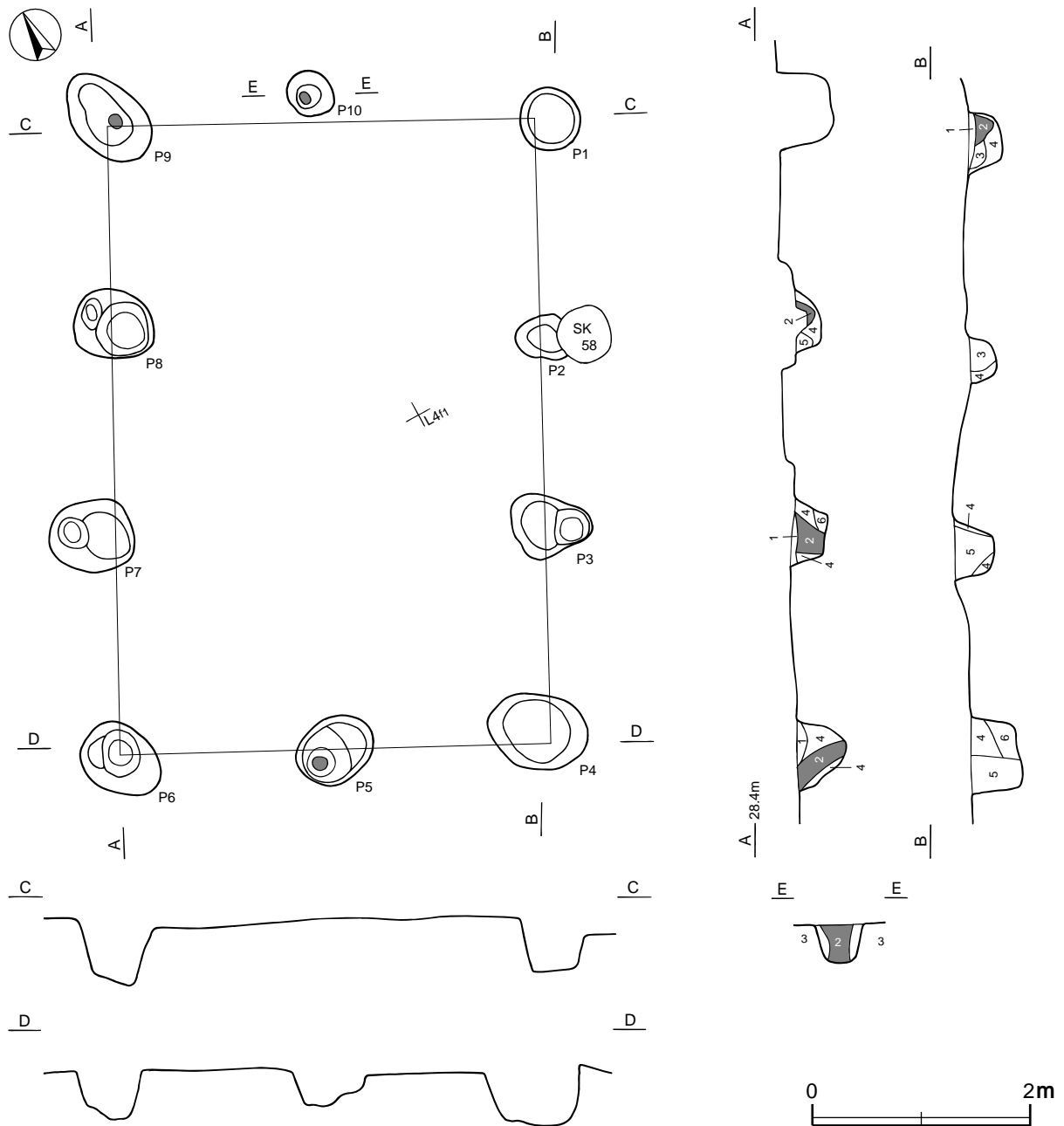
柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形を基調とし、深さは26～56cmである。土層は第2層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第3～6層は掘り方の埋土でローム土を含んだ暗褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。第1層は抜き取り後の覆土である。P5・P9・P10の底面は硬化しており、柱が据えられた痕跡とみられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック微量	4 暗褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ローム粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片32点（甕類）、須恵器片7点（坏類4、甕3）が出土している。土器はいずれも細片のため、図示できるものはなかった。

所見 時期は、主軸方向及び規模・構造などから、9世紀中葉以降の平安時代と考えられる。



第183図 第12号掘立柱建物跡実測図

第13号掘立柱建物跡 (第184図)

位置 調査E区のK 5 b0区、標高28mほどの台地上の平坦部に位置している。

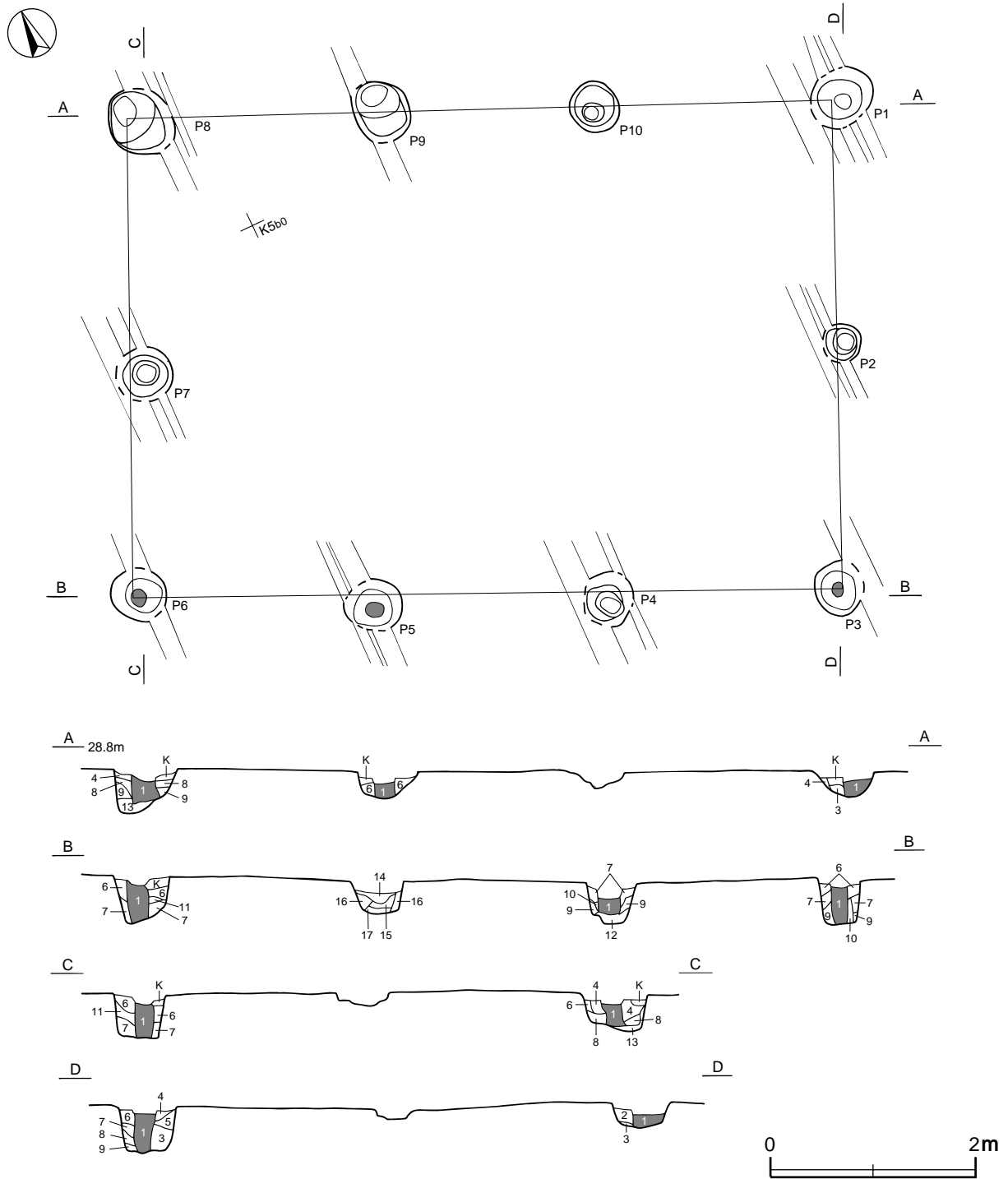
規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-63°-Wとする東西棟である。桁行が6.90m、梁行が4.78mで、面積は32.98㎡である。柱間寸法は桁行が2.3m、梁行が2.4m(8尺)を基調としている。

柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし、深さは11~43cmである。第1層が柱痕跡に相当し、締まりの弱い黒褐色土である。第2層以下は掘り方の埋土で、ローム土を含んだ暗褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。第14~17層は柱抜き取り後の覆土である。P 3・P 5・P 6の底面は硬化しており、柱が

据えられた痕跡と見られる。

土層解説

- | | | | | | | | |
|---|----|-------------------|-------------------|----|----|----------------|----------------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 | 褐色 | ローム粒子中量 | |
| 2 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 | 黒 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ロームブロック少量 | 12 | 褐色 | ロームブロック多量 | |
| 4 | 褐色 | ローム粒子少量 | | 13 | 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | |
| 5 | 褐色 | ロームブロック少量 | | 14 | 黒 | 褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 | 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | 15 | 黒 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 7 | 暗 | 褐色 | ロームブロック中量 | 16 | 褐色 | ロームブロック中量 | |
| 8 | 黒 | 褐色 | ローム粒子中量 | 17 | 黒 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 9 | 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | | | | | |



第184図 第13号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片2点（甕），須恵器片1点（坏）が，掘り方の埋土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

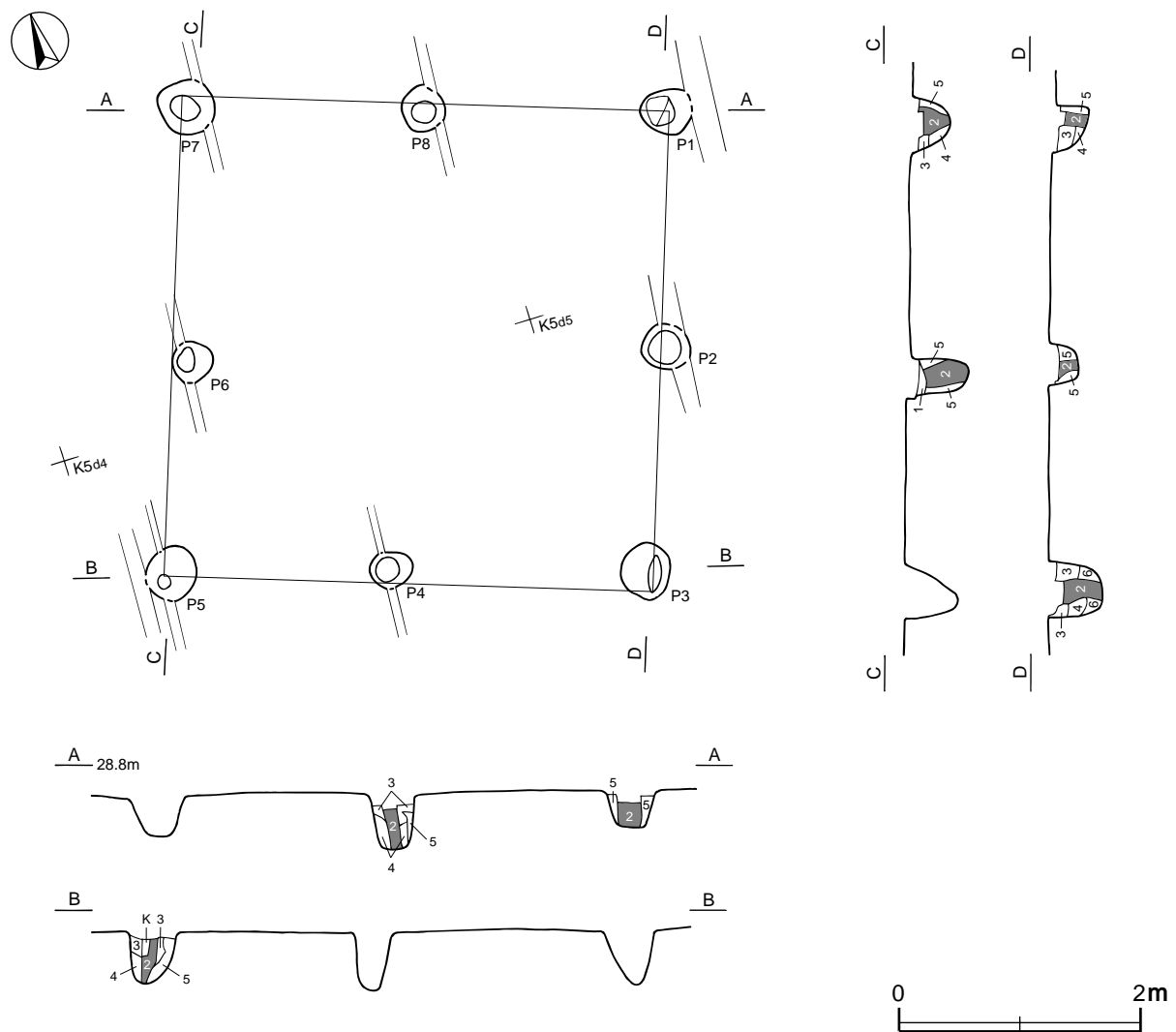
所見 時期は，本跡の西側に位置する第54号住居跡と軸線が一致することから，8世紀後半から9世紀前半と考えられる。

第14号掘立柱建物跡（第185図）

位置 調査E区のK5c4区，標高28mほどの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向をN-74-Wとする東西棟である。桁行が4.00m，梁行が3.90mで，面積は15.60㎡である。柱間寸法は，桁行が2.1m，梁行が1.9mを基調としている。柱筋は，P6がわずかに内側にずれるが，おおむね通っている。

柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし，深さは17～52cmである。第2層が柱痕跡に相当し，締まりの弱い黒褐色土である。第3～6層は掘り方の埋土でローム土を含んだ暗褐色・黒褐色土であり，強く突き固めた痕跡は認められない。



第185図 第14号掘立柱建物跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片6点(甕), 須恵器片3点(坏, 蓋, 甕)が, 掘り方の埋土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

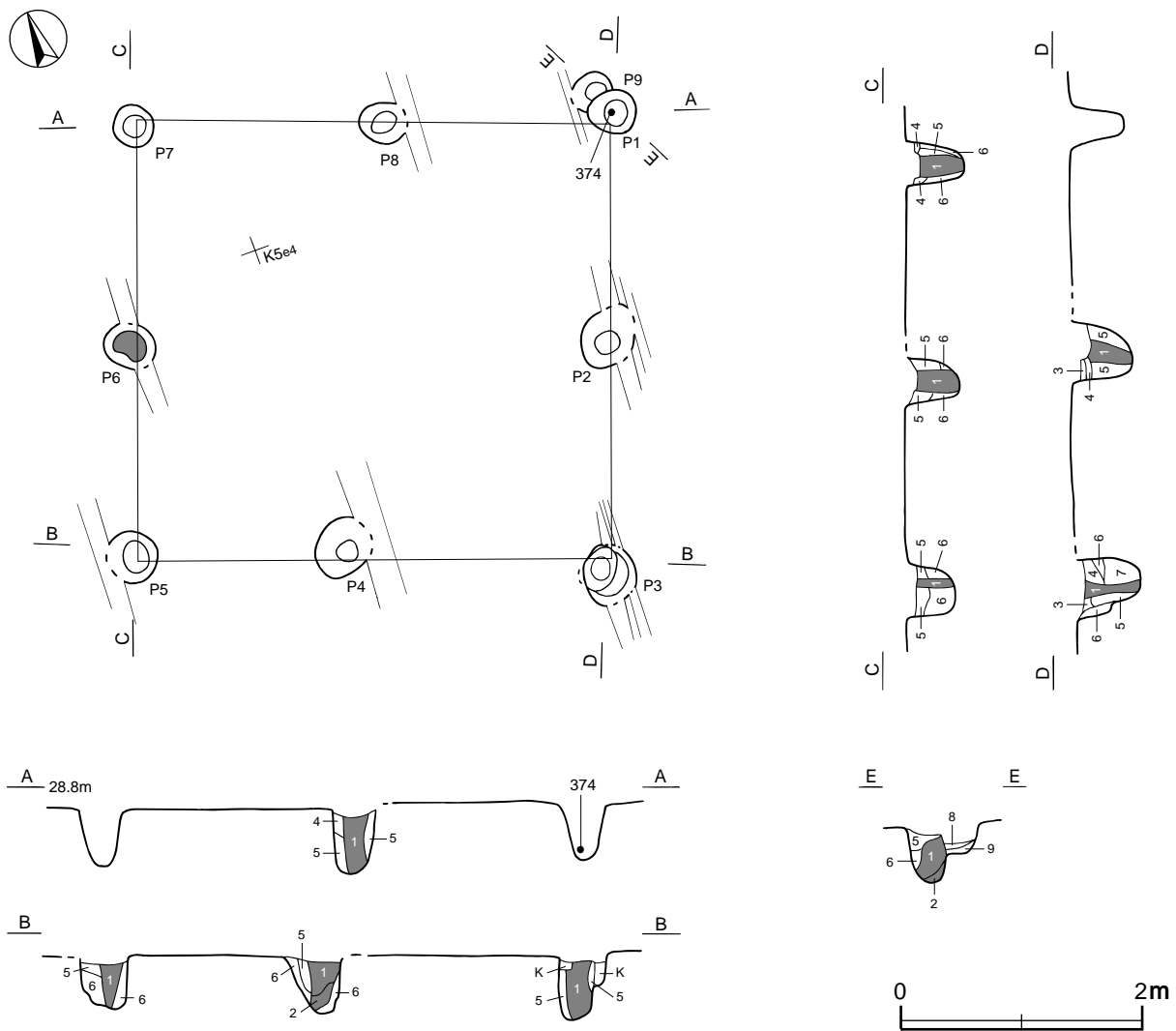
所見 時期は, 東側に位置する第56号住居跡と軸線がほぼ一致することから, 9世紀前半と考えられる。

第15号掘立柱建物跡 (第186・187図)

位置 調査E区のK5e4区, 標高28mほどの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間, 梁行2間の側柱建物跡で, 桁行方向をN-71°-Wとする東西棟である。桁行が3.96m, 梁行が3.63mで, 面積は14.37㎡である。柱間寸法は, 桁行が1.9m, 梁行は1.8m(6尺)を基調としている。柱筋は, おおむね通っている。

柱穴 9か所。平面形は円形を基調とし, 深さは23~57cmである。第1・2層が柱痕跡に相当し, 締りの弱い

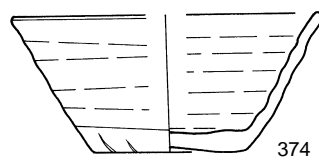


第186図 第15号掘立柱建物跡実測図

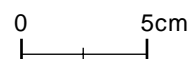
黒褐色土である。第3～9層は掘り方の埋土でローム土を含んだ暗褐色・黒褐色土であり、強く突き固めた痕跡は認められない。P6の底面は硬化しており、柱が据えられた痕跡とみられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ロームブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子微量



374



遺物出土状況 土師器片1点（甕），須恵器片3点（坏2，盤1）が、柱穴の埋土から出土している。374はP1の第2層下部から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器および、本跡の東側に位置する第56号住居跡と軸線が一致することから、9世紀前葉と考えられる。

第187図 第15号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第15号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第187図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
374	須恵器	坏	[12.0]	5.5	6.1	長石・黒色粒子	灰	普通	底部ヘラ削り後ナデ 内・外面ロクロナ	P1 覆土下層	40% PL32 ヘラ記号

第16号掘立柱建物跡（第188図）

位置 調査F区のG4c9区，標高28mほどの平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間，梁行2間の側柱建物跡で，桁行方向をN-90とする東西棟である。桁行が6.40m，梁行が4.60mで，面積は29.44㎡である。柱間寸法は，桁行2.1m（7尺），梁行2.3mを基調として配置されている。柱筋はP4がわずかに外側にずれるが，おおむね通っている。

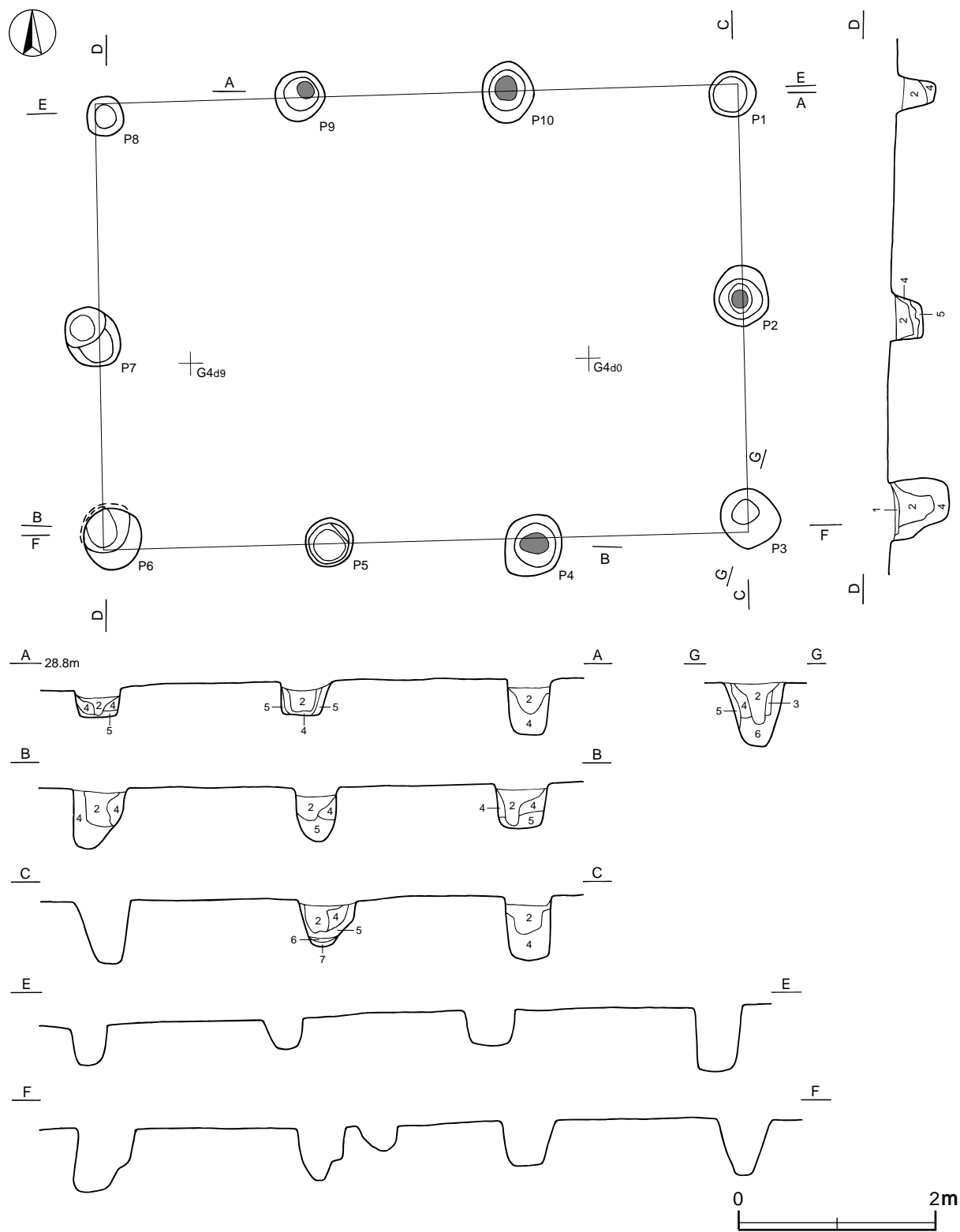
柱穴 10か所。平面形は円形を基調とし，深さは32～64cmである。第2層が柱抜き取り痕跡に相当し，締まりの弱い暗褐色土である。第3～5層は掘り方の埋土で，ローム土を含んだ暗褐色・黒褐色土であり，強く突き固めた痕跡は認められない。第1層は柱抜き取り後の覆土である。P2の第6・7層は柱の高さを調整するための埋土と考えられる。P2・P4・P9・P10の底面は硬化しており，柱が据えられた痕跡とみられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 黒色粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 土師器片10点（甕）が抜き取り後の覆土から出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 明確な時期を特定できる土器は少なく，本跡西側に位置する第65号住居跡と軸線が一致することから，8世紀中葉と考えられる。



第188図 第16号掘立柱建物跡実測図

第17号掘立柱建物跡 (第189図)

位置 調査F区のG 5 h6区、標高28mほどのわずかに南下する緩斜面部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向をN-90°とする東西棟である。桁行が3.60m、

梁行が2.70mで、面積は9.72㎡である。柱間寸法は、桁行が1.8m（6尺）、梁行1.2m（4尺）を基調として配置されている。柱筋はP 8がわずかに外側にずれるが、おおむね通っている。

柱穴 8か所。平面形は円形を基調とし、深さは15～22cmである。第1・2層ともに、柱抜き取り後の覆土である。

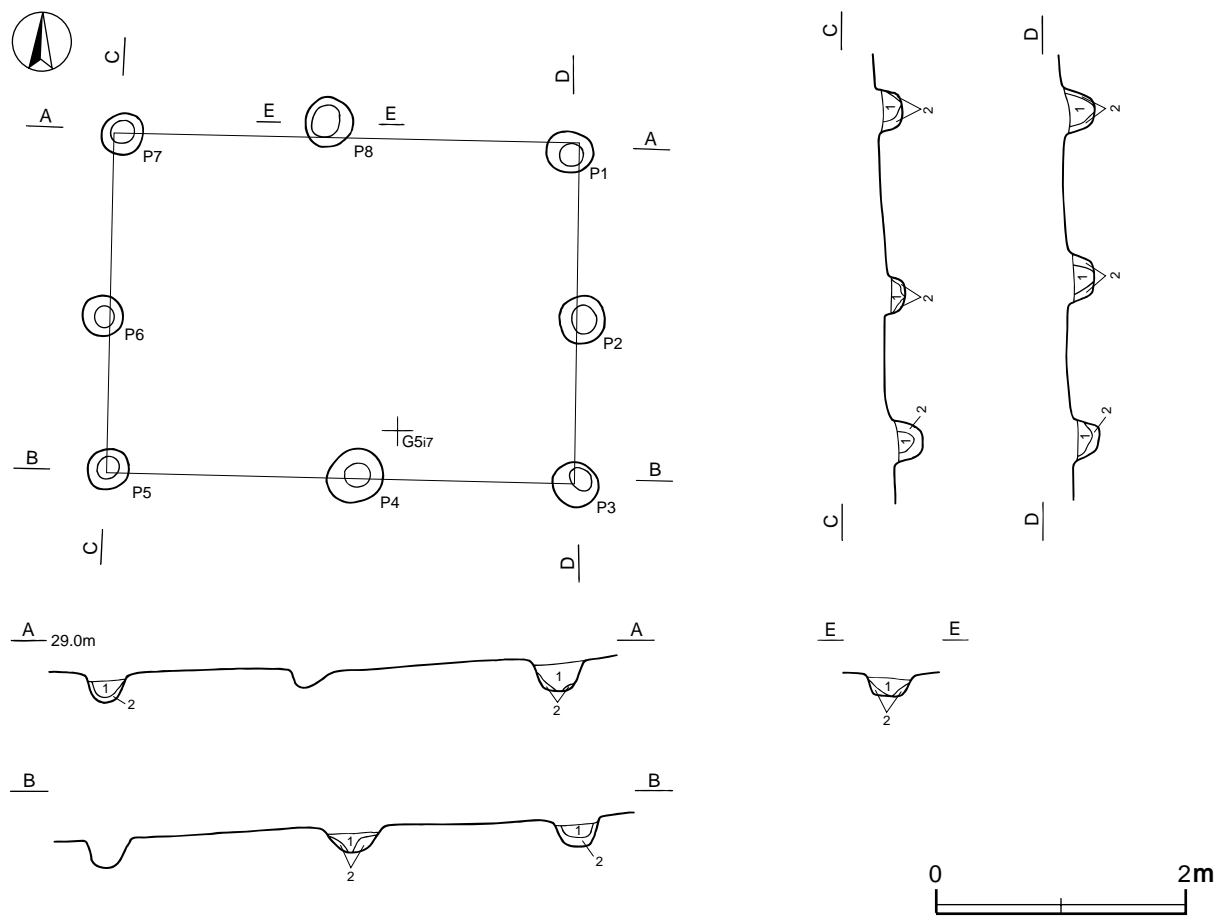
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 須恵器片2点（坏）が、抜き取り後の覆土から出土している。土器はいずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、西側に位置する第63号住居跡と軸線が一致するため、8世紀中葉と考えられる。



第189図 第17号掘立柱建物跡実測図

表10 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	桁行柱間 (m)	梁行柱間 (m)	柱穴				主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)		
1	L 3 a3	N-33° - E	3 × 2	4.80 × 3.40	16.32	1.5 ~ 1.7	1.7	側柱	8	円形	28 ~ 100	土師器, 須恵器	
2	K 3 j0	N-24° - E	3 × 3	6.30 × 5.00	31.50	2.1	1.6 ~ 1.8	側柱	12	円形	26 ~ 74	土師器, 須恵器	SK50 本跡 8世紀後葉
3	K 3 j8	N-23° - E	3 × 3	6.00 × 5.40	32.40	2.0	1.6 ~ 2.2	側柱	12	円形, 楕円形	32 ~ 76	土師器, 須恵器 金属製品	8世紀後葉
4	K 3 i6	N-21° - E	3 × 3	6.00 × 5.10	30.60	1.8 ~ 2.2	1.4 ~ 2.6	側柱	11	円形	34 ~ 69	土師器, 須恵器	SK77 本跡 SK86 8世紀後葉
5	K 3 j4	N-35° - E	3 × 2	4.80 × 3.60	17.28	1.5 ~ 1.8	1.8	側柱	10	円形	30 ~ 76	土師器, 須恵器	8世紀後葉 ~ 9世紀前葉

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁	規模 桁×梁(m)	面積 (㎡)	桁柱柱間 (m)	梁柱柱間 (m)	柱穴				主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
								構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)		
6	I 5 f9	N-18° -E	2 × 2	4.00 × 4.00	16.00	1.7 ~ 2.3	2.0	側柱	8	円形, 楕円形	15 ~ 42	土師器, 須恵器	
7	I 5 h7	N-20° -E	2 × 2	4.40 × 4.40	19.36	2.2	2.2	側柱	8	円形	10 ~ 46	土師器, 須恵器	SI28 本跡 SD 5
8	I 5 f6	N-76° -W	3 × 2	4.80 × 3.60	17.28	1.6	1.8	側柱	10	円形	11 ~ 35	-	
10	I 6 e4	N-23° -E	3 × 2	5.10 × 3.80	19.38	1.5 ~ 1.9	1.9	側柱	10	円形, 楕円形	19 ~ 40	土師器	
11	L 3 d9	N-25° -E	4 × 3	7.00 × 4.80	33.60	1.6 ~ 1.9	1.5 ~ 1.8	側柱	14	円形, 楕円形	25 ~ 78	土師器, 須恵器	SI 4, SK33・39 本跡
12	L 3 e0	N-28° -E	3 × 2	5.70 × 3.90	22.23	1.9	1.8 ~ 2.1	側柱	10	円形, 楕円形	26 ~ 56	土師器, 須恵器	SK58 9世紀中葉
13	K 5 b0	N-63° -W	3 × 2	6.90 × 4.78	32.98	2.3	2.4	側柱	10	円形	11 ~ 43	土師器, 須恵器	8世紀後葉 ~ 9世紀前葉
14	K 5 c4	N-74° -W	2 × 2	4.00 × 3.90	15.60	2.1	1.9	側柱	8	円形	17 ~ 52	土師器, 須恵器	9世紀前葉
15	K 5 e4	N-71° -W	2 × 2	3.96 × 3.63	14.37	1.9	1.8	側柱	9	円形	23 ~ 57	土師器, 須恵器	9世紀前葉
16	G 4 c9	N-90°	3 × 2	6.40 × 4.60	29.44	2.1	2.3	側柱	10	円形	32 ~ 64	土師器	9世紀前葉
17	G 5 h6	N-90°	2 × 2	3.60 × 2.70	9.72	1.8	1.2	側柱	8	円形	15 ~ 22	須恵器	8世紀中葉

(3) 道路跡

第2号道路跡 (第190・191・239図)

位置 調査F区のF 5 j6区～F 4 i8区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

確認状況 硬化面は耕作により削平されているが, 深さ9～38cm, 幅65～95cmの2条の平行して延びている溝を側溝と考え, 道路跡と判断した。

規模と平面形 F 5 j6区から北西方向 (N-84 -W) に向かって直線的に延びている。北西側は調査区域外へ延びており, 確認できた規模は, 長さ30.6m, 側溝の芯々距離4.2～4.4mである。2条の側溝は南東から北西に向かうほど深くなっている。

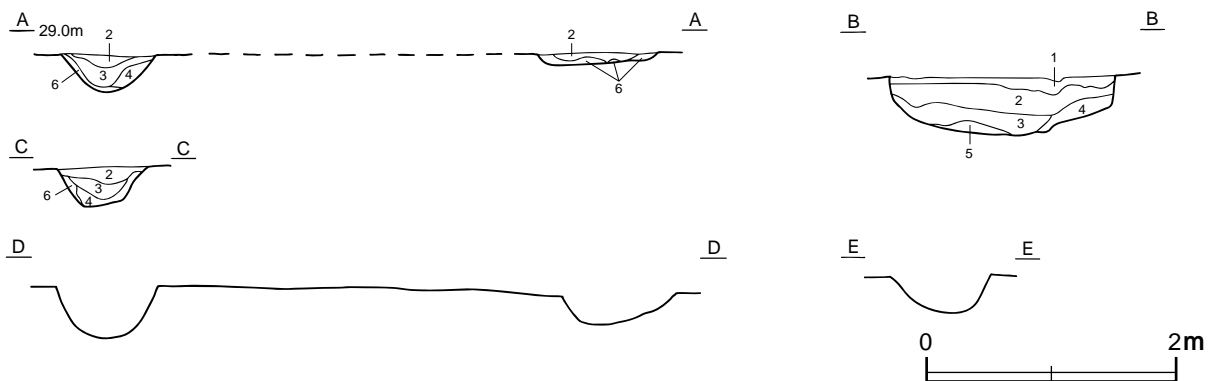
覆土 6層に分層される。土砂の流入を示す堆積状況から自然堆積と考えられる。

溝跡土層解説

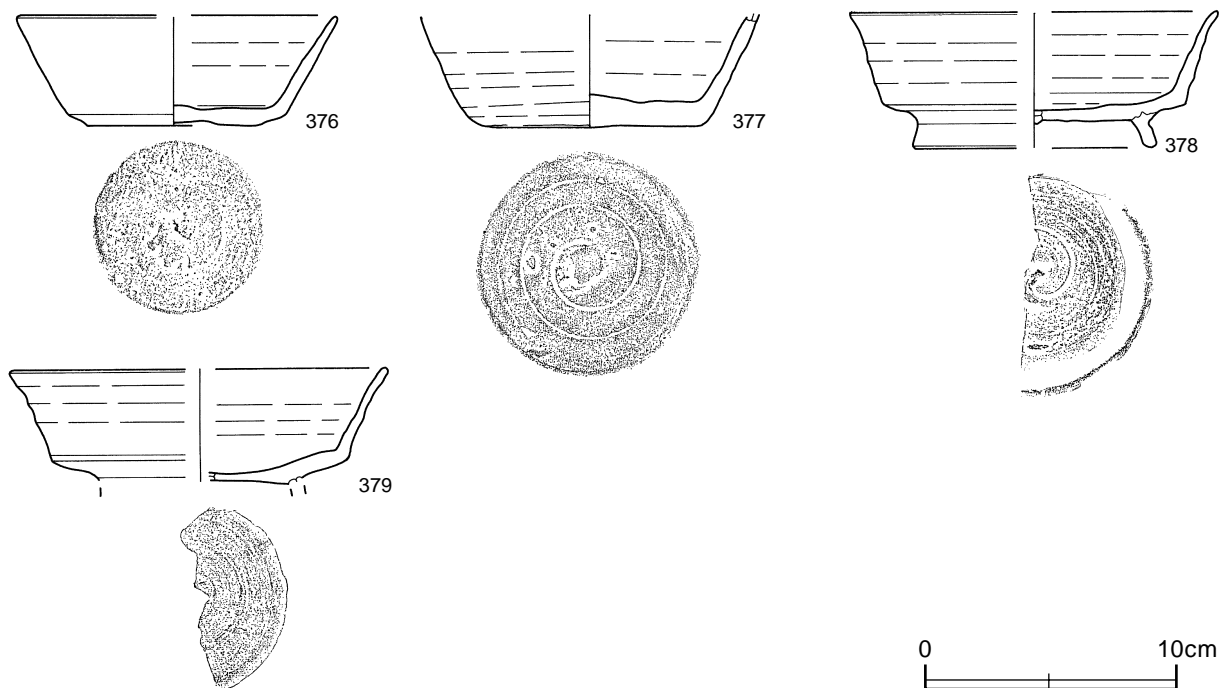
- | | | | |
|-------|---------------------|----------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物出土状況 土師器片13点 (甕), 須恵器片28点 (坏19, 高台付坏2, 蓋1, 甕6) が, 側溝の覆土中層から下層にかけて出土している。376～379はいずれも南側の側溝の覆土中層から出土しており, 覆土の堆積していく過程で投棄されたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から8世紀後葉以前と考えられる。



第190図 第2号道路跡実測図



第191図 第2号道路跡出土遺物実測図

第2号道路跡出土遺物観察表 (第191図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
376	須恵器	坏	[12.4]	4.4	6.8	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ切り 内・外面ロクロナデ	覆土中層	50%
377	須恵器	坏	-	(4.5)	8.7	石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り 内・外面ロクロナデ	覆土中層	35%
378	須恵器	高台付坏	[14.4]	5.4	[9.4]	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後高台貼付 内・外面ロクロナデ	覆土中層	40%
379	須恵器	高台付坏	[14.7]	(4.6)	-	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付 内・外面ロクロナデ	覆土中層	30%

5 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は、掘立柱建物跡1棟、土坑墓7基を確認した。以下、遺構の特徴と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第9号掘立柱建物跡 (第192図)

位置 調査B区のI 5c8区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、東側に底を持っている。桁行方向をN-86-Wとする東西棟である。規模は身舎の桁行が5.70m、梁行が3.60mで、底を含めた桁行は6.80mである。柱間寸法は、桁行が西から3.0m、2.7mで、底の出は0.9m、梁行は1.8mを基調としている。身舎の面積は20.52㎡である。柱筋は、南平側を除いておおむね通っている。

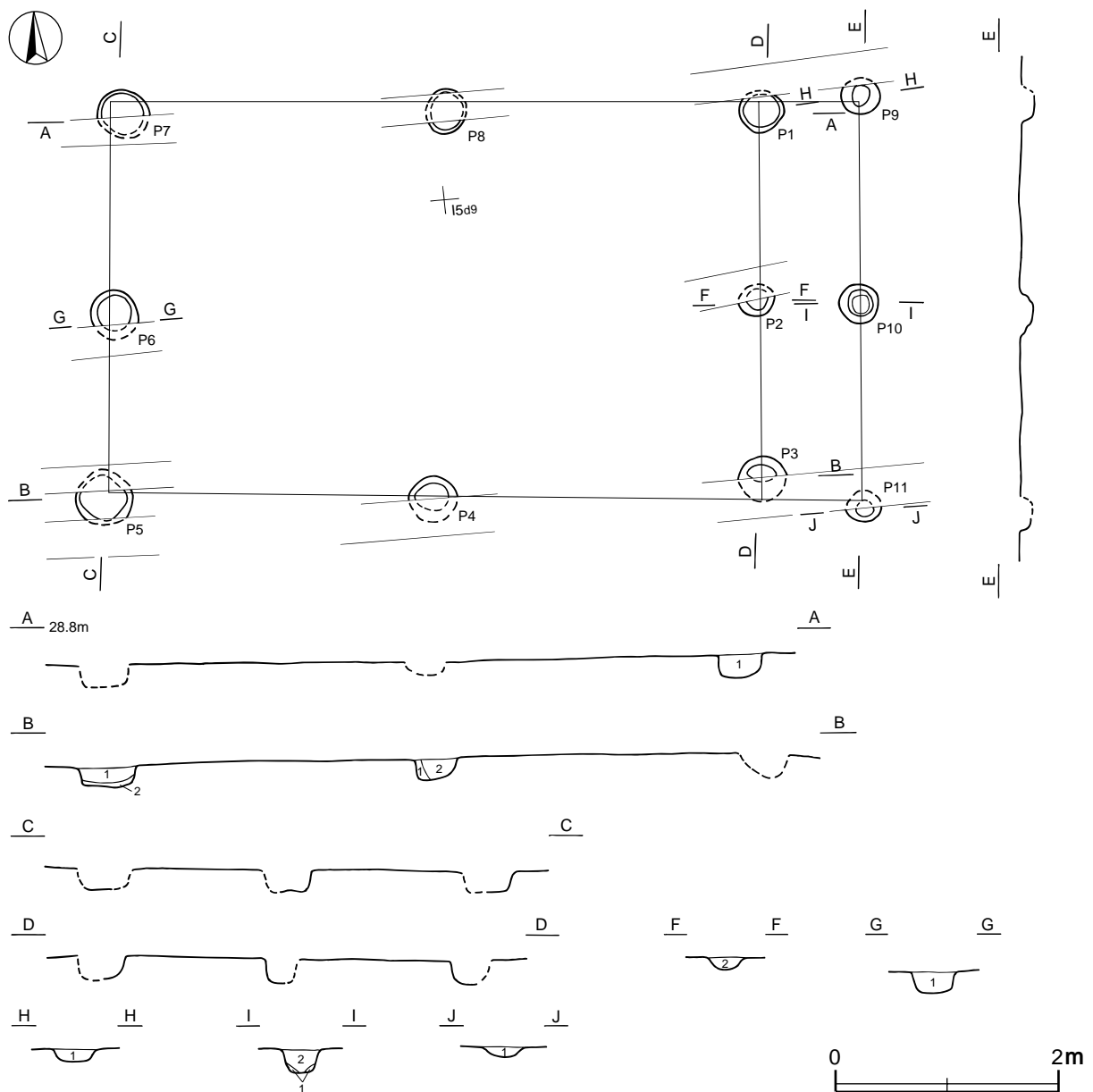
柱穴 11か所。平面形は円形を基調とし、深さは11~20cmである。土層はいずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量

2 黒褐色 ローム粒子微量

所見 遺物が出土していないが、他の掘立柱建物跡と比較すると規模や軸方向が異なることや柱穴の掘り方が小さく浅いことなどから、中・近世の掘立柱建物跡と推測される。



第192図 第9号掘立柱建物跡実測図

(2) 土坑墓

第1号土坑墓 (S K141) (第193図)

位置 調査B区のI 5 f1区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.65m、短径1.49mの楕円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-81-Eである。

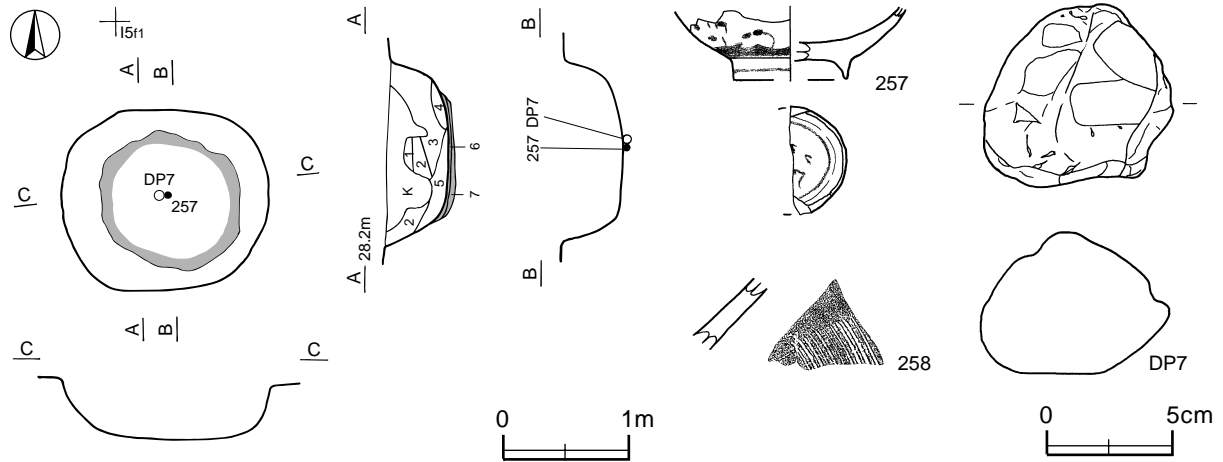
覆土 5層からなる。ローム粒子を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第6・7層は掘り方の埋土であり、粘土が充填されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|----------|--------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量 | 7 褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 4 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶磁器片 2点 (碗, 播鉢), 粘土塊 1点が出土している。257・DP7は中央部の底面から出土している。258は覆土中から出土している。

所見 底面に粘土が貼られており, 他の土坑墓と構造が似ている。時期は, 出土土器から近世 (18世紀後半以降) と考えられる。



第193図 第1号土坑墓・出土遺物実測図

第1号土坑墓出土遺物観察表 (第193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
257	磁器	碗	-	(2.9)	[4.4]	緻密	灰白	良好	染付 草木梅樹文	底面	10%
258	陶器	播鉢	-	(2.7)	-	長石	にぶい赤褐	普通	播り目10条確認	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP7	粘土塊	7.4	7.5	5.6	213.0	粘土	ナデ	底面	火熱痕

第2号土坑墓 (SK145) (第194図)

位置 調査B区のI 5b6区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.40m, 短軸1.35mの方形で, 深さは16cmである。底面はほぼ平坦で, 中央部が円形にややくぼんでいる。壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN-6-Eである。

ピット 西壁の北コーナー寄りに位置し, 深さは26cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ローム粒子微量 |
|-------|-------------------|-------|---------|

覆土 6層からなる。ローム粒子を含む不規則な堆積状況を示した人為堆積である。第7~9層は掘り方の埋土であり, 粘土が充填されている。

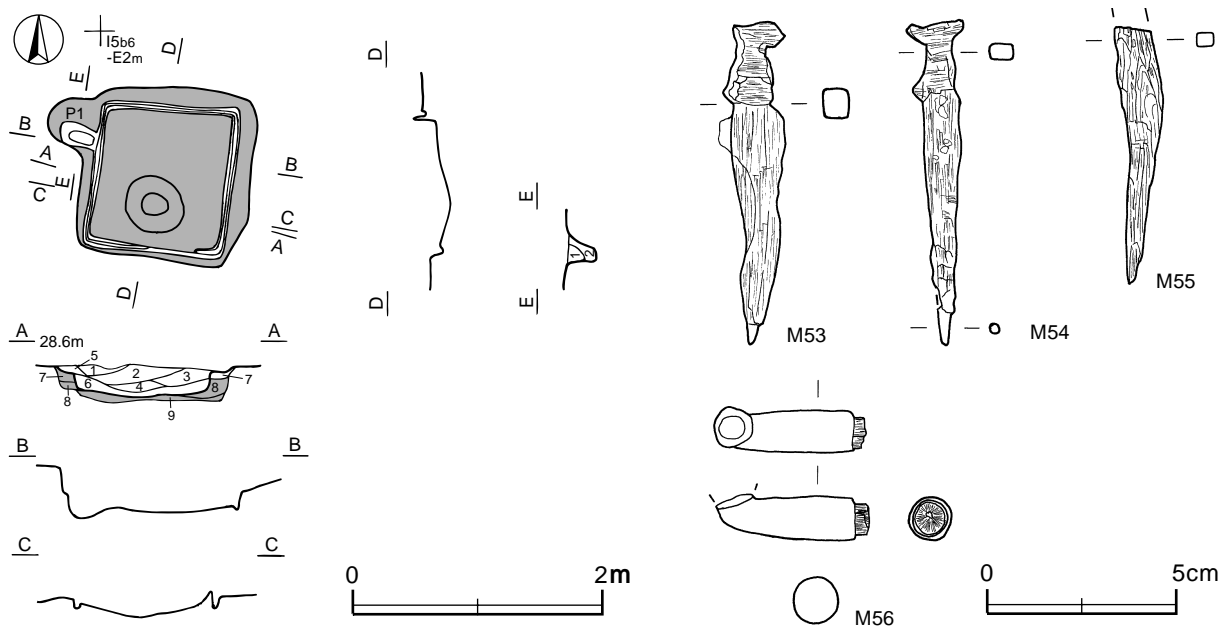
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

- 6 黒褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 7 黄褐色 粘土粒子多量
- 8 褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 9 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量

遺物出土状況 瓦質土器片11点（不明），金属製品3点（釘），銅製品1点（煙管）が出土している。M53～M56は、いずれも覆土中から出土している。

所見 覆土中から釘が出土していることから、埋葬において棺を使用したことが予想される。時期は、出土した遺物から近世と考えられる。



第194図 第2号土坑墓・出土遺物実測図

第2号土坑墓出土遺物観察表（第194図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M53	釘	8.4	1.4	0.7	8.7	鉄	木質付着 断面方形	覆土中	
M54	釘	8.5	1.5	0.4	8.5	鉄	木質付着 断面方形	覆土中	
M55	釘	6.8	1.2	0.4	(6.6)	鉄	頭部欠損 木質付着 断面方形	覆土中	
M56	煙管雁首	(4.0)	1.1	1.1	(5.1)	銅	火皿部欠損 羅宇竹管残存	覆土中	

第3号土坑墓（S K146）（第195図）

位置 調査B区のI 5b7区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.18m，短径0.98mの楕円形で，深さは12cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-32°-Wである。

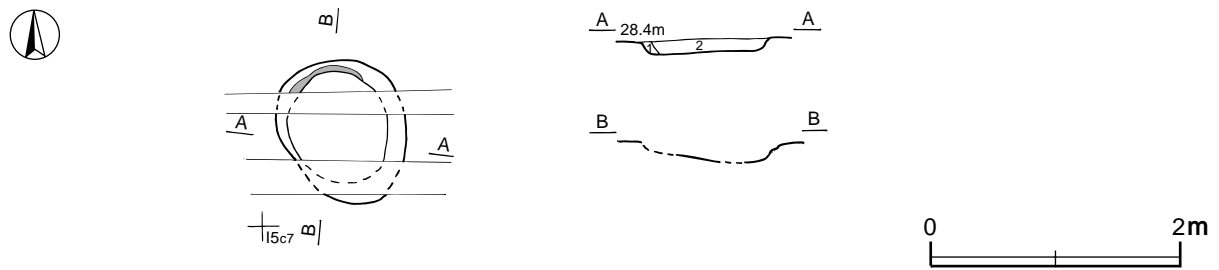
覆土 2層からなる。ローム粒子を含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量

- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土粒子・鹿沼パミス微量

所見 出土遺物はないが、北西壁際に粘土が貼られた痕跡があり、周囲の土坑墓と規模や構造が似ていることから、時期は、近世と考えられる。



第195図 第3号土坑墓実測図

第4号土坑墓 (SK148) (第196図)

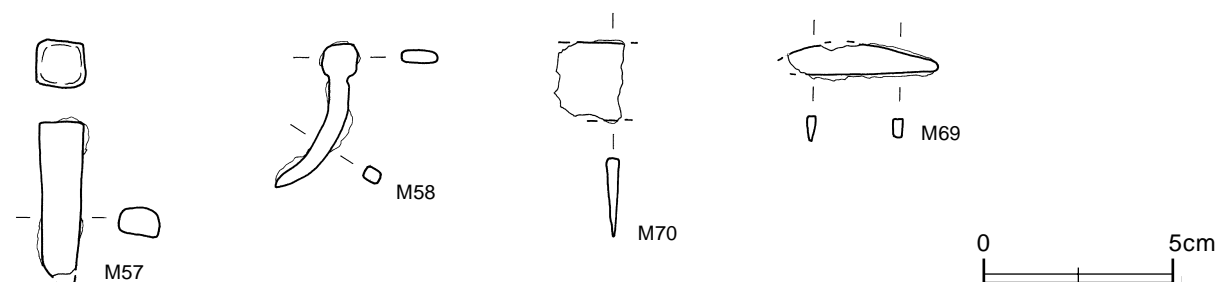
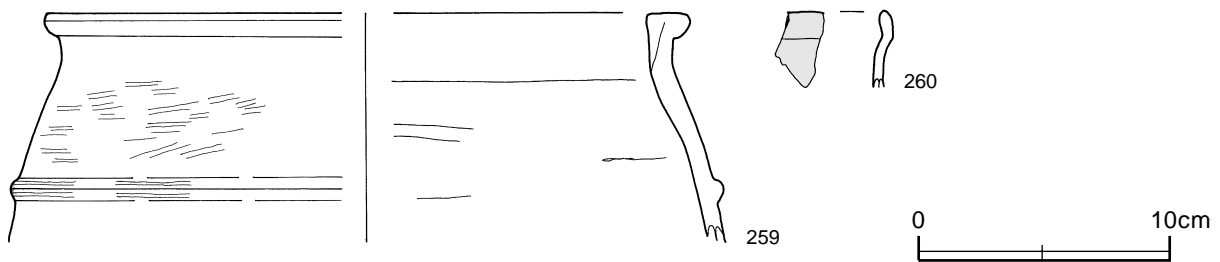
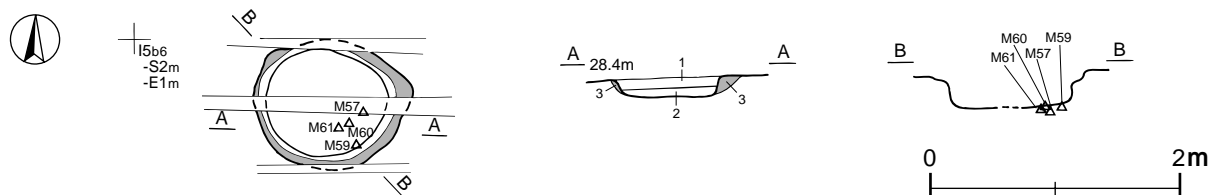
位置 調査B区のI 5b6区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.25m、短径 [1.06] mの楕円形で、深さは16cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-90°である。

覆土 2層からなる。ローム粒子を含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第3層は掘り方の埋土であり粘土が充填されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子・鹿沼バミス量
- 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量



第196図 第4号土坑墓・出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器片1点（徳利カ）、土師質土器片1点（甕カ）、瓦質土器片5点（不明）、金属器・金属製品4点（楔1、釘1、刀子2）、古銭6枚（銭種不明）が出土している。M57・M59～M61は南東部の床面から出土している。259・260・M58・M62・M69・M70・M75・M76は覆土中から出土している。

所見 出土した古銭は六道銭と考えられる。時期は、周囲の土坑墓と規模や形状が似ていることや出土した遺物から近世と考えられる。

第4号土坑墓出土遺物観察表（第196図）

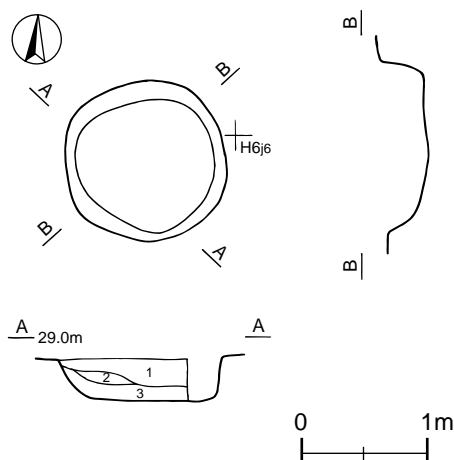
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
259	土師質土器	甕カ	[25.4]	(9.1)	-	長石・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外面磨きの痕跡	覆土中	10%
260	陶器	徳利カ	-	(3.0)	-	緻密	にぶい橙	普通	口縁部内・外面・頸部外面鉄釉掛け 頸部内面無釉	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M57	楔	(4.1)	1.2	1.2	10.3	鉄	頭部断面方形	底面	PL47
M58	釘カ	3.8	0.9	0.4	(2.1)	鉄	断面長方形 頭部はつぶれている	覆土中	
M69	刀子カ	(4.0)	0.9	0.3	(2.1)	鉄	切先欠損 棟関のみ 棟関緩やか	覆土中	
M70	刀子カ	(1.8)	2.0	0.3	(3.9)	鉄	身部カ	覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M59	不明	2.8	(0.4)	4.1	-	銅	腐食により銭種不明 拓本不鮮明のため掲載せず	底面	
M60	不明	2.2	0.6	1.5	-	銅	腐食により銭種不明 拓本不鮮明のため掲載せず	底面	
M61	不明	2.2	0.5	2.9	-	銅	腐食により銭種不明 拓本不鮮明のため掲載せず	底面	PL46
M62	不明	2.2	0.7	1.9	-	銅	腐食により銭種不明 拓本不鮮明のため掲載せず	覆土中	
M75	不明	2.4	0.6	2.9	-	銅	腐食により銭種不明 拓本不鮮明のため掲載せず	覆土中	
M76	不明	2.4	(0.4)	3.4	-	銅	腐食により銭種不明 拓本不鮮明のため掲載せず	覆土中	

第5号土坑墓（SK212）（第197図）

位置 調査B区のH6 j5区、標高28mほどの台地の平坦部に位置している。



第197図 第5号土坑墓実測図

規模と形状 長径1.34m、短径1.26mの円形で、深さ34cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-49-Eである。

覆土 3層からなる。ローム粒子を含むブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 瓦質土器片1点（不明）が出土している。細片のため図示できない。

所見 近接する第6・7号土坑墓と規模や形状が似ていることから、時期は近世と考えられる。

第6号土抗墓 (S K227) (第198図)

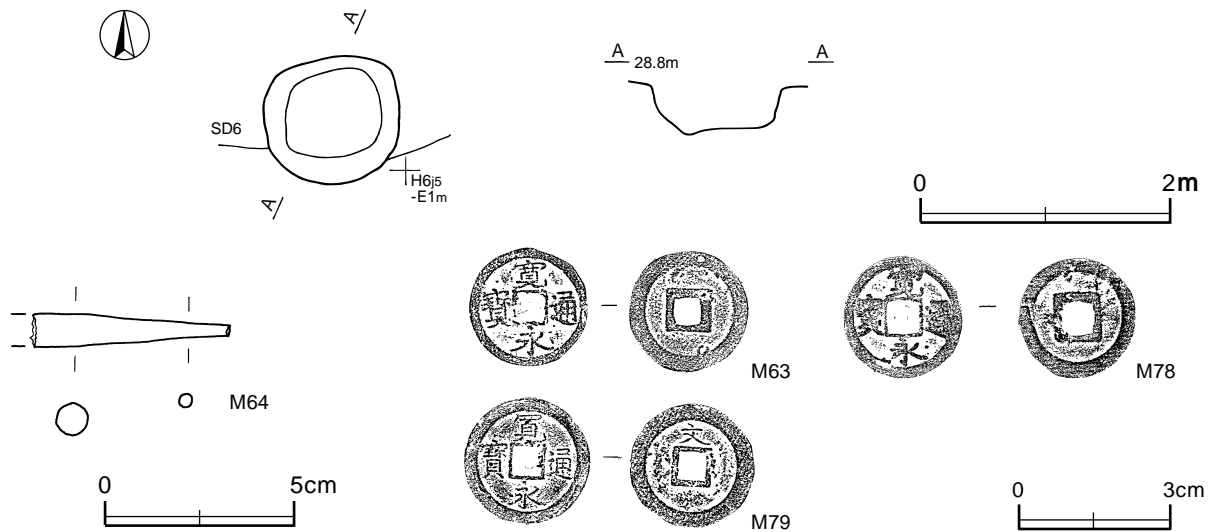
位置 調査B区のH6 i4区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.09m, 短径1.00mの円形で, 深さ39cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-88°-Eである。

遺物出土状況 銅製品1点(煙管), 古銭4点(寛永通寶)が出土している。M63・M64・M78~M80は, いずれも覆土中から出土している。

所見 出土した古銭は六道銭と考えられる。時期は, 出土した寛永通寶の種類から17世紀後葉以降と考えられる。



第198図 第6号土抗墓・出土遺物実測図

第6号土抗墓出土遺物観察表 (第198図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M64	煙管吸口	(5.2)	0.9	0.9	(3.9)	銅	接合部欠損 断面円形	覆土中	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M63	寛永通寶	2.4	0.5	3.8	1626	銅	古寛永	覆土中	PL46
M78	寛永通寶	2.4	0.6	2.8	1626	銅	古寛永	覆土中	PL46
M79	寛永通寶	2.5	0.6	3.5	1668	銅	新寛永 文銭	覆土中	PL46
M80	寛永通寶	2.4	0.6	3.4	1668	銅	新寛永 文銭 拓本不鮮明のため掲載せず	覆土中	PL46

第7号土抗墓 (S K228) (第199図)

位置 調査B区のH6 i5区, 標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第6号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.30m, 短径1.23mの楕円形で, 深さ70cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN-88°-Wである。

ピット 南壁の中央に位置し, 深さは54cmである。性格は不明である。

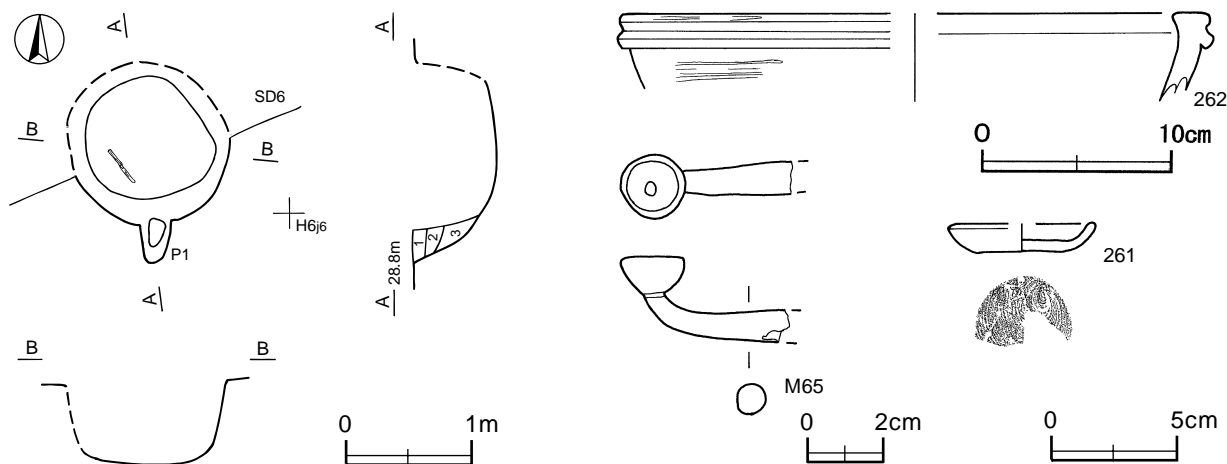
ビット土層解説

1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿2, 鉢カ1), 銅製品1点(煙管)が出土している。261・262・M65は, いずれも覆土中から出土している。南西部の底面から人骨片が出土している。

所見 時期は, 出土した遺物から近世と考えられる。



第199図 第7号土坑墓・出土遺物実測図

第7号土坑墓出土遺物観察表 (第199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施釉	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
261	土師質土器	小皿	[5.6]	1.1	3.8	長石	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	50%
262	陶器	擂鉢カ	[30.8]	(4.7)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内側に折り曲げ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M65	煙管雁首	(4.6)	2.3	0.8	(5.1)	銅	火皿部円形・径1.7cm 接合部欠損 断面円形	覆土中	

表11 土坑墓一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(旧 新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	I 5 f1	N-81°-E	楕円形	1.65×1.49	50	外傾	平坦	人為	陶器, 磁器	粘土貼り土坑
2	I 5 b6	N-6°-E	方形	1.40×1.35	16	外傾	平坦	人為	釘, 煙管	粘土貼り土坑
3	I 5 b7	N-32°-W	楕円形	1.18×0.98	12	外傾	平坦	人為	-	粘土貼り土坑
4	I 5 b6	N-90°-E	楕円形	1.25×[1.06]	16	外傾	平坦	人為	土師質土器, 陶器 鉄製品, 古銭	粘土貼り土坑
5	H 6 j5	N-49°-E	楕円形	1.34×1.26	34	外傾	平坦	人為	瓦質土器	
6	H 6 i4	N-88°-E	楕円形	1.09×1.00	39	外傾	平坦	人為	煙管, 古銭	本跡 SD 6
7	H 6 i5	N-88°-W	楕円形	1.30×1.23	70	外傾	平坦	人為	土師質土器, 煙管	本跡 SD 6

6 その他の遺構と遺物

今回の調査で, 時期が明確でない堅穴住居跡3軒, 方形堅穴遺構1基, 道路跡1条, 炭焼窯跡1基, 大形

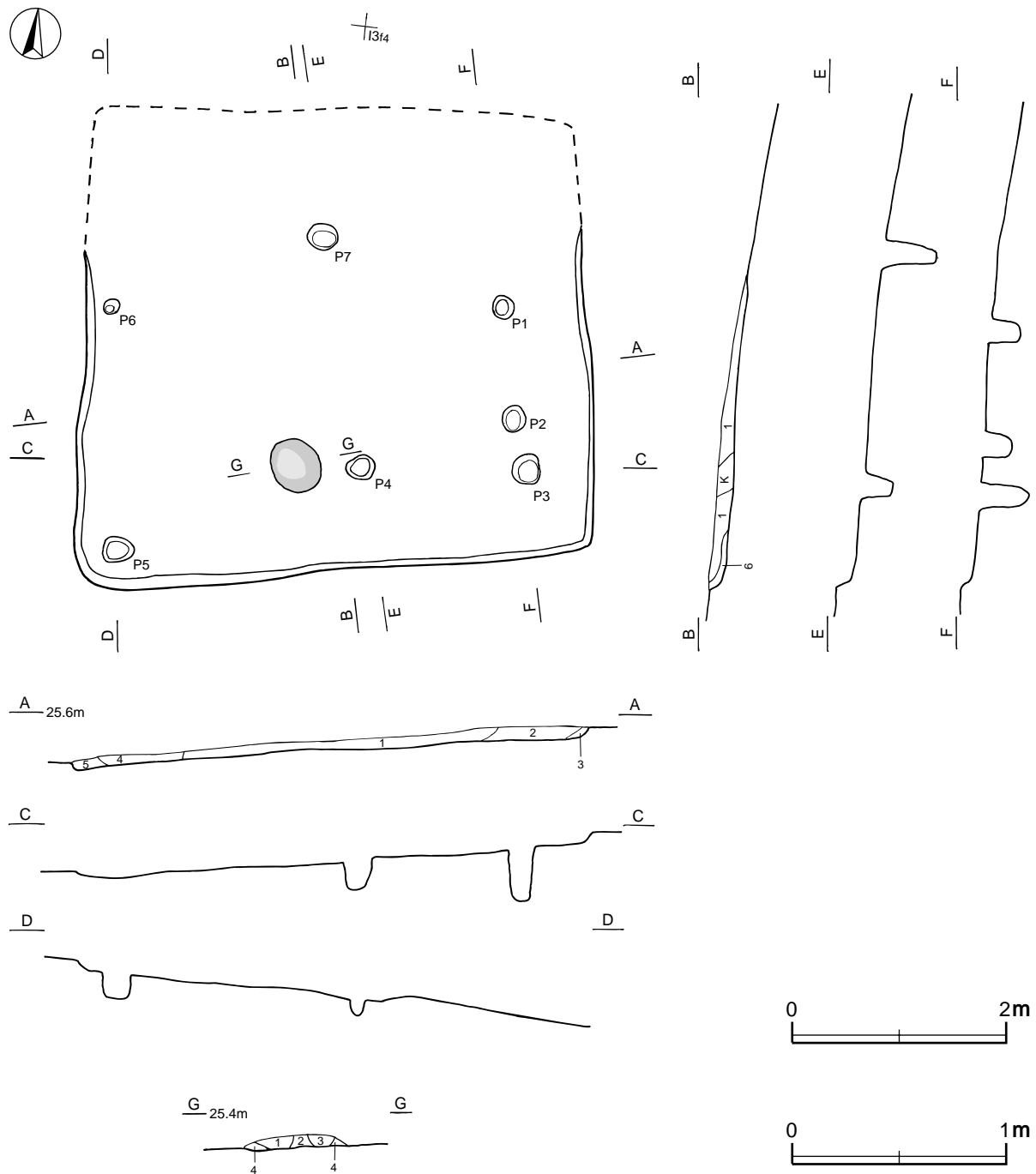
円形土坑1基、井戸跡1基、溝跡13条、柱穴列跡3列、土坑193基、ピット群8か所を確認した。以下、遺構の特徴と出土遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第20号住居跡（第200・201図）

位置 調査C区のI 3 f3区、標高25mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と形状 北側は削平されており、長軸4.80m、短軸[4.40]mほどの方形または長方形と推測され、主軸方向はN-82°-Eである。壁高は最大14cmである。



第200図 第20号住居跡実測図

床 ほぼ平坦である。軟質で、硬化面は確認されなかった。

炉 南壁寄りの中央部に位置している。長径50cm、短径45cmの楕円形で、掘り込みの極めて浅い地床炉である。炉床は、火熱を受けてわずかに赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------|---|-----|-------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

ピット 7か所。P 1～P 3・P 5～P 7は、深さ15～49cmで支柱穴と考えられる。P 4は、深さ28cmで性格は不明である。

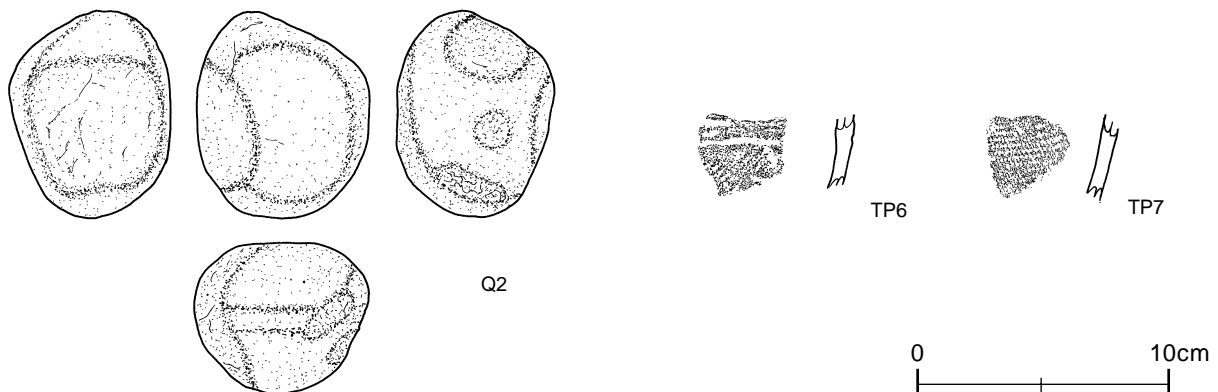
覆土 6層からなる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------|---|-----|-----------------|
| 1 | 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 | 5 | 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 6 | 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師器片 8点（甕類），縄文土器片 1点（深鉢），弥生土器片 1点（壺カ），石器 1点（敲石）が出土している。TP 6・TP 7・Q 2はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期を特定できる土器が出土していないため、時期は不明である。



第201図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP6	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・石英	黒褐	普通	口辺部2条の沈線 R Lの単節縄文	覆土中	
TP7	弥生土器	壺カ	-	(3.6)	-	長石	にぶい橙	普通	附加条二種施文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q2	敲石	8.1	6.8	6.3	447.0	安山岩	両側面と下端部に敲打痕あり	覆土中	PL44

第46号住居跡（第202図）

位置 調査D区のG 3 j4区、標高27mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 第262・263号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m、短軸3.76mの隅丸方形で、主軸方向はN-69°-Wである。壁高は20cmで、外傾し

て立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。床面は軟弱である。

ピット 2か所。深さは15cm・37cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 2層からなる。部分的に確認されただけで、堆積状況は不明である。

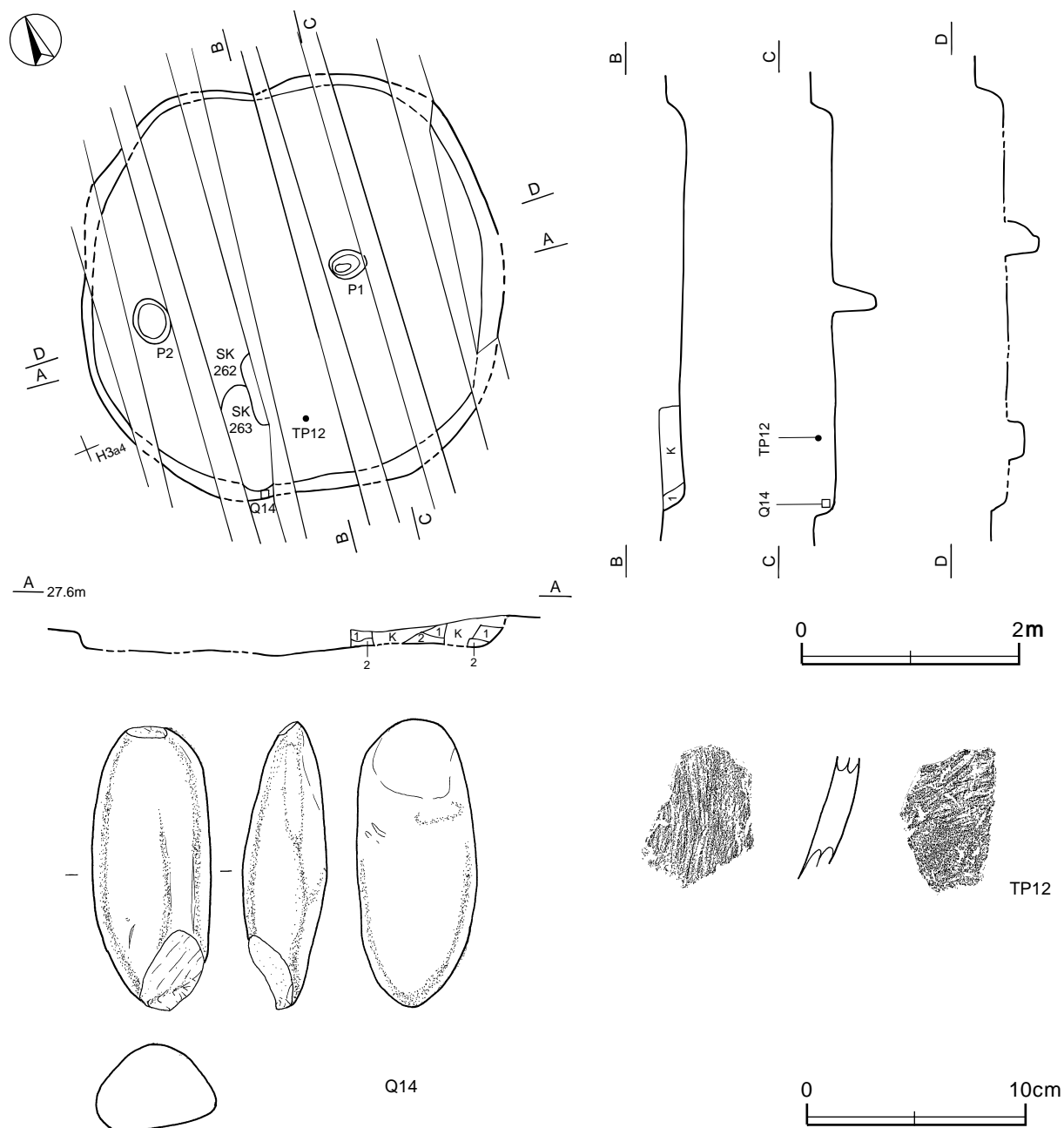
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片5点（甕類）、縄文土器片7点（深鉢）、石器1点（磨石）が出土している。TP12は南壁際の覆土上層から、Q14は南壁際の床面から出土している。

所見 時期を特定できる土器が出土していないため、時期は不明である。



第202図 第46号住居跡・出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表 (第202図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石	にぶい褐	普通	貝殻条痕文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q14	磨石	13.0	5.4	3.9	342.0	安山岩	全面研磨痕	覆土下層	PL45

第47号住居跡 (第203図)

位置 調査D区のG 3g9区, 標高27mほどの台地の端部に位置している。

規模と形状 長軸3.75m, 短軸3.41mの方形で, 主軸方向はN-46°-Wである。壁高は8~15cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。耕作により, 遺存状況は不良であり, 踏み固められた部分は確認されなかった。

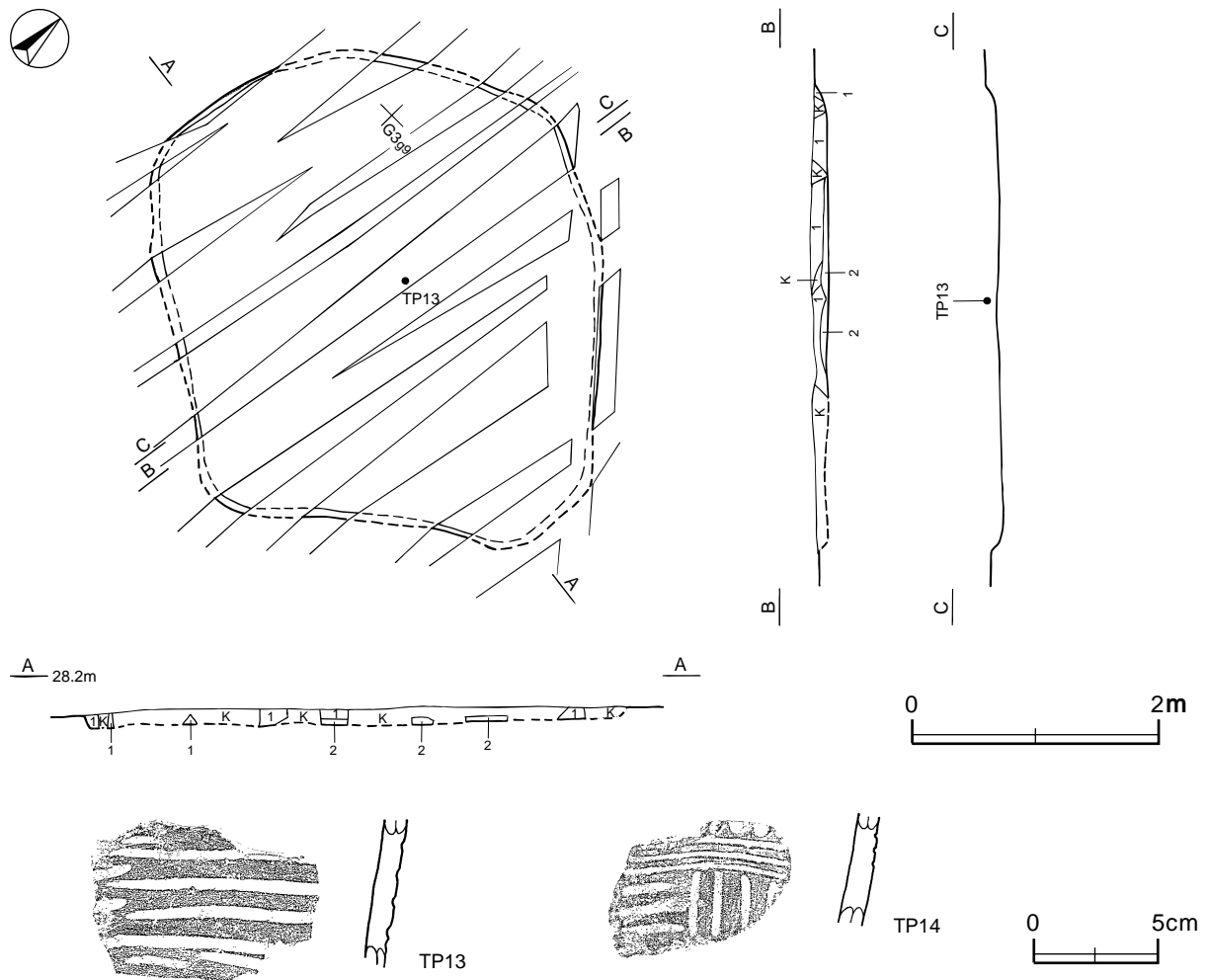
覆土 2層からなる。薄く確認されただけで, 堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量(1より彩度が高い)

遺物出土状況 土師器片5点(甕類), 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。TP13は中央部の覆土上層か



第203図 第47号住居跡・出土遺物実測図

ら、TP14は覆土中から出土している。

所見 時期を特定できる土器が出土していないため、時期は不明である。

第47号住居跡出土遺物観察表 (第203図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	横位の太い平行沈線	覆土下層	
TP14	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	雲母・赤色粒子	橙	普通	横位の細い平行沈線 縦位・横位の太い 平行沈線 刺突文	覆土中	

表12 竪穴住居跡一覧表

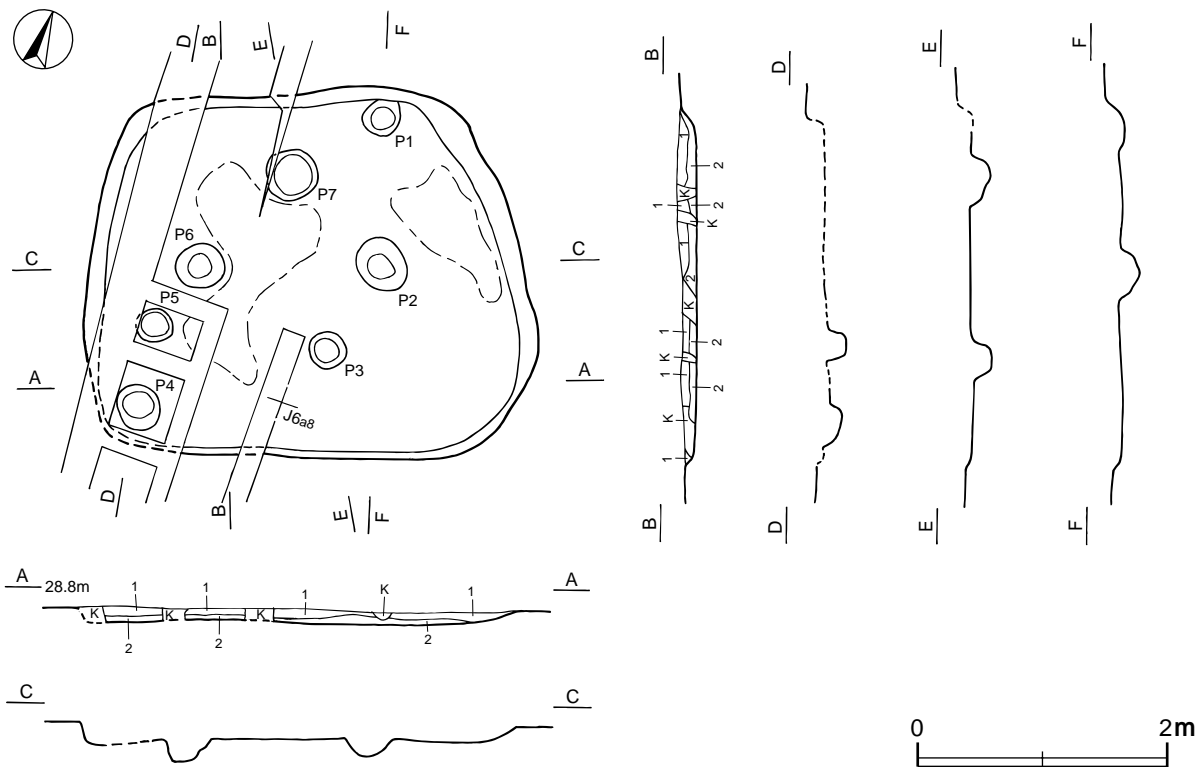
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧新)
								主柱穴	出入口	ビット	炉	貯蔵穴				
20	I 3 f3	N-82°-E	[方形]	4.80×[4.40]	0~14	平坦	-	6	-	1	1	-	不明	土師器、縄文土器片、弥生土器片、石器片	不明	
46	G 3 j4	N-69°-W	隅丸方形	3.82× 3.76	20	平坦	-	2	-	-	-	-	不明	土師器、縄文土器片、石器	不明	本跡 SK262-263
47	G 3 g9	N-46°-W	方形	3.75× 3.41	8~15	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器、縄文土器片	不明	

(2) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第204図)

位置 調査B区のI 6 j7区、標高28mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.69m、短軸2.95mの隅丸長方形で、主軸方向はN-71°-Eである。壁高は6~18cmで、外傾して立ち上がっている。



第204図 第1号方形竪穴遺構実測図

床 ほぼ平坦である。中央部と東壁際が踏み固められている。

ピット 7か所。深さは7～16cmで、性格は不明である。

覆土 2層からなる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片3点（甕類）、縄文土器片1点（深鉢）、弥生土器片1点（壺）が出土している。いずれも細片のため図示できない。また、覆土中からの出土である。

所見 時期を特定できる土器が出土していないため、時期は不明である。

(3) 道路跡

第1号道路跡（第205・239図）

位置 調査C区のI4i2区～J4a1区、標高27mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と平面形 J4a1区から北東方向（N-47°-E）に向かって直線的にのびている。幅は0.32～0.46mで、長さは10.70mである。

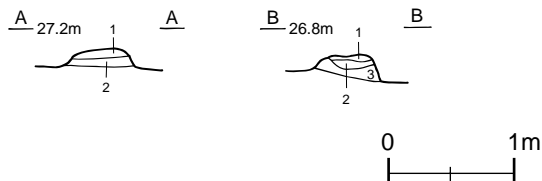
構築土 硬化面は第1層の上面で確認され、締まりが強い土層である。

断ち割り土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子微量



第205図 第1号道路跡実測図

遺物出土状況 土師器片7点（坏類1、甕類6）、須恵器片2点（坏類、蓋）、土師質土器片2点（鍋カ）、瓦質土器片1点（不明）、石器1点（砥石）が出土している。いずれも細片で図示できない。

所見 時期を特定できる土器が出土していないため、時期は不明である。

(4) 炭焼窯跡

第1号炭焼窯跡（第206・207図）

位置 調査D区のH3c4区、標高27mほどの台地の端部に位置している。

重複関係 第43号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 耕作により遺存状況は不良である。規模は推定で、長径5.00m、短径[2.16]mほどの瓢型で、長径方向はN-8°-Eである。

前庭部 長径2.40m、短径[2.16]mほどの楕円形を呈し、底面は平坦で、焚口部に向かって緩やかに傾斜している。北東部には窯口の閉塞に伴うと考えられるピット1か所が確認されている。

炭化室 長径2.50m、短径2.14mほどの楕円形を呈し、遺存する壁高は34cmである。焚口部付近の窯の底面は火熱により赤変している。

煙道部 奥壁中央部に位置していたと考えられる。

ピット 配置から窯口に伴うピットと考えられ、炭材及び木材の出し入れを容易にするものと考えられる。

ビット土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |

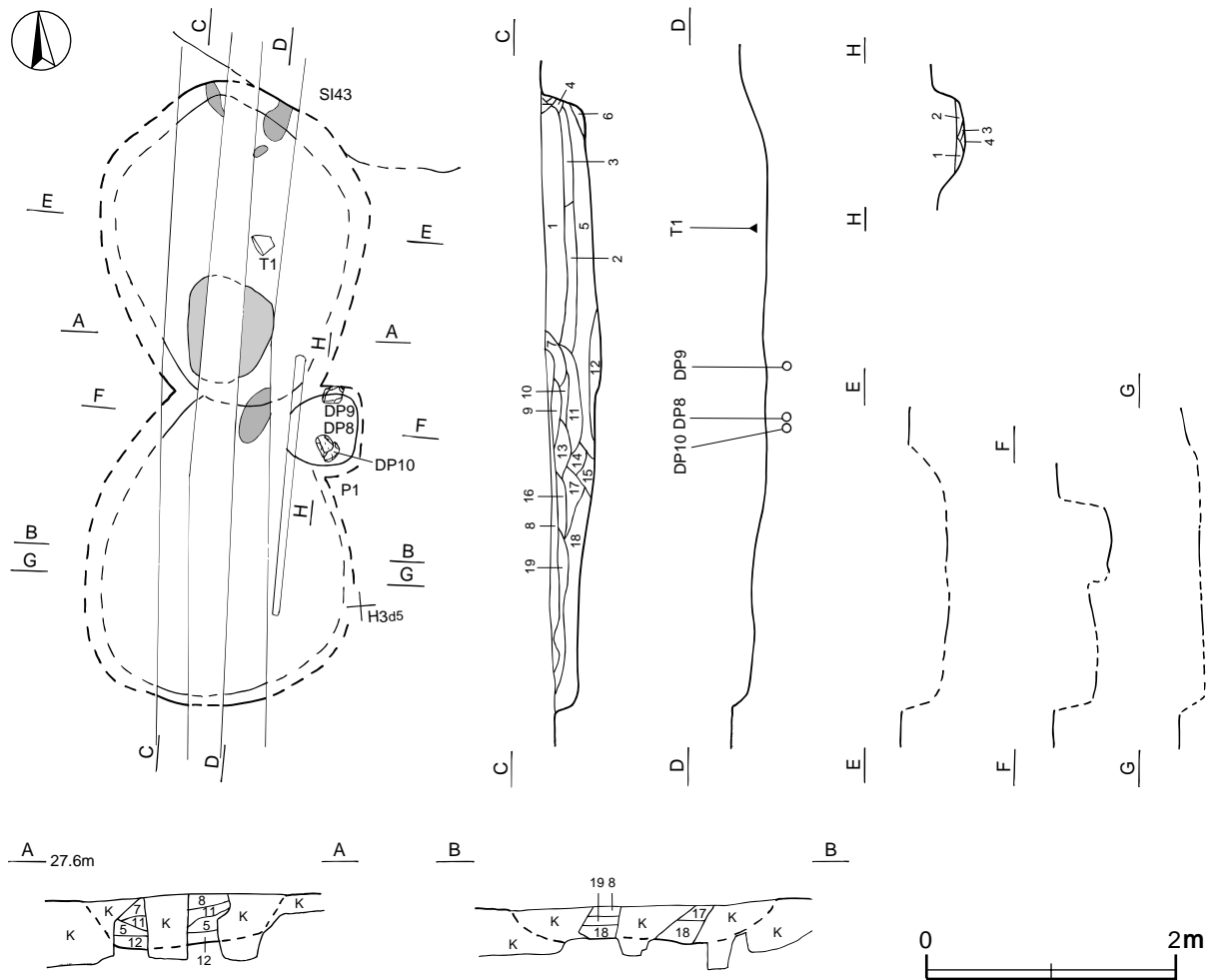
覆土 19層からなる。ローム及び焼土ブロックを含む不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。第5・12層は窯底部の堆積層と考えられる。

土層解説

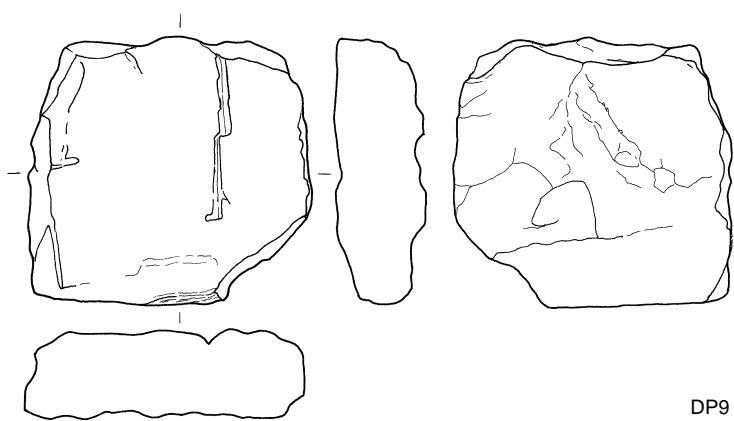
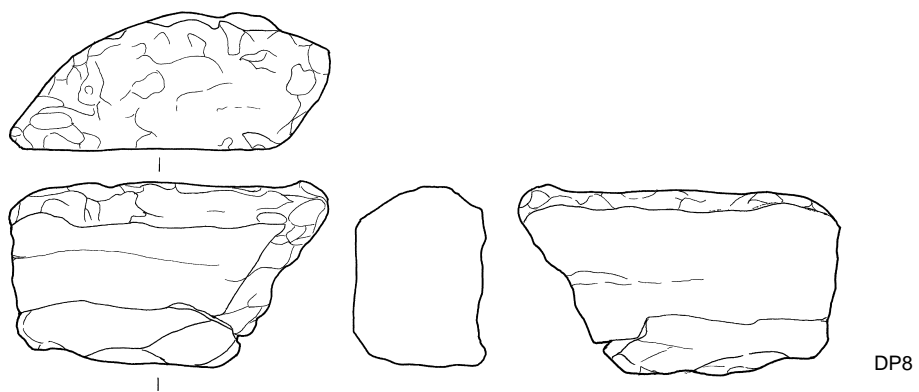
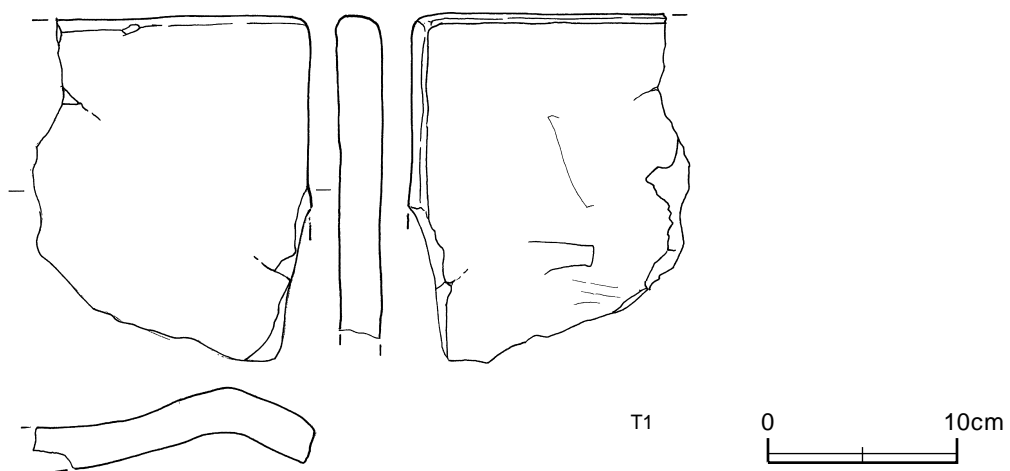
- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 | 10 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化粒子・砂粒少量, ローム粒子微量 |
| 2 にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 11 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化物・砂粒中量 |
| 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 | 12 にぶい赤褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量 | 13 褐色 粘土粒子・砂粒中量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子・砂粒少量 | 14 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 灰褐色 砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量 | 15 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 7 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子少量 | 16 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 | 17 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 9 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化物・砂粒少量, ローム粒子微量 | 18 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| | 19 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土製品55点（構築材）, 粘土塊8点, 自然石27点（構築材カ）, 瓦片20点（構築材カ）が, 炭化室中央部の覆土下層を中心に出土している。DP8～DP10はP1の底面, T1は炭化室中央部の覆土下層から出土している。

所見 形状から, 窯口と焚口を別とした大正期の窯と考えられる。



第206図 第1号炭焼窯跡実測図



第207图 第1号炭烧窑迹出土遗物实测图

第1号炭焼窯跡出土遺物観察表 (第207図)

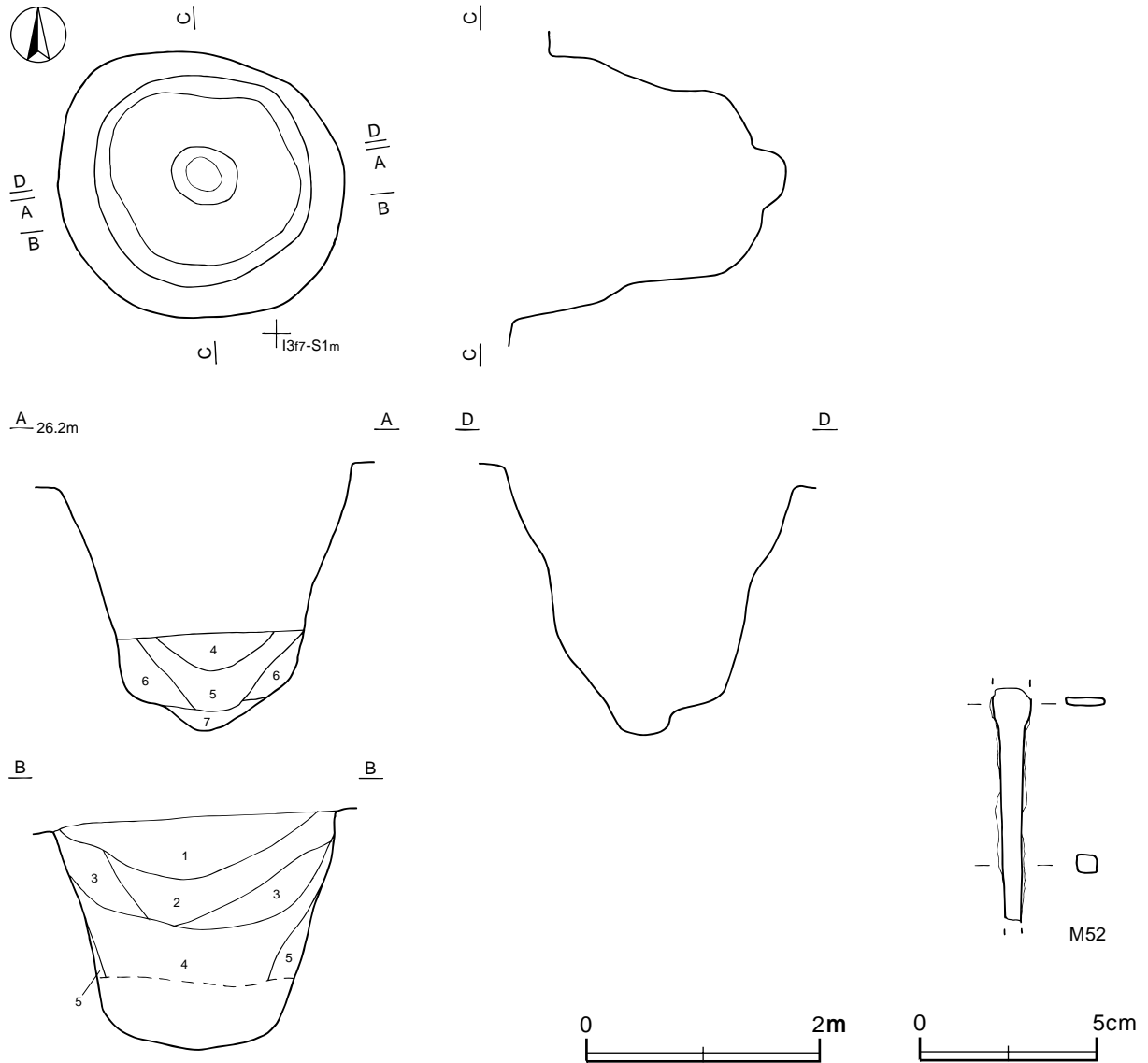
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP 8	構築材	12.4	21.1	9.2	1250.0	粘土	火熱痕あり	P 1底面	
DP 9	構築材	17.8	18.8	6.1	1380.0	粘土	火熱痕あり	P 1底面	
DP10	構築材	12.0	13.2	3.1	280.0	粘土	火熱痕あり	P 1底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T 1	瓦	(17.2)	(14.8)	2.3	(763.0)	粘土	棧瓦	炭化室 覆土下層	

(5) 大形円形土坑

第1号大形円形土坑 (S K131) (第208図)

位置 調査B区のI 3 e6区, 標高26mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。



第208図 第1号大形円形土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径2.60m，短径2.31mの楕円形で，深さ200cmの挿鉢状である。底面は長径1.40m，短径1.02mの楕円形で皿状を呈し，深さ22cmの掘り込みを有している。長径方向はN-44°-Wで，壁面は外傾して立ち上がっている。

覆土 7層からなる。全体的にレンズ状の堆積状況を呈しており，自然堆積と考えられる。

土層解説

1 灰褐色	ローム粒子少量	5 褐色	ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
2 褐色	ロームブロック中量	6 灰褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
3 褐色	ロームブロック中量，鹿沼パミス少量	7 灰褐色	粘土粒子少量，ローム粒子微量
4 褐色	ロームブロック中量，鹿沼パミス少量，炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片2点と金属製品1点（釘）が出土しているが，いずれも流れ込みおよび混入によるものと考えられる。M52は覆土中から出土している。

所見 本跡は台地の北側縁辺部付近に位置し，底面にくぼみを持つ挿鉢状の大形円形土坑であり，湧水もないことから，氷室状遺構の可能性が考えられる。時期は，出土土器が極めて少ないため特定することは困難である。

第1号大型円形土坑出土遺物観察表（第208図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M52	釘	(6.6)	1.1	0.5	(5.8)	鉄	脚部先端欠損 頭部はつぶれている	覆土中	PL47

(6) 井戸跡

第1号井戸跡（S K231）（第209図）

位置 調査B区のH6j4区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第7号溝に掘り込まれている。

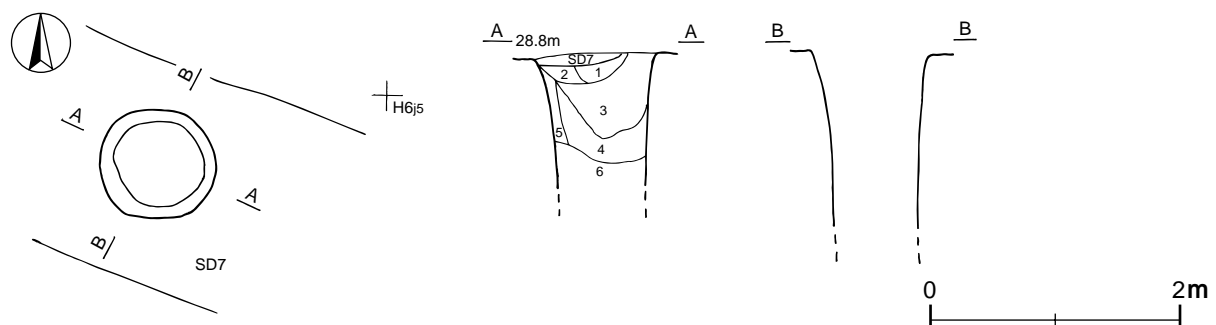
規模と形状 径0.92mの円形である。湧水のため確認できた深さは1.34mである。

覆土 6層からなる。各層とも粘土ブロックや砂粒を含み，ブロック状の不規則な堆積状況を呈していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量，粘土ブロック・鹿沼パミス微量	4 黒褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック・鹿沼パミス微量
2 暗褐色	ローム粒子・鹿沼パミス少量，粘土ブロック・砂粒微量	5 黒褐色	ロームブロック少量，粘土ブロック・鹿沼パミス微量
3 暗褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック・鹿沼パミス少量	6 褐色	ロームブロック中量，粘土ブロック・鹿沼パミス少量

所見 時期は，不明である。

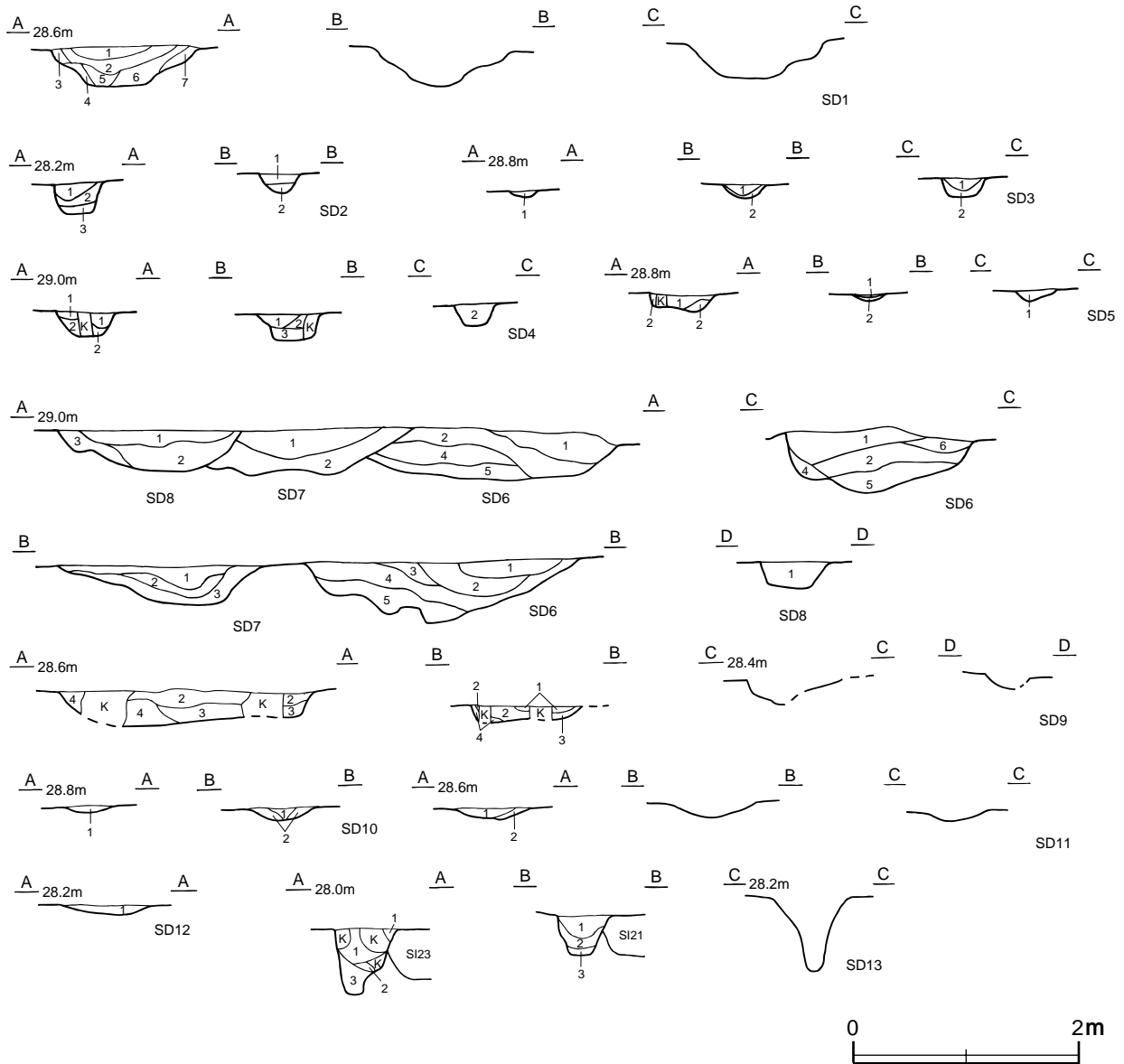


第209図 第1号井戸跡実測図

(7) 溝跡 (第210・239図)

溝跡13条を確認した。それぞれの概要については、次の通りである。調査A区には、第1号溝跡が北東から南西方向に延びている。調査B区には、第2・5・8号溝跡が南北方向に、第3・6・7号溝跡は東西方向に、第4号溝跡は東部をL字状に延びている。調査E区には、第9・10号溝跡が南北方向に、第11～13号溝跡が東西方向に延びている。第2～6・10～13号溝跡については、地図上の耕地界にほぼ一致し、根切り溝である可能性が想定される。第1号溝跡は地図上の植生界にほぼ一致するが、第2～6・10～13号溝跡と比べて規模がやや大きく性格は不明である。第7・8号溝跡については、耕地界や植生界が一致しないため不明である。第1・4・6～8号溝跡からは、縄文土器片や土師器片、須恵器片、土師質土器片、陶器片、石器が出土しているが、いずれも流れ込みによるものと考えられる。

以下、これらの溝跡について、平面図は全体図に示し、土層断面図及びエレベーション図を記載する。



第210図 第1～13号溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量

第2号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第3号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第4号溝跡土層解説

- 1 暗黒色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第5号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第6号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量（2より粘性強い）
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量（4より彩度が低い）

第7号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第8号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第9号溝跡土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第10号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第11号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第12号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第13号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

表13 溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面形	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
1	L4f5~ L4h3	N-48°-E	直線状	(11.83)	0.81~1.23	0.35~0.53	33~34	台形状	自然	縄文土器, 土師器, 須恵器	
2	I5c3~ I5h3	N-2°-E	直線状	18.24	0.30~0.48	0.16~0.24	17~26	U字状	自然	-	
3	J5a6~ J5a8	N-43°-E N-85°-W	L字状	(10.10)	0.21~0.44	0.10~0.30	7~16	U字状	自然	-	SD5 本跡
4	I5g8~ I6i2	N-88°-E N-8°-E	L字状	23.08	0.30~0.64	0.15~0.26	17~23	台形状	自然	縄文土器, 土師器, 須恵器	SI32, SD5 本跡
5	I5h8~ J5a8	N-2°-E	直線状	12.94	0.26~0.38	0.10~0.24	7~15	皿状	自然	-	本跡 SD3・4, SK179
6	H6i4~ H6i7	N-87°-E	直線状	(11.58)	1.10~1.90	0.30~0.87	45~53	皿状	自然	土師器, 須恵器, 土師管土器	SK227・228 本跡 SD7
7	H6j4~ H6j5	N-79°-W	直線状	6.01	1.12~1.76	0.46~0.74	32~41	皿状	自然	土師器, 須恵器, 土師管土器	SK231 SD6 本跡 SD8
8	H6j4~ I6c4	N-0°	直線状	12.17	0.67~1.04	0.40~0.66	25~36	皿状 台形状	自然	土師器, 須恵器, 土師管土器	SD7 本跡 SK244
9	J7h5~ K7c5	N-7°-W	直線状	[17.70]	0.42~1.04	0.18~0.70	10~23	皿状	自然	土師器, 須恵器	
10	J5d5~ J5j5	N-3°-E	直線状	20.84	0.36~0.65	0.14~0.30	6~10	皿状	自然	土師器	
11	K4a7~ J4j0	N-84°-E	直線状	(15.10)	0.35~0.79	0.10~0.31	7~14	皿状	自然	土師器, 須恵器	
12	J4b4~ J4b0	N-90°	直線状	(22.76)	0.06~1.08	0.28~0.68	7	皿状	自然	土師器, 須恵器	
13	I4h3~ I5h3	N-80°-W	直線状	[35.30]	0.67~1.04	0.40~0.66	25~36	台形状	自然	-	本跡 SI21・23

(8) 柱穴列跡

第1号柱穴列跡（第211図）

位置 調査A区のL3g0区～L4g1区、標高28mほどの台地の端部に位置している。

規模と構造 5か所の柱穴が直線状に確認された。軸方向はN-73°-Wで、柱間寸法は西から1.7m, 1.1m, 1.7m, 1.8mである。

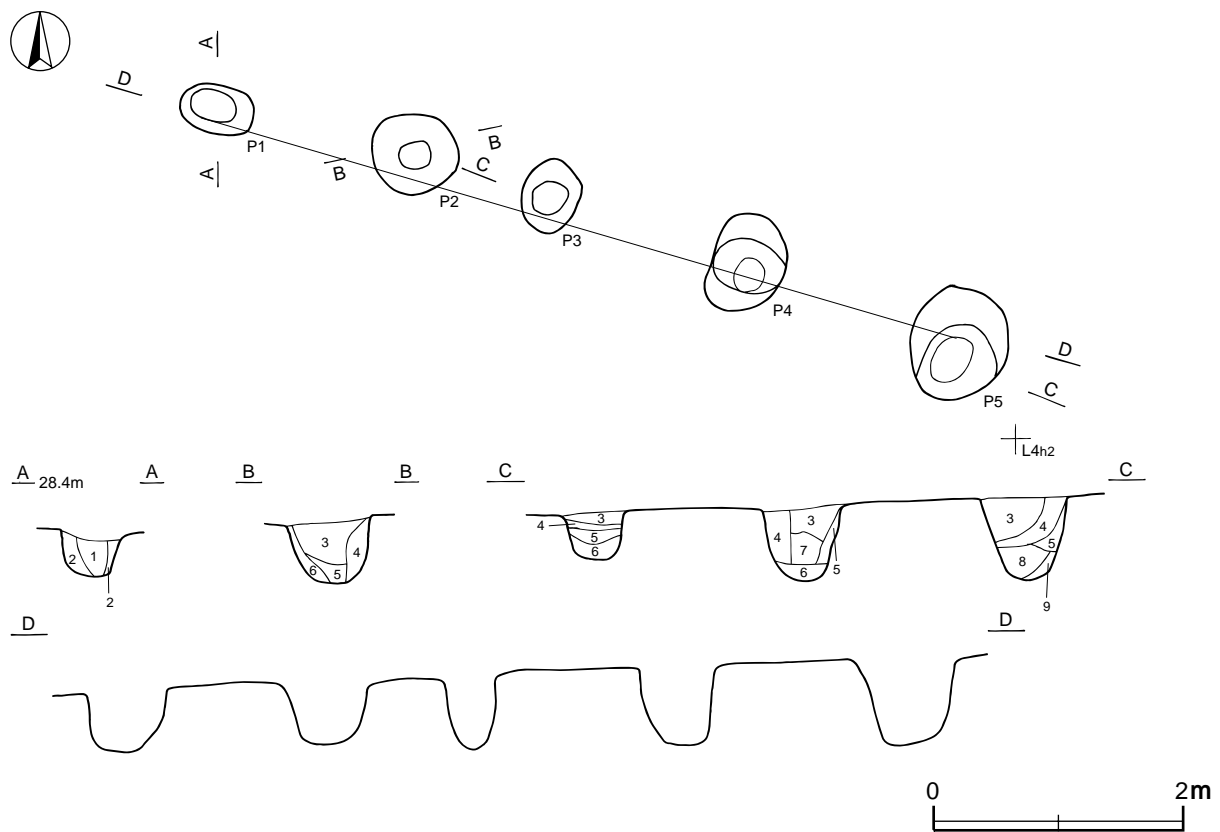
柱穴 平面形は円形を基調とし、深さは45~74cmである。土層は第1・3・7層は締まりの弱い暗褐色・黒褐色・極暗褐色土で柱痕跡、第2・4~6・8・9層はローム土を含む暗褐色・黒褐色土で埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量 (2より明度が低い) |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師器片17点(坏類4, 甕類13), 須恵器片5点(坏類1, 高台付坏1, 蓋2, 甕1)が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は、奈良・平安時代の可能性が考えられるが明確ではない。



第211図 第1号柱穴列跡実測図

第2号柱穴列跡 (第212図)

位置 調査A区のL3h8区~L4h1区, 標高28mほどの台地の端部から緩やかな斜面地に位置している。

規模と構造 5か所の柱穴が直線状に確認された。軸方向はN-84°-Wで、柱間寸法は西から2.1m, 1.8m, 2.1m, 4.2mである。

柱穴 平面形は円形を基調とし、深さは46~62cmである。土層は、第2~5・7~9層はローム土を含む黒褐色

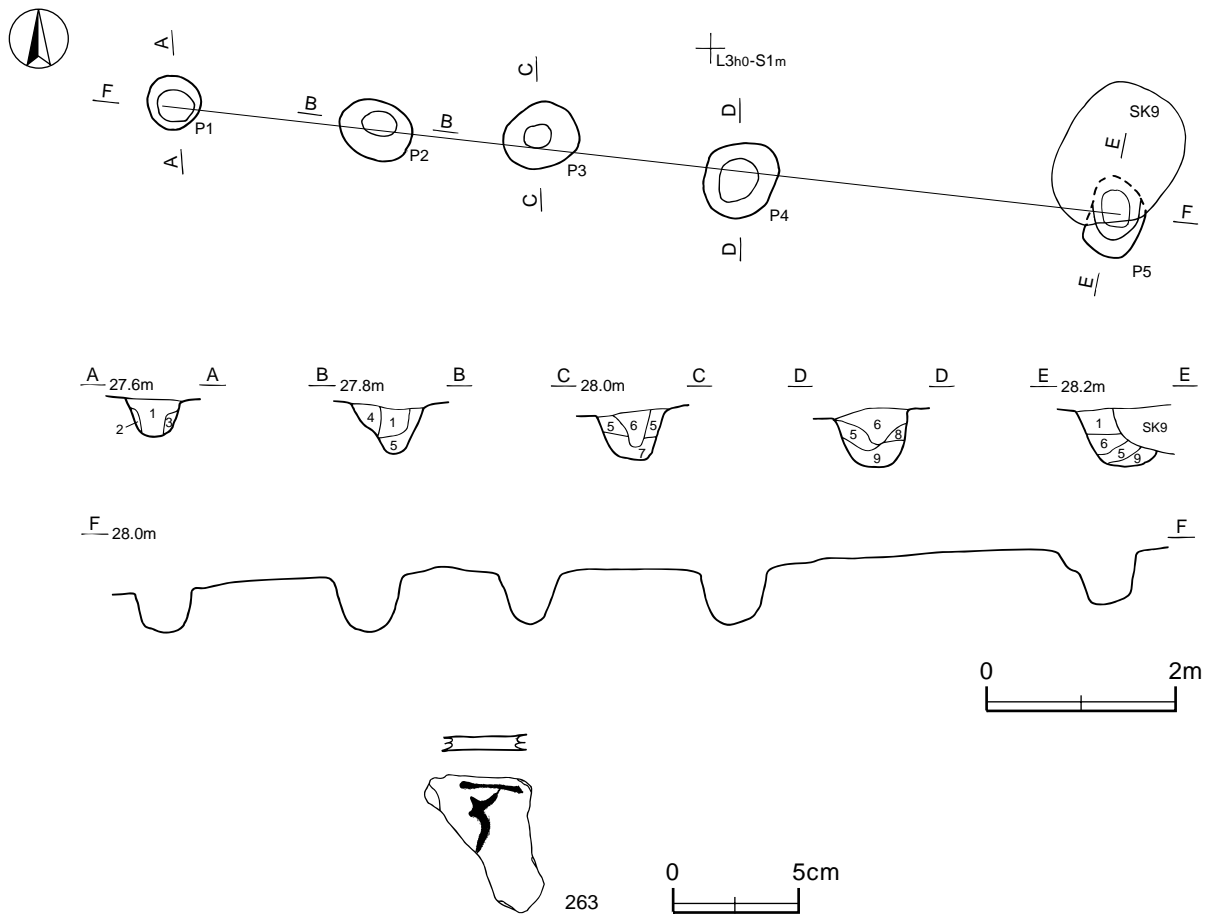
色・暗褐色・極暗褐色土で埋土，第1・6層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片17点（坏類4，甕類13），須恵器片5点（坏類1，高台付坏1，蓋2，甕1）が出土している。263は墨書土器で，P1から出土している。他は，いずれも細片のため図示できない。

所見 時期は，奈良・平安時代の可能性が考えられるが明確ではない。



第212図 第2号柱穴列跡・出土遺物実測図

第2号柱穴列跡出土遺物観察表 (第212図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
263	須恵器	坏	-	(0.6)	-	長石・雲母	灰黄	普通	底部一方向のヘラ削り	P1 覆土中	10% 墨書「」

第3号柱穴列跡 (第213図)

位置 調査B区のI 5 j9区，標高28mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と構造 3か所の柱穴が直線状に確認された。軸方向は，N-26 - Eで，柱間寸法は1.8mを基調として

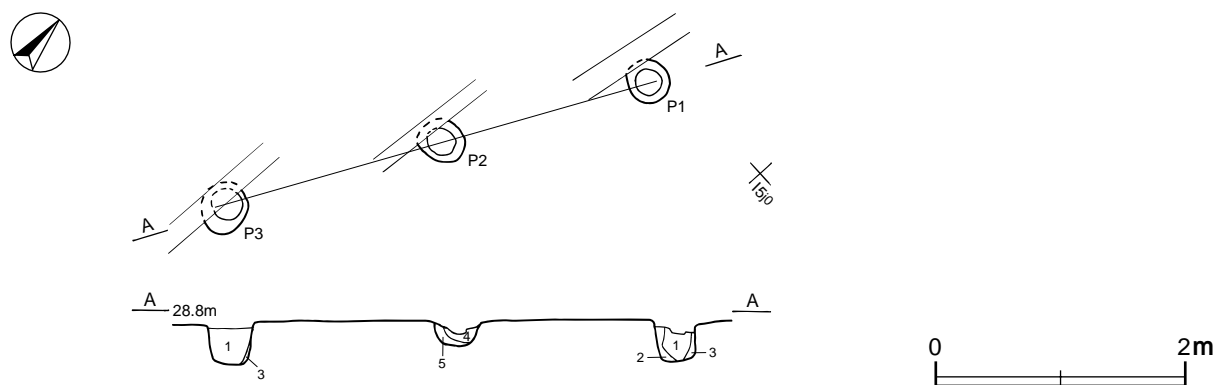
いる。

柱穴 平面形は円形を基調とし、深さは20～36cmである。土層は、第1・4層は締まりの弱い黒色土で柱痕跡、第2・3・5層はローム土を含む黒褐色土で埋土と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 (締まり弱い) |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 | | |

所見 遺物が出土していないため、時期は不明である。



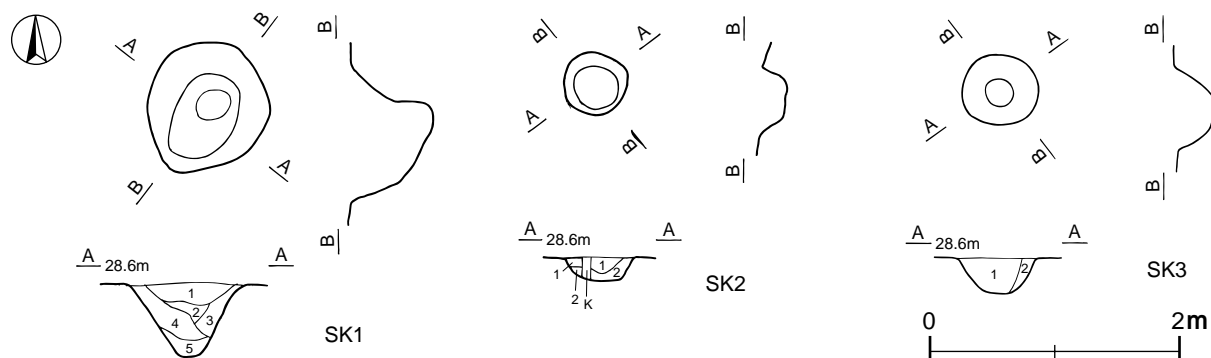
第213図 第3号柱穴列跡実測図

表14 柱穴列跡一覧表

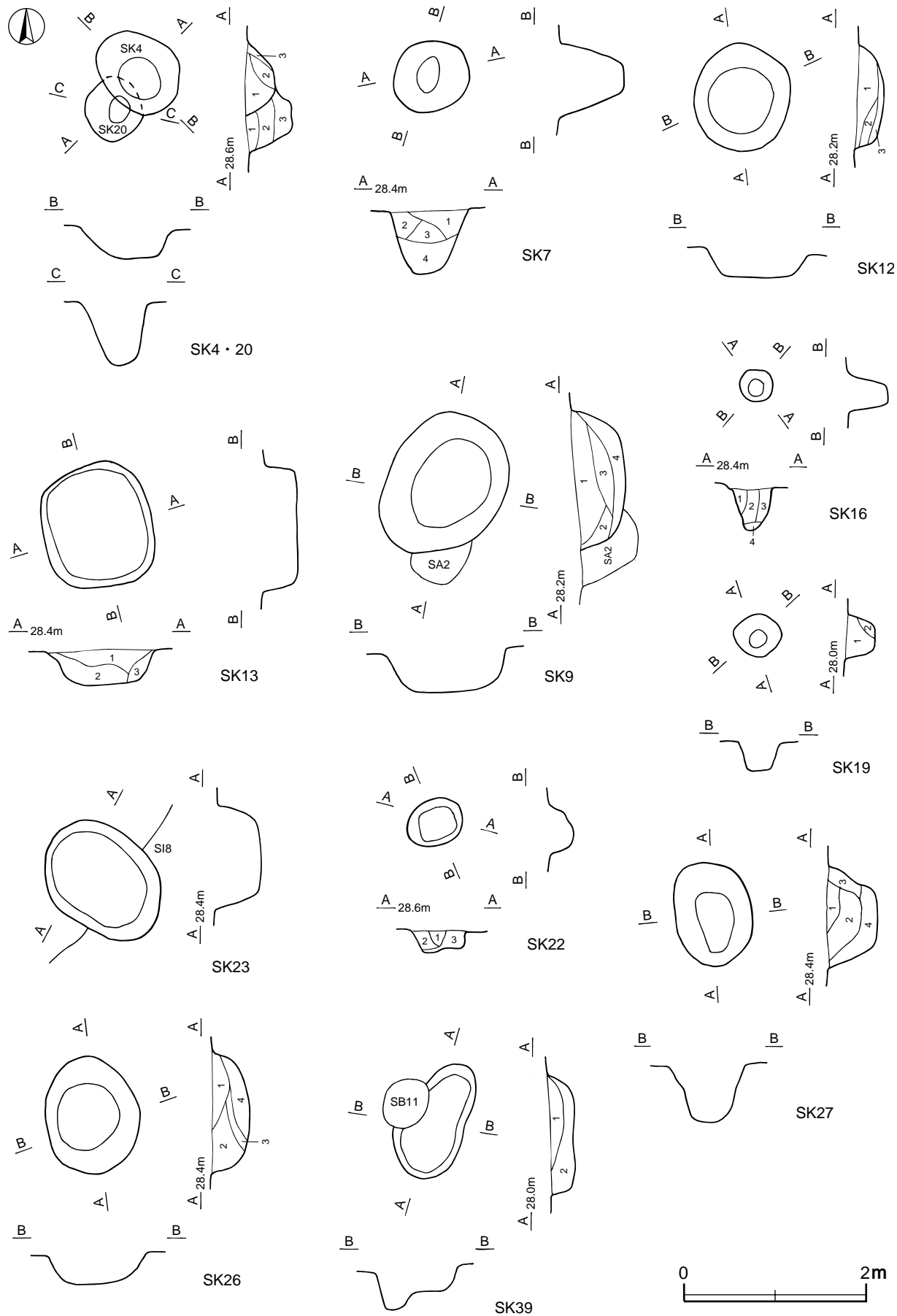
番号	位置	方向	長さ(m)	柱間(m)	柱穴				主な出土遺物	備考(時代・新旧関係)
					柱穴本数	平面形	径(cm)	深さ(cm)		
1	L 3 g0 ~ L 4 g1	N-73°-W	6.30	1.1 ~ 1.8	5	円形	38 ~ 90	45 ~ 74	土師器片, 須恵器片	
2	L 3 h8 ~ L 4 h1	N-84°-W	7.70	1.8 ~ 4.2	5	円形	42 ~ 61	46 ~ 62	土師器片, 須恵器片	
3	I 5 j9	N-26°-E	3.60	1.8	3	円形	30 ~ 42	20 ~ 36	-	

(9) 土坑 (第214～226図)

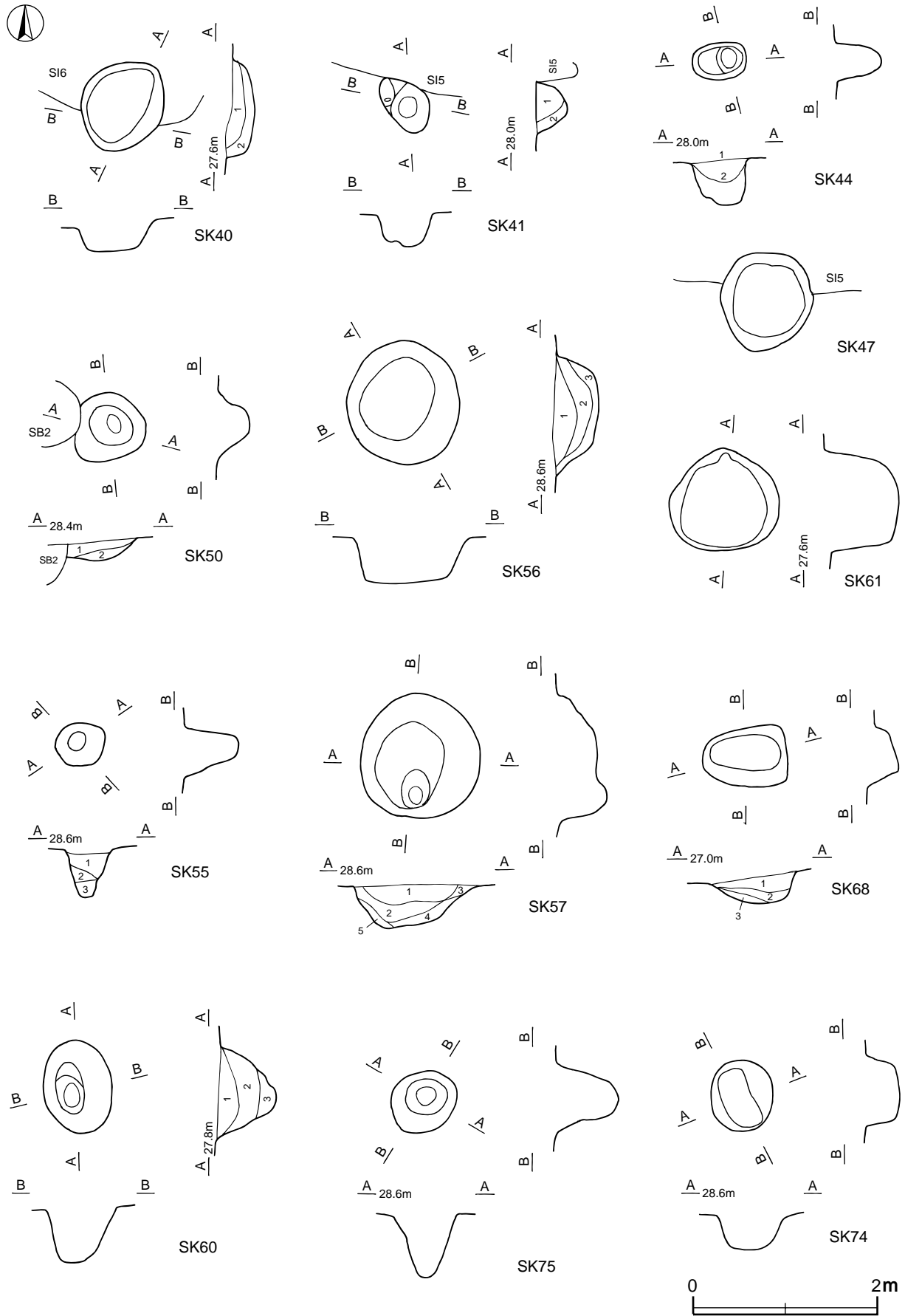
今回の調査で、時期や性格が不明な土坑195基が検出された。以下、これらの土坑の一部について実測図と土層解説を記載する。



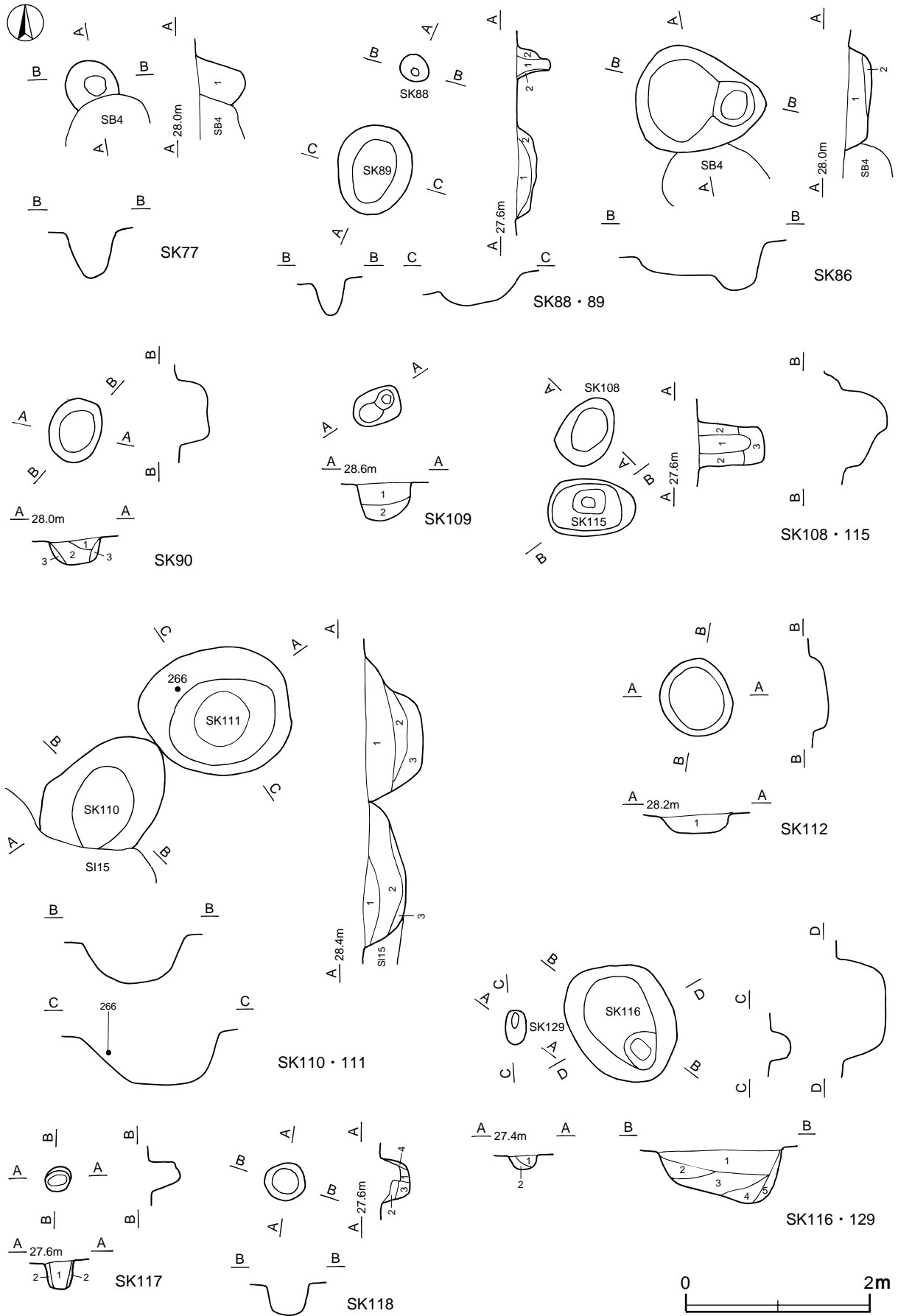
第214図 その他の土坑実測図(1)



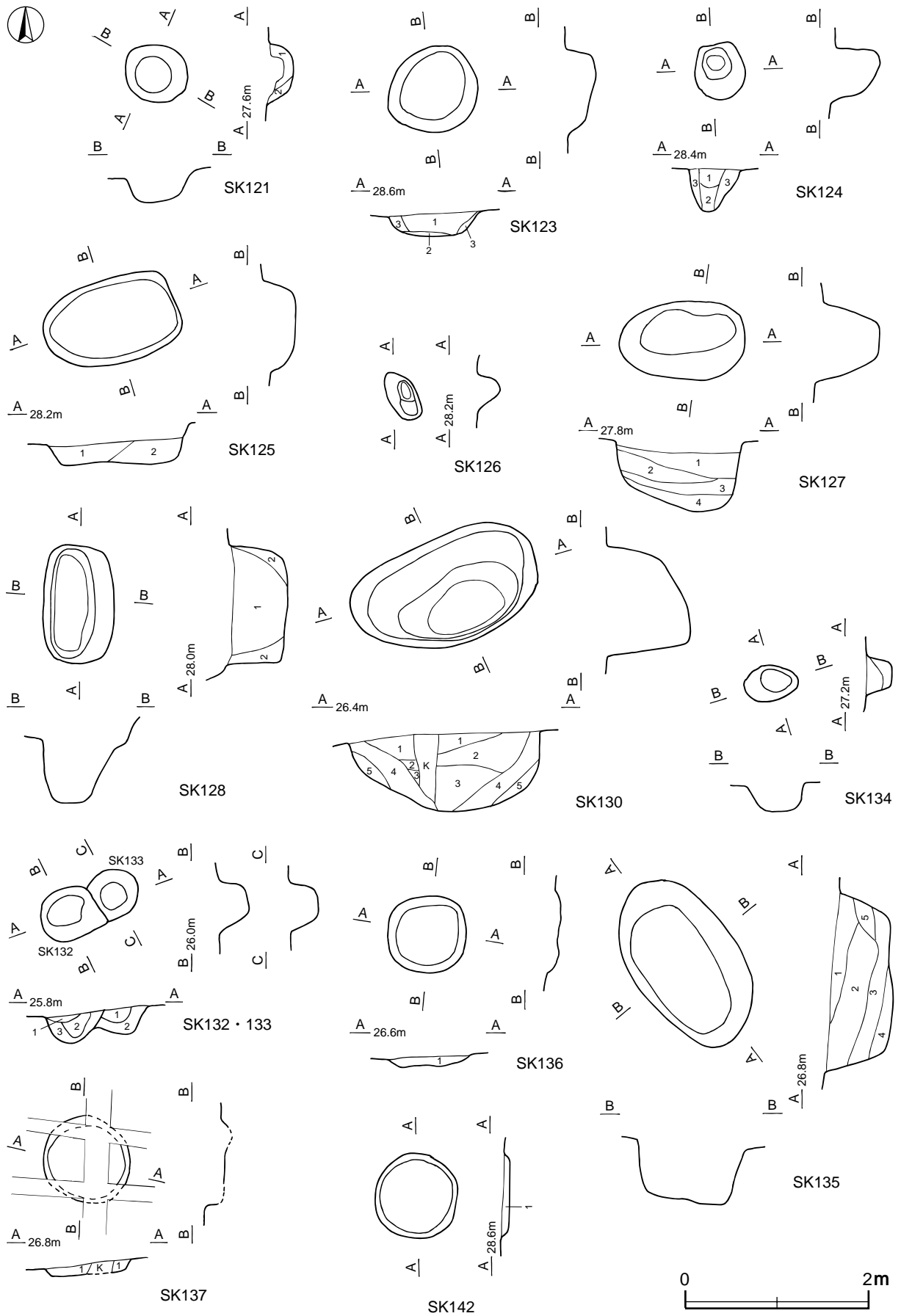
第215図 その他の土坑実測図(2)



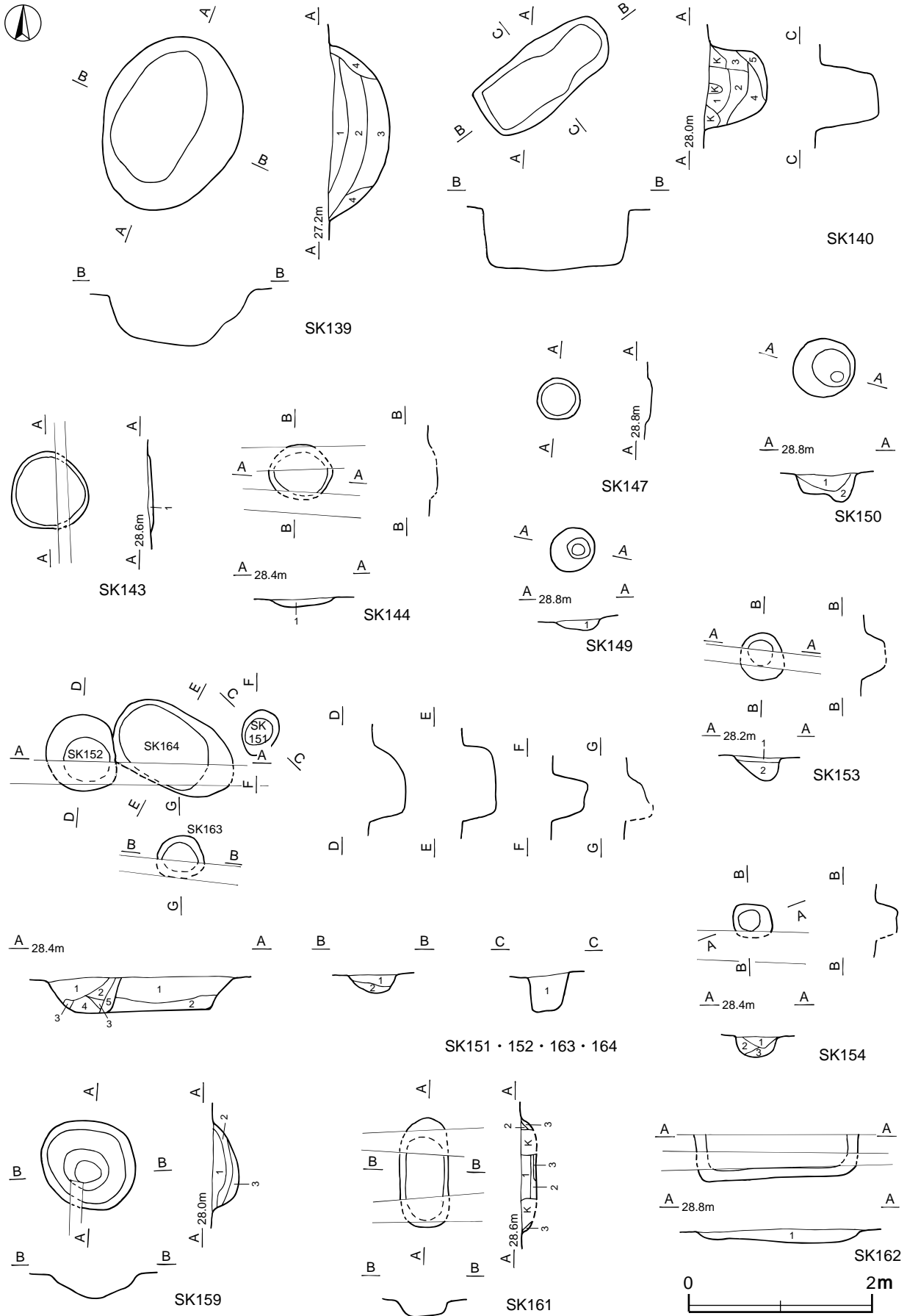
第216図 その他の土坑実測図(3)



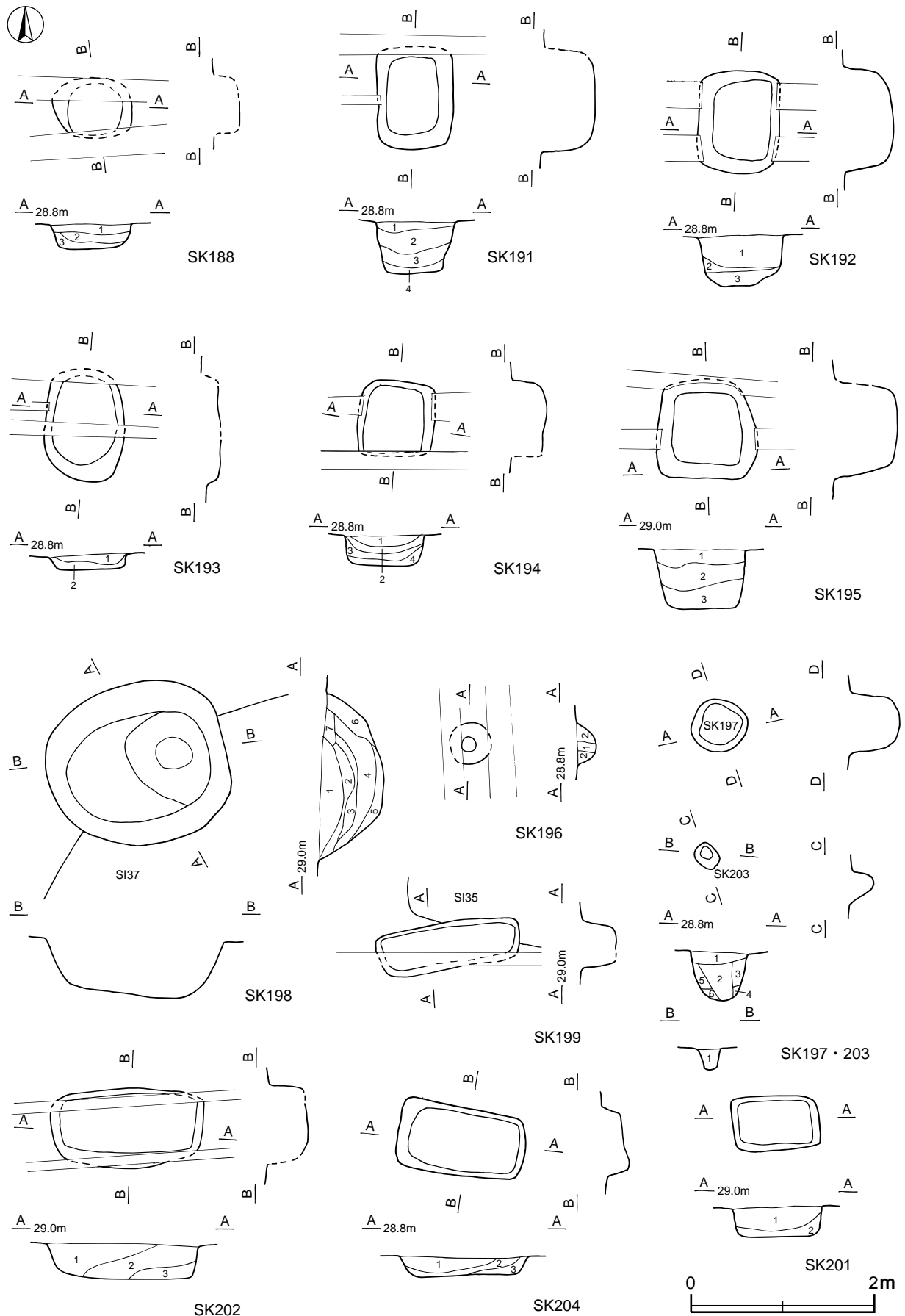
第217図 その他の土坑実測図(4)



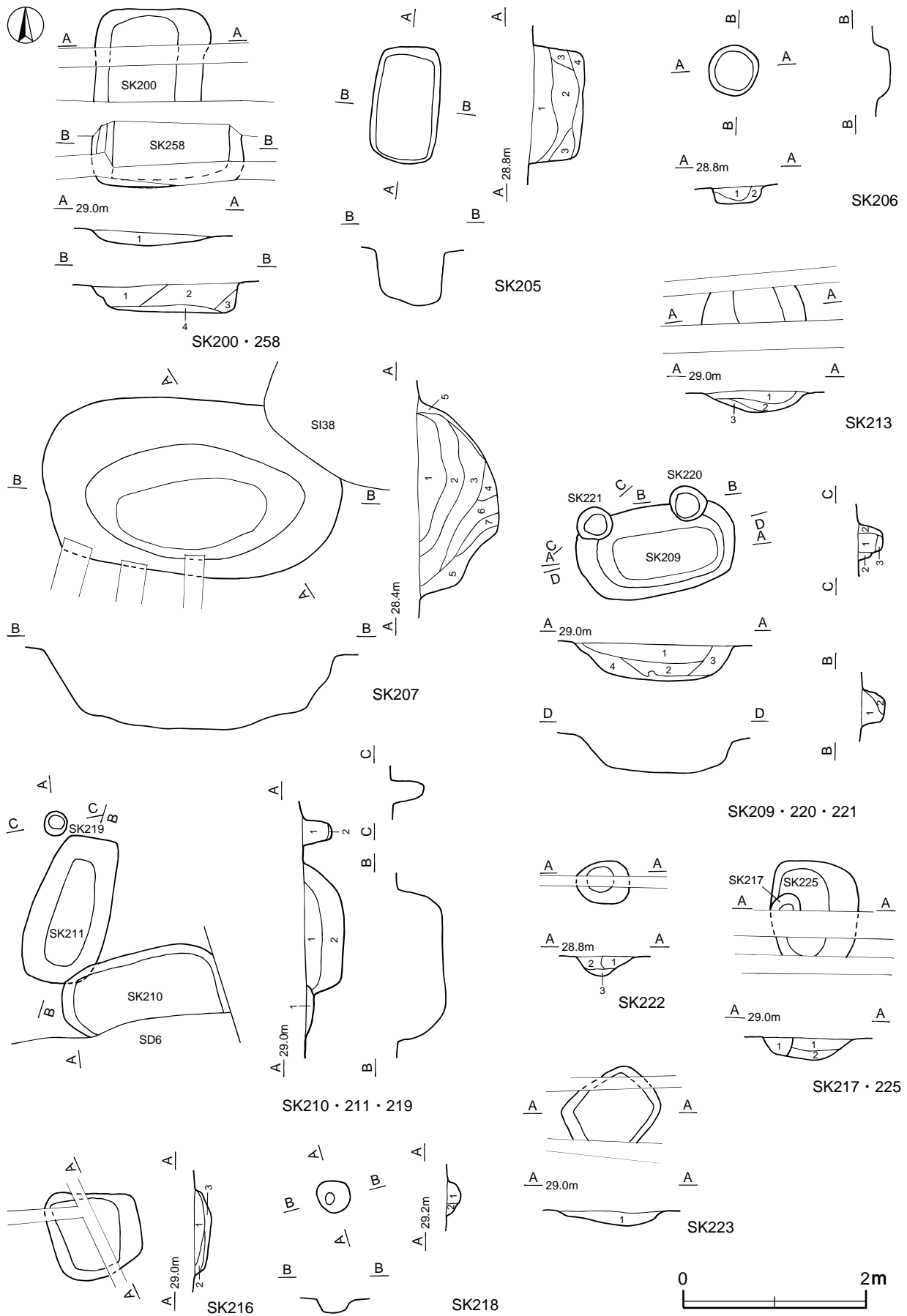
第218図 その他の土坑実測図(5)



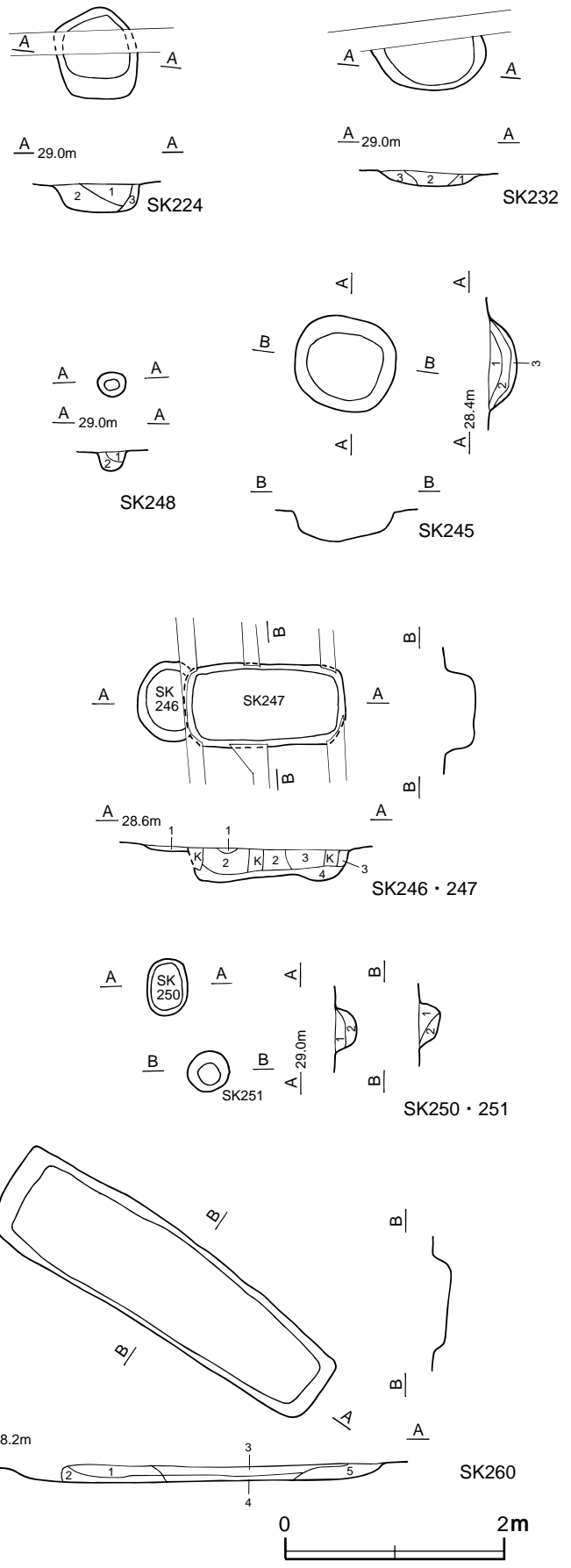
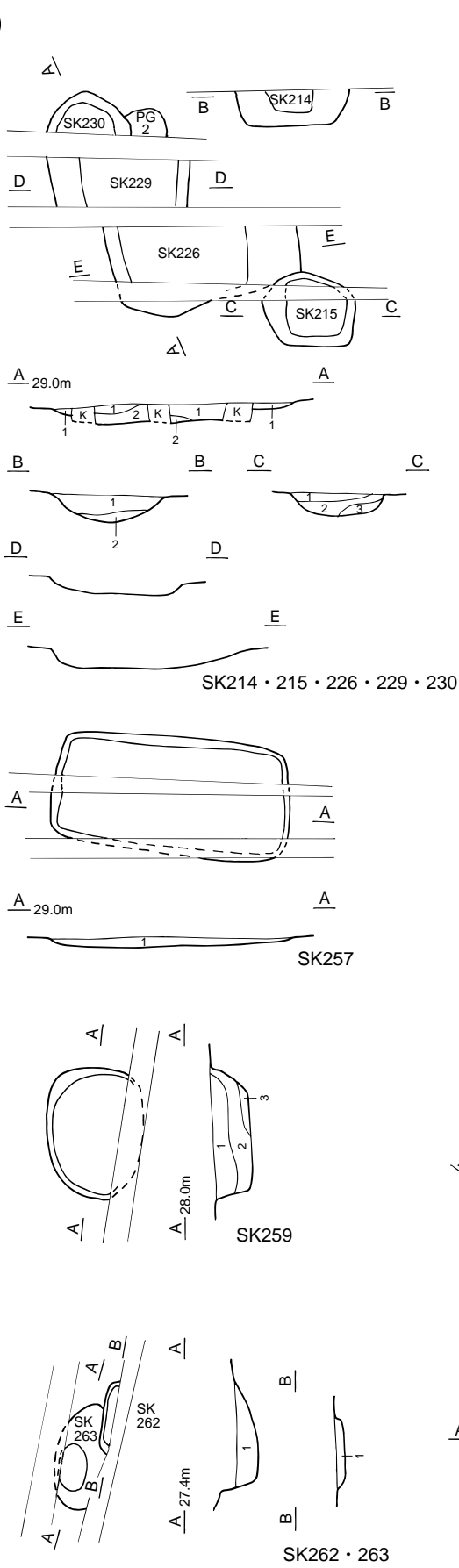
第219図 その他の土坑実測図(6)



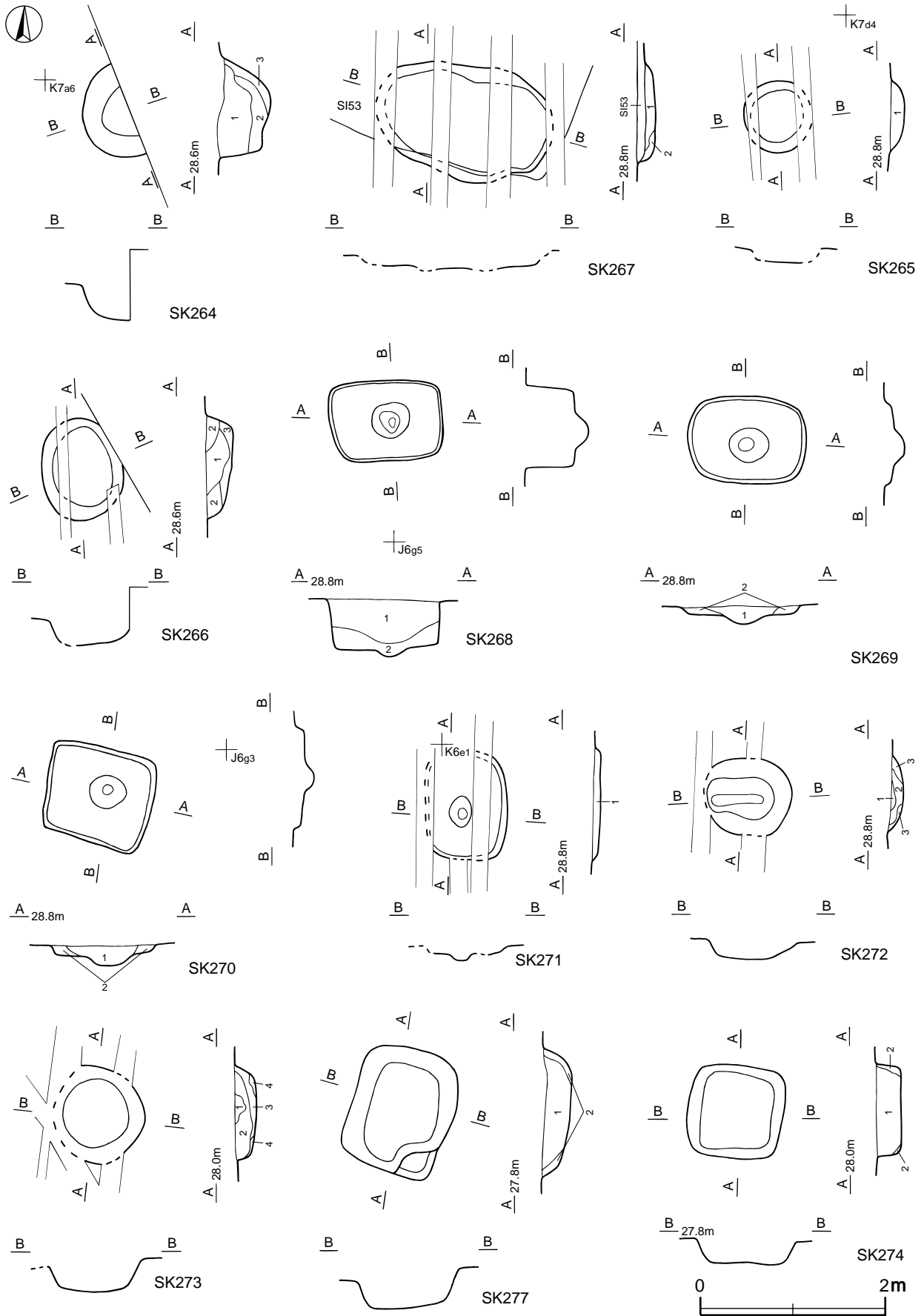
第220図 その他の土坑実測図(7)



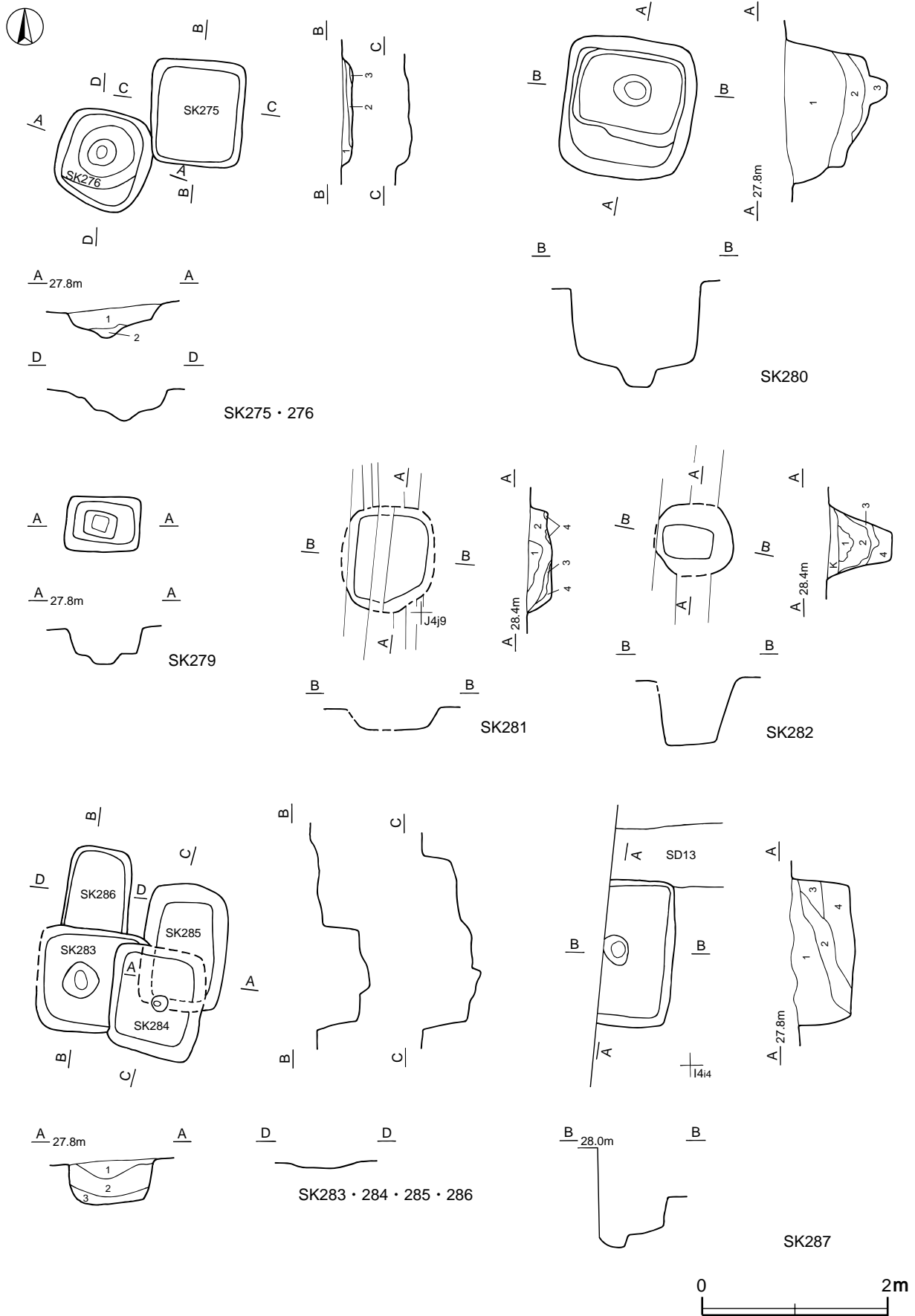
第221図 その他の土坑実測図(8)



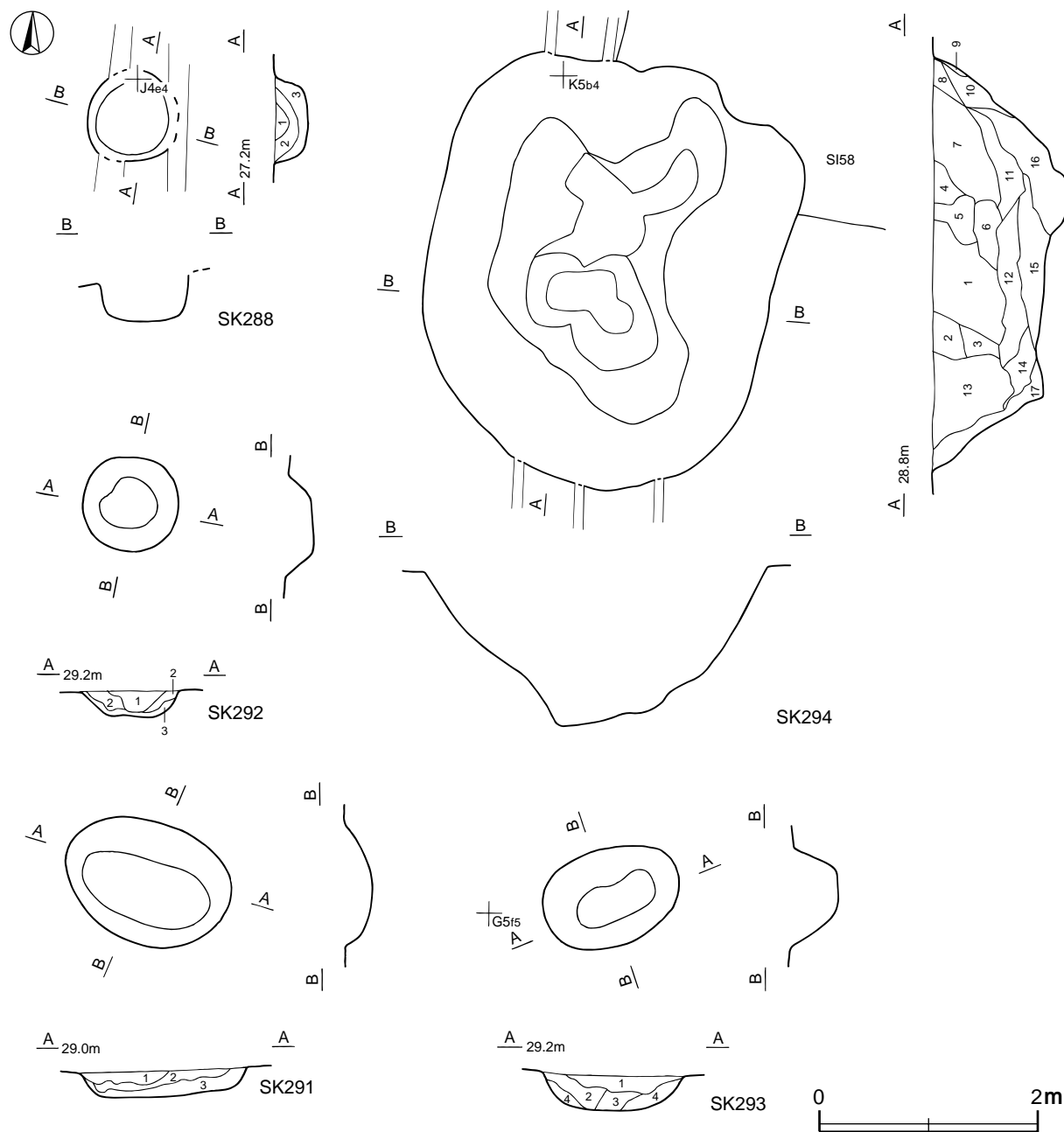
第222図 その他の土坑実測図(9)



第223図 その他の土坑実測図(10)



第224図 その他の土坑実測図(11)



第225図 その他の土坑実測図(12)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック微量

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子中量

第3号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 (1より彩度が低い)
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第7号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量(中ブロック含む)
- 4 黒 褐色 ロームブロック微量

第12号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第13号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第16号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 灰 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

第19号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第20号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量

第22号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第26号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 灰 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 (3より彩度が低い)

第39号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第40号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第41号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量

第44号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第50号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第55号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量

第56号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子微量

第57号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

第60号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼パミス微量

第68号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第77号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第86号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第88号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第89号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第90号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第108号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量

第109号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

第110号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第111号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第112号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子微量

第116号土坑土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第117号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量（1より粘性・締まりとも強い）

第118号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量（1より締まりが強い）
- 4 褐色 ロームブロック中量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第123号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第124号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第125号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第127号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量（中ブロックを含む）
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第128号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第129号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第130号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量，鹿沼パミス少量
- 5 褐色 ロームブロック中量（3より締まり強い）

第132号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量

第133号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第134号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第135号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量（1より粘性・締まり強い）
- 4 暗褐色 ロームブロック少量（中ブロック含む）
- 5 褐色 ローム粒子中量

第136号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

第137号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第139号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量（1より粘性強い）

第140号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量（3より彩度が高い）
- 5 暗褐色 ローム粒子・鹿沼パミス少量，炭化粒子微量

第142号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第143号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第144号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第149号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量

第150号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第151号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第152号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子少量

第153号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第154号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子微量

第159号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第161号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第162号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第163号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量（1より彩度が高い）

第164号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第188号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック微量

第191号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量 (1より彩度が高い)
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量

第192号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第193号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第194号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 黒 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子少量 (1より縮まり弱い)

第195号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 色 ロームブロック微量

第196号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

第197号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量 (1より彩度が高い)
- 4 極暗褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量 (中ブロックを含む)
- 6 極暗褐 色 ロームブロック少量 (4より縮まり強い)

第198号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 黒 褐 色 炭化物中量, ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 5 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 6 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量

第200号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量

第201号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 色 ローム粒子微量

第202号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量

第203号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第222号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第223号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量

第224号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

第225号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量

第226号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第229号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第230号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量

第232号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量 (1より縮まり強い)
- 3 黒 褐 色 ローム粒子微量 (1・2より彩度が高い)

第245号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子少量

第246号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量

第247号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 4 黒 色 ローム粒子微量

第248号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第250号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第251号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子少量

第257号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第258号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 黒 色 ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック微量

第259号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量 (小ブロックを含む)
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第260号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物少量, ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 暗 褐 色 炭化物・ローム粒子微量
- 4 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

第262号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第263号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第264号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第265号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量

第266号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ローム粒子多量

第267号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量

第268号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック多量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック中量

第269号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック多量
- 2 黒 色 ロームブロック中量

第270号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子多量
- 2 黒 色 ロームブロック多量, 焼土粒子微量

第271号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第272号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第273号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子多量

第274号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量

第275号土坑土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第276号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第277号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量

第280号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス少量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 鹿沼パミス少量
- 3 黒 褐 色 鹿沼パミス少量, ロームブロック微量

第281号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 4 明 褐 色 ロームブロック中量

第282号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 褐 色 ローム粒子中量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量

第285号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・鹿沼パミス少量, 炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第287号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量

第288号土坑土層解説

- 1 褐 色 炭化物少量
- 2 褐 色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック微量

第291号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量

第292号土坑土層解説

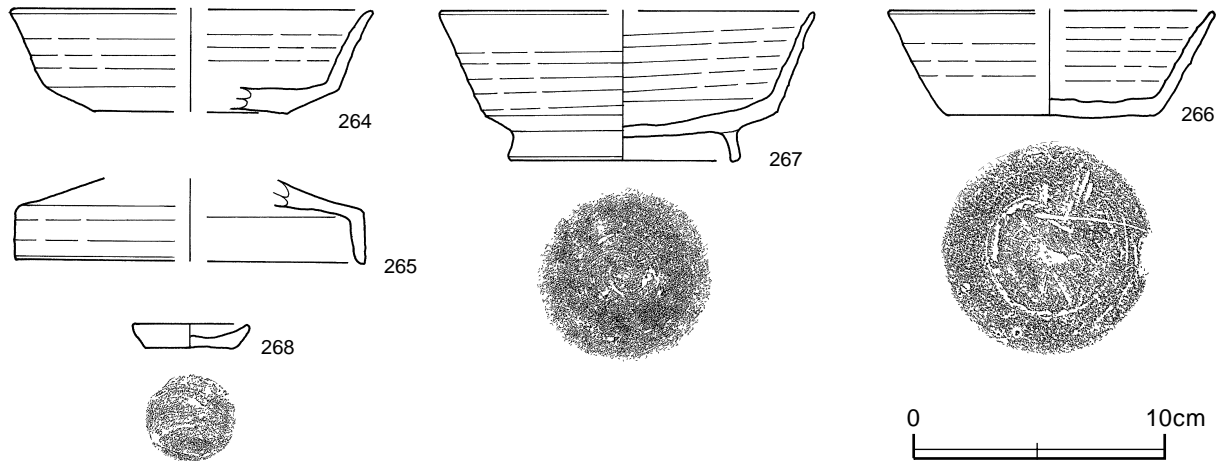
- 1 極 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量

第293号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 3 褐 色 ロームブロック多量
- 4 褐 色 ローム粒子多量

第294号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量, 鹿沼パミス微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 黒 褐 色 炭化粒子多量, ロームブロック少量
- 4 褐 色 鹿沼パミス中量, ロームブロック微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量
- 6 褐 色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 7 明 黄 褐 色 鹿沼パミス多量, ロームブロック微量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子少量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 10 極 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 11 暗 褐 色 ロームブロック多量, 鹿沼パミス中量
- 12 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 13 黒 色 ローム粒子微量
- 14 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 15 褐 色 ロームブロック多量
- 16 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 17 褐 色 炭化粒子多量, ロームブロック少量



第226図 第44・56・111・123・210号土坑出土遺物実測図

第44号土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
264	須恵器	坏	[14.2]	4.1	[7.6]	長石	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中	20%

第56号土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
265	須恵器	蓋	[13.8]	(3.3)	-	長石	灰黄	普通	天井部外面口クロナデ	覆土中	20% 自然釉付着

第111号土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
266	須恵器	坏	[12.8]	4.2	8.2	長石	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	覆土上層	60% PL33

第123号土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
267	須恵器	高台付坏	[14.7]	5.9	9.0	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	覆土中	90% PL34

第210号土坑出土遺物観察表 (第226図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
268	土師質土器	小皿	4.5	1.0	3.6	長石・雲母・赤色粒子	にびい橙	普通	ロクロ成型 底部回転系切り	覆土中	90% PL33

表15 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	L 4 g4	N-25°-E	楕円形	1.18×0.97	65	外傾	皿状	自然	土師器, 須恵器	
2	L 4 f5	N-0°	円形	0.52×0.50	20	外傾	平坦	自然	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
3	L 4 g4	N-90°	楕円形	0.62×0.55	28	外傾	皿状	人為	-	
4	L 4 h3	N-45°-W	楕円形	0.95×0.85	30	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	SK20 本跡
7	L 4 g1	N-53°-E	楕円形	0.89×0.78	70	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
9	L 4 h1	N-35°-E	隅丸長方形	1.60×1.27	44	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
12	L 3 e9	N- 0°	円形	1.16×1.05	29	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
13	L 3 e0	N-13°-W	隅丸長方形	1.34×1.18	37	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
16	L 3 d0	N- 0°	円形	0.38×0.35	42	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
19	L 3 e9	N- 0°	円形	0.51×0.50	34	外傾	平坦	自然	土師器	
20	L 4 h3	N-10°-E	楕円形	0.74×0.65	70	外傾	皿状	自然	土師器	本跡 SK 4
22	L 4 h2	N-60°-E	楕円形	0.74×0.52	25	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
23	L 4 c1	N-50°-W	楕円形	1.41×1.08	50	外傾	平坦	不明	土師器, 須恵器	SI 8 本跡
26	L 4 c1	N- 0°	楕円形	1.28×1.07	32	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
27	L 3 b0	N-15°-W	隅丸長方形	1.12×0.92	62	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
29	L 3 d8	N-64°-E	円形	0.43×0.41	17	外傾	平坦	人為	土師器	
33	1 3 d8	N-34°-E	円形	0.46×0.43	34	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	本跡 SB11
35	L 3 a8	N- 5°-E	楕円形	0.32×0.27	42	外傾	皿状	人為	-	
36	L 3 e8	N- 0°	円形	0.40×0.40	30	外傾	皿状	人為	-	
38	L 3 e8	N-68°-E	楕円形	0.44×0.38	35	外傾	平坦	人為	須恵器	
39	L 3 e8	N-23°-E	楕円形	1.33×0.76	29	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	本跡 SB11
40	L 3 e6	N-35°-W	楕円形	1.04×0.85	30	外傾	平坦	自然	土師器	SI 6 本跡
41	L 3 e8	N-42°-W	楕円形	0.70×0.48	35	緩斜	皿状	自然	土師器	SI 4 本跡
42	L 3 e7	N- 6°-E	円形	0.42×0.39	32	外傾	平坦	不明	土師器, 須恵器	SI 4 本跡
43	L 3 d7	N-23°-E	円形	0.36×0.38	26	外傾	平坦	自然	陶器	
44	L 3 d7	N-81°-E	楕円形	0.59×0.40	48	直立	平坦	自然	須恵器	
45	L 3 d7	N- 0°	円形	0.42×0.42	31	直立	平坦	自然	土師器, 須恵器	
46	L 4 c1	N-68°-E	楕円形	0.58×0.38	33	外傾	平坦	不明	-	SI 8 本跡
47	L 3 g7	N- 0°	円形	1.09×1.00	72	外傾	平坦	不明	-	SI 5 本跡
50	K 4 j1	N-29°-E	楕円形	0.79×0.72	35	外傾	皿状	自然	-	本跡 SB 2
55	L 4 f4	N-57°-E	楕円形	0.45×0.49	60	外傾	皿状	人為	-	
56	K 4 j3	N- 0°	円形	1.33×1.23	50	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
57	K 4 i3	N- 0°	円形	1.35×1.32	43	外傾 緩斜	平坦	自然	土師器	
58	L 4 f1	N- 0°	円形	0.52×0.50	38	外傾	皿状	不明	-	SI 2 本跡
60	L 3 i0	N-10°-W	楕円形	1.03×0.73	57	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
61	L 3 g7	N-90°	楕円形	1.18×1.10	80	緩斜	平坦	人為	須恵器	SI 5 本跡
68	K 3 j4	N-83°-E	楕円形	0.91×0.65	30	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
74	L 4 f2	N-23°-W	楕円形	0.77×0.70	38	外傾	平坦	不明	須恵器	
75	L 4 g2	N-49°-E	楕円形	0.74×0.65	68	外傾	皿状	不明	-	
77	K 3 i7	N-25°-W	[楕円形]	(0.45)×0.57	50	外傾	皿状	自然	-	本跡 SB 4
86	K 3 j7	N-90°	楕円形	1.38×1.07	50	外傾	平坦	自然	-	SB 4 本跡
88	K 3 h4	N-55°-W	楕円形	0.35×0.33	38	外傾	皿状	人為	須恵器	
89	K 3 h4	N-17°-E	楕円形	0.97×0.92	22	緩斜	平坦	自然	-	
90	L 3 b7	N-18°-E	楕円形	0.70×0.55	32	外傾	平坦	人為	須恵器	
108	L 3 i8	N-28°-E	楕円形	[0.75]×0.60	71	外傾	平坦	人為	-	
109	K 4 j4	N-57°-E	楕円形	0.57×0.37	41	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
110	K 4 e1	N-36°-E	楕円形	1.40×1.05	46	外傾	皿状	自然	土師器	SI15 本跡
111	K 4 e1	N-68°-E	楕円形	1.53×1.48	56	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
112	K 4 b3	N- 0°	円形	0.80×0.78	16	外傾	平坦	人為	土師器	
115	L 3 i8	N-90°	楕円形	0.94×(0.54)	46	外傾	皿状	不明	-	
116	L 3 a5	N-31° -W	楕円形	1.40×1.09	52	外傾	平坦	人為	-	
117	L 3 b6	N- 0°	円形	0.28×0.28	32	外傾	平坦	人為	-	
118	L 3 h8	N- 0°	円形	0.43×0.43	33	外傾	皿状	人為	-	
121	L 3 i9	N- 0°	円形	0.71×0.65	22	外傾	皿状	人為	-	
123	K 4 i2	N-46° -E	円形	1.00×0.92	28	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
124	K 4 i2	N- 9° -W	円形	0.60×0.58	50	外傾	皿状	人為	土師器	
125	K 3 j9	N-74° -E	隅丸長方形	1.44×0.90	30	外傾	平坦	人為	-	
126	K 4 d3	N-26° -W	楕円形	0.56×0.30	43	外傾	皿状	不明	-	SI16 本跡
127	K 3 i7	N-73° -E	楕円形	1.38×0.88	64	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
128	K 3 i8	N- 0°	隅丸長方形	1.30×0.78	66	外傾	平坦	自然	-	
129	L 3 a5	N- 2° -W	楕円形	0.36×0.25	21	外傾	皿状	自然	土師器	
130	I 3 h5	N-68° -E	楕円形	2.08×1.09	85	外傾	皿状	自然	磨石	
132	I 3 h4	N-66° -E	円形	0.60×0.58	34	外傾	平坦	人為	-	SK133 本跡
133	I 3 h4	N-35° -W	円形	0.44×(0.40)	30	外傾	平坦	人為	-	本跡 SK132
134	I 5 g0	N-81° -E	楕円形	0.60×0.42	29	外傾	平坦	自然	縄文土器	
135	I 3 f8	N-37° -W	楕円形	1.94×1.16	62	外傾	平坦	人為	土師器	
136	I 4 c5	N- 0°	円形	0.42×0.42	6	緩斜	平坦	人為	-	
137	I 4 d5	N- 0°	円形	0.47×0.47	8	外傾	平坦	人為	土師器	
139	I 3 h0	N-27° -E	楕円形	1.93×1.52	60	緩斜	平坦	自然	-	
140	I 4 e9	N-54° -E	長方形	1.59×0.72	68	外傾	平坦	人為	-	
142	I 5 i5	N- 0°	円形	0.92×0.89	5	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
143	I 5 i5	N- 0°	円形	0.87×0.85	5	外傾	平坦	人為	-	
144	I 5 c3	N-88° -W	楕円形	0.71×[0.60]	9	緩斜	平坦	人為	土師質土器	
147	I 5 f9	N- 0°	円形	0.47×0.46	5	外傾	皿状	不明	-	
149	I 5 i7	N-45° -E	楕円形	0.52×0.46	11	緩斜	皿状	人為	-	SI28 本跡
150	I 5 i6	N-73° -W	円形	0.67×0.64	30	外傾	皿状	自然	土師器	SI28 本跡
151	I 5 b6	N- 0°	楕円形	0.50×0.40	40	外傾	平坦	人為	-	
152	I 5 b4	N- 0°	円形	0.80×0.74	36	外傾 緩斜	平坦	人為	-	
153	I 5 b3	N- 0°	円形	0.50×0.48	25	外傾	平坦	人為	-	
154	I 5 a3	N- 0°	円形	0.42×0.38	20	外傾	平坦	人為	須恵器	
155	I 5 c5	N- 0°	円形	0.46×0.44	40	外傾	平坦	人為	-	
156	I 5 h9	[N- 0°]	[円形]	0.49×(0.21)	21	外傾	平坦	人為	-	
157	I 5 i9	[N- 0°]	[円形]	0.48×(0.24)	44	外傾	平坦	人為	-	
158	I 5 i9	[N- 0°]	[円形]	0.49×(0.21)	21	外傾	平坦	人為	須恵器	
159	I 5 h0	N-48° -W	円形	1.08×0.97	28	緩斜	皿状	自然	-	
160	I 5 h4	N-51° -W	[楕円形]	(0.40)×0.32	20	緩斜	皿状	人為	-	
161	I 5 c7	N- 0°	隅丸長方形	1.20×0.54	18	緩斜	平坦	自然	-	
162	I 5 b9	[N- 90°]	[長方形]	1.76×(0.44)	14	緩斜	平坦	人為	-	
163	I 5 b5	N- 0°	円形	0.52×0.48	28	外傾 緩斜	平坦	自然	-	
164	I 5 b5	N-56° -W	楕円形	1.38×0.84	36	外傾	平坦	自然	-	
165	I 5 c8	N- 0°	円形	0.50×0.50	32	外傾	皿状	人為	-	
173	I 5 d9	N- 0°	円形	0.30×0.26	21	外傾	皿状	自然	-	
175	I 5 e0	N- 0°	円形	0.28×0.28	16	外傾	平坦	自然	-	
176	I 5 e0	N- 0°	円形	0.33×0.30	30	外傾	平坦	人為	須恵器	

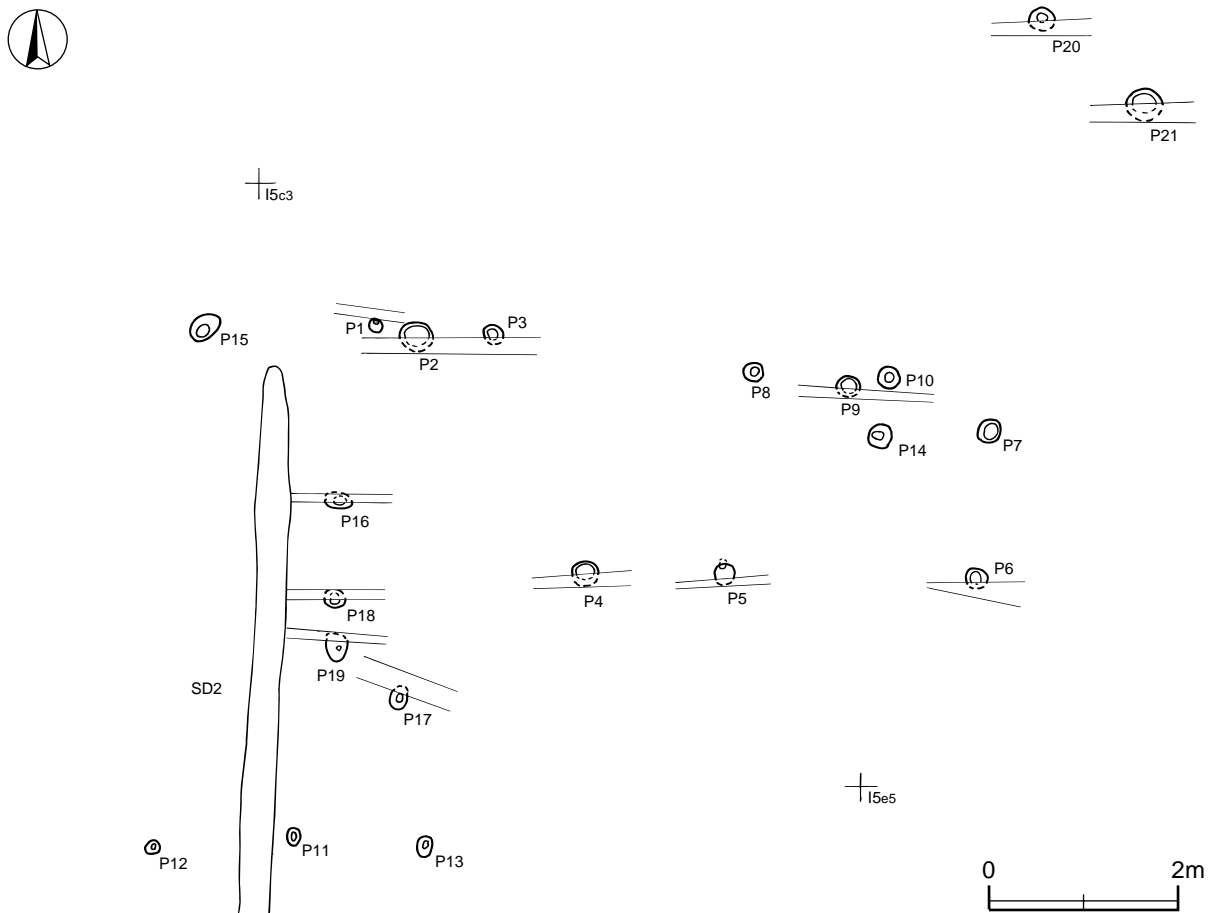
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
178	I 5 h4	N-90°	楕円形	0.42×0.36	28	外傾	皿状	人為	-	
179	I 5 j8	N-80° - E	楕円形	0.45×0.34	24	外傾	平坦	人為	-	SD 5 本跡
181	I 5 i9	N-83° - W	[楕円形]	[0.37]×0.30	14	外傾	皿状	自然	土師器	
183	I 5 h8	N-26° - E	円形	0.35×0.32	6	外傾	皿状	人為	-	
184	I 5 c9	N- 0°	楕円形	0.24×0.20	26	外傾	皿状	人為	-	
186	I 5 c5	N-90°	[楕円形]	[0.64×0.48]	50	外傾	皿状	人為	-	
187	I 6 h1	N- 0°	[円形]	0.22×[0.22]	25	外傾	平坦	自然	-	
188	I 6 c1	N-90°	[隅丸方形]	0.86×(0.32)	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	
189	I 6 h1	N-35° - E	円形	0.35×0.32	20	外傾	皿状	自然	-	
190	I 5 h0	N-30° - E	[円形]	[0.36×0.34]	11	緩斜	皿状	自然	-	
191	I 6 d3	N- 0°	長方形	1.10×0.80	58	外傾	平坦	人為	-	
192	I 6 e3	N- 0°	長方形	1.12×0.88	54	外傾	平坦	人為	土師器	
193	I 6 c3	N- 0°	楕円形	(1.04)×0.86	17	外傾	平坦	人為	-	
194	I 6 c3	N- 6° - E	[方形]	0.82×(0.80)	38	直立	平坦	人為	-	
195	I 6 b3	N- 0°	方形	1.06×1.06	68	外傾	平坦	人為	土師質土器	
196	I 5 i8	N- 0°	[円形]	0.46×0.46	24	緩斜	皿状	人為	-	
197	H 6 f6	N-70° - E	円形	0.64×0.58	54	直立	平坦	人為	-	
198	H 6 j6	N-73° - E	楕円形	1.94×1.75	65	外傾	平坦	人為	須恵器, 土師質土器	SI37 本跡
199	I 6 a1	N-81° - E	長方形	1.56×0.50	38	外傾	平坦	不明	-	SI35 本跡
200	I 6 a2	N- 3° - E	[長方形]	0.56×[0.50]	7	外傾	平坦	人為	-	SI35 本跡, SK258 この新旧は不明
201	I 6 b6	N-87° - E	長方形	0.94×0.58	30	外傾	平坦	人為	土師器, 瓦質土器	
202	I 6 a2	N-84° - E	長方形	1.64×0.88	46	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器	
203	H 6 g5	N-56° - W	楕円形	0.28×0.23	28	外傾	平坦	自然	-	
204	H 6 g6	N-84° - E	長方形	1.40×0.77	21	外傾	平坦	自然	土師器	
205	H 6 h6	N- 2° - E	長方形	1.28×0.72	54	直立	平坦	人為	土師質土器	
206	H 6 h5	N- 0°	円形	0.54×0.54	18	外傾	平坦	自然	-	
207	J 6 a8	N-82° - W	楕円形	3.27×1.95	85	緩斜	平坦	自然	-	本跡 SI38
209	H 6 h6	N-82° - E	隅丸長方形	1.74×0.99	40	緩斜	平坦	人為	-	本跡 SK220・221
210	H 6 i6	N-79° - E	隅丸長方形	1.73×(0.79)	15	緩斜	平坦	自然	土師質土器	SK211 本跡 SD 6
211	H 6 i6	N-15° - E	長方形	1.59×0.88	57	緩斜	平坦	自然	-	本跡 SK210
213	I 6 b7	[N- 0°]	[楕円形]	1.12×(0.36)	24	緩斜	皿状	自然	須恵器	
214	I 6 b7	[N-90°]	[隅丸長方形]	1.02×(0.30)	25	緩斜	皿状	自然	-	
215	I 6 c7	N-90°	[不整形]	0.82×0.68	21	外傾	平坦	自然	-	
216	I 6 b8	N-25° - W	[不整形]	1.00×0.97	19	緩斜	平坦	自然	-	
217	I 6 b9	N-25° - E	円形	0.32×(0.20)	20	外傾	皿状	人為	土師器	SK225 本跡
218	H 6 h6	N-67° - W	円形	0.39×0.35	17	緩斜	皿状	人為	-	
219	H 6 h6	N- 9° - W	円形	0.28×0.26	37	外傾	平坦	人為	-	
220	H 6 h6	N-35° - W	円形	0.39×0.41	25	外傾	平坦	人為	-	SK209 本跡
221	H 6 h6	N-52° - E	円形	0.35×0.38	27	外傾	平坦	人為	-	SK209 本跡
222	I 6 i8	N-90°	楕円形	0.60×0.48	22	外傾	皿状	人為	-	
223	I 6 i9	N-50° - E	楕円形	1.00×0.84	15	外傾	皿状	自然	-	
224	I 6 e8	N- 0°	楕円形	0.84×0.73	24	外傾	平坦	人為	-	
225	I 6 g9	N- 0°	[楕円形]	(1.03)×0.98	21	緩斜	平坦	自然	-	
226	I 6 c7	N- 80° - E	[不整形]	1.74×0.44	18	外傾 緩斜	平坦	不明	土師器	本跡 SK215
229	I 6 b7	N-90°	[不整形]	1.24×(0.43)	14	緩斜	平坦	不明	土師器, 陶器	
230	I 6 b7	[N- 0°]	[円形]	0.63×(0.38)	4	緩斜	平坦	不明	-	P G 2 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
232	I 6 i7	[N-90°]	[楕円形]	0.95 × (0.45)	14	外傾	平坦	人為	-	
233	H 6 i7	N-38° - E	楕円形	0.20 × 0.18	12	外傾	皿状	人為	-	
234	H 6 i7	N-90°	長方形	0.36 × 0.30	14	緩斜	皿状	人為	-	
235	H 6 i7	N-60° - W	長方形	0.46 × 0.38	10	外傾	平坦	人為	-	
236	H 6 j7	N-78° - W	楕円形	0.48 × 0.44	26	外傾	皿状	人為	-	SI37 本跡
237	H 6 j6	N-46° - E	楕円形	0.26 × 0.24	12	外傾	皿状	不明	-	
238	H 6 j6	N-54° - W	楕円形	0.26 × 0.24	10	外傾	皿状	不明	-	
239	I 6 a5	N-65° - W	楕円形	0.26 × 0.20	10	外傾	皿状	不明	-	
240	I 6 a5	N-90°	楕円形	0.29 × 0.21	12	外傾	皿状	不明	-	
241	I 6 a6	N- 0°	楕円形	0.35 × 0.31	8	外傾	皿状	不明	-	
242	I 6 a6	N-17° - E	方形	0.28 × 0.24	14	外傾	皿状	不明	-	
243	H 6 j6	N- 0°	円形	0.28 × 0.28	7	外傾	皿状	不明	-	
244	I 6 a4	N-66° - W	円形	0.20 × 0.18	20	外傾	皿状	不明	-	
245	I 6 j2	N-72° - W	円形	0.90 × 0.88	27	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
246	I 5 j3	N- 4° - E	[楕円形]	0.73 × 0.44	3	緩斜	平坦	人為	-	本跡 SK247
247	I 5 j3	N-87° - E	長方形	1.45 × 0.76	30	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器, 陶器	SK246 本跡
248	I 6 j4	N-67° - W	円形	0.26 × 0.24	18	外傾	皿状	自然	-	
250	I 6 g4	N- 0°	楕円形	0.54 × 0.40	21	外傾	皿状	自然	土師器	
251	I 6 g4	N- 0°	円形	0.37 × 0.37	20	外傾	平坦	自然	-	
257	I 6 g3	N-85° - W	長方形	2.16 × 1.08	10	緩斜	平坦	人為	土師器	
258	I 6 a2	[N-90°]	長方形	1.62 × (0.46)	31	外傾	平坦	人為	土師器	SK200と重複, 新旧は不明
259	G 4 j1	N- 0°	[楕円形]	1.18 × [0.90]	34	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
260	G 3 f0	N-54° - W	長方形	3.38 × 0.94	15	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
262	H 3 a4	N- 7° - E	[長方形]	0.65 × (0.12)	7	外傾	平坦	人為	-	SI46 SK263 本跡
263	H 3 a4	N-14° - E	[楕円形]	0.97 × [0.49]	20	外傾 緩斜	平坦	人為	-	SI46 本跡 SK262
264	K 7 a6	N-22° - E	[円形]	1.02 × (0.52)	53	緩斜	皿状	自然	-	
265	K 7 d3	N- 2° - W	円形	0.77 × 0.71	14	緩斜	皿状	自然	-	
266	J 7 i5	N- 4° - W	楕円形	1.11 × 0.86	28	外傾	平坦	自然	-	
267	J 5 e7	N-74° - W	楕円形	[1.96] × 1.23	12	緩斜	平坦	自然	土師器	SI53 本跡
268	J 6 f4	N-88° - E	長方形	1.18 × 0.82	65	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
269	J 6 f3	N-85° - W	長方形	1.27 × 0.94	19	外傾	平坦	人為	-	
270	J 6 g2	N-76° - W	長方形	1.13 × 1.01	18	直立	平坦	人為	-	
271	K 6 e1	N- 0°	隅丸長方形	1.18 × [0.86]	14	緩斜	平坦	人為	-	
272	J 6 d1	N-90°	楕円形	[0.94] × 0.81	20	外傾	平坦	自然	-	
273	J 4 i6	N- 8° - W	楕円形	1.10 × [0.98]	23	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
274	I 4 i5	N- 5° - E	隅丸長方形	1.02 × 0.98	26	外傾	平坦	自然	-	
275	I 4 j5	N- 4° - E	隅丸長方形	1.15 × 1.00	12	緩斜	平坦	自然	-	
276	I 4 j5	N-15° - E	不整形	1.04 × 1.00	32	緩斜	平坦	人為	陶器	
277	I 4 i4	N-18° - E	隅丸長方形	1.33 × 1.09	35	緩斜	平坦	自然	須恵器	
279	I 4 h4	N-87° - W	長方形	0.80 × 0.60	39	外傾	平坦	不明	-	
280	I 4 i4	N- 9° - E	隅丸長方形	1.52 × 1.38	110	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器, 陶器	
281	K 4 j9	N- 8° - E	楕円形	1.12 × [1.00]	20	緩斜	平坦	自然	土師器, 陶器	
282	K 4 i8	N-80° - W	楕円形	[0.86 × 0.73]	69	直立	平坦	自然	-	
283	I 4 i4	N- 4° - E	[隅丸方形]	1.12 × (0.70)	58	外傾	平坦	不明	土師器	SK284 本跡 SK286
284	I 4 i5	N- 7° - E	隅丸長方形	1.15 × 0.96	62	外傾	平坦	不明	-	SK285 本跡 SK283
285	I 4 i5	N- 5° - E	隅丸長方形	[1.38] × 0.90	45	外傾	平坦	自然	-	本跡 SK284

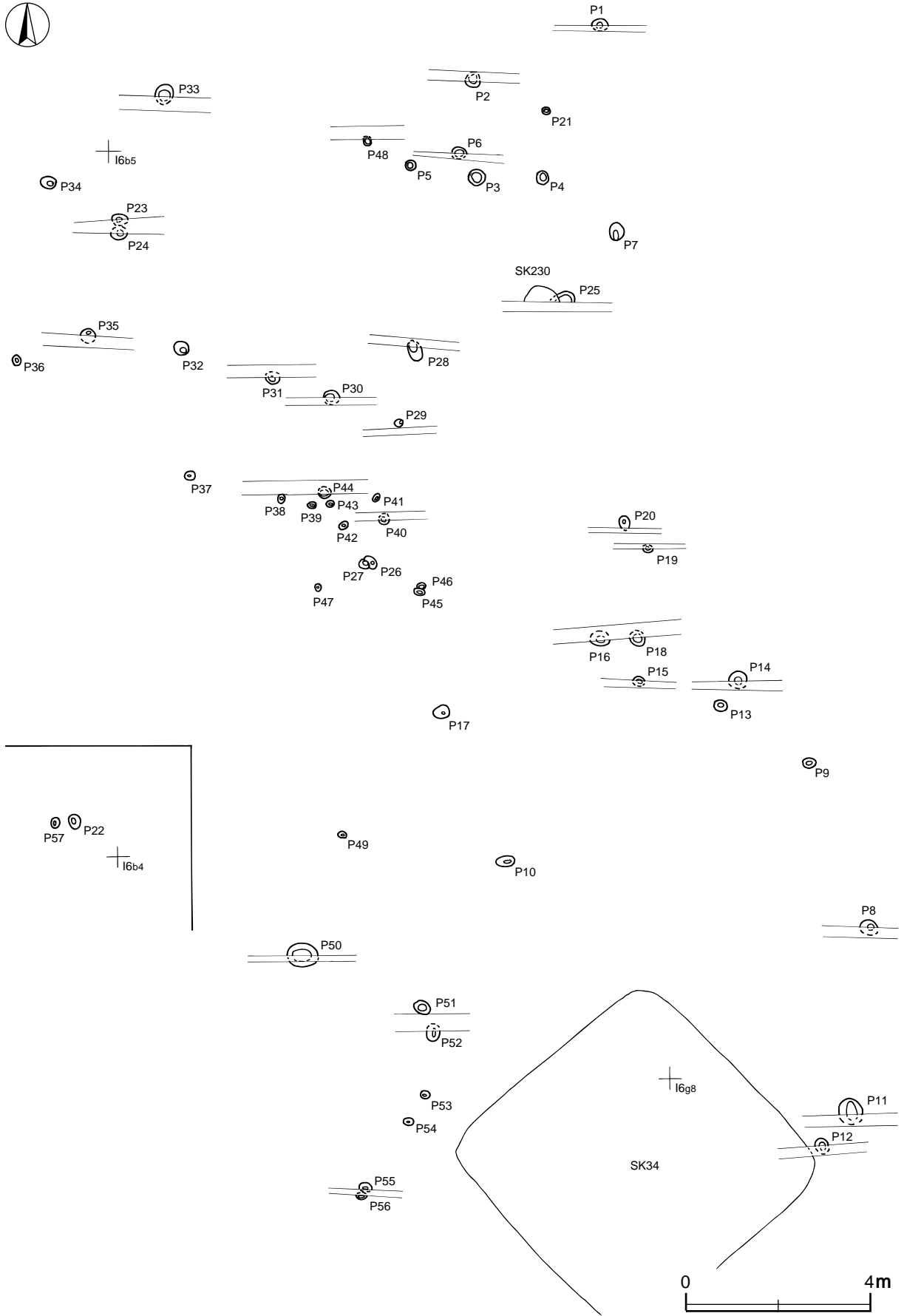
番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係 (旧 新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
286	I 4 h4	N-4°-E	[隅丸方形]	(0.88)×0.70	8	緩斜	平坦	不明	-	SK283 本跡
287	I 4 h3	N-7°-E	[長方形]	1.57×(0.76)	53	外傾	平坦	人為	-	SD13 本跡
288	J 4 e3	N-0°	円形	0.83×[0.81]	40	外傾	皿状	自然	-	
291	G 5 e4	N-72°-W	楕円形	1.53×1.09	24	緩斜	皿状	自然	-	
292	G 5 g8	N-0°	円形	0.90×0.90	24	緩斜	平坦	自然	-	
293	G 5 e5	N-72°-E	楕円形	1.27×0.88	42	外傾	平坦	人為	-	
294	K 5 b4	N-10°-E	円形	3.91×3.20	117	外傾	皿状	不明	-	SI58 本跡

(10) ピット群 (第227～234図)

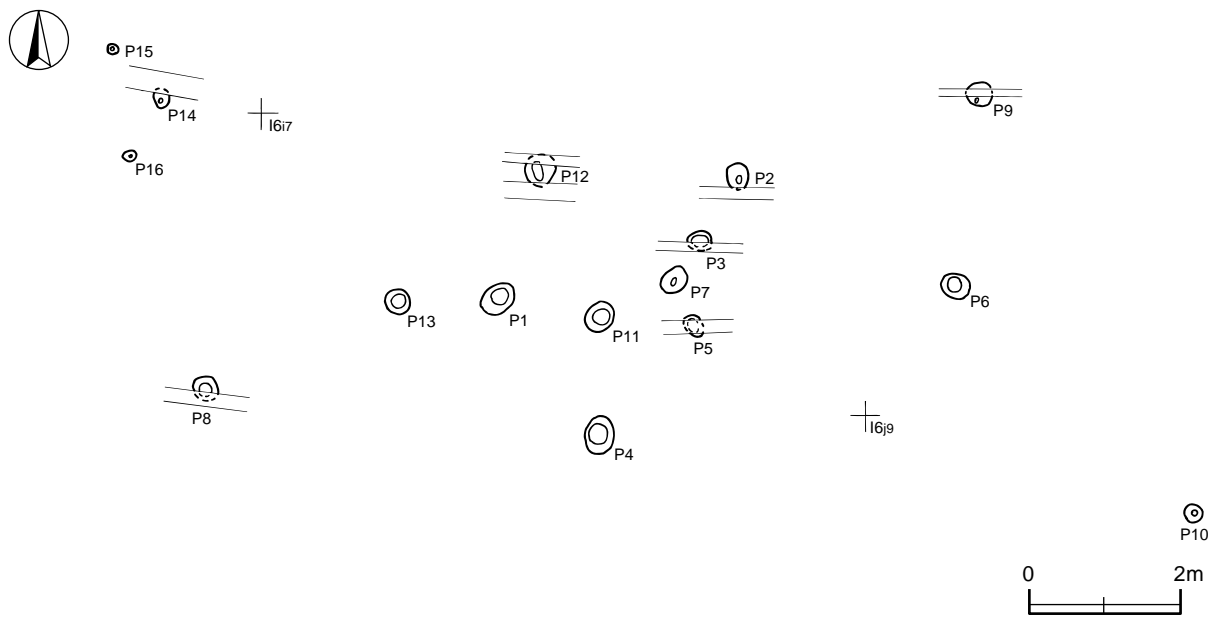
調査A区で1か所、B区で4か所、E区で1か所、F区で2か所のピット群が検出されている。これらのピットは、当遺跡で検出されている掘立柱建物跡の柱穴と比べて、径が小さく深さも浅いものが多い。また、遺物がほとんど出土していないうえ、配置が不規則であるため、時期や性格は不明である。以下、一覧表で紹介するとともに、平面図を記載する。



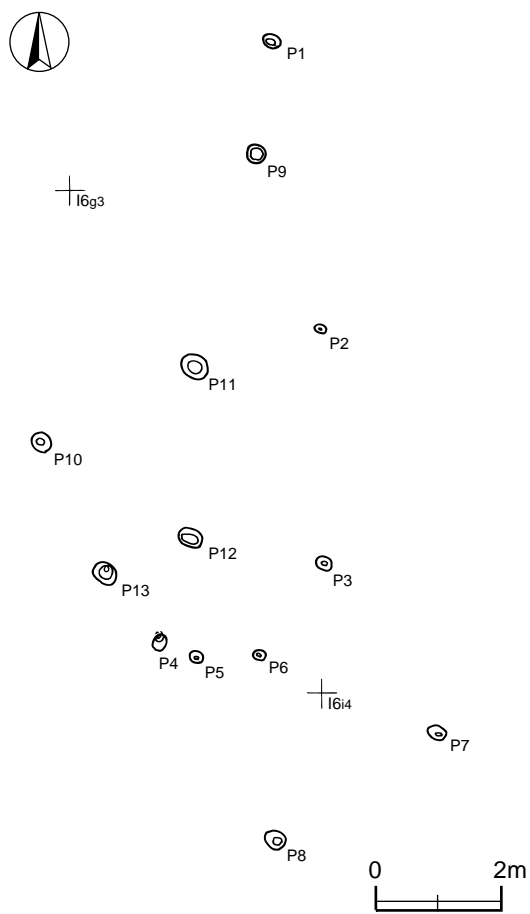
第227図 第1号ピット群実測図



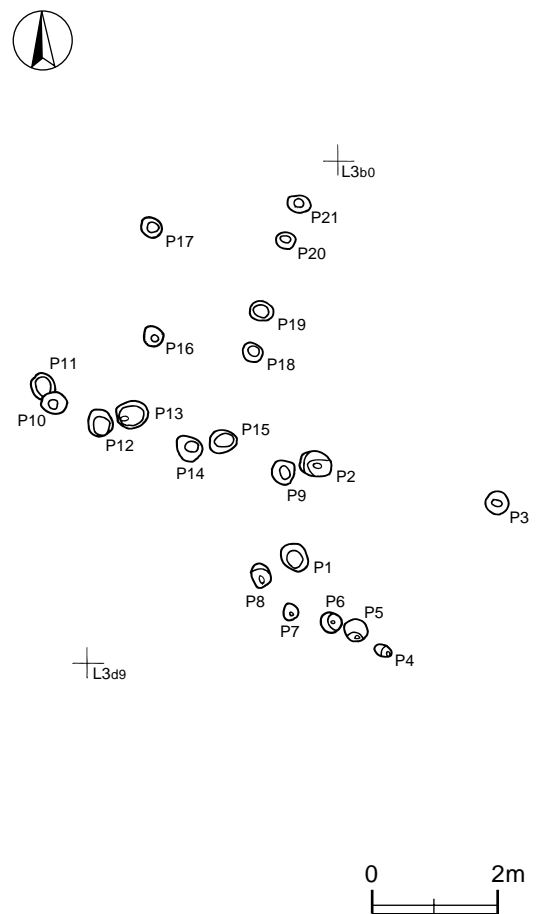
第228図 第2号ピット群実測図



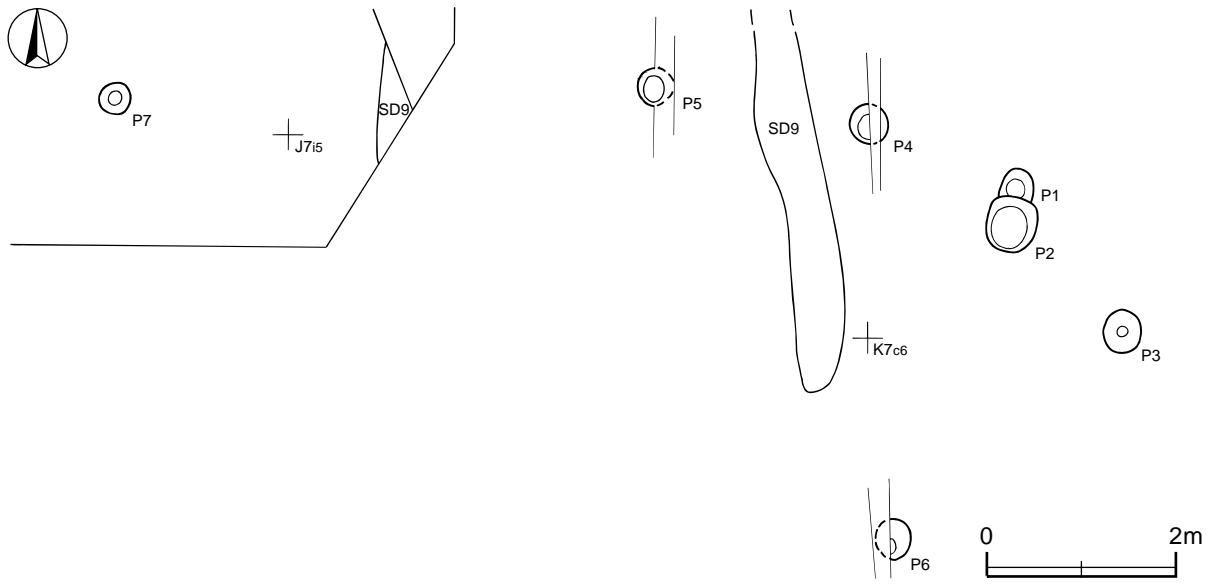
第229図 第3号ピット群実測図



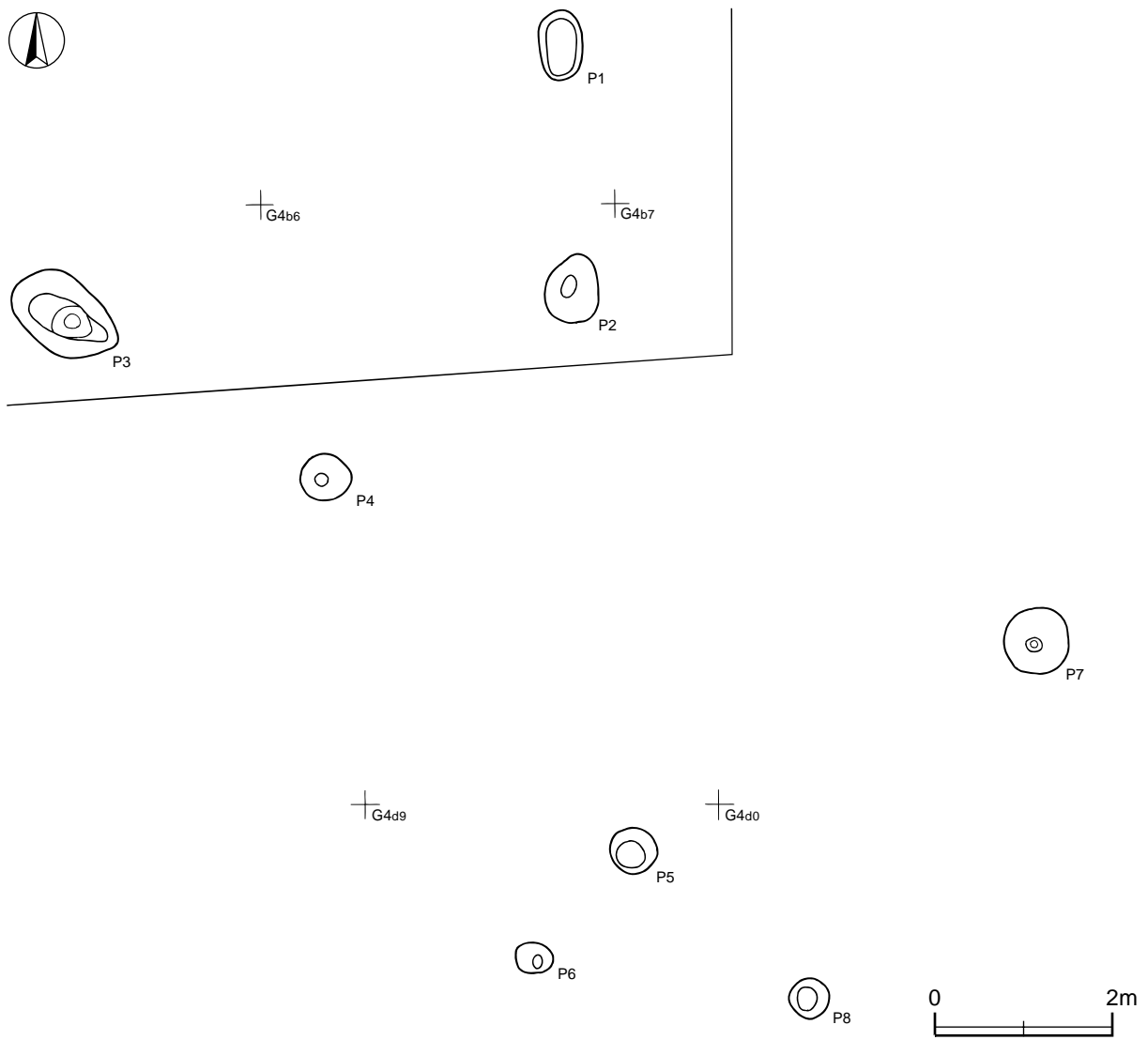
第230図 第4号ピット群実測図



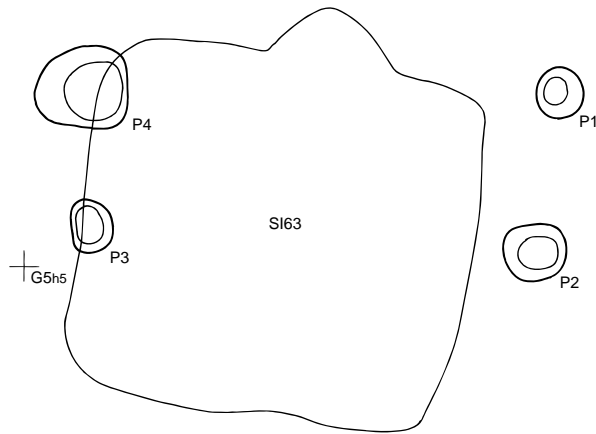
第231図 第5号ピット群実測図



第232図 第6号ピット群実測図



第233図 第7号ピット群実測図



第234図 第8号ピット群実測図

第1号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	I 5 c3	円形	0.22 × 0.19	10
2	I 5 c3	[円形]	0.45 × [0.41]	18
3	I 5 c3	[円形]	[0.30] × 0.28	10
4	I 5 d4	[円形]	0.35 × [0.34]	24
5	I 5 d4	[円形]	0.32 × [0.30]	30
6	I 5 d5	[円形]	[0.31] × [0.31]	36
7	I 5 c5	円形	0.29 × 0.28	30
8	I 5 c4	円形	0.27 × 0.27	32
9	I 5 c4	[円形]	0.30 × [0.29]	37
10	I 5 c5	円形	0.32 × 0.29	33
11	I 5 e3	円形	0.24 × 0.20	21

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
12	I 5 e2	円形	0.21 × 0.21	16
13	I 5 e3	円形	0.30 × 0.26	21
14	I 5 c5	円形	0.31 × 0.30	24
15	I 5 c2	楕円形	0.44 × 0.32	12
16	I 5 d3	[楕円形]	0.38 × [0.23]	17
17	I 5 d3	[円形]	[0.37] × 0.26	10
18	I 5 d3	[円形]	[0.34] × 0.32	20
19	I 5 d3	[楕円形]	0.29 × [0.27]	12
20	I 5 b5	[円形]	0.33 × [0.30]	25
21	I 5 b5	[円形]	[0.45] × (0.34)	26

第2号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	I 6 a0	[楕円形]	0.35 × (0.16)	14
2	I 6 a0	円形	0.35 × 0.32	10
3	I 6 b6	円形	0.36 × 0.35	9
4	I 6 b7	円形	0.28 × 0.27	17
5	I 6 b6	円形	0.26 × 0.22	8
6	I 6 b6	[楕円形]	0.31 × (0.14)	8
7	I 6 b7	円形	0.38 × 0.35	31
8	I 6 f8	[楕円形]	0.36 × (0.17)	12
9	I 6 e8	楕円形	0.29 × 0.24	9
10	I 6 e7	楕円形	0.38 × 0.25	13
11	I 6 g8	[円形]	0.50 × (0.36)	15
12	I 6 g8	[円形]	0.30 × (0.17)	15
13	I 6 d8	円形	0.26 × 0.25	16

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
14	I 6 d8	円形	0.38 × 0.25	12
15	I 6 d7	円形	0.22 × (0.10)	21
16	I 6 d7	[円形]	0.39 × (0.11)	21
17	I 6 e6	円形	0.34 × 0.30	13
18	I 6 d7	[円形]	0.29 × (0.19)	12
19	I 6 d7	円形	0.21 × (0.10)	17
20	I 6 d7	[円形]	(0.26) × 0.25	21
21	I 6 a0	円形	0.20 × 0.18	10
22	I 6 a3	円形	0.32 × 0.29	37
23	I 6 b5	[円形]	0.35 × (0.11)	10
24	I 6 b5	[円形]	0.37 × (0.14)	10
25	I 6 b7	[円形]	0.55 × (0.26)	9
26	I 6 d6	[円形]	0.30 × (0.15)	24

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
27	I 6 d6	円形	0.25×0.23	16
28	I 6 c6	[楕円形]	[0.46]×0.31	104
29	I 6 c6	円形	0.21×0.20	25
30	I 6 c6	[円形]	0.34×[0.33]	30
31	I 6 c5	[円形]	0.28×(0.14)	18
32	I 6 c5	円形	0.32×0.29	15
33	I 6 a5	[円形]	0.37×(0.27)	14
34	I 6 b4	円形	0.33×0.24	12
35	I 6 b4	[円形]	0.33×(0.15)	45
36	I 6 c4	円形	0.22×0.21	8
37	I 6 c5	円形	0.22×0.19	44
38	I 6 c5	円形	0.17×0.17	19
39	I 6 c6	円形	0.19×0.17	23
40	I 6 c6	[円形]	0.21×(0.10)	25
41	I 6 c6	円形	0.20×0.16	-
42	I 6 d6	円形	0.21×0.19	10

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
43	I 6 c6	円形	0.19×0.19	7
44	I 6 c6	円形	0.28×(0.28)	3
45	I 6 d6	円形	0.25×0.20	11
46	I 6 d6	[円形]	(0.15)×0.15	20
47	I 6 d6	円形	0.18×0.16	14
48	I 6 a6	円形	0.19×0.17	25
49	I 6 e6	円形	0.19×0.16	8
50	I 6 f6	楕円形	0.66×0.51	20
51	I 6 f6	楕円形	0.32×0.32	15
52	I 6 f6	楕円形	0.38×0.28	46
53	I 6 g6	円形	0.20×0.20	17
54	I 6 g6	円形	0.20×0.18	20
55	I 6 g6	[円形]	0.28×(0.16)	17
56	I 6 g6	[円形]	0.25×(0.10)	9
57	I 6 a3	円形	0.21×0.20	14

第3号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	I 6 i7	楕円形	0.47×0.39	41
2	I 6 i8	[楕円形]	(0.31)×0.30	55
3	I 6 i8	[楕円形]	0.35×(0.16)	27
4	I 6 j8	楕円形	0.49×0.41	14
5	I 6 i8	楕円形	0.33×[0.23]	11
6	I 6 i9	円形	0.39×0.35	18
7	I 6 i8	円形	0.38×0.31	30
8	I 6 i6	[円形]	0.35×(0.21)	18

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
9	I 6 h9	円形	[0.35]×0.32	12
10	I 6 j9	円形	0.25×0.20	20
11	I 6 i8	円形	0.42×0.38	20
12	I 6 i7	[円形]	0.42×(0.24)	14
13	I 6 i7	[円形]	0.35×[0.33]	14
14	I 6 h6	[円形]	0.23×(0.19)	23
15	I 6 h6	円形	0.16×0.16	17
16	I 6 i6	円形	0.16×0.16	11

第4号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	I 6 f3	円形	0.27×0.25	32
2	I 6 g3	楕円形	0.18×0.15	24
3	I 6 h4	円形	0.27×0.27	30
4	I 6 h3	円形	0.26×0.23	48
5	I 6 h3	円形	0.24×0.24	19
6	I 6 h3	円形	0.24×0.19	44
7	I 6 i4	楕円形	0.28×0.24	28

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
8	I 6 i3	円形	0.33×0.30	30
9	I 6 f3	円形	0.33×0.31	20
10	I 6 h2	円形	0.29×0.29	7
11	I 6 g3	円形	0.42×0.40	26
12	I 6 h3	楕円形	0.36×0.29	26
13	I 6 h3	円形	0.38×0.34	29

第5号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	L 3 c9	円形	0.45×0.42	34
2	L 3 c9	円形	0.50×0.45	49
3	L 3 c0	円形	0.40×0.35	37
4	L 3 c0	円形	0.26×0.24	46
5	L 3 c0	円形	0.42×0.32	64
6	L 3 c9	円形	0.35×0.30	23
7	L 3 c9	円形	0.28×0.26	39
8	L 3 c9	円形	0.40×0.35	41
9	L 3 c9	円形	0.40×0.38	28
10	L 3 b8	円形	0.38×0.36	33
11	L 3 b8	円形	0.42×0.35	31

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
12	L 3 c9	円形	0.45×0.40	23
13	L 3 c9	円形	0.46×0.40	45
14	L 3 c9	円形	0.40×0.40	41
15	L 3 c9	円形	0.45×0.39	38
16	L 3 b9	円形	0.39×0.35	51
17	L 3 b9	円形	0.30×0.30	34
18	L 3 b9	円形	0.29×0.29	34
19	L 3 b9	円形	0.35×0.27	22
20	L 3 b9	円形	0.29×0.25	33
21	L 3 b9	円形	0.32×0.29	26

第6号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	K 7 b6	[円形]	0.40×0.36	31
2	K 7 b6	[円形]	0.57×(0.56)	42
3	K 7 b6	円形	0.47×0.41	30
4	K 7 b6	円形	0.40×0.39	32

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
5	K 7 b5	[円形]	0.40×(0.39)	63
6	K 7 c6	[円形]	0.44×(0.39)	29
7	J 7 i4	円形	0.34×0.34	34

第7号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	G 4 a6	楕円形	0.76×0.49	18
2	G 4 b6	円形	0.81×0.64	28
3	G 4 b5	楕円形	1.32×0.40	40
4	G 4 c8	円形	0.61×0.56	26

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
5	G 4 d9	円形	0.57×0.54	13
6	G 4 d9	円形	0.42×0.35	26
7	G 4 e0	円形	0.74×0.71	31
8	G 4 d0	円形	0.47×0.45	24

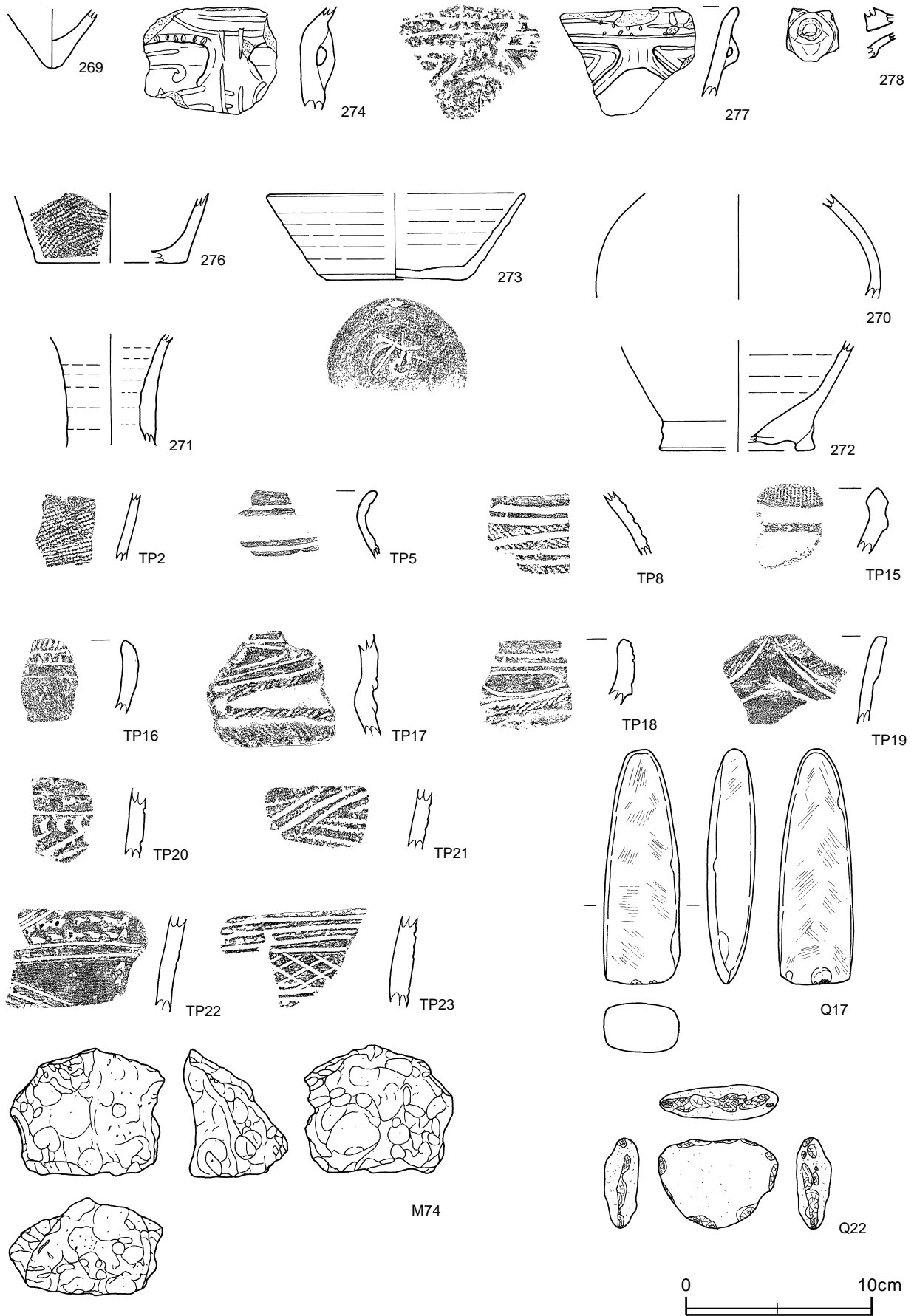
第8号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
1	G 5 h5	円形	0.43×0.37	57
2	G 5 h5	円形	0.51×0.43	42

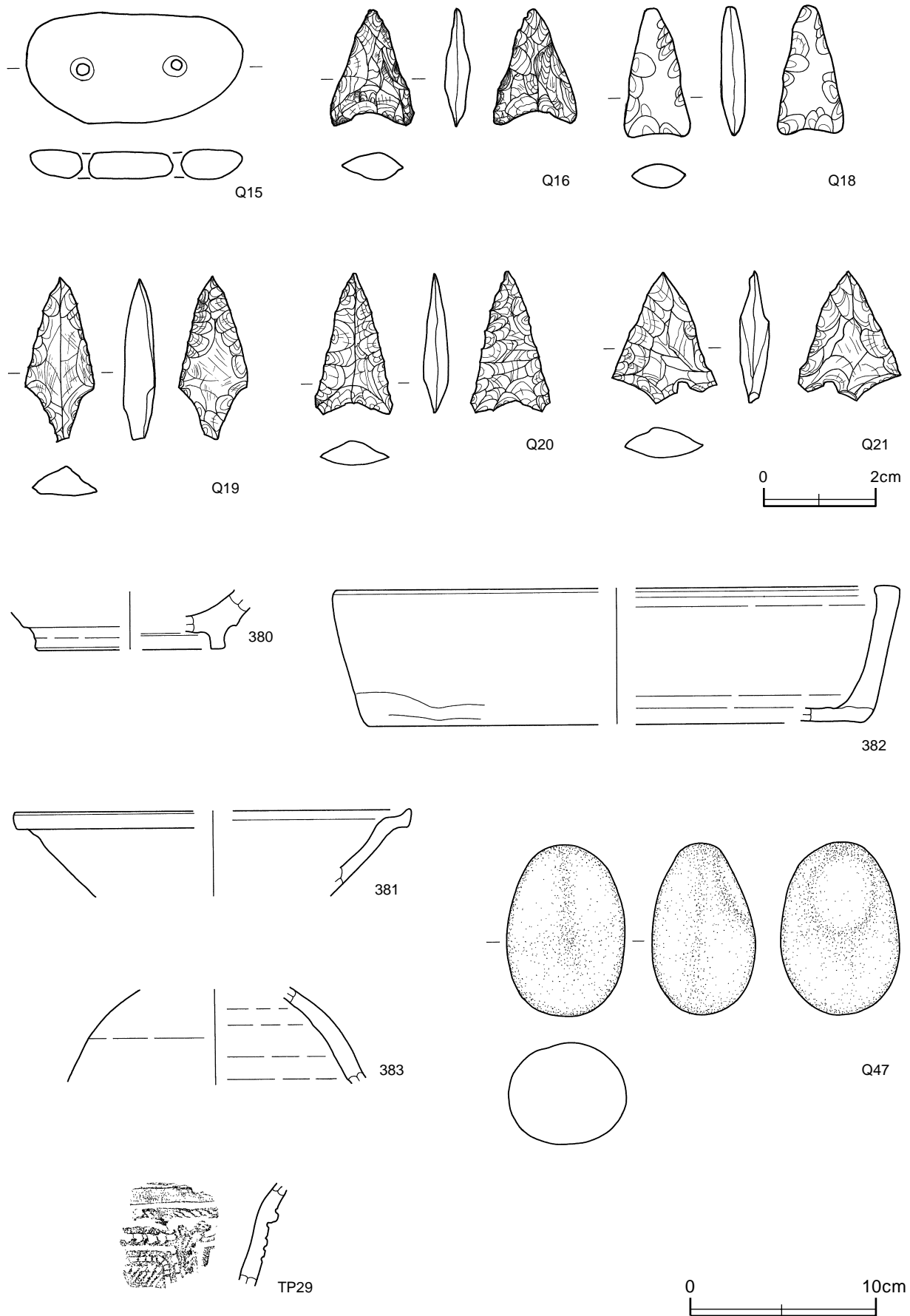
番号	位置	形状	規模	
			長径×短径 (m)	深さ (cm)
3	G 5 h5	円形	0.43×0.33	44
4	G 5 h5	楕円形	0.73×0.67	39

(ii) 遺構外出土遺物（第235～237図）

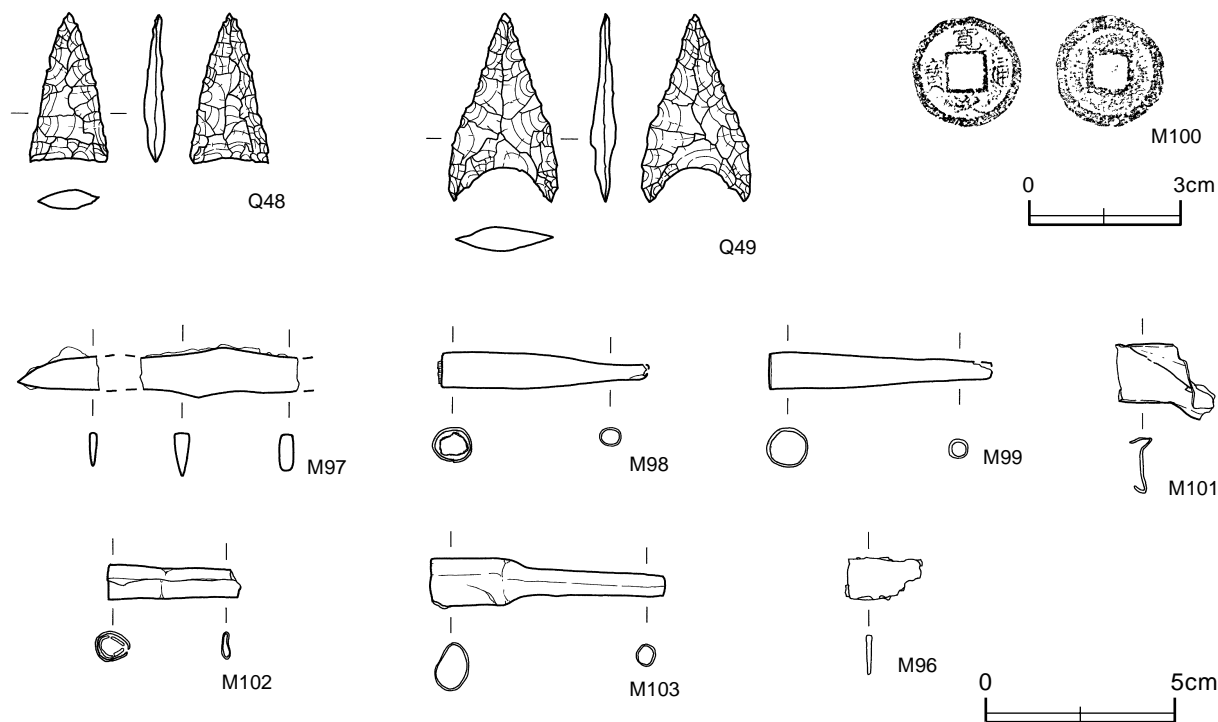
遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び出土遺物観察表で記載する。



第235図 遺構外出土遺物実測図(1)



第236図 遺構外出土遺物実測図(2)



第237図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表(第235~237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
269	縄文土器	尖底土器	-	(3.2)	-	長石	褐灰	普通	尖底部ナデ	表採	5% 早期中葉
270	須恵器	瓶	-	(5.7)	-	長石	黒褐	普通	内面ナデ	表採	5% 自然釉付着
271	須恵器	長頸瓶	-	(6.1)	-	長石	灰黄	普通	内・外面口クロナデ	表採	5%
272	須恵器	瓶	-	(6.0)	[8.2]	長石	灰黄褐	普通	内面輪積痕 底部回転ヘラ切り後ナデ後高台貼付	表採	10% 自然釉付着
273	須恵器	坏	[13.8]	4.6	7.4	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	表採	50%ヘラ記号「丈」PL32
274	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部2条の沈線 口辺部刻みを有する隆帯 橋状把手上から2条の沈線が垂下	表採	5% 中期前葉
276	弥生土器	壺	-	(3.7)	[8.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	附加条二種(附加2条)施文	S I 11 覆土中	5%
277	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部刺突文 口辺部沈線に沿う隆帯 橋状把手上に刻み	S I 30 覆土中	5% 中期前葉
278	縄文土器	注口土器	-	(2.7)	-	長石	灰黄褐	普通	注口部	S I 43 覆土中	5% 後期カ
380	須恵器	瓶	-	(3.2)	[10.0]	長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り後高台貼付	表採	5%
381	陶器	播鉢	[21.4]	(4.6)	-	鉄釉	にぶい赤褐 暗褐	良好	口縁部外折 8条1単位の播り目	表採	瀬戸・美濃系
382	土師質土器	焙烙	[30.2]	7.3	[26.8]	長石・石英・雲母	にぶい黄	良好	内面口クロナデ 外面下端ヘラ削り	表採	体部内・外面 煤付着
383	陶器	壺	-	(5.2)	-	胎土	浅黄橙	良好	内・外面口クロナデ	表採	瀬戸・美濃系

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP2	弥生土器	壺	-	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	附加条二種(附加2条)施文	S I 11 覆土中	
TP5	縄文土器	浅鉢	-	(3.7)	-	長石・石英	オリーブ黒	普通	口縁部・頸部沈線を沿わせた隆線 刺突文 外面研磨	S I 11 覆土中	晚期カ
TP8	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	帯状の平行沈線 区画内R Lの単節縄文施文	S I 11 覆土中	晚期カ
TP15	縄文土器	深鉢	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部条線文 口縁部隆帯文 内面に稜	S I 12 覆土中	中期カ
TP16	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部沈線文 口縁部平行沈線 沈線内交互刺突による連続コの字状文	S I 12 覆土中	中期カ
TP17	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	刻目を有する2条の隆帯 沈線で文様を描出	S I 30 覆土中	
TP18	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口唇部直下結節沈線 沈線で文様を描出	S I 34 覆土中	
TP19	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	波状口縁 口縁部L Rの単節縄文 沈線で区画	S I 43 覆土中	中期カ
TP20	縄文土器	深鉢	-	(3.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	横位・斜位の平行沈線 貝殻腹縁文 爪形文	S I 43 覆土中	早期
TP21	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	斜位の平行沈線 貝殻腹縁文	S I 43 覆土中	早期

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	横位・斜位の平行沈線 刺突文	S I 45 覆土中	早期
TP23	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英	黒褐	普通	横位の平行沈線 斜格子目状の沈線	S I 45 覆土中	早期
TP29	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英・赤色 粒子	にぶい橙	普通	地文はLRの単節縄文 結節沈線文が沿う隆帯	表採	中期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	垂飾リカ	1.9	3.9	0.5	6.2	安山岩	孔2か所	表採	PL44
Q16	石鏃	2.1	1.5	0.4	0.9	黒曜石	無茎鏃 両面押圧剥離調整	表採	PL44
Q17	磨製石斧	12.7	4.1	2.7	241.0	安山岩	全体を研磨	表採	PL45
Q18	石鏃	2.3	1.2	0.4	1.0	安山岩	無茎鏃 両面押圧剥離調整	S I 1 覆土中	PL44
Q19	石鏃	2.9	1.3	0.5	1.6	硬質頁岩	有茎鏃 両面押圧剥離調整	S I 29 覆土中	PL44
Q20	石鏃	2.5	1.4	0.4	1.0	硬質頁岩	無茎鏃 両面押圧剥離調整	S I 41 覆土中	PL44
Q21	石鏃	2.3	1.9	0.5	1.7	チャート	有茎鏃 両面押圧剥離調整	S B 1 P 1	PL44
Q22	瑪瑙原石	4.8	6.4	1.9	63.5	瑪瑙	側面に切削痕あり	S I 6 覆土中	PL45
Q47	磨石	9.2	6.4	5.5	449.0	かんらん岩	裏面・両端部に使用痕	表採	PL44
Q48	石鏃	3.0	1.5	0.4	1.5	黒曜石	無茎鏃 両面押圧剥離調整	表採	PL44
Q49	石鏃	3.7	2.2	0.5	2.3	瑪瑙	無茎鏃 両面押圧剥離調整	表採	

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M67	寛永通寶	2.8	0.6	4.5	1768	真鍮	新寛永 背十一波 拓本不鮮明のため掲載せず	表採	PL46
M72	寛永通寶	2.8	0.7	4.1	1768	真鍮	新寛永 背十一波 拓本不鮮明のため掲載せず	表採	PL46
M73	文久永寶	2.6	0.7	3.3	1863	青銅	背十一波 拓本不鮮明のため掲載せず	表採	PL46
M100	寛永通寶	2.3	0.7	2.8	1626	青銅	古寛永	表採	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M74	鉄滓	6.9	8.2	5.6	362.0	鉄	表面茶褐色 着磁性なし	表採	
M96	刀子カ	(2.0)	(1.1)	(0.2)	(0.8)	鉄	刀身の一部	表採	
M97	刀子	[7.4]	1.4	0.4	(5.9)	鉄	刀身部	表採	
M98	煙管	5.4	1.0	1.0	(4.8)	青銅	吸口 内部木質遺存	表採	
M99	煙管	5.9	1.0	1.1	(3.7)	青銅	吸口	表採	
M101	煙管	(2.7)	-	-	(1.7)	青銅	吸口	S I 50 覆土中	
M102	煙管	(3.5)	0.9	0.8	(2.5)	青銅	吸口 内部木質遺存	S I 54 覆土中	
M103	煙管	6.1	1.3	0.9	(7.4)	青銅	吸口	S I 56 覆土中	

第4節 ま と め

羽黒山遺跡は、旧石器時代から中・近世にわたる複合遺跡であることが明らかになり、特に奈良時代から平安時代にかけて集落が形成されていたことが確認された。ここでは、時代ごとに調査成果を概観し、周辺遺跡の集落の様相と比較するなど、若干の検討を加えまとめたい。

1 旧石器時代

石器集中地点は調査A区、E区、F区の3か所で確認され、それぞれ第1～3号石器集中地点とした。このうち第2・3号石器集中地点においては石核、製品、剥片が確認されていることから、石器製作の場であったことがうかがえる。特に第2号石器集中地点においては細石刃核5点、細石刃120点、剥片143点が出土

し、後期旧石器時代の後半に細石刃製作が行われていたことが特筆される。そこで当遺跡の細石刃についてのデータを検討し、他の遺跡との比較を加えながら特徴を述べたい。

(1) 羽黒山遺跡出土の細石刃について

ア 石材別構成

細石刃全120点の石材の内訳は、流紋岩72点、珪質頁岩39点、硬質頁岩6点、チャート3点である。流紋岩が全体の60%を占めており、第2号石器集中地点から確認された細石刃核は5点とも流紋岩であった。県内における流紋岩の採取は、洞沼周辺や那珂川などで可能である。武田西埦遺跡¹⁾や、武田石高遺跡²⁾などにおいても流紋岩を素材とした石器が確認されているが、細石刃の製作跡は県内で類例がない。当遺跡における流紋岩は、県内で採取されるものとは若干違いがあるようで、遠隔地から持ち込まれた可能性も考えられる。また、珪質頁岩・硬質頁岩も在地で採取されたものではない可能性が高い。チャートは、那珂川流域で採取することが可能であり、在地の石材と考えられる³⁾。

イ 部位別構成

部位別の構成を見ると、完形4点(3.3%)、頭部41点(34.2%)、中間部56点(46.7%)、端部19点(15.8%)となっている。全体的に中間部の組成率が高く、他の遺跡よりも割合が高いのが特徴である。細石刃核をはじめ、全70点確認されている流紋岩の細石刃においては、完形のものはなかった。細石刃として剥離したものをそのまま使用するのではなく、長さや側面の形状を一定の規格に合うように加工して使用していたことが考えられる。

ウ 大きさ

細石刃の大きさは、平均で長さ11.1mm、幅6.4mm、厚さ1.9mm、重さ0.13gとなっている。長さは最大長が25.5mmでチャートの完形のものである。部位別では頭部10.1mm、中間部10.0mm、端部9.5mmであり、どの部位でも大きな差は見られない。幅は、最大幅14.0mm、最小幅2.0mmで、分布では6～8mmに集中している。部位別では端部の数値が小さくなっているが、頭部、中間部はほぼ同じである。厚さは、最大厚7.8mm、最小厚1.4mmである。断面形状が平たい台形状、背面の中心に高い稜線の入る三角形状、一部自然面を残すような楔状と大きく分けられ、その形状によって数値に差が出ている。長さ、幅、厚さとも、細石刃が木や骨などで作られた柄にはめ込むものとしてみると、適度な数値と思われる。

県内の細石刃の集中地点が確認されている額田大宮遺跡、宮脇遺跡、柏原遺跡、後野遺跡、富士山遺跡の数値⁴⁾と比較してみると、長さでは後野遺跡の22.7mm、柏原遺跡の21.9mmに比べて半分の長さである。当遺跡との数値の差は、細石刃核の形状や細石刃剥離の技法の違いによるところがあると考えられる。

エ 側面形状

側面形状は、直線的で平らなもの(「平」)、剥離面に向かって湾曲するもの(「曲」)、全体形状がひねられたように、ねじれた形態を呈しているもの(「ヒネリ」)の三つに分類した⁵⁾。「曲」は細石刃のいわゆる反りを示している。結果、「平」が全体の64.2%を占めている。細石刃を木や骨に埋め込む際に、「平」が都合がよいと思われ、より実用的と考えられる。部位ごとに見てみると、中間部の82.1%が「平」であるのは当然の結果として、特筆すべきは、頭部・端部においてもおよそ5割が「平」であることである。細石刃という性質上、剥離された際に、湾曲やねじれなど変形した部分は道具としては適さないはずであり、そのために折断という作業が行われると想定される。当遺跡においては、頭部・

端部という特に変形しやすく、使いにくい部位においても平らなものが多く見られる。このことは、道具として適さない部分を排除するためだけに折断するのではなく、剥離時の形状にかかわらず折断するという作業があったのではないだろうか。これらの数値から、初めから適当な長さに折断することを前提に細石刃剥離を行っていたことが考えられる。

オ 折断方向

剥離した細石刃を背面、腹面のどちらから折っているか（折断）を、その断面において観察した。その結果、背面からの折断が54点（45.0%）、腹面からの折断25点（20.8%）、折断方向不明、及び折断無し41点（34.2%）となっている。全体的に背面からの折断が約半数を占めている。六割強に折断が認められるということは、計画的な加工を裏付けることになる。

カ 微細剥離痕

細石刃の縁辺に見られる微細剥離痕については、ルーペ等を用いて基本的に肉眼観察を主体として行った。分析資料の内、微細剥離痕が観察できたのは33点（27.5%）である。微細剥離痕の観察された部位は、両側縁3点（9.2%）、左側縁21点（63.6%）、右側縁9点（27.2%）に分類される。なお、細石刃に残された微細剥離痕については「使用痕」「加工痕」「その他（剥離時・剥離後の偶発的なもの）」などの要因によって残されたものと考えられるが、その違いまで判断することは困難であり、検討が必要である。しかし、33点の中に3点ほど刃部に微細な押圧剥離調整を施したものが確認されている。これは全体の2.5%で、後野遺跡の7.2%と比べても少ないことが分かる。

表16 石材・部位別点数

	流紋岩	珪質頁岩	チャート	硬質頁岩	合計	比率
頭部	23	16	0	2	41	34.2%
中間部	38	13	3	2	56	46.7%
端部	11	7	0	1	19	15.8%
完形	0	3	0	1	4	3.3%
合計	72	39	3	6	120	100.0%
比率	60.0%	32.5%	2.5%	5.0%	100.0%	

表17 細石刃計測値

	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
平均	1.11	0.64	0.19	0.13
最大	2.50	1.40	0.78	1.00
最小	0.40	0.20	0.08	0.01

表18 部位別平均値

頭部

	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
流紋岩	1.21	0.68	0.22	0.21
珪質頁岩	0.97	0.58	0.21	0.10
チャート	0.86	0.45	0.14	0.07
硬質頁岩	-	-	-	-
平均	1.01	0.57	0.19	0.12

端部

	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
流紋岩	0.71	0.40	0.12	0.04
珪質頁岩	1.40	0.69	0.21	0.18
チャート	0.75	0.40	0.16	0.02
硬質頁岩	-	-	-	-
平均	0.95	0.50	0.17	0.08

中間部

	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
流紋岩	1.04	0.60	0.19	0.11
珪質頁岩	1.16	0.62	0.19	0.14
チャート	0.80	0.46	0.15	0.07
硬質頁岩	1.00	0.56	0.17	0.11
平均	1.00	0.56	0.17	0.11

完形

	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
流紋岩	-	-	-	-
珪質頁岩	1.29	0.72	0.18	0.12
チャート	2.55	0.52	0.18	0.24
硬質頁岩	-	-	-	-
平均	1.92	0.62	0.18	0.18

表19 細石刃ヒストグラム

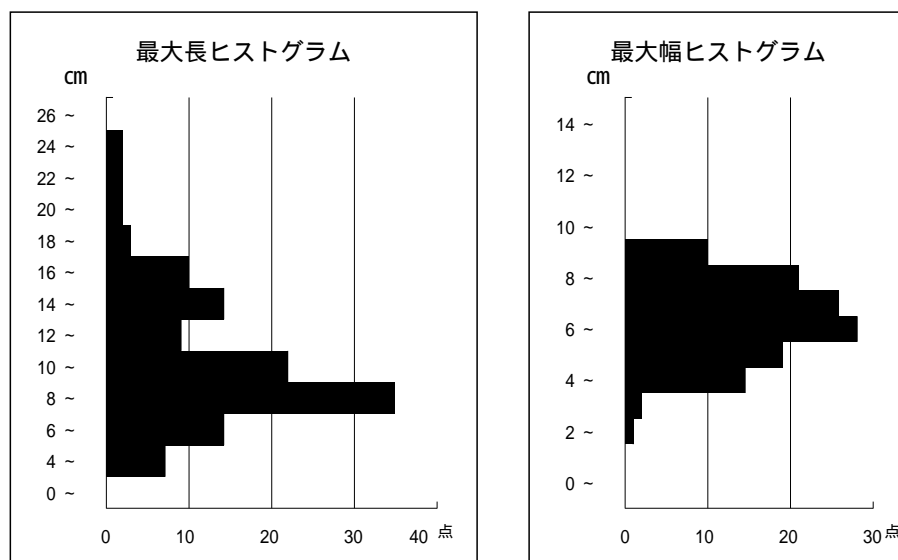


表20 石材別側面形状

	流紋岩	珪質頁岩	チャート	硬質頁岩	合計	比率
平面	55	17	3	2	77	64.2%
曲面	9	10	0	3	22	18.3%
ねじれ	8	12	0	1	21	17.5%
合計	72	39	3	6	120	100.0%

表21 部位別側面形状

	頭部	中間部	端部	完形	合計
平面	20	46	9	2	77
	16.7%	38.3%	7.5%	1.7%	64.2%
曲面	10	6	6		22
	8.3%	5.0%	5.0%	0.0%	18.3%
ねじれ	11	4	4	2	21
	9.2%	3.3%	3.3%	1.7%	17.5%

表22 折断方向

	流紋岩	珪質頁岩	チャート	硬質頁岩	合計	比率
背面	30	19	3	2	54	45.0%
腹面	16	6	2	1	25	20.8%
不明	26	14	1	0	41	34.2%
合計	72	39	6	3	120	100.0%

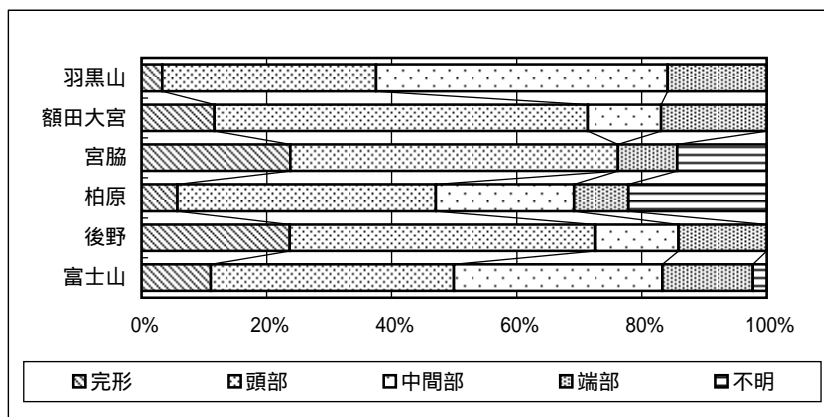
表23 微細剥離痕跡

	流紋岩	珪質頁岩	チャート	硬質頁岩	合計	比率
左	13	6	1	2	22	18.3%
右	7	2	0	0	9	7.5%
両側	2	1	0	0	3	2.5%
なし	50	30	5	1	86	71.7%

表24 細石刃出土遺跡の部位別平均値

遺跡名	羽黒山				額田大宮				宮脇				柏原				後野				富士山			
	点数	長 mm	幅 mm	厚 mm	点数	長 mm	幅 mm	厚 mm	点数	長 mm	幅 mm	厚 mm	点数	長 mm	幅 mm	厚 mm	点数	長 mm	幅 mm	厚 mm	点数	長 mm	幅 mm	厚 mm
完形	4	19.2	6.2	1.8	9	20.2	5.0	1.9	5	18.0	5.9	1.8	6	43.3	8.8	3.7	32	31.4	7.2	-	10	19.4	7.0	3.5
頭部	41	10.1	5.7	1.9	46	13.3	5.1	1.4	11	16.4	6.6	1.7	43	23.8	8.1	2.4	66	21.8	7.3	-	35	14.9	6.5	2.0
中間部	56	18.1	8.1	2.3	9	9.8	4.4	1.0	0	-	-	-	23	17.7	7.6	2.0	18	13.9	6.2	-	30	11.9	6.2	1.9
端部	19	9.5	5.0	1.7	13	12.7	4.4	1.7	2	13.7	6.9	1.5	9	24.7	7.2	2.4	19	19.9	6.0	-	13	13.0	7.8	2.3
不明	0	-	-	-	0	-	-	-	3	11.8	5.1	1.5	23	16.0	6.2	1.6	0	-	-	-	2	21.8	4.6	2.7
全体	120	11.0	6.0	1.9	77	13.6	4.9	1.4	21	15.9	6.2	1.7	104	21.9	7.5	2.2	135	22.7	6.9	-	90	14.3	6.6	2.2

表25 細石刃出土遺跡の部位別平均値



*本データは、註4文献63頁の表に当遺跡のデータを加えて作成した。

(2) 細石刃核について

茨城県の細石刃石器群は、生産技術の特徴から「野岳・休場型」「北方系削片型」「ホロカ型」の三つに大別されている⁶⁾。本跡で出土した5点(内2点は接合)は、すべて「野岳・休場型」とよばれる円錐形・逆円錐形と称される型式で、日本列島全域で見られるが、特に関東以西に多く見られる型式である。県内において、「野岳・休場型」の細石刃石核は、黒曜石製、非黒曜石製の2種に分類されるが、当遺跡では後者にあたり、5点すべてが流紋岩である。Q50・Q52・Q53は逆円錐形及び逆台形状で平均長22.3mm、平均幅20.7mm、平均重8.3gである。細石刃剥離と打面再生を繰り返しており、4～8条の細石刃剥離痕が側面、背面にまで及んでいる。いずれも背面には自然面及び大きく剥取された剥離面を残している。Q51・Q54は接合関係にあり、細石刃を剥離していた段階では楕円形状の先端部を作業面としていたが、剥離する過程で、打面調整時に欠けてしまったと思われ、上記の3点とは形状が若干異なっている。残された自然面の様相からいずれも母岩自体はさほど大きなものではなかったようである。

県内で確認されている「野岳・休場型」の細石刃核の大きさは、長さ15～35mmであり、当遺跡の細石刃核も平均的な大きさといえる。また、細石刃の完形品が少ないことから、最大どのくらいの大きさの細石刃が剥離できるのか、細石刃核の剥離面の計測を行った結果、17.5～34.0mmであった。細石刃核が剥離を繰り返して小形になっていることから、さらにもう少し長い細石刃が剥離されていたと考えられる。前項でも述べたように、当遺跡の細石刃の平均長は11.1mmである。細石刃の剥離面の長さと比較すると差があることから、剥離した細石刃を計画的に折断していたといえるのではないだろうか。

細石刃が製作された1万4000年前頃は最終氷河期の最寒冷期を過ぎた頃で、寒冷な気候と温暖な気候が目まぐるしく入れ替わる頃であったといわれる。そのような環境激変の中、生息する植物や動物に変化が生じ、その対処として道具も変わってきている。細石刃は携帯に容易な石器で、一つの細石刃核から規格性のある細石刃を多数製作できる利点がある。複数の細石刃を木や骨で作った軸に差し込んで植刃器として使われた例も国外では見つかっており、組み合わせの道具である⁷⁾。よって、細石刃自体は小さいが、道具とした場合は決して小形のものではないと考えられている。また、組み合わせの道具であるため、破損した際には部分的に新しい物と交換して使用することができる。

以上のことを踏まえて、第2号石器集中地点における細石刃の特徴を考察してみたい。本集中地点はソフトローム上層から下層にかけて出土しており、時期はⅢa期に比定される⁸⁾。石材は流紋岩を中心に、珪質頁岩、硬質頁岩、チャートを使用しており、当遺跡からやや離れた場所で産出された石材が多いと考えら

れる。出土範囲は半径約5mの密集型で、覆土などから剥片等が検出されていないことから、近くに他のブロックの存在は考えがたい。剥離した細石刃の頭部や端部は計画的に折断し、平たい1cm程度の大きさにして、柄にはめ込んで使用したと思われる。細石刃の中には微細な剥離痕跡を残すものがあることから、それまで使用していた道具の刃部となる細石刃をここに遺棄したことが想定される。さらに、多くの剥片が確認されているが、細石刃核に接合する細石刃や剥片が確認されていないことから、細石刃剥離作業を行い、新しくできた物を持って移動していったのではないだろうか。その際、細石刃剥離が困難となった細石刃核を放棄したものと考えられる。また、石核は検出されていないが、珪質頁岩の剥片が57点、チャートの剥片が31点確認されていることから、これらを石材とした細石刃剥離作業も行われていたと言える。移動する際には流紋岩とは違った石材の石核を持って移動したことも想定できる。当時の生活環境が移動しながらの生活であったことからすると、この地において石器製作が行われたことは明白であるが、期間にすると短い一時的なキャンプサイト的な場だったと想定される。

2 縄文時代

縄文時代の遺構は堅穴住居跡1軒、陥し穴11基、土坑2基が確認された。住居跡はA区で確認されており、中期前葉頃と考えられる。2基の土坑から出土している深鉢も同時期と考えられる。陥し穴は台地の端部で確認されており、おおむね標高28mの等高線に沿うように並んでいる。遺物が出土していないため詳しい時期判断はできないが、狩猟場となっていた時期があったことが明らかになった。小橋川の小谷を挟んで西側に位置する桜の郷遺跡群⁹⁾の宮後遺跡¹⁰⁾では、縄文時代中期中葉から後葉にかけて集落が営まれており、周辺にも集落が存在した可能性がある。

3 弥生時代

当遺跡では、弥生土器片が数片確認されただけで、遺構は確認されていない。周辺遺跡の様相をみると、桜の郷遺跡群においては、集落が縄文中期後葉に一時終焉を迎えたが、弥生時代後期後半に再び形成され始める。宮後遺跡5軒（内、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭4軒）、大塚遺跡¹¹⁾28軒（内、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭12軒）、綱山遺跡¹²⁾12軒（弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭12軒）、石原遺跡¹³⁾23軒（内、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭6軒）と報告されている。南部に位置する大戸下郷遺跡¹⁴⁾においても29軒（内、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭1軒）と当遺跡周辺において集落が形成されていた。

4 古墳時代

古墳時代の遺構は、堅穴住居跡が14軒で、いずれも台地上の平坦部に位置している。集落は前期前半に形成され始め、前期後半には終焉を迎えていることがわかる。B区の第30号住居跡は面積が50㎡を超え、当遺跡では最大で、出土遺物が豊富であり、当該期の中心的な住居跡と考えられる。近接する小・中規模の住居跡も軸線を等しくしており、生産や消費の基礎単位となる集団が形成されていたことがうかがえる。また、第60・66号住居跡は遺物が少ないことや、床面に硬化面が無く生活の痕跡がうかがえないこと、さらに集落の端に位置するなど規模や形状が類似しており、集落において住居以外の集会所的な機能を果たしていた可能性も想定される。

桜の郷遺跡群においては「弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭」の住居数が40軒、「古墳時代前期」

の住居数が103軒とかなりの規模で集落が形成されているが、それ以降の「古墳時代中期」は石原遺跡4軒、大塚遺跡2軒、「古墳時代後期」は大塚遺跡2軒、綱山遺跡13軒のみである。一方、当遺跡と同じ台地南部に位置し、桜の郷遺跡群と交流があったと考えられる大戸下郷遺跡においては対照的であり、桜の郷遺跡群の集落が衰退していく「古墳時代後期」に62軒と最大規模となる。大戸下郷遺跡と桜の郷遺跡群の中間地点に位置する当遺跡において、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の集落が確認されなかったということは、桜の郷遺跡群の規模が拡大し始めてから若干の時間をおいて、小集団が小橋川を隔てた当遺跡に拠点を移してきたものと推察される。

5 奈良・平安時代

当遺跡の中心をなす時代であり、竪穴住居跡48軒、掘立柱建物跡16棟が確認された。以下、この時代を土器の様相¹⁵⁾ などから5期に分けて集落の変容（第238図参照）を考えるとともに、出土遺物について若干の考察を加えてみたい。

(1) 集落の変遷

1期（8世紀前葉）

住居跡は3軒（第12・16・24号住居跡）で、主軸方向はほぼ真北に近く、標高28mほどの台地の端部に位置している。また、第12号住居跡からは、覆土中層から当期唯一の鉄器（刀子）が出土している。






2期（8世紀中葉）

住居跡は15軒（第1・3・8・14・17・25・26・40・50・54・57・59・63・65・67号住居跡）で、当遺跡において集落の規模が最大になる時期である。B・E区北部の平坦地を囲むように住居が構築されている。第26号住居跡は規模が小さいが、当遺跡では唯一の農耕具（鋤先・鎌）が出土している。第8・59・65号住居跡は規模からみると、それぞれ集団の核となる住居と考えられる。第59号住居跡は、規模が大きく、遺物の出土量も多い。また、「寺カ」と書かれた墨書土器が出土している。軸線を等しくする第1・54・57号住居跡及び第13号掘立柱建物跡を一つのまとまりとした集団の中において、中心的な役割を果たしていたと想定される。第3・8・14・17号住居跡は10～15m間隔で存在しており、規模や出土遺物から第8号住居跡を中心とした集団が形成されていた可能性がある。北部のF区においては、第65号住居跡が第63・67号住居跡、第16号掘立柱建物跡を伴って集団を形成していたと思われる。以上のことから、該期には少なくとも三つの集団が存在していたと考えられる。

3期（8世紀後葉）

この時期の住居跡は12軒（第10・11・15・21・23・31・32・36・38・44・48・61号住居跡）で、B・E区北部の平坦部にも住居が構築されるようになる。第11号住居跡はこの時代の住居跡の中では規模が最大で、遺物の量が多く、鉄製品4点（鎌2、鋤1、不明1）も出土している。北側には、最大規模の第2・3・4号掘立柱建物跡が東西に3棟並んで確認されており、本住居との関連が想定される。第11号住居跡のあるA区南部には、合計7棟の掘立柱建物跡が確認されており、第11号住居跡を中心として、この時期からA区南部が集落の中心的な性格を持つようになったと考えられる。また、第38号住居跡は、規模や遺物から集団の核となりうる住居と考えられ、少なくとも第11号住居跡及び第38号住居跡を中心とする二つの集団があったと推測される。北部を東西に延びる第2号道路跡は、両脇の側溝から出土した土器からこの時期には廃絶していることになる。



-  8世紀前葉
-  8世紀中葉
-  8世紀後葉
-  9世紀前葉
-  9世紀中葉



第238図 羽黒山遺跡遺構配置図

4期（9世紀前葉）

住居跡は9軒（第5・6・18・27・29・33・45・56・62号住居跡）で、住居数軒と掘立柱建物跡数棟で形成される小規模なまとまりがみられる。第29号住居跡は小形の住居で、出土遺物も一般的であるが、覆土中層から丸鞆が出土していることが特筆される。また、位置関係からみて、第33号住居跡及び第6・7号掘立柱建物跡も同じ集団に属していたと考えられる。第56号住居跡から出土した鉄鉤は、第14・15号掘立柱建物跡との関連を想定させる。第5・6号住居跡は、当遺跡の中心部に位置し、規模や鉄器の出土量が突出して多いことから、当期の中心的な住居であったと考えられる。

5期（9世紀中葉）

住居跡は8軒（第2・4・7・9・19・35・41・58号住居跡）で、住居跡の分布は散漫な印象を受ける。第2号住居跡からは5点の墨書土器が出土している。当遺跡の墨書土器が全17点であることから考えてもその量は突出している。また、第4号住居跡からは鉄製品（刀子、鋸、紡錘車、槍鉋）が出土している。この2軒の住居跡はA区南部に位置し、当期の中心的住居であったと想定される。

なお、9世紀後葉以後の住居跡は1軒のみであり、当遺跡の集落は終焉を迎えることになるが、それを予感させる配置でもある。

(2) 出土鉄器について

奈良・平安時代の住居跡からは、合計63点の金属器が出土している。内1点が銅製の腰帯具（丸鞆）である以外、すべて鉄製品である。丸鞆も含めて、出土総数（63点）を調査住居軒数（46軒）で割ると、1軒あたり1.37点という数値になる。当遺跡は、桜の郷遺跡群に比べて墨書土器の出土率は低く、灰釉陶器や円面硯なども出土していないが、鉄器に関しては決して低い数値ではないように思われる。そこで、鉄器の出土状況について若干の考察をしてみたい。

まず、時期別に出土状況をまとめてみる（表26参照）。1期では、第12号住居跡から刀子が1点出土している。出土住居率¹⁶⁾33.3%、出土率¹⁷⁾0.33である。2期の出土総数は16点である。出土住居率40.0%、出土率1.07であり、当遺跡では唯一の耕作用具である鋤先が第26号住居跡から出土していることが特筆される。3期の出土総数は17点と2期より若干増える。出土住居率58.3%、出土率1.42と、いずれも高くなっており、鉄器の普及が急速に進んだことを物語っている。中でも、収穫具である鎌の出土数が7点に急増している。4期の出土総数は18点、出土住居率66.7%、出土率2.00と最高になる。鉄器が出土している住居跡6軒のうち3軒に15点が集中しており、特定の住居に鉄器が偏在する傾向が見られる。5期の出土総数は若干その数を減らし11点となり、出土住居率は42.9%、出土率が1.57になる。当遺跡では、鉄製紡錘車は当期に1点出土しているだけであるが、鉄の生産量の増大を反映したものと考えられる¹⁸⁾。

以上のように、当遺跡では8世紀後葉から鉄器が広く普及したことがうかがえる。他の遺跡と状況を比べてみると、次のようなことが考えられる。

桜の郷遺跡群の宮後遺跡では、1期では7軒から11点の鉄器が出土し、出土住居率58.3%、出土率0.92とすでに高い値を示している¹⁹⁾。2期ではさらに、出土住居率37.5%、出土率1.36と宮後遺跡で最高の値を示している。3期になると出土住居率は半減するが、出土率は1.00を超えている。そして4期になると出土住居率、出土率とも3期よりもかなり下回るが、5期では上昇している。このことから、4期において、宮後遺跡では、鉄器の生産・流通・消費体制に何らかの変化があった可能性がある。また、出土住居率等を見ると、宮後遺跡の方が早い時期に鉄器が普及したようである。これは、墨書土器や灰釉陶器

の出土量が多いことから想像できるように、桜の郷遺跡群の方が、羽黒山遺跡よりも集落として優位性を持っていたことによるものと思われる。

次に、茨城県内では最大規模の集落の調査が行われているつくば市の島名熊の山遺跡²⁰⁾の状況と比較してみる。出土住居率を見ると、島名熊の山遺跡では1期から4期までは、ほぼ35%前後で推移し、5期に48.1%と最高の数値を示している。島名熊の山遺跡の集落は古墳時代から営まれ、5期以降も継続して営まれるが、集落が存続するすべての時期の中で、鉄器の出土住居率、時期別の出土割合が一番高いのは5期である。羽黒山遺跡では出土住居率、時期別割合とも4期が最高になっている。

三つの遺跡を比較した結果、当遺跡は住居数が少ない割には鉄器の出土数が比較的多いと言える。器種別には他の2遺跡と差はなく、大きな偏りは見られない。強いてあげると、住居数の割には鎌、鋤先などの鉄製農具の出土が若干多くなっていることである。

鉄製農具については、一般的に収穫具である鎌よりも開墾・耕作用具である鋤・鋤先の出土が少なく、所有形態の違いがあると考えられている。8世紀代に比べて9世紀前半においては、関東地方の国々で鉄や鉄製農具が量産されるようになり、供給が十分にあったと考えられる。そのため価格は低下するが、当時の農民の生活からすると簡単に購入できる価格ではなかったようである²¹⁾。古代東国においては「鋤・鋤先を基本的に富豪層の集中所有に、鎌を家父長的世帯共同体の所有」²²⁾とする見解がある。この観点で鉄製農具の出土している住居跡を観察してみたい。鋤先の出土している第26号住居跡は先の見解からすると富豪層の住居の可能性があるが、出土位置が覆土中であることや、規模や遺物の出土状況からして考えにくい。8世紀後葉の第11・38号住居跡からは複数の鎌が出土している。いずれも複数の住居と掘立柱建物をもって集団を形成し、その中心的な役割を果たしていたと想定されることから、家父長層の住居と推測できる。9世紀前葉の第5・6号住居跡からは鎌の他に、刀子・鎌・門金具カなどが出土し、他の出土遺物も豊富である。こちらも同様に集団を形成しており、先に述べた住居跡と共通していると考えられる。

これらのことから当遺跡の集落の様相として、各時期に形成された小規模な集団において中心となる者が存在し、農業を基盤とした生活の仕組みが確立されていたのではないかと考えられる。鉄製品の所有に関しては、特定の住居に限られており、集団の中心的な役割を果たす住居に集中していると言える。4期を境に住居数が減少していくと同時に農具の出土数も減少しており、集落が衰退し9世紀後葉に終焉を迎えたことを裏付けていると考えられる。

以上のように、羽黒山遺跡では、8世紀初めには集落が形成され始め、A区、B区、E区、F区で掘立柱建物跡がそれぞれ2棟以上まとまって確認されていることから、奈良・平安時代には少なくとも4か所に生活の基盤となる集団が形成されていた可能性がある。特に、8世紀後葉頃のA区南部は、集落の中心としての性格を持ち始め、遺跡全体としても集落が隆盛を迎えたと見られる。しかし、早くも9世紀後葉には集落の規模を縮小し、終焉を迎えることになってしまう。8世紀前半に成立し、9世紀末から10世紀頃に消滅する集落は、律令国家の開墾奨励策に呼応して成立する集落で、律令体制の衰えとともに消滅する²³⁾と言われており、当遺跡もまさにその典型と考えられる。ところで、桜の郷遺跡群においては9世紀後葉まで（石原遺跡においては10世期前葉まで）集落が営まれており、若干長い傾向がみられる。これは、桜の郷遺跡群の大塚遺跡の建物群が、「郡衙や郡衙別院の館に系譜が求められ、（中略）在地の豪族もしくは富豪層の存在が想定され、（中略）行政機能をも加わった施設が展開されていたと考えられる。」²⁴⁾ ことと関係すると思

われる。谷を隔てて位置した地方行政機構のお膝元の桜の郷遺跡群は、従来の体制の影響を受け続け、羽黒山遺跡よりもいろいろな面から集落としての優位性があり、長く存続したものと考えられる。羽黒山遺跡は、農業生産拡大のために開墾された集落であり、あくまでも中心的な集落は大塚遺跡を中心とする桜の郷遺跡群にあったことを物語っている。

表26 羽黒山遺跡の鉄器の出土状況と宮後遺跡・島名熊の山遺跡との比較

時 期		1期	2期	3期	4期	5期	合計	器種別点数			器種別割合		
器種	住居跡 (番号)	12,16,24	1,3,8,14 17,25,26 40,50,54 57,59,63 65,67	10,11,15 21,23,31 32,36,38 44,48,61	5,6,18 27,29,33 45,56,62	2,4,7,19 35,41,58		羽 黒 山	宮 後	熊 の 山	羽 黒 山	宮 後	熊 の 山
	農具		1				1	1	*	2	1.6%	*	0.6%
	鎌		1	7	2		10	10	9	54	15.9%	10.5%	15.2%
工具	刀子	1	1	4	4	5	15	15	26	123	23.8%	30.2%	34.6%
	鑿			1			1	1	*	10	1.6%	*	2.8%
	槍鉋					1	1	1	*	7	1.6%	*	2.0%
武具	鏃		1	1	4	2	8	8	10	56	12.7%	11.6%	15.7%
	紡錘車					1	1	1	*	6	1.6%	*	1.7%
	釘・門金具		7	2	5	2	16	16	*	59	25.4%	*	16.6%
	丸鞆(銅製品)					1	1	1	0	*	1.6%	0.0%	*
	不明		5	2	2		9	9	41	58	14.3%	47.7%	16.3%
合 計		1	16	17	18	11	63	63	86	375	100.0%	100.0%	100.0%

時 期	1期	2期	3期	4期	5期	合計	
出土総数	羽黒山	1	16	17	18	11	63
	宮後	11	15	14	9	37	86
	熊の山	60	82	50	76	107	375
時期別割合	羽黒山	1.6%	25.4%	27.0%	28.6%	17.5%	100%
	宮後	12.8%	17.4%	16.3%	10.5%	43.0%	100%
	熊の山	16.0%	21.9%	13.3%	20.3%	28.5%	100%
出土住居軒数	羽黒山	1	6	7	6	3	23
	宮後	7	7	4	4	11	33
	熊の山	37	43	31	33	50	194
調査住居軒数	羽黒山	3	15	12	9	7	46
	宮後	12	11	13	20	32	88
	熊の山	105	121	101	96	104	527
出土住居率	羽黒山	33.3%	40.0%	58.3%	66.7%	42.9%	50.0%
	宮後	58.3%	63.6%	30.8%	20.0%	34.4%	37.5%
	熊の山	35.2%	35.5%	30.7%	34.4%	48.1%	36.8%
出土率	羽黒山	0.33	1.07	1.42	2.00	1.57	1.37
	宮後	0.92	1.36	1.08	0.45	1.16	0.98
	熊の山	0.57	0.68	0.50	0.79	1.03	0.71

1 熊の山のデータは註20文献980頁表46・47から該当する時期のデータを抽出した。なお、槍鉋には斧、鑿には鏃、釘には楔・鏃、不明・その他には火打金・小刀・具・鍵・門を含む。

2 宮後のデータは註19文献206頁の表から該当する時期のデータを抽出した。なお、鎌・刀子・鏃以外は、その他として扱われている。

3 時期別割合 = 当期出土鉄器数 ÷ 合計出土点数

4 出土住居率 = 出土住居軒数 ÷ 調査住居軒数

5 出土率 = 出土総数 ÷ 調査住居軒数

6 中・近世

掘立柱建物跡1棟と土坑墓7基が確認された。

掘立柱建物跡は東妻側に庇を持つ、2間×2間の側柱建物で、柱穴が小さく浅いことと、当遺跡の奈良・平安時代の掘立柱建物跡と主軸方向も異なることから、中・近世と判断した。1棟しか確認されておらず、性格等は明確でない。土坑墓は、B区中央部北側及び東部北側を中心に確認され、いずれも近世の土坑墓と考えられる。中央部北側の土坑墓は、底面に粘土を充填していたと見られる。東部北側の土坑墓のそばには時期が明確でない井戸があり、土坑墓との関連も想定される。

7 おわりに

当遺跡は、旧石器時代から中・近世まで人々の生活の舞台となった複合遺跡であることが明らかになった。旧石器時代については異なる文化層を持つ石器集中地点が確認されたことで、ローム層が不安定で薄いという本県の関東ローム層の特徴²⁵⁾ からみると、良好な一括資料を得られた遺跡である。これまで県内において、「野岳・休場型」の細石刃核を確認した遺跡は数例あるが、すべて表採資料であり、ブロックを形成する遺跡は例がなかった。比較資料が少ない分、現段階で当遺跡の位置づけについて述べることは困難である。今回、「野岳・休場型」の細石刃核、細石刃、剥片がブロックで集中して確認されたことは有意義であり、今後の調査遺跡の増加によって当遺跡の性格もより明らかになっていくと思われる。

古墳時代から奈良・平安時代にかけての集落の形成については、小橋川を挟んで西に位置する桜の郷遺跡群と、涸沼前川沿岸に位置する大戸下郷遺跡との間で想定される人の動き²⁶⁾ に少なからず影響を受けていたと考えられる。両遺跡の集落形成の時期などから、遺跡密集地帯²⁷⁾ である桜の郷遺跡群から、可耕地を求めて移動してきたと思われる集団によって形成された農業生産のための開墾集落が羽黒山遺跡であると考えられる。今回は、集落の変遷や出土遺物といった視点で考察してきたが、さらに様々な観点で考察を加えることにより、羽黒山遺跡や北に位置する大戸富士山遺跡、さらには桜の郷遺跡群を含む周辺の全体像も明らかになっていくと考える。

註

- 1) 鈴木素行「武田西塙遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第21集 2001年3月
- 2) 鈴木素行「武田石高遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第15集 1998年3月
- 3) 前掲2) 文献 鈴木素行「武田石高遺跡から出土した石材の石質と石材採取地についての考察」
- 4) 永塚俊司「石器群の様相—細石器」『茨城県における旧石器時代研究の到達点—その現状と課題— 発表要旨・資料集』ひたちなか市教育委員会 茨城県考古学協会 2002年12月
- 5) 「新東京国際空港 埋蔵文化財発掘調査報告書XX 十倉三稲荷峰遺跡(空港No.67遺跡)」『千葉県文化財センター調査報告』第458集の細石刃の分類に従った。
- 6) 前掲4) に同じ
- 7) 織笠昭「細石刃の形態学的一考察」『石器文化の研究—先土器時代のナイフ形石器・尖頭器・細石器』新泉社 2005年1月
- 8) 註4) 文献 橋本勝雄「茨城県における旧石器時代の編年」の茨城県後期旧石器時代編年案に基づく。
- 9) 小橋川の西側に広がる標高25~30mの台地上に隣接して立地する遺跡群で宮後遺跡、石原遺跡、大塚遺跡、綱山遺跡が含まれる。註10), 11), 12), 13)。
- 10) ア. 川又清明他「宮後遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第188集 2002年3月
イ. 和田清典他「宮後遺跡2 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第240集 2005年3月
ウ. 川又清明・浅野和久「宮後遺跡3 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第241集 2005年3月
- 11) ア. 長谷川聡他「大塚遺跡1 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第242集 2005年3月
イ. 井上琢哉・小林健太郎「大塚遺跡2・木戸遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第258集 2006年3月
- 12) 田中幸夫・荒崎克一郎「綱山遺跡 やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第243集 2005年3月
- 13) 村上和彦「石原遺跡 やさしさのまち「桜の郷」整備事業埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
- 14) ア. 近藤恒重「大戸下郷遺跡 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第216集 2004年3月
イ. 綿引英樹・松本直人「大戸下郷遺跡2 主要地方道内原塩崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第257集 2006年3月

- 15) 前掲10) ウの土器編年に基づいた。
- 16) 鉄器出土住居軒数÷調査住居軒数で算出しており、鉄器が出土する住居の割合を示している。
- 17) 出土鉄器数÷調査住居軒数で算出しており、1軒あたりどれくらいの鉄器が出土するかを示している。
- 18) 松村恵司氏は、「鉄製紡錘具の普及は、釘や鋸などの消耗材とともに、各地における鉄の生産量の増大を最も鋭敏に反映するものといえる。」と述べている。「古代集落と鉄器所有」『日本村落史講座 第4巻 政治1〔原始・古代・中世〕』雄山閣 1991年5月
- 19) 川又清明「宮後遺跡」『古代地方官衙周辺における集落の様相―常陸国河内郡を中心として―』茨城県考古学協会シンポジウム実行委員会 2005年2月
- 20) 田中幸夫他「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書X」『茨城県教育財団文化財調査報告』第264集 2006年3月
- 21) 高橋一夫氏は、延喜式主税帳の禄物価法に記載されている鉄1鋌及び鋸の価格と、律令農民の納める租を比較することで、農民にとって鉄製農具は決して入手しやすい価格ではなかったはずと述べている。「製鉄遺跡と鉄製農具」『古代東国の考古学的研究』六一書房 2003年9月
- 22) 前掲21) 文献に同じ
- 23) 松村恵司「古代のムラを掘る」『考古学ゼミナール 古代を発掘する』六興出版 1992年5月
- 24) 前掲11) アに同じ
- 25) 前掲4) 文献 川崎順徳「茨城県における先土器研究の歩み」
- 26) 前掲14) イの中で大戸下郷遺跡から桜の郷遺跡群に「集団の移動または分派」について述べている。
- 27) 前掲11) アに同じ

写 真 图 版



羽黒山遺跡出土土器



羽黒山遺跡遠景（東から）



羽黒山遺跡全景

PL 2



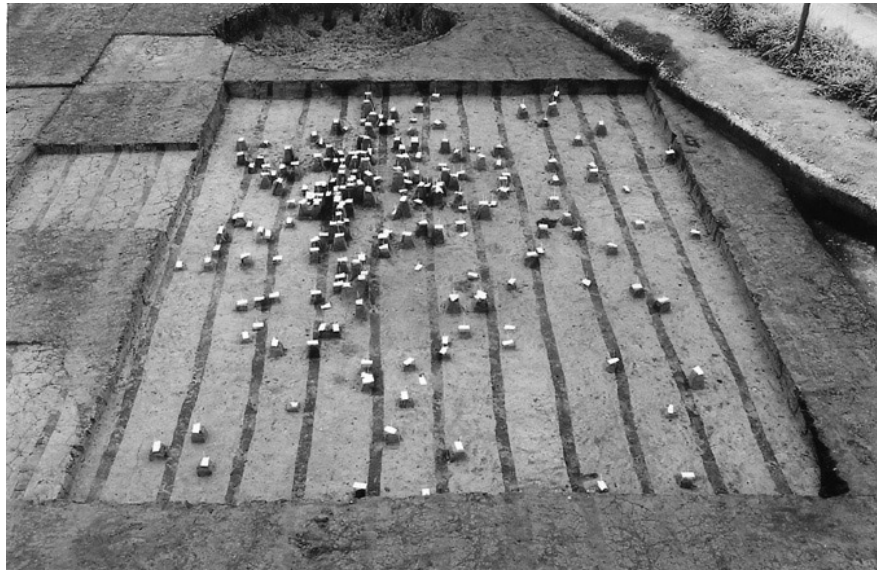
第1号石器集中地点
遺物出土狀況



第1号石器集中地点
遺物出土狀況



第1号石器集中地点
遺物出土狀況



第2号石器集中地点
遺物出土状況



第2号石器集中地点
遺物出土状況



第2号石器集中地点
遺物出土状況

PL 4



第3号石器集中地点
遺物出土状況



第3号石器集中地点
遺物出土状況



第3号石器集中地点
遺物出土状況

第 8 号 陥し 穴
完 掘 状 況



第 9 号 陥し 穴
完 掘 状 況



第 290 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



PL 6



第 2 2 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 3 0 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 3 0 号 住 居 跡
貯 蔵 穴 遺 物 出 土 状 況

第 3 4 号住居跡
完 掘 状 況

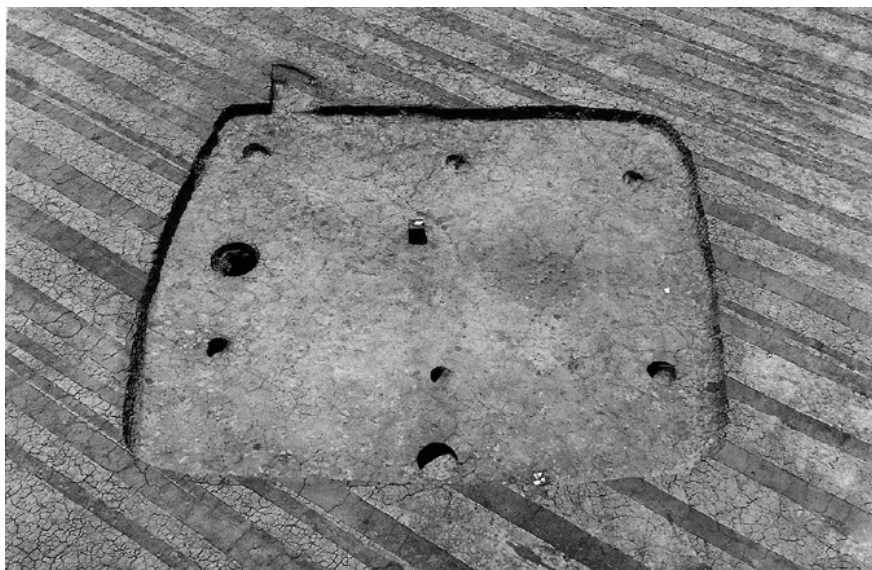


第 3 4 号住居跡
遺 物 出 土 状 況

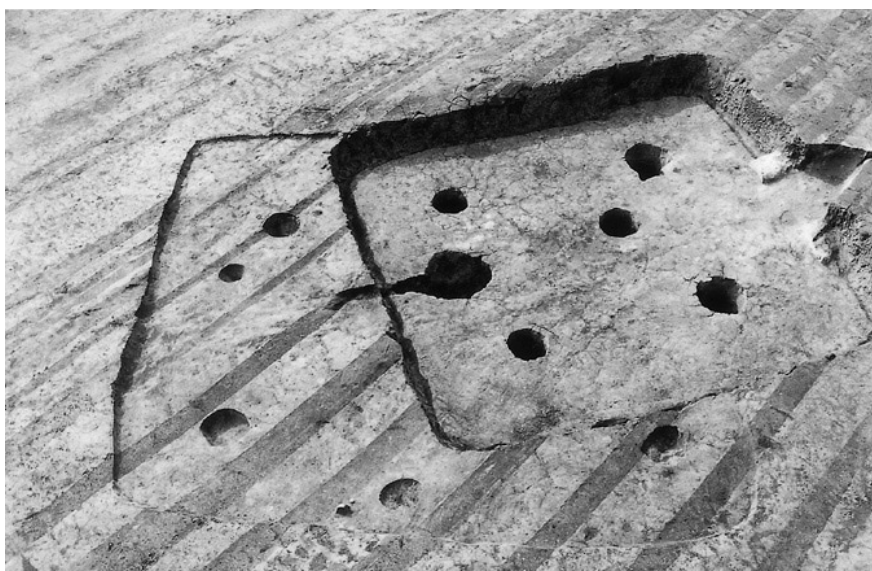


第 5 1 号住居跡
完 掘 状 況

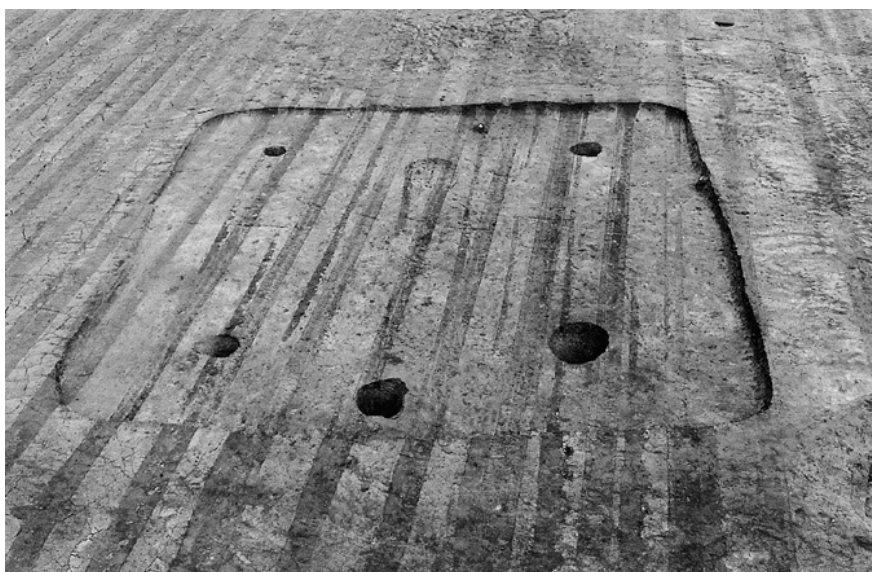




第52号住居跡
完掘状況

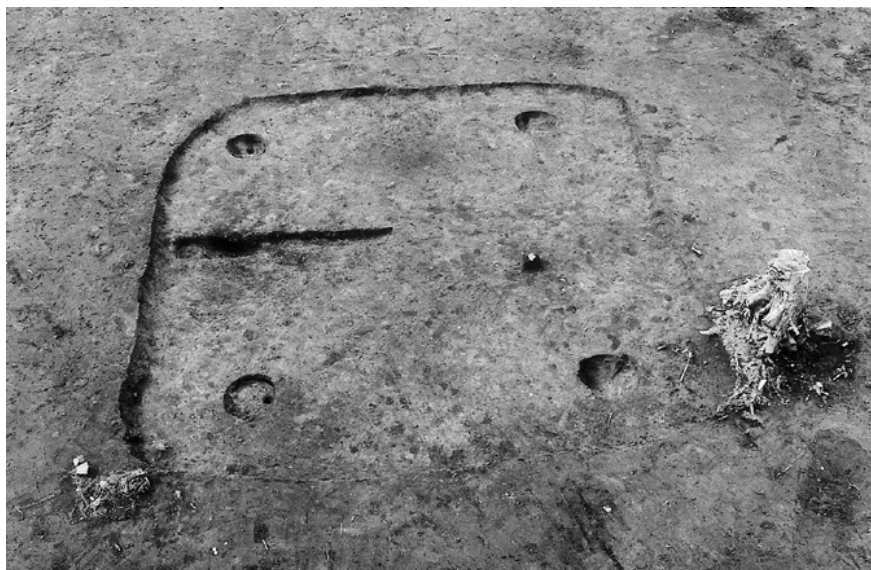


第54・55号住居跡
完掘状況



第60号住居跡
完掘状況

第 6 4 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 6 6 号 住 居 跡
完 掘 状 況



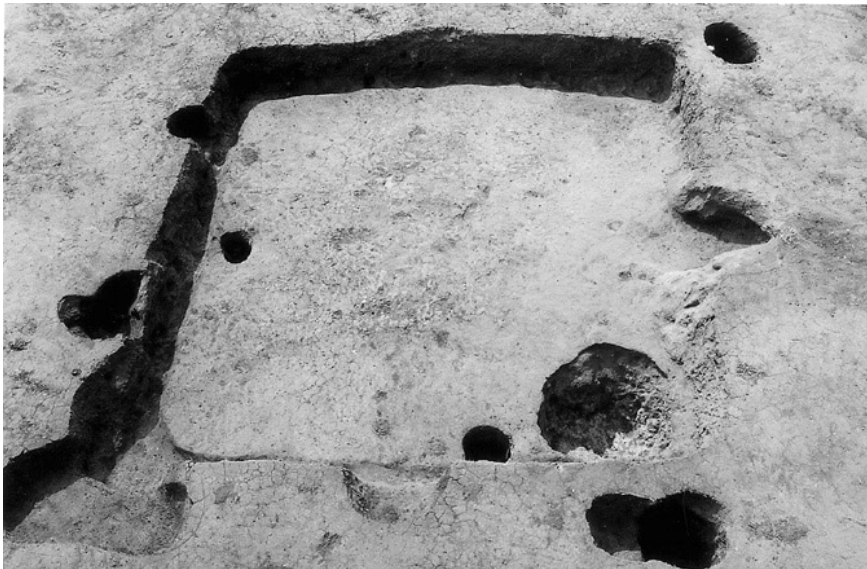
第 6 6 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



PL 10



第 1 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 4 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 4 号 住 居 跡
貯 蔵 穴 遺 物 出 土 状 況

第 6 号住居跡
完 掘 状 況



第 7 号住居跡
完 掘 状 況



第 7 号住居跡
竈 遺 物 出 土 状 況





第 10 号住居跡
完 掘 状 況



第 10 号住居跡
遺 物 出 土 状 況

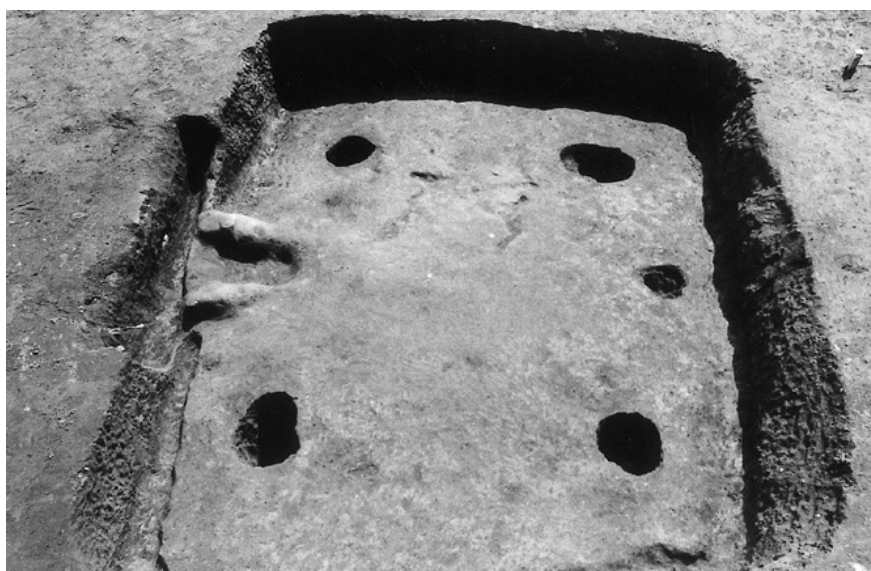


第 11 号住居跡
遺 物 出 土 状 況

第 11 号住居跡
遺物出土狀況



第 12 号住居跡
完掘狀況

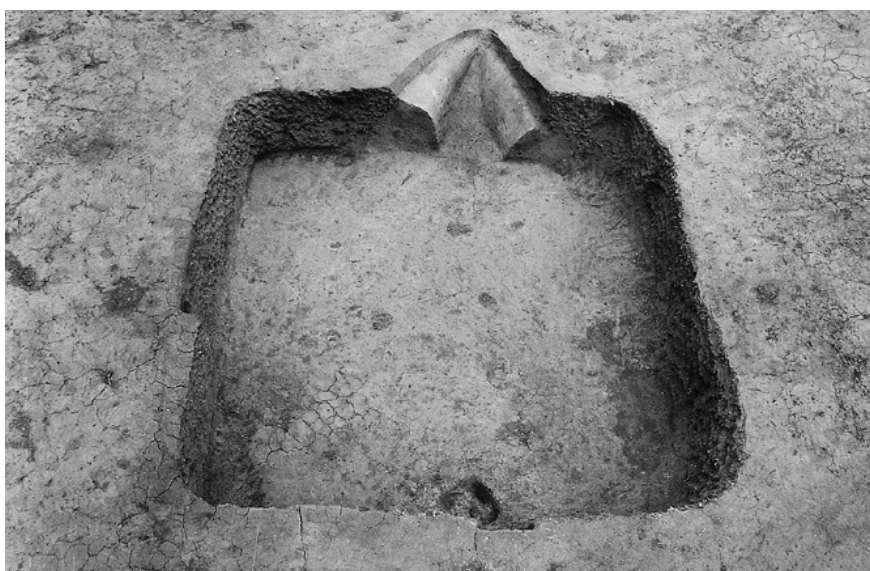


第 16 号住居跡
完掘狀況





第17・18号住居跡
完掘状況



第19号住居跡
完掘状況



第19号住居跡
遺物出土状況

第 19 号住居跡
遺物出土狀況



第 19 号住居跡
遺物出土狀況

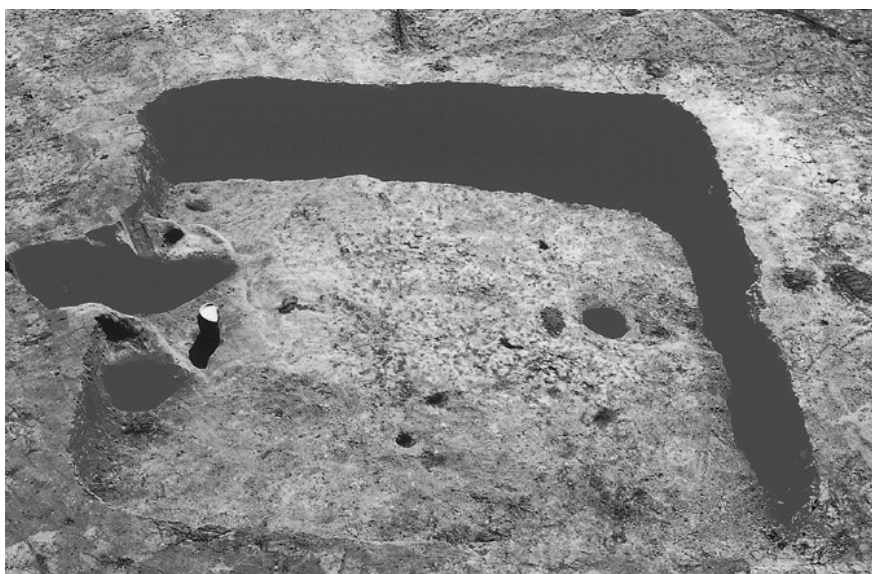


第 25 号住居跡
遺物出土狀況





第 26 号住居跡
完 掘 状 況



第 27 号住居跡
完 掘 状 況



第 29 号住居跡
完 掘 状 況

第 3 1 号住居跡
遺物出土狀況



第 3 1 号住居跡
遺物出土狀況



第 3 1 号住居跡
遺物出土狀況





第36号住居跡
完掘狀況



第36号住居跡
遺物出土狀況

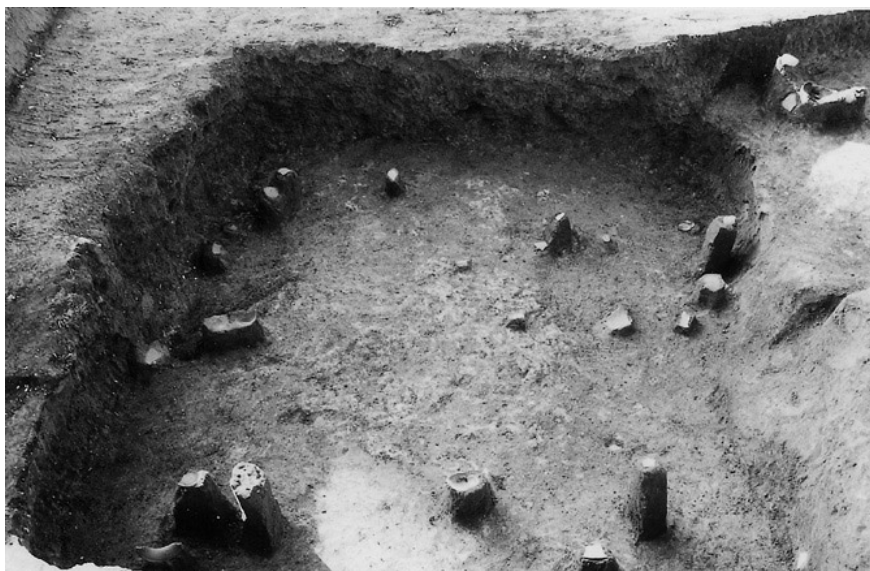


第38号住居跡
完掘狀況

第 4 1 号 住 居 跡
完 掘 状 況



第 4 1 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 4 5 号 住 居 跡
完 掘 状 況





第50号住居跡
完掘状況

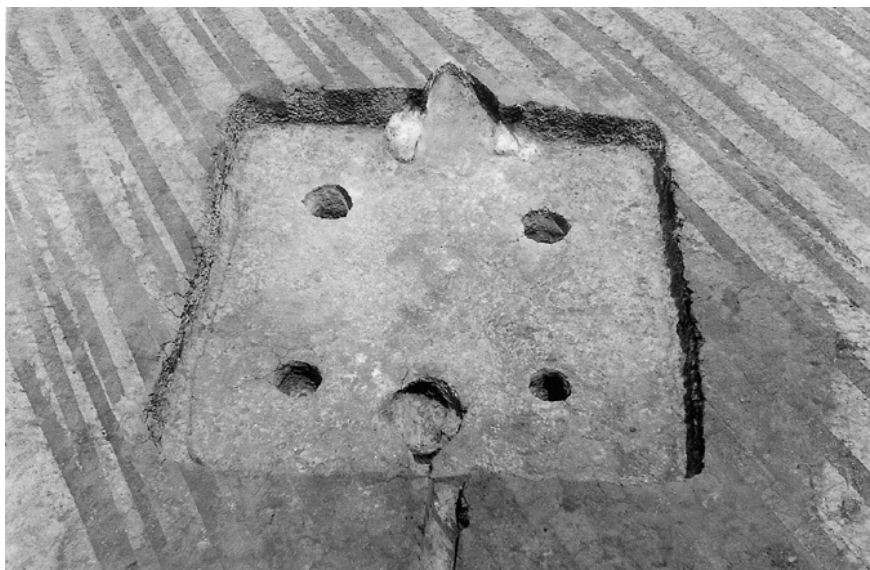


第50号住居跡
堀り方完掘状況



第50号住居跡
遺物出土状況

第54号住居跡
完掘狀況



第54号住居跡
遺物出土狀況



第56号住居跡
遺物出土狀況





第56・57号住居跡
完掘状況



第57号住居跡
遺物出土状況



第58号住居跡
完掘状況

第 58 号住居跡
遺物出土狀況



第 59 号住居跡
完掘狀況



第 59 号住居跡
遺物出土狀況

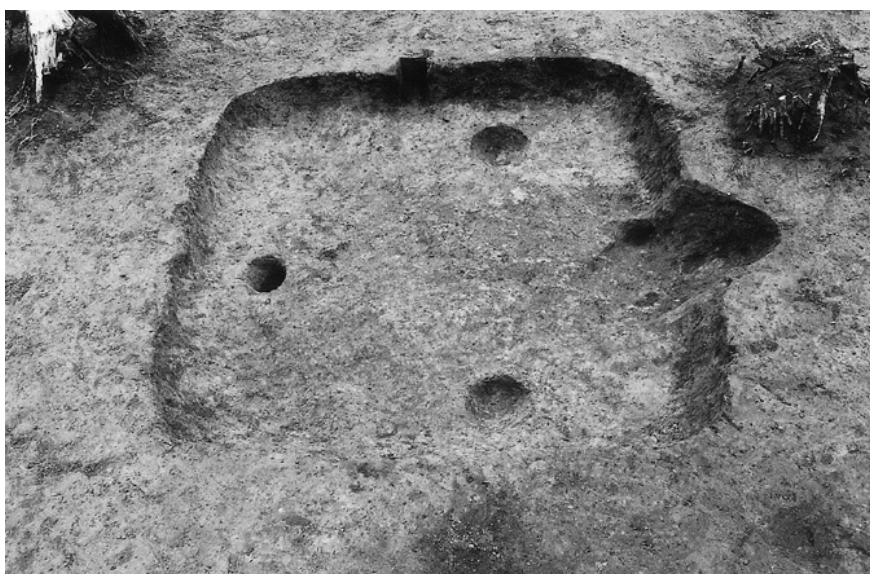




第 59 号住居跡
遺物出土狀況

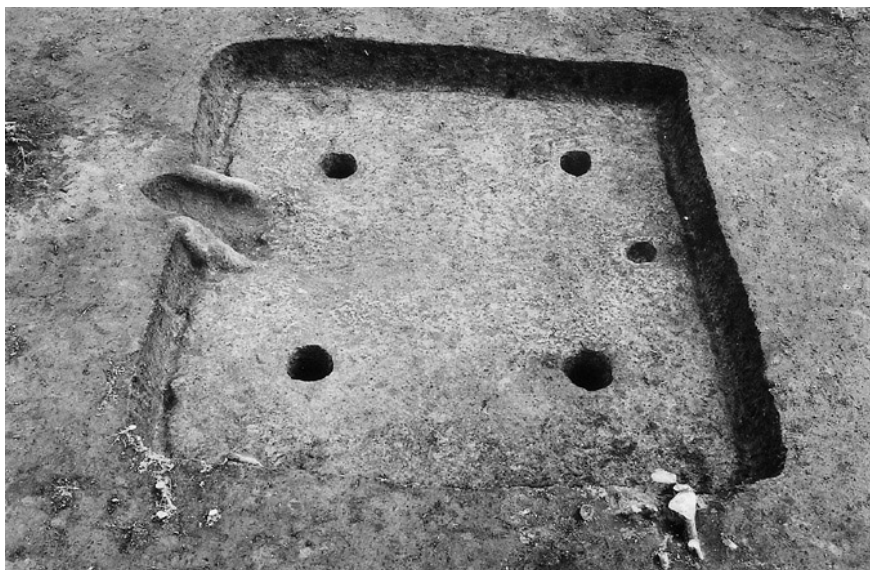


第 61 号住居跡
完掘狀況



第 63 号住居跡
完掘狀況

第 65 号住居跡
完 掘 状 況



第 65 号住居跡
遺 物 出 土 状 況

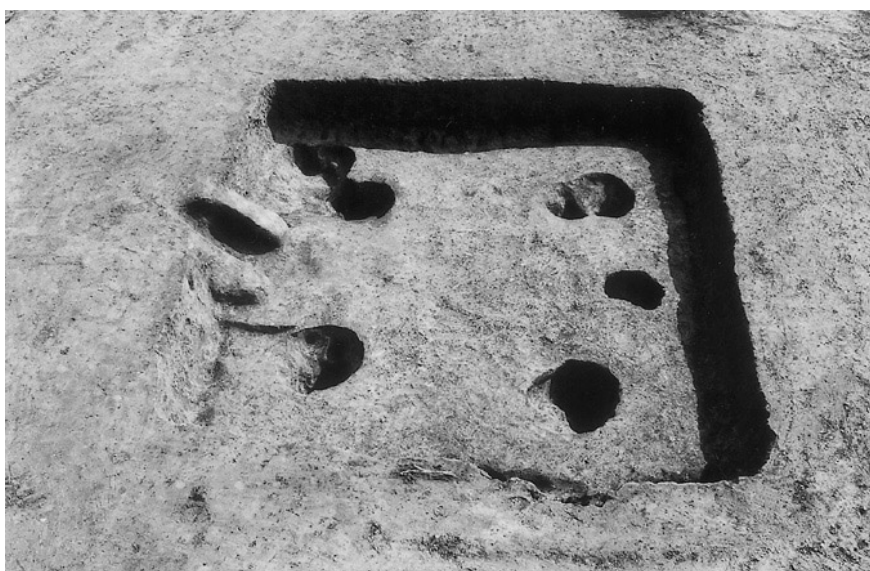


第 65 号住居跡
遺 物 出 土 状 況





第 65 号住居跡
遺物出土狀況



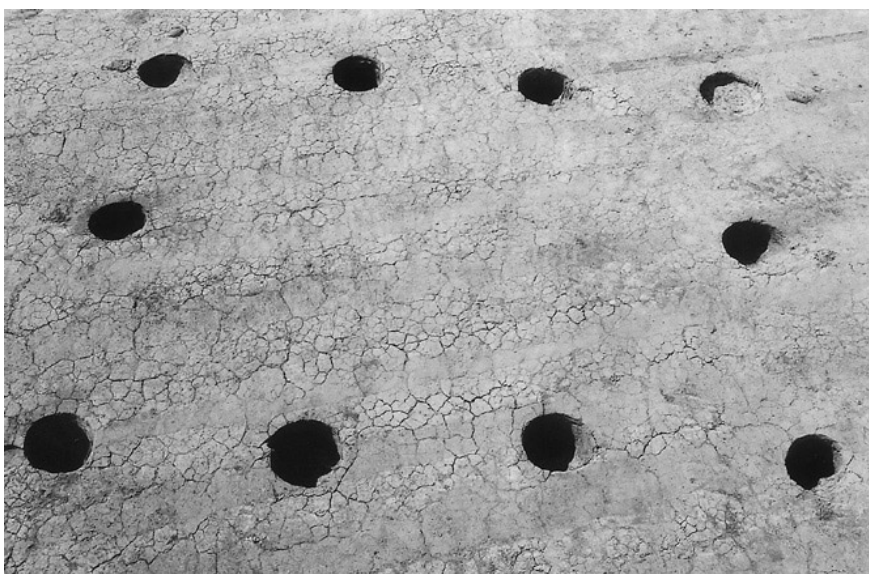
第 67 号住居跡
完掘狀況



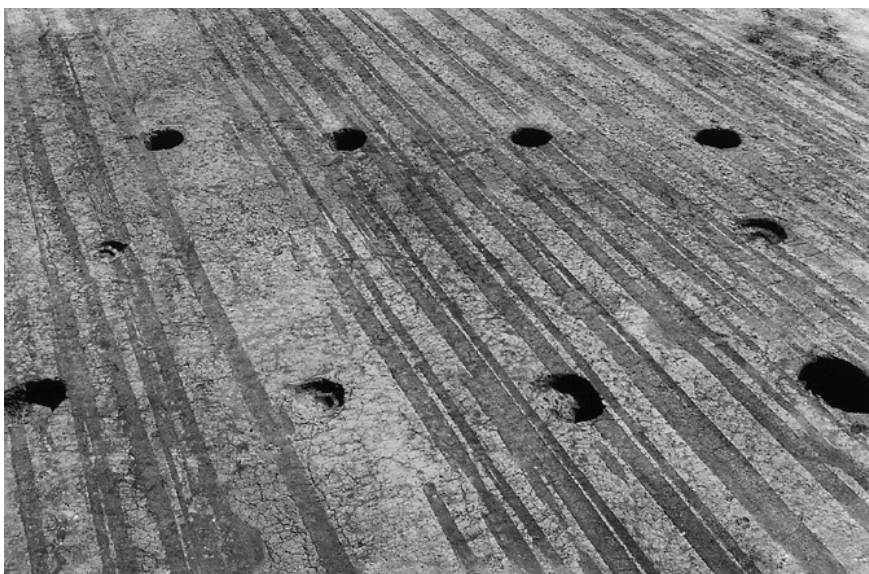
第 67 号住居跡
遺物出土狀況



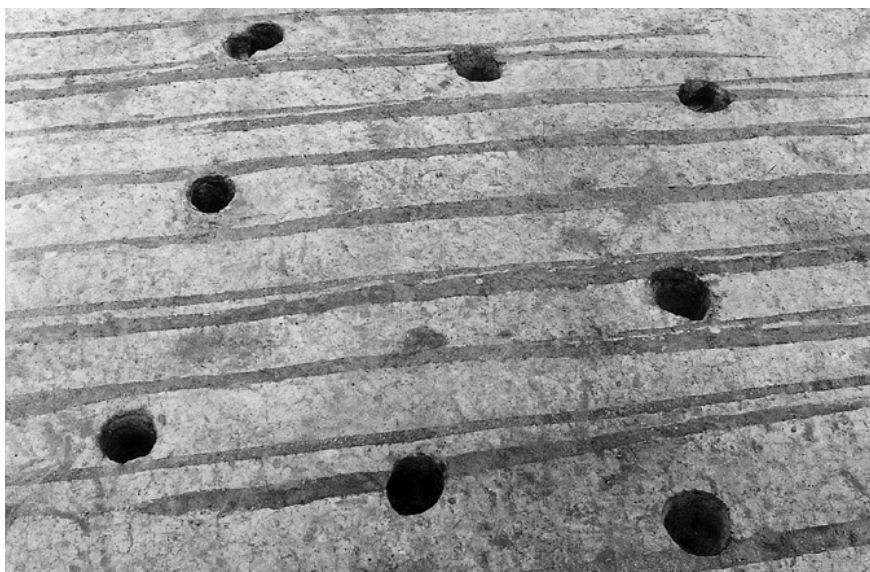
第 1 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 8 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第 13 号掘立柱建物跡
完 掘 状 況



第15号掘立柱建物跡
完掘状況



第15号掘立柱建物跡
遺物出土状況



第16号掘立柱建物跡
完掘状況



第 1 号大形円形土坑
完 掘 状 况



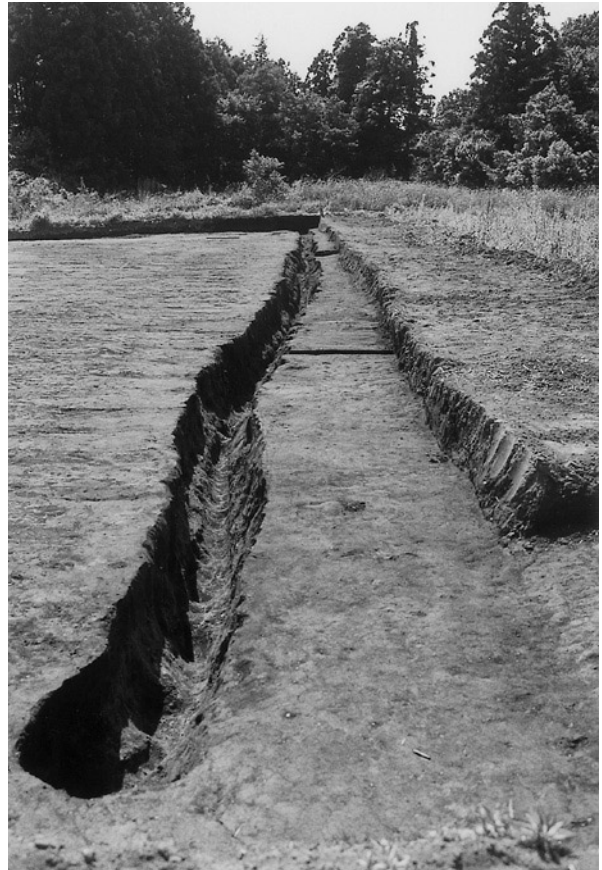
第 2 号土坑墓
完 掘 状 况



第 7 号土坑墓
遺物出土狀況



第11号溝跡完掘状況



第13号溝跡完掘状況



第2号道路跡完掘状況



第2号道路跡遺物出土状況











SI14-120



SI14-121



SI65-359



SI57-321



SI9-279



SI27-156



SI36-209



SI31-168



SI36-201

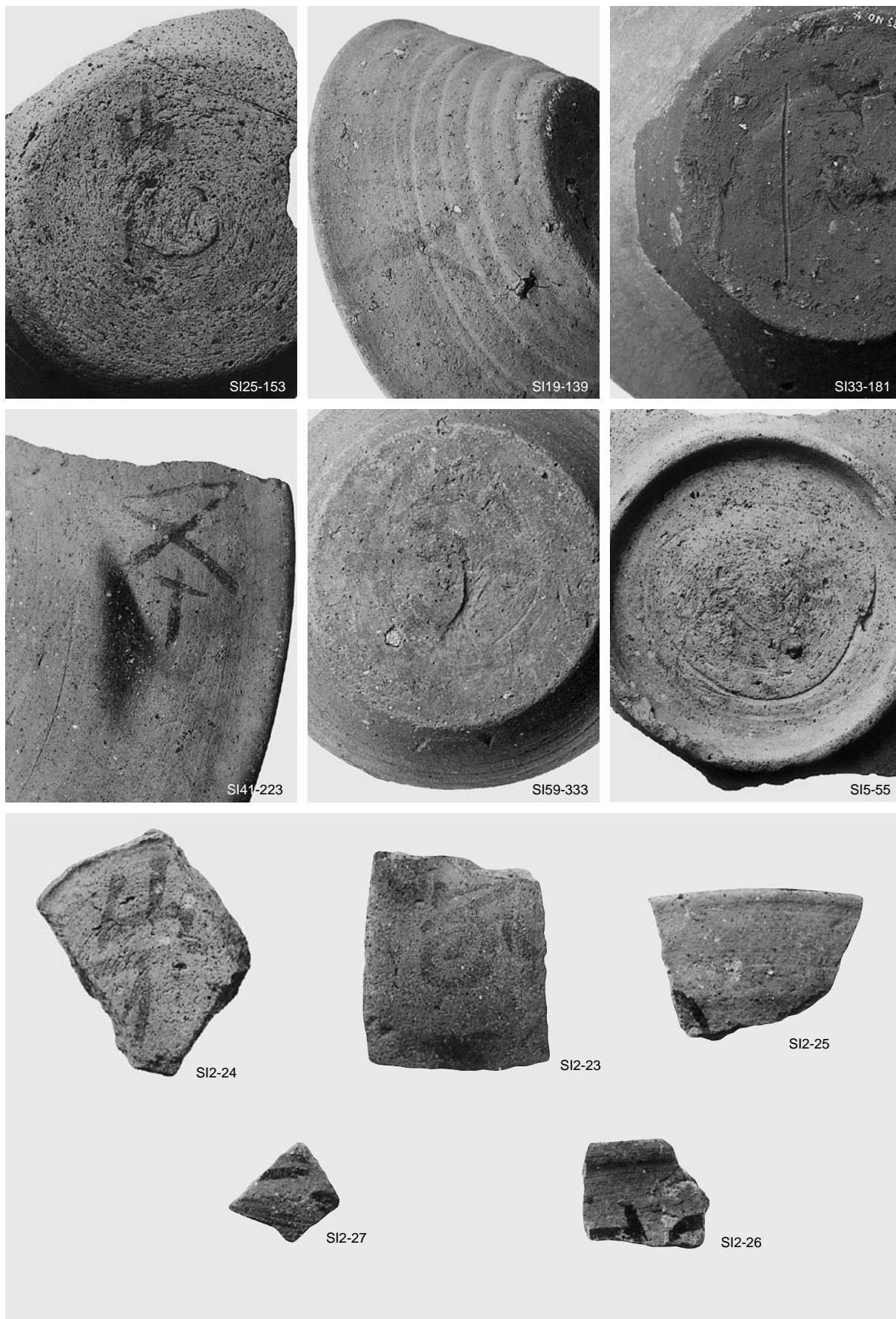


SI10-287

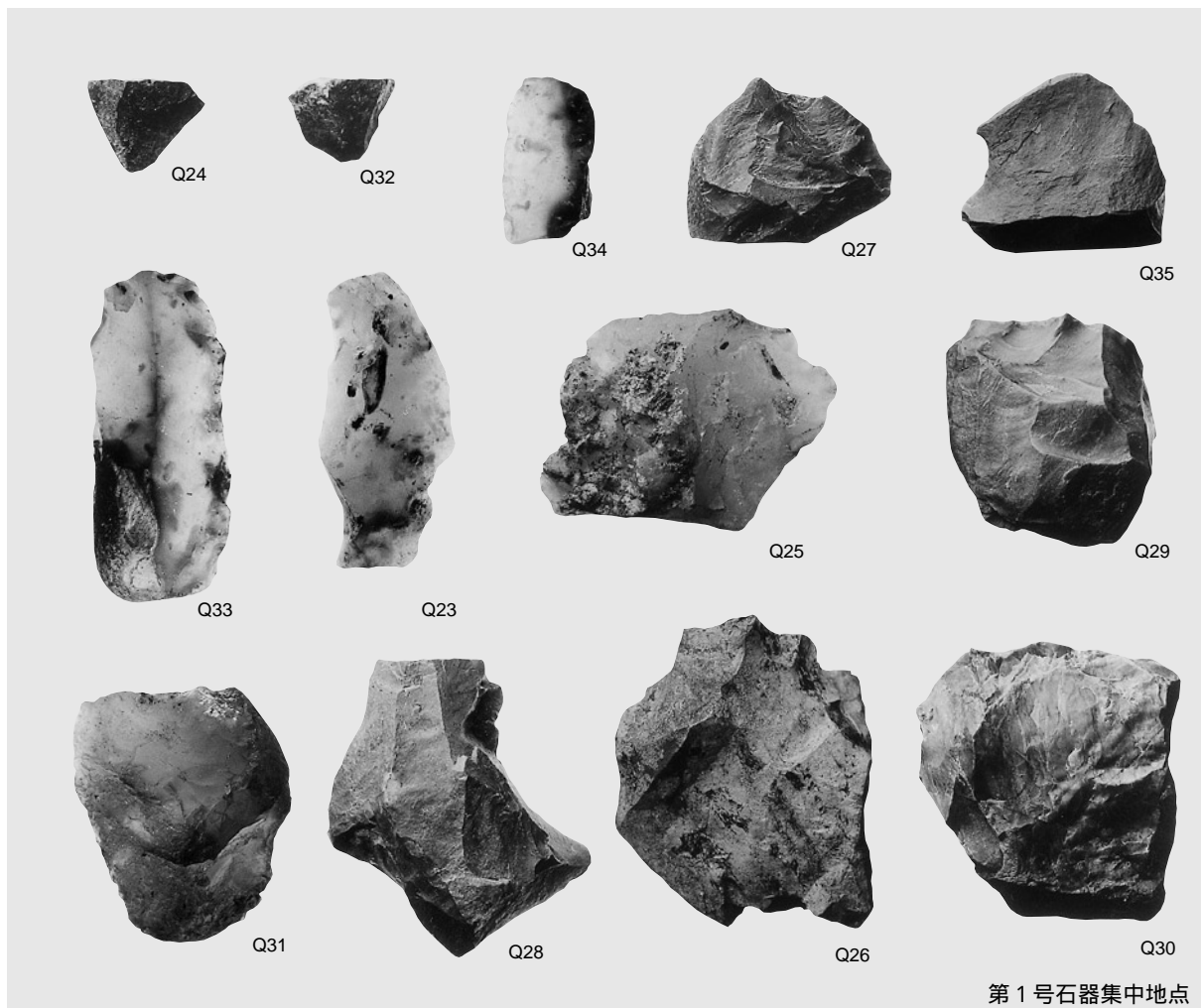


第65号住居跡出土土器

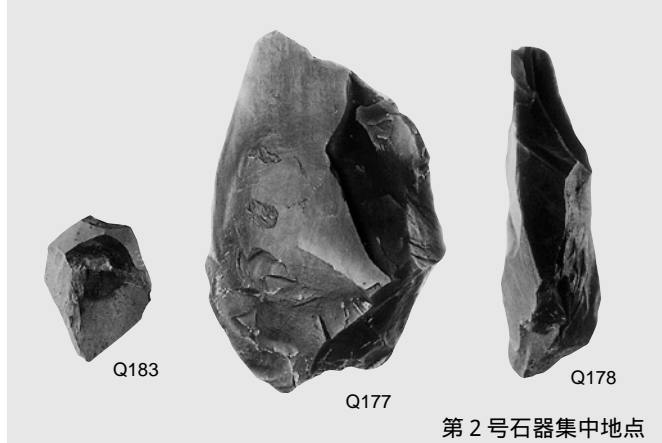




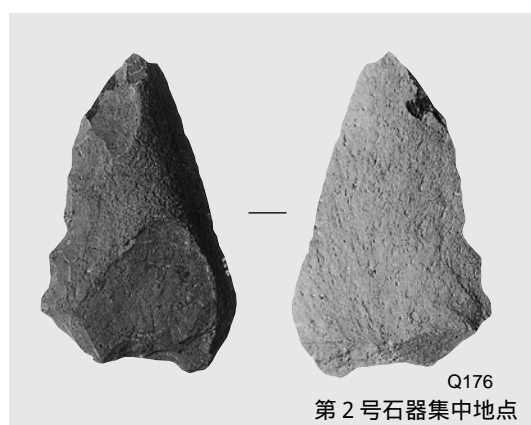
第 2 · 5 · 19 · 25 · 33 · 41 · 59 号住居跡出土墨書土器



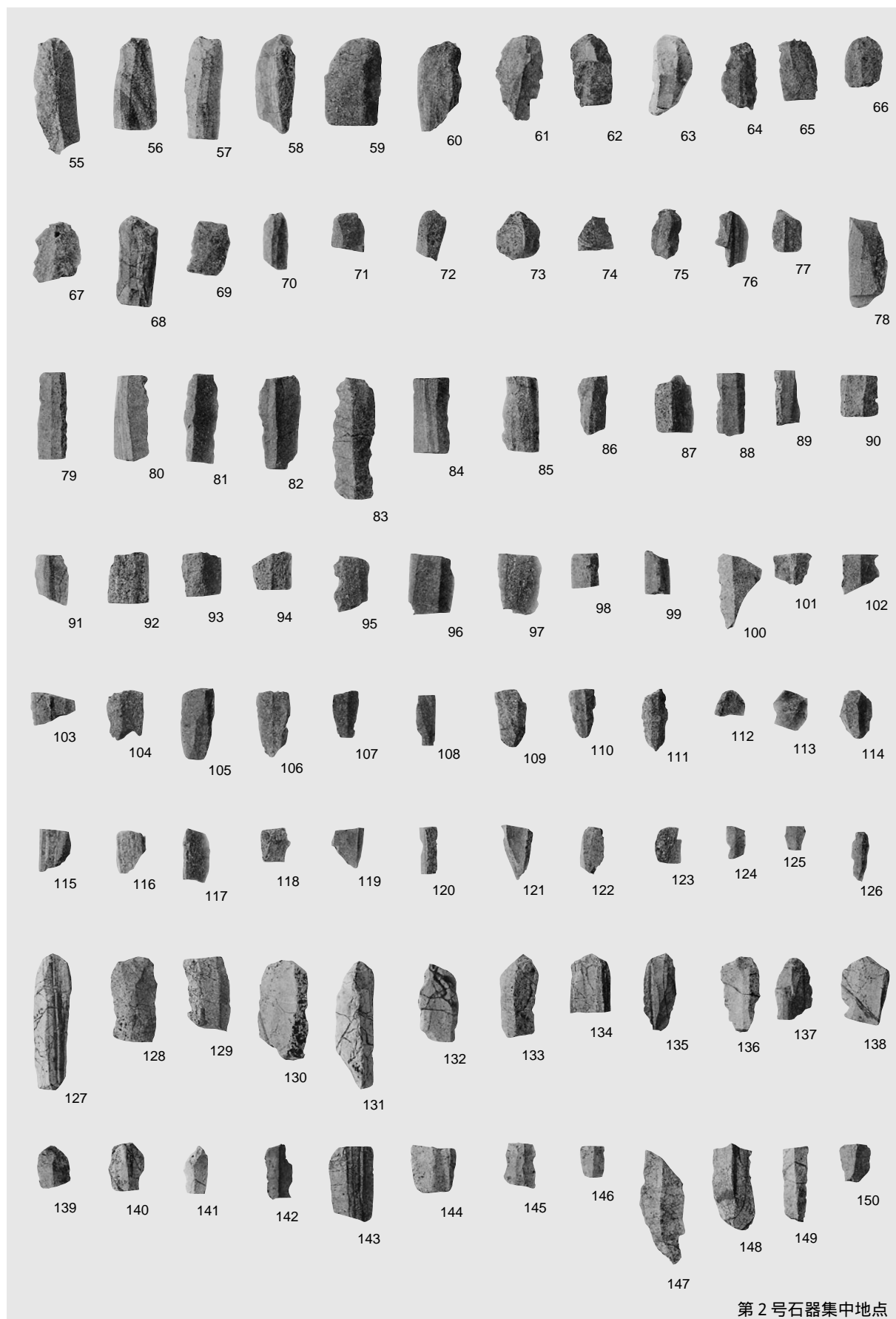
第 1 号石器集中地点



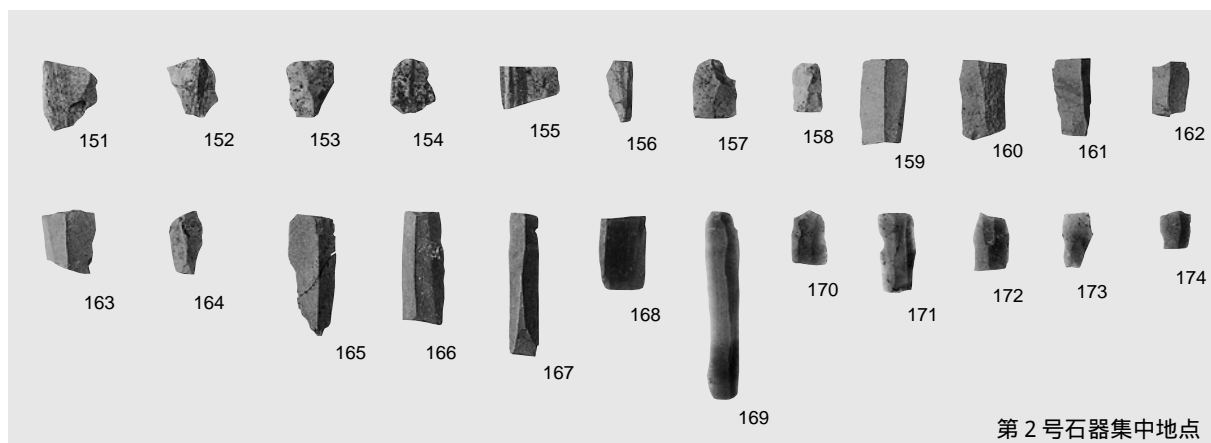
第 2 号石器集中地点



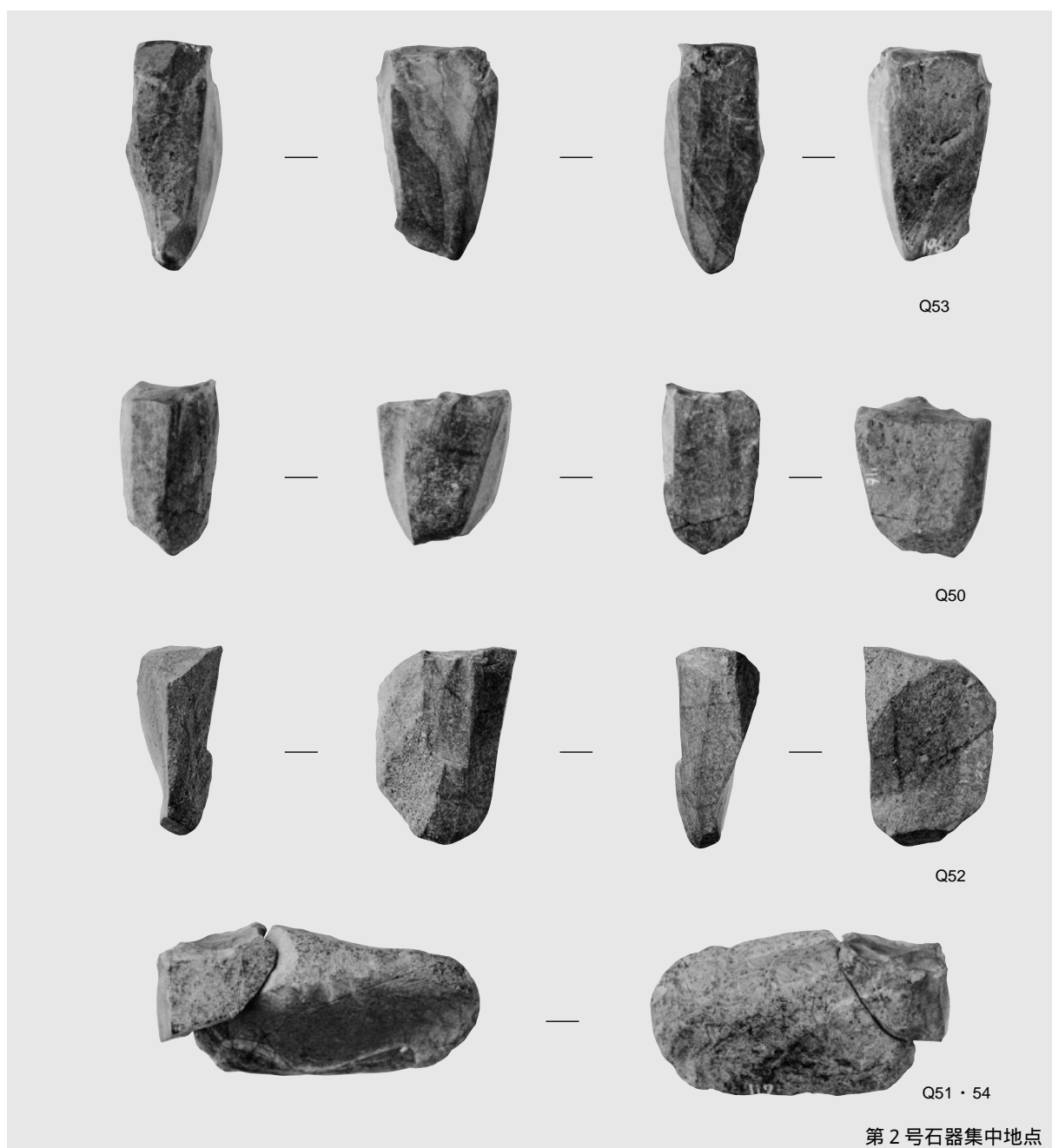
第 2 号石器集中地点



第 2 号石器集中地点

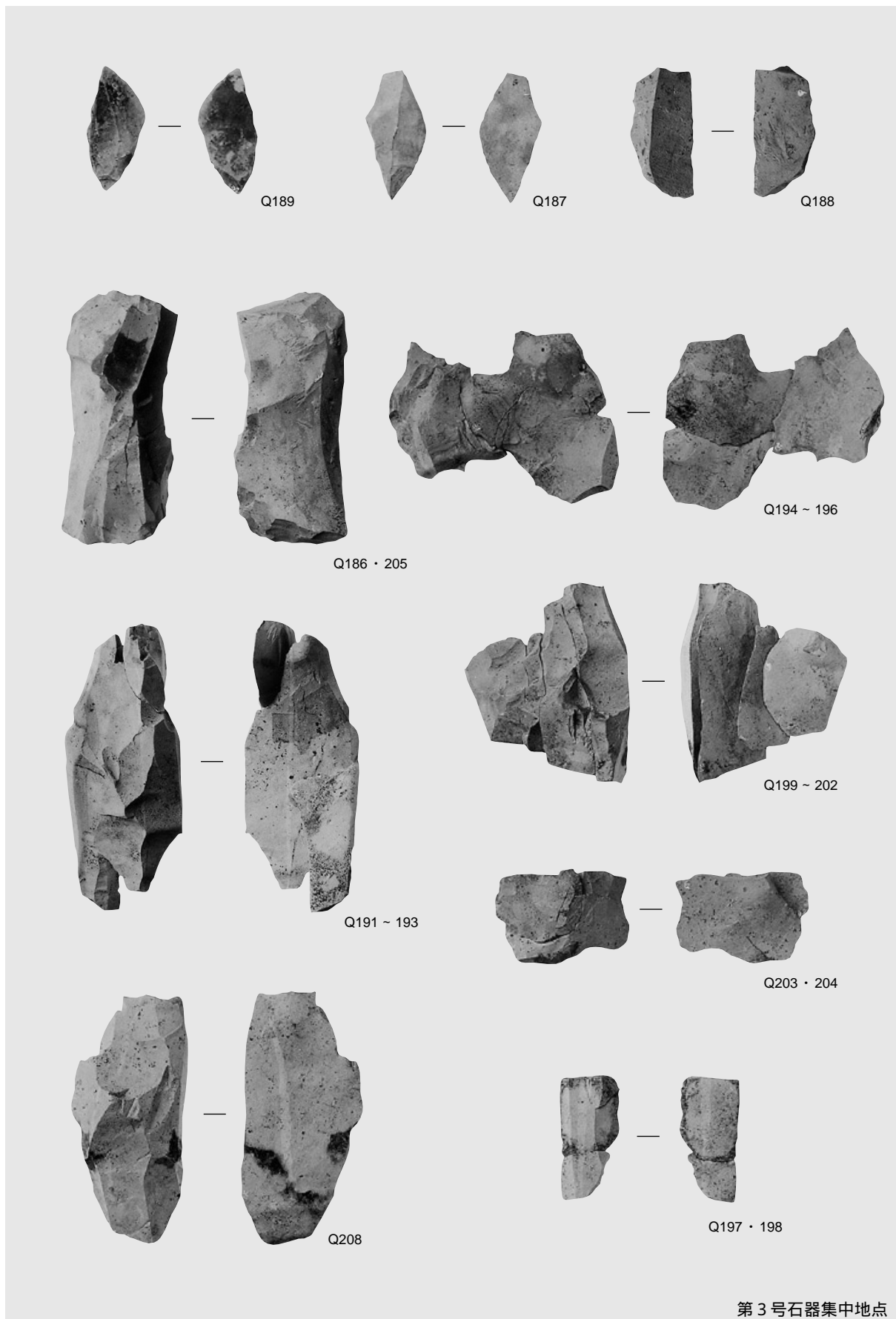


第 2 号石器集中地点

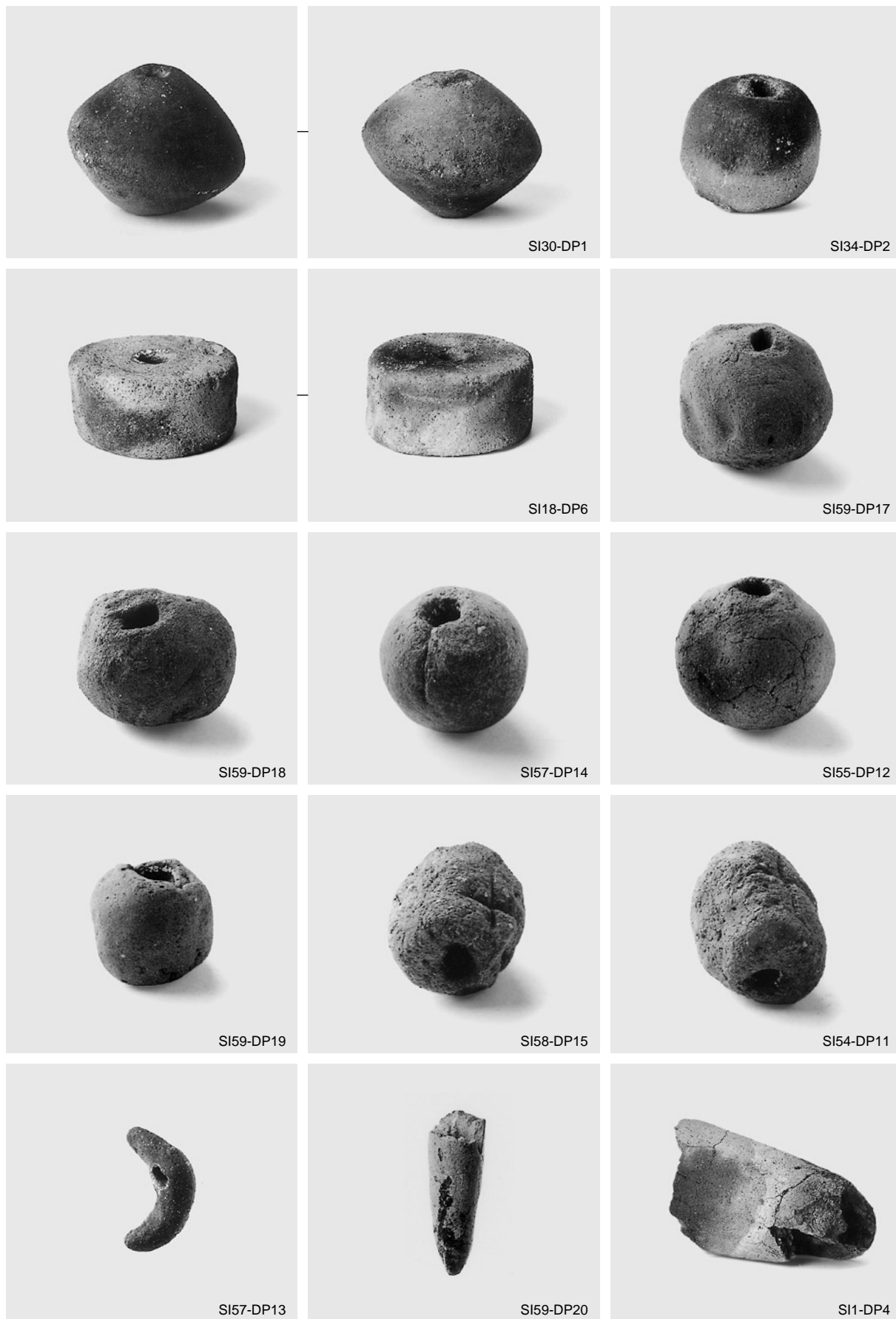


第 2 号石器集中地点

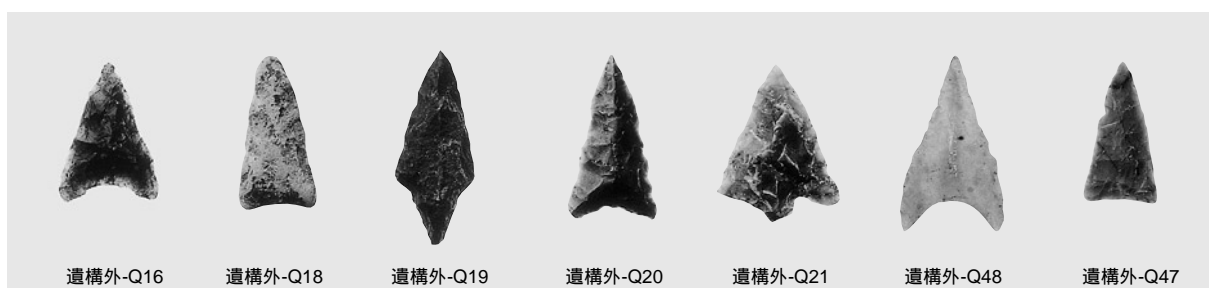
石器集中地点出土遺物



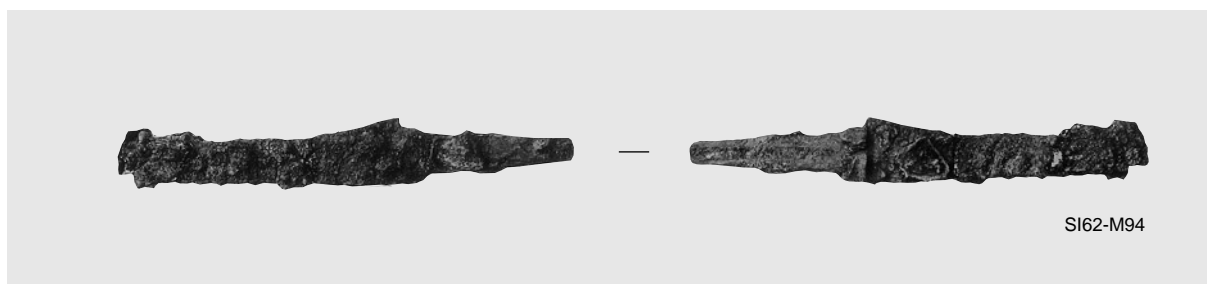
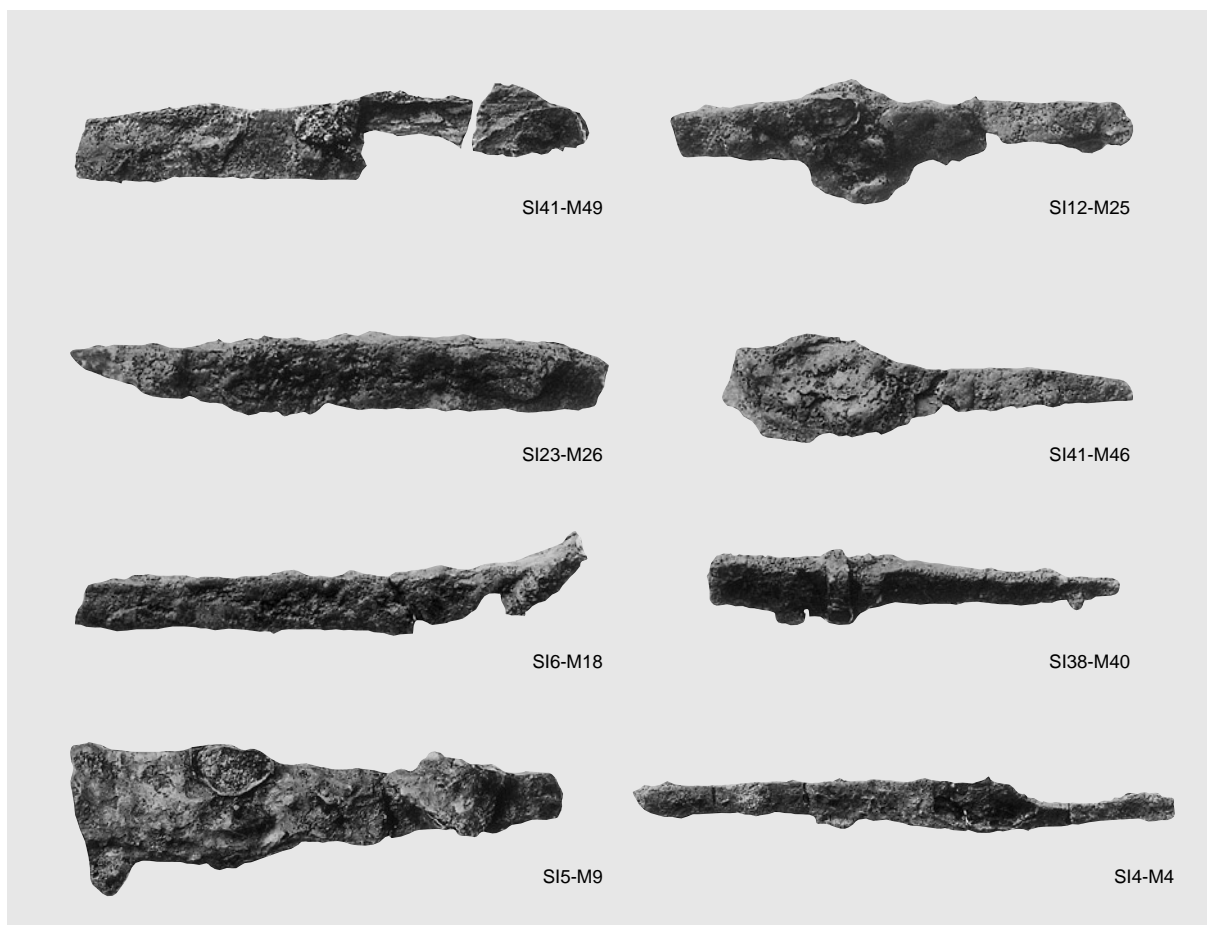
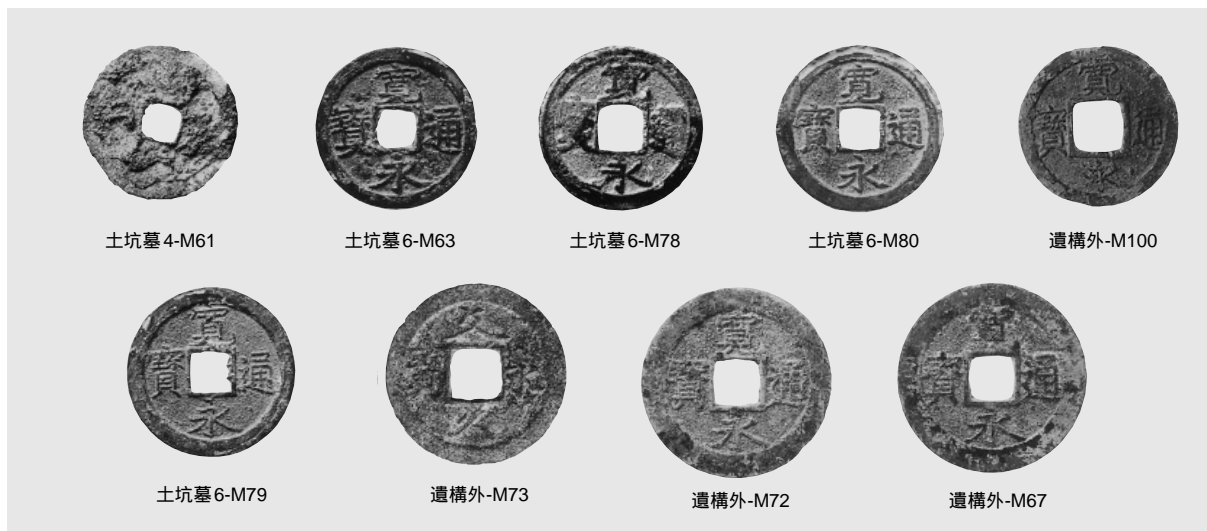
石器集中地点出土遺物

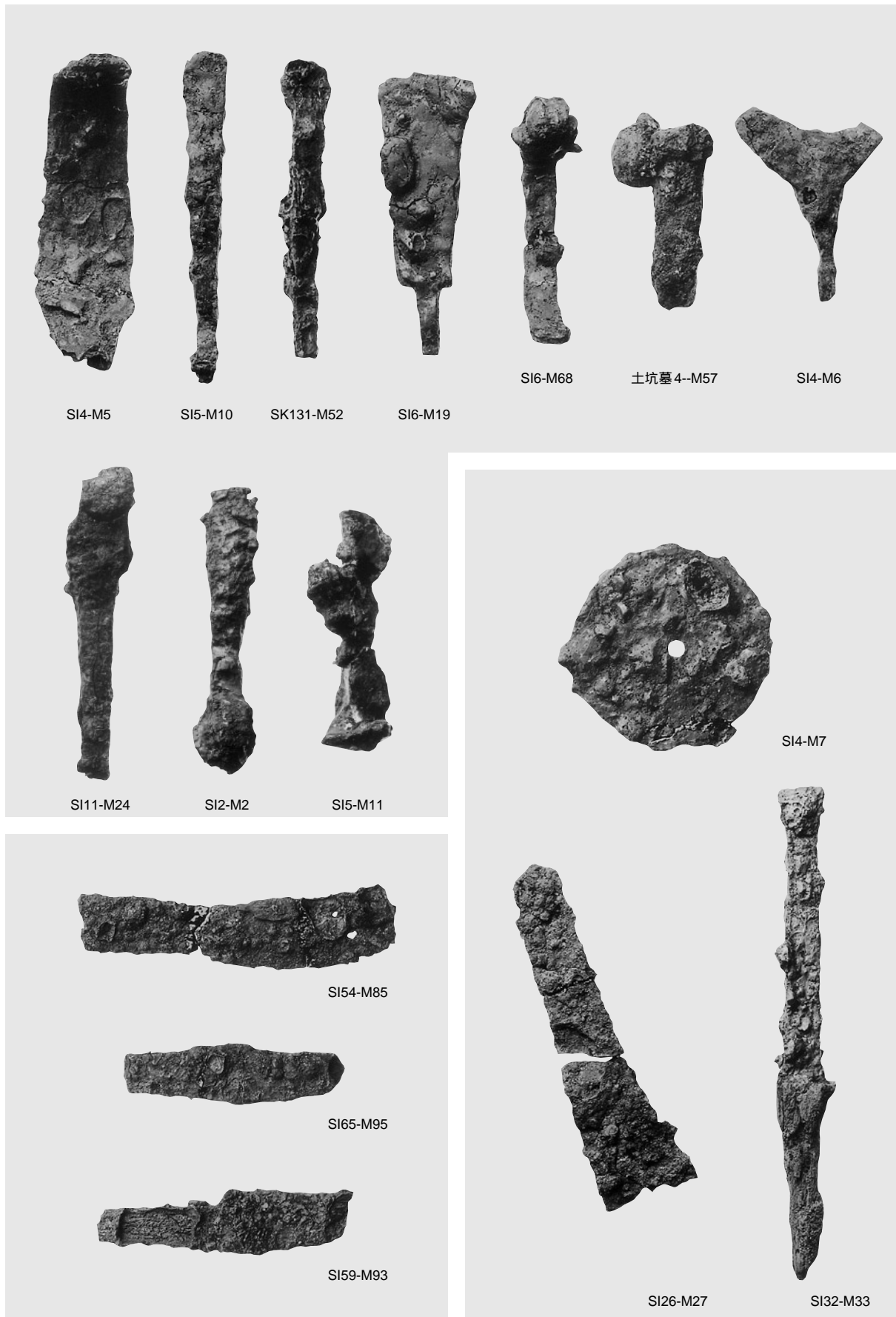


出土土製品

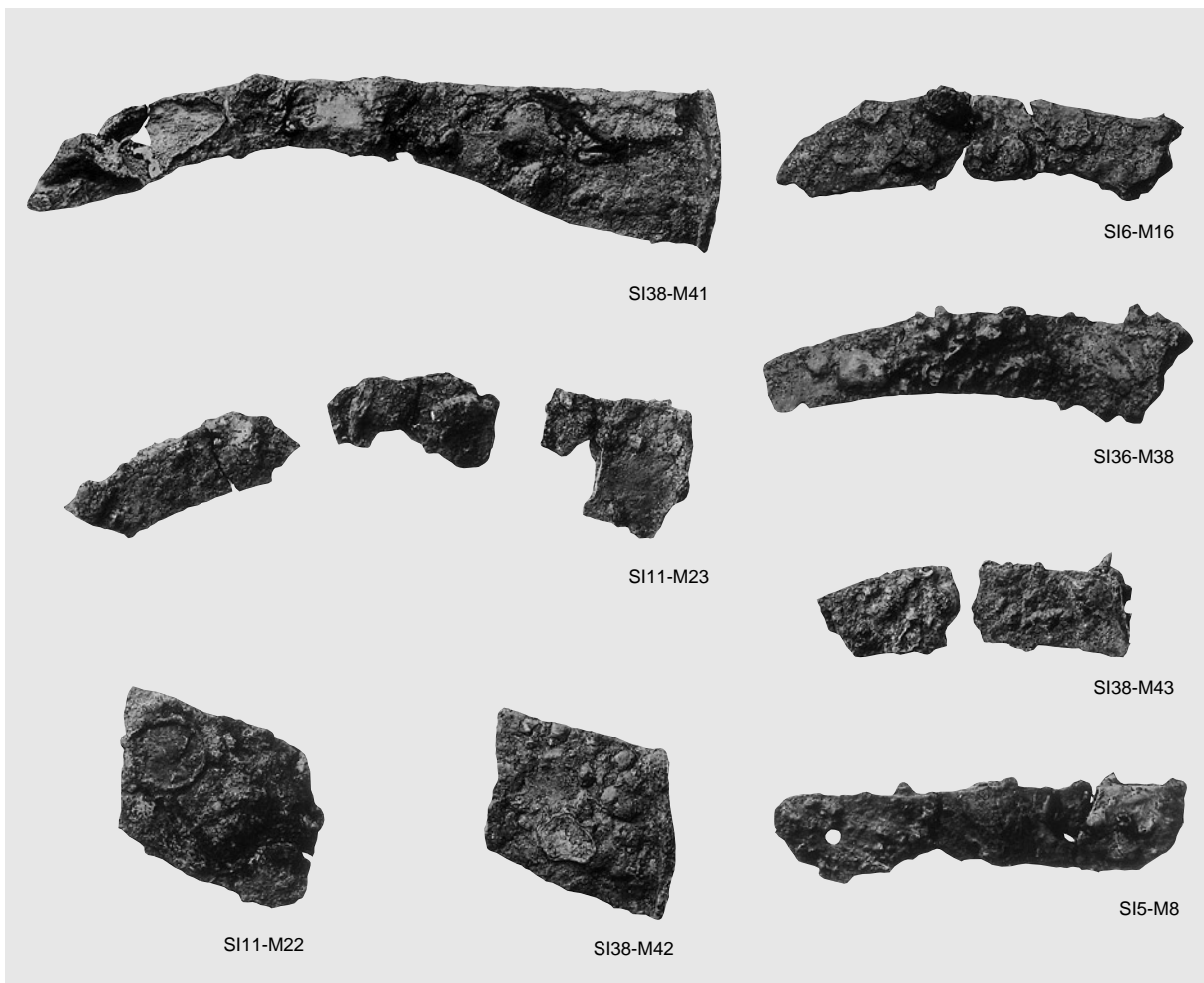








出土鉄器・鉄製品



茨城県教育財団文化財調査報告第279集

羽黒山遺跡

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う
埋蔵文化財調査報告書Ⅶ

上巻

平成19（2007）年3月19日 印刷

平成19（2007）年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

印刷 (有)平電子印刷所

〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13番地

TEL 0246-23-9051